

# 齊田中耕地遺跡

国道354号道路改築事業に係る  
埋蔵文化財調査報告書第6集

2010

群馬県伊勢崎土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

齊田中耕地遺跡

国道354号道路改築事業に係る  
埋蔵文化財調査報告書第6集

二〇一〇

群馬県伊勢崎土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第484集

# 齊田中耕地遺跡

国道354号道路改築事業に係る  
埋蔵文化財調査報告書第6集

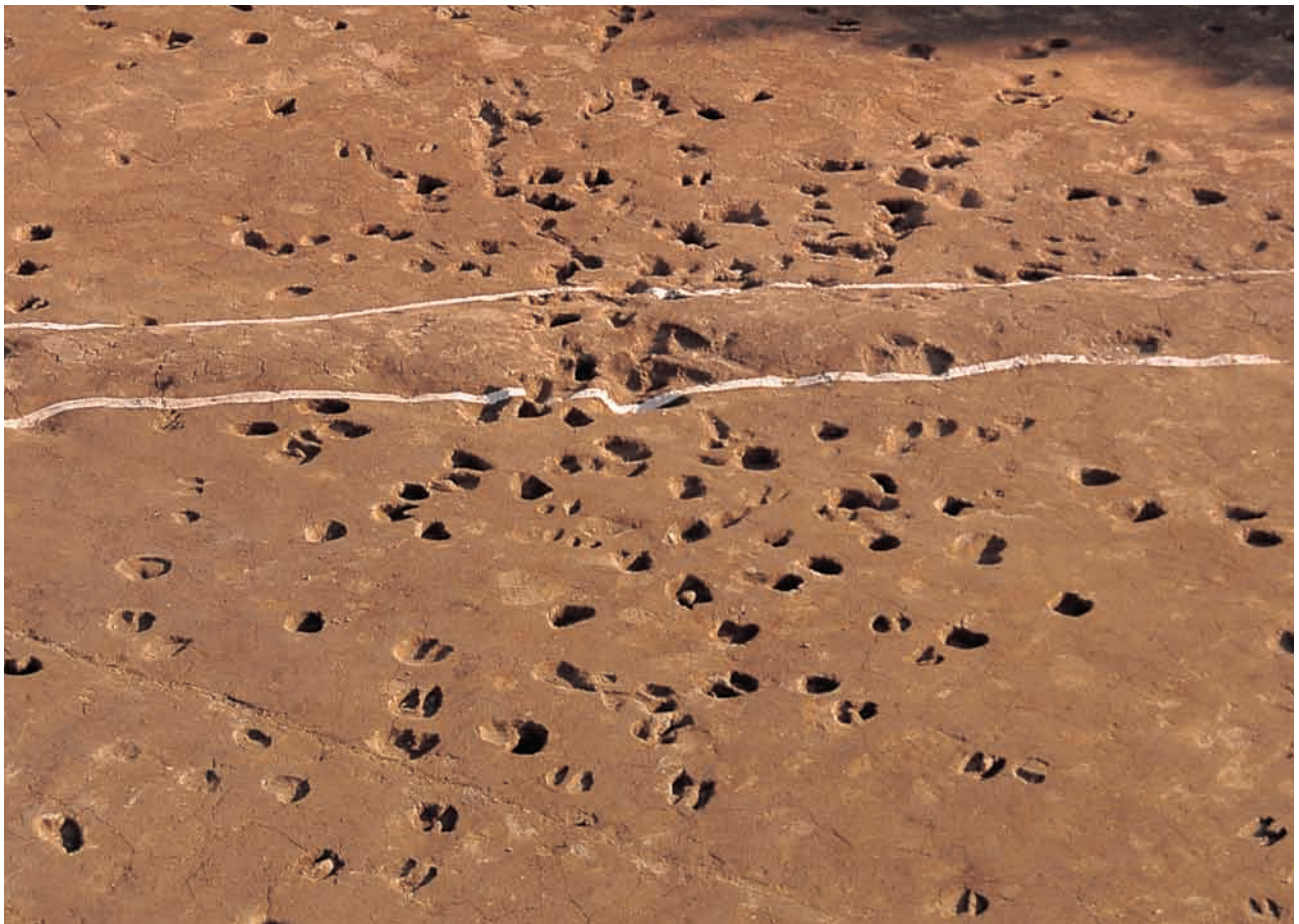
2010

群馬県伊勢崎土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





Ⅲ区3面屋敷跡（Ⅲ区3面第一次調査、北より）



Ⅳ区5面南側調査区水田区画129・130境中央付近の牛蹄痕（北西より）



## 序

国道354号線は北関東を東西に結ぶ基幹道路の一つであり、その交通状態からかねてよりバイパスの整備が計画されておりました。佐波郡玉村町に一部供用が始まっている高崎玉村バイパスもその一部であります。そして高崎玉村バイパスは群馬県中部の高崎市と東部の館林市を結ぶ本県基幹道である東毛幹線の一部も担うこととなっております。

齊田中耕地遺跡は国道354号線道路改築工事(高崎玉村バイパス建設)に伴い、群馬県伊勢崎土木事務所から当事業団が委託を受けて発掘調査した遺跡の一つであります。本遺跡の発掘調査は平成14～16年度に実施しましたが、古墳時代初頭から江戸時代にかけての水田遺構や中世の屋敷跡など多くの遺構を調査、記録し、各時期に亘る出土遺物を得たのでありますが、特に新たに発見された中世の屋敷跡は、本地域には珍しい鎌倉時代末から南北朝期の所産と見られるもので、注目されております。

さてここに齊田中耕地遺跡の発掘調査報告書を上梓することとなりました。発掘調査から報告書刊行に至るまで、群馬県伊勢崎土木事務所はもとより、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会をはじめとする関係機関、および地元の皆様から多大なるご尽力とご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。また本報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の歴史資料として広く活用されることを願っております。

最後になりますが、お世話になりました関係者各位に感謝申し上げまして序とします。

平成22年 2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 須田 栄一



## 例 言

- 1 本書は国道354号道路改築工事に伴い発掘調査された齊田中耕地遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 齊田中耕地遺跡は、群馬県佐波郡玉村町齊田地内に所在する。
- 3 事業主体 群馬県（伊勢崎土木事務所）
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成14年4月1日～平成14年12月31日  
平成15年7月1日～平成16年3月31日  
平成16年4月1日～平成17年3月31日
- 6 整理期間 平成20年4月1日～平成22年7月31日
- 7 発掘調査体制は次の通りである。  
理 事 長 小野宇三郎  
常務理事 吉田 豊 住谷永市  
事務局長 神保侑史  
管理部長 萩原利通 矢崎俊夫 調査研究部長 巾 隆之 右島和夫  
調査研究第1課長 中東耕志  
事務担当 植原恒夫 竹岡道雄 小山建夫 竹内 宏 高橋房夫 須田友子 吉田有光 森下弘美  
栗原幸代 阿久澤玄洋 田中賢一  
補 助 員 今井もと子 内山佳子 岩田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子  
松下次男 吉田 茂  
発掘調査担当 平成14年度 坂井 隆、谷藤保彦、斉藤和之、伊平 敬、増田眞次、齊田智彦  
平成15年度 神谷佳明、飯森康広、瀧川仲男、渡辺弘幸、石坂 聡  
平成16年度 洞口正志、桜岡正信、土屋崇志、津島秀章、堀口英子、
- 8 整理事業体制は次の通りである。  
理 事 長 高橋勇夫 須田栄一  
常務理事 木村祐樹 津金澤吉茂  
事業局長 相京建史  
管理部長 笠原秀樹 資料整理部長 相京建史 石坂 茂  
資料整理第2グループリーダー 大木紳一郎  
事務担当 笠原秀樹 佐嶋芳明 須田友子 斉藤恵利子 柳岡良宏 矢島一美 斎藤陽子  
補 助 員 今井もと子 岩田 誠 内山佳子 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 狩野真子  
武藤秀典  
保存処理 関 邦一 増田政子 津久井桂一 多田ひさ子  
遺物写真 佐藤元彦  
遺物機械実測 田中精子 町田礼子 田所順子 岸 弘子 木原幸子 福島瑞穂  
デジタル編集 齊田智彦 牧野裕美 市田武子 安藤美奈子 酒井史恵 廣津真希子 須藤絵美  
高梨由美子 矢端真観 横塚由香 下川陽子



整理担当 平成20年度 瀧川仲男 神谷佳明

平成21年度 石守 晃

9 本書作製担当者は以下の通り

編 集 瀧川仲男 神谷佳明 石守 晃

執 筆 Ⅲ-1 飯森康広、Ⅲ-2 植崎修一郎（生物考古学研究所）、Ⅲ-3 パレオ・ラボ、  
Ⅲ-4 パレオ・ラボ、Ⅲ-5 株式会社古環境研究所 左記以外石守（尚、Ⅱ-6中、掘  
立柱建物は飯森康弘メモを基に執筆した。）

遺物観察 神谷佳明を中心に瀧川、石守が記載した。

写真図版 瀧川仲男

10 発掘調査および報告書作製には群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会、地元関係各位、中島直樹氏のご協力、ご指導を賜りました。記して感謝します。また事務局職員各位の協力にも感謝したい。

11 発掘調査諸資料、及び出土遺物については、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

1 挿図に示す方位記号は国家座標上の北を基準としている。

2 遺構及び遺物実測縮尺は、それぞれ図中に表示している。尚、各遺構、遺物の縮尺は書き基準によったが、例外もある。

掘立柱建物 1/80 溝 1/40 1/80 1/160 井戸・土坑・ピット 1/40 1/80

坏・碗 1/3 甕・鉢 1/6 木製品 1/3 1/6 1/12 金属製品 1/3 銭 1/1

3 遺構の呼称は算用数字を用い、掘立柱建物、溝、土坑などを区ごと、種別ごとに番号を付した。

4 報告にある火山噴出物の標記は以下の通りである。

As-A : 浅間山A軽石 1783年（天明3年）

As-B : 浅間山B軽石 1108年（嘉承3年／天仁元年）

Hr-FP : 榛名山二ツ岳軽石 6世紀前半

Hr-FA : 榛名山二ツ岳火山灰 5世紀末（6世紀初頭）

As-C : 浅間山C軽石 3世紀末～4世紀初頭

As-YP : 浅間山板鼻黄色軽石 1.5～1.65万年前

# 目 次

序	i
例言	iii
凡例	iv
目次	v
挿図目次	vi
図目次	vii
写真図版目次	viii
I 発掘調査と遺跡の概要	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 遺跡の立地と周辺の遺跡	3
(1) 遺跡の立地	3
(2) 周辺の遺跡と歴史的環境	4
(3) 発掘調査の方法	10
(4) 発掘調査の経過	11
(5) 標準土層	13
II 発掘調査の記録	15
1 8面の調査	15
2 7面の調査	43
3 6面の調査	45
4 5面の調査	71
5 4面の調査	93
6 3面の調査	109
7 2面の調査	187
8 1面の調査	211
9 遺構外の遺物	243
III 考察と鑑定・同定	248
1 斉田中耕地遺跡Ⅲ区の中世屋敷について	248
2 斉田中耕地遺跡出土馬歯	256
3 斉田中耕地遺跡から出土した大型植物遺体	258
4 斉田中耕地遺跡出土木材の樹種同定	261
5 土壌分析	271
おわりに	274

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第70図	Ⅳ区1・2号溝	97
第2図	斎田中耕地遺跡近隣地形図	2	第71図	Ⅳ区5・6・7号溝	98
第3図	斎田中耕地遺跡近隣地質図	4	第72図	Ⅳ区15・16号溝	99
第4図	斎田中耕地遺跡周辺遺跡分布図	5	第73図	Ⅳ区17号溝	100
第5図	斎田中耕地遺跡地区・グリッド設定図	10	第74図	Ⅰ区4面の土坑群	101
第6図	斎田中耕地遺跡基本土層柱状図	13	第75図	Ⅱ区4面の土坑群と出土遺物	102
第7図	8面全体図	15	第76図	Ⅳ区4面の土坑群	103
第8図	Ⅰ区21～24号溝	16	第77図	Ⅰ区北側調査区のAs-B下水田	104・105
第9図	Ⅲ区63号溝	17	第78図	Ⅰ区南側調査区のAs-B下水田	104・105
第10図	Ⅲ区69～72・74・77・78・81～84・88・89号溝	18～20	第79図	Ⅳ区北側調査区のAs-B下水田	106
第11図	Ⅲ区73・75・76・79・80号溝と出土遺物	21	第80図	Ⅳ区南側調査区のAs-B下水田	107
第12図	Ⅲ区85・87号溝	22	第81図	Ⅲ区3号落ち込み	108
第13図	Ⅲ区106号溝	23	第82図	3面全体図	109
第14図	Ⅳ区34・35・36号溝	24	第83図	Ⅲ区3面の屋敷跡	110
第15図	8面の土坑群	25	第84図	東面の周堀(Ⅱ区7号溝、Ⅲ区13・14・39号溝)	111
第16図	Ⅰ区3号畝	26	第85図	11・12・15・23・29・42号溝	112・113
第17図	Ⅰ区4号畝	27	第86図	Ⅲ区11・12号溝出土遺物	114
第18図	8面旧河道と出土遺物(その1)	28～30	第87図	Ⅲ区1・2号橋脚	115
第19図	8面旧河道出土遺物(その2)	31	第88図	Ⅲ区16・18・19・24・34・36・43・33号溝と 出土遺物	116・117
第20場	8面旧河道出土遺物(その3)	32	第89図	Ⅲ区17・20・21・22・25・30・33・35・37号溝	118
第21図	8面旧河道出土遺物(その4)	33	第90図	Ⅲ区38・40・41号溝	119
第22図	8面旧河道出土遺物(その5)	34	第91図	郭内の溝群(Ⅲ-21・22・33号溝)出土遺物	120
第23図	8面旧河道出土遺物(その6)	35	第92図	Ⅲ区1号掘立柱建物	121
第24図	8面旧河道出土遺物(その7)	36	第93図	Ⅲ区2号掘立柱建物	122
第25図	8面旧河道出土遺物(その8)	37	第94図	Ⅲ区3号掘立柱建物	123
第26図	8面旧河道出土遺物(その9)	38	第95図	Ⅲ区4号掘立柱建物	124・125
第27図	8面旧河道出土遺物(その10)	39	第96図	Ⅲ区5号掘立柱建物	127
第28図	Ⅰ区・Ⅱ区風倒木痕及びⅣ区の風倒木痕分布図	40・41	第97図	Ⅲ区6号掘立柱建物と出土遺物	128
第29図	7面全体図	43	第98図	Ⅲ区7号掘立柱建物	129
第30図	Ⅳ区7面As-C混土下水田址	44	第99図	Ⅲ区8号掘立柱建物と出土遺物	131
第31図	6面全体図	45	第100図	Ⅲ区9号掘立柱建物と出土遺物	132
第32図	Ⅱ区16・17・20号溝	46	第101図	Ⅲ区10号掘立柱建物	133
第33図	Ⅱ区18・19・21・22号溝	47	第102図	Ⅲ区11号掘立柱建物	134
第34図	Ⅲ区49・65・67・68号溝と49号溝出土遺物	48	第103図	Ⅲ区12号掘立柱建物	135
第35図	Ⅲ区51～56・59・60・62号溝	49・50	第104図	Ⅲ区13号掘立柱建物	136
第36図	Ⅲ区57・58号溝	51	第105図	Ⅲ区14号掘立柱建物	137
第37図	Ⅲ区61・64号溝と出土遺物	52・53	第106図	Ⅲ区15号掘立柱建物	138
第38図	Ⅲ区66号溝	53	第107図	Ⅲ区16号掘立柱建物	139
第39図	Ⅲ区105号溝とⅣ区21号溝	54	第108図	Ⅲ区17号掘立柱建物	140
第40図	Ⅳ区22号溝出土遺物	55	第109図	Ⅲ区18号掘立柱建物	141
第41図	Ⅳ区22号溝	56～57	第110図	Ⅲ区19号掘立柱建物	142
第42図	Ⅳ区24号溝及びⅣ区25・26・30・31号溝	58	第111図	Ⅲ区20号掘立柱建物	143
第43図	Ⅳ区27号溝及び28・29号溝	59	第112図	Ⅲ区21号掘立柱建物	144
第44図	6面の土坑群とⅢ区土坑の出土遺物	60	第113図	Ⅲ区22号掘立柱建物	145
第45図	Ⅲ区Hr-FA下水田	62～63	第114図	Ⅲ区1号竪穴と出土遺物	146
第46図	Ⅳ区Hr-FA下水田	64	第115図	Ⅲ区2・3号竪穴	147
第47図	Ⅲ区Hr-FA下水田出土遺物	64	第116図	Ⅲ区4・5号竪穴	148
第48図	Ⅲ区畝	68	第117図	Ⅲ区1・2号落ち込み	149
第49図	Ⅳ区1・2号落ち込み	68	第118図	Ⅲ区1号井戸と出土遺物	150
第50図	5面全体図	71	第119図	Ⅲ区2号井戸と出土遺物	150
第51図	Ⅱ区14・15号溝	72・73	第120図	Ⅲ区3・4・11号井戸と出土遺物(その1)	151
第52図	Ⅲ区47号溝と出土遺物(その1)	74・75	第121図	Ⅲ区3・4号井戸出土遺物(その2)	152
第53図	Ⅲ区47号溝出土遺物(その2)	76	第122図	Ⅲ区5号井戸と出土遺物	152
第54図	Ⅲ区47号溝出土遺物(その3)	77	第123図	Ⅲ区6号井戸と出土遺物	153
第55図	Ⅲ区48・50号溝	77	第124図	Ⅲ区7・8号井戸と出土遺物	154
第56図	Ⅳ区20号溝と出土遺物(その1)	78	第125図	Ⅲ区9号井戸	155
第57図	Ⅳ区20号溝出土遺物(その2)	79	第126図	Ⅲ区10号井戸と出土遺物	155
第58図	Ⅱ区5面の土坑群	79	第127図	Ⅲ区12号井戸と出土遺物	156
第59図	Ⅱ区5面の水田址と出土遺物	80・81	第128図	Ⅲ区13・14号井戸と出土遺物	157
第60図	Ⅲ区5面の水田址	82・83	第129図	屋敷内の土坑群(その1)	158
第61図	Ⅳ区5面北側調査区の水田址	84～86	第130図	屋敷内の土坑群(その2)	159
第62図	Ⅳ区5面南側調査区の水田址	84～86	第131図	屋敷内土坑群の出土遺物	160
第63図	Ⅲ区5面水田の足跡 及びⅣ区5面水田の足跡(その1・2)	88・89	第132図	屋敷内のピット群(その1)	162・163
第64図	Ⅳ区5面水田の足跡(その3・4)	90・91	第133図	屋敷内のピット群(その2)	164・165
第65図	Ⅳ区5面水田の足跡(その5)	92	第134図	屋敷内のピット群(その3)と出土遺物	166・167
第66図	4面全体図	93	第135図	Ⅲ区1号集石	168
第67図	Ⅰ区20号溝及びⅡ区9・10号溝	94	第136図	Ⅳ区1号掘立柱建物	168
第68図	Ⅱ区11・12号溝	95	第137図	Ⅰ区8・9号溝と出土遺物	170～172
第69図	Ⅱ区13号溝	96	第138図	Ⅰ区10・11・12号溝	173
			第139図		

第140図	I区13・14・15・16・17・18・19号溝と出土遺物	174・175
第141図	II区3号溝とII区1号杭列	176
第142図	II区4号溝	177
第143図	II区5・6号溝と出土遺物	178・179
第144図	II区8号溝と窪地と出土遺物	180・181
第146図	III区屋敷外の溝群	182
第147図	IV区3面の溝群	182・183
第148図	II区11号土坑	184
第149図	I区2号畠	184
第150図	2面全体図	187
第151図	III区3号溝と出土遺物(その1)	188・189
第152図	III区3号溝出土遺物(その2)	190
第153図	III区3号溝出土遺物(その3)	191
第154図	III区4号溝	192・193
第155図	III区5・7・202・203・204・205・206号溝と III区5号溝出土遺物	194・195
第156図	III区6・8・9号溝とIII区6号溝出土遺物	196・197
第157図	III区10号溝とIII区100・101・102・103・104号溝 及びIII区104号溝出土遺物	198・199
第158図	IV区3・4号溝	200・201
第159図	IV区3号溝出土遺物(その1)	202
第160図	IV区3号溝出土遺物(その2)	203
第161図	IV区3号溝出土遺物(その3)	204
第162図	IV区3号溝出土遺物(その4)	205
第163図	IV区3号溝出土遺物(その5)	206
第164図	IV区4号溝出土遺物	207
第165図	III区2面の土坑群及びビット群	208
第166図	III区2面の水田址	209
第167図	1面全体図	211
第168図	I区1号道	212
第169図	I区2号道	213
第170図	I区1号溝	214
第171図	I区1号溝出土遺物	215
第172図	I区4・5・6号溝(その1)	216

第173図	I区4・5・6号溝(その2)と圃場整備前地図	217
第174図	I区4・5・7号溝出土遺物	218
第175図	I区7号溝	219
第176図	II区1・2号溝と出土遺物	220
第177図	III区1・2・90号溝と出土遺物	221
第178図	III区93・98号溝	222・223
第179図	III区95号溝と出土遺物	223
第180図	III区96・97号溝	224
第181図	I区1号・III区1号土坑	224
第182図	I区1号畠	225
第183図	玉村町域に於ける天明3年の火山災害	226
第184図	I区1号復旧溝群と出土遺物	226
第185図	I区2号復旧溝群	227
第186図	I区3号復旧溝とII区1号復旧溝群	228・229
第187図	II区2号復旧溝及び出土遺物と II区3・4号復旧溝群	230・231
第188図	III区1号復旧溝群	232
第189図	III区5号復旧溝群とIII区6号復旧溝	233
第190図	III区2号復旧溝群	234・235
第191図	III区3号復旧溝群	236・237
第192図	III区4号・7号・III区8号復旧溝群	238・239
第193図	III区9号復旧溝	240
第194図	I区1・2・3号落ち込み	241
第195図	I区4号落ち込みとAs-A溜り	242
第196図	遺構外の出土遺物(その1)	243
第197図	遺構外の出土遺物(その2)	244
第198図	遺構外の出土遺物(その3)	245
第199図	遺構外の出土遺物(その4)	246
第200図	8面旧河道出土木製品(補遺)	247
第201図	III区屋敷内掘立柱建物群位置図	249
第202図	掘立柱建物変遷図	252
第203図	屋敷内建物変遷図	254
第204図	土層柱状図	271
第205図	プラントオパール分析結果	272

## 表

表1	遺跡一覧	6～9
表2	調査経過表	12
表3	I区3号畠サク・掘削坑一覧	26
表4	I区4号畠サク・掘削坑一覧	27
表5	風倒木痕一覧	40・41
表6	IV区7面水田区画一覧	42
表7	III区6面水田区画一覧	61
表8	IV区6面水田区画一覧	65～67
表9	II区5面水田区画一覧	80
表10	III区5面水田区画一覧	81
表11	IV区5面水田区画一覧	87
表12	As-B下東側水田区画一覧	106
表13	As-B下西側水田区画一覧	107
表14	III区1号掘立柱建物柱穴	121
表15	III区2号掘立柱建物柱穴	122
表16	III区3号掘立柱建物柱穴	125
表17	III区4号掘立柱建物柱穴	125
表18	III区5号掘立柱建物柱穴	127
表19	III区6号掘立柱建物柱穴	128
表20	III区7号掘立柱建物柱穴	129
表21	III区8号掘立柱建物柱穴	131
表22	III区9号掘立柱建物柱穴	132
表23	III区10号掘立柱建物柱穴	133
表24	III区11号掘立柱建物柱穴	134
表25	III区12号掘立柱建物柱穴	135
表26	III区13号掘立柱建物柱穴	136
表27	III区14号掘立柱建物柱穴	137
表28	III区15号掘立柱建物柱穴	138
表29	III区16号掘立柱建物柱穴	139
表30	III区17号掘立柱建物柱穴	140
表31	III区18号掘立柱建物柱穴	141
表32	III区19号掘立柱建物柱穴	142
表33	III区20号掘立柱建物柱穴	143
表34	III区21号掘立柱建物柱穴	144
表35	III区22号掘立柱建物柱穴	145
表36	III区1号堅穴所在ビット一覧	146

表37	III区3面屋敷内所在土坑一覧	159
表38	III区3面屋敷内所在ビット一覧	161・162
表39	II区1号杭列打設痕一覧	176
表40	III区2面土坑・ビット群一覧	208
表41	I区1号畠サク一覧	225
表42	I区1号復旧溝群一覧	226
表43	I区2号復旧溝群一覧	227
表44	II区1号復旧溝群一覧	229
表45	II区3号復旧溝群一覧	231
表46	II区4号復旧溝群一覧	231
表47	III区1号復旧溝群一覧	232
表48	III区5号復旧溝群一覧	233
表49	III区2号復旧溝群一覧	234
表50	III区3号復旧溝群一覧	235
表51	III区4号復旧溝群一覧	239
表52	III区8号復旧溝群一覧	239
表53	斉田中耕地遺跡掘立柱建物跡計測表	250
表54	遺構新旧表	251
表55	斉田中耕地遺跡出土獣骨まとめ表	256
表56	斉田中耕地遺跡出土馬歯計測表	257
表57	斉田中耕地遺跡出土大型植物遺体	259
表58	斉田中耕地遺跡樹種同定結果	262
表59	斉田中耕地遺跡遺構別木製品樹種同定結果	266
表60	斉田中耕地遺跡遺構別木製品樹種同定結果	266
表61	斉田中耕地遺跡遺構別自然木樹種同定結果	266
表62	古墳時代中期以前の器種別樹種組成	267
表63	中・近世の機種別樹種組成	267
表64	斉田中耕地遺跡遺構樹種同定結果一覧	268～270
表65	テフラ検出分析結果	271
表66	屈折率測定結果	271
表67	プラントオパール分析結果	272
表68	斉田中耕地遺跡における花粉分析結果	273
表69	斉田中耕地遺跡における花粉ダイアグラム	273
出土遺物観察表		275～294
	(8面 275/6面 278/5面 279/4面 281/3面 282/2面 287/2面 289/遺構外 291)	

# 写真図版

- PL.1 調査区全景／ I区南側の南壁土層断面／ II区北側の南壁土層断面／ III区南側の南壁土層断面／ IV区南側の南壁土層断面  
PL.2 III区8面全景／ III区追加部分8面全景／ IV区8面全景／ IV区追加部分8面全景／ I区21号溝全景／ I区22号溝全景／ I区23号溝全景／ I区24号溝全景  
PL.3 III区69,74,78,88,89号溝全景／ III区70,71,72号溝全景／ III区76号溝全景／ III区84号溝全景／ III区82号溝全景／ III区85号溝全景／ IV区34号溝断面／ IV区36号溝断面  
PL.4 IV区36号溝全景／ III区63号溝全景／ III区106号溝全景  
PL.5 III区1号河道断面／ III区2号河道断面／ III区3号河道断面／ III区4号河道断面／ III区5号河道遺物出土状態／ III区河道全景／ IV区河道全景／ IV区1号河道全景  
PL.6 IV区2号河道遺物出土状態／ IV区2号河道杭出土状態／ IV区2号河道堅柱出土状態／ IV区2号河道鉄出土状態／ IV区3号河道断面  
PL.7 I区14号土坑断面／ I区15号土坑全景／ I区16号土坑断面／ III区47号土坑全景／ I区3号畠全景  
PL.8 III区6面全景／ III区追加調査部分6面全景／ III・IV区追加調査部分6面全景／ IV区6面全景／ III区Hr-FA下水田確認状況／ III区Hr-FA下水田全景  
PL.9 IV区Hr-FA下水田確認状況／ IV区Hr-FA下水田全景／ IV区21号溝東側Hr-FA下水田／ IV区21号溝西側Hr-FA下水田／ IV区Hr-FA下水田遺物出土状態／ IV区Hr-FA下水田断面F-F'／ IV区As-C混土水田全景／ III区耕作痕  
PL.10 II区16号溝全景／ II区16号溝断面／ II区17号溝全景／ II区17号溝断面／ II区18,19号溝全景／ II区18号溝断面／ II区19号溝断面  
PL.11 III区52号溝周辺溝群の全景／ III区51号溝断面／ III区52号溝断面／ III区53号溝断面／ III区54号溝断面／ III区56号溝断面／ III区59号溝断面／ III区62号溝断面  
PL.12 III区49,65,67,68号溝全景／ III区61号溝断面／ III区64号溝全景／ III区64号溝断面／ III区66号溝全景／ III区66号溝断面／ III区67号溝断面／ III区68号溝断面  
PL.13 IV区21号溝全景／ IV区22号溝・落ち込み部分／ IV区24号溝全景／ IV区24号溝断面／ IV区25,26,30,31号溝断面／ IV区27号溝全景／ IV区28号溝全景／ IV区29号溝全景  
PL.14 IV区1号落ち込み全景／ II区15号土坑断面／ II区16号土坑断面／ III区35号土坑遺物出土状態／ III区36号土坑遺物出土状態／ IV区7号土坑断面／ IV区8号土坑全景／ IV区8号土坑断面  
PL.15 II区5面全景／ II区洪水層下水田103全景／ III区洪水層下水田115全景／ III区洪水層下水田鋤痕断面A-A'／ III区洪水層下水田109全景  
PL.16 III区5面全景／ III区追加部分5面全景／ III区5面作業風景／ III区洪水層下水田119全景／ III区洪水層下水田110全景  
PL.17 IV区5面全景／ III区洪水層下水田128全景／ III区洪水層下水田135全景／ III区洪水層下水田断面B-B'／ III区洪水層下水田牛の蹄跡  
PL.18 III区洪水層下水田断面D-D'／ III区洪水層下水田断面A-A'／ IV区洪水層下水田113の畦断面／ IV区洪水層下水田121の畦断面／ IV区追加部分5面全景  
PL.19 II区14号溝全景／ II区15号溝全景／ II区14号溝断面／ III区47号溝遺物出土状態／ III区47号溝断面／ III区47号溝と138断面／ III区48号溝全景／ IV区20号溝遺物出土状態  
PL.20 I区4面全景／ IV区南側4面全景／ II区4面全景／ IV区北側4面全景／ IV区As-B下水田5全景  
PL.21 IV区As-B下水田大畦全景／ IV区As-B下水田大畦断面E-E'／ IV区As-B下水田4全景／ IV区As-B下水田断面F-F'／ IV区As-B下水田断面M-M'／ I区As-B下水田12全景／ I区As-B下水田22, 24全景／ I区As-B下水田断面J-J'  
PL.22 I区20号溝全景／ II区9号溝全景／ II区10号溝全景／ II区11号溝全景／ II区12号溝全景／ IV区1,2号溝全景／ II区13号溝全景  
PL.23 IV区3,5号溝全景／ IV区5号溝断面／ IV区6号溝全景／ IV区15,16号溝全景／ I区2号土坑断面／ I区3号土坑全景／ I区7,8号土坑全景／ I区13号土坑全景  
PL.24 II区4号土坑全景／ II区4号土坑断面／ II区5号土坑全景／ II区5号土坑断面／ II区6号土坑全景／ II区6号土坑断面／ II区7号土坑全景／ II区7号土坑断面  
PL.25 II区8号土坑全景／ II区8号土坑断面／ II区9号土坑全景／ II区9号土坑断面／ II区10号土坑全景／ II区10号土坑断面／ IV区4号土坑全景／ IV区4号土坑断面  
PL.26 調査区全景／ III区1号掘立柱建物全景／ III区4号掘立柱建物全景／ III区9号掘立柱建物全景／ IV区1号掘立柱建物全景  
PL.27 III区3面全景／ III区掘立柱建物群全景  
PL.28 III区7号掘立柱建物全景／ III区8号掘立柱建物全景  
PL.29 III区12号掘立柱建物P2全景／ III区12号掘立柱建物P2断面／ III区12号掘立柱建物P3全景／ III区12号掘立柱建物P3断面／ III区12号掘立柱建物P4全景／ III区12号掘立柱建物P4断面／ III区12号掘立柱建物P6全景／ III区12号掘立柱建物P6断面  
PL.30 III区1号掘立柱建物P4断面／ III区1号掘立柱建物P6断面／ III区2号掘立柱建物P7断面／ III区3号掘立柱建物P4断面／ III区3号掘立柱建物P5断面／ III区3号掘立柱建物P7断面／ III区3号掘立柱建物P8断面／ III区3号掘立柱建物P9断面  
PL.31 III区3号掘立柱建物P10断面／ III区4号掘立柱建物P8断面／ III区6号掘立柱建物P6断面／ III区7号掘立柱建物P8断面／ III区7号掘立柱建物P12断面／ III区10号掘立柱建物P5断面検出状況／ III区13号掘立柱建物P6断面／ III区13号掘立柱建物P9断面  
PL.32 III区15号掘立柱建物P6断面／ III区15号掘立柱建物P5遺物出土状態／ III区16号掘立柱建物P5断面／ III区17号掘立柱建物P5断面／ III区18号掘立柱建物P13断面／ III区18号掘立柱P13, III区21号掘立柱P4断面／ III区19号掘立柱建物P3断面／ III区22号掘立柱建物P6断面  
PL.33 III区1号堅穴全景／ III区1号堅穴断面／ III区2,3号堅穴全景／ III区4,5号堅穴全景／ III区3号落ち込み断面  
PL.34 III区1号堅穴ピット1断面／ III区22ピット遺物出土状態／ III区51ピット断面／ III区74ピット断面／ III区96ピット断面／ III区97ピット断面／ III区209ピット断面／ III区342ピット断面  
PL.35 III区378ピット断面(柱痕)／ III区402ピット断面／ III区501,502ピット全景／ III区501,502ピット断面／ III区503ピット全景／ III区503ピット断面／ III区507ピット全景／ III区507ピット断面  
PL.36 III区1号井戸遺物出土状態／ III区1号井戸全景／ III区1号井戸断面／ III区2号井戸全景／ III区2号井戸断面  
PL.37 III区3号井戸遺物出土状態／ III区3号井戸断面／ III区4号井戸全景／ III区4号井戸断面／ III区5号井戸全景／ III区5号井戸断面／ III区6号井戸全景／ III区6号井戸断面  
PL.38 III区7号井戸全景／ III区7号井戸断面／ III区8号井戸全景／ III区8号井戸断面／ III区9号井戸全景／ III区9号井戸断面／ III区10号井戸全景／ III区10号井戸断面  
PL.39 III区11号井戸全景／ III区11号井戸断面／ III区13号井戸全景／ III区13号井戸断面／ III区14号井戸全景／ III区14号井戸断面／ III区12号井戸断面／ III区3面作業風景  
PL.40 I区8,9号溝断面／ I区8,9号溝断面／ II区3号溝断面／ II区3号溝断面／ II区4号溝断面／ II区4号溝断面／ II区6号溝断面／ II区6号溝断面  
PL.41 II区7号溝断面／ II区7号溝断面／ III区20号溝断面／ III区20号溝断面／ III区21号溝断面／ III区21号溝断面／ III区22号溝断面／ III区22号溝断面  
PL.42 I区7号溝断面／ I区12号溝断面／ I区13,14,15,17号溝断面／ I区14,15,17,18号溝断面／ II区5号溝断面／ II区8号溝断面  
PL.43 III区11,12,15,23,29号溝断面／ III区13,14号溝断面／ III区1号橋脚断面／ III区1号橋脚板出土状態／ III区2号橋脚断面／ III区2号橋脚板出土状態／ III区13,14号溝断面／ III区16号溝断面  
PL.44 III区18,33,34号溝断面／ III区19号溝断面／ III区24,36号溝断面／ III区25号溝断面／ III区31号溝断面／ III区32号溝断面／ III区36号溝断面／ III区38号溝断面  
PL.45 III区39号溝断面／ III区42号溝断面／ III区36,43号溝断面／ III区44号溝断面／ IV区7,8,9,19号溝断面／ IV区12号溝断面／ IV区13号溝断面／ IV区14号溝断面  
PL.46 III区2号土坑断面／ III区2号土坑断面／ III区3号土坑断面／ III区3号土坑断面／ III区4号土坑遺物出土状態／ III区4号土坑断面／ III区5号土坑断面／ III区5号土坑断面  
PL.47 III区6号土坑断面／ III区6号土坑断面／ III区7号土坑断面／ III区9号土坑断面／ III区10号土坑断面／ III区10号土坑断面／ III区12号土坑断面／ III区12号土坑断面  
PL.48 III区13号土坑断面／ III区13号土坑断面／ III区14号土坑断面／ III区15号土坑断面／ III区16号土坑断面／ III区16号土坑断面／ III区17号土坑断面／ III区22,23号土坑断面  
PL.49 III区22,23号土坑断面／ III区24号土坑断面／ III区25号土坑断面／ III区25号土坑断面／ III区26号土坑断面／ III区27号土坑断面／ III区28号土坑断面／ III区28号土坑断面  
PL.50 III区29号土坑断面／ III区29号土坑断面／ III区31号土坑遺物出土状態／ III区31号土坑断面／ III区32号土坑断面／ III区33号土坑断面 III区1号集石全景／ I区2号畠全景  
PL.51 III区追加部分2面全景／ III区3号溝断面／ III区3号溝断面／ III区4号溝南側断面／ III区4号溝北側断面  
PL.52 III区4号溝断面／ III区5号溝断面／ III区6号溝断面／ III区7号溝断面／ III区8号溝断面／ III区9号溝断面／ III区10号溝断面／ III区42,100号溝断面  
PL.53 III区102号溝断面／ III区102号溝断面／ III区103,104号溝断面／ III区103号溝断面／ III区104号溝断面／ IV区3号溝杭検出状態／ IV区3,4号溝断面／ IV区3,4号溝断面  
PL.54 III区38号土坑断面／ III区38号土坑断面／ III区39号土坑断面／ III区39号土坑断面／ III区41号土坑断面／ III区41号土坑断面／ III区42号土坑断面／ III区42号土坑断面  
PL.55 III区43号土坑断面／ III区43号土坑断面／ III区44号土坑断面／ III区44号土坑断面／ III区46号土坑断面／ III区46号土坑断面／ III区40号土坑断面／ III区45号土坑断面  
PL.56 I区1号畠全景／ I区1号道路跡断面／ I区2号道路跡断面  
PL.57 I区1号復旧溝断面／ I区1号道路跡、2号復旧溝断面／ II区1号復旧溝断面／ II区1号復旧溝断面／ III区1号復旧溝断面／ III区2号復旧溝断面／ III区3号復旧溝断面  
PL.58 III区5号復旧溝断面／ III区6号復旧溝断面／ III区7号復旧溝断面／ I区1号土坑断面／ III区1号土坑断面  
PL.59 I区1号溝東側上層断面／ I区1号溝西側上層断面／ I区1号溝A-A'断面／ I区1号溝B-B'断面／ I区4号溝断面  
PL.60 I区6号溝断面／ II区2号溝断面／ I区4,5号溝断面／ II区1号溝断面／ III区1号溝断面／ III区1号溝断面  
PL.61 III区93号溝断面／ III区93,98号溝断面／ III区90号溝断面／ III区90号溝断面／ III区96,97号溝断面／ III区96号溝断面／ III区97号溝断面／ III区2号溝断面  
出土遺物 8面: PL.62~67 6面: PL.67 5面: PL.67・68 4面: PL.68・69 3面: PL.69~72 2面: PL.72~75 1面: PL.75~77 補遺: PL.77  
鑑定・同定 大型植物遺体: PL.78・79 樹種: PL.80~82 プラントオパール: PL.83 花粉: PL.84

# I 発掘調査と遺跡の概要

## 1 発掘調査に至る経過

### (1) 東毛広域幹線道路国道354号高崎玉村バイパス

当初群馬県東部の館林市と中部の高崎市とを結ぶ路線として昭和50年（1975）4月に一般国道に指定（昭和49年11月12日政令第364号）された国道354号線（以下「国道354」とする）は、平成5年（1993）4月1日、高崎市と茨城県鹿島郡大洋村（現牟田市）とを結ぶ、全長172.3kmの北関東を東西に繋ぐ主要道路の一つとして路線変更（平成4年4月3日政令第104号）されている。群馬県内では一般国道17・18号線と交差する高崎市の君が代橋交差点を基点に、途中伊勢崎、太田、館林の各市を經由している。

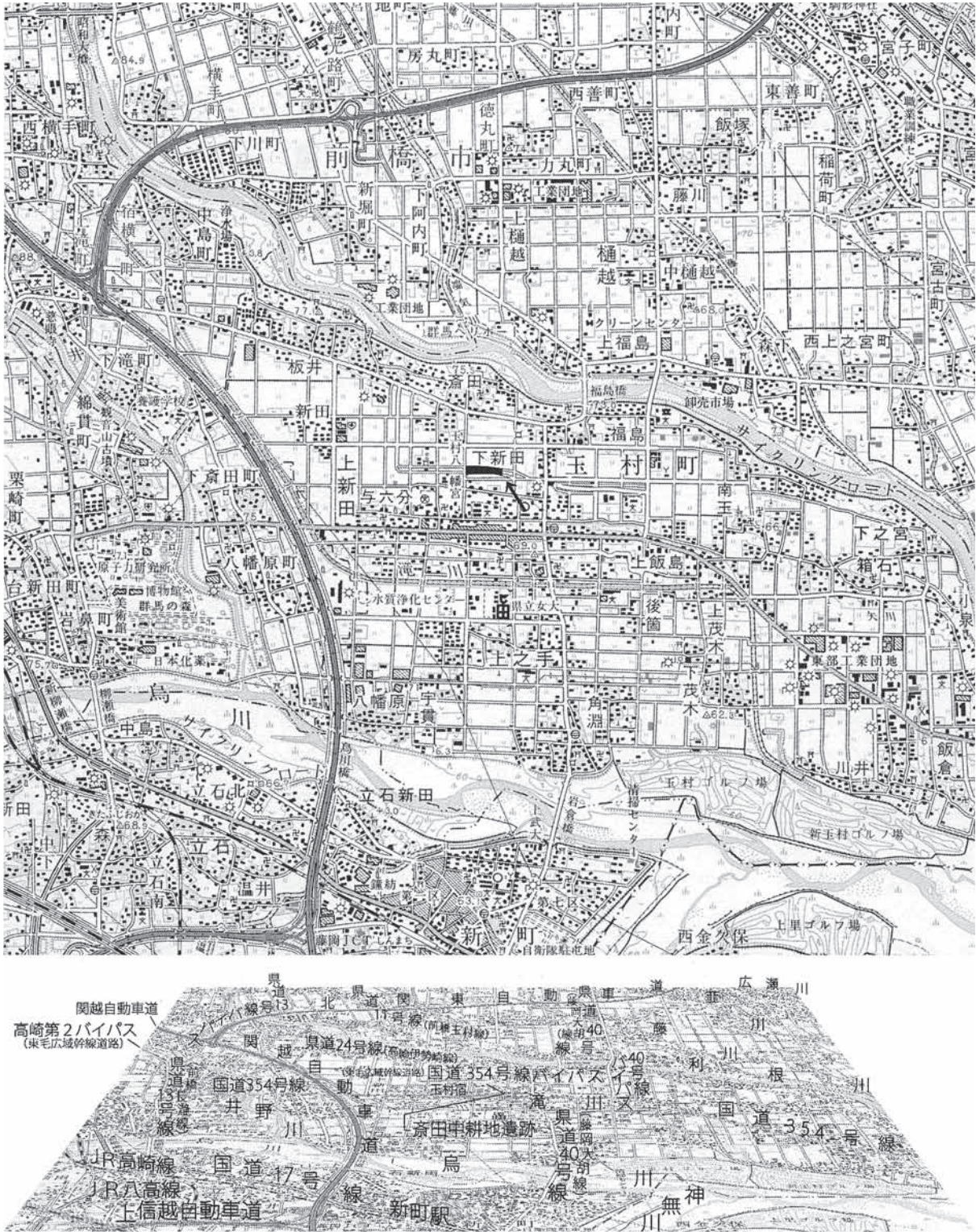
国道354は平成8年以來首都圏整備計画にも整備対象として取り上げられているが、群馬県内でも交通量が多く、各所でバイパス化が進められている。このうち高崎市綿貫町から玉村町福島の区間が高崎玉村バイパス（全長5.3km、幅員25m）であり、本報告書に掲載する斉田中耕地遺跡はこの建設用地内に位置する。

一方、群馬県では地域間の連携、産業立地、物流の効率化や生活圏拡大といった地域発展に貢献す



第1図 遺跡位置図（国土地理院「宇都宮」「長野」使用）

I 発掘調査と遺跡の概要



第2図 齋田中耕地遺跡近隣地形図 (国土地理院「前橋」「高崎」五万分一図使用)

る道路網の整備を目的とする広域幹線道路の建設を進めているが、高崎玉村バイパスは西接する高崎第二バイパスや東接する玉村伊勢崎バイパスと共に東毛広域幹線道路の一部を担っている。東毛広域幹線

道路は高崎駅東口を基点に、伊勢崎市、太田市、館林市を経て県東端の邑楽郡板倉町に到る道路で、国道354号の他、群馬県道8号(伊勢崎本庄)線など複数の道路を取り込み、バイパス建設や街路事業、

区画整理など複数の事業を組み合わせることで事業化されている。総延長58.6km、最終的には4内至6車線を有することになる広域幹線道路ある。

さて高崎玉村バイパスは平成5年(1973)より道路改築事業を開始しているが、計画路線内に対しては玉村町による周辺の発掘調査等によって埋蔵文化財の遺存が認識されていたため、群馬県教育委員会(文化財保護課)は群馬県土木部並びに伊勢崎土木事務所とその取り扱いについて協議を行った。その結果、平成8年から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が実施されることとなり、高崎玉村バイパスの東端、群馬県道40号線主要地方道藤岡大胡線バイパスとの交差点の西側から順次着手している。

## 2 遺跡の立地と周辺の遺跡

### (1) 遺跡の立地

齊田中耕地遺跡は群馬県中南部に在る群馬県佐波郡玉村町の北西部に位置する。玉村町は関東平野の北西隅近くに位置し、北に前橋市、西及び南西に高崎市、東に伊勢崎市、南に埼玉県大里郡大里町と接する。標高は60~75mを測り、町内は高低差の小さい微高地と低地に分けられるものの、全体的に極緩やかに北西から南東方向に傾斜する平坦な地形が広がり、南南東から東南東方向に流路を変じた利根川が町の北部と中南部を分割し、町域の南側は東流する烏川が画している。また利根川に流入する端気川、藤川等や、烏川に流入する井野川、滝川等の中小河川が南東方向に流下するが、滝川は後述する日光例弊使街道の玉村宿の南では街道に並走するように南北方向に流路を取っている。

玉村町は米麦二毛作の耕作地が広がり、玉村宿或いは五料宿といった日光例弊使街道の宿場町など古くからの集落が見られる一方、隣接する前橋市、高崎市、伊勢崎市のベッドタウンである新興住宅街、或いは誘致された工場などが点在する。町内を国道

### (2) 発掘調査の開始

高崎玉村バイパス路線のうち藤岡大胡線バイパス交差点から関越自動車道交差点までの間は圃場整備後の舗装道路を境として1~23区の調査区域(第2節に述べる「地区」とは別のものである)に分けられている。1・2及び3・4区がそれぞれ南北に重なる以外は東から西に向かって区番号が付されているが、本遺跡は6~8区に該当している。

本遺跡は、既に発掘調査が実施されていた齊田竹之内遺跡(3~5区)の調査成果等に鑑みて、平成14年3月に伊勢崎土木事務所より群馬県教育委員会文化財保護課に埋蔵文化財の調査依頼がなされ、調整の結果、同年4月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が実施されることとなったのである。

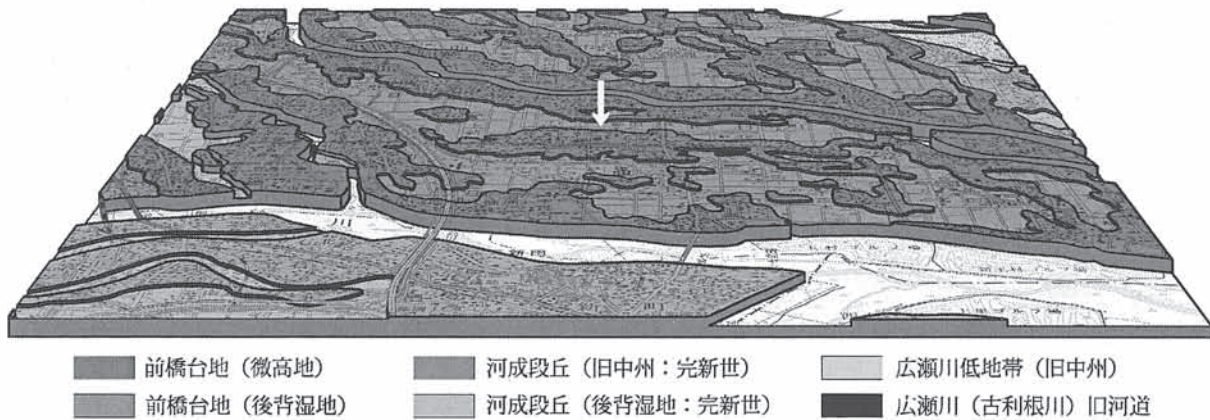
354号線(玉村町域では日光例弊使街道に重なる)や県道(主要地方道)24号高崎伊勢崎線が東西に、県道(主要地方道)40号藤岡大胡線が南北に通過する。尚、玉村町域に鉄道は敷設されないが、烏川を挟んだ高崎市(旧多野郡新町)にJR上越線の新町駅が在る。

本遺跡は群馬県庁とこれに近接する前橋市役所の南南東10.2km、高崎市役所の東南東9.8km、伊勢崎市役所の西南西7.7km地点に位置する。上述のように町域の北西に当たり、玉村町役場の北西0.5kmに在る。遺跡付近では南側500mを国道354号線の旧道を挟んで宿場町の名残である旧市街地が東西に連なり、その北側には町役場や町立玉村小学校、県立玉村高等学校等の公的施設、玉村八幡宮、或いは新興住宅地が重なるように在り、本遺跡はその北側の圃場整備の終わった水田地帯に立地している。また本遺跡の北側500mには県道24号線、東側350mには県道40号線が走る。

本遺跡の基盤層は2.0~2.4万年前の浅間火山黒斑山の山体崩壊に伴い発生した泥流が形成した前橋高崎台地である。本遺跡付近では、更新世、完新世に



## I 発掘調査と遺跡の概要



第3図 斎田中耕地遺跡近隣地質図（国土地理院「前橋」「高崎」五万分一図使用）

形成された段丘堆積層や完新世の沖積層で被覆されている。後者では群馬県庁の北側で走行を変えて現在の広瀬川付近を流下していた利根川が、現在の流路に変流する15から16世紀の洪水堆積層や、近世、特に天明3年（1783）の浅間焼け（浅間火山の噴火）に伴う泥流による鎌原泥流層の堆積が顕著である。（第183図参照）

### （2）周辺の遺跡と歴史的環境

第4図に示したように本遺跡周辺は比較的密度の濃い遺跡の分布が見られる。しかし後述する中世に於ける利根川変流時等の洪水や、天明3年（1783）の泥流被害によって中世以前の洪水層に被覆され、他地域と違って遺跡の広がりや把握が比較的難しい地域でもある。従って遺跡の把握は分布調査と、他地域に比べてその比重の高い発掘調査や分布調査の成果を基に、以下に旧石器、縄文、弥生、奈良・平安時代並びに中・近世の5期について、本遺跡を取り巻く歴史的環境の概略を述べることにする。

**【旧石器時代】** 本遺跡周辺は約25,000年前の浅間山の山体崩壊によって形成された前橋・高崎台地上に立地することもあって、旧石器時代の遺跡は確認されていない。

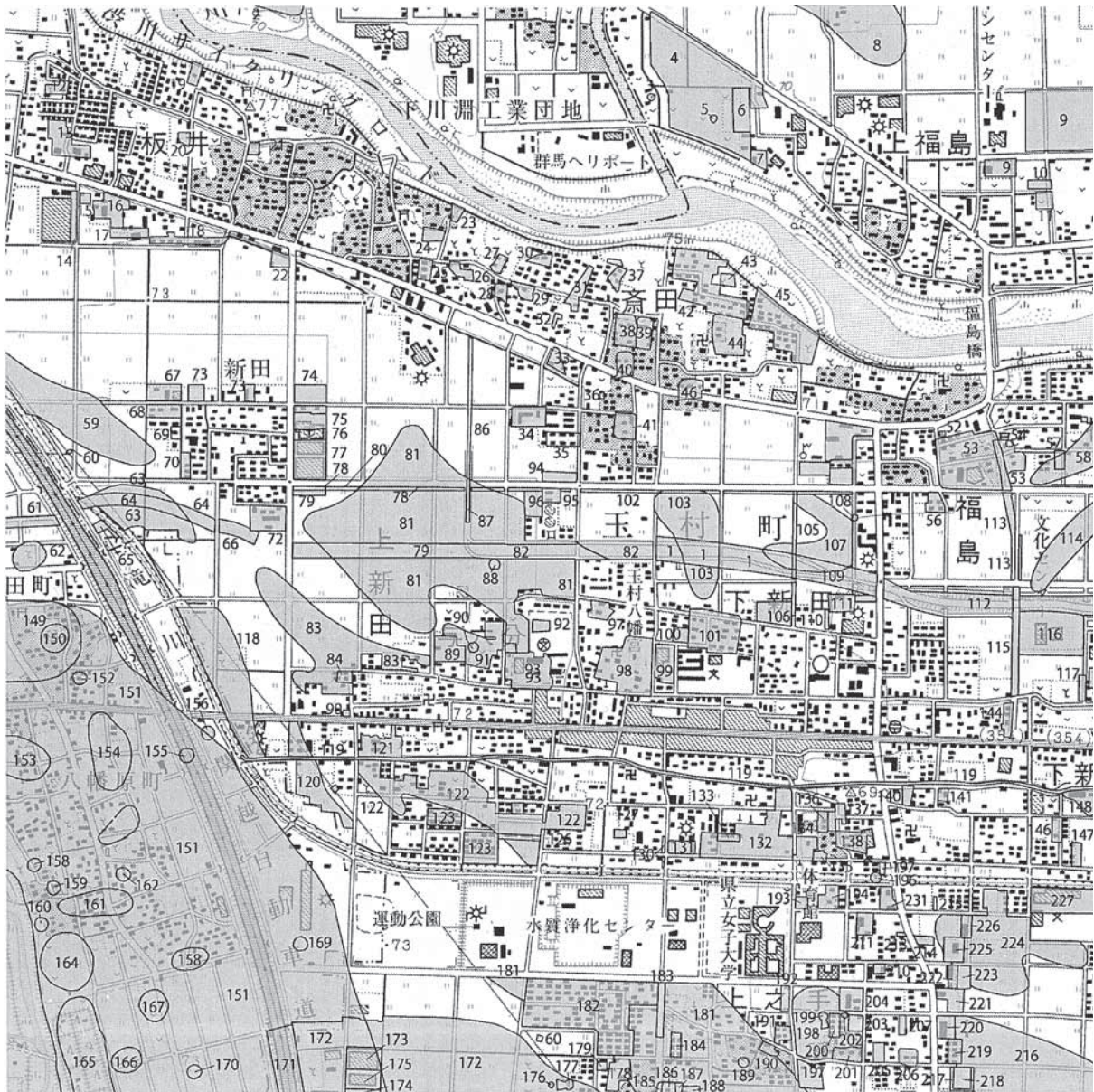
**【縄文時代】** 本遺跡も含め石鏃等の遺物の出土する遺跡は散見されるものの、縄文時代の遺跡は多くない。第4図は本遺跡を中心に3.185km四方を示しているが、この範囲で確認される縄文時代の遺跡は元島名A

遺跡(160)・上之手東遺跡(214)の5遺跡に過ぎない。これは前橋台地上に立地するという地質的影響がこの時代まで影響したためと思慮されるものである。

**【弥生時代】** 弥生時代の遺跡も第4図の範囲で福島飯塚遺跡（109）、高崎市47H07遺跡（164）の2遺跡に過ぎない。その理由は説明できないが、玉村町中・東部地区では中～後期の遺跡も散見されるようになってきているため、今後発掘調査の伸展によって遺跡数の増加が期待される。

**【古墳時代】** 古墳時代の遺跡は第4図の範囲で、弥生時代の2遺跡から、（一部重複するものもあるものの）54遺跡と急増する。これは古墳時代に入る前後から急増する新田開発と連動するもの、その継承を示唆するものと認識される。これに伴って本遺跡等複数の後背湿地に存する遺跡で水田址も確認されている。古墳時代前・中期には未だ流路としての開析谷が散見されるのであるが、こうした谷地形もその埋没に伴って徐々に水田として利用されていっている。また福島飯塚遺跡（109）、下郷遺跡（168）では前・中期の方形周溝墓が確認され、下斉田古墳群（146）、鈴塚を含む若宮古墳群（162）など古墳の分布も全域に見られる。

**【奈良・平安時代】** 奈良・平安時代、本遺跡付近は往時の那波郡鞆田郷（里）の域内に在ったと認識されているが、利根川の流路は往時、現広瀬川の流路付近にあったので、現利根川の南北は地続きであった。本遺跡周辺では現在も条里方眼と認識される区



第4図 齊田中耕地遺跡周辺遺跡分布図 (S=1/20,000 国土地理院「前橋・高崎」使用)

画が残されている。しかし発掘遺跡の状態に鑑みれば、中・大規模な水路や河川の走行を規制することはしなかったようで、条里方眼と自然地形とが混在した状態にあった。また第4図に示した範囲の更に少し北側には東山道駅路が東西に走行し、北東には官衙と見られる一万田遺跡が在る。尚、第4図の範囲での奈良時代の遺跡数54遺跡、平安時代の遺跡数は157遺跡と増加傾向を示し、全体的に見ると前橋台地上の微高地には集落址や畠跡、後背湿地の区域では水田址の分布が見られる。

【中・近世】平安時代末期の嘉承3年（天仁元年／1108年）浅間山が大爆発を起こし、本遺跡付近も降下火山灰・軽石の堆積により甚大な被害を受けている。その復旧時期は、伊勢神宮に寄進さて玉村御厨が成立した12世紀中頃と思慮され、その開発を指導したのが玉村氏と認識されている。霜月騒動後は得宗宗となり、室町時代には大江姓那波氏領となったと見られる。本遺跡付近もその本拠の一部と考えられる。第4図の範囲の中世の遺跡は53遺跡を数え、前代に引き続き微高地には集落や畠、後背湿地の区

I 発掘調査と遺跡の概要

表1の1 遺跡一覧

No.	市町村番号	遺跡名	時代							発掘暦	概要	関連文献
			縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世			
1	玉村0169	齊田中耕地遺跡			○	○	○	○	○	平成16～18年度	本書掲載	
2	前橋0698	新堀城							○			群馬県の中世城館跡
3	玉村0030	玉村町No.30遺跡			○						古墳か	
4	玉村0628	玉村町No.628遺跡			○	○	○	○	○	平成15・19年度試掘	水田・畠・溝・土坑・ピット	
5	玉村0031	玉村町No.31遺跡					○			平成15年試掘	水田・畠	
6	玉村0037	柄田添遺跡			○	○	○	○	○	平成4～8年発掘	溝・土坑・ピット・水田・畠	
7	玉村0039	玉村町No.39遺跡							○	平成2年試掘		
8	玉村0001	玉村町No.1遺跡			○	○	○					
9	玉村0060	金免遺跡					○			昭和63年発掘		金免遺跡(1989)
10	玉村0660	玉村町No.660遺跡							○	平成2年試掘	溝(試掘No.250)	
11	玉村0077	玉村町No.77遺跡					○			平成2年試掘		
12	玉村0671	玉村町No.671遺跡							○	平成18年試掘	(試掘No.684)	
13	玉村0516	玉村町No.21遺跡							○	平成14年試掘	畠(試掘No.434)	
14	玉村0021	玉村町No.517遺跡					○			平成2年試掘		
15	玉村0020	天神前遺跡					○			平成4年発掘	土坑・水田	天神前遺跡他(2002)
16	玉村0022	玉村町No.22遺跡					○			平成3年試掘		
17	玉村0023	玉村町No.23遺跡							○	平成14年試掘		
18	玉村0025	玉村町No.25遺跡					○			平成2年試掘		
19	玉村0603	玉村町No.603遺跡							○	平成12年試掘	畠(試掘No.609)	
20	玉村0026	玉村町No.26遺跡							○	平成2年試掘		
21	玉村0574	玉村町No.574遺跡							○	平成10年試掘	溝・土手、水田か	
22	玉村0038	玉村町No.38遺跡					○			平成元年試掘		
23	玉村0663	玉村町No.663遺跡							○	平成17年試掘	土手状遺構(試掘No.674)	
24	玉村0575	玉村町No.575遺跡							○	平成10年試掘	堀・復旧溝(試掘No.572)	
25	玉村0040	玉村町No.40遺跡				○	○			平成2年試掘		
26	玉村0041	玉村町No.41遺跡				○	○			平成2年試掘		
27	玉村0042	玉村町No.42遺跡							○	平成2年試掘	畠	
28	玉村0043	玉村町No.43遺跡					○			平成2年試掘		
29	玉村0044	玉村町No.44遺跡							○	平成2年試掘		
30	玉村0045	玉村町No.45遺跡							○	平成2年試掘		
31	玉村0046	玉村町No.46遺跡							○	平成2年試掘		
32	玉村0047	玉村町No.47遺跡							○	平成2年試掘		
33	玉村0669	玉村町No.669遺跡					○			平成2年試掘	水田(試掘No.314)	
34	玉村0050	玉村町No.50遺跡					○			平成3年試掘		
35	玉村0106	玉村町No.106遺跡					○			平成2年試掘		
36	玉村0672	玉村町No.672遺跡					○			平成19年試掘	(試掘No.688)	
37	玉村0049	玉村町No.49遺跡							○	平成2年試掘		
38	玉村0032	齊田西屋敷						○				群馬県古城塁址の研究
39	玉村0033	齊田東屋敷						○				群馬県古城塁址の研究
40	玉村0034	町田屋敷						○				群馬県古城塁址の研究
41	玉村0093	石原屋敷						○				群馬県古城塁址の研究
42	玉村0051	玉村町No.51遺跡							○	平成15年度	屋敷・畠(H2・3試掘)	田口下屋敷(2000)
43	玉村0052	玉村町No.52遺跡							○	平成3年試掘		
44	玉村0036	田口下屋敷						○		平成5年部分発掘		群馬県古城塁址の研究
45	玉村0053	玉村町No.53遺跡							○	平成元年試掘		
46	玉村0035	田口屋敷						○				群馬県古城塁址の研究
47	玉村0674	玉村町No.674遺跡					○			平成20年試掘	(試掘No.699)	
48	玉村0504	玉村町No.504遺跡					○			平成3年試掘	水田(試掘No.333)	
49	玉村0613	玉村町No.613遺跡					○			平成13年試掘	水田(試掘No.611)	
50	玉村0059	宇津木館						○				玉村町史蹟図解説書
51	玉村0149	玉村町No.149遺跡							○	平成2年試掘		
52	玉村0526	玉村町No.526遺跡					○			平成5年試掘	水田(試掘No.449)	
53	玉村0139	福島岩						○				群馬県古城塁址の研究
54	玉村0133	天神古墳			○							
55	玉村0618	屋敷Ⅱ遺跡			○			○	○	平成14年発掘	屋敷・溝・水田	
56	玉村0150	玉村町No.150遺跡					○			平成2年試掘		
57	玉村0683	玉村町No.683遺跡			○	○	○			平成20年試掘	(試掘No.709)	
58	玉村0175	玉村町No.175遺跡				○	○					
59	玉村0683	玉村町No.683遺跡			○	○	○			平成20年試掘	(試掘No.709)	
60	玉村0083	上新田地区遺跡群					○			平成2年発掘	(本鉄塔No.126)	
61	高崎0694	下齋田重土薬師遺跡			○	○	○					
62	高崎1456	41H08			○	○	○		○			
63	玉村0086	玉村町No.86遺跡				○	○					
64	玉村0677	上新田新田西遺跡				○	○					
65	玉村0087	玉村町No.87遺跡				○	○					
66	玉村0676	上新田赤塚遺跡					○					

2 遺跡の立地と周辺の遺跡

表1の2 遺跡一覧

No.	市町村番号	遺跡名	時代							発掘暦	概要	関連文献
			縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世			
67	玉村0027	玉村町No.27遺跡					○			平成2年試掘		
68	玉村0084	玉村町No.84遺跡					○			平成2年試掘		
69	玉村0085	玉村町No.85遺跡					○			平成2年試掘		
70	玉村0493	玉村町No.493遺跡					○			平成元年試掘	水田(試掘No.a-39)	
71	玉村0550	玉村町No.550遺跡					○			平成8年試掘	水田(試掘No.520)	
72	玉村0054	玉村町No.54遺跡					○			平成2年試掘		
73	玉村0105	玉村町No.105遺跡					○			平成2年試掘		
74	玉村0590	玉村町No.590遺跡				○	○		○	平成11年試掘	溝・土坑・水田(試掘No.593)	
75	玉村0099	中道西遺跡					○			昭和63・平成7・8年発掘	水田	中道西遺跡(1996)
76	玉村0646	中道西遺跡(第2次調査)					○		○	平成7年発掘	溝・水田	中道西遺跡(1996)
77	玉村0104	玉村町No.104遺跡					○			平成2年試掘		
78	玉村0594	中道東・中道西Ⅱ・蛭堀東遺跡			○		○	○	○	平成12年度	溝・土坑・水田・復旧溝	
79	玉村0679	玉村町No.679遺跡					○	○	○	平成20年度	(試掘No.701)	
80	玉村0601	玉村町No.601遺跡					○			平成12年度	水田(試掘No.600)	
81	玉村0123	玉村町No.123遺跡			○			○	○			
82	玉村0675	上新田中道東遺跡			○		○	○	○	平成16年度		事業団年報24
83	玉村0126	玉村町No.126遺跡	○		○	○	○	○	○			
84	玉村0112	玉村町No.112遺跡					○			平成2年試掘		
85	玉村0566	玉村町No.566遺跡					○			平成10年発掘	水田(試掘No.548)	
86	玉村0625	一本木遺跡			○	○	○	○	○	平成15年発掘	土坑・溝・水田	一本木遺跡(2004)
87	玉村0653	中道東Ⅱ遺跡			○	○	○		○	平成14年発掘	溝・井戸・土坑・ピット・水田	
88	玉村0089	玉村町No.89遺跡			○							
89	玉村0108	玉村町No.108遺跡					○			昭和62年試掘		
90	玉村0090	玉村町No.90遺跡			○							
91	玉村0109	玉村町No.109遺跡					○			平成2年試掘		
92	玉村0122	玉村町No.122遺跡				○	○					
93	玉村0094	与六屋敷							○			群馬県古城畧址の研究
94	玉村0107	玉村町No.107遺跡					○			平成2年試掘		
95	玉村0506	蛭堀東遺跡					○			平成4年度	水田	
96	玉村0684	玉村町No.684遺跡			○	○	○	○	○	平成14年度試掘	溝・水田・復旧溝	
97	玉村0110	玉村町No.110遺跡					○					
98	玉村0095	玉村八幡館						○	○		国指定重要文化財玉村八幡宮本殿、中世墳墓 他	
99	玉村0547	玉村町No.547遺跡					○			平成8年試掘	(試掘No.508)	
100	玉村0111	玉村町No.111遺跡					○			昭和62年試掘		
101	玉村0096	玉村館							○			群馬県古城畧址の研究
102	玉村0608	齊田八幡裏・齊田五反田遺跡			○	○	○			平成13年度	溝・土坑・水田	
103	玉村0124	玉村町No.124遺跡				○	○	○	○			
104	玉村0616	竹ノ内Ⅱ・大坊遺跡			○	○	○	○	○	平成14年度	古墳?・溝・ピット・水田	
105	玉村0579	竹ノ内遺跡			○		○	○		平成11年度	溝・土坑・水田	
106	玉村0607	布留城Ⅱ遺跡			○	○	○	○		平成13年度	土坑・柵列	
107	玉村0125	玉村町No.125遺跡				○	○	○	○			
108	玉村0091	玉村町No.91遺跡				○						
109	玉村0624	福島飯玉遺跡			○		○	○		平成13・14年度	掘立柱建物・溝・水田・畠	福島飯玉遺跡(2008)
110	玉村0536	玉村町No.536遺跡					○			平成6年度試掘	水田(試掘No.478)	
111	玉村0515	玉村町No.515遺跡					○			平成4年度試掘	水田(試掘No.432)	
112	玉村0606	福島飯塚遺跡		○	○		○	○	○	平成10~12年度	住居・方形周溝墓・屋敷・溝・井戸・土坑・水田・復旧溝・琴柱状石製品 他	福島飯塚遺跡(2007)・福島飯塚遺跡(2)(2008)
113	玉村0595	福島稲荷木Ⅳ遺跡			○		○	○	○	平成12年度	溝・井戸・土坑・水田	
114	玉村0176	玉村町No.176遺跡				○	○					
115	玉村0507	福島稲荷木Ⅱ遺跡					○	○		平成14年度		
116	玉村0144	福島稲荷木遺跡				○	○	○		平成3・4・10年度		
117	玉村0151	玉村町No.151遺跡				○	○			平成2年試掘		
118	玉村0088	玉村町No.88遺跡			○	○	○					
119	玉村0121	玉村町No.121遺跡							○	平成5年試掘	旧滝川用水(一部試掘)	
120	玉村0127	玉村町No.127遺跡				○	○					
121	玉村0128	玉村町No.128遺跡						○	○			
122	玉村0129	玉村町No.129遺跡			○	○	○	○				
123	玉村0113	玉村町No.113遺跡					○			昭和62年試掘		
124	玉村0114	玉村町No.114遺跡					○			平成2年試掘		
125	玉村0112	南東耕地遺跡					○			平成2年発掘	溝・井戸・土坑	南東耕地遺跡(1999)
122	玉村0115	玉村町No.115遺跡					○			平成2年試掘		

I 発掘調査と遺跡の概要

表1の3 遺跡一覧

No.	市町村番号	遺跡名	時代							発掘暦	概要	関連文献
			縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世			
127	玉村0116	玉村町No.116遺跡					○			平成2年試掘		
128	玉村0537	玉村町No.537遺跡					○			平成10年度試掘	溝・土坑(試掘No.569)	
129	玉村0614	玉村町No.614遺跡					○		○	平成13年度試掘	建物・水田(試掘No.612)	
130	玉村0681	玉村町No.681遺跡					○			平成20年度試掘	水田(試掘No.707)	
131	玉村0621	玉村町No.621遺跡					○	○		平成14年度試掘	水田(試掘No.640)	
132	玉村0130	玉村町No.130遺跡					○	○			俗称「天神古墳」	
133	玉村0117	薬師遺跡								昭和62年試掘	井戸	角潤伊勢山遺跡・薬師遺跡 他(2002)
134	玉村0118	玉村町No.118遺跡					○	○		平成2年試掘		
135	玉村0132	玉村町No.132遺跡					○	○				
136	玉村0097	内田屋敷遺跡					○	○	○	平成5年発掘	内田屋敷、溝・土坑・ピット	群馬県古城塁址の研究
137	玉村0131	玉村町No.131遺跡					○	○				
138	玉村0098	宮下屋敷							○	平成5年一部確認		群馬県古城塁址の研究
139	玉村0570	玉村町No.570遺跡						○		平成10年度試掘	水田(試掘No.561)	
140	玉村0525	玉村町No.145遺跡						○		平成5年度試掘	水田(試掘No.448)	
141	玉村0145	玉村町No.145遺跡						○		平成元年試掘		群馬県古城塁址の研究
142	玉村0140	観照寺屋敷							○	平成8年部分発掘		群馬県古城塁址の研究
143	玉村0542	玉村町No.542遺跡						○		平成7年度試掘	水溝・土坑(試掘No.542)	
144	玉村0549	玉村町No.549遺跡						○		平成8年度試掘	水田(試掘No.518)	
145	玉村0153	玉村町No.153遺跡						○		昭和62年試掘		
146	玉村0154	玉村町No.154遺跡						○		平成2年度試掘		
147	玉村0155	玉村町No.155遺跡						○		平成2年度試掘		
148	玉村0178	玉村町No.178遺跡						○	○			
149	高崎1429	41A07						○			下斎田古墳群、4基全て削平	上毛古墳総覧
150	高崎1457	41H09						○				
151	高崎2368	八幡原41遺跡									城館址	
152	高崎1436	41B04							○		下斎田城	新編高崎市市資料編3
153	高崎1455	41H07	○					○			埴輪	
154	高崎1458	41H10						○	○			
155	高崎1447	41D02(八幡腹B遺跡)						○	○	昭和49・50年発掘	中世環濠、埴輪、布目瓦	八幡原A・B、上滝、元島名A(1981)
156	高崎1445	41C07						○	○		水田。古墳住居	八幡原大鼻遺跡・稲荷遺跡(1983)
157	高崎1459	41H1						○	○			
158	高崎1431	41A09						○				
159	高崎1437	41B05(八幡原館)							○			新編高崎市市資料編3
160	高崎1581	47A08						○			浅間山、削平	
161	高崎1460	47H12						○			埴輪	
162	高崎1438	41B06							○		八幡原内出	
163	高崎1461	42D04(元島名A遺跡)	○					○	○	昭和49・50年発掘	縄文住居、掘立柱建物、溝、石斧、埴輪	八幡原A・B、上滝、元島名A(1981)
164	高崎1595	47H04	○					○	○		埴輪	
165	高崎1582	47A09(若宮古墳群)						○		昭和28・74年発掘	鈴塚、棺、馬具、鉄斧、金環、丸玉、古墳17基、小石郭26	
166	高崎1597	47H06						○				
167	高崎1598	47H07						○				
168	高崎1599	47H08						○	○			
169	高崎1604	48C01	○					○	○		古墳・奈良・平安住居、掘立柱建物、As-B水田、古墳柱根	八幡原大鼻遺跡・稲荷遺跡(1983)
170	高崎1591	47D03	○									若宮遺跡(1972)
171	玉村0257	下郷遺跡						○	○	昭和53年発掘		下郷遺跡(1980)
172	玉村0335	玉村町No.335遺跡						○	○			
173	玉村0304	玉村町No.304遺跡						○		平成元年試掘		
174	玉村0260	稲荷遺跡						○	○	平成2年発掘	溝・土坑	稲荷遺跡(1999)
175	玉村0261	八幡原赤塚遺跡								平成元年発掘	溝	角潤伊勢山遺跡・八幡原赤塚遺跡 他(2002)
176	玉村0632	上之手地区遺跡群(1)(仮鉄塔No.137)						○		昭和63年発掘	掘立柱建物	上之手地区遺跡群(1)・(2) 他(1999)
177	玉村0232	玉村町No.232遺跡						○			古墳、航空写真(S36)	
178	玉村0551	玉村町No.551遺跡						○	○	平成8年度試掘	水田(試掘No.522)	
179	玉村0319	玉村町No.319遺跡						○		平成2年試掘		
180	玉村0277	上之手地区遺跡群(1)(仮鉄塔No.136)						○		昭和63年発掘	水田、溝	上之手地区遺跡群(1)・(2) 他(1999)
181	玉村0337	玉村町No.337遺跡						○	○			
182	玉村0274	上之手八王子遺跡						○	○	昭和63年発掘	水田	上之手八王子遺跡(1992)

2 遺跡の立地と周辺の遺跡

表1の4 遺跡一覧

No.	市町村番号	遺跡名	時代						発掘暦	概要	関連文献	
			縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世				近世
183	玉村0640	上之手八王子Ⅱ遺跡					○	○	○	平成6年発掘	住居、掘立柱建物、溝、土坑、畠、復旧溝	上之手八王子Ⅱ遺跡・原屋敷Ⅱ遺跡(1997)
184	玉村0275	中郷遺跡					○			平成3年発掘	上之手八王子遺跡	
185	玉村0638	原屋敷Ⅱ遺跡					○	○		平成6年発掘	屋敷	上之手八王子Ⅱ遺跡・原屋敷Ⅱ遺跡(1997)
186	玉村0252	原屋敷						○				群馬県古城畠址の研究
187	玉村0639	原屋敷Ⅲ遺跡							○	平成6年発掘	溝	
188	玉村0276	原屋敷遺跡				○	○	○	○	昭和63年発掘	屋敷跡、土坑、溝	原屋敷遺跡他(2004)
189	玉村0233	玉村町No.233遺跡			○						古墳、航空写真(S36)	
190	玉村0253	重田屋敷						○				玉村町中世城跡分布調査
191	玉村0539	粉糠島Ⅱ遺跡					○			平成7年度発掘	溝	粉糠島Ⅱ遺跡(1998)
192	玉村0318	玉村町No.318遺跡					○			平成2年試掘		
193	玉村0317	玉村町No.317遺跡					○			平成2年試掘		
194	玉村0527	玉村町No.527遺跡								平成6年度試掘	溝・井戸(試掘No.457)	
195	玉村0119	玉村町No.119遺跡						○				
196	玉村0092	玉村町No.92遺跡			○					平成6年度試掘	溝・土坑(試掘No.442)	
197	玉村0524	玉村町No.524遺跡					○		○	平成10年度試掘	溝・土坑・水田・ピット(試掘No.541)	
198	玉村0336	玉村町No.336遺跡			○	○	○	○				
199	玉村0235	玉村町No.235遺跡			○						古墳、実見、航空写真(S36)	
200	玉村0273	上之手立野遺跡			○	○	○	○		平成3年発掘	屋敷・溝・土坑	
201	玉村0254	秋山屋敷							○			玉村町中世城跡分布調査
202	玉村0236	玉村町No.236遺跡			○						古墳、実見、航空写真(S36)	
203	玉村0315	玉村町No.315遺跡					○			平成2年試掘		
204	玉村0314	玉村町No.314遺跡					○			平成2年試掘		
205	玉村0316	玉村町No.316遺跡					○			平成2年試掘		
206	玉村0377	小暮屋敷						○				玉村町中世城跡分布調査
207	玉村0626	玉村町No.626遺跡					○	○	○	平成15年度試掘	溝・水田(試掘No.649)	
208	玉村0500	玉村町No.500遺跡					○		○	平成2年度試掘	溝・水田(試掘No.91)	
209	玉村0502	玉村町No.502遺跡					○			平成2年度試掘	水田(試掘No.105)	
210	玉村0313	玉村町No.313遺跡				○	○			平成2年度試掘		
211	玉村0272	中袋遺跡					○		○	平成元年発掘		
212	玉村0120	玉村町No.120遺跡					○			平成2年度試掘		
213	玉村0514	玉村町No.514遺跡					○			平成4年度試掘	水田・溝?(試掘No.431)	
214	玉村0396	玉村町No.396遺跡					○			平成2年度試掘		
215	玉村0572	玉村町No.572遺跡					○			平成10年度試掘	水田(試掘No.563)	
216	玉村0423	玉村町No.423遺跡			○	○	○					
217	玉村665	上之手東遺跡	○					○	○	平成14年発掘	溝、土坑、ピット、櫛列、堅穴状遺構、水田、風倒木痕	上之手東遺跡(2004)
218	玉村0620	玉村町No.620遺跡				○	○		○	平成14年試掘	水田・畠(試掘No.638)	
219	玉村0401	玉村町No.401遺跡					○			平成2年度試掘		
220	玉村0400	玉村町No.400遺跡					○	○		平成2年度試掘		
221	玉村0399	玉村町No.399遺跡					○	○		平成2年度試掘		
222	玉村383	曲田Ⅱ遺跡					○	○		平成2年発掘	水田	曲田Ⅱ遺跡(1999)
223	玉村0398	玉村町No.398遺跡				○	○			平成2年度試掘		
224	玉村0221	玉村町No.221遺跡					○	○				
225	玉村382	曲田遺跡						○		平成2年発掘	掘立柱建物・溝・井戸	曲田遺跡(1999)
226	玉村0397	玉村町No.397遺跡					○			平成2年度試掘		
227	玉村0508	角洲丹土遺跡					○			平成4年度調査		

域では水田としての土地利用が考慮される。尚、宮下屋敷(135)、観照寺屋敷(139)等の屋敷遺構が散見される。また、15~16世紀に利根川が変流し現在の流路となっている。

近世には国道354号線の位置に日光例幣使街道が敷設され、滝川用水(116)がその南に並走するように設置される。日光例幣使街道沿いには玉村宿が

整備される。その周辺は中世と同様の土地利用がなされているが、天明3年(1783年)の浅間山の噴火(浅間焼け)によって本遺跡付近では軽石の降下による被害があり、福島飯塚遺跡(109)や上之手八王子Ⅱ遺跡(180)等で復旧溝が確認されている他、利根川沿いで泥流被害があった。第4図の範囲の近世の遺跡は72遺跡を数える。

I 発掘調査と遺跡の概要

(3) 発掘調査の方法

① 地区・グリッドの設定

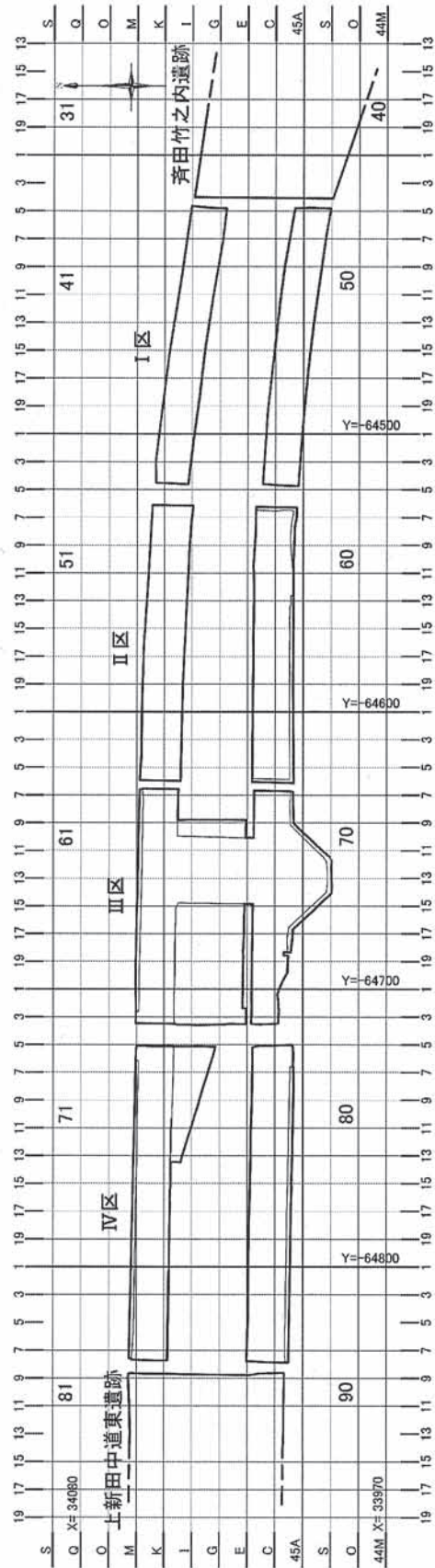
本遺跡を含む国道354号線高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財の発掘調査事業に於いては、国家座標（日本測地系第IV系） $X=30,000$ 、 $Y=-60,000$ を南東隅とする10km四方の区画を設定した。これは玉村町全域の網羅を前提として機械的に設定したものであり、調査区域はその極一部を占めるに過ぎない。尚、この10km四方区画を「地区」と称することとしている。

次にこの地区を1km四方に分割して「区」（大グリッド）を設定した。区の呼称は南東隅を「1」とし、順次北に向かって2～10を付し、直近の西側列に移って南から11～20、更に第3列で21～30と順次100までの番号を付した。尤も上述のように該当する区画は部分的なものであり、本遺跡に於いては、凡そ後述する調査区のI区のうち南側調査区南東部と調査区III区南部が44区、他が45区に該当している。

この区を更に100m四方の区画に分割して「中グリッド」を設定した。中グリッドの呼称はやはり南東隅を「1」とし、上述の「区」と同様の番号の付け方で1～100のグリッド番号を付した。尚、区も実際に路線が通過する区域は部分的であるが、本遺跡では44区では49・50・61・69・70・80・90中グリッド、45区では41・51・61・71・81グリッドが該当している。

更に、この中グリッドを5m四方に分割して「小グリッド」を設定した。小グリッドは南東隅を基準として北方向にアラビア数字、西方向にアルファベットを付して、A1～S19までのグリッド呼称を設定している。

尚、以下グリッド表記は地区・区の標記は省略し「中グリッド・小グリッド」の順に連続して表記して、小グリッドのアルファベットとアラビア数字の間には「-」を入れ、「61B-8」と表記する。



第5図 齊田中耕地遺跡地区・グリッド設定図

② 調査区の設定

本遺跡では便宜上、区やグリッドとは別に調査区を設定している。これは調査区を南北走行の道・水路が区切っているため、調査の進捗を円滑にするため、この道・水路で区切られた範囲を一単位として設定したものである。上記の道・水路は昭和40年頃の圃場整備に伴って敷設されているもので、凡そ100mの方眼に敷設されているが、本遺跡では当該道・水路によって4地域に区分されている。区の呼称は東側からローマ数字を用いて「Ⅰ区」、「Ⅱ区」、「Ⅲ区」、「Ⅳ区」と付した。これは国道354号線高崎玉村バイパスの基点（西）・終点（東）の方向とは逆向きであるが、前述のグリッド設定に準拠したために東側から付したものである。

### ③ 発掘調査の方法

表土掘削、或いは下位面への掘削のうち層厚の厚い物に対しては効率化のため土木機械を使用した。また各遺構の掘削は、人力で行うことを原則としたが、一部大型遺構の掘削に当たっては調査期間の短縮のため土木機械の併用も行った。

本遺跡ではⅠ区で3面、Ⅱ区で2面、Ⅲ区では5～6面、Ⅳ区では4面の調査面が設定され、これによって発掘調査を実施している。

各面では遺構確認を行って遺構を掘削し、或いは鍵層となる火山テフラの除去による遺構面の表出を行っている。また遺構の半裁、ベルトの設定或いは湧水対策用の溝掘削を以て土層観察を行っている。

掘削した遺構は記録保存の資料とするため、適宜平・断面図の測量、或いは35mmフィルムとブローニー版によるモノクロ写真撮影、35mmフィルムを用いたカラー写真撮影、及び空中写真撮影を実施している。

また出土遺物は位置等の記録、或いは一部写真撮影を行って適宜取り上げた。

### (4) 発掘調査の経過

本遺跡では平成14～16年度の3箇年に亘って発掘調査を実施した。その調査経過の概要は以下の記載

し、表2に示すこととする。

尚、記載に現れる調査面数は、各区に於ける発掘調査時の確認面順位であり、2章に報告する8面の区分には必ずしも一致していない。

#### 平成14年

- 10月2日 平成14年度下半期国道354号線関連事業再開。
- 17日 調査区設定（Ⅰ区南側）。
- 21日 Ⅰ区表土掘削開始。
- 25日 Ⅰ区1面調査開始。
- 30日 Ⅱ区表土掘削開始
- 12月25日 Ⅰ区1面調査完了。平成14年度調査終了。

#### 平成15年

- 7月18日 近隣挨拶。調査準備開始。
- 8月18日 Ⅰ区2面調査開始。
- 21日 Ⅱ区湧水対策工事開始。
- 25日 Ⅱ区1面調査開始。
- 17日 Ⅰ区2面空中写真撮影。
- 10月2日 Ⅰ区3面調査開始。
- 20日 Ⅰ区3面、Ⅱ区1面空中写真撮影。
- 23日 Ⅰ区Ⅵ層下試掘調査。（～27日）
- 24日 Ⅱ区2面調査開始。
- 11月5日 Ⅰ区埋め戻し開始。
- 10日 Ⅲ区湧水対策溝掘削開始。
- 12日 Ⅱ区2面空中写真撮影。
- 13日 Ⅲ区1面調査開始。
- 17日 Ⅱ区Ⅳ層下試掘開始。
- 18日 Ⅱ区3面調査開始。
- 12月3日 Ⅱ区3面、Ⅲ区1面空中写真撮影。
- 4日 Ⅱ区Ⅵ層上面まで試掘。（～5日）
- Ⅲ区2面調査開始。
- 13日 Ⅲ区2面空中写真撮影。
- 24日 Ⅱ区埋め戻し作業開始。

#### 平成16年

- 1月6日 Ⅲ区3面調査開始。
- 8日 Ⅳ区湧水対策溝掘削開始。



I 発掘調査と遺跡の概要

表2 調査経過表

地 区	作業	平成14年			平成15年						平成16年				平成17年				
		10月	11月	12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	11月	12月	1月	2月	3月
I 区	事前作業	■			■	■	■				■				■				
	撤収作業			■															■
I 区	上層掘削	(1面) ■				(2面) ■	(3面) ■												
	遺構確認	■	■			■	■	■	■										
	遺構掘削	■	■	■		■	■	■	■	■									
	記録	■	■	■		■	■	■	■	■									
	試掘									■									
	埋め戻し									■									
II 区	上層掘削	■				(1面) ■		(2面) ■											
	遺構確認					■	■	■	■										
	遺構掘削					■	■	■	■	■									
	記録					■	■	■	■	■			■						
	試掘									■	■								
	埋め戻し									■	■				(1面) ■	(2面) ■			
III 区	上層掘削							(1面) ■	(2面) ■	(3面) ■	(4面) ■	(5面) ■	(6面) ■		(1面) ■	(2面) ■	(4面) ■	(5面) ■	
	遺構確認							■	■	■	■	■	■	■	■	■	(3面) ■	■	
	遺構掘削							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	記録							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	試掘																		
	埋め戻し																	■	
IV 区	上層掘削									(1面) ■	(2面) ■	(3面) ■	(4面) ■		(1面) ■	(2面) ■	(3面) ■	(4面) ■	
	遺構確認									■	■	■	■	■	■	■	(1面) ■	(3面) ■	
	遺構掘削									■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	記録									■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	試掘														(2面) ■				
	埋め戻し																	■	

- |       |                     |       |                    |
|-------|---------------------|-------|--------------------|
| 15日   | IV区1面調査開始。          | 12月3日 | III・IV区1面空中写真撮影。   |
| 26日   | III区3面調査完了。         | 6日    | III・IV区2面調査開始。     |
| 28日   | IV区1面空中写真撮影。        | 13日   | III・IV区2面4面空中写真撮影。 |
| 2月5日  | IV区2面調査開始。          | 14日   | III区3面調査開始。        |
| 17日   | III区3面、IV区2面空中写真撮影。 | 平成17年 |                    |
| 18日   | IV区3面調査開始。          | 1月12日 | IV区3面調査開始。         |
| 19日   | III区4面調査開始          | 21日   | III・IV区3面空中写真撮影。   |
| 3月3日  | III区4面空中写真撮影。       | 24日   | III区4面調査開始。        |
| 5日    | III区5面調査開始。         | 31日   | IV区4面調査開始。         |
| 9日    | IV区3面空中写真撮影。        | 2月15日 | III・IV区4面空中写真撮影。   |
| 10日   | IV区4面調査開始。          | 17日   | III・IV区5面調査開始。     |
| 17日   | III区5面空中写真撮影。       | 3月2日  | III・IV区5面空中写真撮影。   |
| 18日   | III区6面調査開始。         | 7日    | IV区埋め戻し開始。         |
| 25日   | III区6面、IV区4面空中写真撮影。 | 8日    | III区埋め戻し開始。        |
| 26日   | III区埋め戻し開始。(～30日)   | 13日   | IV区埋め戻し完了。         |
| 11月1日 | 調査再開                | 16日   | III区埋め戻し完了。        |
| 2日    | III区湧水対策工事開始。       | 24日   | 発掘調査事務所撤去。         |
| 10日   | III区1面調査開始。         | 31日   | 齊田中耕地遺跡発掘調査完了。     |
| 25日   | IV区1面調査開始。          |       |                    |

## (5) 標準土層

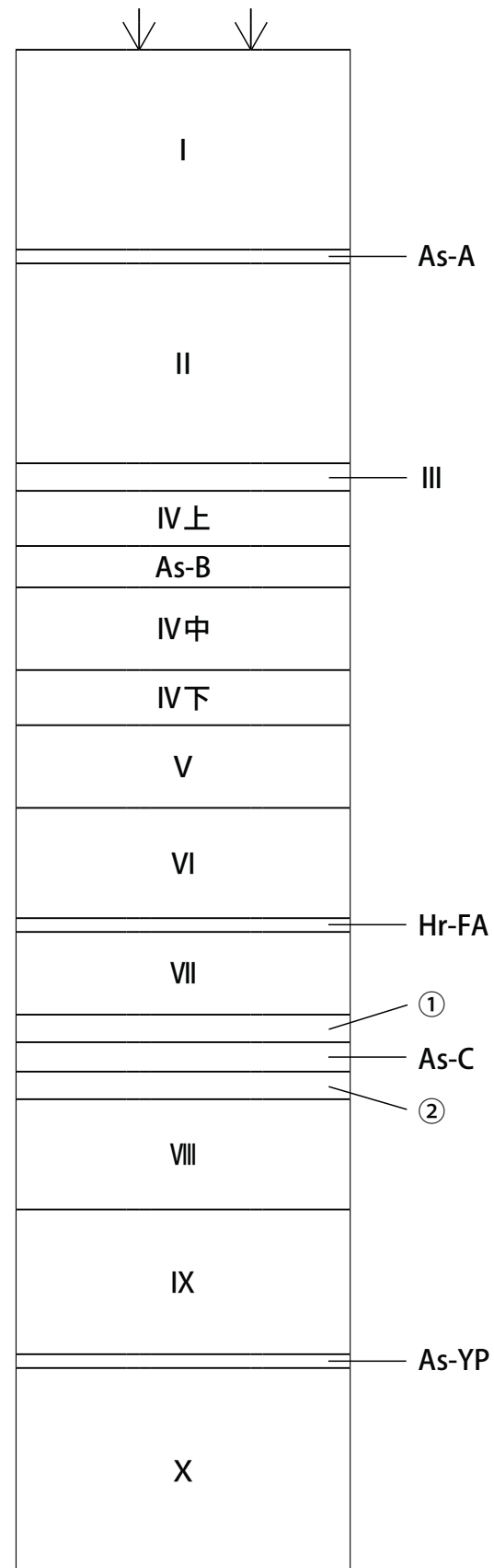
本遺跡では19層の標準土層が設定されている。しかし火山噴出物を除く各層は更に分層され、土層断面図の記載では54層が数えられた。しかし遺跡全体としてその記載を比較すると、例えばIV A層は5種類あるなど、同一名称で重複するものが多々見られ、また限定された地域でしか確認できない土層も散見された。発掘調査段階でもこれらをまとめた基本層序が示されていたが、整理作業を行って行く中で猶充分ではないと判断されたため、本報告書執筆に際し、改めて見直しを行い、下記の20層を標準土層として示すこととした。

## 【標準土層】

- I：灰褐色土：水田耕土。  
 As-A：天明3年（1783）浅間山噴出。  
 II：灰黄褐色土：洪水層。黒褐色土含む。  
 III：灰色～黄褐色シルト：洪水層。  
 IV上層：黒褐色砂質土：As-Bが混じる。  
 As-B：天仁元年（1108）浅間山噴出。  
 IV中層：黒色粘質土：As-B下水田耕作土。  
 IV下層：灰色系シルト：洪水層。  
 V：灰黄褐色軽石土：水田耕土及び床土。As-B攪拌層。  
 VI：灰黄褐色粘質土（10YR4/2、固く締る）または黒色系粘質土  
 VII：にぶい黄橙色粘質土（10YR6/3）：白色系に近い色調を呈す。  
 VIII：灰白色砂質土（10YR7/1）：やや淡いピンク色を呈す。  
 IX：灰色～灰黄色粘質土  
 As-YP：X VIII：灰桃色砂礫。B.C.13,000から14,500年  
 X：灰色～緑色砂礫：前橋泥流か。

尚、本報告書では各遺構を8面の遺構面に分類して報告するが、各面は以下のように基本土層に対応する。

- 1面：II層上面（As-A層下）  
 2面：III層上面



第6図 齊田中耕地遺跡基本土層柱状図

## I 発掘調査と遺跡の概要

3面：Ⅳ層上面（As-B層下）

4面：Ⅳ層中

5面：Ⅴ層上面

6面：Ⅶ上面（Hr-FA層下）

7面：Ⅶ層中

8面：Ⅷ層上面

尚、前述のように実際の調査面は区によって異同があり、上記の複数面が一つの調査面で確認、調査されるケースも少なくなかったため、本報告書に記す遺構面と実際の調査面（遺構確認面）とは乖離するケースも少なくなかった。

## II 発掘調査の記録

### 1 第8面の調査

#### (1) 概要

8面は6・7面の遺構の下に発見、調査された4・5世紀以前の遺構面である。また6・7面に調査された遺構のうち明らかに古い段階のものは本面に含めて報告する。

8面の遺構はI・Ⅲ・Ⅳ面で確認されたが、溝29条（I区4条、Ⅲ区22条、Ⅳ区3条）、河道9条（Ⅲ区5条、Ⅳ区4条）、土坑4基（I区3基、Ⅲ区1基）、畠2面（I区）、風倒木痕84基（I区6基、Ⅱ区2基、Ⅳ区76基）が確認されている。

#### (2) I区21号溝（第8図、PL2）

**概要** I区21号溝はI区北側調査区の西部に位置している。南側が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった、

本溝と他遺構との重複は見られなかったが、北部と南部の突出部は他遺構の可能性を有する。

尚、本溝の掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は古墳時代中期以前の所産と認識されるだけで、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ945cm 幅34cm 深さ11cm

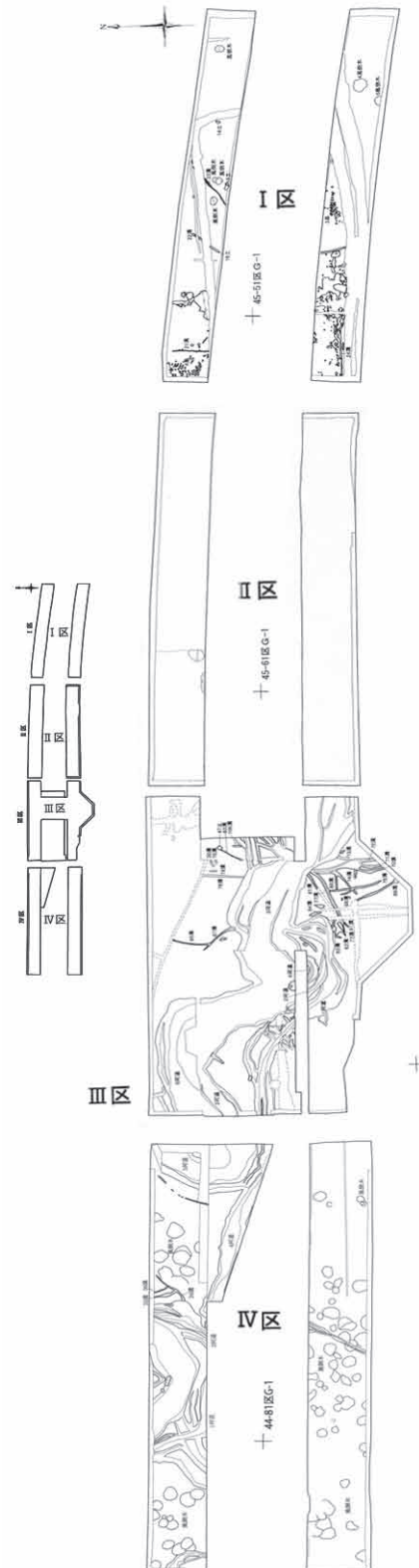
**構造** 本溝は全体に弱い蛇行を見せるが、全体的な走行はN-E1°を向く。また本溝に伴うか否かは特定できないが、北寄りではE-N27°方向に27cm、南部でS-E36°方向に36cmの短い突出部が付く。

掘削形態は箱堀状を呈する。

#### (3) I区22号溝（第8図、PL2）

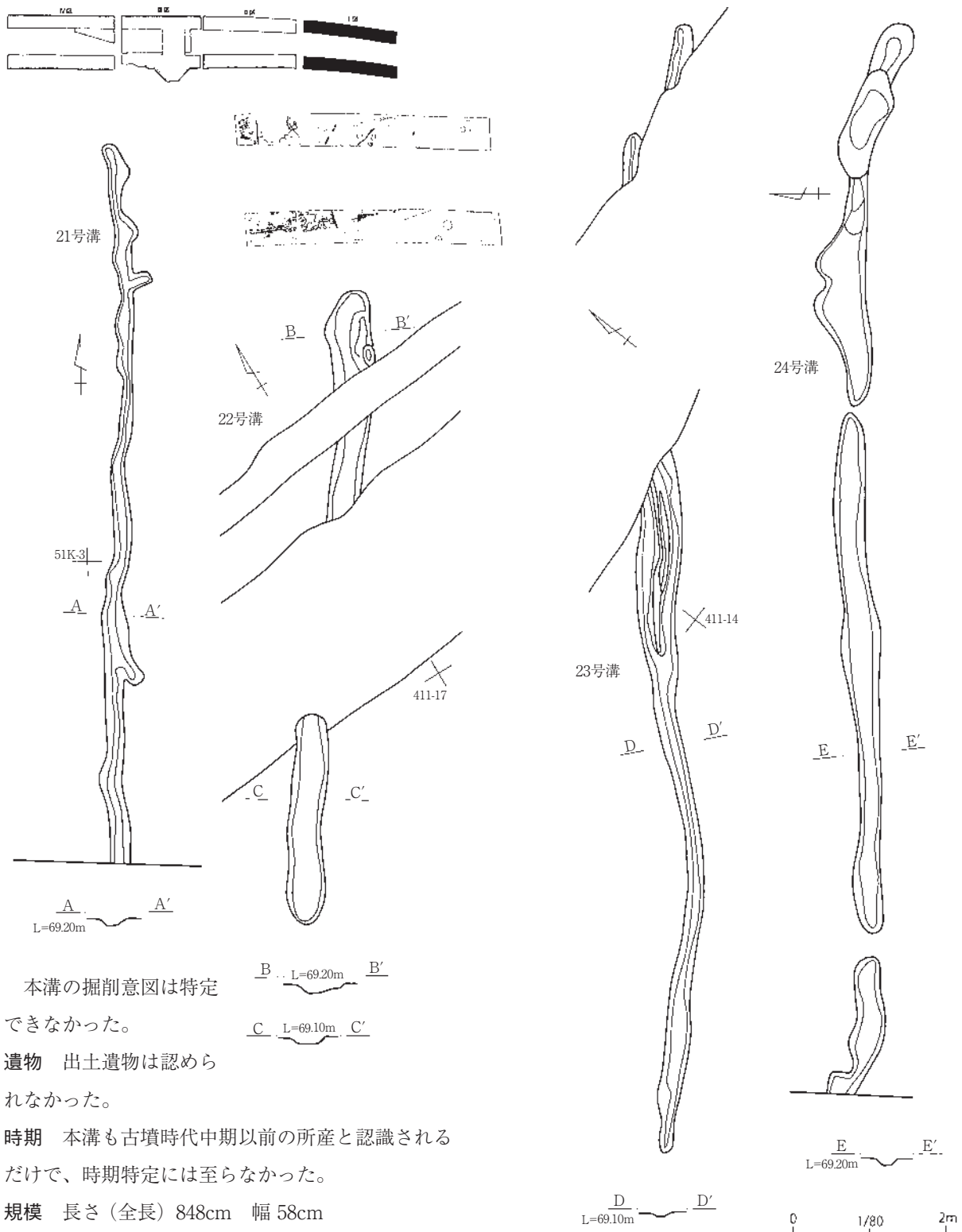
**概要** 本溝はI区北側調査区の中中部西寄りに位置する。途中3面の15号溝に切られて南北に分割し、東西に若干のズレが生じている。

本溝は南端でI区16号土坑と重複するが、新旧関係は特定できなかった。



第7図 8面全体図 (S=1/2000)

II 調査の記録



本溝の掘削意図は特定  
できなかった。

遺物 出土遺物は認めら  
れなかった。

時期 本溝も古墳時代中期以前の所産と認識される  
だけで、時期特定には至らなかった。

規模 長さ(全長) 848cm 幅 58cm

深さ 13cm

構造 既に述べたように本溝は南北に分割している  
のであるが、北側はN-E35° 方向、南側はN-E34°  
方向に軸線を持っていて、その走行は共に弱い蛇行  
を見せている。また上述のように南側の溝のライン

第8図 I区21~24号溝

は北側のそれに対して西にズレているが、その幅は  
30cm程を測る。

掘削形態は箱堀状を呈するものである。

(2) I区23号溝 (第8図、PL2)

**概要** I区23号溝はI区北側調査区の中部に位置する。北側が3面の15号溝に切られているが、その北側では確認できていない。

本溝は同一面での他の遺構との重複関係は見られなかった。

また本溝の掘削意図も特定できなかった。

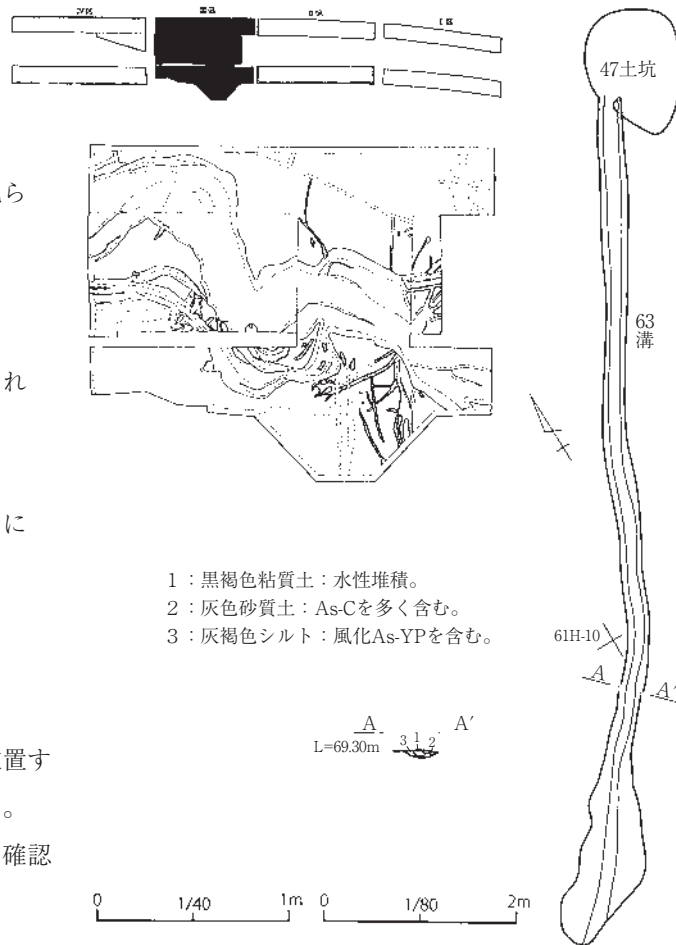
**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝も古墳時代中期以前の所産と認められるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 1,496cm 幅 60cm 深さ 6cm

**構造** 本溝は北からE-N40°、N-E43°、E-N30°に走行を転ずる、蛇行するプランを呈する。

掘削形態は薬研堀気味の箱堀状を呈する。



第9図 III区63号溝

(5) I区24号溝 (第8図、PL2)

**概要** I区24号溝はI区南側調査区の西部に位置する。西側は調査区外に在って確認できなかった。

本溝は不定形の窪みと重複するが、新旧関係は確認できなかった。

掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時期** 本溝も古墳時代中期以前の所産と認識できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 1,430cm 幅 72cm 深さ 11cm

**構造** 本溝は西側調査区からE-S30°方向に調査区に入り、直ぐに屈曲してE-N4°方向に弱い蛇行を見せながら走行し、一箇所で途切れるが、南部で屈曲してE-S23°方向に直線的に短く走る。またこの東側の屈曲部分からN-W15°方向に82cm程突出する部分がある。

掘削形態は箱堀状を呈する。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝も古墳時代中期以前の所産と認識できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 904cm 幅 68cm 深さ 21cm

**構造** 本溝はN-E28°方向に極緩やかな蛇行を以て走行するが、南部で軸方向をN-E43°方向に転じている。

掘削形態は概ね箱堀状を呈する。

(6) III区63号溝 (第9図)

**概要** III区63号溝はIII区中東部に位置する。

本溝はIII区47号土坑と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

また本溝の掘削意図も特定できなかった。

(7) III区69～72・74・77・78・81～84・

88・89号溝 (第10図、PL3)

**概要** III区69～72・74・77・78・81～84・88・89号溝はIII区南部東寄りに位置する。このうち72・77・81・83・84号溝は北側がIII区3号河道に接して同河道以北では確認されず、69～72号溝は南側が調査区

## II 調査の記録

外に出ていて確認することができなかった。尚、70号溝から西に分流するものは70b号溝と表記し、分流する83号溝のうち南北走行のものを83b号溝、途中から西側に分流するものを83a号溝と表記することとする。

また本溝群のうち70号溝と71・72号溝、71号溝と71b号溝、72号溝と74溝、74号溝と78・88・89号溝、78号溝と79・88・89号溝、77号溝と81号溝、72号溝と83・84号溝。83a号溝と83b号溝がそれぞれ重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

掘削意図は何れの溝についても特定することはできなかった。

**遺物** 72号溝からは土師器片、84号溝からは土師器台付甕(2)の出土が見られたが、他の溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 出土遺物

から84号溝は4世紀の所産の可能性を有するが、何れの溝についても古墳時代中期以前と認識されるだけで時期の特定には至らなかった。

**規模** (69号溝) 長さ 1,180cm 幅 139cm  
深さ 22cm

(70号溝) 長さ 688cm 幅 95cm 深さ 6cm

(70b号溝) 長さ 238cm 幅 72cm 深さ cm

(71号溝) 長さ 565cm 幅 95cm 深さ 21cm

(72号溝) 長さ 1,675cm 幅 111cm 深さ cm

(74号溝) 長さ 870cm 幅 95cm 深さ 11cm

(77号溝) 長さ 1,875cm 幅 90cm 深さ 7cm

(78号溝) 長さ 1,390cm 幅 60cm 深さ 8cm

(81号溝) 長さ 1,770cm 幅 71cm 深さ 7cm

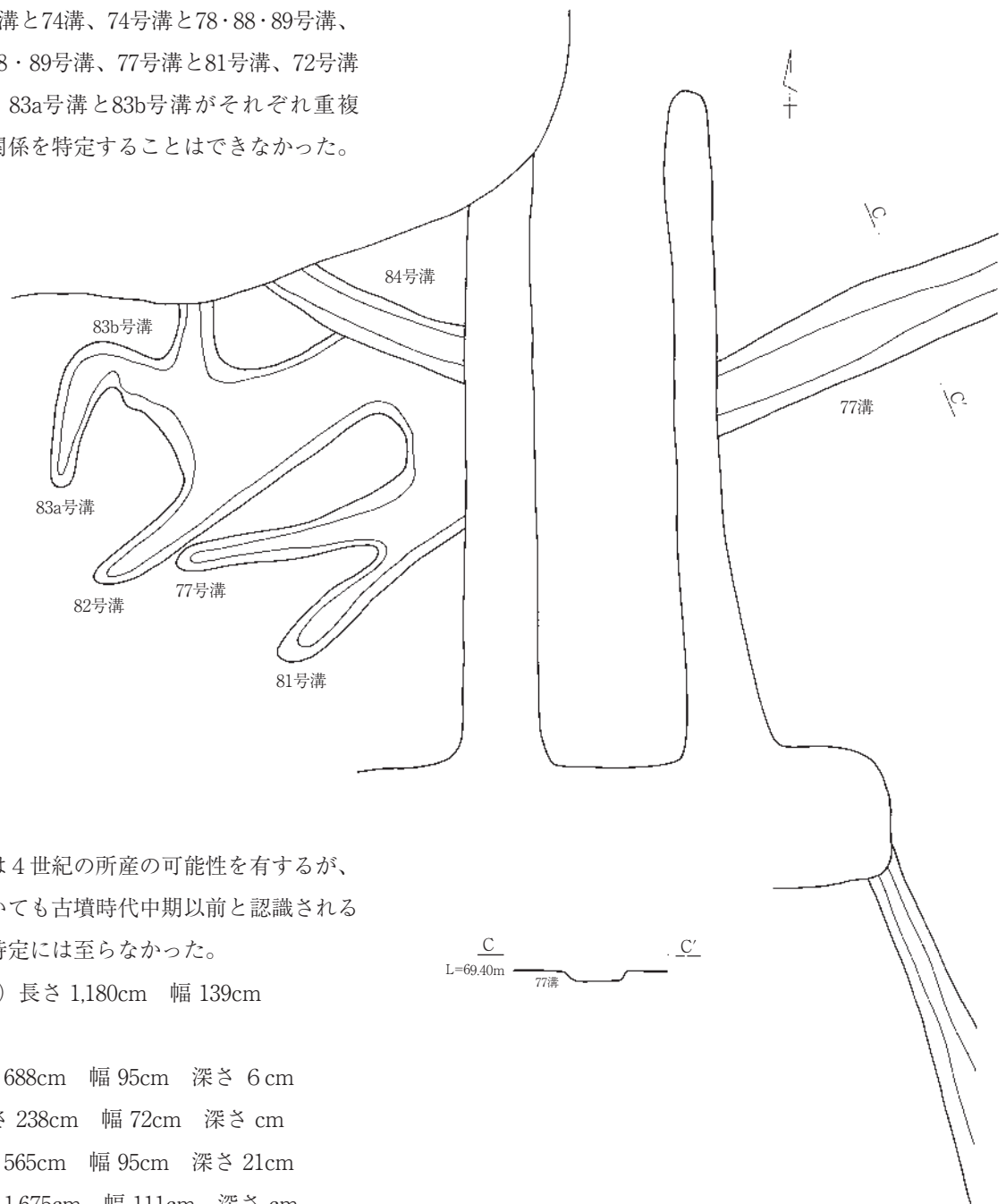
(82号溝) 長さ 435cm 幅 135cm 深さ 17cm

(83a号溝) 長さ 268cm 幅 54cm 深さ 14cm

(83b号溝) 長さ 135cm 幅 55cm 深さ 14cm

(84号溝) 長さ 285cm 幅 55cm 深さ 10cm

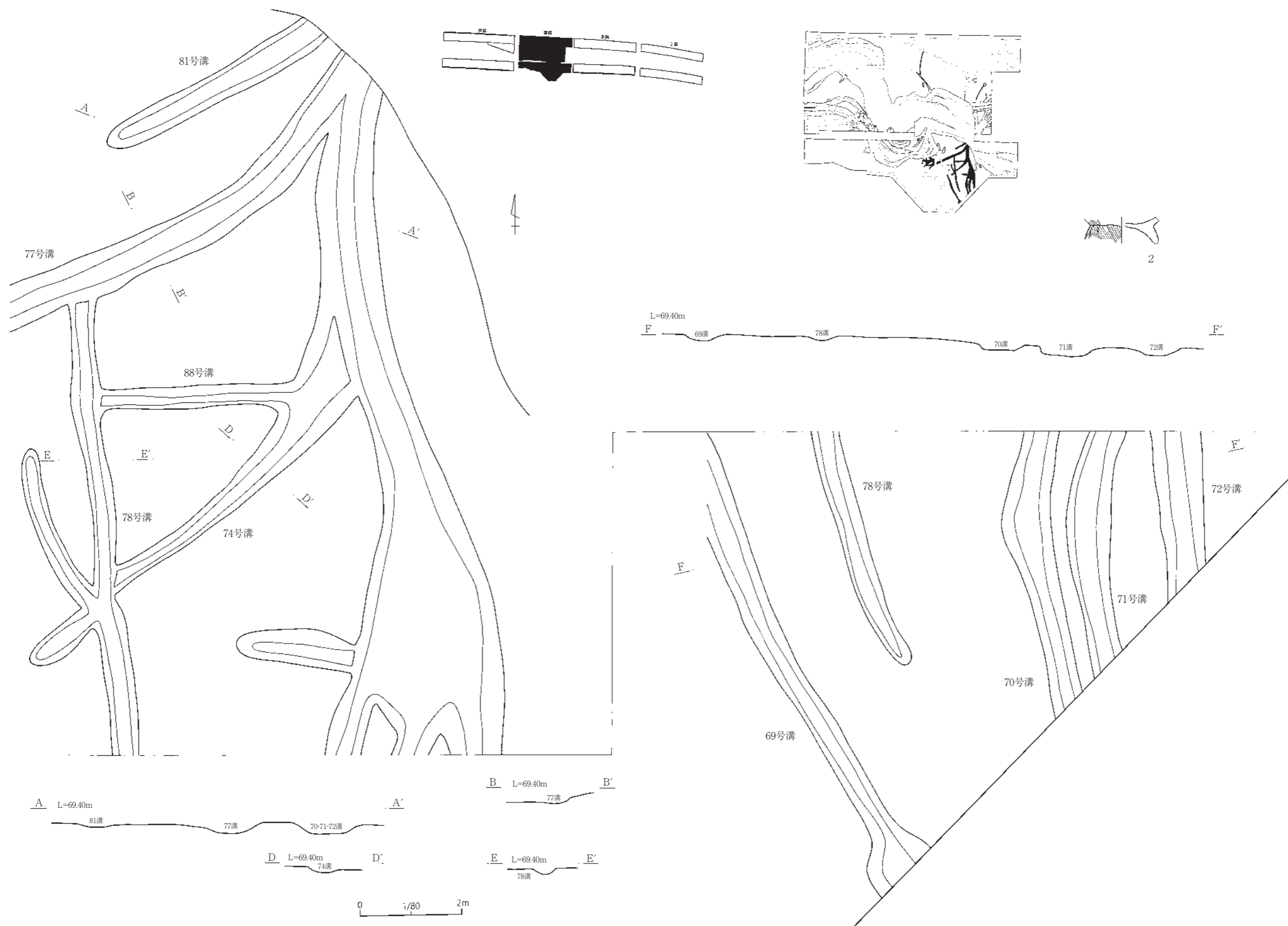
(88号溝) 長さ 685cm 幅 35cm 深さ 3cm



第10図 III区77・81～84号溝

(89号溝) 長さ 365cm 幅 40cm 深さ 11cm

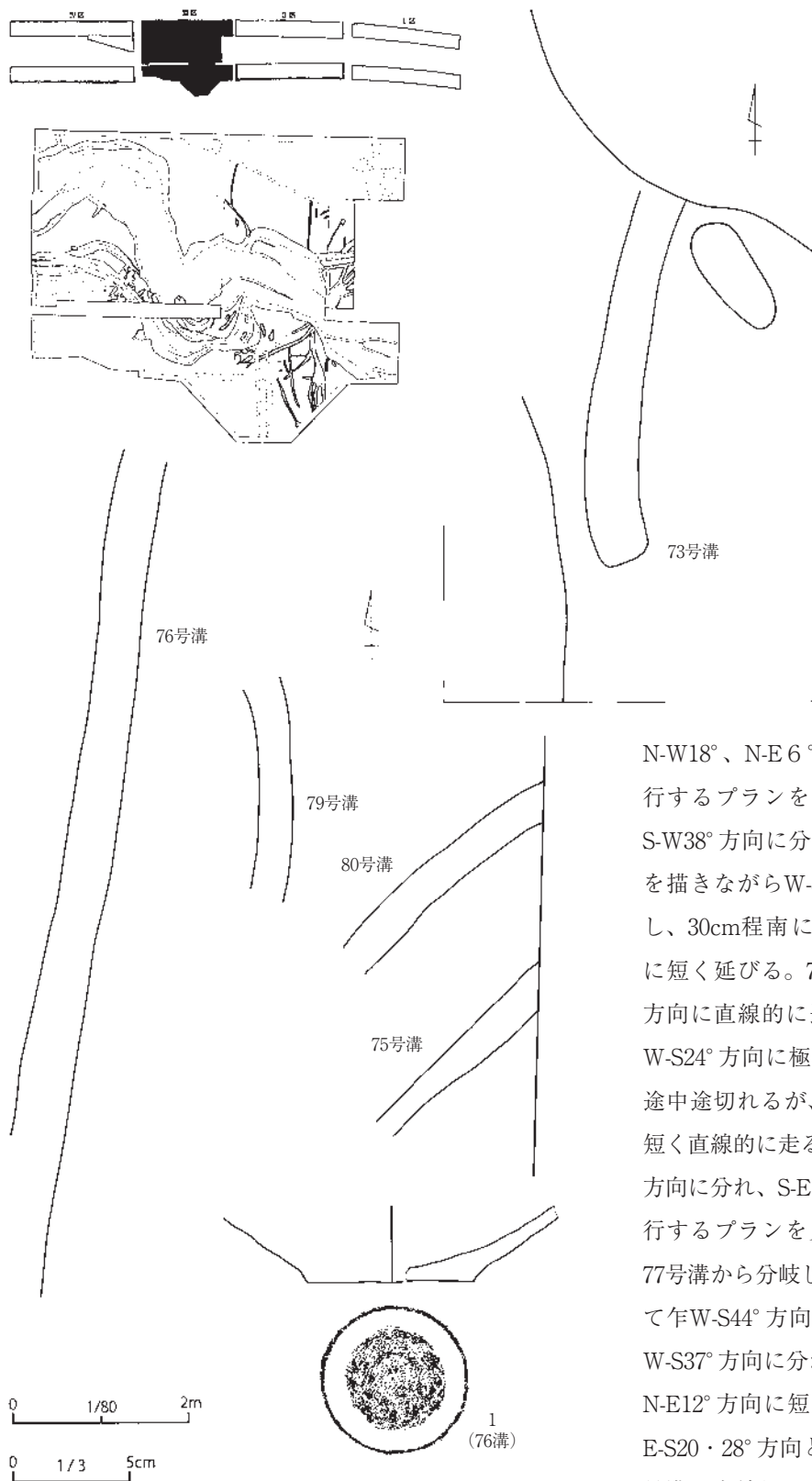
**構造** 69号溝は北側からN-W24°、N-W20°、N-W32°



第10図 III区69~72・74・77・78・88・89号溝



1 第8面の調査



を呈する。70号溝は南からN-W13°方向に調査区に入り、く字状に屈曲してN-E15°方向に転じて72号溝に繋がる。71号溝と40~50cm程隔たって並走し、北部で70b号溝がW-N9°方向に直線的に分岐する。71号溝はN-W13°方向に調査区に入って直線的に走行して72号溝に接続するが、途中時計回りにN-E20°方向に緩やかに走行を変える。72号溝は上述のように南北両側が確認できないが、北からN-E10°、

N-W18°、N-E6°と走行を変える緩やかに蛇行するプランを呈する。74号溝は72号溝からS-W38°方向に分岐して時計回りに緩やかな弧を描きながらW-S29°方向に転じて78号溝と接し、30cm程南にずれてW-S38°方向に直線的に短く延びる。77号溝は3号河道からS-W5°方向に直線的に進み、時計回りに弧を描き乍W-S24°方向に極緩やかな蛇行を見せて走って途中途切れるが、西端でW-S12°方向に転じて短く直線的に走る。78号溝は77号溝からS-E2°方向に分れ、S-E8・15°と転ずる極緩やかに蛇行するプランを見せる。81号溝W-S31°方向に77号溝から分岐し、反時計回りに緩やかに回って乍W-S44°方向に転ず。82号溝は84号溝からW-S37°方向に分れて直線的に走る。83a号溝はN-E12°方向に短く直線的に走り、時計回りにE-S20・28°方向と転じて83b号溝と合流し、82号溝に直線的に到る。83b号溝は3号河道からS-W1°方向に直線的に走り、直ぐにS-E28°方向に転じて83a号溝と合流し、82号溝に直線的に到る。84号溝は3号河道からE-S26°方向に発し、

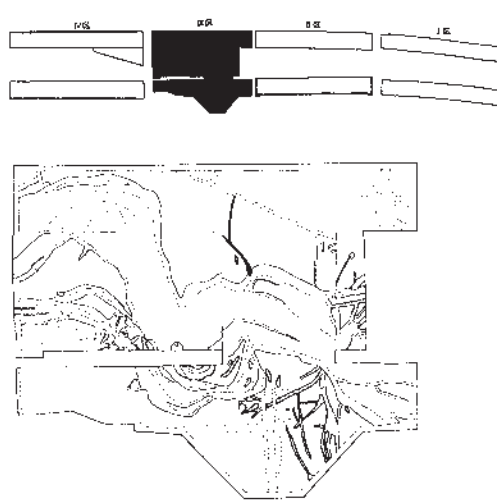
第11図 Ⅲ区73・75・76・79・80号溝と出土遺物

と走行を変える反時計回りの緩やかな弧状のプラン

## II 調査の記録

反時計回りにE-S16°方向に変ずる弧状のプランを呈する。88号溝は74・77溝間に在ってE-S2°方向に直線的なプランを呈している。89号溝は78号溝からS-W42°方向に分岐し、時計回りの弧状のプランを呈して北端でN-W5°を向く。

掘削形態は何れの溝も箱堀状を呈する。



### (8) Ⅲ区73号溝 (第11図)

**概要** Ⅲ区73号溝はⅢ区南東部に位置する。

本溝はⅢ区3号河道と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

また本溝の掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 若干の土師器片の出土が得られた。

**時期** 本溝は古墳時代中期以前の所産と認識できるだけで、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ445cm 幅60cm 深さ - cm

**構造** 本溝は3号河道からS-W15°方向に発して短く直線的に走行し、反時計回りに弧状に走行して南端でS-E7°方向を向く。

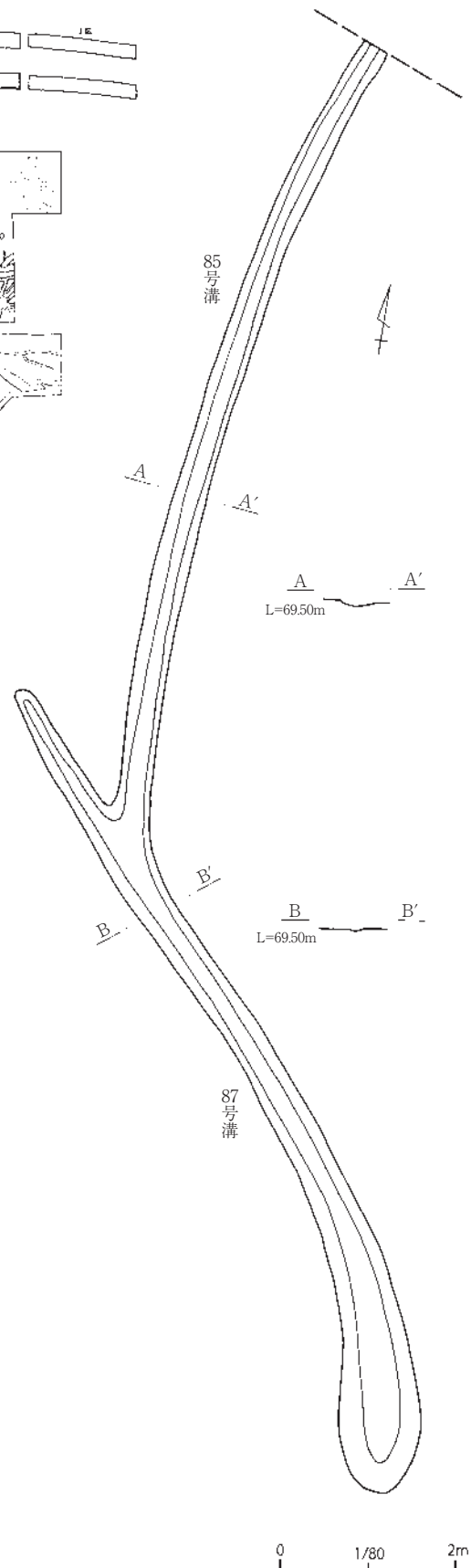
掘削形態は概ね箱堀状を呈する。

### (9) Ⅲ区75・76・79・80号溝 (第11図)

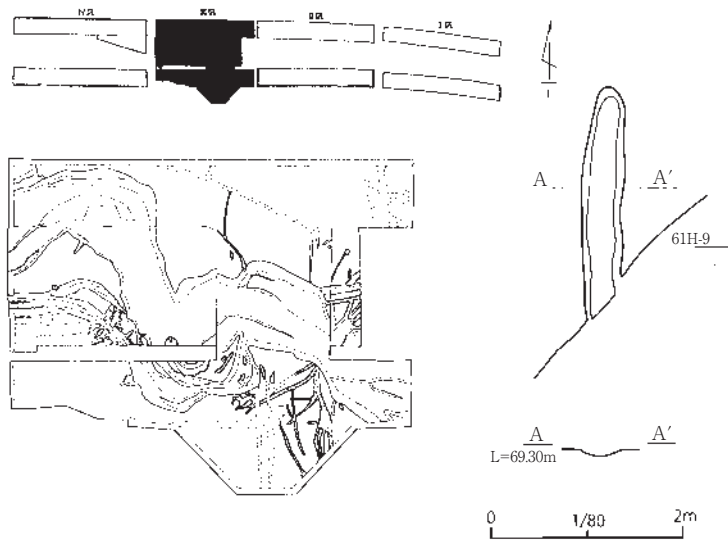
**概要** Ⅲ区75・76・79・80号溝はⅢ区中東部に位置している。このうち75・80号溝は東側が調査区外に出ていたため全容を把握することはできなかった。また76号溝は南側がⅢ区3号河道と接してやはり全容を確認することはできなかった。

上述のように76号溝は3号河道と重複しているが新旧関係は特定できなかった。75・79・80号溝は単独で在った。

また何れの溝についても掘削意図を特定することはできなかった。



第12図 Ⅲ区85・87号溝



第13図 Ⅲ区106号溝

**遺物** 76号溝からは土師器甕(1)、80号溝からは土師器片の出土が見られたが、他の溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 出土遺物から76号溝は4世紀の所産である可能性が考えられるが、何れの溝についても古墳時代中期以前と認識されるだけで時期の特定には至らなかった。

**規模** (75号溝) 長さ 250cm 幅 45cm  
深さ -cm

(76号溝) 長さ 980cm 幅 65cm 深さ -cm

(79号溝) 長さ 350cm 幅 40cm 深さ -cm

(80号溝) 長さ 290cm 幅 45cm 深さ -cm

**構造** 75号溝は北側からE-N42°を向く直線的なプランを呈する。76号溝は僅かに蛇行するもののN-E10°方向に比較的直線的なプランを呈する。79号溝は北端がN-W8°、南端がN-E9°方向を向く東に膨らむ弧状のプランを呈する。80号溝はN-E45度方向に直線的な走行を見せるが、東端近くで走行をE-N33°方向に転ずる。

記録が充分ではなく掘削形態は明瞭ではないが、何れも箱堀状を呈するものと認識される。

(10) Ⅲ区85・87号溝 (第12図、P L 3)

**概要** Ⅲ区85・87号溝はⅢ区中北部に位置する。

両溝は重複しているものの新旧関係は明瞭ではなかったが、位置的に85号溝が87号溝に流入した可能性を有するものである。また87号溝はⅢ区3号河道と重複しているが、新旧を確認することはできなかった。

また85・87号溝共に掘削意図は共に確認できなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時期** 85・87号溝は共に古墳時代中期以前と認識されるだけで時期特定には至らなかった。

**規模** (85号溝) 長さ 955cm

幅 45cm 深さ 16cm

(87号溝) 長さ 1020cm 幅 90cm 深さ 22cm

**構造** 85号溝は87号溝からN-W3°方向に分岐して時計回りに弧状に走行し、北端でN-E20°方向を向く。87号溝はS-E44°方向に直線的に走行しているが、東端部でS-E8°方向に弧を描きながら転じている。

掘削形態は両溝共に遺存状態が悪いため明瞭ではなかったが、共に箱堀状を呈するものと判断されるものである。

(11) Ⅲ区106号溝 (第13図、P L 4)

**概要** Ⅲ区106号溝はⅢ区中部東端に位置するが、南側はⅢ区3号河道の分流と重複して確認できなかった。

本溝は3号河道の分流と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

また本溝の掘削意図も特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

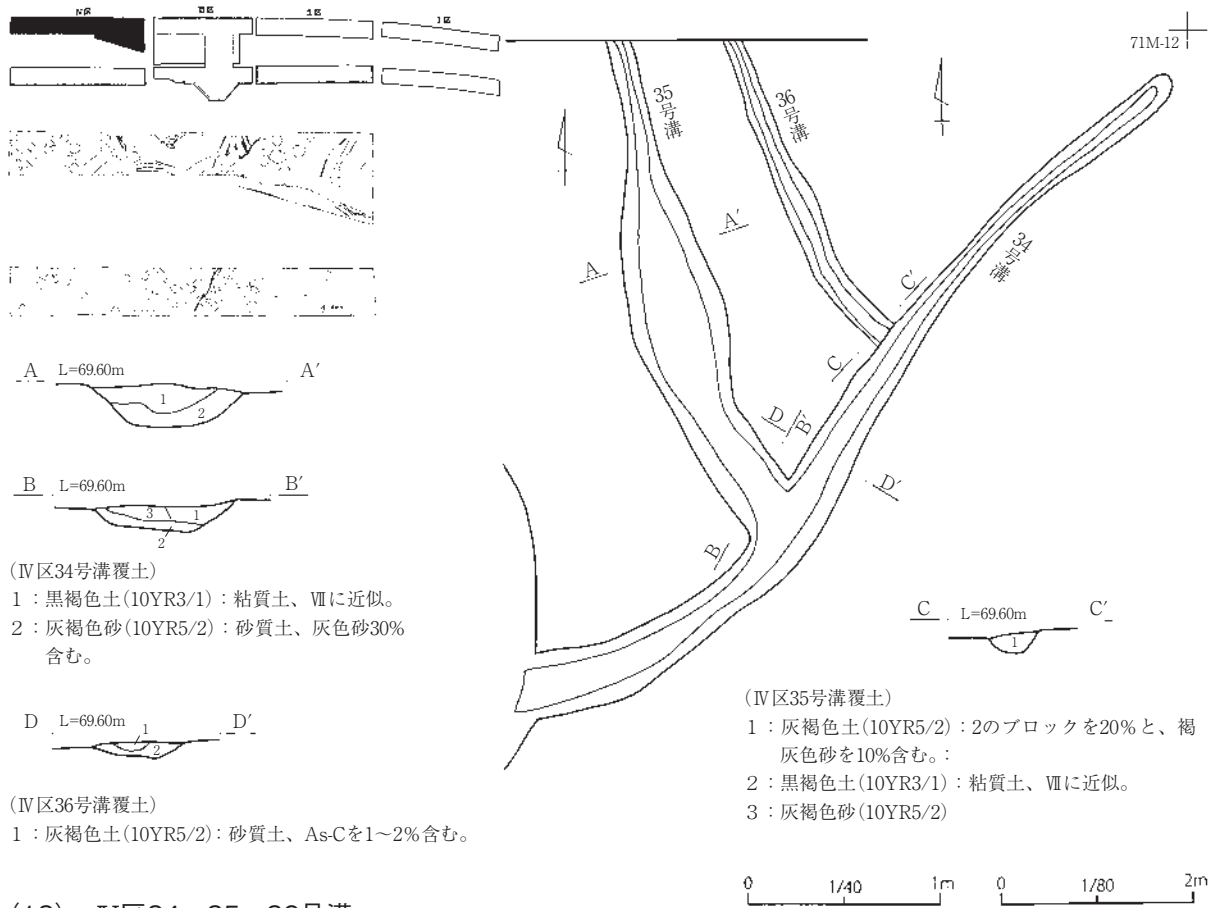
**時期** 本溝は古墳時代中期以前の所産と認識できるだけで、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ 240cm 幅 42cm 深さ 9cm

**構造** 本溝はく字状のプランを呈するが、南側ではN-W4°、北側ではN-E3°方向を向く。

掘削形態は箱堀状を呈する。

II 調査の記録



(13) IV区34・35・36号溝

(第14図、P L 3・4)

**概要** IV区34・35・36号溝はIV区北側調査区の中中部東寄りに位置している。このうち34号溝の西側はIV区2号河道と重複して確認できず、35・36号溝は北側が調査区外に出ていて共に全容を確認することはできなかった。

35・36号溝はそれぞれ34号溝と重複しているが、新旧関係は特定できなかった。しかしその位置関係から推して両溝は同時期の所産と判断される。また34号溝は2号河道と重複していたが、新旧関係を特定することはできなかった。

3条の溝の掘削意図は、共に確認することはできなかった。

**遺物** 35号溝からは僅かな土師器片の出土を見たが、34・36号溝から出土遺物を得ることはできなかった。

**時期** 時期は両溝共に古墳時代中期以前と認識されるだけで特定に至らなかった。

**規模** (34号溝) 長さ 955cm 幅 70cm

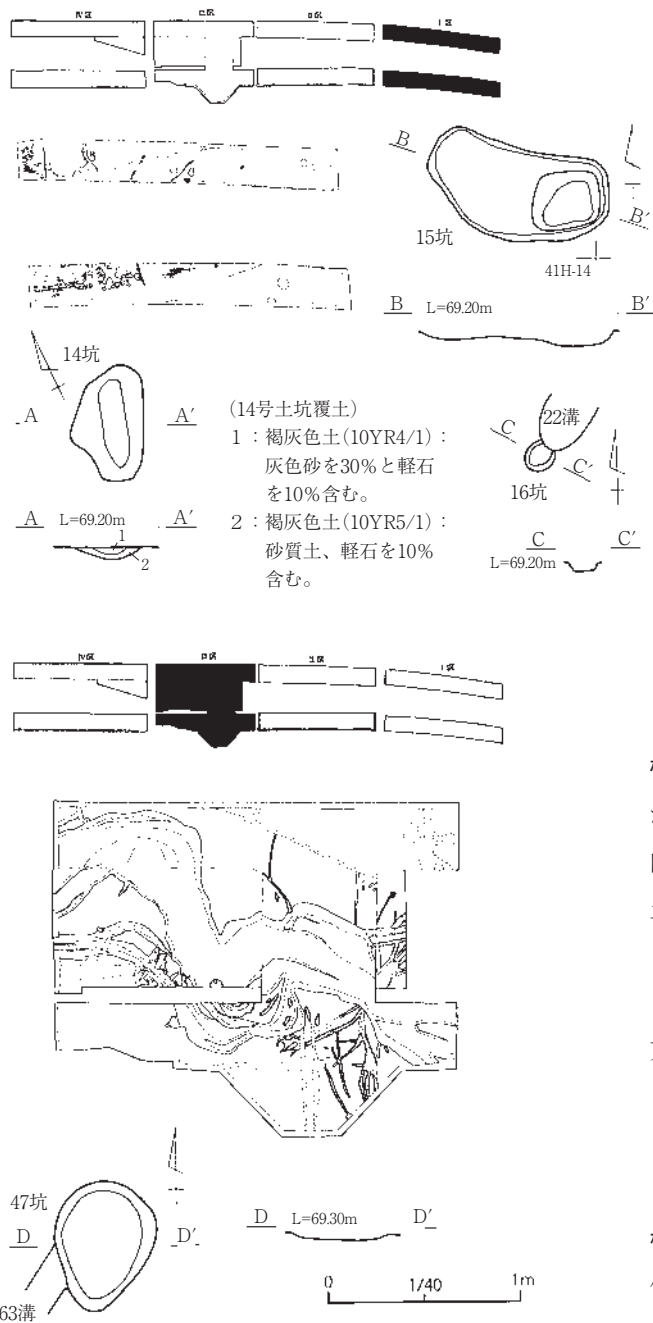
深さ 10cm

(35号溝) 長さ 525cm 幅 103cm 深さ 23cm

(36号溝) 長さ 356cm 幅 37cm 深さ 13cm

**構造** 34号溝は東からE-N38°、E-N44°、E-N14°と走行する方向を変じながら蛇行するプランを呈しているが、西端で2号河道と重複して以西の状態を確認することはできなかった。35号溝は北側からS-E11°方向に調査区に入って直線的に走行しているが、途中幅員を増して、南寄りでS-E34°に走行を変じて逆T字形に34号溝に接続している。また36号溝は北側からS-E22°方向に調査区に入って直線的に走行しているが、南寄りでE-S44°方向に走行を変じて、やはり逆T字形に34号溝に接続している。

掘削形態については何れの溝も箱堀状を呈するものであった。



第15図 8面の土坑群

(14) 8面の土坑群 (第15図、P L7)

**概要** 8面ではI区で14・15・16号土坑、Ⅲ区で47号土坑のあわせて4基の土坑(遺構番号に重複が見られないため、以下区の呼称を略して標記する)を確認、調査した。14・15・16号土坑は何れもI区北側調査区の中部に位置しており、14号土坑が東寄り、15号土坑が中程、16号土坑が西寄りに位置している。また47号土坑はⅢ区中東部に位置する。

このうち16号土坑はI区22号溝、47号土坑はⅢ区63号溝と重複するが、共に新旧関係を特定することができなかった。尚、14・15号土坑は単独で在った。

また何れの土坑も掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 何れの土坑からも遺物の出土は得られなかった。

**時期** 4基の土坑は共に古墳時代中期以前の所産と認識されるのであるが、明確な時期の特定には至らなかった。

**規模** (14号土坑) 径 122×78cm  
深さ 12cm

(15号土坑) 径 197×95cm 深さ 14cm

(16号土坑) 径 (30) ×30cm 深さ 10cm

(47号土坑) 径 134×104cm 深さ 7cm

**構造** 長軸の方向は14号土坑がN-E15°、15号土坑がE0°、16号土坑がE-N30°、47号土坑がN-E7°を向いており、プランは14号土坑が隅丸長方形、15号土坑が杏形、16号土坑が円形、47号土坑が隅丸扇形を呈している。

掘削底面は14号土坑が船底型、15号土坑は平底で東部に隅丸台形プランを以て陥没する箇所がある。また16・47号土坑は平底を呈する。

(15) I区3・4号畠 (第16・17図、P L7)

**概要** I区3号畠はI区南側調査区の中中部北寄りに位置しており、I区4号畠はI区北側調査区西端部に致している。3号畠は北側が、4号畠は南北両側と西側が調査区外に出ていたため、全容を確認することはできなかった。

両畠は共に他の遺構との重複は見られなかった。

また栽培作物等も特定することができなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時期** 3・4号畠は共に古墳時代中期以前の所産と認識されるのであるが、明確な時期の特定には至らなかった。

**規模** (3号畠) 範囲 1,020×405cm

II 調査の記録

サク 表3 (I区3号島サク・掘削坑 一覧)  
参照

(4号島) 範囲 635×1,088cm

サク 表4 (I区4号島サク・掘削坑 一覧)  
参照

構造 3号島は35条のサクで、また4号島は46条のサクで校正されている。共にサクの遺存状態は良好ではなかったため、部分的な観察に止まった。残存範囲に於いて個々のサクは短

い溝状、或いは楕円形、隅丸方形のプランを呈するものが多かった。また軸線の方も各様であるが、3号島に於いては西部ではN-W17°前後、東部ではN-E17°付近を向くものが多く、4号島では全体的にはE-S3°或いはE-S4°前後の方向を向いており、北東部ではE-S19°付近を向く一群も見られた。

一方、サクとサクの間隔は一律ではなかったものの、測定できる範囲にあっては、3号島は

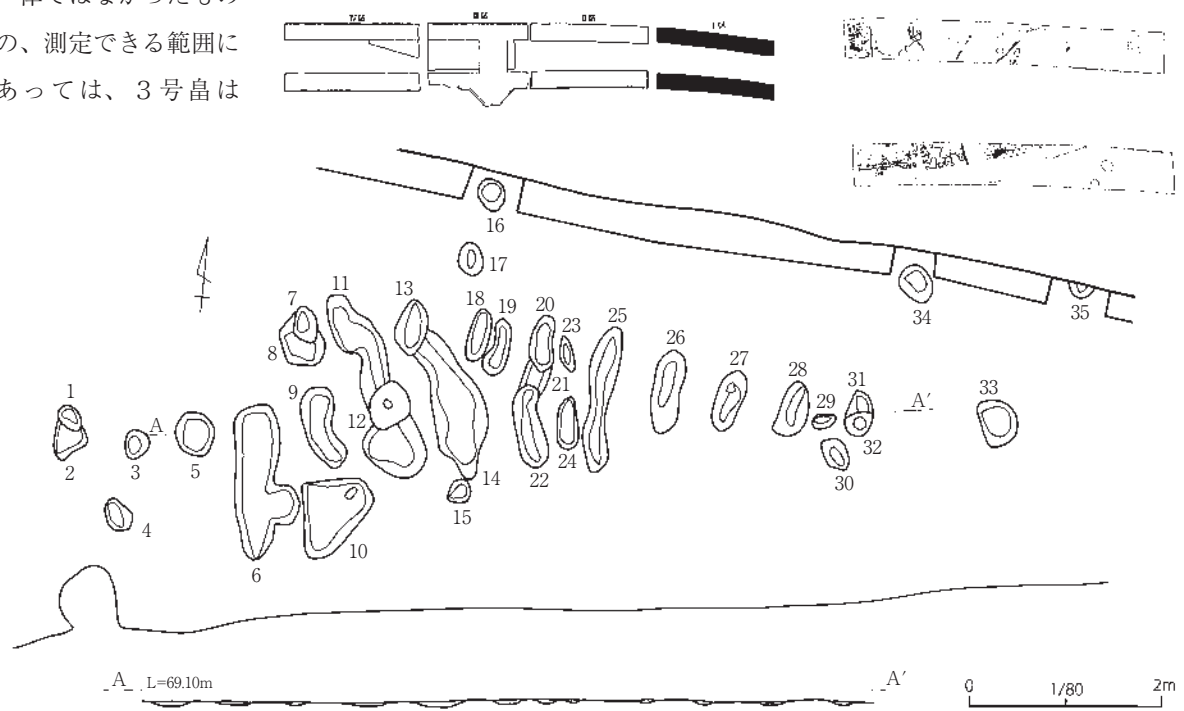
60~80cm、平均で68cmを測り、一方4号島は64~76cm、平均で69cmを測った。

(16) 旧河道 (第18~27図、P L 6・62~67)

概要 8面ではII区西部でII区谷地及びII区埋没河川、III区でIII区1~5号河道。4区北調査区で1~4号河道、IV区河川の旧河道群を調査した。またIII区中東部とIV区北調査区の西部と西端部で遺構名称

表3 I区3号島サク・掘削坑一覧

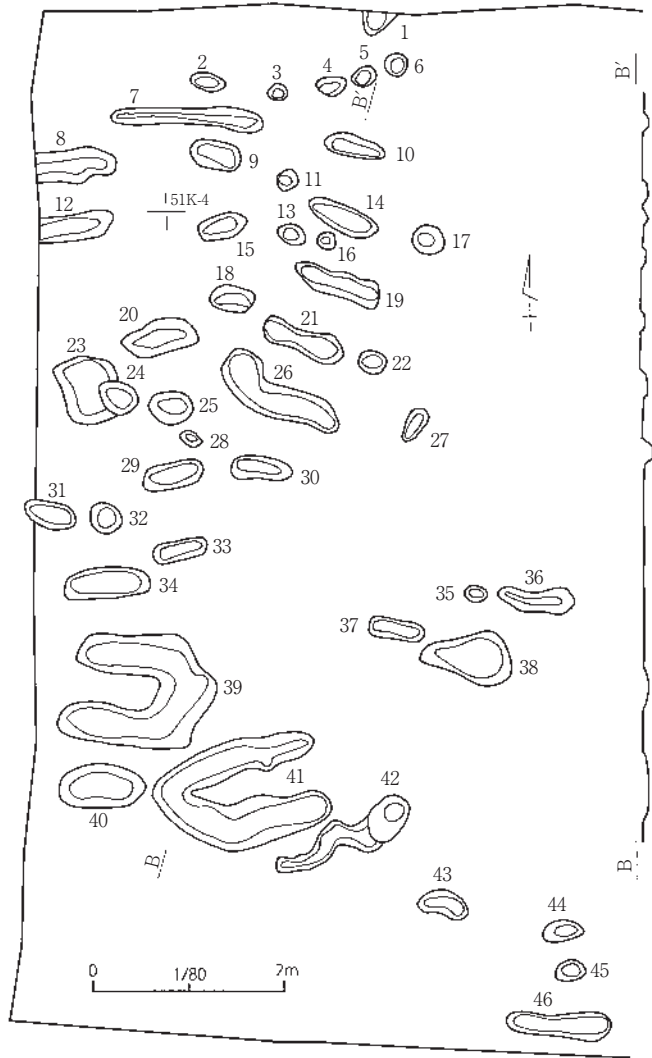
No.	平面形	径(cm)	深(cm)
1	隅丸三角形	28×20	10
2	隅丸三角形	(37)×33	4
3	楕円形	33×27	4
4	隅丸長方形	38×28	6
5	隅丸方形	50×40	4
6	凸部付短冊形	160×68	7
7	楕円形	40×27	10
8	亀甲形	56×46	5
9	瓢箪形	90×37	4
10	隅丸三角形	82×75	5
11	把手形	207×60	8
12	隅丸台形	42×44	5
13	楕円形	58×22	11
14	しゃもじ形	(156)×55	6
15	円形	24×24	2
16	楕円形	32×28	4
17	楕円形	34×26	10
18	長円形	56×20	5
19	瓢箪形	58×24	3
20	瓢箪形	60×25	4
21	く字形	(16)×25	2
22	楕円形	88×32	3
23	三角形	40×16	3
24	滴形	(16)×25	2
25	長瓢箪形	155×30	5
26	瓢箪形	90×30	7
27	楕円形	65×27	5
28	楕円形	58×29	6
29	楕円形	27×15	2
30	楕円形	40×24	5
31	楕円形	(20)×28	4
32	楕円形	30×25	7
33	隅丸長方形	42×30	4
34	隅丸長方形	52×39	4
35	楕円形か	26×(14)	



第16図 I区3号島

の付されていない旧河道と判断される遺構を確認している。このうちⅡ区谷地、Ⅲ区3・5号河道、Ⅳ区3号河道は調査時期の違いから別々の呼称を付されているが同一遺構であり、連続はしていないが、規模から推してⅣ区河川も同一の遺構と判断され、遺構名称に重複がないため以下「3号河道」として報告する。またⅢ区中東部の河道は位置関係からⅡ区埋没河川と同一遺構と判断されることから、以下両者を合わせて「6号河道」として報告し、Ⅳ区北側調査区のうち西部でⅣ区1号河道と直行する河道は「7号河道」、Ⅳ区西端の河道遺構は「8号河道」として報告する。尚、他の河道については区番号を付した従来の遺構番号で報告する。

これらの河道のうちⅢ区1・2・4号河道とⅣ区1・2・4号河道、及び6・7号河道は3号河道と重複し、Ⅲ区2号河道は1・4号河道と重複しており、Ⅳ区1号河道と6号河道は重複していたのであるが、



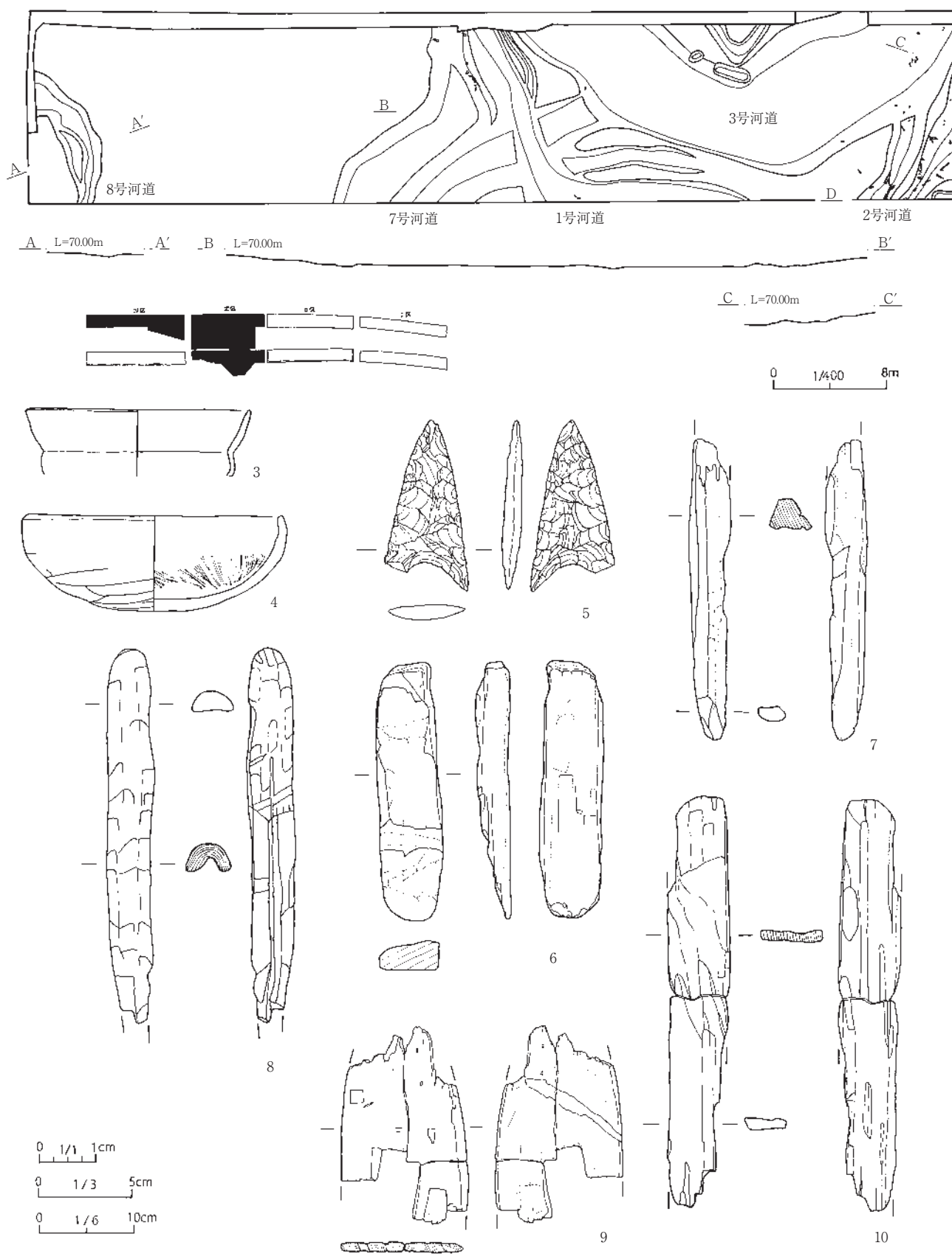
第17図 I区4号畠

表4 I区4号畠サク・掘削坑一覧

No.	平面形	径(cm)	深(cm)
1	楕円形	(20)×37	6
2	楕円形	36×17	3
3	円形	21×17	3
4	隅丸三角形	30×22	4
5	楕円形	23×22	5
6	円形	26×22	6
7	溝形	158×23	8
8	溝形	(85)×37	5
9	隅丸長方形	52×28	9
10	短溝形	64×23	6
11	隅丸方形	22×22	8
12	溝形	(80)×25	6
13	楕円形	50×26	9
14	短溝形	76×28	5
15	楕円形	28×22	4
16	円形	22×20	6
17	円形	32×32	6
18	楕円形	48×26	6
19	短溝形	94×25	4
20	隅丸長方形	77×38	5
21	短溝形(瓢箪)	88×30	6
22	円形	20×26	7
23	隅丸長方形	76×60	6
24	楕円形	40×30	8
25	楕円形	48×33	7
26	短溝形(鉤形)	138×46	5
27	滴形	38×20	8
28	隅丸長方形	20×12	6
29	短溝形	65×25	6
30	短溝形	66×26	8
31	楕円形	54×26	3
32	円形	34×32	8
33	短溝形	58×19	5
34	短溝形	88×32	9
35	楕円形	22×16	5
36	胡瓜形	78×28	9
37	短冊形	60×20	8
38	滴形	100×55	6
39	鋸形	281×60	12
40	楕円形	87×45	13
41	鋸形	345×48	7
42	おたまじゃくし形	152×40	8
43	豆形	52×24	9
44	楕円形	44×23	4
45	楕円形	30×23	12
46	短溝形	112×30	12

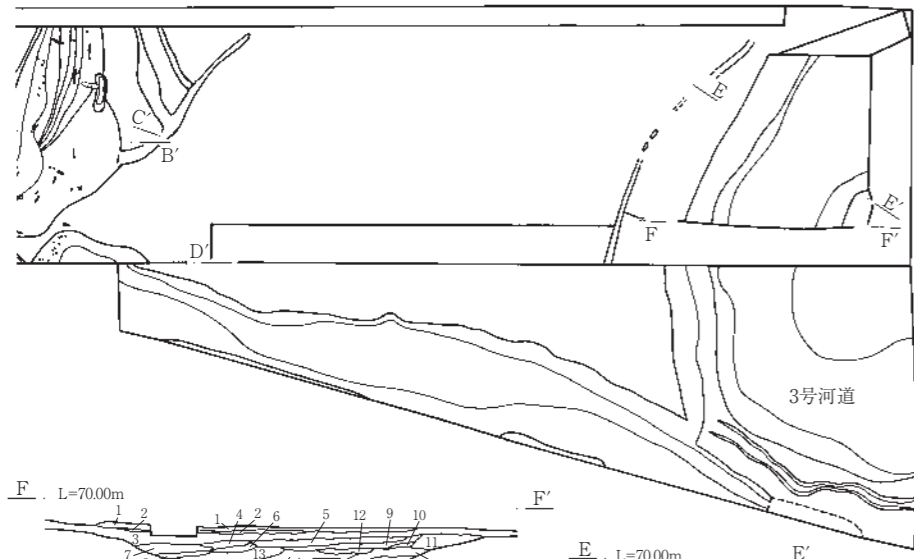
何れについても新旧関係を特定することはできなかつた。また位置的に見てⅢ区1号河道かⅢ区2号河道がⅣ区4号河道に接続するものと認識され、Ⅳ区4号河道はⅣ区1号河道に接続する可能性を有する。  
**遺物** 6～8号河道からの出土遺物は確認できなかったが、1～4号河道からは土師器及

II 調査の記録

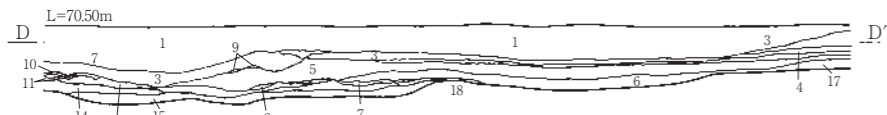


第18図 8面旧河道と出土遺物(その1)

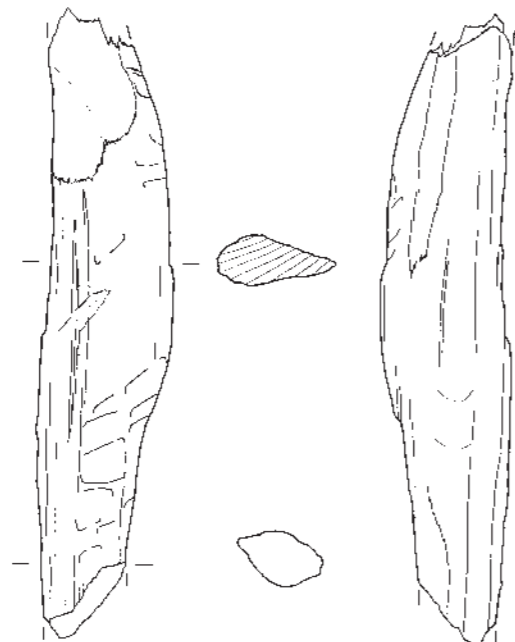




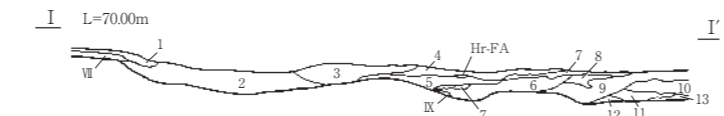
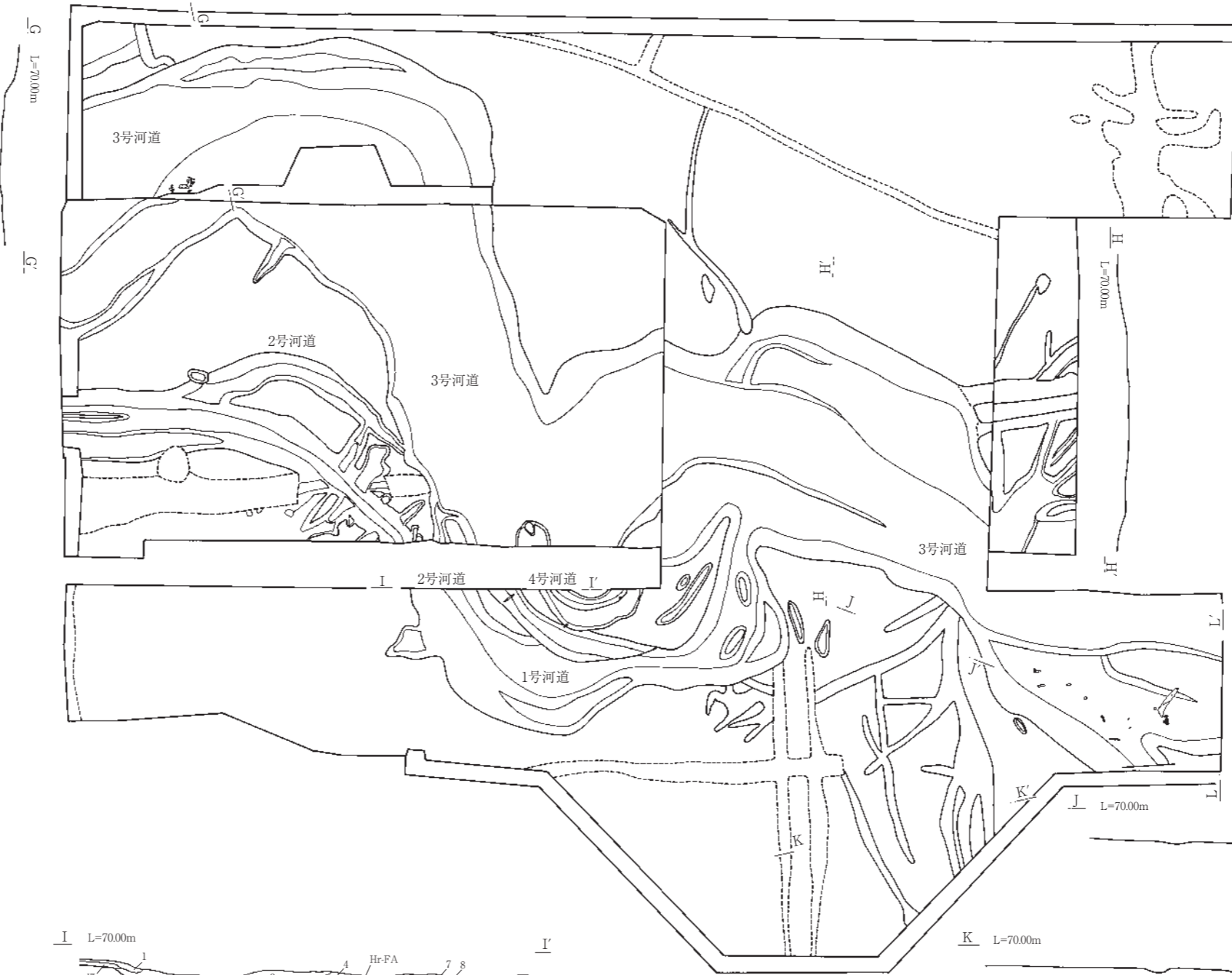
- (標準土層)
- IVB-1: 褐灰色土(10YR5/1): 9 C後半水田耕作土。
  - IVB-2: 褐灰色土(10YR4/1): 含有物みられない。
  - IVB-3: 黒褐色土(10YR3/1): 含有物みられない。
  - VI-1: 黒色土(10YR2/1)含有物みられない。
  - VI-2: 黒褐色土(10YR3/1): As-Cを5%含む。
  - VI-3: 黒色土(10YR1.7/1): 含有物みられない。
- (1号河道・2号河道覆土)
- 1: 褐灰色土(10YR4/1): VIに近い、VIより淡い色調。
  - 2: 褐灰色土(10YR5/1): 1と黒褐色砂の混土。
  - 3: 褐灰色土(10YR5/1): 1に類似、褐色砂を30%含む。
  - 4: 褐灰色砂(10YR1.7/1)
  - 5: 黒褐色土
  - 6:
  - 7: 黒色土(10YR2/1): シルト。
  - 8: 黒褐色土(10YR3/1): 褐灰色砂を10%含む。
  - 9: 黒色土(10YR2/1): シルト。



- (D-D')
- 1・1': 洪水層
  - 2: 洪水層とIV層土(As-B混黒褐色砂質土)の混土
  - 3: 褐灰色土(10YR5/1): 9世紀後半水田耕作土。
  - 4: 褐灰色土(10YR4/1): 含有物見られない。
  - 5: 黒褐色土(10YR3/1): 含有物見られない。
  - 6: 褐灰色土(10YR4/1): VI層に近い。VI層より淡い色調。
  - 7: V層土: 灰黄褐色軽石土(As-B攪拌層)
  - 8: 7層土と17層土の混土
  - 9: 褐灰色砂
  - 10: 黒色土(10YR2/1): 含有物見られない。
  - 11: 黒褐色土(10YR3/1): As-Cを5%含む。
  - 12: 褐灰色土(10YR5/1): 6層土に類似。褐色砂を30%含む。
  - 13: 注記不備
  - 14: 褐灰色土(10YR5/1): 6層土と黒褐色砂の混土。
  - 15: 黒色土(10YR1.7/1): 含有物なし。
  - 16: 褐灰色砂(10YR4/1)
  - 17: VI層土: 固く締る灰黄褐色粘質土(10YR4/2)。
  - 18: IX層土: 黄色風化軽石・酸化凝集斑紋多く含む灰色~灰黄色粘質土。

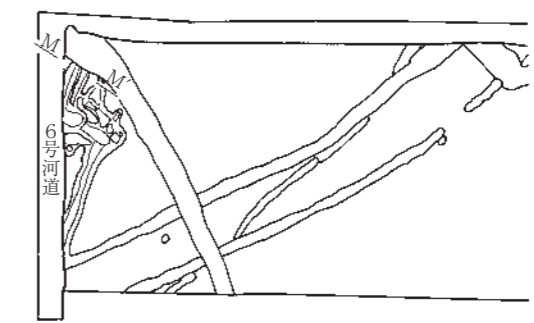


24

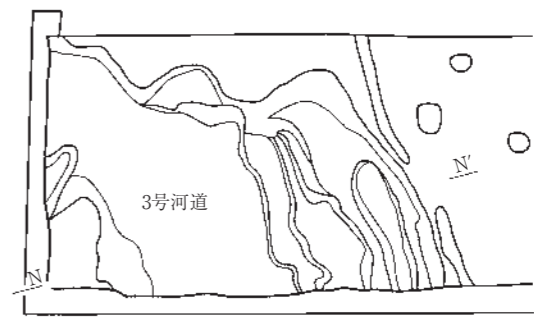
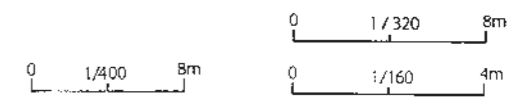


- (I-I')
- 1: 褐灰色粘質土(10YR4/2)
  - 2: 黒褐色粘質土(10YR3/1): VII層土20%含む。
  - 3: 灰褐色粘質土(10YR4/2): 1層土に類似が、やや濃い色調。2層土と褐色砂を互層に含む。
  - 4: 褐灰色土(10YR4/1): 5層土10%含む。Hr-FA: 榛名山5世紀末噴出火山灰。
  - 5: 黒色土(10Y R2/1): 10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - 6: 黒色土(1.7/1): 5層に類似。10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - IX: 黒灰色シルト質土
  - 7: 注記不備。
  - 8: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - 9: 黒色土(1.7/1): 6層に類似。含有物なし。
  - 10: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - 11: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - 12: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
  - 13: 10%含む。As-Cを1~2%含む。

- (L-L')
- 1: 褐灰色粘質土(10YR4/1): 平安時代9 C. 後半の水田耕作土。
  - 1': 直径2~3mmの白色軽石を2%含む。
  - 2: 黒褐色粘質土(10YR3/1): やや灰色をおびている。直径1mmの白色軽石を1%含む。
  - 3: 黒色粘質土(10YR2/1): 含有物なし。
  - 3': 3層より黒色が強い。
  - 4: 黒褐色粘質土(10YR3/1): As-C(直径1~2mm)5~10%含む。
  - 4': As-Cを2~3%含む。

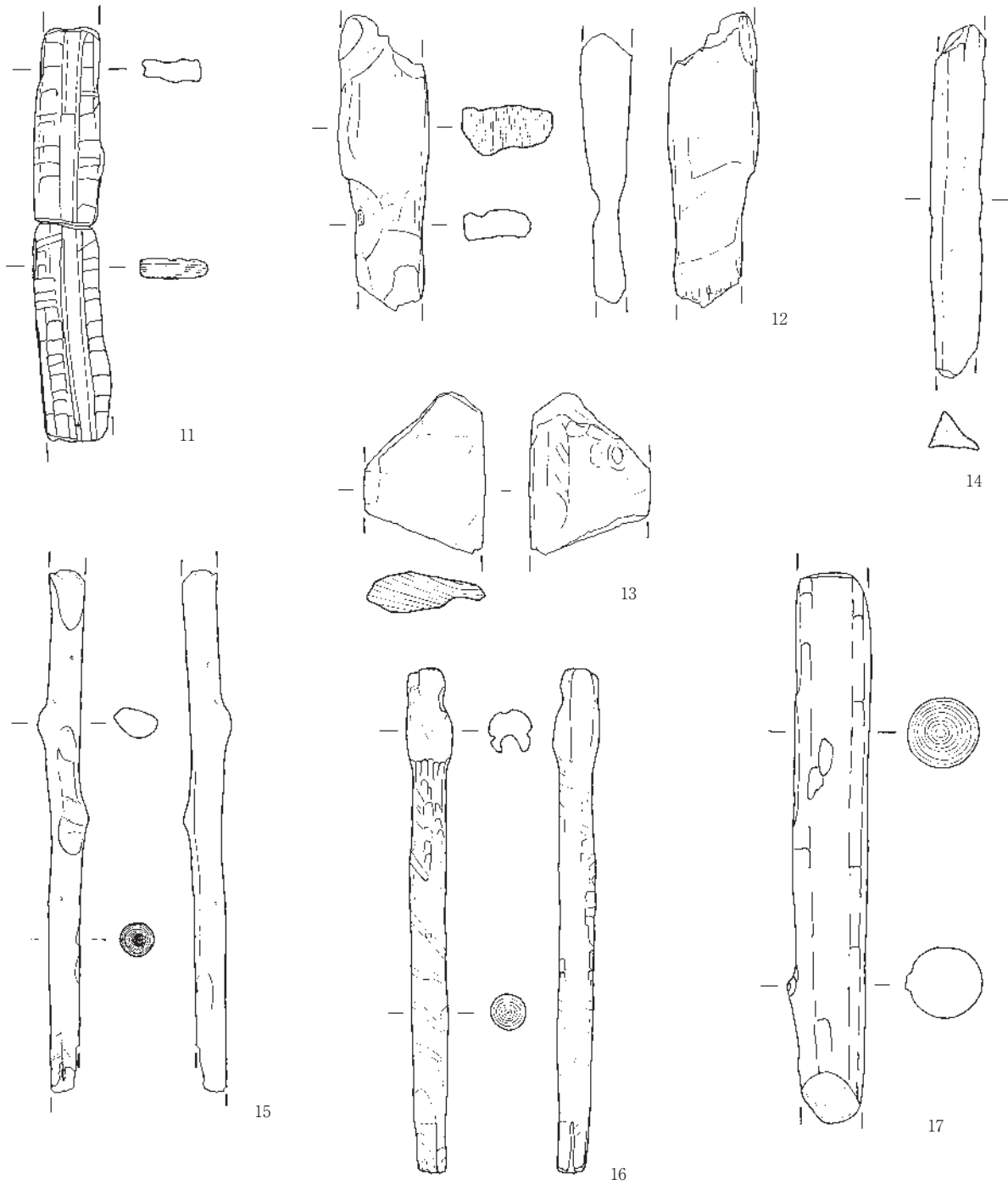


- (M-M')
- 1: 黒色粘質土(10YR2/1): 灰色砂を5%含む。
  - 2: 褐灰色砂質土(10YR4/1): 褐灰色砂、明黄色砂を20%含む。
  - 3: 灰色砂と明黄色砂の互層
  - 4: 褐灰色砂質土(10YR4/1): 褐灰色砂を30%含む。
  - 5: VI層土(灰黄褐色粘質土(10YR4/2))の崩落土

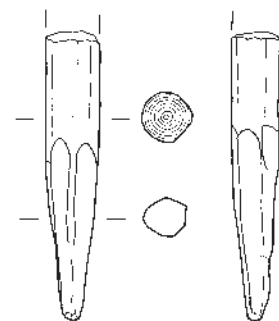
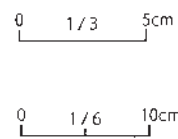


- 5: 灰黄褐色粘質土(10YR5/2): 褐色砂を20~30%含む。
- 6: 灰黄褐色粘質土(10YR5/2)
- 7: 黒褐色粘質土(10YR3/1)
- 8: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
- 9: 褐灰色シルト質土(10YR4/1)
- 10: 黒褐色砂(10YR2/2)
- 11: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
- 12: 10%含む。As-Cを1~2%含む。
- 13: 3~12の漸移層: 3層土と12層土が50:50の混土。

第18図 8面旧河道

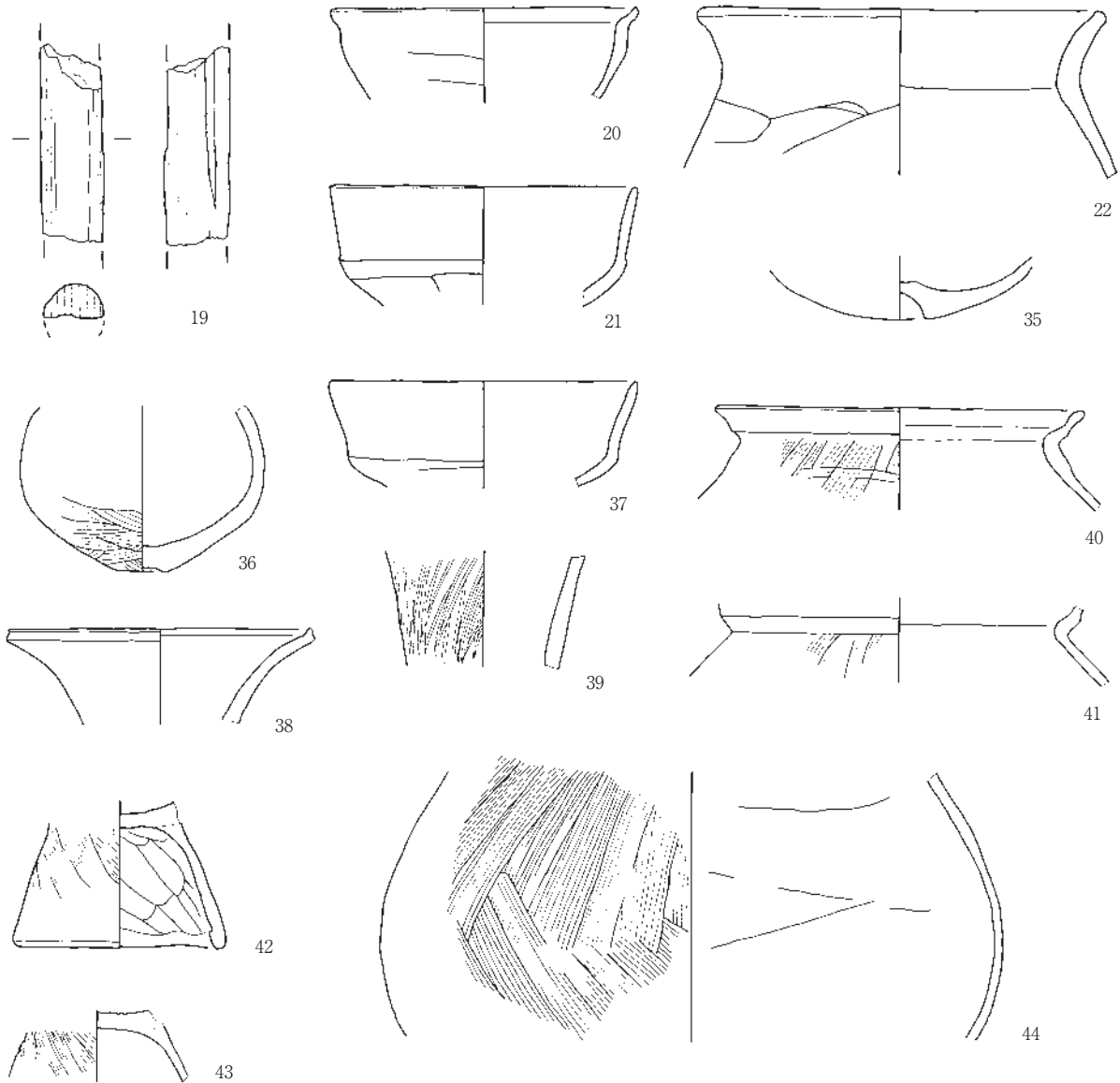


び木製品を中心とした出土遺物が比較的多く見られた。このうちⅢ区1号河道からは土師器坏(3・4・21)、石鎌(5)や楔かと思われる木製品(6)や木製杭(7)、Ⅲ区2号河道からは農具と見られる木製品(9)、木製板(10)、またⅢ区1・2号河道の何れから出土したか判断のつかなかった木製杭(8)の出土もあった。3号河道ではⅢ区3号河道

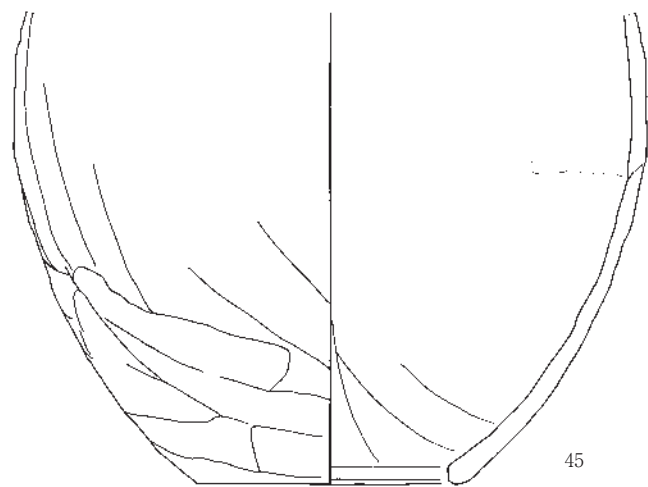


第19図 8面旧河道出土遺物(その2)

II 調査の記録

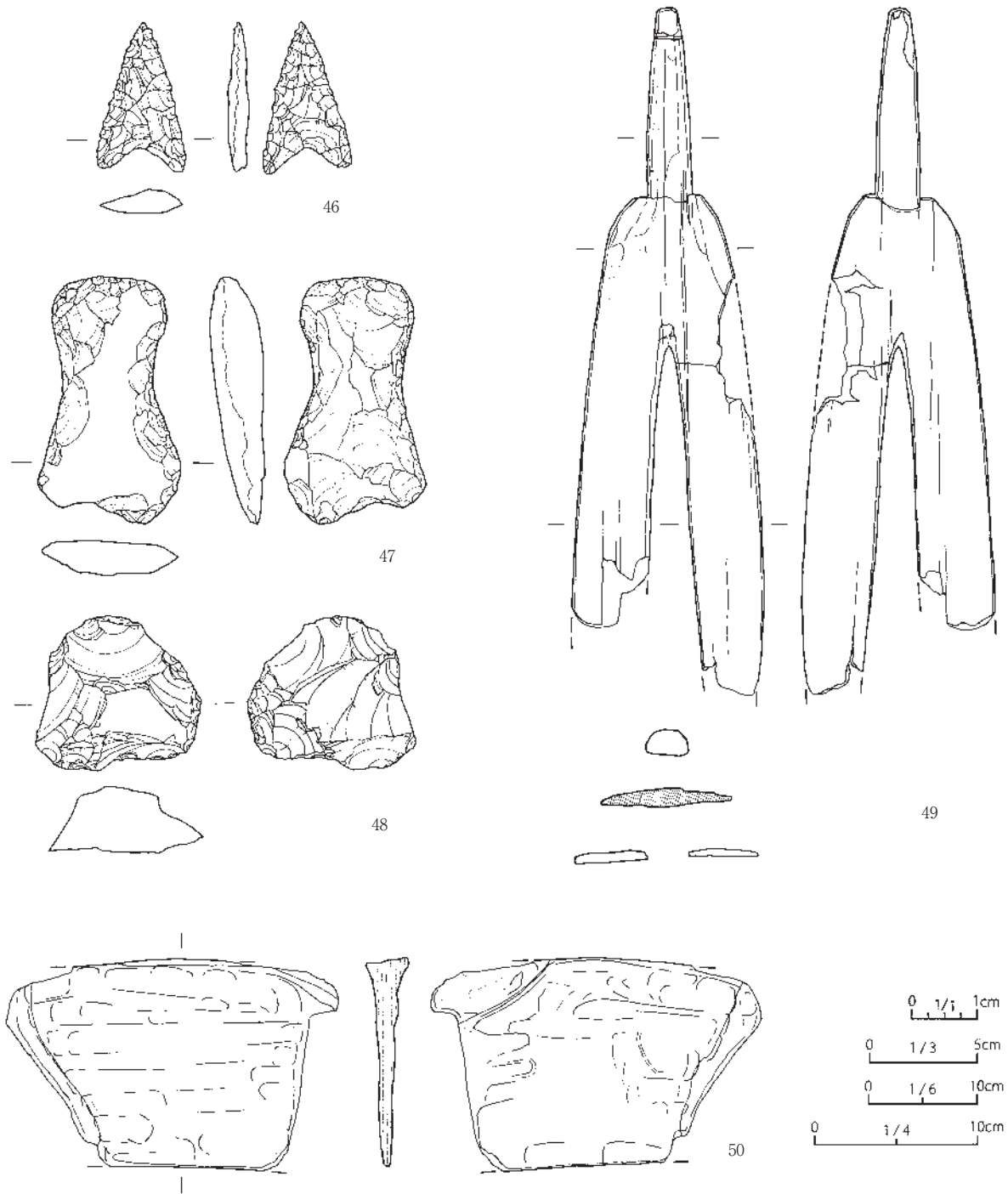


の区域からは建築部材 (11)・厚板 (12)・板 (13)・割材 (14)・丸棒 (15~17) 用途不明 (18) の木製品が、Ⅲ区 5号河道の区域から土師器の坏 (20) や甕 (22) の出土が見られた。Ⅳ区 1号河道からは土師器の壺 (35) と埴 (36)・打製石斧 (47)、2号河道からは土師器の坏 (37)・壺 (38)・埴 (39)・台付甕 (40~44・85)・甑 (45)・石鏟 (46)・石核 (48) や、二又鍬 (49)・机の脚と思われるもの (50)・組み物の部材 (51)・竖杵 (52)・掘り棒と思われるもの (53)・板 (54~59)・棒 (60・61)・角



0 1/3 5cm

第20図 8面旧河道出土遺物 (その3)



第21図 8面旧河道出土遺物（その4）

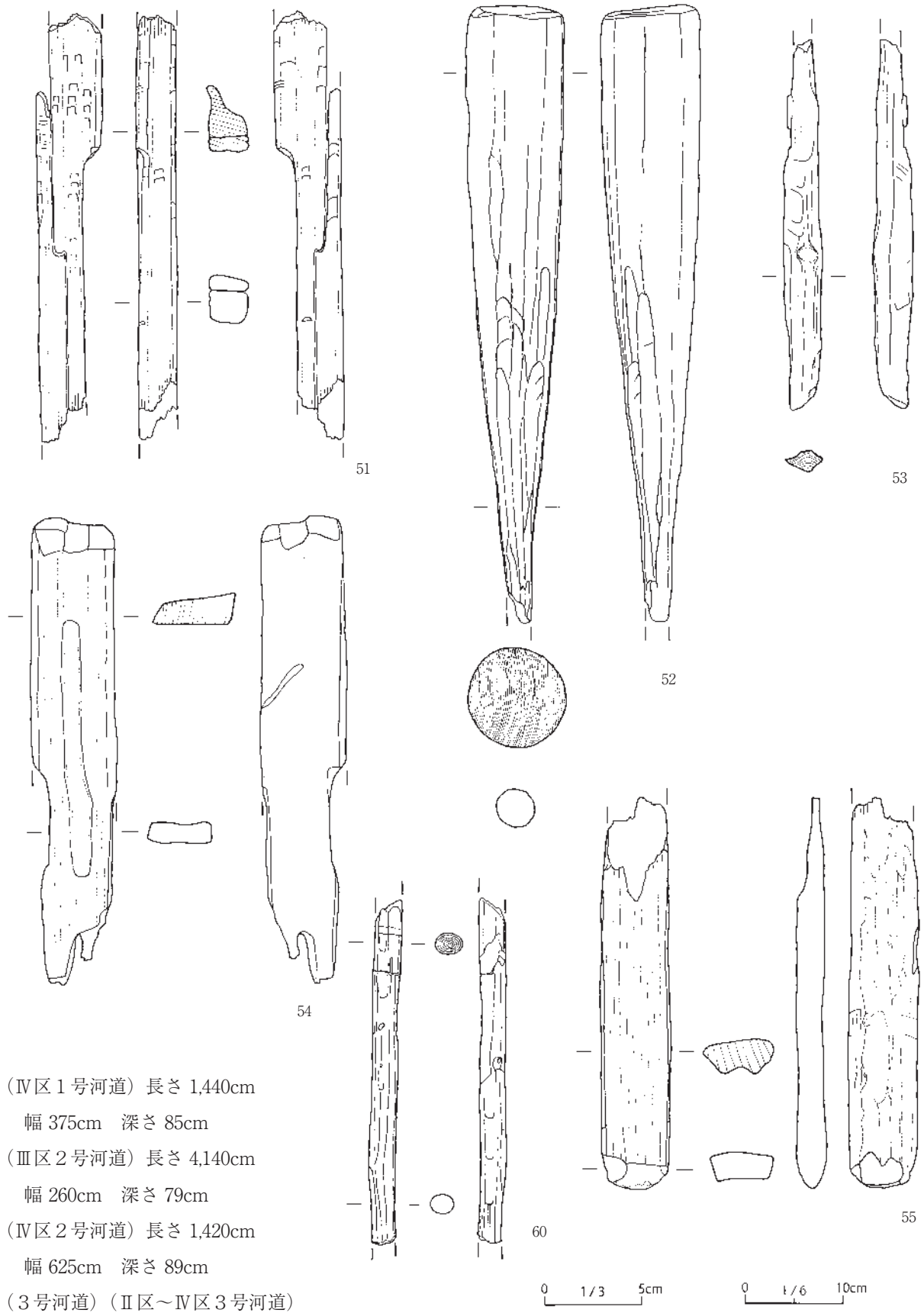
棒 (62)・杭 (63~78)・杭と思われるもの (79) や不明品 (80~84) といった木製品の出土が見られた他、IV区4号河道からは土師器 (86~88) の出土も見られた。

時期 遺構の確認状況と出土遺物から推してⅢ区1・2号河道及び3号河道、IV区2号河道は4・5

世紀、IV区1号河道は4世紀、IV区4号河道は5世紀以降の所産と認識される。他の河道については概ね5世紀以前の所産と認識されるだけで時期特定には至らなかった。

規模 (Ⅲ区1号河道) 長さ 6,560cm  
幅 660cm 深さ 91cm

II 調査の記録



(IV区1号河道) 長さ 1,440cm

幅 375cm 深さ 85cm

(III区2号河道) 長さ 4,140cm

幅 260cm 深さ 79cm

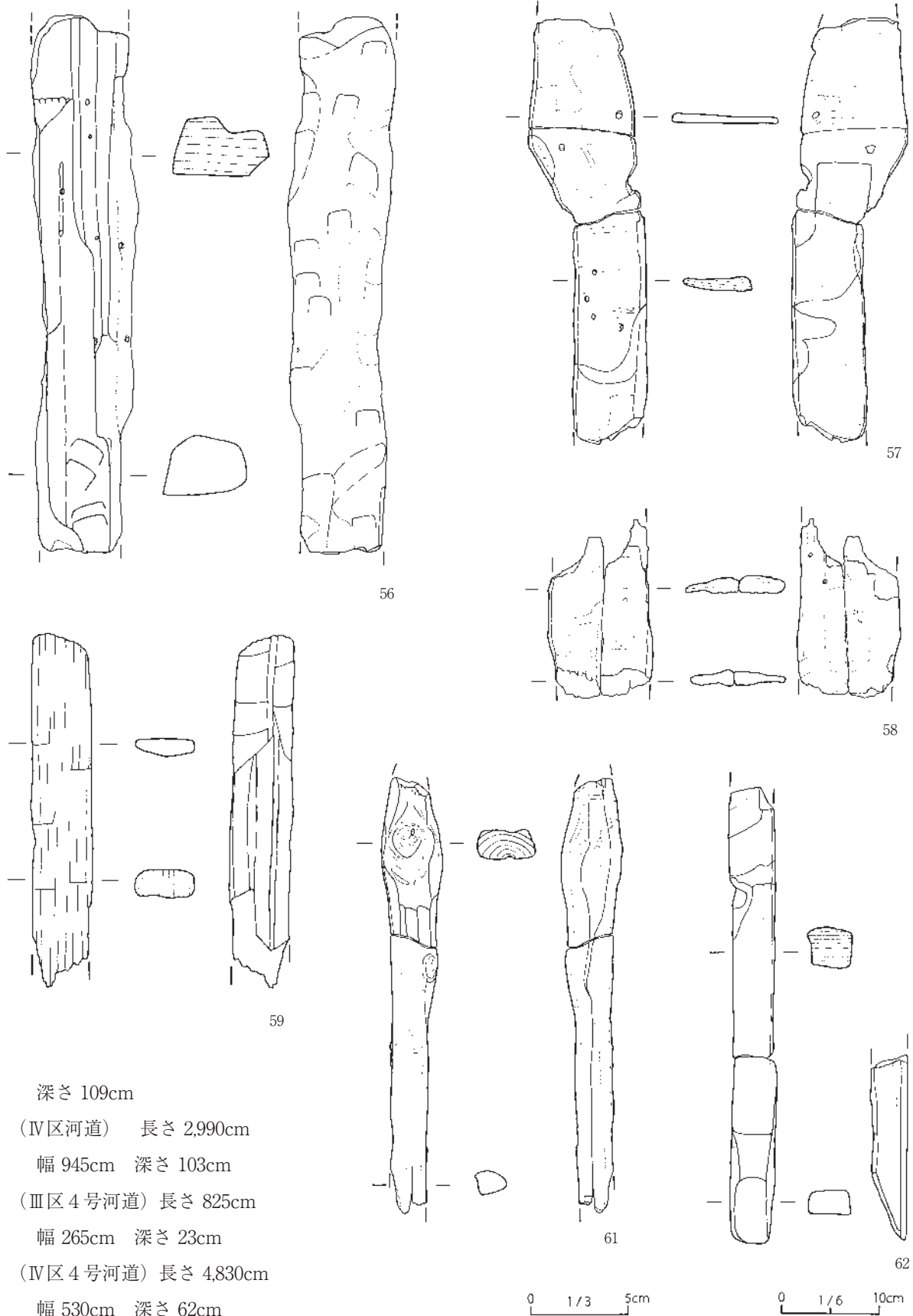
(IV区2号河道) 長さ 1,420cm

幅 625cm 深さ 89cm

(3号河道) (II区~IV区3号河道)

長さ 18,005cm 幅 1,795cm

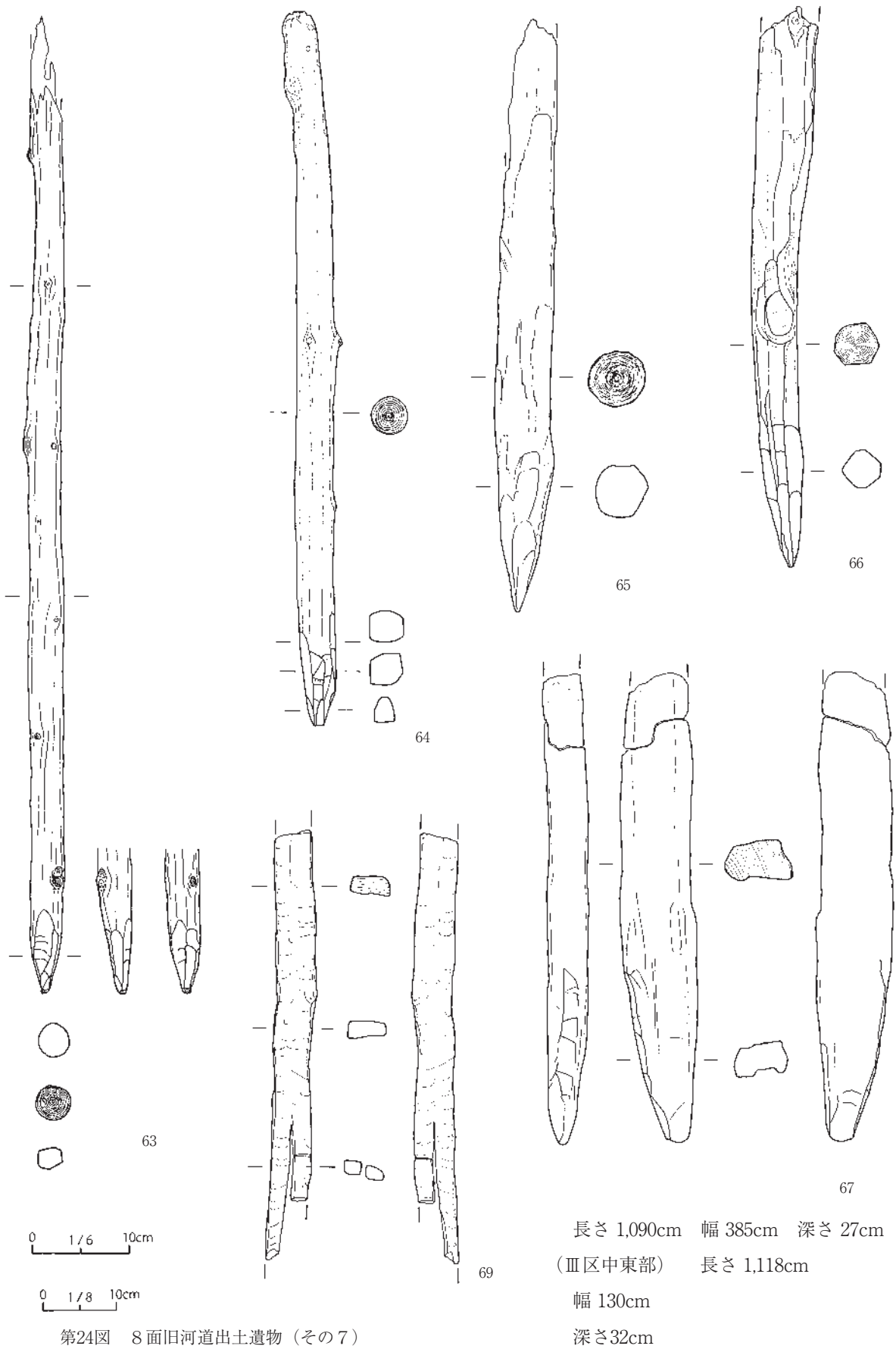
第22図 8面旧河道出土遺物 (その5)

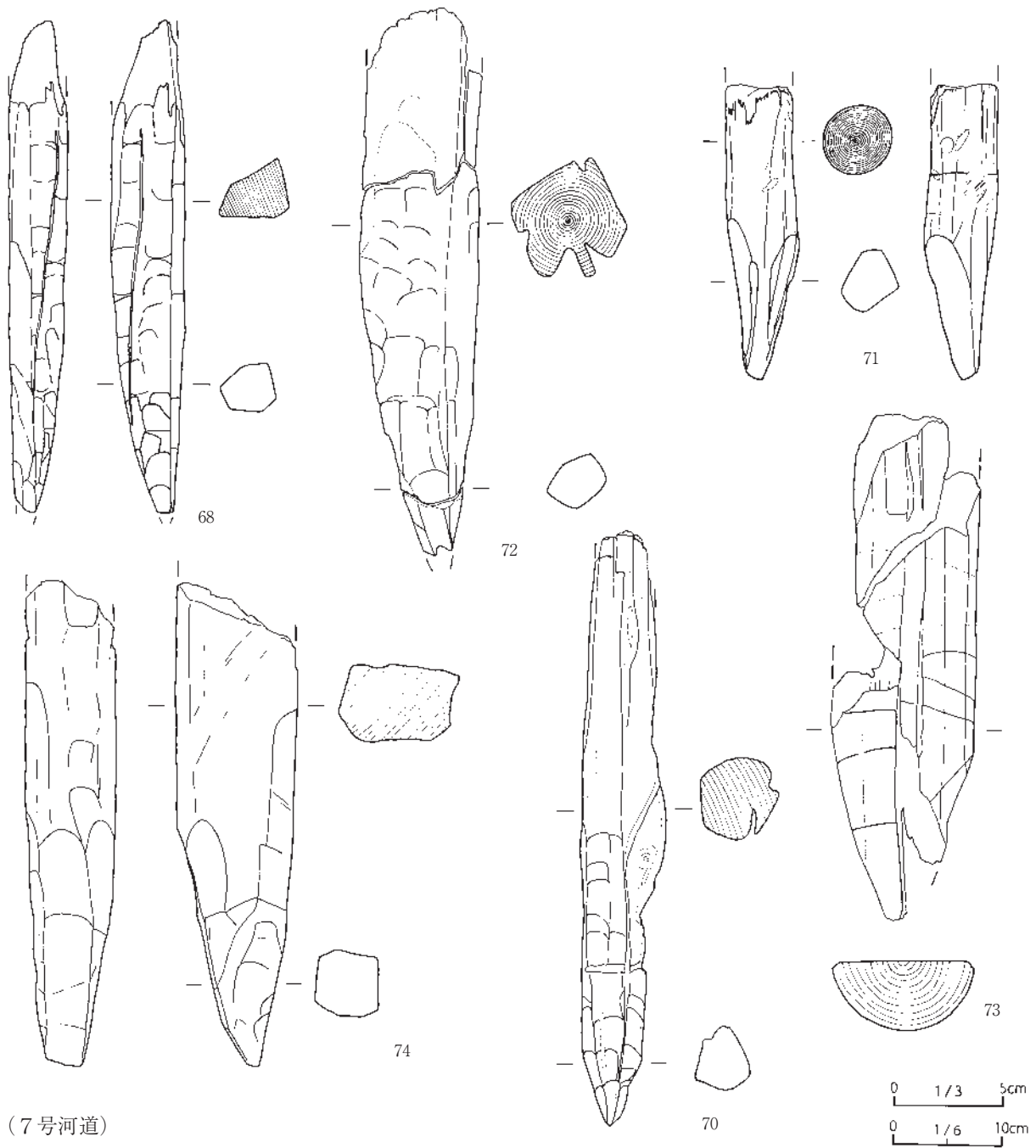


深さ 109cm  
 (IV区河道) 長さ 2,990cm  
 幅 945cm 深さ 103cm  
 (III区4号河道) 長さ 825cm  
 幅 265cm 深さ 23cm  
 (IV区4号河道) 長さ 4,830cm  
 幅 530cm 深さ 62cm  
 (6号河道) (II区埋没河川)

第23図 8面旧河道出土遺物(その6)

II 調査の記録





(7号河道)

長さ 1.874cm 幅

793cm 深さ 29cm

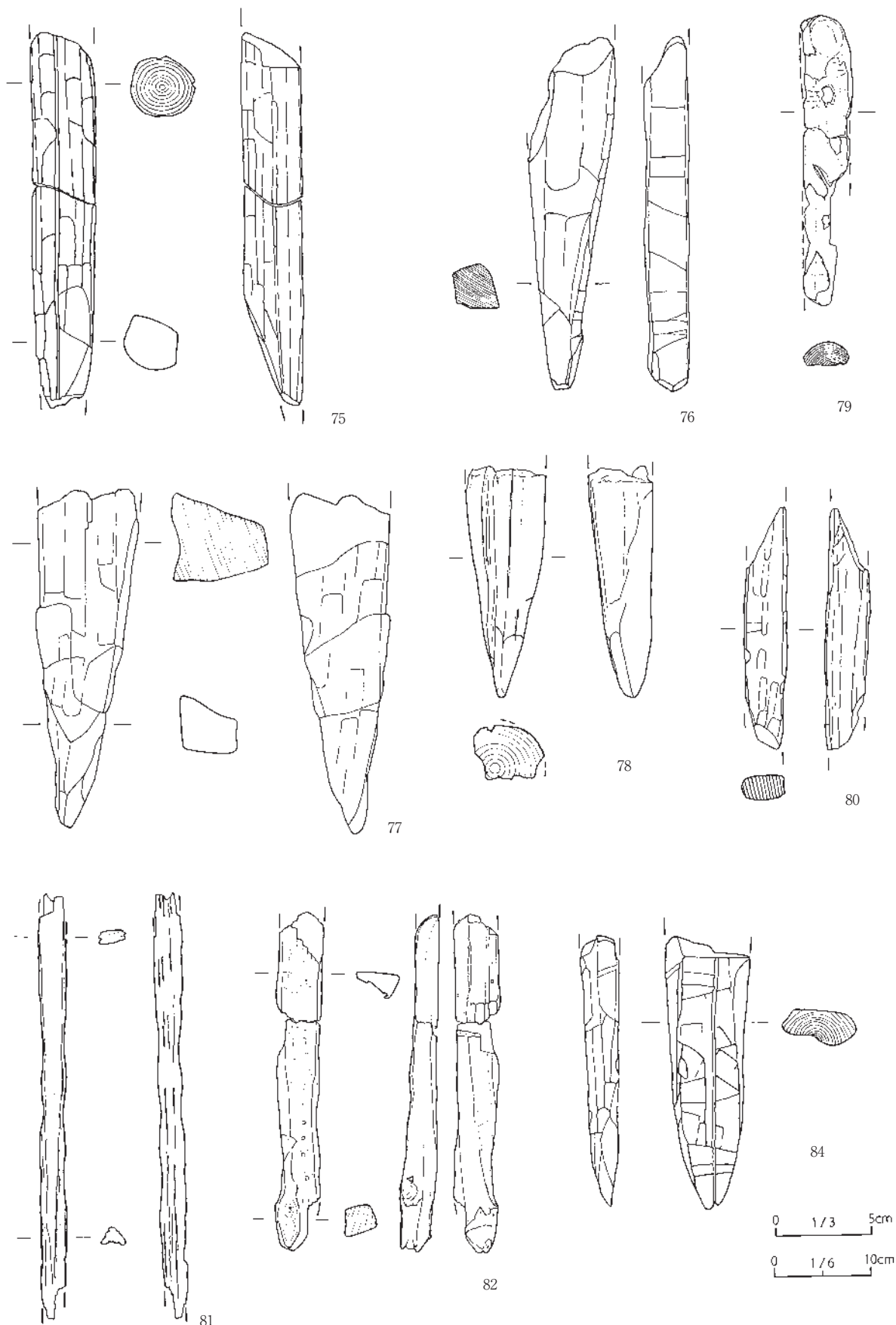
(8号河道) 長さ 928cm 幅 326cm 深さ 26cm  
 構造 IV区1号河道は北北西から調査区に入り直線的に走行して南南東方向に調査区外に抜けている。Ⅲ区1号河道は西から調査区に入り、南東、更に東から北に走行を変じて3号河道にぶつかる蛇行したプランを見せている。この接する位置の3号河道の北壁はその対向する位置から東に膨らみを持った

第25図 8面旧河道出土遺物(その8)

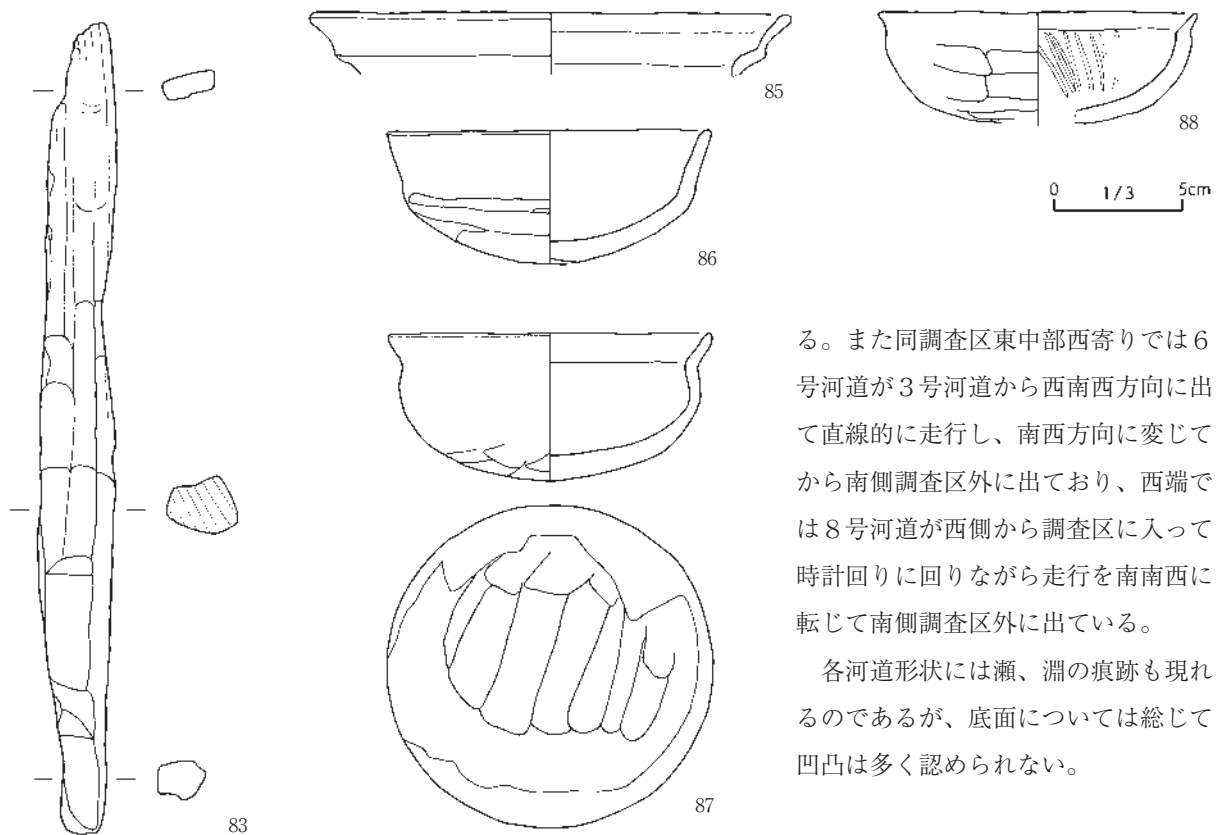
め、この位置がⅢ区1号河道の流路であった可能性が考慮される。IV区2号河道は南南西方向から調査区に入り、反時計回りに弧状を描いて来たに走行を転じて3号河道に接して途切れる。Ⅲ区2号河道は西から調査区に入り一旦北に振れてから南西、更に東へと走行を変ずる蛇行するプランを以て走行した後1号河道に重なる。3号河道はIV区北側調査区中



II 調査の記録



第26図 8面旧河道出土遺物 (その9)



第27図 8面旧河道出土遺物（その10）

程で西北西から調査区に入りV字形に東北東に方向に出る。そして北側調査区東端で北北東から再び調査区に入り、反時計回りに半壊短しながらⅢ区に入り、東、南南東、北東、東、南東、南南東と蛇行しながらⅡ区南側調査区に入って東、南と走行を転じて調査区外に出ている。Ⅳ区4号河道は重複するⅣ区2号河道から東南東方向に現れてから時計回りに緩やかな弧状を見せながら走行し、やや南東方向に走行を変じたところで調査区外に出ている。またⅢ区4号河道は重複する3号河道から南東方向に現れて、東、北東方向に弧状に転じて再び3号河道に重複している。6号河道はⅡ区北側調査区西端で北北東-南南西方向に走行するクランク状の走行を見せながら調査区を横断し、Ⅲ区中東端部で3条に分流して現れて合流し、南西方向に走行して3号河道に至る。Ⅳ区北側調査区中部ではその西寄りに1号河道が北北西-南南東、東寄りに2号河道が北北東-南南西方向にそれぞれ蛇行しながら調査区を横断す

る。また同調査区東中部西寄りでは6号河道が3号河道から西南西方向に出て直線的に走行し、南西方向に変じてから南側調査区外に出しており、西端では8号河道が西側から調査区に入って時計回りに回りながら走行を南南西に転じて南側調査区外に出ている。

各河道形状には瀬、淵の痕跡も現れるのであるが、底面については総じて凹凸は多く認められない。

#### (17) 風倒木痕 (第28図)

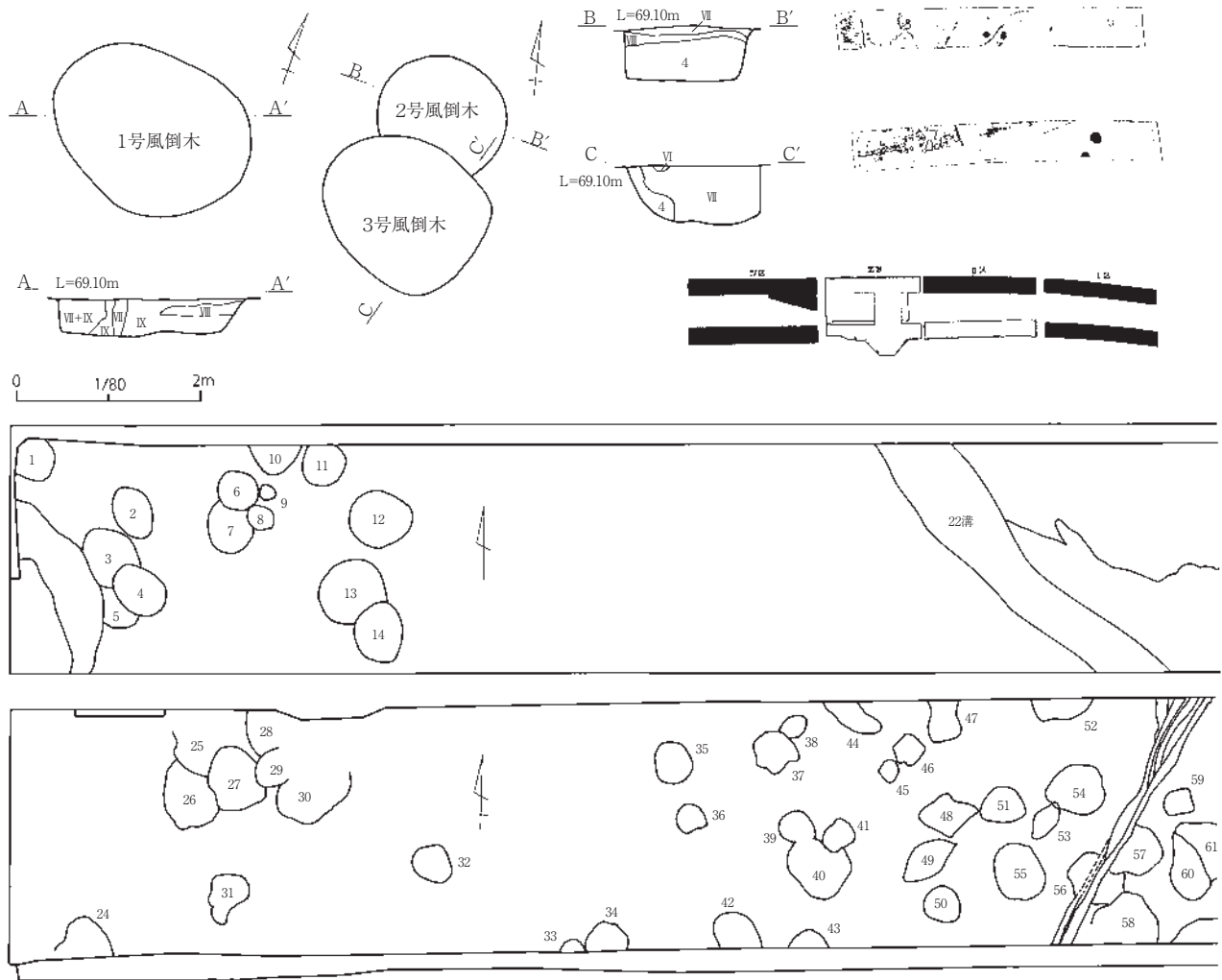
**概要** I区北側調査区の中部にI区1～3号風倒木痕、東部にI区6号風倒木痕、南側調査区東部にI区4・5号風倒木痕、Ⅱ区北側調査区西寄りにⅡ区1・2号風倒木痕、Ⅳ区北側調査区にⅣ区1～23号風倒木痕、南側調査区にⅣ区24～76号風倒木痕の84基の風倒木痕を確認した。倒木方向は記録が十分に残せなかったため断定には至らなかったが、I区では6基中3基、Ⅱ区では2基中1基、Ⅳ区では84基中22基で想定することができた。想定される倒木の方向は表5の1・2に示した通りであるが、確認できた範囲で倒木方向に一貫性はなく、倒木の要因、季節も様々であったことが想定される。また風倒木痕の規模も各様で、必ずしも大木に限られなかったことが窺われる。

**遺物** 出土遺物は確認されなかった。

**時期** 共に古墳時代中期以前と認識されるだけで時期の特定には至らなかった。

**規模** (I区1号風倒木痕) 径 213×180cm

II 調査の記録



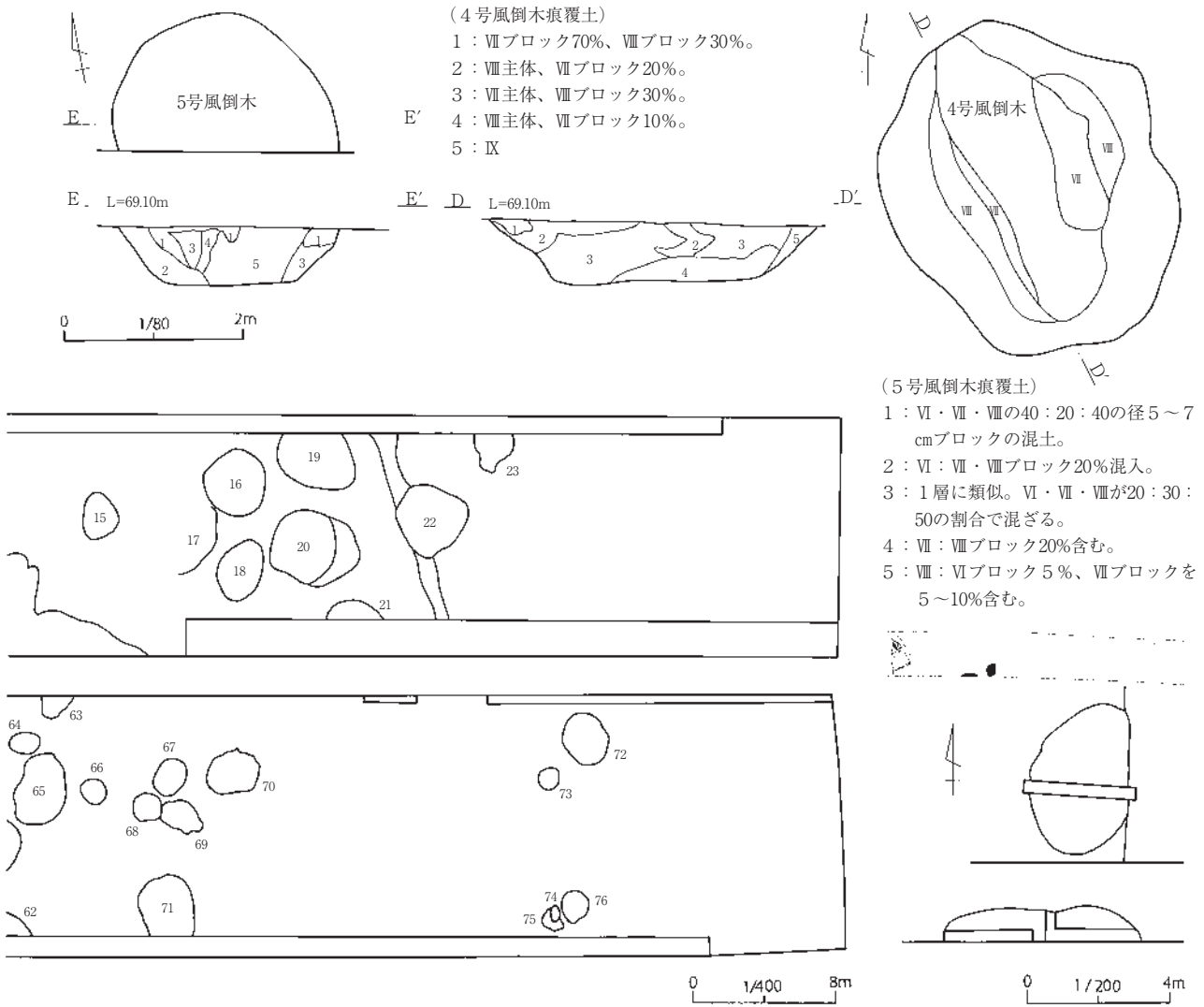
第28図の1 I区風倒木痕(上)及びIV区の風倒木痕分布図(下)

表5の1 風倒木痕一覧

No.	調査区	平面形	径(cm)	倒木方向
I区-1	I区北側	オカメ面形	213 × 180	
I区-2	I区北側	円形	(95) × 143	北西
I区-3	I区北側	隅丸長方形	183 × 155	西北西
I区-4	I区南側	鮑形	380 × 325	北西
I区-5	I区南側	楕円形か	(153) × 249	西
I区-6	I区北側	空豆形	×	西
II区-1	II区北側	瓢箪形か	×	
II区-2	II区北側	楕円形	×	西
IV区-1	IV区北側	楕円形か	(239) × 210	北北東
IV区-2	IV区北側	楕円形	295 × 215	北北西
IV区-3	IV区北側	隅丸長方形	(210) × 280	西南西
IV区-4	IV区北側	卵形	315 × 250	北東
IV区-5	IV区北側	楕円形か	(280) × (140)	
IV区-6	IV区北側	楕円形	235 × 210	北
IV区-7	IV区北側	楕円形	(300) × 260	西
IV区-8	IV区北側	円形	140 × 150	
IV区-9	IV区北側	隅丸長方形	95 × 95	北
IV区-10	IV区北側	卵形か	(155) × (290)	西
IV区-11	IV区北側	隅丸方形	(225) × 250	西南西
IV区-12	IV区北側	卵形	330 × 345	西
IV区-13	IV区北側	卵形	350 × 380	南南東

No.	調査区	平面形	径(cm)	倒木方向
IV区-14	IV区北側	楕円形	340 × 280	西
IV区-15	IV区北側	ハート形	263 × 200	
IV区-16	IV区北側	不整形	375 × 365	西南西
IV区-17	IV区北側	楕円形か	(425) × (231)	北西
IV区-18	IV区北側	樽形	365 × 355	西
IV区-19	IV区北側	卵形	(318) × 415	西
IV区-20	IV区北側	卵形	505 × 430	西南西
IV区-21	IV区北側	楕円形か	(100) × (300)	
IV区-22	IV区北側	幅広楕形	415 × 405	東北東
IV区-23	IV区北側	電球形	(215) × 225	南南西か
IV区-24	IV区南側	ハート形か	(230) × 310	北西
IV区-25	IV区南側	ハート形か	(260) × (250)	南西
IV区-26	IV区南側	楕円形	385 × (290)	西
IV区-27	IV区南側	半楕円形	350 × 265	
IV区-28	IV区南側	楕円形か	(255) × (150)	東北東か
IV区-29	IV区南側	楕円形	210 × (195)	南南東
IV区-30	IV区南側	半楕円形か	(260) × 410	
IV区-31	IV区南側	小槌形	280 × 225	西
IV区-32	IV区南側	隅丸三角形	220 × 220	西
IV区-33	IV区南側	楕円形か	(65) × (145)	
IV区-34	IV区南側	円形か	(155) × 235	

1 第8面の調査



第28図の2 I区(上)・II区(右下)風倒木痕及びIV区の風倒木痕分布図(下)

表5の2 風倒木痕一覧

No.	調査区	平面形	径(cm)	倒木方向
IV区-35	IV区南側	楕円形	230 × 205	北西
IV区-36	IV区南側	滴形	160 × 170	
IV区-37	IV区南側	くらげ形	230 × 240	西北西
IV区-38	IV区南側	楕円形	125 × 135	西
IV区-39	IV区南側	半楕円形	225 × 200	
IV区-40	IV区南側	隅丸長方形	(330) × 372	
IV区-41	IV区南側	半楕円形	170 × 180	
IV区-42	IV区南側	長円形	(200) × 230	
IV区-43	IV区南側	円形か	(95) × (230)	
IV区-44	IV区南側	ピーナツ形	(290) × 190	
IV区-45	IV区南側	四半円形	130 × 115	
IV区-46	IV区南側	大臼歯形	178 × 180	
IV区-47	IV区南側	瓢箪形	(235) × 190	
IV区-48	IV区南側	エイ形	235 × 330	
IV区-49	IV区南側	木の葉形	345 × 220	
IV区-50	IV区南側	楕円形	200 × 205	北西
IV区-51	IV区南側	半円形	205 × 255	西
IV区-52	IV区南側	半楕円形か	(115) × (340)	西北西
IV区-53	IV区南側	芋形	235 × 125	
IV区-54	IV区南側	隅丸台形	275 × 325	西
IV区-55	IV区南側	隅丸長方形	315 × 265	

No.	調査区	平面形	径(cm)	倒木方向
IV区-56	IV区南側	蝶形	270 × 315	西
IV区-57	IV区南側	半楕円形	265 × (240)	北東
IV区-58	IV区南側	楕円形か	(290) × 354	西北西
IV区-59	IV区南側	四半円形	135 × 170	
IV区-60	IV区南側	滴形	390 × 195	西
IV区-61	IV区南側	くらげ形	350 × 195	北西
IV区-62	IV区南側	楕円形か	(135) × 415	
IV区-63	IV区南側	隅丸台形か	(125) × 185	
IV区-64	IV区南側	楕円形	130 × 175	
IV区-65	IV区南側	達磨形	400 × 300	西
IV区-66	IV区南側	楕円形	150 × 150	
IV区-67	IV区南側	楕円形	220 × 175	
IV区-68	IV区南側	隅丸方形	155 × 165	
IV区-69	IV区南側	猪形	255 × 165	
IV区-70	IV区南側	栗形	245 × 285	
IV区-71	IV区南側	隅丸楕形	(345) × 315	西北西
IV区-72	IV区南側	楕円形	300 × 260	南
IV区-73	IV区南側	隅丸方形	135 × 115	
IV区-74	IV区南側	楕円形	90 × 65	
IV区-75	IV区南側	滴形	(145) × 144	
IV区-76	IV区南側	隅丸三角形	190 × 155	南南西か

II 調査の記録

深さ 42cm

(I区2号風倒木痕) 径 (95)×143cm 深さ 60cm

(I区3号風倒木痕) 径 183×155cm 深さ 64cm

(I区4号風倒木痕) 径 380×325cm 深さ 73cm

(I区5号風倒木痕) 径 269×(157)cm

深さ 68cm

(I区6号風倒木痕) 径 244×174cm 深さ - cm

(II区1号風倒木痕) 径 (550)×(70)cm

深さ - cm

(II区2号風倒木痕) 径 434×(297)cm

深さ - cm

IV区所在風倒木痕 表5 (風倒木痕一覧) 参照

構造 I区の風倒木痕の長軸は1号風倒木痕が東-

西、3号風倒木痕が西北西-東南東、4・5号風倒木痕が北西-南東方向に向き、プランは1・3号風倒木痕が楕円形、2号風倒木痕が円形、4号風倒木痕が北東に突出部を持つ隅丸長方形を呈し、5号風倒木痕は南側が調査区外に出て明瞭ではないが楕円形を呈すると見られる。底面は何れも平底気味である。

II区の風倒木痕は掘削していないため底面形態は不明で、プランは1号風倒木痕は過半が調査区外にあって不詳。2号風倒木痕は楕円形様を呈する。

IV区の風倒木痕も掘削していないため底面形態等是不明であるが、平面形態については表5に記した通りである。

表6 IV区7面水田区画一覧 (As-C 混土層下疑似畦畔水田)

NO.	位置	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> )
			長軸	短軸	高位	低位	高	低	
201	西部	扇面形か	463	(250)	69.84	69.72	4	2	10.29
202	西部	鞘形	555	530	69.81	69.79	5	2	22.03
203	西部	隅丸長方形	395	270	69.79	69.77	3	1	11.20
204	西部	楕形	330	(218)	69.78	69.70	3	0	6.04
205	西部	楕形	380	383	69.79	69.73	3	0	12.55
206	西部	隅丸長方形	282	235	69.79	69.78	1	0	5.81
207	西部	隅丸長方形か	(265)	(120)	69.78	69.76	2	0	2.28
208	西部	楕形か	345	258	69.78	69.75	4	0	8.35
209	西部	隅丸長方形	303	262	69.75	69.73	3	0	7.43
210	西部	隅丸長方形	510	(422)	69.80	69.76	1	0	18.33
211	西部	長方形	483	290	69.78	69.76	1	0	13.53
212	西部	隅丸長方形	502	280	69.76	69.72	2	0	13.29
213	西部	隅丸長方形	438	(265)	69.76	69.75	2	0	9.47
214	西部	長方形	543	350	69.76	69.70	1	0	17.83
215	西部	長方形	528	(323)	69.73	69.70	3	0	15.32
216	西部	隅丸長方形	(273)	(88)	69.76	69.75	1	0	1.53
217	西部	米粒形	440	246	69.75	69.72	2	1	8.09
218	西部	隅丸長方形か	160	(100)	69.70	69.70	2	0	1.35
219	西部	石包丁形	(210)	(98)	69.70	69.69	1	0	1.48
220	西部	長方形か	(123)	(135)	69.77	69.76	2	2	1.15
221	西部	長方形か	(145)	(115)	69.76	69.76	2	1	1.50
222	西部	長方形か	120	(98)	69.75	69.75	0	0	1.16
223	西部	長方形か	(118)	118	69.75	69.75			0.90
224	西部	長方形か	(160)	120					1.45
225	西部	長方形か	(200)	120	69.73	69.72	2	0	2.45
230	西部	隅丸長方形か	(200)	29	69.76	69.76			0.37
255	中部西寄り	長方形	(144)	(10)	69.85	69.84	1	0	
283	中部西寄り	長方形か	(71)	(56)	69.55	69.55	0	0	0.19
284	中部西寄り	長方形	426	182	69.54	69.51	2	1	7.08
285	中部西寄り	長方形	(192)	168	69.56	69.55	0	0	4.37
286	中部西寄り	長方形	394	168	69.61	69.53	4	1	6.69
287	中部東寄り	長方形か	244	(25)	69.70	69.68			1.03
288	中部東寄り	隅丸長方形か	(192)	(171)	69.68	69.68	1	0	2.66
289	中部東寄り	隅丸長方形か	(30)	(24)	69.68	69.68			0.21
290	中部東寄り	隅丸長方形	(500)	412	69.68	69.65	2	0	17.14

## 2 第7面の調査

### (1) 概要

7面の遺構としては浅間山噴出のAs-C軽石を包含する土壌で被覆された水田址を報告する。尚、7面は発掘調査段階では6面及び一部8面の遺構と一括処理されているが、整理段階でこれらから分別して新たに面を設定したものである。

遺構は上述のように所謂As-C混土下水田のみで、IV区に於いてのみ確認された。

### (2) 7面の水田址 (第30図、P L 8・9)

**概要** 7面では浅間山噴出のAs-C軽石を包含する黒灰色土で被覆された水田址がIV区北側調査区の中東部の東寄りと西寄りの一部、西端部で確認された。

本水田面は他遺構との重複は見られなかった。

本水田址は水田面を残すものではなく、所謂掘削の浅深が畦畔を遺す、所謂擬似畦畔の遺構である。

**遺物** 出土遺物は確認されなかった。

**時期** 本水田の開削時期は特定できないが、3世紀末～4世紀初頭の浅間山の噴火に伴うAs-C軽石降下の災害からの復旧に伴って開墾されたものと想定されるため、4・5世紀の所産と認識される。

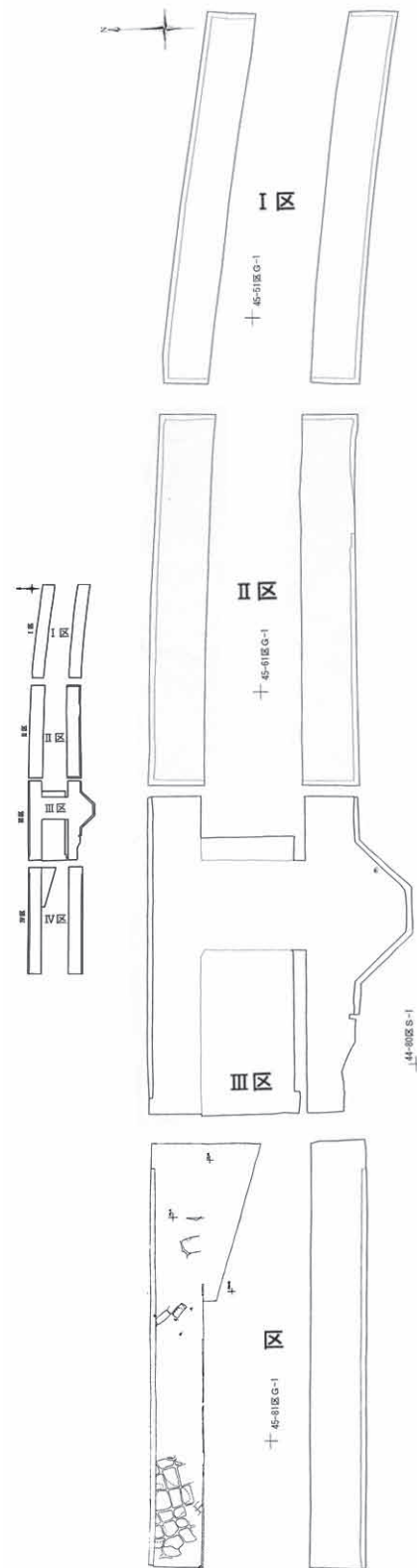
**規模** 86.25×12.2m (IV区中東部(東寄り): 6.1×5.5m IV区中東部(西寄り): 6.2×8.0m IV区西部: 27.8×12.3m)

**水田区画** 表6 (IV区7面水田区画一覧) 参照

**畔幅** 幅 20～40cm

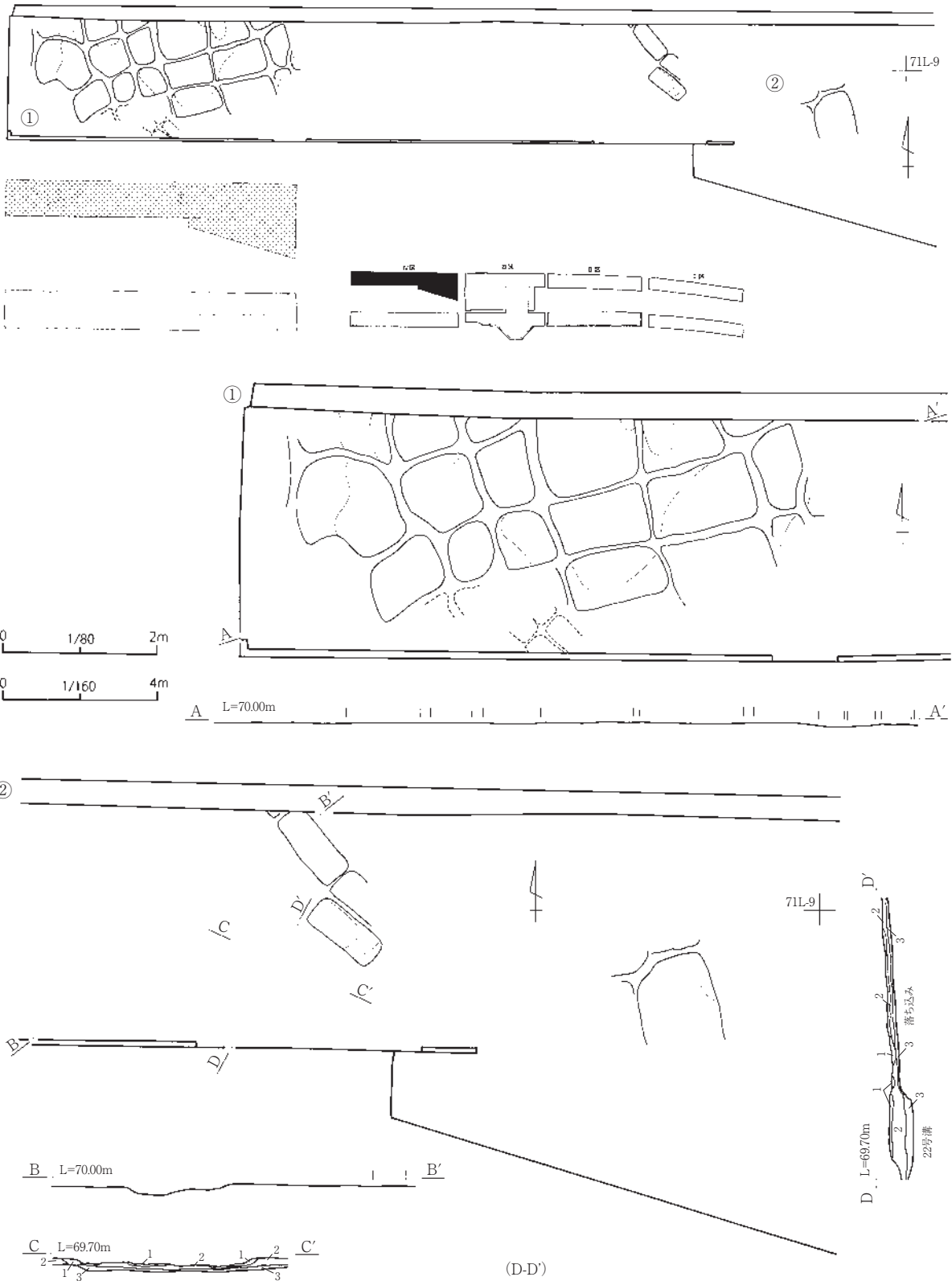
**構造** 本水田址は小区画水田の範疇に入るもので、方眼状の配列を見せる。その軸方向はIV区西部では北北西-南南東方向、IV区中部北寄りでは北西-南東方向を向くが、自然地形に沿うように前者ではN-W 9°から13°、後者はW-N44°から39°と反時計回りに緩やかな弧を描いて傾斜している。

また水田区画のプランは方形、或いは長方形を基本としたものが多い。給排水の方向は確認できないが、土地の傾斜に従って北西から北東方向に流水させていたものと思慮される。



第29図 7面全体図 (S=1/2000)

II 調査の記録



(C-C')

- 1 : 暗褐色土 : 粘性なし。締まりなし。Hr-FAブロック混入する。
- 2 : 灰褐色砂質土 : 粘性、締まりなし。黒褐色土混入。
- 3 : 黒褐色土 : 粘性、締まりあり。2層土の灰褐色土が点在する。

(D-D')

- 1 : 暗褐色土 : 粘性なし。締まりなし。Hr-FAブロック混入する。
- 2 : 灰褐色砂質土 : 粘性、締まりなし。黒褐色土混入。南の谷地に向かって堆積が厚くなる。
- 3 : 黒褐色土 : 粘性、締まりあり。2層土の灰褐色土が点在している。南の谷地に入ると砂質土が多くなる。

第30図 IV区7面As-C混土下水田址

### 3 第6面の調査

#### (1) 概要

6面では5世紀末の榛名山ニッ岳噴出のHr-FA火山灰で被覆された水田址と、同時期前後の所産と見られる遺構群を調査した。

遺構は5面と同様に、Ⅱ～Ⅳ区にかけて確認されたが、溝34条（Ⅱ区5条、Ⅲ区19条、Ⅳ区10条）、土坑7基（Ⅱ区2基、Ⅲ区3基、Ⅳ区2基）、Ⅲ区及びⅣ区の北部でHr-FA下の水田址、Ⅲ区南西隅部でサク状遺構を確認している。

水田の確認域は往時の低地部と認識され、特にⅣ区北西隅部を除く他の区域は微高地と認識される。

尚、前項に述べたように本調査面では、Hr-FA下水田とAs-C混土下擬似畦畔遺構群を一括調査していたため、本項では分割したAs-C混土下水田以降の遺構、遺物について報告する。

#### (2) Ⅱ区16・17・20号溝（第32図、P L 10）

**概要** Ⅱ区16・20号溝はⅡ区南側調査区西部に、Ⅱ区17号溝はⅡ区北側調査区の西部に位置する。また16・17号溝は覆土の比較から発掘調査時点で同一の溝と認識され、16・20号溝は位置的に同一の溝と判断される。尚、16号溝は北側が、17号溝は南北両側が、20号溝は南側が調査区外に出ていて全容を詳らかにすることはできなかった。

16・20号溝に於いては他遺構との重複は見られなかった。一方17号溝は18・19号溝と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

共に掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時期** 16・17・20号溝は古墳時代頃の所産とは認識されるものの、時期特定には至らなかった。

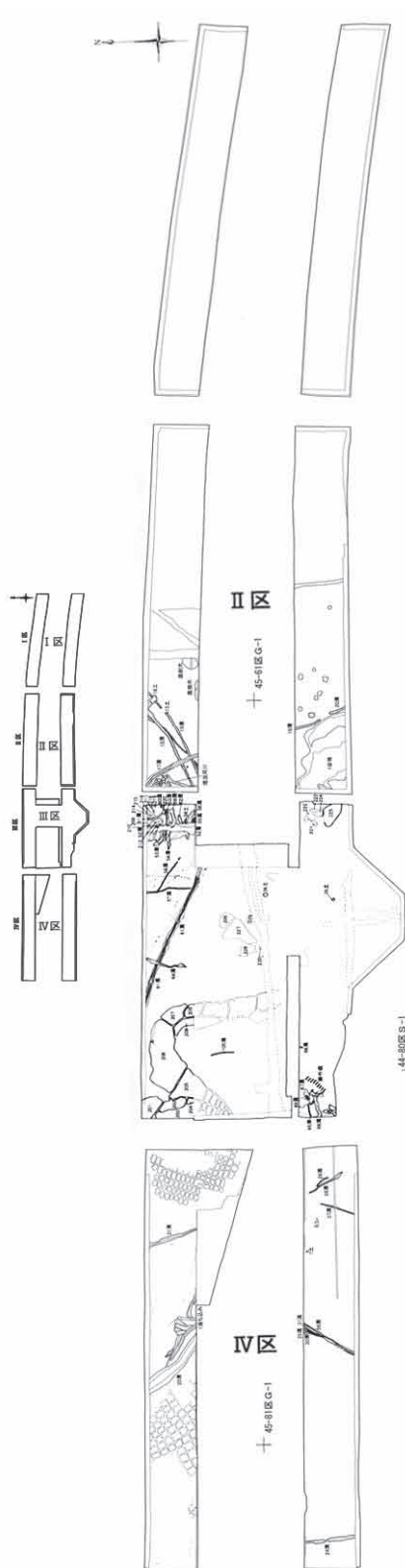
**規模**（16号溝）長さ 723cm 幅 70cm

深さ 18cm

（17号溝）長さ 1,632cm 幅 197cm 深さ 36cm

（20号溝）長さ 441cm 幅 73cm 深さ 15cm

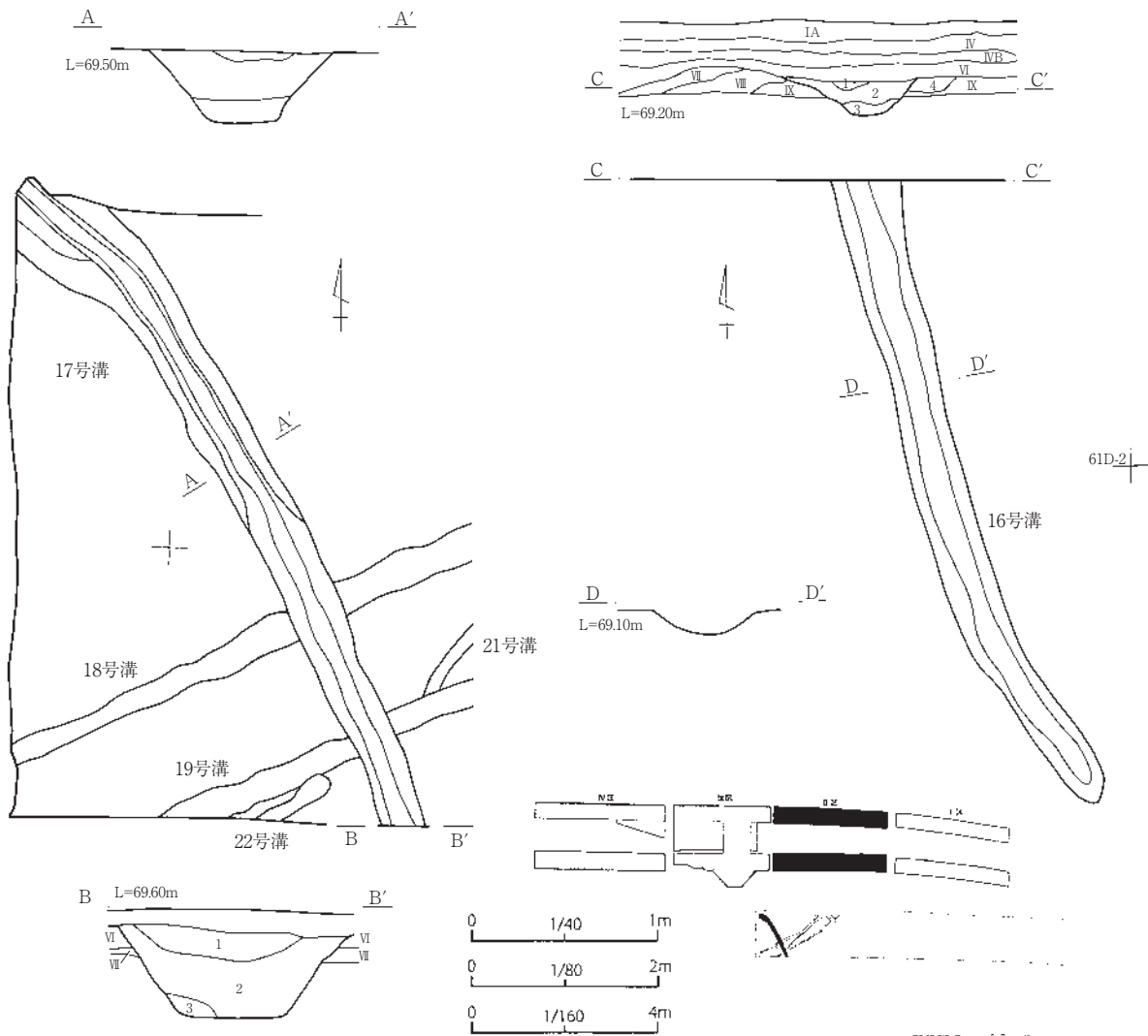
**構造** 16号溝の走行はN-W14°を向くが、南部では



第31図 6面全体図 (S=1/2000)



II 調査の記録



(標準土層)

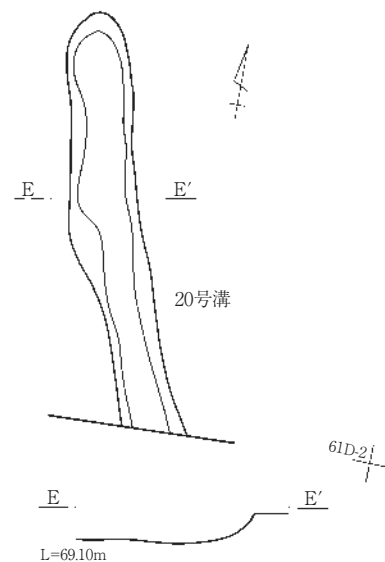
- I A : 灰黄褐色土(10YR5/2) : 現水田耕作土。
- IV : 黒褐色砂質土 : As-Bが混じる。
- IV B : 褐灰色粘質土(10YR5/1) : 含有物認められない。
- VI : 灰黄褐色粘質土(10YR4/2) : 固く締まっている。含有物は認められない。
- VII : にぶい黄橙色粘質土(10YR6/3) : 白色系に近い。含有物は認められない。
- VIII : 灰白色砂質土(10YR7/1) : やや淡いピンク色を呈す。
- IX : 灰色~灰黄色粘質土 : 黄色風化軽石・酸化凝集斑紋多く含む。

(16・17号溝覆土)

- 1 : 16・17号溝-1層は同一のものだが注記不備。
- 2 : 16・17号溝-2層は同一のものだが注記不備。
- 3 : 16・17号溝-3層は同一のものだが注記不備。
- 4 : 褐灰色粘質土(10YR4/1) : 灰色砂を10°含む。

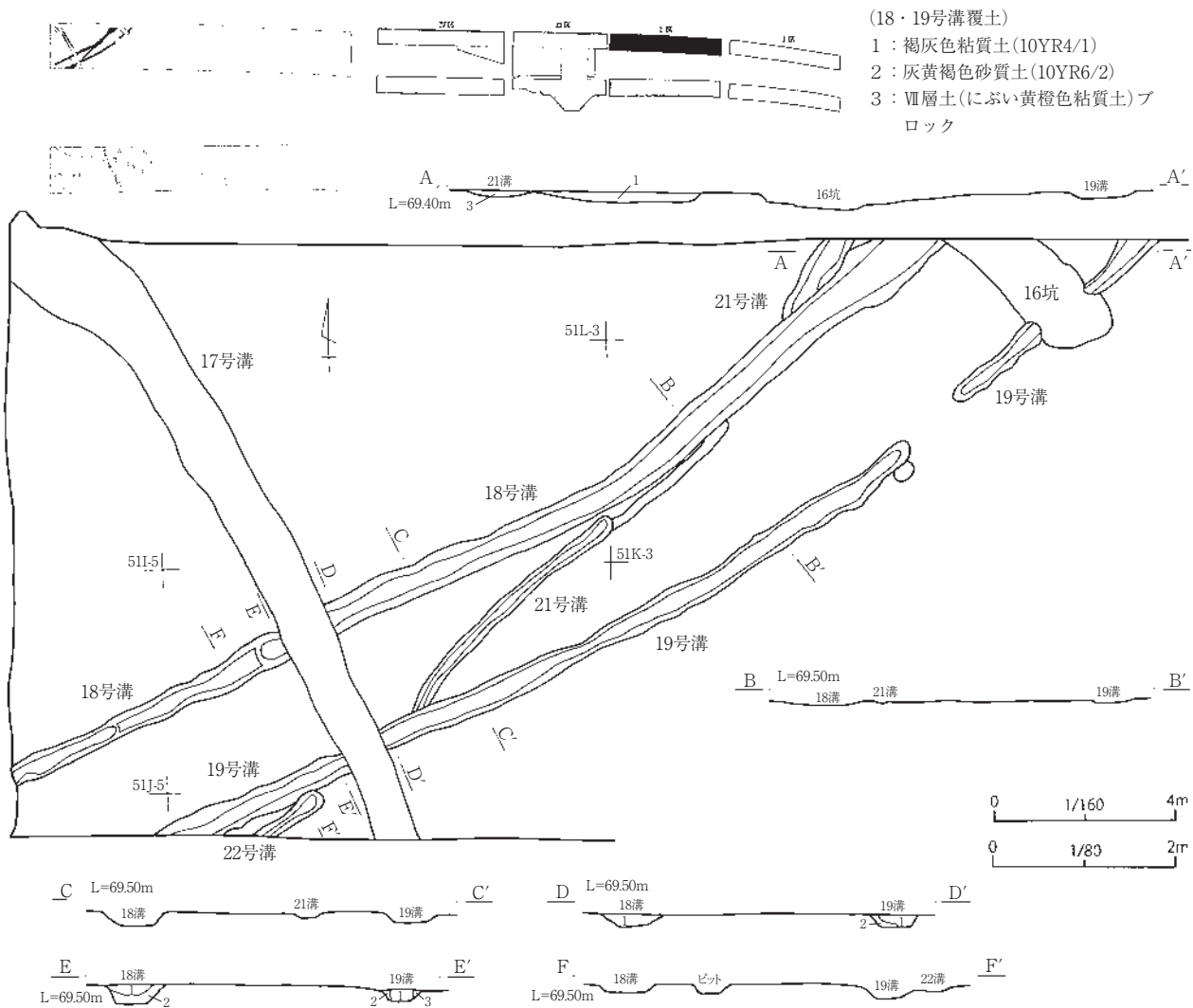
N-W35°を向き、へ字状のプランを呈する。17号溝はN-W23°方向に直線的なプランを呈するが、北側は緩やかに湾曲しながら北端部ではN-W41°に走行を変ずる。20号溝はく字状のプランを呈し、北半はN-W14°、南半はN-W25°方向を向く。

掘削形態は、何れの溝も箱堀状を呈している。



第32図 II区16・17・20号溝

3 第6面の調査



第33図 II区18・19・21・22号溝

(3) II区18・19号溝 (第33図、P L10)

**概要** II区18・19号溝はII区北側調査区西部に位置している。

両溝共にII区17・21号溝と、19号溝はII区22号溝、II区15・16号土坑と重複するが、何れも新旧関係を特定することはできなかった。

18・19号溝は240cm程隔たって位置することから道路遺構の側溝である可能性を有する。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 18・19号溝は古墳時代頃の所産と認識されるものの、時期特定には至らなかった。

**規模** (18号溝) 長さ 2,348cm 幅 137cm

深さ 14cm

(19号溝) 長さ 2,515cm 幅 62cm 深さ 13cm

**構造** 両溝共に西半部は直線的なプランを呈し、反時計回りに緩やかな弧を描きながら走行を転じ、東部で直線的なプランを見せる。走行の方向は18号溝は西部でE-N24°、東部でE-N38°、19号溝は西部でE-N23°、東部でE-N40°を向く。

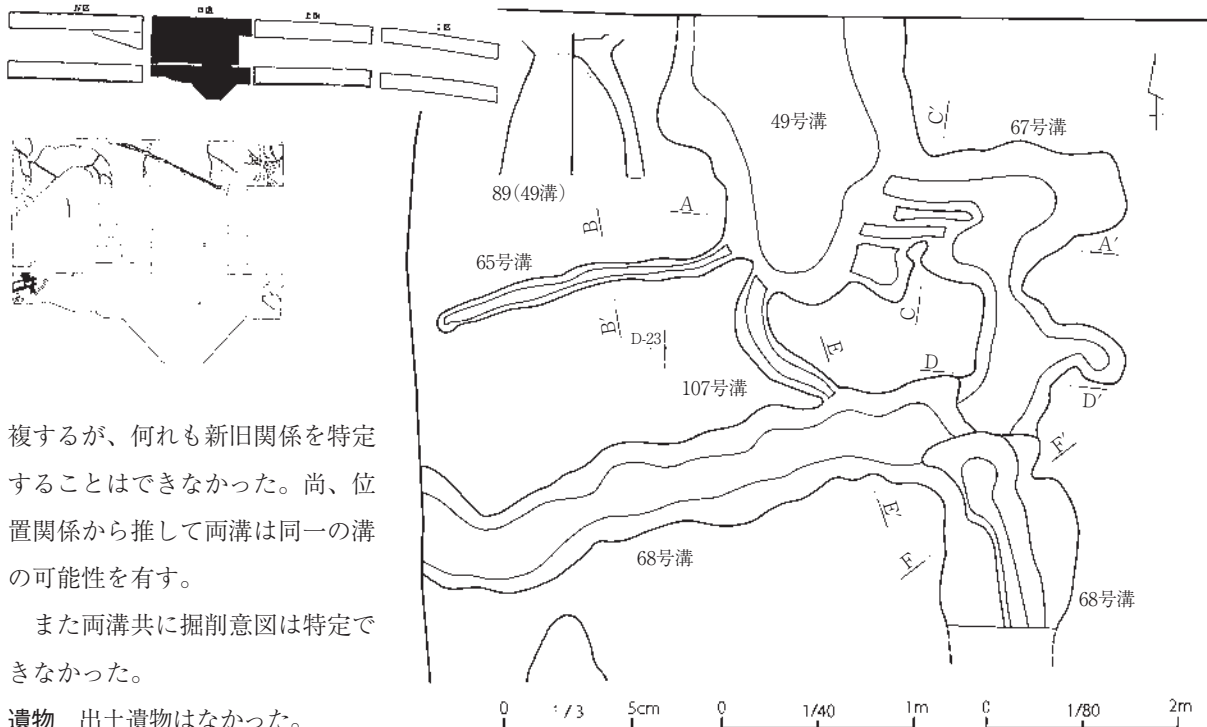
両溝共に掘削形態は箱堀状を呈する。

(4) II区21・22号溝 (第33図)

**概要** II区21・22号溝はII区北側調査区西部に位置する。両溝共に発掘調査段階では遺構番号が付されていなかったが、整理段階で番号を付した。

21号溝はII区18・19号溝と、22号溝は19号溝と重

II 調査の記録



復するが、何れも新旧関係を特定することはできなかつた。尚、位置関係から推して両溝は同一の溝の可能性を有す。

また両溝共に掘削意図は特定できなかつた。

遺物 出土遺物はなかつた。

時期 21・22号溝は古墳時代頃の所産と認識されるものの、時期特定には至らなかつた。

規模 (21号溝)

長さ 1,428cm 幅 78cm  
深さ 6cm

(22号溝) 長さ 175cm 幅 54cm 深さ cm

構造 21号溝の西端はN-E25°を向くが直ぐに時計回りに転じてE-N39°方向に直線的なプランで走行し、18号溝との重複範囲内で走行をN-E 33°に転じて直線的に走行して調査区外に出る。一方22号溝はE-N34°方向に直線的なプランを呈する。

掘削形態は21号溝は箱堀状、22号溝は薬研堀状を呈する。



(B-B')  
(65号溝覆土)  
1: 暗褐色シルト: マグネシウム沈着色あり。As-Cl %含む。

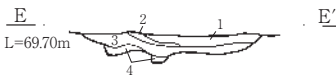
(A-A')  
(49・67号溝覆土)  
1: 灰色砂質土: 砂層でAs-Cを少量含む。鉄分の沈着見られる。  
2: 黒褐色シルト: As-Cを少量含む。鉄分の沈着がみられる。  
3: 暗褐色土: 粘性がある。鉄分の沈着がみられる。  
4: 灰黄色シルト: 鉄分の沈着がみられる。  
5: 黒褐色砂質土: シルト70%、砂30%。鉄分の沈着見られる。  
6: 黒褐色シルト: As-Cを少量含む、鉄分の沈着がない。



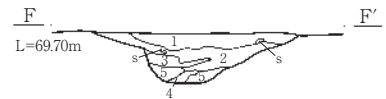
(C-C')  
(67号溝覆土)  
1: 暗褐色シルト: As-Cを少量含む、鉄分の沈着が多い。  
2: 灰褐色砂質土: 鉄分の沈着が多い砂層。  
3: 黄橙色: Hr-FA主体で、As-Cを少量と黒褐色土の小ブロックを含む。  
4: 黒褐色シルト



(D-D')  
(67号溝覆土)  
1: 灰色砂質土: 砂層でAs-Cを少量含む。  
2: 灰褐色砂質土: 1・3層土同量程度に混合。  
3: 橙色シルト: As-Cを僅かに含む。



(E-E')  
(68号溝覆土)  
1: 暗褐色砂質土: As-Cを少量含む。  
2: 灰色砂質土: 砂層、鉄分の沈着が少々ある。  
3: 灰黄色シルト:  
4: 暗褐色土: 粘性がある。



(F-F')  
(68号溝覆土)  
1: 暗褐色砂質土: As-Cを少量含む。  
2: 暗褐色粘質土: As-Cを少量含む。  
3: 灰黄色シルト:  
4: 浅黄色土: 崩れたAs-YP。

第34図 III区49・65・67・68号溝と49号溝出土遺物

## (5) Ⅲ区49・65・67・68・107号溝

(第34図、P L 11・12)

**概要** Ⅲ区49・65・67・68・107号溝はⅢ区南西隅に位置する。このうち49号溝は北側が、68号溝は西側が調査区外に出ていて確認できなかった。また68号溝南東部の深い部分(68号溝-B)は67号溝又は107号溝に接続していた可能性を有する。尚、107号溝の溝番号は発掘調査段階では付されておらず、整理段階で付した。

本溝群のうち49号溝は65・67・107号溝と重複するが、67号溝よりは新しいものの他の2条の溝遺構との新旧関係は特定できなかった。また68号溝は67・107号溝と重複するが、107号溝よりは新しいものの67号溝との新旧関係は特定できなかった。尚、68号溝-B部分が67号溝の延長部分ならば68号溝の方が新しい。

また何れの溝も掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 49号溝から高坏(89)等少量の土師器が出土したものの、他の溝からの出土遺物はなかった。

**時期** 古墳時代前後の時期の所産と認識できるだけで、本溝群各溝の時期は特定できなかった。

**規模** (49号溝) 長さ 307cm 幅 265cm

深さ 12cm

(65号溝) 長さ 319cm 幅 26cm 深さ 3cm

(67号溝) 長さ 427cm 幅 229cm 深さ 8cm

(68号溝) 長さ 775cm 幅 140cm 深さ 28cm

(68号溝-B 長さ 216cm 幅 71cm 深さ 28cm)

(107号溝) 長さ 176cm 幅 36cm 深さ - cm

**構造** 49号溝は一部を調査できたに過ぎなかったが確認範囲では軸がN-W7°を向き、緩やかな湾曲が見られる。65号溝は西からE-N17・4・25°と走行を変じながら極緩やかに蛇行し、東端は49号溝に接する。67号溝は49号溝からE-S1°方向に3筋の溝で発してS-E8°方向に転じて合流するが、この屈曲部からE-S1°方向に110cm程の突出部を伴う。更に南方でS-W27°方向に転じて南端は68号溝に至るが、この屈曲部でE-N5°からS-E37°方向に湾曲する82cm程の短い突出部がある。68号溝はW-N32°方

向から調査区に入り、直ぐにE-N15度方向に転じて比較的直線的なプランで走行し、東端でE-S36°、更にS-W3°方向に転じて直線的に走行するが、直ぐに滅失している。また屈曲部より南ではS-E15°方向に極緩やかな弧を描く僅かに深い部分が在る。107号溝は49号溝から発し、S-W4°、S-E38°、E-S20°と反時計回り方向に弧状に走行を転じながら、時計回り方向気味に68号溝に接して、以南の状態は確認できない。

掘削形態は何れの溝も箱堀状を呈する。

## (6) Ⅲ区51～56・59・60・62号溝

(第35図、P L 11)

**概要** Ⅲ区51～56・59・60・62号溝はⅢ区北東部に集中して位置する。このうち51号溝は北側が、52号溝は南北両側が、55・56号溝は南側が調査区外に出ていて全容は確認できなかった。また、60号溝は溝としたが、土坑状を呈している。

これらの溝のうち51号溝は53号溝と、52号溝は53～56・59・62号溝と、53号溝は59号溝と重複し、56・62号溝も位置的に重複するものと見られる。このうち52・59号溝は位置的に同時期の可能性が考慮されるものの、何れも新旧関係は特定できなかった。56号溝はⅢ区34号土坑と重複するが、新旧は不明。また各溝共に土層の観察から重複する6面の水田址より新しいものと見られる。

何れの溝も掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 52号溝から若干の土師器が出土しただけで、他の溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 各溝共に6～8世紀以降の所産と認識されるだけで、時期特定には至らなかった。

**規模** (51号溝) 長さ 690cm 幅 138cm

深さ 18cm

(52号溝) 長さ 1,275cm 幅 222cm 深さ 44cm

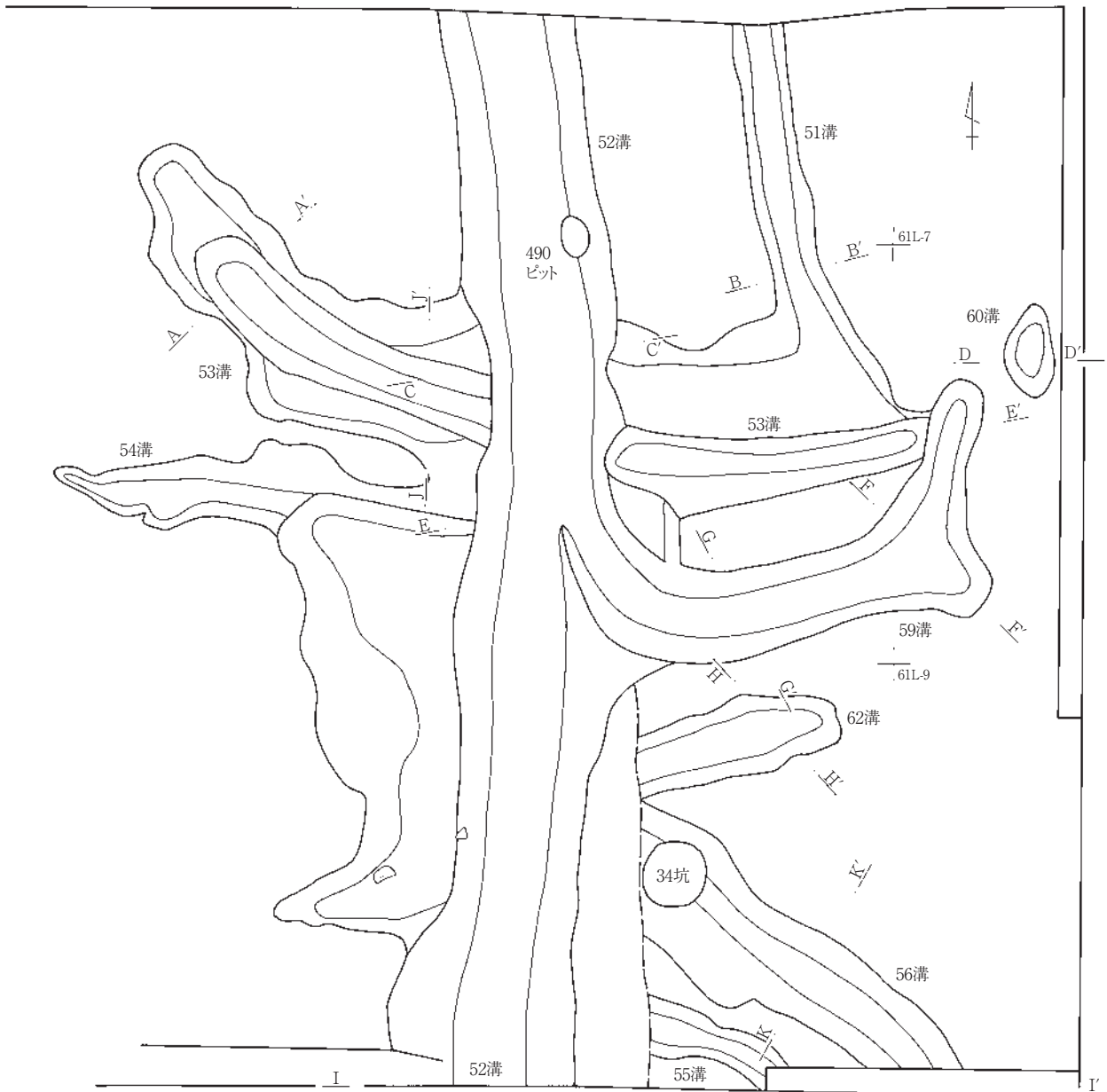
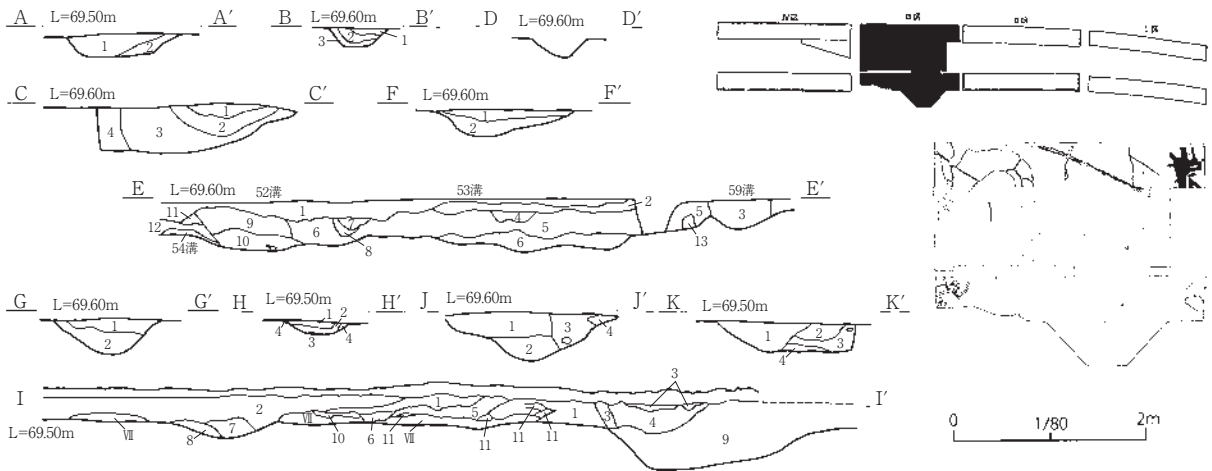
(53号溝) 長さ 1,040cm 幅 171cm 深さ 33cm

(54号溝) 長さ 497cm 幅 526cm 深さ 20cm

(55号溝) 長さ 158cm 幅 67cm 深さ 12cm

(56号溝) 長さ 413cm 幅 142cm 深さ 33cm

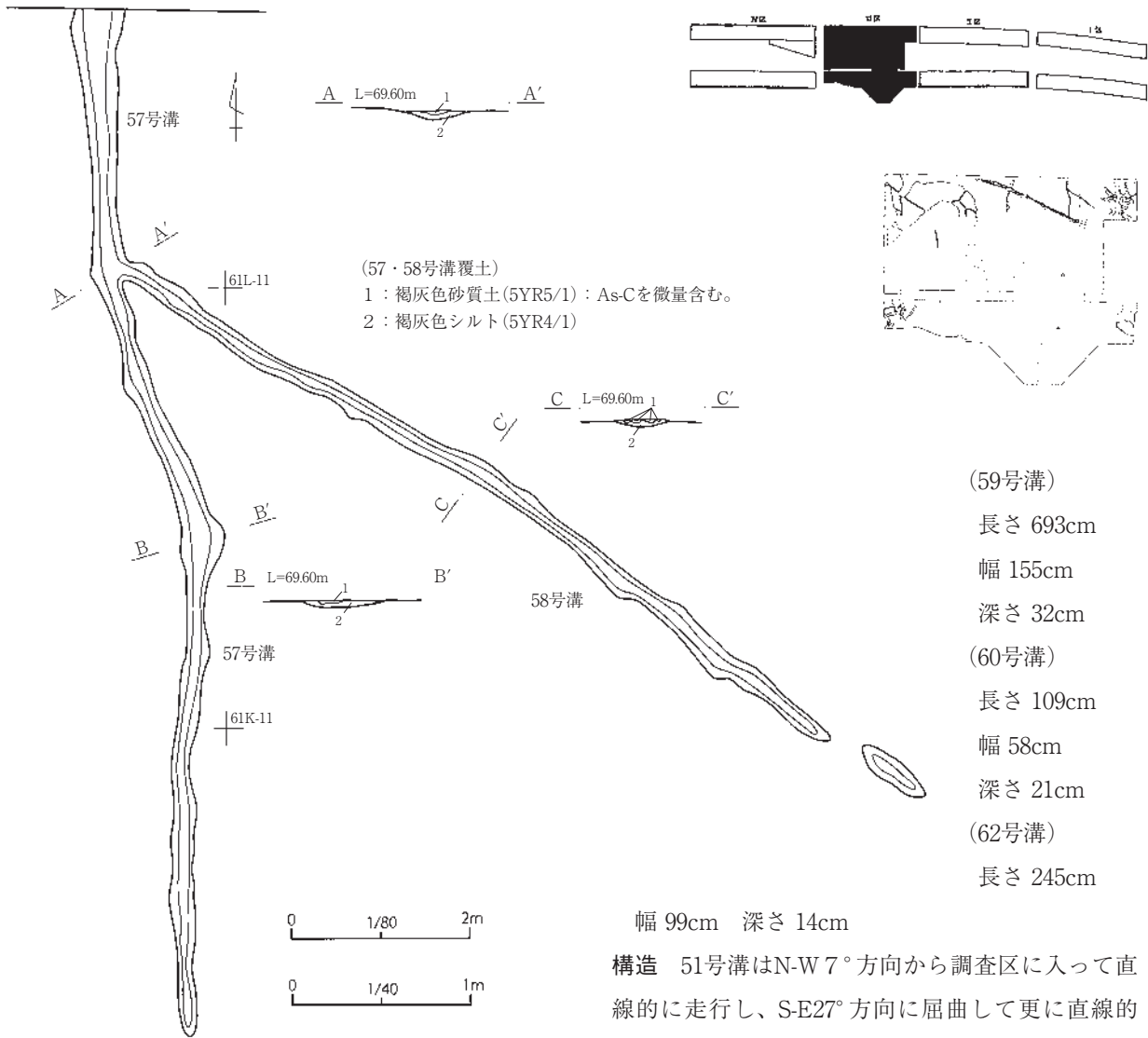
II 調査の記録



第35図の1 III区51・56・59・60・62号溝

- |                               |                        |                          |                     |
|-------------------------------|------------------------|--------------------------|---------------------|
| (A-A': 53号溝覆土)                | 積(54号溝)。               | 2: 洪水砂: 灰色シルト混。          | 6: As-C混灰褐色砂質土      |
| 1: 黒色シルト                      |                        | 3: 黄色洪水層: 色調明い。          | 7: 注記不備             |
| 2: 灰色シルト+黒色シルト: 5mm大白色軽石5%。   | (E-E': 52・53・59号溝覆土)   |                          | 8: 黒色砂質土            |
| (B-B': 51号溝覆土)                | 1: 黒色粘土                | (H-H': 62号溝覆土)           | 9: 洪水シルト            |
| 1: 灰色シルト: As-C微量。固く締る。酸化色30%。 | 2: 黄白色シルト: 洪水層。        | 1: 灰褐色シルト                | 10: Hr-FA混土         |
| 2: 灰色シルト: 酸化色50%。             | 3: 黒色粘土                | 2: 灰褐色シルト: 砂とAs-Cが50%ほど。 | 11: Hr-FA           |
| 3: 灰色シルト: 粘質土を含む。酸化色20%。      | 4: 黒灰色シルト: 砂40%。       | 3: 灰色砂質ブロック              | (J-J': 53号溝覆土)      |
| (C-C': 52・54号溝覆土)             | 5: 黒灰色シルト: 砂10%。       | 4: 地山(灰色粘土)              | 1: 灰色+黄白色シルト        |
| 1: 黒泥粘土                       | 6: 黒灰色砂: シルト僅か。        | (I-I': 52・55・56号溝)       | 2: 灰色シルト: 水性。       |
| 2: 灰・黒灰色シルト: 水性堆積。            | 7: 灰色シルト: 洪水層。         | 1: 灰褐色粘質土: 色調暗く夾雑物なし。    | 3: 黒泥VII            |
| 3: 黄白色+灰色シルト+砂利: 水性堆積。        | 8: 黒灰色シルト              | 2: 洪水IVBに似る。             | 4: Hr-FA            |
| 4: 黒灰色+灰色シルト: 水性堆積。           | 9: 黄白色シルト: 洪水層。        | 3: 灰褐色シルト:               | (K-K': 56号溝覆土)      |
|                               | 10: 黄白色シルト: 砂20%、水性堆積。 | 4: 黒灰色シルト                | 1: 桃灰色シルト: 水性洪水層。   |
|                               | 11: 黄色砂                | 5: 灰褐色粘質土: Hr-FAシミ状20%。  | 2: 灰色粘土(VIII主)      |
|                               | (F-F'・G-G': 59号溝覆土)    |                          | 3: 黒色砂質土(As-C多く含む。) |
|                               | 1: 黒灰色シルト              |                          | 4: As-C             |

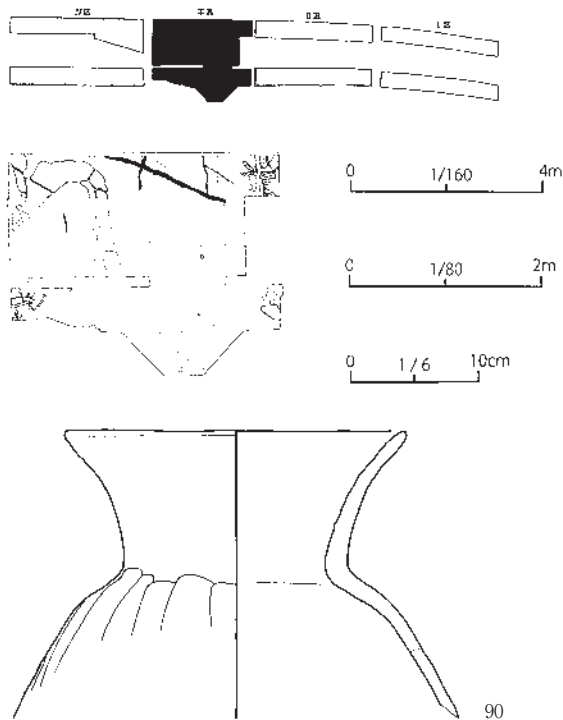
Ⅲ区51~56・59・60・62号溝 (土層注記)



第36図 Ⅲ区57・58号溝

構造 51号溝はN-W 7°方向から調査区に入って直線的に走行し、S-E27°方向に屈曲して更に直線的に走行して53号溝に南を切られる。52号溝はN-W 7°方向から入って直線的に走行するが、途中緩や

## II 調査の記録



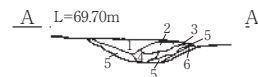
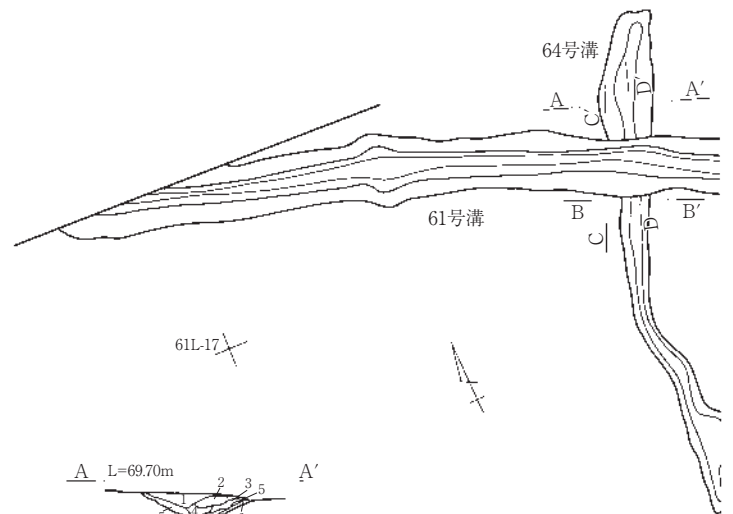
かに屈曲してS-W $5^{\circ}$ 方向に直線的に走って南側調査区外に出る。53号溝は西からN-W $43^{\circ}$ 、E-S $23^{\circ}$ 、E-N $11^{\circ}$ 方向に転ずる弧状のプランを呈する。54号溝はE-N $5^{\circ}$ からE-S $10^{\circ}$ に転ずる弧状のプランを呈するが、西端はW-N $25^{\circ}$ 方向に短く突出する。55号溝は弧状のプランを呈してE-S $12^{\circ}$ からE-S $43^{\circ}$ 方向に転じる。56号溝はE-S $27^{\circ}$ からS-E $40^{\circ}$ 方向に緩やかに蛇行しながら転ずる。59号溝は西側52号溝からS-E $27^{\circ}$ 方向に分岐してE-N $17^{\circ}$ 方向に転じ、更にN-E $12^{\circ}$ 方向に転じて直線的に走行するが、後者の変換点からE-S $17^{\circ}$ 方向に39cm程突出する。60号溝は長軸をN-E $4^{\circ}$ 方向に向ける隅丸二等辺三角形のプランを呈する。62号溝はE-N $15^{\circ}$ 方向に直線的に走行する。

掘削形態は何れの溝も箱堀状を呈する。

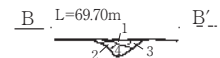
### (7) Ⅲ区57・58号溝 (第36図)

**概要** Ⅲ区57・58号溝はⅢ区北西部に位置しているが、遺存状態は良好ではなく、57号溝は北側が調査区外に出ていて全容を確認できなかった。

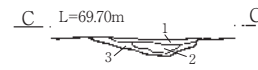
両溝は58号溝が57号溝から分岐するように在って



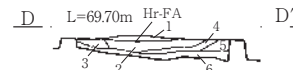
- (A-A' : 64号溝覆土)
- 1 : 明黄褐色シルト : As-Cを20%含む。
  - 2 : 褐灰色シルト : As-Cを10%含む。
  - 3 : 暗紫灰色シルト : As-Cを少々含む。
  - 4 : 灰白色シルト : 粘性に富んでいる。
  - 5 : 褐灰色砂質土 : 砂層。
  - 6 : 黒褐色粘質土



- (B-B' : 64号溝覆土)
- 1 : 明黄褐色シルト : As-C、砂を含む。
  - 2 : 褐灰色シルト : Hr-HAブロック粒混入。
  - 3 : 暗紫灰色シルト :
  - 4 : 灰色砂質土 : 砂層、As-Cを少量含む。



- (C-C' : 61号溝覆土)
- 1 : 灰色シルト : As-C微量含む。酸化色10%。
  - 2 : 灰色砂質土 : As-C微量含む。酸化色30%。
  - 3 : 灰色シルト : 粘土質を含む。
  - 4 : 地山(Hr-FA黒灰シルト)



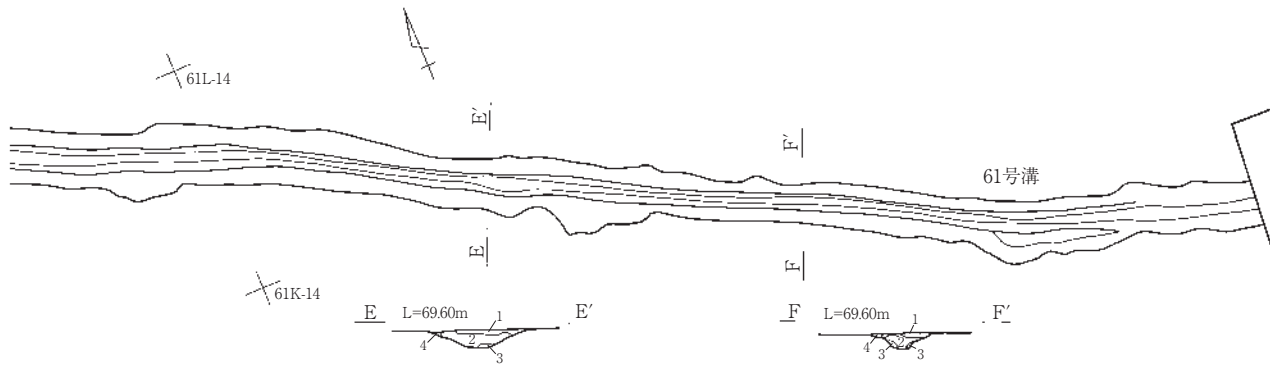
- (D-D' : 61・64号溝覆土)
- 1 : 明黄褐色シルト : As-C、砂を含む。
  - 2 : 黒褐色土 : 粘性に富む。
  - 3 : 褐灰色シルト : やや粘性あり
  - 4 : 褐灰色シルト : 砂質を30%程度含む。
  - 5 : 暗紫灰色シルト
  - 6 : 灰黄褐色砂質土 : 砂層。

第37図の1 Ⅲ区61・64号溝と出土遺物

重複しているが、少なくとも57号溝が58号溝より古いことはなく、寧ろ覆土の観察所見から推して両溝は同時期の所産と判断されるものである。また57・58号溝は6面の水田址と重複しているが、土層の観察所見から推して水田址より新しいものと判断される。

尚、両溝共に掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。



(E-E'・F-F'：61号溝覆土)

- 1：灰色シルト：As-C微量含む。酸化色10%。
- 2：灰色砂質土：As-C微量含む。酸化色30%。
- 3：灰色シルト：粘土質を含む。
- 4：地山(Hr-FA黒灰シルト)

第37図の2 III区61号溝

**時期** 57・58号溝も6～8世紀の所産と認識できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** (57号溝) 長さ 1,167cm 幅 57cm  
深さ 5cm

(58号溝) 長さ 1,082cm 幅 31cm 深さ 6cm

**構造** 57号溝はN0°方向から調査区内に入って直線的に南方向に走行するが、その中程に於いてS-E20°、S-W10°と逆く字状に屈曲して走り、南部ではS-E2°方向に転じて直線的に走る。また58号溝は57号溝の北寄りからE-S30°方向に分岐し、僅かな蛇行を見せ乍も概ね直線的に走行しているが、東半部では走行をE-S37°方向に変じている。

掘削形態は両溝共に箱堀状を呈するが、底面の横断面形は丸底状を呈する。

(8) III区61・64号溝 (第37図、P L12・67)

**概要** III区61・64号溝はIII区中北部に位置している。このうち61号溝は東西両側が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

61・64号溝は重複しているが、61号溝が64号溝を切っている。

また両溝は共に覆土の観察から水路であったものと思慮される。

**遺物** 61号溝からは甕(90)等若干の土師器、64号

溝からはわずかな土師器片の出土が見られた。

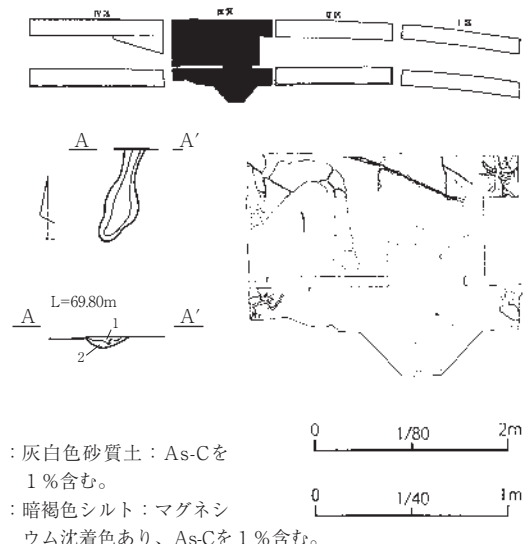
**時期** 61号溝は出土遺物から6世紀頃、64号溝は6～8世紀の所産と認識されるものの、時期の特定には至らなかった。

**規模** (61号溝) 長さ 4,028cm 幅 165cm  
深さ 23cm

(64号溝) 長さ 1,232cm 幅 109cm 深さ 24cm

**構造** 上述のように61号溝の全容は確認できなかったのであるが、全体的にはW-N23°方向に軸線を取り、緩やかに蛇行する走行を見せている。一方64号溝は、中・北部に於いてはN-E22°方向に直線的な走行を見せるが、南部でN-W20°、N-E2°に走行を転じている。

掘削形態は61・64号溝共に薬研堀状を呈する。



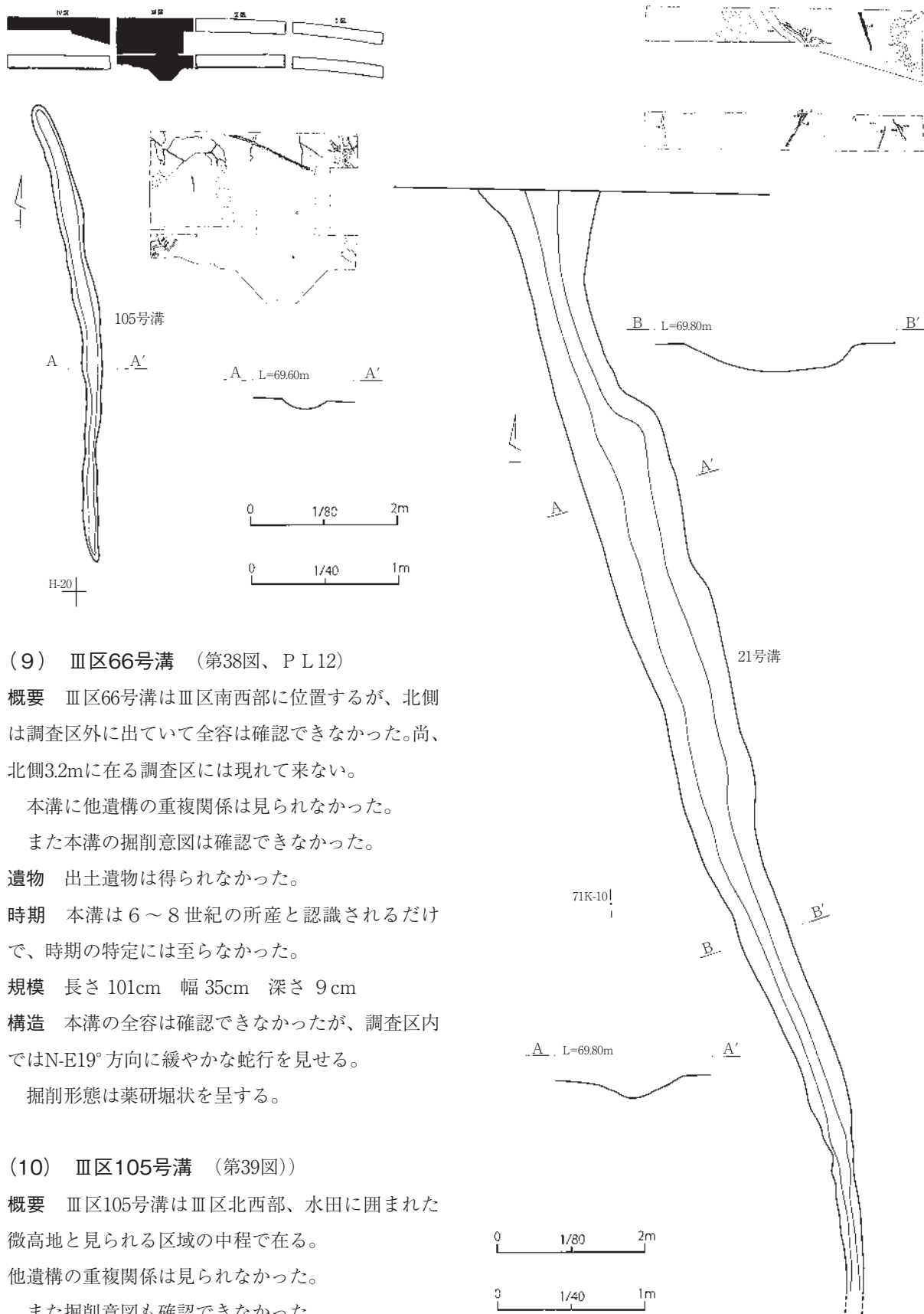
1：灰白色砂質土：As-Cを1%含む。

2：暗褐色シルト：マグネシウム沈着色あり、As-Cを1%含む。

第38図 III区66号溝



## II 調査の記録



### (9) Ⅲ区66号溝 (第38図、P L12)

**概要** Ⅲ区66号溝はⅢ区南西部に位置するが、北側は調査区外に出ていて全容は確認できなかった。尚、北側3.2mに在る調査区には現れて来ない。

本溝に他遺構の重複関係は見られなかった。

また本溝の掘削意図は確認できなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は6～8世紀の所産と認識されるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ101cm 幅35cm 深さ9cm

**構造** 本溝の全容は確認できなかったが、調査区内ではN-E19°方向に緩やかな蛇行を見せる。

掘削形態は薬研堀状を呈する。

### (10) Ⅲ区105号溝 (第39図))

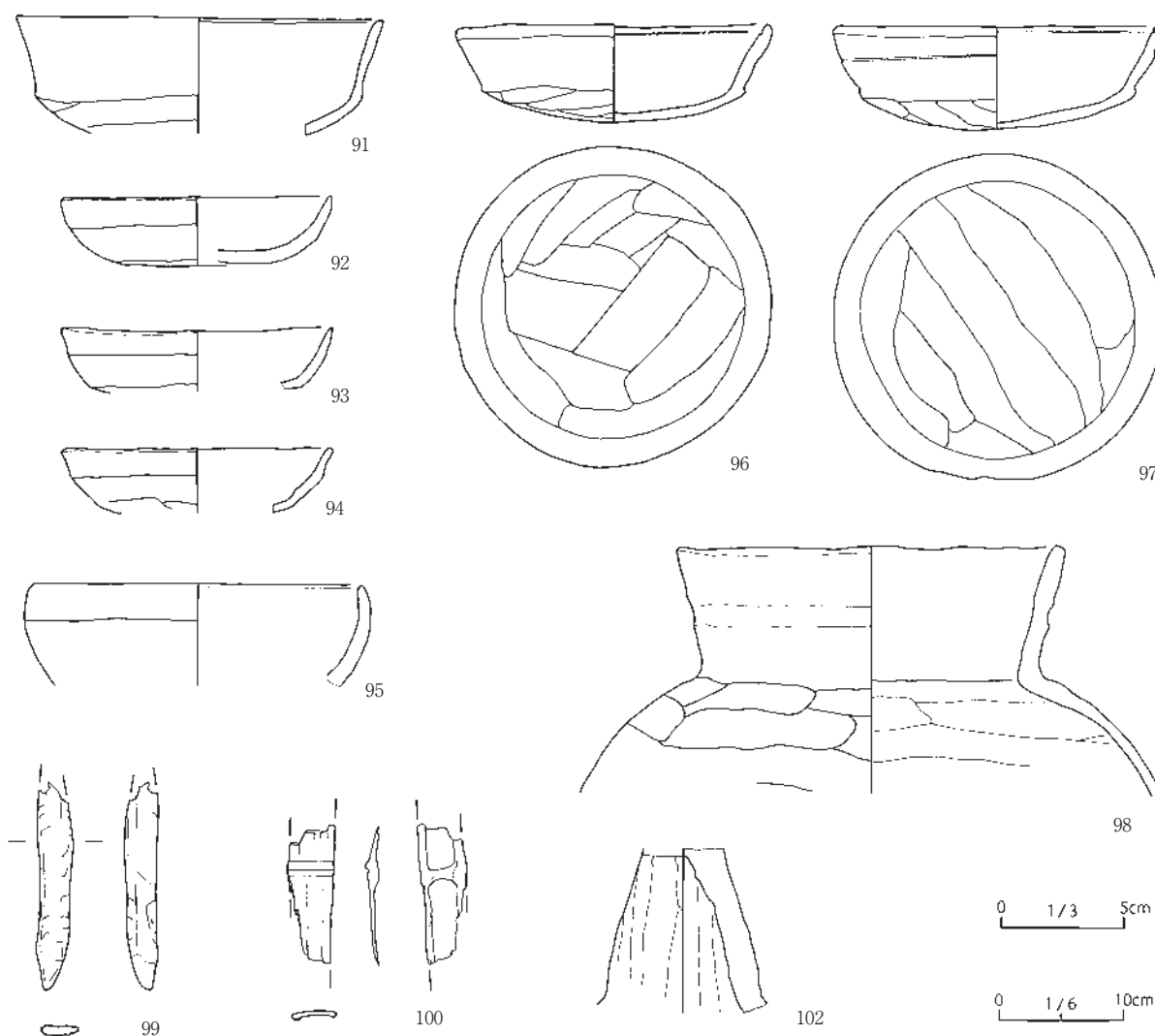
**概要** Ⅲ区105号溝はⅢ区北西部、水田に囲まれた微高地と見られる区域の中程で在る。

他遺構の重複関係は見られなかった。

また掘削意図も確認できなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

第39図 Ⅲ区105号溝 (左上) とⅣ区21号溝 (右)



第40図 IV区22号溝出土遺物

**時期** 本溝は6～8世紀の所産と認識されるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ632cm 幅33cm 深さ6cm

**構造** 本溝は北部ではS-E28°を向き、緩やかな時計回りの弧を描きながらS0°方向に転じて、極緩やかに蛇行するものの直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(11) IV区21号溝 (第39図、P L13)

**概要** IV区21号溝はIV区北側調査区東部に在る。北側は調査区外に出ていて、南側は滅失している。

他遺構との重複は見られなかった。

また掘削意図も確認できなかった。

**遺物** 本溝からは若干の出土があった。

**時期** 本溝も6～8世紀の所産と認識されるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ1,348cm 幅125cm 深さ25cm

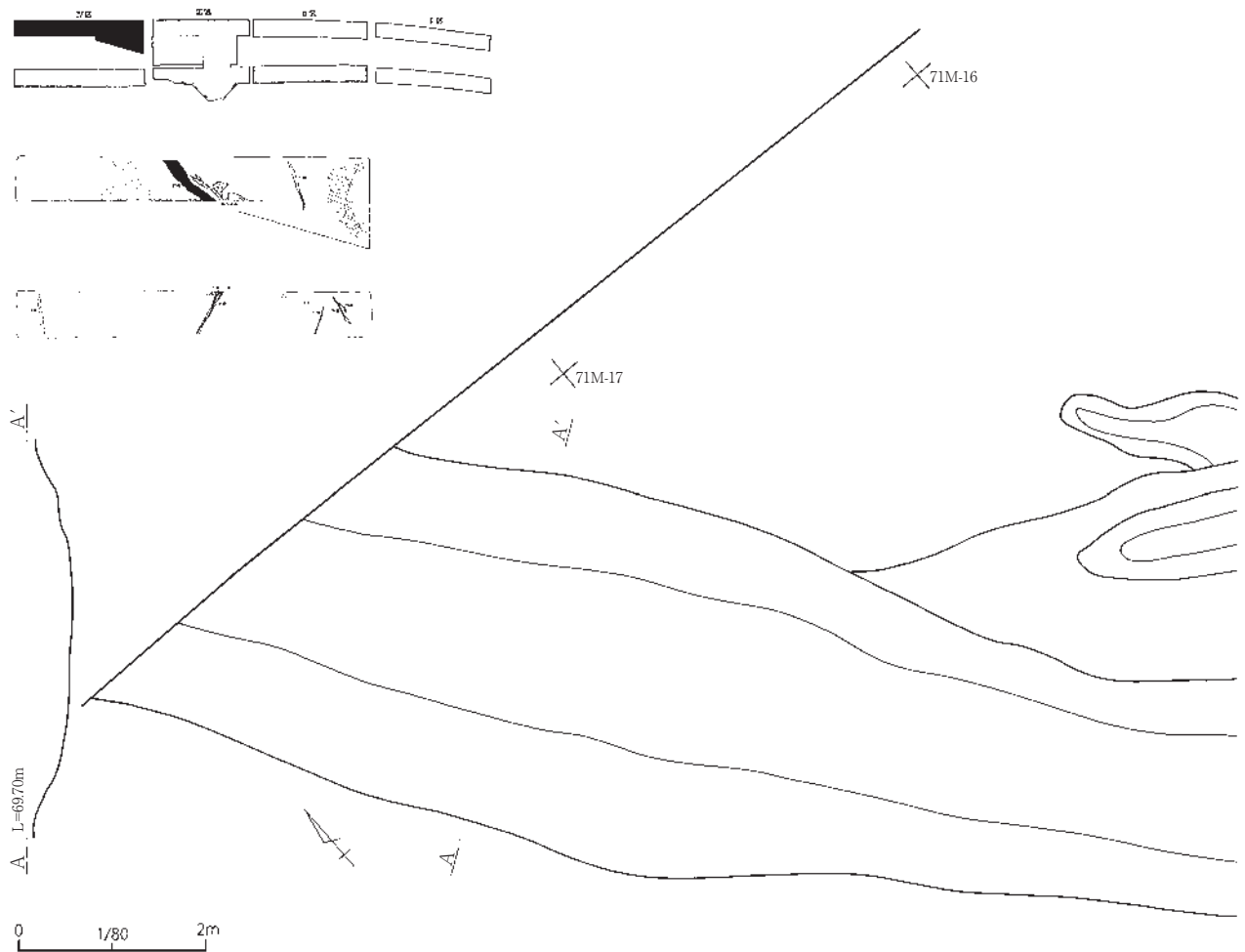
**構造** 本溝はS-W17°を向き、僅かに蛇行するものの直線的な走行を見せるが、南端部では時計回りに弧を描いてS-W4°方向に転じている。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(12) IV区22号溝 (第40・41図、P L13・67)

**概要** IV区22号溝はIV区北側調査区中東部に位置する。南北両側が調査区外に出ており、一部を調査できたに過ぎなかった。

## II 調査の記録



第41図の1 IV区22号溝

本溝は1号落ち込みと重複し、この他本溝に伴うか否か判断できない単独や束状の溝遺構と重複関係にあるが、何れに対しても新旧関係を確認することはできなかった。

また本溝の掘削意図は特定できなかったが、上位面の溝群の性格から推して自然地形に沿った流路を改修した水路としての使用が考えられる。

**遺物** 本溝からは坏(91~97)・壺(98)等多くの土師器片や不明木製品(99)、竹製品(100)、種子(101)、板碑を含む礫などの出土が得られた。

**時期** 本溝は出土遺物から推して8世紀後半の所産として把握したい。

**規模** 長さ1,930cm 幅399cm 深さ39cm

**構造** 本溝は北半はN-W40°、南半はE-S35°を向き、それぞれ直線的に走行する。尚、南半部の底面は南

北二筋に分かれる。断面観察が行えなかったため明瞭ではないが、掘り直しがあったものと認識される。

掘削形態は箱堀状を呈する。

### (13) IV区24号溝 (第42図、P L13)

**概要** IV区24号溝はIV区南側調査区西端近くに位置する。南北両側が調査区外に在り、一部を調査できたに過ぎない。また、中位で一時途切れている。

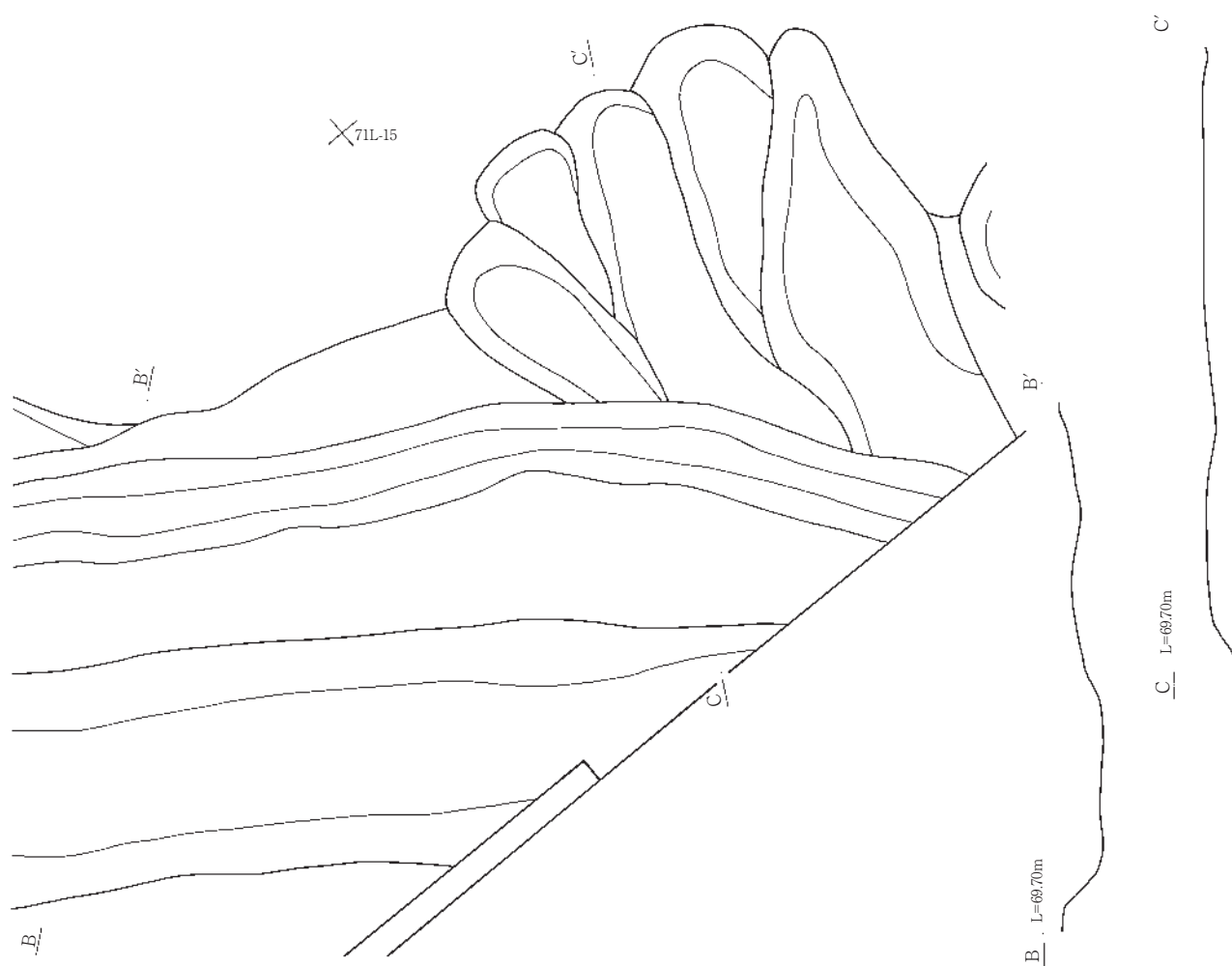
本溝と他遺構との重複は確認されなかった。

掘削意図は特定できなかったが、途中途切れる箇所があることから区画溝の可能性が考慮される。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は6~8世紀の所産と認識できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ1,321cm 幅113cm 深さ18cm



第41図の2 IV区22号溝

**構造** 上述のように本溝は南北両側が調査区外に在るため全容は詳らかでないが、調査区内では中程で24cm程途切れて南北に別れている。北側はN0°、南側はN-W6°を向いて直線的に走行するが、南側のものは南端でN0°に走行を変じている。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(14) IV区25・26・30・31号溝

(第42図、P L 13)

**概要** IV区25・26・30・31号溝はIV区南側調査区の中程に位置している。何れも北側は調査区外に出ており、南側は26号溝が調査区外に出ていて確認できなかった他、30・31号溝は重複によって確認できなかった。

25号溝は26・30・31号溝と、26号溝は31号溝と重

複する。このうち25号溝は30号溝より新しく、26号溝は25号溝より新しいことを確認したものの、31号溝と他の溝との新旧関係を特定することはできなかった。

各溝共に流水の可能性は否定できないものの、特段の掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 各溝は6～8世紀の所産と認識できただけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** (25号溝) 長さ 985cm 幅 67cm

深さ 9cm

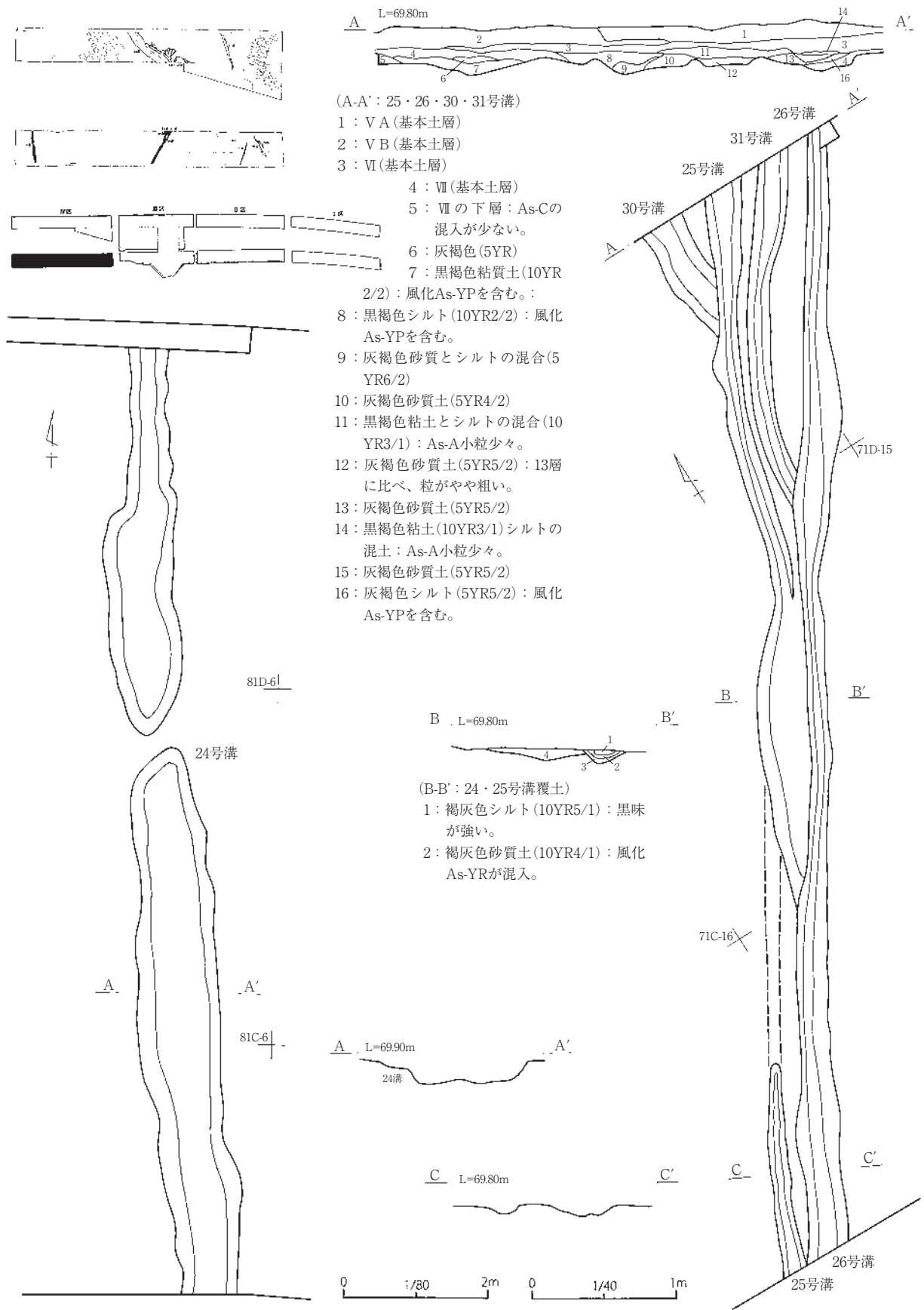
(26号溝) 長さ 1,573cm 幅 97cm 深さ 7cm

(30号溝) 長さ 158cm 幅 70cm 深さ 12cm

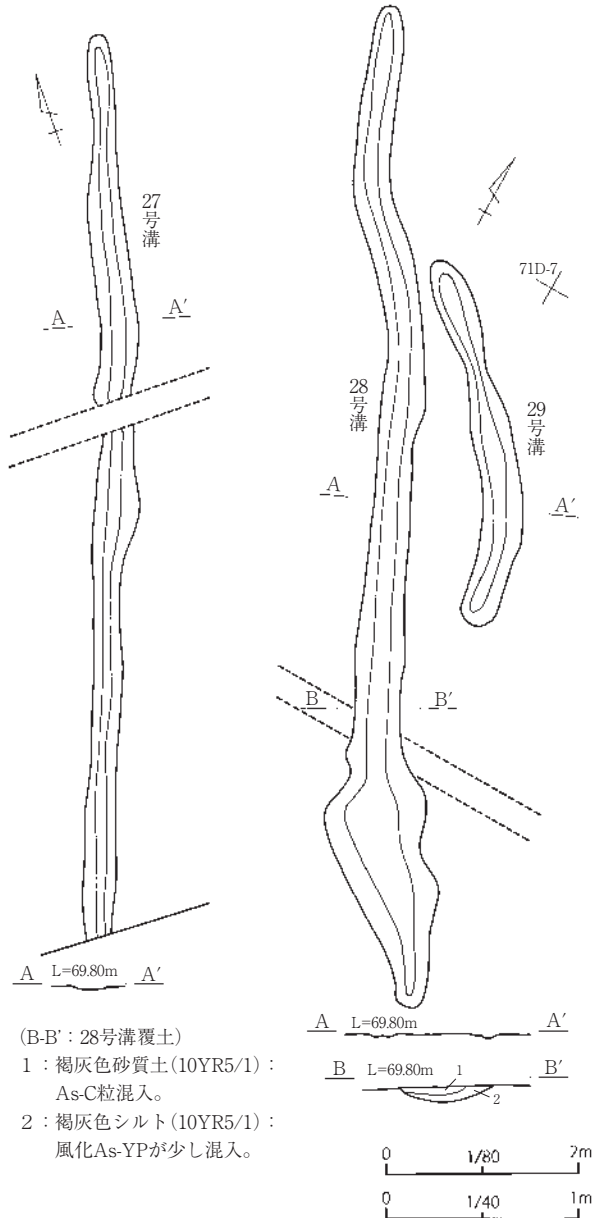
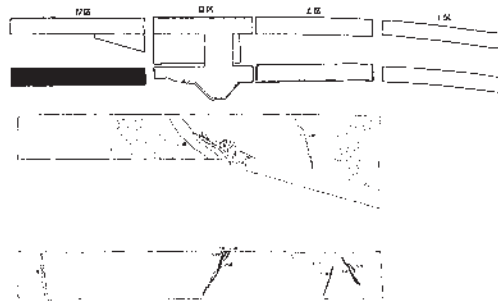
(31号溝) 長さ 470cm 幅 40cm 深さ 6cm

(延長部分溝) 長さ 302cm 幅 37cm 深さ 6cm

II 調査の記録



第42図 IV区24号溝 (左) 及びIV区25・26・30・31号溝 (右)



第43図 IV区27号溝(左)及び28・29号溝(右)

**構造** 上述のように25・26・30・31号各溝は全容を把握できなかったが、調査区に於いて25号溝は

N-E31°方向から調査区に入り、直線的に走行した後に弧を描きながらN-E16°方向に転じて屈曲し、N-E28度方向に転じ、直線的に走行して26号溝と重なる。26号溝は極緩やかな蛇行を見せるものの比較的直線的なプランをしており、北側ではN-E33°、南側ではN-E30°方向を向く。30号溝は北側からS-W5°方向に調査区に入り、弧を描きながらS-E13°方向に転じて25号溝にぶつかる。31号溝は北側からS-W32°方向に調査区に入って直線的に走り、S-W38°、S-W28°、S-W5°と弧を描きながら走行を転じて26号溝にぶつかる。

掘削形態は何れの溝も箱堀状を呈する。

(15) IV区27・28・29号溝 (第43図、P L13)

**概要** IV区27・28・29号溝はIV区南側調査区の東部に位置する。共に遺存状態は良好ではなく、27号溝は南側が調査区外に出ていて確認することはできなかった。

何れの溝も他遺構との重複は見られなかった。

各溝共に流水の可能性は否定できないものの、特段の掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 27号溝からは若干の土師器片の出土が見られたが、28・29号溝の出土遺物はなかった。

**時期** 各溝共に6～8世紀の所産と把握できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** (27号溝) 長さ 950cm 幅 48cm 深さ 3cm

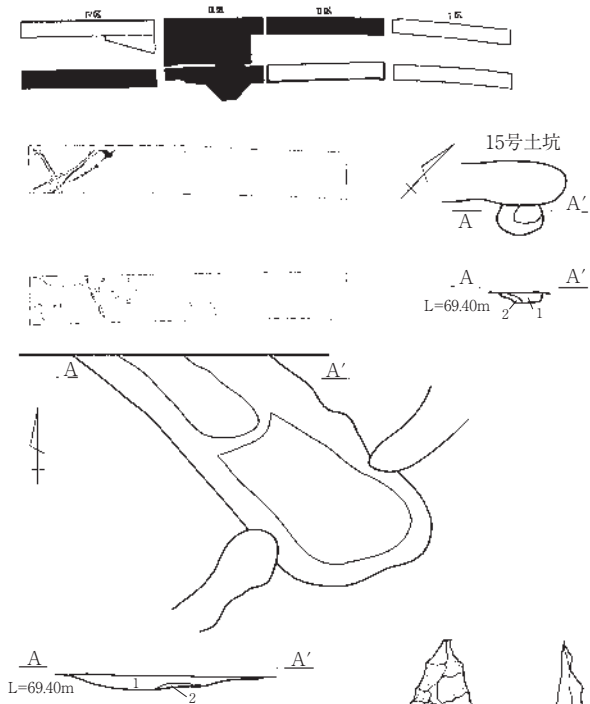
(28号溝) 長さ 1,055cm 幅 109cm 深さ 7cm

(29号溝) 長さ 485cm 幅 40cm 深さ 3cm

**構造** 27号溝は全容を確認できなかったが、北側はS-E18°、南側はS-E22°に走行を取り、やや蛇行するものの全体的には直線的な走行を見せる。28号溝はN-W23°、N-W43°、N-W28°、N-W33°と走行を転ずるがそれぞれは直線的に走る。29号溝は弧状のプランを呈し、北側ではN-W39°、南側ではN-W8°方向に走行を取っている。

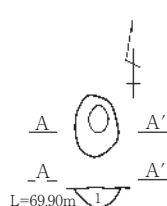
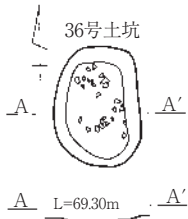
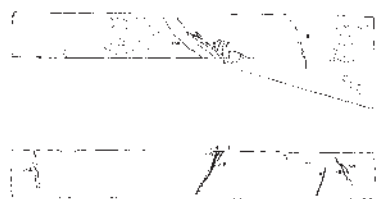
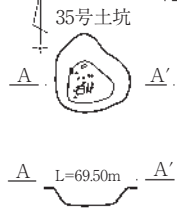
27・28・29号溝は共に遺存状態が良好ではないため掘削形態は不明瞭なところもあるが、何れの溝も概ね箱堀状を呈するものと判断される。

II 調査の記録



- (II区15号土坑)  
 1: 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)  
 2: 灰黄褐色土(10YR6/2): 1層  
 土とⅦ層土ブロックの混土。

- (II区16号土坑)  
 1: 灰黄褐色土(10YR5/2): 褐色砂30%  
 含む。  
 2: Ⅶ層土ブロック  
 (標準土層) Ⅶ: にぶい黄橙色粘質土(10YR6/3)  
 : 含有物は認められない。

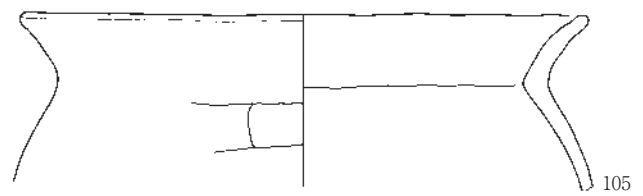
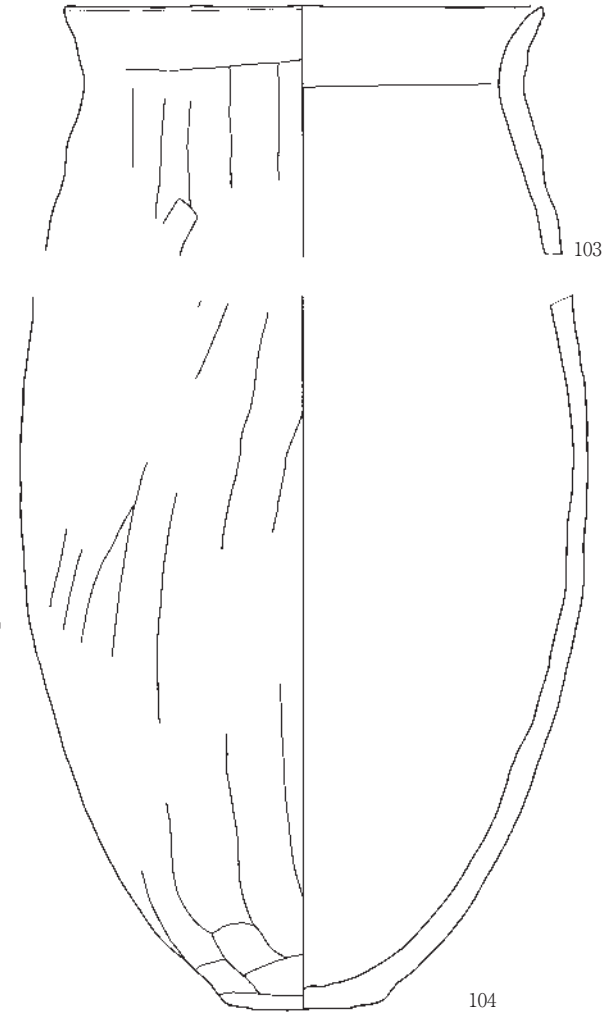


- (IV区7号土坑)  
 1: 粘質土(10YR2/1): As-C  
 (直径1mm)とⅦ層小ブ  
 ロック(直径0.5cm前後)  
 を3%含む。

- (IV区8号土坑)  
 1: 黒色土(10YR2/1): As  
 -C(径1mm)1~2%  
 とⅦ層ブロック(径2  
 ~3cm)10~20%含む。

(16) 6面の土坑群 (第44図、P L14・67)

概要 6面ではII区北側調査区西寄りではII区15・16号土坑、III区北東部でIII区34号土坑、III区中南部でIII区35号土坑、III区中部でIII区36号土坑、IV区南側調査区でIV区7・8号土坑の7基の土坑を確認、調



0 1/80 2m

0 1/3 5cm

第44図 6面の土坑群とⅢ区土坑の出土遺物

表7 Ⅲ区6面水田区画一覧

NO.	位置	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> )
			長軸	短軸	高位	低位	高	低	
201	北西部	磬形	(690)	(448)	69.40	69.28	10	1	23.16
202	北西部	隅丸菱形か	(1,100)	(413)	69.46	69.38	1	0	25.87
203	北西部	平行四辺形	617	280	69.39	69.26	5	2	14.86
204	北西部	三角形か	(163)	155	69.43	69.34	5	0	2.02
205	北西部	台形	893	682	69.39	69.22	3	0	41.97
206	中北部	扇形	1,970	870	69.40	69.16	11	0	116.67
207	中北部	羽子板形	690	380	69.30	69.11	6	2	20.07
208	中北部	楕形	487	313	69.33	69.11	5	2	12.79
209	北東部	胡瓜形	1,217	165	69.39	69.19	5	1	13.10
210	北東部	長方形	147	102	69.57	69.56	2	0	1.43
211	北東部	長方形	(83)	(78)	69.58	69.58	0	0	0.32
212	北東部	台形	(122)	(88)	69.59	69.59	0	0	0.98
213	北東部	長方形	(80)	112	69.59	69.58	0	0	1.27
214	北東部	長方形	130	(70)	69.58	69.58	1	0	0.80
215	北東部	長方形	(123)	103	69.57	69.57	2	0	0.94
216	北東部	長方形	(47)	(67)	69.59	69.59	0	0	0.17
217	北東部	長方形	98	(60)	69.58	69.58	0	0	0.98
218	北東部	長方形	160	105	69.56	69.56	3	2	1.78
219	北東部	長方形	(65)	(47)	69.54	69.54	4	3	0.19
220	北東部	長方形	(100)	(36)	69.58	69.57			0.55
221	南東部	平行四辺形	(95)	120	69.35	69.35	3	3	1.51
222	南東部	平行四辺形	(265)	168	69.39	69.36	0	0	3.59
223	南東部	長方形	(133)	(120)	69.36	69.36	2	2	1.01
224	南東部	長方形	193	142	69.37	69.36	0	0	2.32
225	南東部	扇形	(658)	403	69.35	69.11	6	0	19.44
226	中部東寄り	磬形	425	73	69.44	69.27	1	0	9.91
227	中部東寄り	三角形	838	638	69.34	69.24	2	0	31.22
228	中部東寄り	白菌形	418	(290)	69.35	69.29	2	0	9.74
229	中部東寄り	隅丸長方形	(175)	(175)	69.26	69.25	0	0	3.30
230	中部東寄り	隅丸三角形か	(102)	(92)	69.28	69.28	1	0	0.78
231	中部	長方形	678	418	69.31	69.16	5	1	24.02
a	中部	長方形	342	263					
b	中部	長方形	370	176					
c	中部	長方形	418	180					
232	中部	扇面様長方形	742	553	69.31	69.15	3	0	36.15
a	中部	隅丸平行四辺形	508	137					
b	中部	隅丸長方形	528	260					
c	中部	隅丸長方形	553	273					
233	中部	楕形	650	452	69.28	69.16	5	0	12.69
234	中西部	隅丸長方形	(93)	128	69.43	69.41	0	0	1.74
235	中西部	隅丸長方形	162	137	69.40	69.36	1	0	1.85
236	中西部	隅丸長方形	353	130	69.41	69.34	2	0	4.74
237	中西部	隅丸三角形	(253)	135	69.41	69.36	1	0	2.35
238	中西部	隅丸長方形	310	163	69.42	69.35	2	0	4.29
239	中西部	隅丸長方形	(198)	117	69.40	69.38	2	1	1.81
240	中西部	隅丸長方形	229	85	69.41	69.35	3	1	1.75
242	中西部	長方形	(188)	103	69.40	69.34	2	0	1.20
243	中西部	隅丸長方形	192	113	69.39	69.33	3	0	1.79
244	中西部	長方形	(108)	102	69.36	69.32	4	1	1.13
245	中西部	三角形	(64)	(62)	69.40	69.39	2	1	0.34
246	中西部	三角形か	(92)	(90)	69.40	69.37	0	0	0.62
247	北東部	長方形か	(98)	(75)					0.46

査した。(以下遺構番号が重複しないため、調査区記号を略す。)尚、既に述べたようにⅢ区60号溝は形態的に土坑である可能性を有している。

15・16号土坑はⅢ区19号溝、34号土坑はⅢ区59号

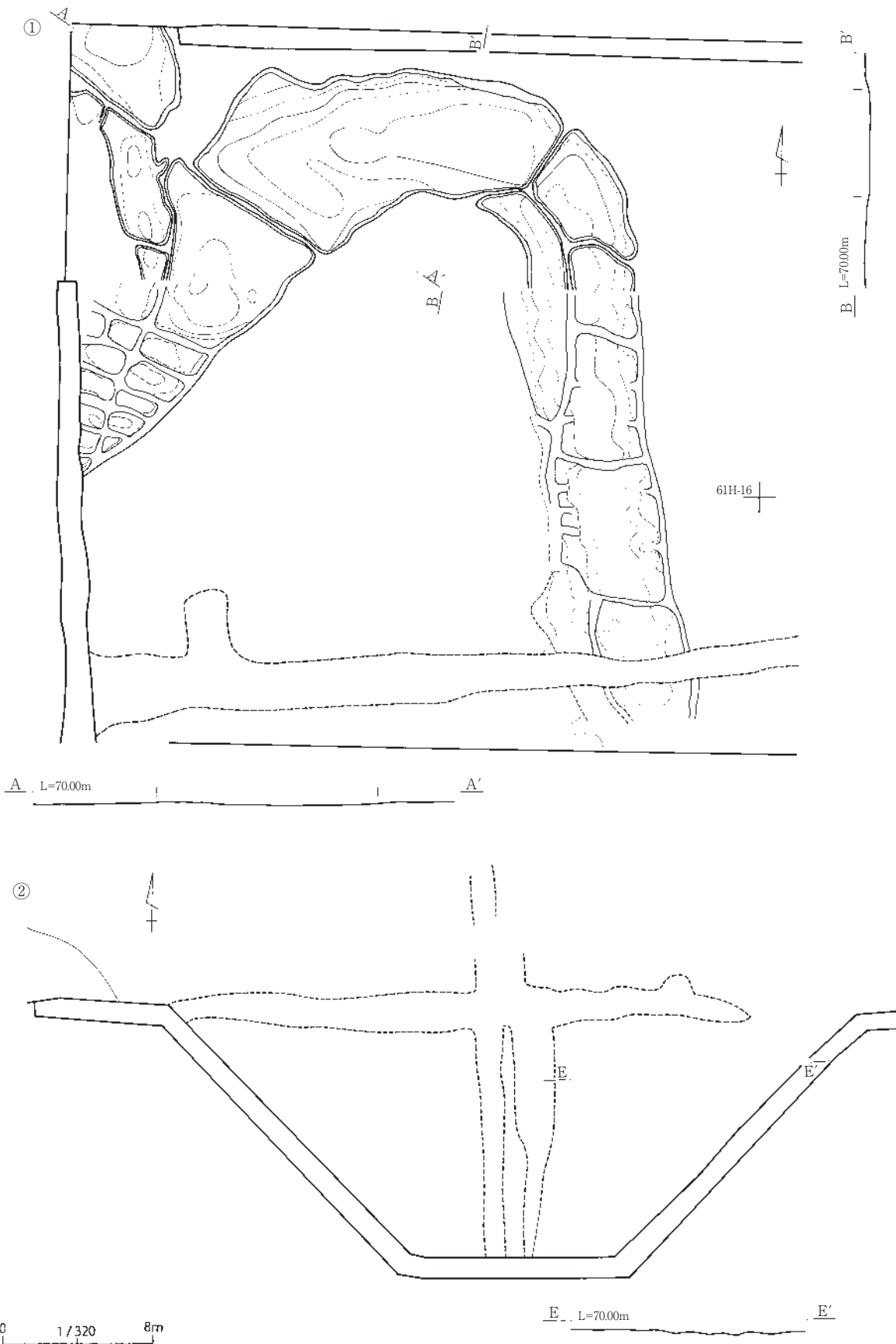
溝と重複するが、新旧は特定できなかった。

また各土坑の掘削意図は特定できなかった。

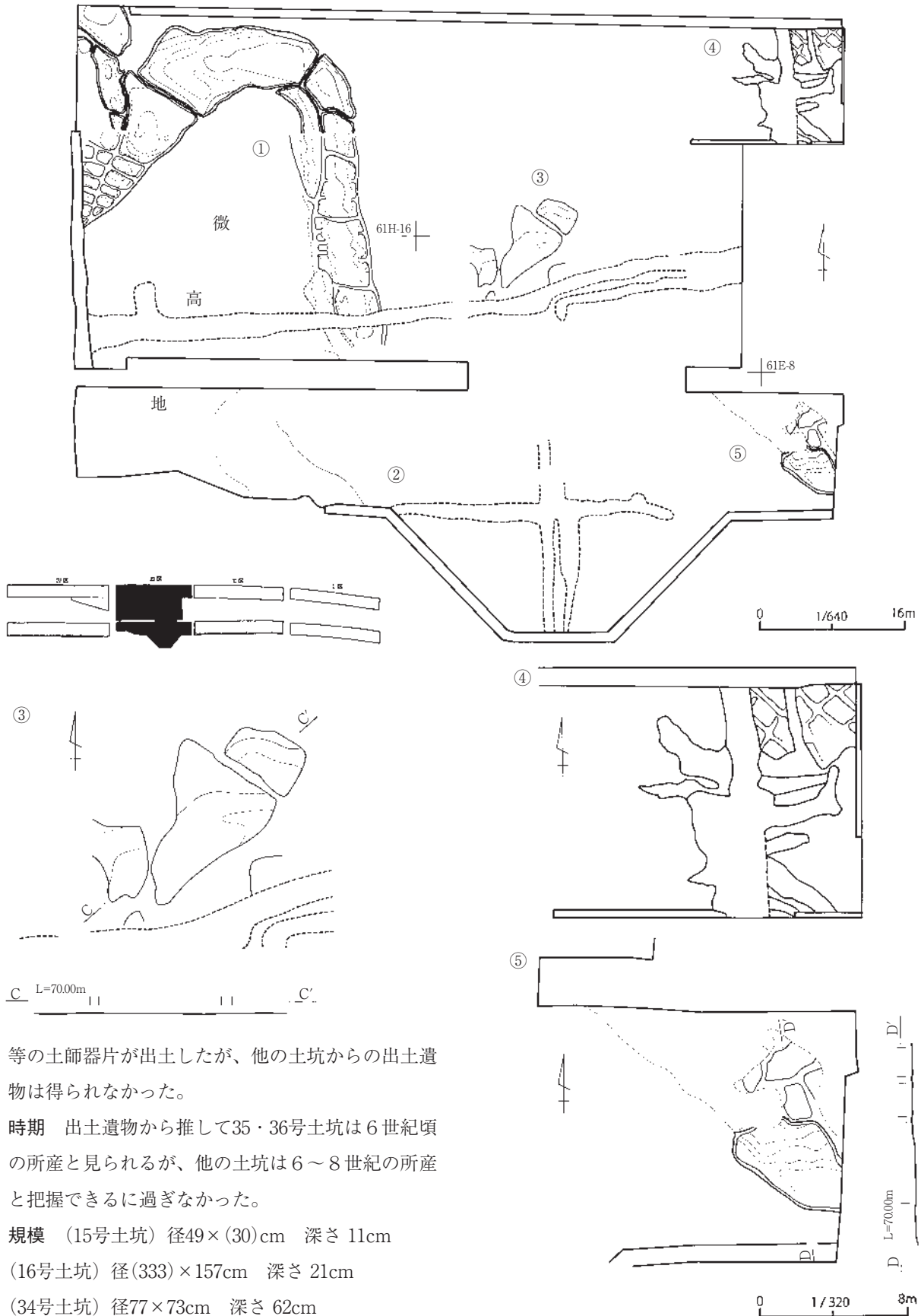
遺物 16号土坑から石鏃(506)、35号土坑から甕(103・104)等の土師器、36号土坑からも甕(105)



II 調査の記録



第45図の1 Ⅲ区Hr-FA下水田



等の土師器片が出土したが、他の土坑からの出土遺物は得られなかった。

時期 出土遺物から推して35・36号土坑は6世紀頃の所産と見られるが、他の土坑は6～8世紀の所産と把握できるに過ぎなかった。

規模 (15号土坑) 径49×(30)cm 深さ 11cm

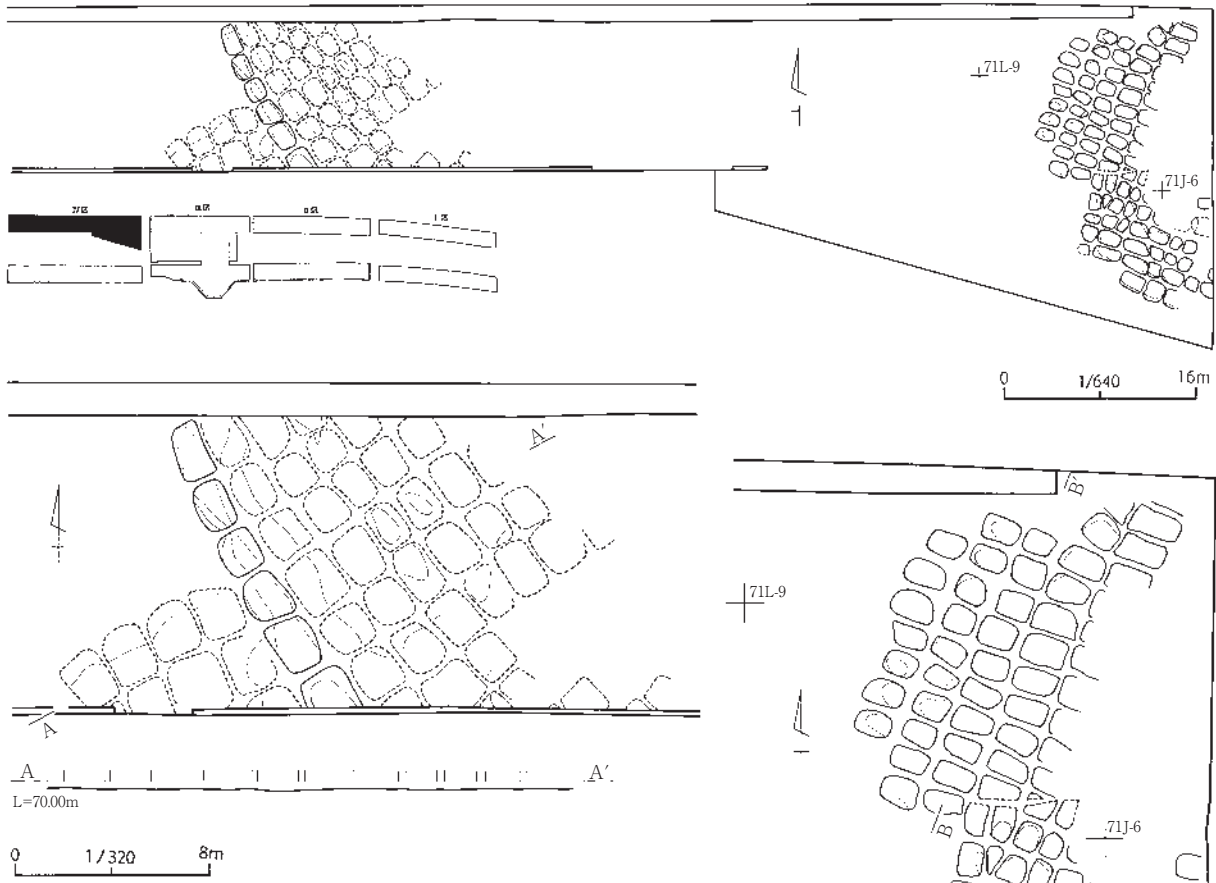
(16号土坑) 径(333)×157cm 深さ 21cm

(34号土坑) 径77×73cm 深さ 62cm

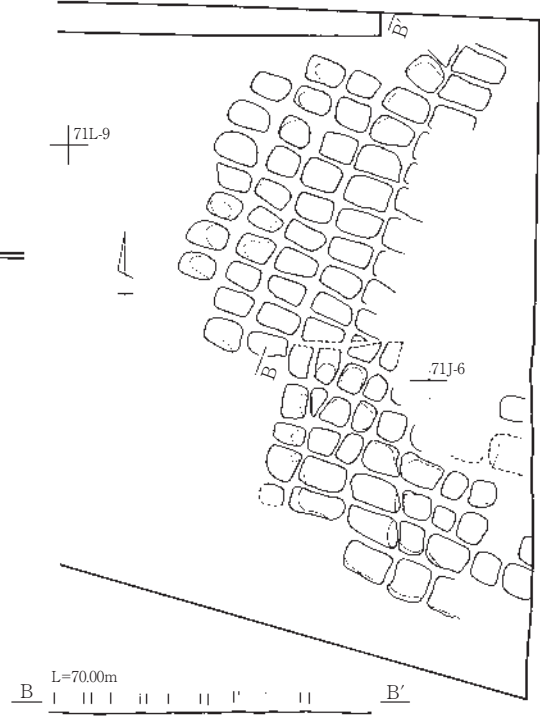
(35号土坑) 径80×78cm 深さ 18cm

第45図の2 III区Hr-FA下水田

II 調査の記録



(36号土坑) 径128×91cm 深さ 11cm  
 (7号土坑) 径65×45cm 深さ 28cm  
 (8号土坑) 径33×28cm 深さ 12cm  
**構造** 長軸方向は15土坑がN-E40°、16号土坑はW-N37°、34号土坑はN-E 6°、35号土坑はE-S 40°、36号土坑はN 0°、7号土坑はN-W 6°、8号土坑はE-S27°を向く。プランは34・7号土坑が隅丸



第46図 IV区Hr-FA下水田

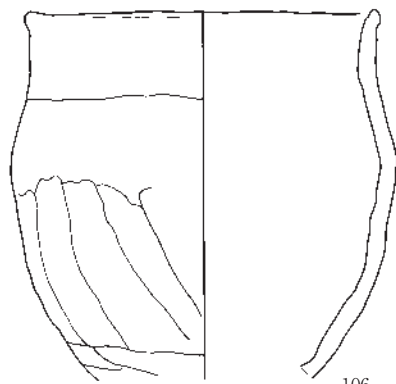
方形、16・36号土坑が隅丸長方形、8号土坑が円形、15号土坑が楕円形、35号土坑がハート形を呈する。

掘削底面は7号土坑が丸底であるのを除いて平底であった。

(17) 6面の水田址

(第45~47図、P L 8・9・67)

**概要** 6面では榛名山噴出のHr-FAに被覆された水田址がⅢ区北東隅部と中北部の一部、及びⅢ区北西からⅣ区東部とⅣ区西部東寄りに確認された。



第47図 Ⅲ区Hr-FA下水田出土遺物

表8の1 IV区6面水田区画一覧(その1、北調査区Hr-FA下水田)

NO.	位置	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> )
			長軸	短軸	高位	低位	高	低	
226	北区西部	隅丸長方形	230	180	69.65	69.64	3	2	3.69
227	北区西部	隅丸長方形	240	190	69.68	69.63	2	0	4.12
228	北区西部	隅丸長方形	225	200	69.65	69.63	1	0	4.11
229	北区西部	隅丸代形	223	180	69.65	69.62	1	0	3.54
231	北区西部	隅丸長方形	(66)	(66)					0.25
232	北区西部	隅丸長方形	(160)	168	69.62	69.62	0	0	2.44
233	北区西部	隅丸長方形	250	230	69.62	69.59	1	0	5.67
234	北区西部	隅丸長方形	240	120	69.62	69.60	1	0	3.92
235	北区西部	隅丸長方形	(102)	190	69.60	69.55	1	1	1.49
236	北区西部	隅丸長方形	242	130	69.60	69.54	4	1	2.90
237	北区西部	隅丸長方形	262	143	69.60	69.53	6	1	2.79
238	北区西部	長方形	188	156	69.60	69.54	6	2	2.75
239	北区西部	隅丸長方形	206	178	69.60	69.51	2	1	3.09
240	北区西部	隅丸長方形	236	178	69.55	69.51	3	1	3.73
241	北区西部	隅丸長方形	(212)	202	69.50	69.48	8	1	3.25
242	北区西部	隅丸長方形	(235)	148	69.65	69.58	11	4	2.95
243	北区西部	隅丸長方形	205	158	69.65	69.65	3	1	3.11
244	北区西部	長方形	195	170	69.65	69.64	3	1	4.67
245	北区西部	長方形	234	208	69.65	69.60	3	0	3.36
246	北区西部	隅丸長方形	200	198	69.65	69.60	3	1	3.38
247	北区西部	隅丸長方形	201	180	69.65	69.61	1	1	3.41
248	北区西部	隅丸長方形	(100)	162	69.62	69.62	0	0	1.01
249	北区西部	長方形	(223)	153	69.68	69.62	0	0	2.58
250	北区西部	隅丸長方形	170	124	69.66	69.66	2	2	2.32
251	北区西部	隅丸長方形	184	160	69.66	69.66	2	0	2.66
252	北区西部	隅丸長方形	230	182	69.66	69.66	2	0	3.65
253	北区西部	隅丸長方形	192	173	69.66	69.66	2	0	2.91
254	北区西部	隅丸長方形	218	166	69.65	69.44	3	0	3.32
256	北区西部	隅丸長方形	226	200	69.62	69.62	2	0	3.82
257	北区西部	隅丸長方形	(266)	(124)	69.60	69.60	0	0	0.55
258	北区西部	隅丸長方形	(95)	138	69.62	69.60	9	8	0.95
259	北区西部	隅丸長方形	163	145	69.66	69.60	3	2	2.06
260	北区西部	隅丸長方形	192	130	69.65	69.65	3	1	2.25
261	北区西部	長方形	200	138	69.65	69.64	3	1	2.47
262	北区西部	隅丸長方形	250	150	69.66	69.62	3	0	3.43
263	北区西部	長方形	212	170	69.65	69.64	3	0	3.41
264	北区西部	長方形	193	160	69.62	69.60	2	0	2.71
265	北区西部	隅丸長方形	(93)	128	69.56	69.56	4	3	1.07
266	北区西部	隅丸長方形	(173)	152	69.68	69.68	1	0	1.94
267	北区西部	長方形	160	135	69.68	69.68	1	0	2.68
268	北区西部	隅丸長方形	203	165	69.65	69.64	4	3	2.75
269	北区西部	隅丸長方形	213	165	69.66	69.66	2	0	3.33
270	北区西部	隅丸長方形	213	143	69.65	69.65	1	0	2.68
271	北区西部	長方形	183	158	69.68	69.68	1	0	2.48
272	北区西部	隅丸長方形	203	148	69.66	69.66	3	0	3.16
273	北区西部	隅丸長方形	188	186	69.66	69.65	2	0	2.40
274	北区西部	長方形	238	145	69.64	69.64	1	0	3.37
275	北区西部	隅丸長方形	205	(55)	69.66	69.66	2	0	1.21
276	北区西部	長方形	172	150	69.66	69.66	1	0	2.43
277	北区西部	長方形	222	175	69.65	69.64	0	0	3.79
278	北区西部	長方形	(120)	(94)					0.96
279	北区西部	長方形か	(42)	(29)					0.08
280	北区西部	長方形	165	154	69.59	69.59	0	0	1.86
281	北区西部	長方形か	(81)	(73)	69.55	69.55	3	3	0.36
282	北区西部	長方形	130	(103)	69.56	69.56	2	0	1.01
291	北区東部	隅丸長方形	158	107	69.65	69.62	1	0	1.46
292	北区東部	隅丸長方形	180	103	69.61	69.61	4	0	1.67
293	北区東部	隅丸長方形	190	118	69.62	69.61	3	0	1.80

II 調査の記録

表8の2 IV区6面水田区画一覧（その2、北調査区Hr-FA下水田）

NO.	位置	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> )
			長軸	短軸	高位	低位	高	低	
294	北区東部	長方形	188	93	69.61	69.61	3	0	1.17
295	北区東部	長方形	188	83	69.60	69.59	4	1	1.35
296	北区東部	隅丸長方形	173	110	69.60	69.59	4	0	1.64
297	北区東部	隅丸長方形	152	108	69.60	69.60	4	0	1.39
298	北区東部	長方形	153	102	69.60	69.56	2	0	1.51
299	北区東部	長方形	152	100	69.60	69.56	2	0	1.35
300	北区東部	隅丸長方形	130	108	69.60	69.56	2	0	1.30
301	北区東部	隅丸長方形	122	108	69.60	69.56	1	0	1.35
302	北区東部	隅丸長方形	150	98	69.60	69.56	1	0	1.26
303	北区東部	長方形	133	83	69.60	69.55	1	0	1.09
304	北区東部	長方形	142	106	69.55	69.54	5	0	1.50
305	北区東部	長方形	144	98	69.56	69.55	3	0	1.33
306	北区東部	長方形	162	97	69.56	69.56	4	0	1.38
307	北区東部	隅丸長方形	132	103	69.56	69.56	0	0	1.10
308	北区東部	長方形	147	117	69.56	69.56	0	0	1.53
309	北区東部	長方形	148	118	69.55	69.53	4	0	1.51
310	北区東部	隅丸長方形	161	122	69.55	69.54	4	0	1.70
311	北区東部	長方形	160	107	69.55	69.51	1	0	1.49
312	北区東部	長方形	168	185	69.55	69.48	6	1	1.31
313	北区東部	隅丸長方形	170	100	69.48	69.48	6	5	1.46
314	北区東部	長方形	158	95	69.47	69.47	8	6	1.30
315	北区東部	隅丸長方形	174	100	69.55	69.52	1	1	1.66
316	北区東部	長方形	(101)	(109)	69.56	69.56	0	0	0.47
317	北区東部	隅丸長方形	150	118	69.55	69.53	1	0	1.54
318	北区東部	隅丸長方形	194	112	69.55	69.54	1	0	1.88
319	北区東部	隅丸長方形	168	112	69.55	69.51	1	0	1.63
320	北区東部	隅丸長方形	197	117	69.55	69.47	6	4	2.01
321	北区東部	長方形	187	123	69.50	69.48	5	1	2.16
322	北区東部	長方形	180	98	69.48	69.48	5	3	1.74
323	北区東部	長方形	180	97	69.48	69.48	5	3	1.59
324	北区東部	隅丸長方形	172	104	69.47	69.47	6	4	1.50
325	北区東部	隅丸長方形	176	80	69.48	69.48	5	5	1.40
326	北区東部	隅丸長方形	175	(108)	69.48	69.47	6	5	1.35
327	北区東部	長方形	218	113	69.56	69.56	0	0	2.16
328	北区東部	長方形	200	108	69.55	69.54	1	0	1.95
329	北区東部	長方形	183	105	69.52	69.51	3	2	1.56
330	北区東部	長方形か	(33)	118	69.53	59.53	1	1	0.28
331	北区東部	長方形か	(35)	86	69.53	69.53	1	0	0.25
332	北区東部	長方形	(124)	100	69.51	69.51	3	2	1.00
333	北区東部	長方形か	(102)	1137	69.52	69.52	1	1	0.97
334	北区東部	長方形か	(30)	103	69.53	69.53	0	0	0.26
335	北区東部	長方形	(112)	103	69.53	69.53	0	0	0.64
336	北区東部	長方形	(138)	90	69.53	69.52	1	1	1.00
337	北区東部	隅丸長方形	160	(85)	69.56	69.55	3	0	1.85
338	北区東部	長方形	(160)	(49)	69.56	69.48	1	0	1.42
339	北区東部	長方形か	(60)	(35)	69.54	69.47	2	0	1.14
340	北区東部	隅丸長方形	(133)	85	69.46	69.46	2	0	1.16
341	北区東部	隅丸長方形	(151)	100	69.46	69.45	1	0	1.30
342	北区東部	隅丸長方形	(127)	68	69.50	69.49	1	0	0.77
343	北区東部	隅丸長方形	137	103	69.46	69.45	1	0	1.40
344	北区東部	長方形	121	64	69.45	69.45	1	0	0.50
345	北区東部	長方形	119	104	69.45	69.45	2	1	1.17
346	北区東部	隅丸長方形	101	85	69.46	69.46	1	0	0.82
347	北区東部	隅丸長方形	112	118	69.45	69.43	2	0	1.11
348	北区東部	隅丸長方形	118	87	69.45	69.43	2	0	0.87
349	北区東部	隅丸長方形	(63)	(66)	69.48	69.48	0	0	0.41
350	北区東部	隅丸長方形	117	116	69.47	69.47	0	0	1.18
351	北区東部	縦長台形	127	80	69.45	69.45	2	0	1.03

表8の3 IV区6面水田区画一覧（その3、北調査区Hr-FA下水田）

NO.	位置	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> )
			長軸	短軸	高位	低位	高	低	
352	北区東部	台形	122	110	110.00	69.42	2	1	1.22
353	北区東部	隅丸長方形	122	84	69.45	69.43	0	0	0.97
354	北区東部	変形四角形	157	121	69.45	69.43	1	0	1.61
355	北区東部		(164)	(10)	69.56	69.55			
356	北区東部	隅丸方形か	(86)	(105)	69.47	69.47	1	1	0.81
357	北区東部	縦長台形	115	80	69.45	69.43	1	0	1.00
358	北区東部	隅丸台形	130	122	69.47	69.55	2	0	1.53
359	北区東部	長方形	192	122	69.45	69.41	3	1	2.15
360	北区東部	平行四辺形	210	118	69.42	69.40	1	0	2.21
361	北区東部	台形	127	103	69.40	69.36	3	0	1.03
362	北区東部	隅丸方形	103	90	69.50	69.50	0	0	0.77
363	北区東部	長方形	225	98	69.45	69.44	3	0	1.99
364	北区東部	平行四辺形	210	120	69.41	69.40	2	0	2.18
365	北区東部	方形	122	112	69.40	69.39	2	0	1.12
366	北区東部	長方形	195	128	69.45	69.43	1	0	2.26
367	北区東部	方形	163	153	69.45	69.42	1	0	2.37
368	北区東部	隅丸方形か	(126)	(40)	69.46	69.46	1	0	0.52
369	北区東部	隅丸長方形	120	91	69.45	69.42	1	0	1.04
370	北区東部	方形	90	88	69.40	69.38	1	0	0.78
371	北区東部	隅丸長方形	187	125	69.40	69.37	2	0	1.09
372	北区東部	方形	109	105	69.42	69.40	2	0	2.13
373	北区東部	隅丸方形	122	122	69.40	69.30	2	1	1.22
374	北区東部	方形	123	120	69.37	69.37	1	0	1.37
375	北区東部	方形	(130)	150	69.45	69.40	1	0	1.87
376	北区東部	長方形	(112)	100	69.50	69.49	0	0	1.23
377	北区東部	長方形か	(142)	147	69.45	69.40	2	0	2.55
378	北区東部	長方形か	(63)	105	69.37	69.37	2	0	0.53
379	北区東部	隅丸長方形	(122)	121	69.37	69.37	1	0	1.26

本水田面は51～56・59・60・62号溝、Ⅲ区34号土坑と重複し、これらに切られている。

また本水田址は所謂小区画水田であるが、Ⅲ区北西部の舌状の微高地を包む区画と北東隅部の区画は一部にその痕跡を残すものの、小区画を包括する中型の区画のみが確認されている。

**遺物** 出土遺物は多くなかったが、Ⅲ区で土師器甕(106)等の出土が得られた。

**時期** 本水田の開削時期は特定できないが、下限は榛名山二ツ岳がHr-FA火山灰を噴出した5世紀末(或いは6世紀初頭)である。

**規模** 188×24.8m (Ⅲ区東部：9.6×13.8m

Ⅲ区中部：12.0×12.0m

Ⅲ区西部～Ⅳ区東部：57.6×36.0m

Ⅳ区西部：26.0×12.6m)

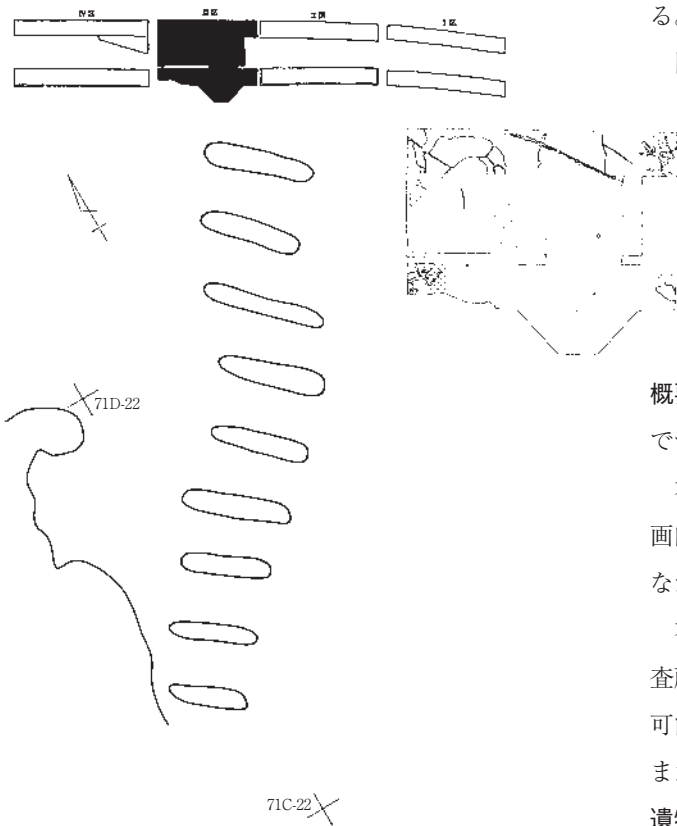
**水田区画** 表7(Ⅲ区6面水田区画一覧)、表8(Ⅳ区6面水田区画一覧)

**畔幅** 幅 18～49cm

**構造** 本水田址の大畔と認識される畔は特に認められなかったが、Ⅲ区に見られる中型の区画があり、その中に小区画の水田が設けられている。カウントした水田面はⅢ区で47面、Ⅳ区で146面であったが、このうちⅢ区の16面が中規模な区画面で、他が小区画であった。

水田の軸方向は各様であったが、Ⅲ区東部では南北方向に並ぶ傾向があり、Ⅲ区西部では舌状の微高地を包み込むように∩形に配列する中規模の区画が確認されている。この中規模の区画の水田のうち微高地東の区画231・232には東西走行の畔の痕跡が見られ、南北3区画づつに細分されていたことが分かる。またⅢ区北西部南西隅からⅣ区頭部にかけては北北西-南南東に長軸を持つ小区画の水田が方眼に配列している。またⅣ区中部と西部では北西-南東方向に縦列に並ぶ小区画の水田が方眼に配列してい

II 調査の記録



第48図 III区畠

る。

区画のプランは表7・8の一覧表に記したが、全体としては、長方形を基本としたものが多く見受けられた。

給排水の方向は明確ではないが、土地の傾斜に従って北西から北東方向を基本として流水させていたものと思われる。

(18) III区畠 (第48図)

概要 3区南西部の微高地の区域と考えられる一角でサク状遺構1面を確認した。

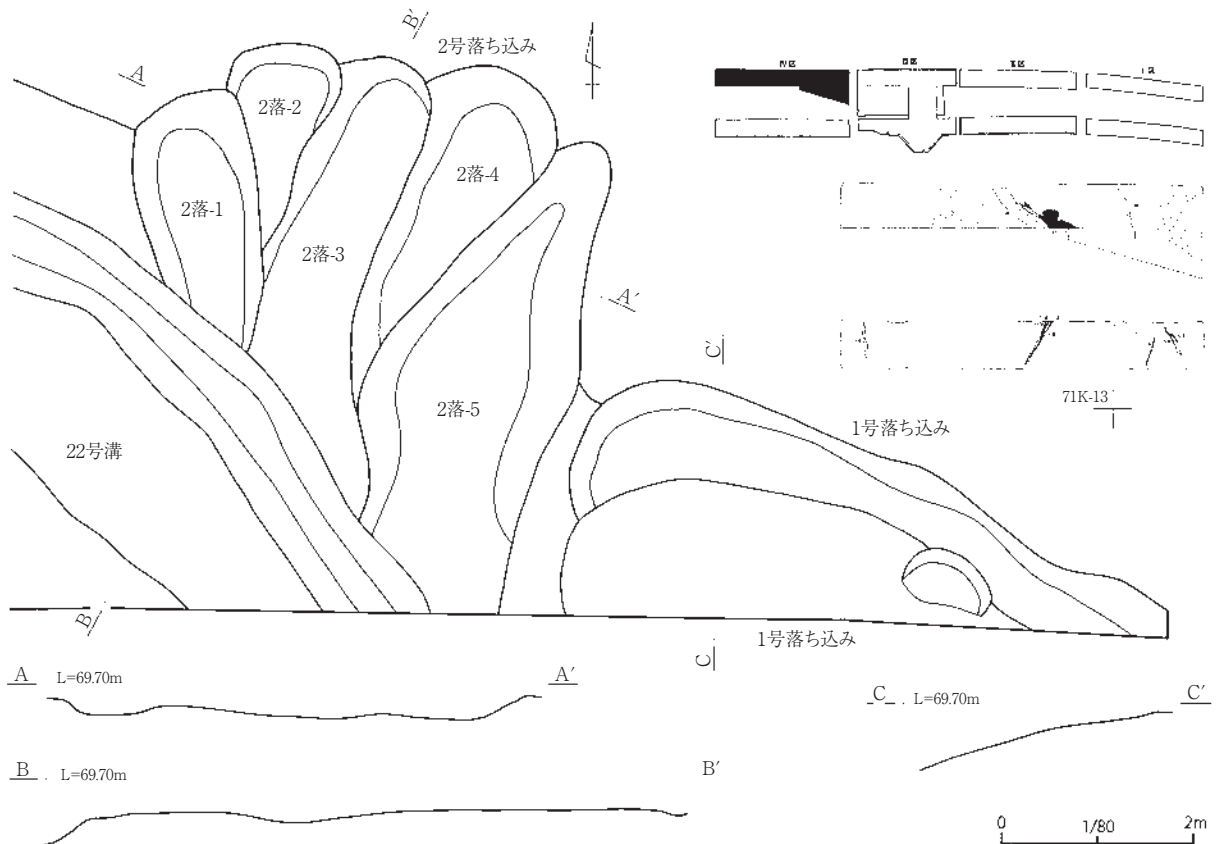
本畠は9条のサクで構成されており、短冊形の区画内に配列しているが、他遺構との重複は認められなかった。

本遺構のサクは短いため、中世のサク状遺構の調査所件に照らして考慮すれば、道路跡に掘削された可能性も考慮される。

また、耕作物等を特定することはできなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本遺構は6～8世紀の所産と認識されるだけ



第49図 IV区1・2号落ち込み

で、時期特定には至らなかった。

**規模** (サク1) 長さ117cm 幅 24cm

深さ cm

(サク2) 長さ106cm 幅 23cm 深さ - cm

(サク3) 長さ132cm 幅 20cm 深さ - cm

(サク4) 長さ115cm 幅 28cm 深さ - cm

(サク5) 長さ107cm 幅 20cm 深さ - cm

(サク6) 長さ118cm 幅 22cm 深さ - cm

(サク7) 長さ98cm 幅 21cm 深さ - cm

(サク8) 長さ97cm 幅 18cm 深さ - cm

(サク9) 長さ85cm 幅 22cm 深さ - cm

**構造** 本サク状遺構は北東-南西方向に延びる短冊形の区域の中に並列に設置されている。サクの軸方向は概ねN-W38~43°を向いており、個々のサクのプランは直線的な溝状を呈する。南東側尖端のラインは揃っていないが、北西側は中程のサク4・5が南東によっている以外はほぼ揃っている。

サクの掘削形態は箱堀状を呈する。

#### (19) IV区落ち込み群 (第49図、P L14)

**概要** IV区北側調査区中位南寄りにIV区1号落ち込みが所在し、同落ち込みの西側に隣接して5基の溝状の落ち込み(以下西より「2落-1~5」と表記する)の集合体(以下「IV区2号落ち込み」とする)が遺存している。

このうち1号落ち込みは下面の自然流路と一括で掘削されたため南側が確認できなかった。また2号落ち込みは南側がIV区22号溝と重複しているが、

新旧関係を特定することはできなかった。

両落ち込み共に自然の流水に伴って発生したものと認識されるものの、明確ではない。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本落ち込みは6~8世紀の所産と認識されるものの、時期特定には至らなかった。

**規模** (1号落ち込み) 径(637)×(204)cm 深さ(15)cm

(2号落ち込み) 径 565×(550)cm

(2落-1) 長さ(272)cm 幅 128cm 深 20cm

(2落-2) 長さ(222)cm 幅 117cm 深 11cm

(2落-3) 長さ(577)cm 幅(113)cm 深 13cm

(2落-4) 長さ(390)cm 幅 158cm 深 22cm

(2落-5) 長さ(525)cm 幅 213cm 深 27cm

**構造** 1号落ち込みはE-S18°方向に軸線を取る端部が丸い短冊形のプランを呈する。2号落ち込みは全体としては隅丸台形様のプランを呈するが、これを構成する2落-1・3・4は端部が丸い短冊形、2落-2は隅丸長方形様、2落-5は船形のプランを呈する。また2号落ち込みの軸線は全体としては南北方向を向くが、2落-1はN-W8°、2落-2はN-E5°、2落-3は北半はN-E23°、南半はN-W11°、2落-4は北半はN-E31°、南半はN-E1°、2落-5は中・北部はN-E23°、南部はN-E11°方向を向いている。

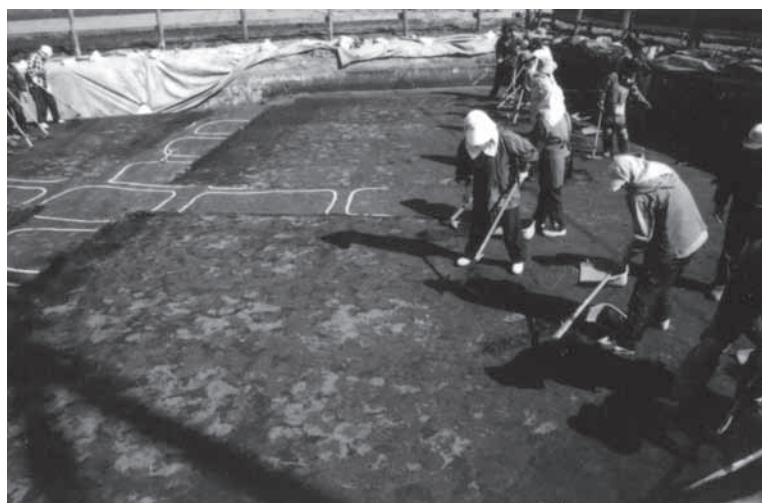
底面形態は何れも残存部は板様であるが、それぞれの長軸方向、即ち1号落ち込みは東方向、2号落ち込みは南方向に傾斜している。



II 調査の記録



IV区西部Hr-FA下水田



IV区Hr-FA下水田スライス調査風景



IV区8面への部淵調査風景

## 4 第5面の調査

### (1) 概要

5面では出土遺物から9世紀末の所産と認識される洪水層で埋没、被覆された水田址を調査し、当該期前後の遺構も確認、調査した。

確認された遺構群はⅡ～Ⅳ区にかけて分布していたが、溝6条（Ⅱ区2条、Ⅲ区3条、Ⅳ区1条）、土坑3基（何れもⅡ区）があり、メインとなる洪水層で被覆された水田址はⅡ区南調査区、Ⅲ区及びⅣ区の広い範囲で確認された。

尚、水田の確認された範囲は往時は低地部であったと認識され、水田の確認されなかったⅠ区からⅡ区北側調査区は明確ではないが、往時微高地であった可能性が考慮される。

### (2) Ⅱ区14・15号溝（第51図、P L19）

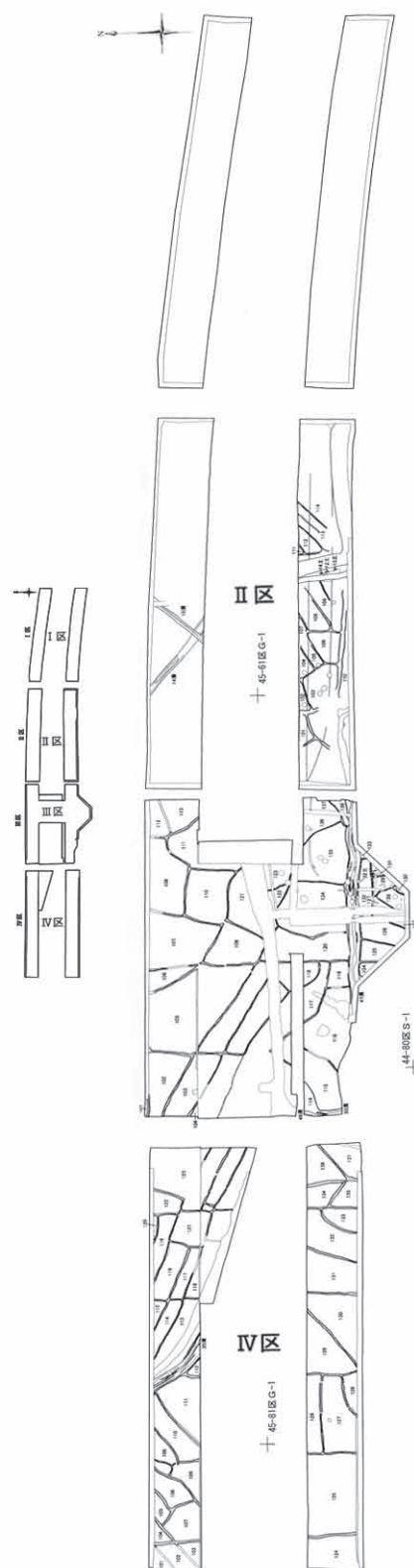
**概要** Ⅱ区14・15号溝はⅡ区北側調査区の中程に位置する。15号溝は北寄りて一部で壊されているが、両溝共に南北両側が調査区外に出ていて、全容を明らかにすることはできなかった。また南側調査区にもその延長は現れていない。

14号溝は並列する4条の溝（以下西側から「14a号溝」「14b号溝」「14c号溝」「14d号溝」と記す）が左右に重なり合っている。このうち14a・14b号溝と14c・14d号溝は新旧関係は特定できず、それぞれ同一の溝の可能性も有するが、前2者が後2者に切られていて、1～3回の掘り直しがあったことが窺われる。15号溝は東西2条の溝（以下西側から「15a号溝」「15b号溝」と記す）から成り、南端部を除いて半ばで重複するが、その新旧関係は不明で、1回の掘り直しが確認される。14・15号溝は重複するが、新旧関係は特定できなかった。また他の遺構との重複関係は認められない。

また、本溝の掘削意図も確認できなかった。

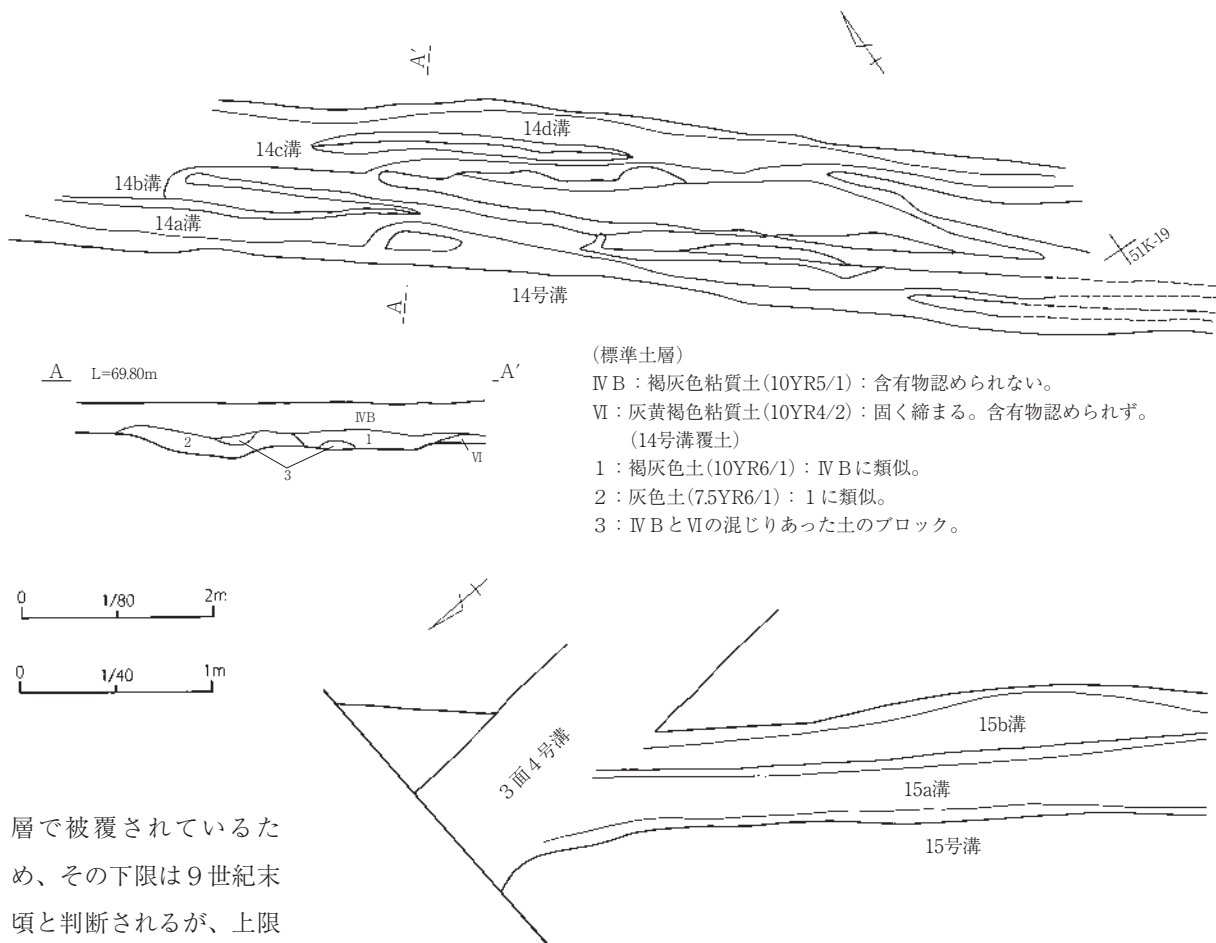
**遺物** 14号溝からは1点の、15号溝からは34点の土師器片が出土している。

**時期** 14号溝は水田址を被覆した土層と近似した土



第50図 5面全体図 (S=1/2000)

## II 調査の記録



(標準土層)

IVB：褐灰色粘質土(10YR5/1)：含有物認められない。

VI：灰黄褐色粘質土(10YR4/2)：固く締まる。含有物認められず。

(14号溝覆土)

1：褐灰色土(10YR6/1)：IVBに類似。

2：灰色土(7.5YR6/1)：1に類似。

3：IVBとVIの混じりあった土のブロック。

層で被覆されているため、その下限は9世紀末頃と判断されるが、上限は特定できなかった。また確認面から15号溝も9世紀末以前の所産と認識されるものの、時期特定には至らなかった。

**規模** (14号溝) 長さ 2,520cm

幅 83cm (14a：75cm、14b：(46)cm、14c：46cm、14d：43cm)

深さ (14a溝：10cm、14b溝：12cm、14c溝：8cm、14d溝：5cm)

(15号溝) 長さ 1,713cm

幅 160cm (15a溝：102cm、15b溝：69cm)

深さ (15a号溝：18cm、15b号溝：10cm)

**構造** 14号溝の走行の方向はW-N39°を向き、14a・14b・14c・14d号各溝のプランは何れも直線的である。一方15号溝の走行はN-E42°方向を向き、プランは15a号溝は直線的で、15b号溝は直線的ではあるものの弱い蛇行を見せる。

掘削形態は箱堀状を呈する。

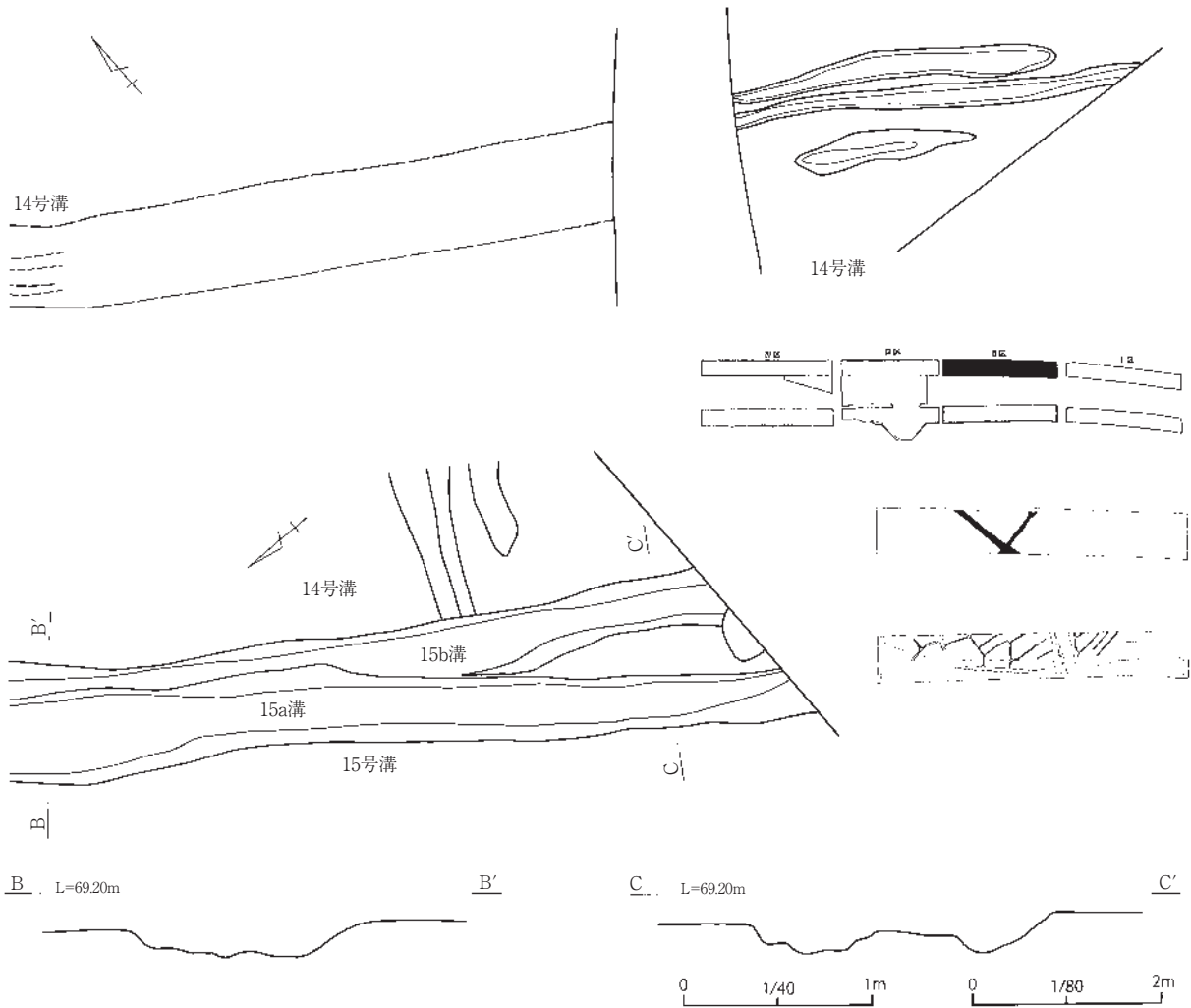
第51図の1 II区14・15号溝

### (3) III区47・III区48・IV区20号溝

(第52～57図、P L 19・67・68)

**概要** III区47号溝はIII区南部、III区48号溝はIII区南西隅部、IV区20号溝はIV区北側調査区中部に位置する(遺構番号の重複がないため以下区の呼称を略す)。47号溝は東西両側、48号溝と20号溝は南北両側が調査区外に出ていて、全容を明らかにできなかった。また20号溝は上面のIV区3号溝に東半を削られており、48号溝は過半が西側調査区外に出ていて東部を調査したに過ぎない。尚、3条の溝は規模と位置関係から同一の溝と認識している。

48号溝はIII区50号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。また覆土の記録を遺せなかった50号溝を除く20・47・48号溝は、後述の水田址と重複するが、覆土が同一であるため、同一時期の遺構と認識される。



第51図の2 II区14・15号溝

3条の溝は、その規模と位置関係及び平面形態から、自然の流路を整えて整備され、且つ水田址に伴う水路と認識されるものである。

**遺物** 47号溝からは土師器片を中心とした多くの出土遺物が得られたが、土師器坏（107～130・244）、須恵器の碗（132～135）・杯（131）・広口壺（136）・長頸壺（137）、石槍（138）や不明石製品（139）、鉄板（140）、角釘（141・142）の出土が見られた。48号溝からは土師器片を中心とした若干量の遺物が出土した。20号溝でも土師器片を中心とした多くの遺物が出土したが、この中には土師器の坏（143～154）や甕（155）の出土が見られた。

**時期** 出土遺物及び覆土から見てⅢ区47・Ⅲ区48・

Ⅳ区20号溝は9世紀末に洪水により埋没し、廃棄されたものと見られる。尚、これらの溝の上限は特定できなかったのであるが、後述する水田址が牛耕と判断されることから、6世紀後半以降（齊藤英敏1999）と判断される。

**規模**（47号溝）長さ 5,270cm 幅 310cm

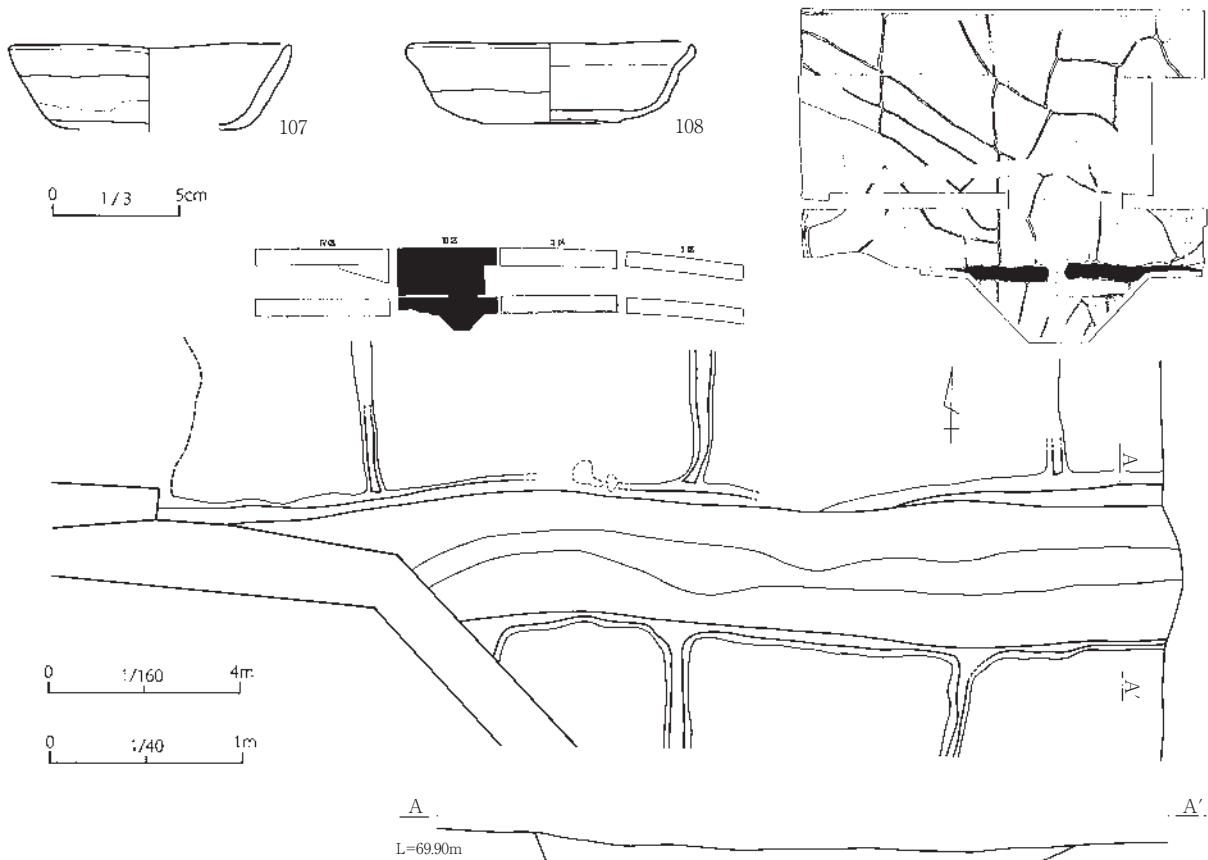
深さ 58cm

（48号溝）長さ 1,010cm 幅(108)cm 深さ 22cm

（20号溝）長さ 1,592cm 幅 260cm 深さ 24cm

**構造** 20号溝の北側調査区外よりS-E29°方向に直線的に調査区に入り、緩やかに字状に反時計回り方向に屈曲して直線的にE-S43°方向に走行して南側調査区外に出る。Ⅳ区調査区及びⅢ区中・北部に現れ

II 調査の記録

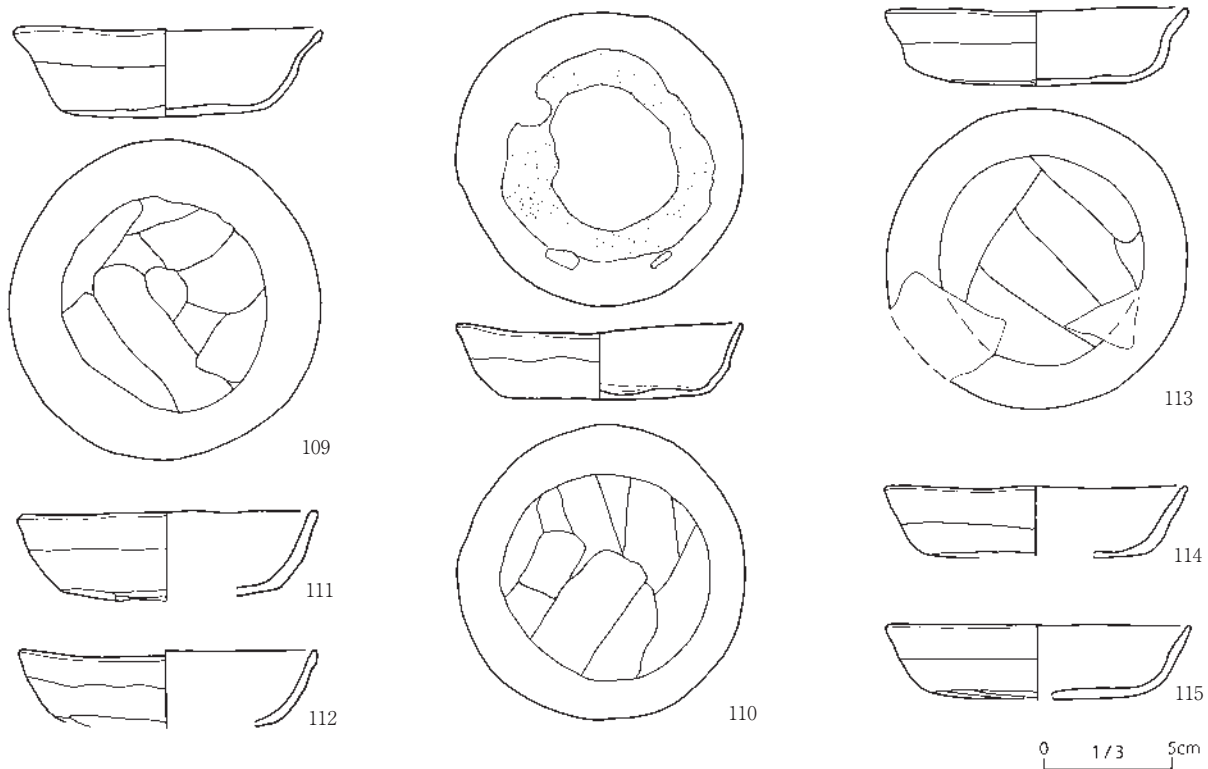


(A-A')

1 : 砂礫 : 白色軽石混じり。

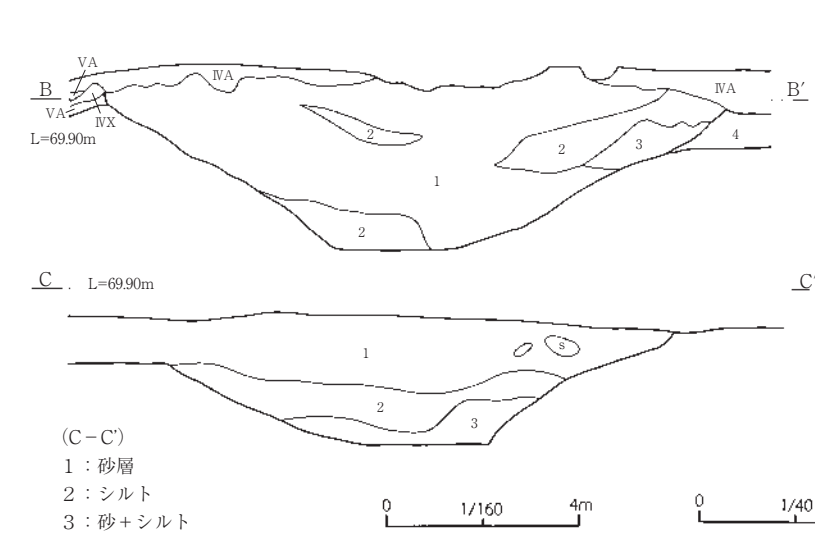
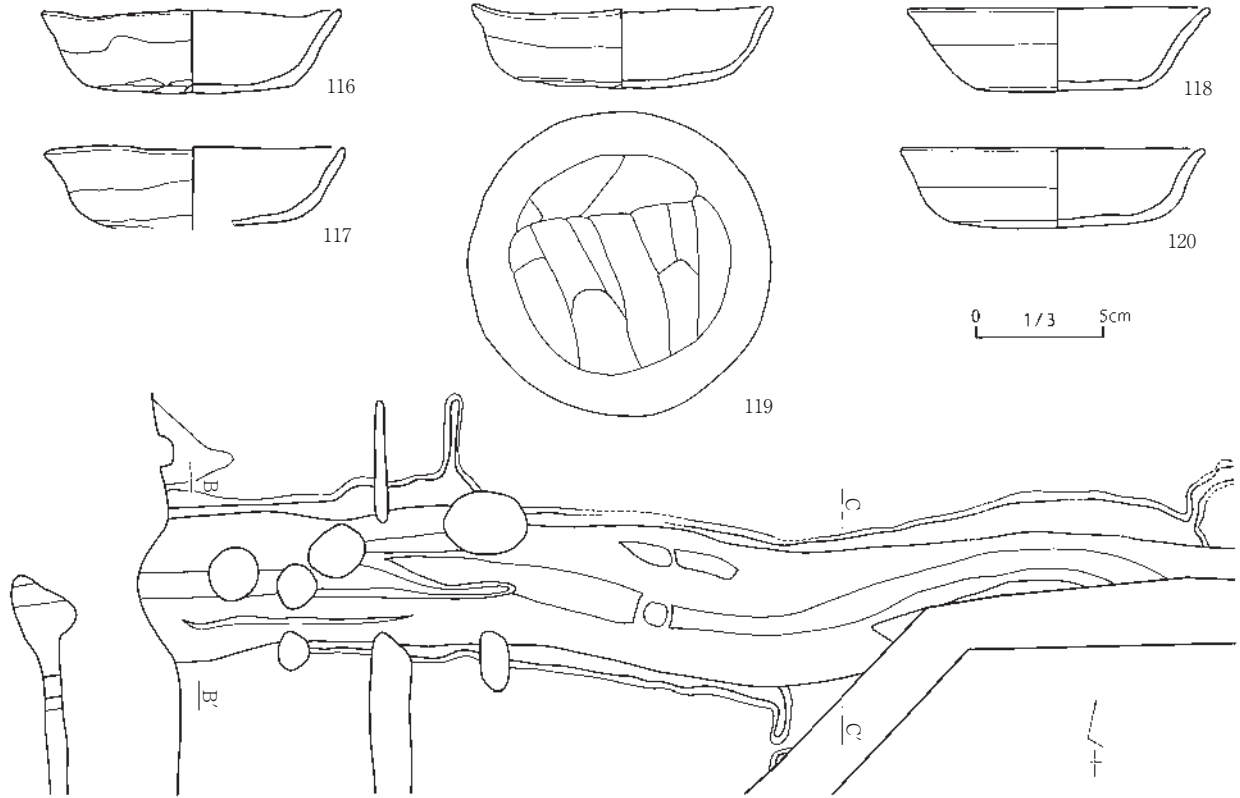
2 : シルト+砂礫

3 : 灰褐色シルト



第52図 Ⅲ区47号溝と出土遺物 (その1)

4 第5面の調査



- (B-B')
- 1 : シルト+砂 : 水性堆積。
  - 2 : シルト
  - 3 : 黄色砂(IV B) : 5mm大の白色軽石を含む。
  - 4 : IV B (黒色粘質土(10YR3/1)) + 黒色砂
  - 5 : IV B + 軽石
  - 6 : 砂礫 : 直径0.5~1cm大の軽石。
  - 7 : 灰褐色土 : 直径5mm大の軽石を含む。やや砂質。
  - 8 : 黒灰色砂礫
  - 9 : 少し黒みのあるVI (灰黄褐色粘質土(10YR4/2))
  - 10 : 砂礫 + VA (黒灰色シルト、5面水田耕土) : 層状に含む。

- (C-C')
- 1 : 砂層
  - 2 : シルト
  - 3 : 砂+シルト

第52図 Ⅲ区47号溝と出土遺物 (その1)

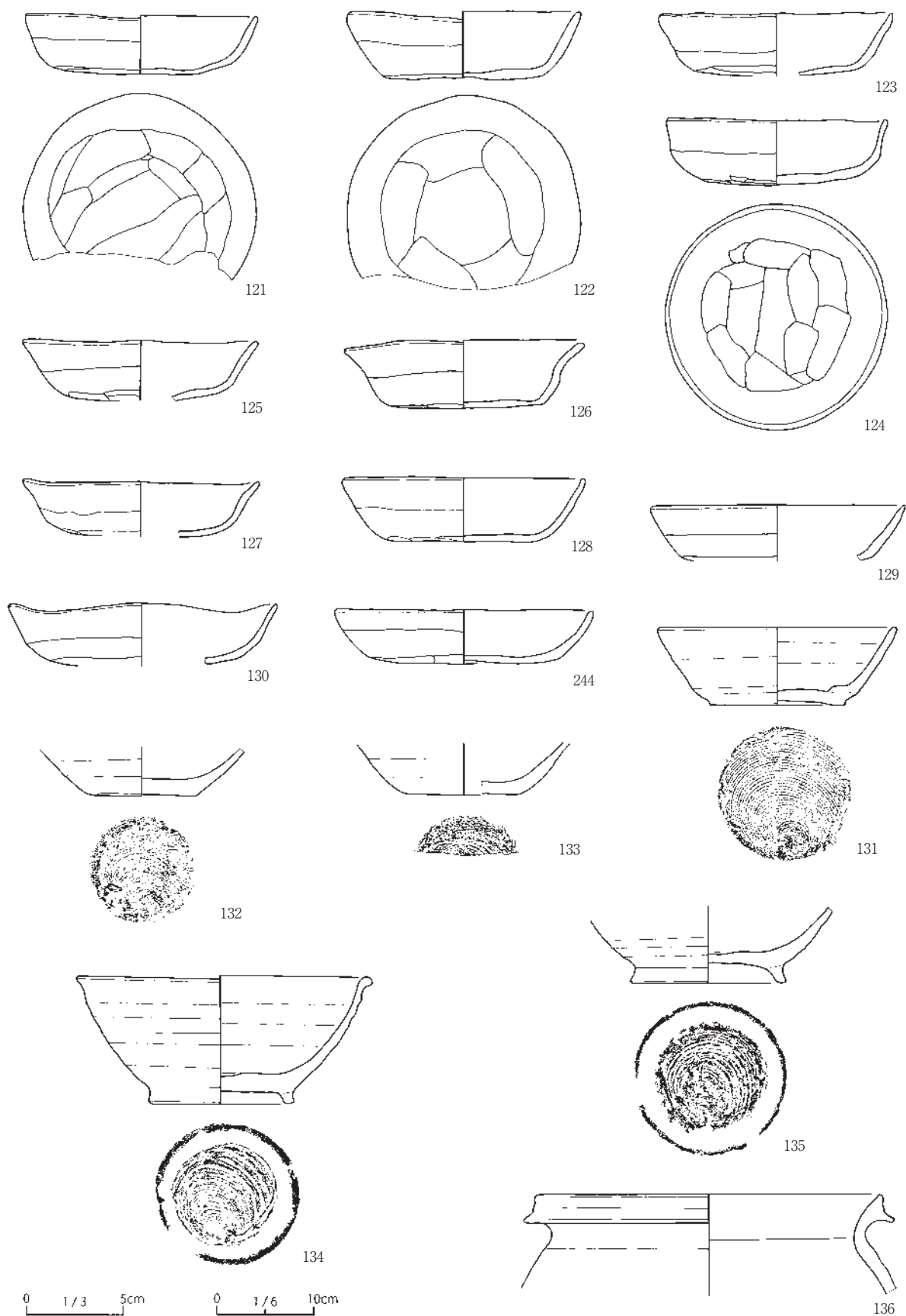
ないため蛇行して48号溝に繋がるものと判断した。48号溝は上述のように東側部分を調査したに過ぎなかったが、北側からS-W11°方向に調査区に入り、緩やかな弧を描きながらS-E8°方向に南側調査区に抜けている。その先は明確にはできないが、20号溝と47号溝の規模と形態の近似から大きく湾曲して48号溝に続くものと想定している。47号溝は緩やかに蛇行する。即ち南側調査区からE-N29°方向に調査

区に入り、弧を描いてE-S9°からE-N2°へと細かく

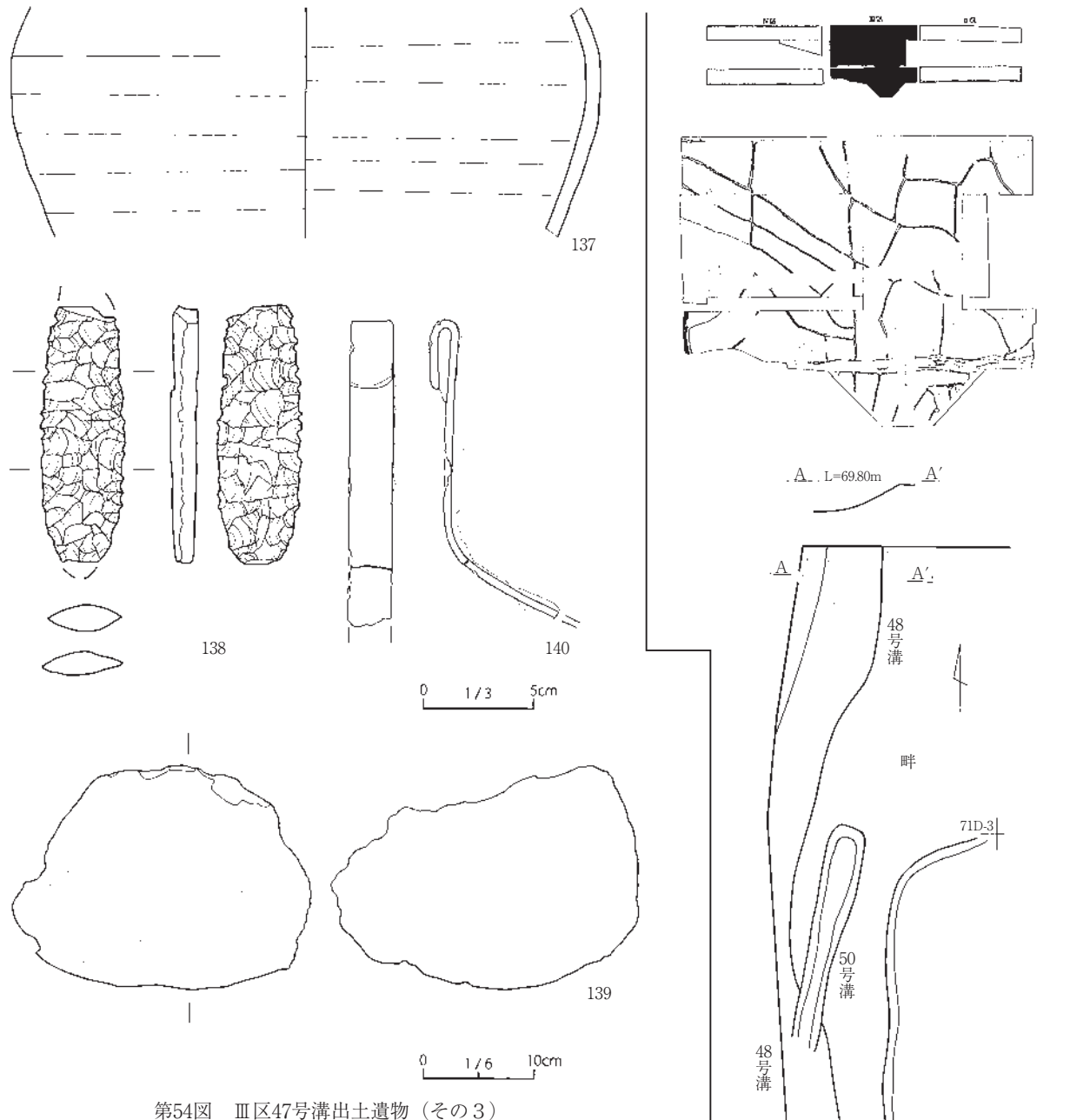
走行を転しながら、比較的直線的に走行し、東部でE-S13°、E-N3°、E-S27°と蛇行しながら走行を転じて南側調査区に抜けている。

掘削形態は20号溝も東半部が壊されているため明確ではないが残存部は箱堀状を呈する。47号溝も箱堀状を呈するが、底面から更に小型の箱堀状の落ち込みを有する。48号溝は明瞭でない。

II 調査の記録



第53図 Ⅲ区47号溝出土遺物 (その2)



第54図 Ⅲ区47号溝出土遺物（その3）

(3) Ⅲ区50号溝 (第55図)

**概要** Ⅲ区50号溝はⅢ区南西隅部に位置する。本溝は5面水田址の畦畔からⅢ区48号溝にかけて掘削されているが、その走行方向は48号溝北半部のそれとほぼ一致して並行に在る。尚、南側は48号溝との重複で確認できなかった。

本溝は48号溝、水田址と重複するが、新旧を特定することはできなかった。

本溝の掘削意図も特定できなかった。

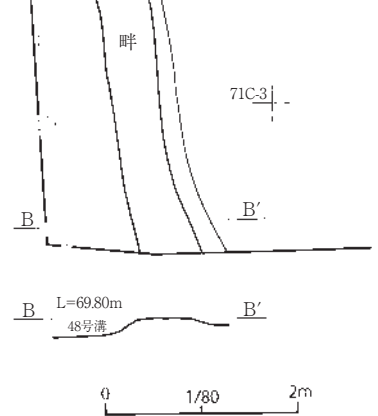
**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は概ね平安期の所産と認識されるが、その時期は特定できなかった。

**規模** 長さ 276cm  
幅 49cm

深さ 10cm

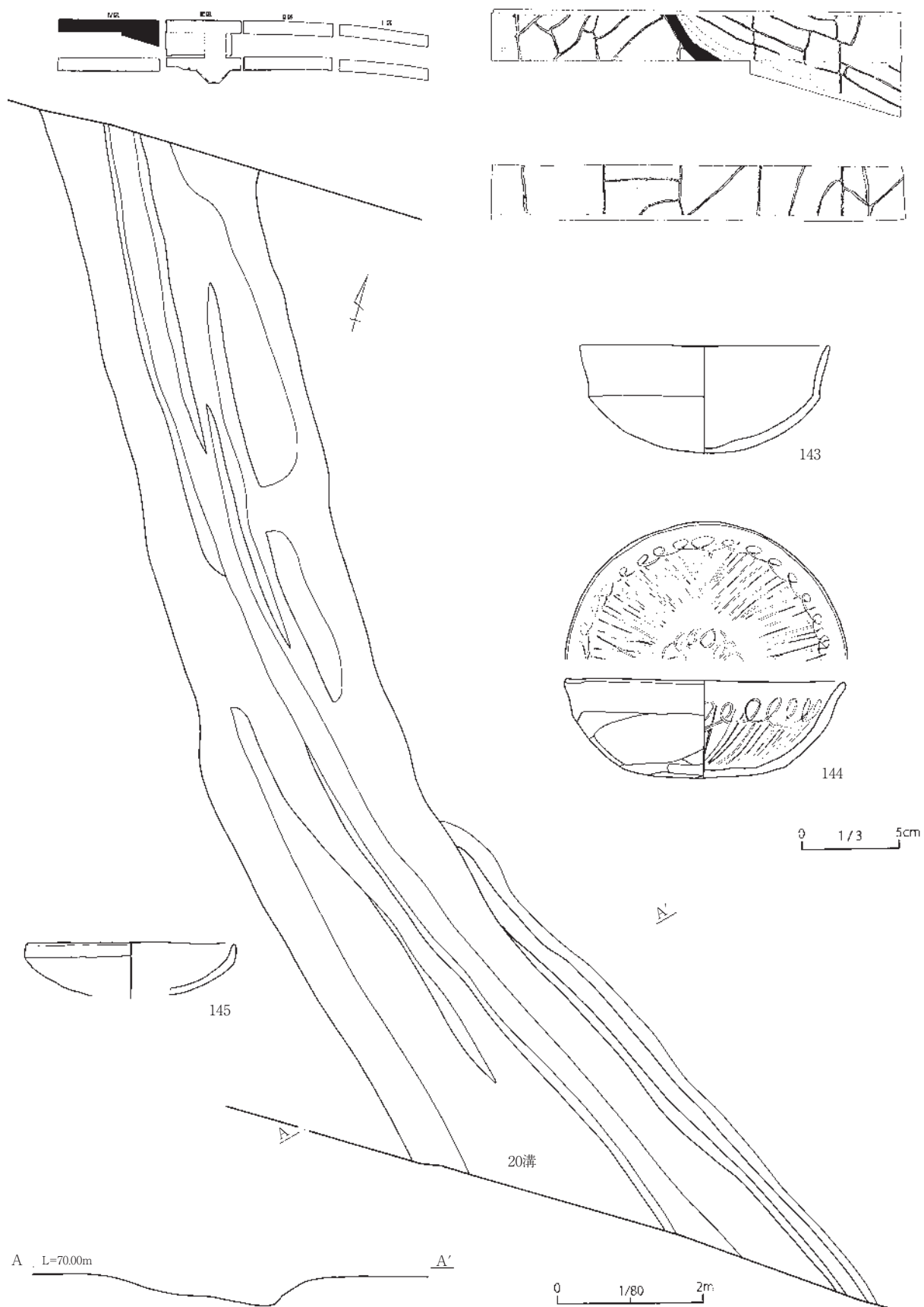
**構造** 本溝は走行の方向をN-E13°に取り、そのプランは直



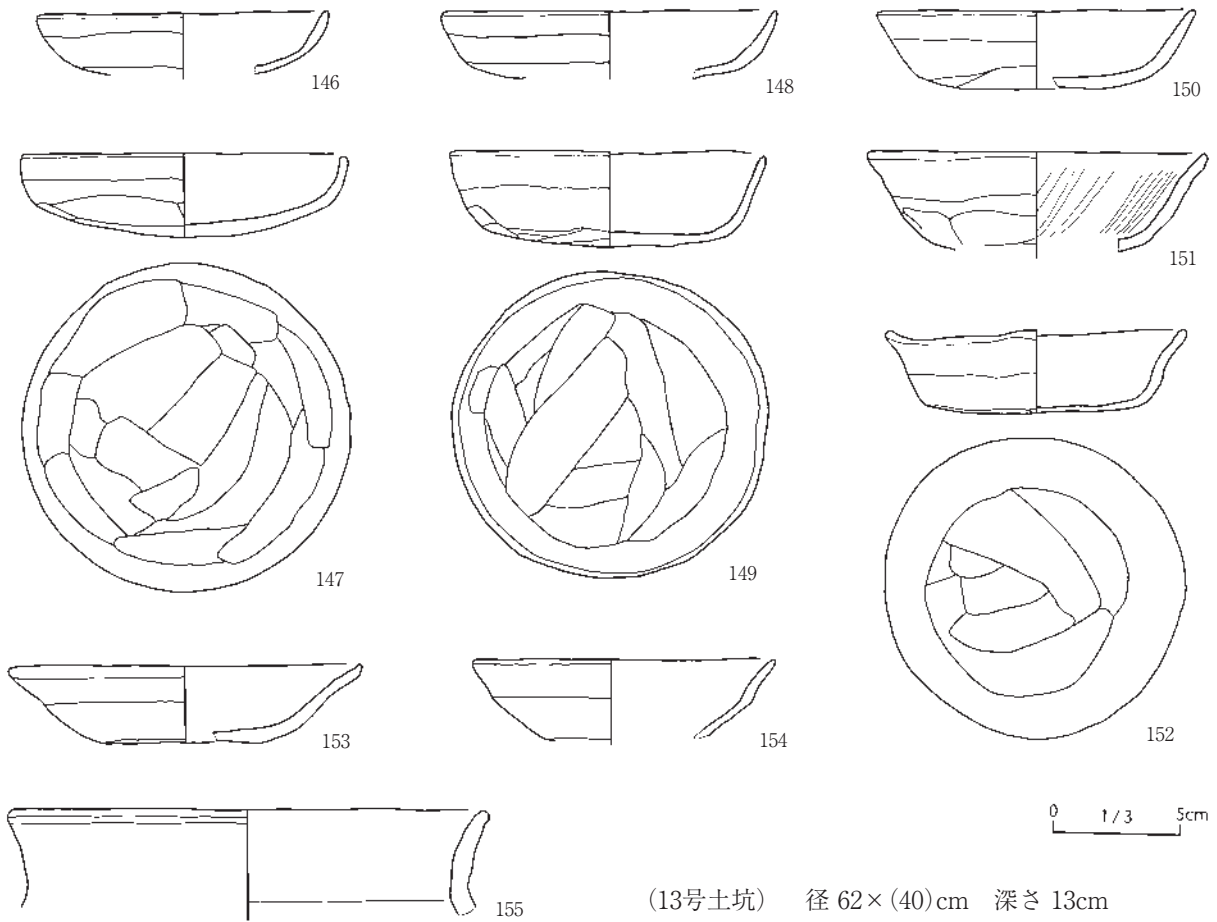
第55図 Ⅲ区48・50号溝



II 調査の記録



第56図 IV区20号溝と出土遺物（その1）



第57図 IV区20号溝出土遺物(その2)

線的である。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(4) II区5面の土坑群 (第58図)

概要 5面ではII区南側調査区中部東寄りの3面に掘削されたII区5・6号溝の間に、南北に並ぶII区12・13・14号土坑の3基の土坑を確認調査した。

何れも水田面と重複するが、新旧を特定することはできなかった。また12・13号土坑は西側を6号溝に切られて失っていた。

各土坑の掘削意図は確認されなかった。

遺物 12号土坑からは須恵器片1点が出土したが、13・14号土坑からの出土遺物は得られなかった。

時期 12・13・14号土坑は概ね平安時代の所産と認識されるが、時期は特定できなかった。

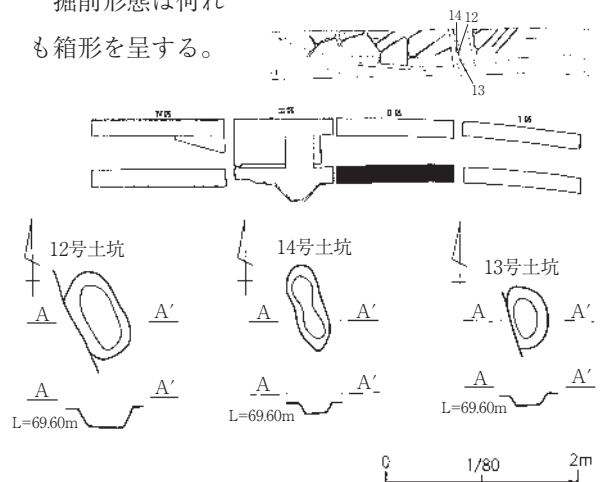
規模 (12号土坑) 径 92×(52)cm 深さ 23cm

(13号土坑) 径 62×(40)cm 深さ 13cm

(14号土坑) 径 93×33cm 深さ 12cm

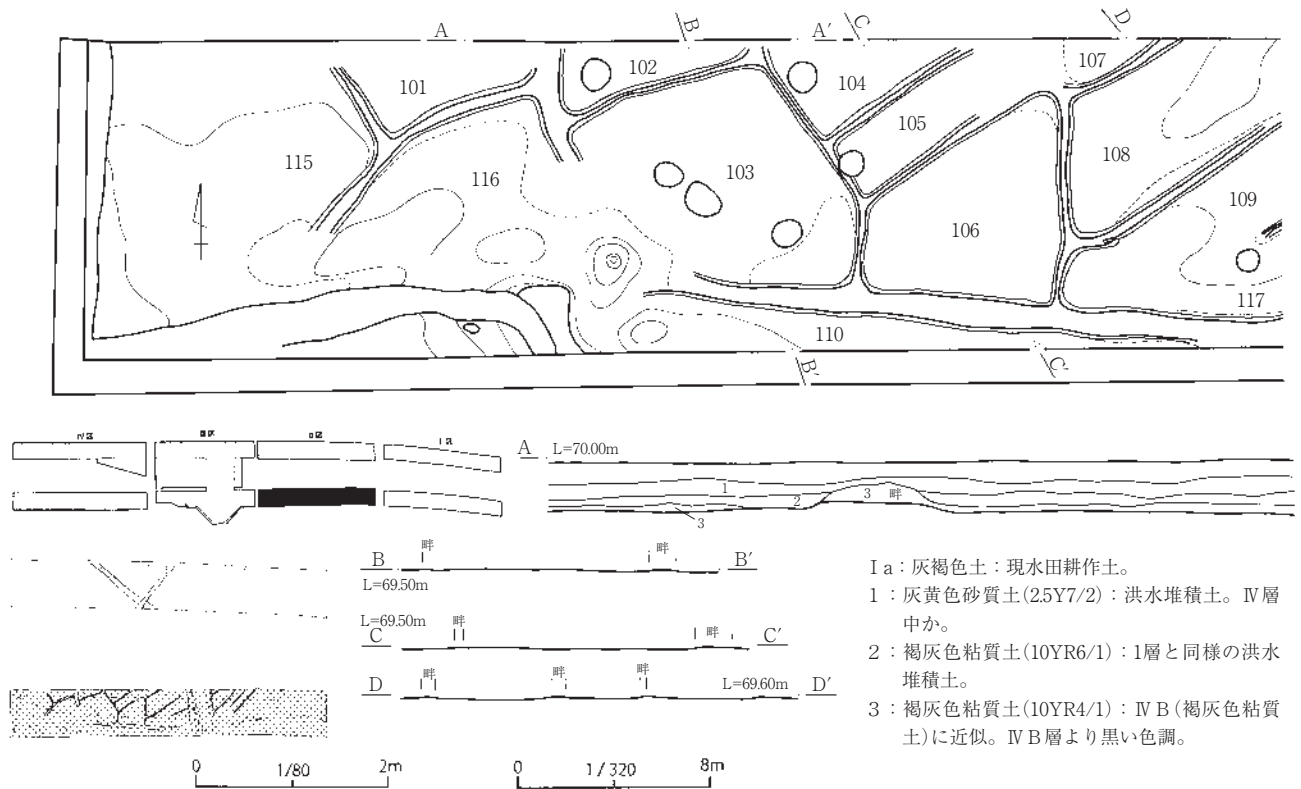
構造 長軸の方向は12号土坑はN-W25°、13号土坑はN-W7°、14号土坑はN-W27°に取り、プランは12号土坑は長円形、13号土坑は楕円形、14号土坑はピーナツ形を呈する。

掘削形態は何れも箱形を呈する。



第58図 II区5面の土坑群

II 調査の記録



第59図 II区5面の水田址

(1) 5面の水田址

(第59～65図、P L 15～18・68)

概要 5面ではII区の南側調査区、III区全域、及びIV区南北両側の調査区に於いて洪水層によって被覆された水田址を確認、調査した。

畔の軸方向は条里方眼に依拠すると見られるが、東西走行の畦畔は自然地形に沿って設置されているものと解釈される。

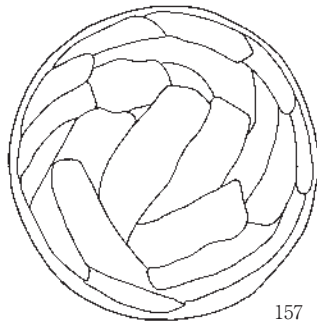
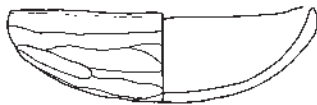
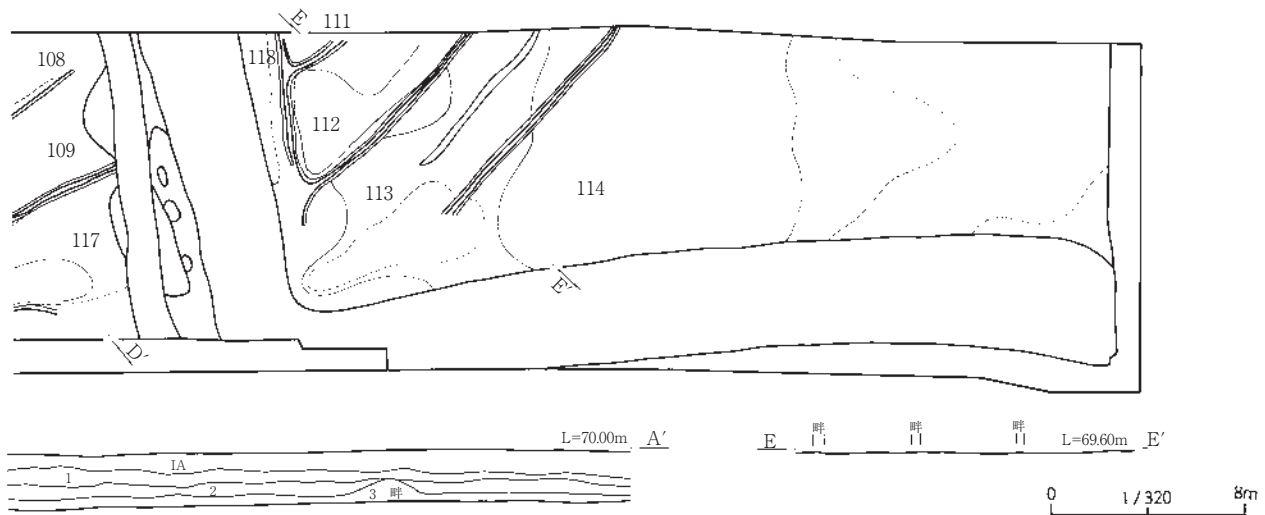
また本水田址ではIII区南部とIV区の過半の区域に

本水田址は水路と想定されるIII区47・48・50号溝及びIV区20号溝（以下遺構番号に重複がないため区の記号は略す）、水田址と48号溝を繋ぐものと見られるIII区50号溝、及びII区の12・13・14号土坑と重複する。このうち47・48・20号溝は覆土の比較から本水田址と同時期の所産と認識されるものである。III区50号溝は記録が充分でなく明確ではないが遺存状況等から推して同時期のものとして把握したい。一方II区の12・13・14号土坑との新旧は特定できなかった。

本水田址の畦畔のうち南北走行の畦

表9 II区5面水田区画一覧

NO.	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> ) (残存面積)
		長軸	短軸	高位	低位	高	低	
101	菱形か	690	(390)	69.49	69.47	5	3	(21.1)
102	菱形か	765	(250)	69.49	69.47	3	1	(11.54)
103	駒形	960	850	69.49	69.43	1	1	73.87
104	長方形か	(940)	(380)	69.48	69.47	1	1	(16.95)
105	短冊形	(740)	248	69.49	69.47	2	1	19.05
106	変形台形	860	813	69.44	69.40	5	3	51.61
107	長方形か	(442)	(200)	69.45	69.38	0	0	(5.95)
108	菱形か	(1,295)	585	69.46	69.37	7	5	(54.02)
109	菱形か	(1,478)	378	69.44	69.38	6	3	(52.11)
110	菱形か	(2,330)	(245)	69.50	69.27	5	2	(32.36)
111	菱形か	(170)	(108)	69.43	69.43	2	1	(1.21)
112	菱形か	(783)	400	69.44	69.36	4	2	(23.69)
113	菱形か	(1,185)	400	69.42	69.35	5	1	(60.43)
114	菱形か	(1,781)	—	69.47	69.33	4	2	(226.58)
115	台形か	(1,290)	960	69.53	69.45	2	1	(121.17)
116	台形か	(1,080)	710	69.45	69.37	7	5	(110.59)
117	三角形	(1,177)	378	69.45	69.39	3	3	(29.45)
118	短冊形か	(600)	(150)	69.48	69.47	0	0	(11.97)



0 1/3 5cm

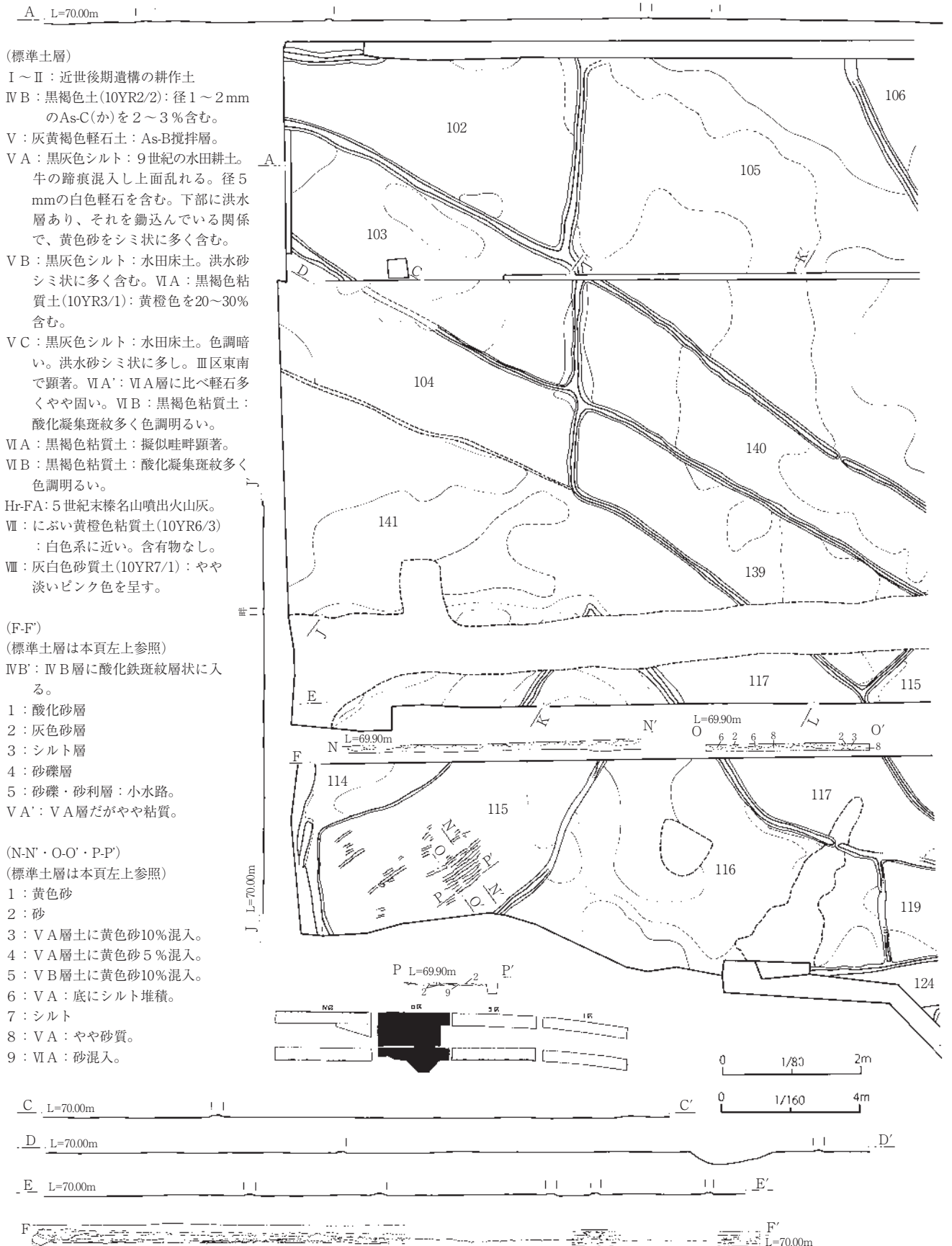
第59図の2 II区5面の水田址と出土遺物

於いてヒトの足跡及び牛の蹄跡が多数確認された。これらの足跡・蹄跡の輪郭は図化し、一部石膏型を取り上げたが、現時点ではそれぞれの足運びや、それに伴う作業手順の把握は成していない。尚、発見された牛の蹄は現在の飼育牛とは異なりハ字形に開いていて、より野生の

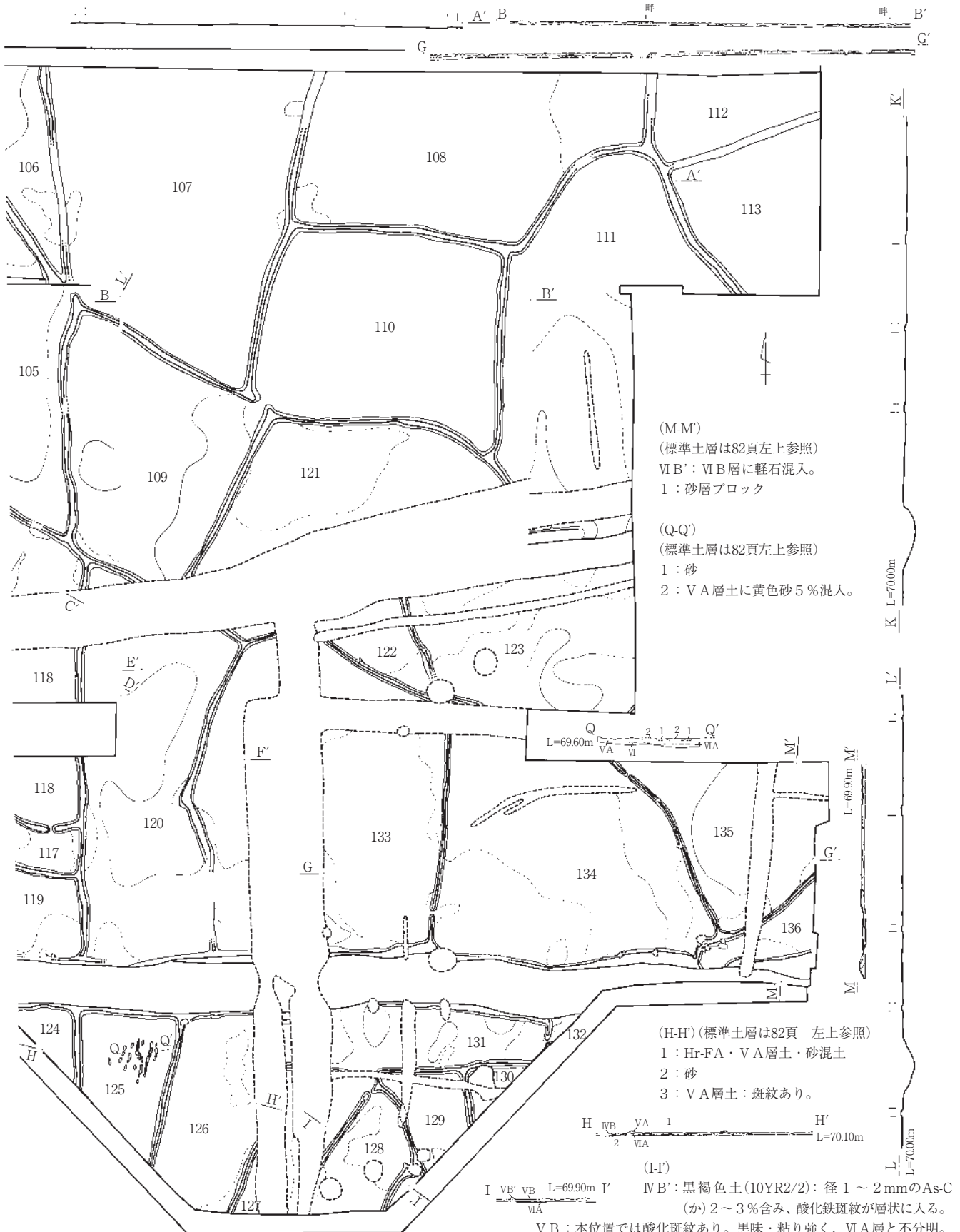
表10 III区5面水田区画一覧

NO.	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> ) (残存面積)	足跡	
		長軸	短軸	高位	低位	高	低		人	牛
101		(460)	(10)	69.71	69.66	11	8	(3.11)		
102	菱形か	(1,790)	(1,083)	69.78	69.68	11	2	(119.84)		
103	短冊型菱形	(1,820)	620	69.75	69.67	11	0	(118.84)		
104	短冊型菱形	(1,850)	535	69.72	69.68	8	8	(101.35)		
105	変形台形	(2,610)	(1,860)	69.82	69.71	13	1	(400.64)		
106	三角形か	(1,233)	520	69.83	69.70	6	0	(41.72)		
107	駒形か	(1,830)	(970)	69.81	69.71	5	0	(209.94)		
108	靴形	1,970	(970)	69.78	69.70	8	0	(159.12)		
109	台形	1,360	1,040	69.78	69.66	11	5	121.37		
110	長方形	1,370	1,095	69.74	69.68	10	3	144.81	○	
111	楕形か	(1,945)	(1,200)	69.77	69.68	7	1	(168.79)		
112	菱形か	(985)	(465)	69.73	69.57	12	0	(36.46)		
113	菱形か	(890)	(839)	69.74	69.56	14	0	(64.92)		
114	三角形か	(2,184)	540	69.84	69.75			(149.91)		
115	縦長台形	(1,690)	815	69.89	69.72	7	1	(150.84)		○
116	靴形	2,020	(1,180)	69.93	69.73	10	0	(201.85)		
117	靴形	(2,160)	1,015	69.80	69.71	9	1	(171.19)		
118	袋形	(1,040)	740	69.75	69.69	11	2	(68.80)		
119	台形か	668	570	69.79	69.70	10	0	33.25		
120	鎌柄形	23.5	9.5	69.76	69.60	9	1	152.96		
121	台形	(1,580)	(820)	69.70	69.62	18	6	(174.40)		
122	三角形	(588)	478	69.78	69.63	10	2	(17.67)		
123	台形か	(1,330)	(612)	69.69	69.62	4	0	(102.88)		
124	長方形か	(435)	342	69.78	69.75	14	1	(8.77)		
125	縦長台形か	(863)	555	69.81	69.73	15	0	(33.80)	○	○
126	縦長台形か	(1,160)	530	69.79	69.73	14	0	(61.10)		
127	縦長台形か	(980)	390	69.76	69.65	20	6	(33.16)		
128	縦長台形か	(810)	405	69.73	69.65	14	6	(27.87)		
129	縦長台形か	(530)	470	69.72	69.65	11	10	(17.47)		
130		(276)	60	69.66	69.65	12	11	(1.10)		
131	長方形か	(320)	(290)	69.64	59.52	25	14	(5.35)		
132		(1,240)	348	69.70	69.59	19	5	(44.10)	○	○
133	長方形か	(163)	(168)	69.59	69.59	19	19	(1.16)		
134	家形	1,270	(715)	69.80	69.69	10	2	(227.16)		
135	不定四辺形	1,583	1,290	69.78	69.69	10	3	176.17		
136	幅広円弧形か	(1,030)	(965)	69.66	69.54	10	3	(40.5)		
138	幅広円弧形か	(675)	(405)	69.56	69.50	15	4	(13.66)		
139	鎌柄形	2,190	586	69.80	69.73	13	1	(115.24)		
140	鎌柄形	2,825	588	69.81	69.72	11	1	(130.05)		
141	縦長台様か	(1,695)	(1,425)	69.85	69.72	11	4	(165.63)		

II 調査の記録

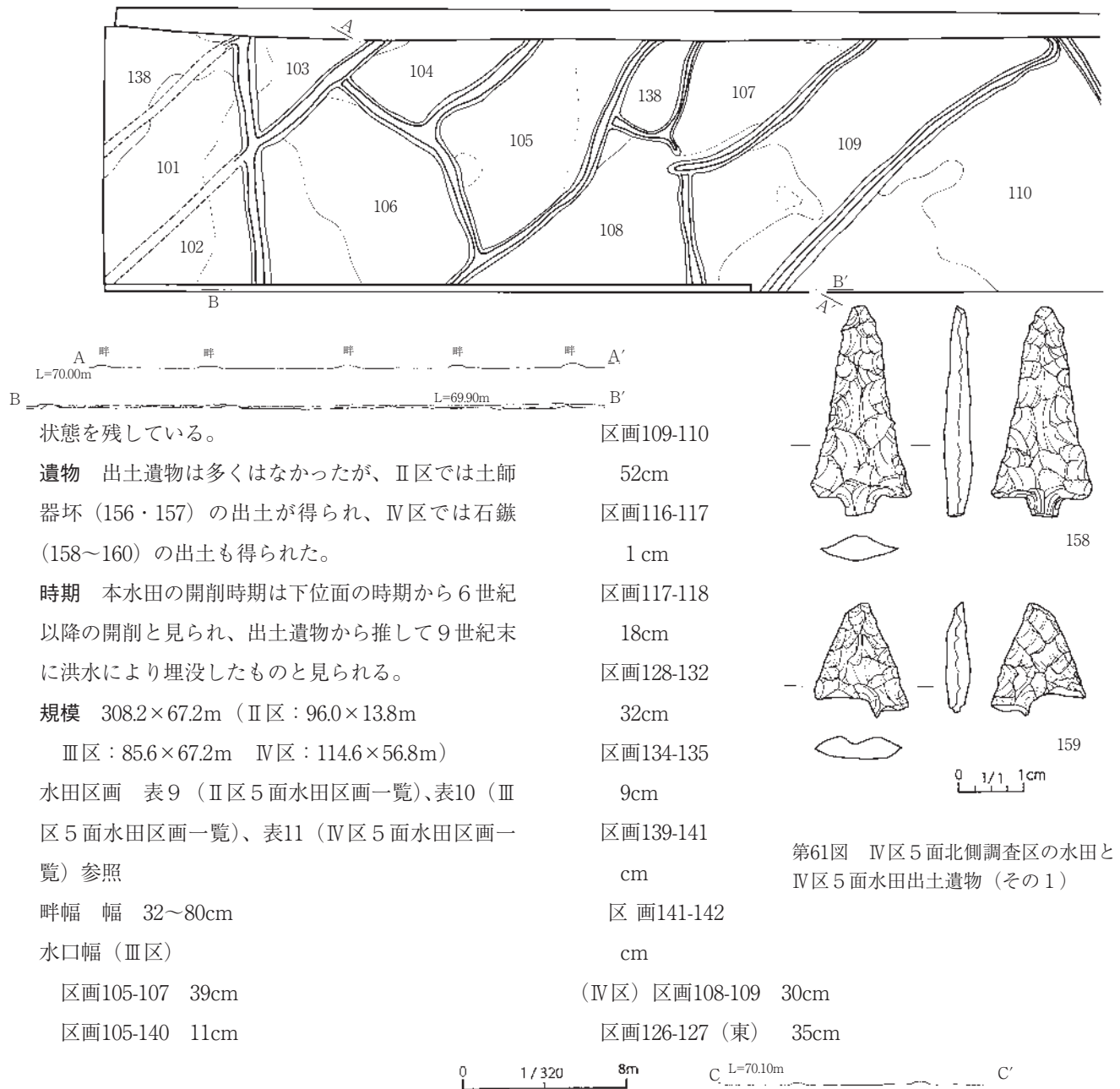


第60図の1 Ⅲ区5面の水田址

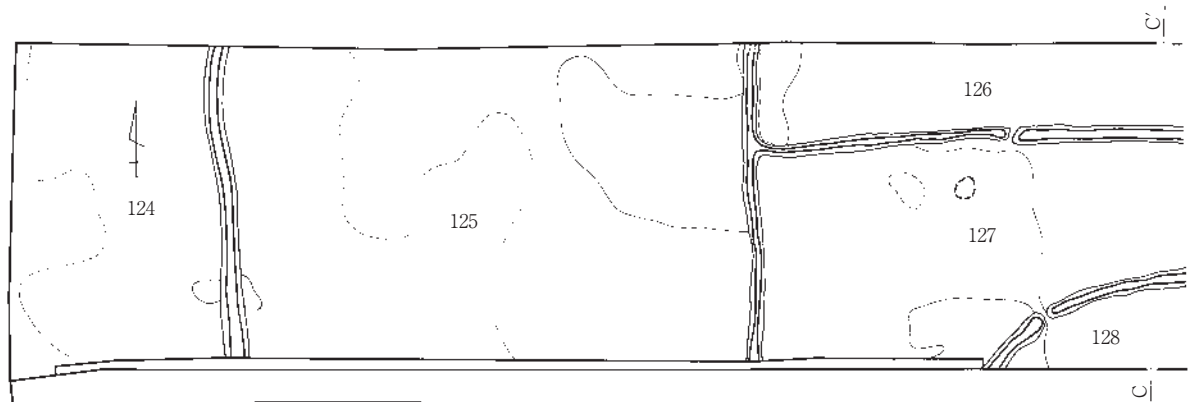


第60図の2 Ⅲ区5面の水田址

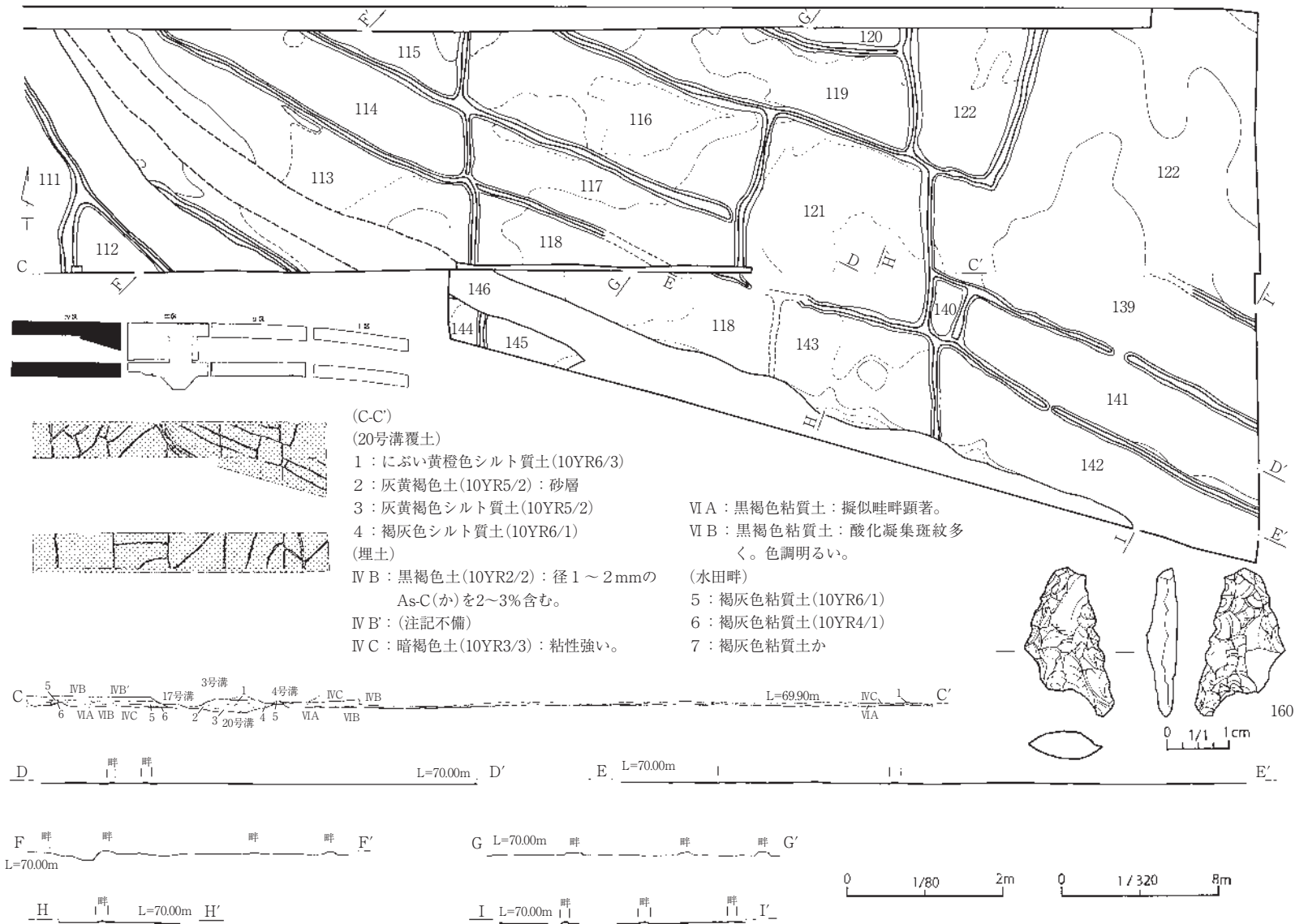
II 調査の記録



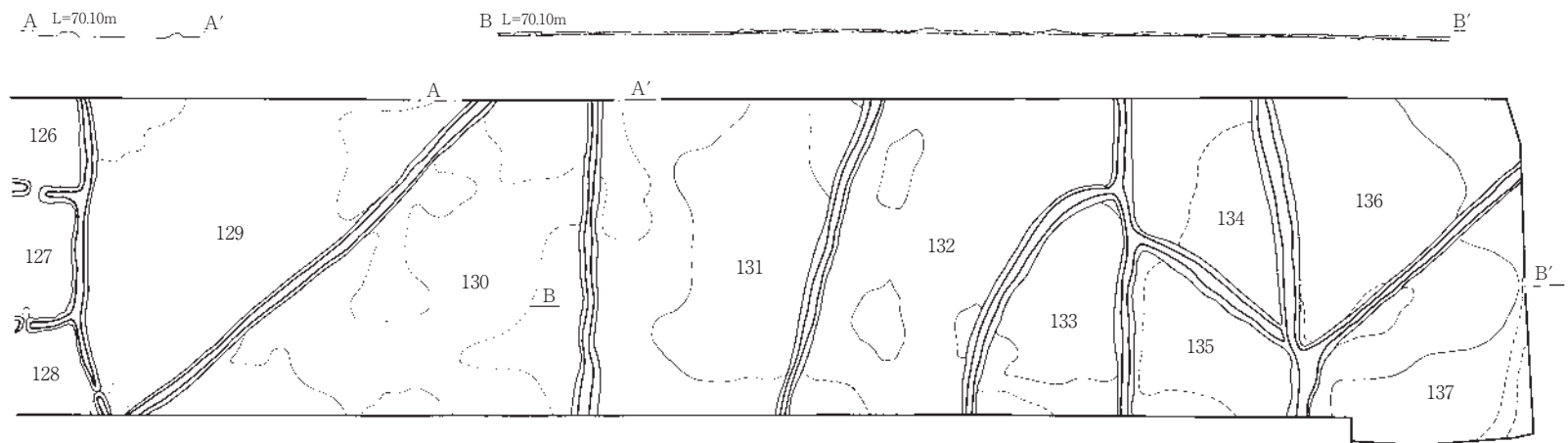
第61図 IV区5面北側調査区の水田とIV区5面水田出土遺物 (その1)



第62図 IV区5面南側調査区の水田址



第61図 IV区5面北側調査区の水田址とIV区5面水田址出土遺物



第62図 IV区5面南側調査区の水田



表11 IV区5面水田区画一覧

NO.	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)		面積(m <sup>2</sup> ) (残存面積)	足跡	
		長軸	短軸	高位	低位	高	低		人	牛
101	横長平行四辺形か		(450)	69.93	69.88	1	0	(18.22)		
102	横長平行四辺形か	(882)	(438)	69.94	69.85	4	0	(37.59)		
103	横長平行四辺形か	(550)	(450)	69.93	69.87	11	0	(20.59)		
104	横長平行四辺形か	(410)	(280)	69.94	69.88	4	0	(13.50)		
105	長方形か	(489)	(405)	69.93	69.87	6	0	(20.32)		
106	靴形か	(1,030)	640	69.94	69.84	5	0	(54.46)		
107	楕形か	1,065	895	69.95	69.85	9	0	(73.98)		
108	房形か	(655)	514	69.98	69.88	10	0	(29.6)		
109	靴形か	(903)	(755)	69.91	69.85	4	0	(85.62)		
110	横長平行四辺形か	1,450	616	69.94	69.84	10	0	(46.34)		
111	台形か	(1,522)	1,200	69.94	69.85	10	0	(127.19)	○	○
112	三角形か	(400)	(280)	69.94	69.89	6	0	(8.31)	○	○
113	横長平行四辺形か	(866)	695	69.95	69.71	10	1	(135.00)	○	○
114	横長平行四辺形か	(1,662)	338	69.91	69.84	12	1	(43.61)		
115	横長平行四辺形か	(760)	(225)	69.93	69.89	6	1	(12.26)		
116	横長平行四辺形	(1,550)	475	69.94	69.82	10	1	(72.73)	○	○
117	横長平行四辺形	1,445	298	69.95	69.84	6	1	(41.44)	○	○
118	横長平行四辺形	1,620	370	69.94	69.86	6	0	(62.10)		○
119	横長平行四辺形か	1,590	439	69.94	69.85	11	0	(49.74)	○	○
120	長方形か	(620)	88	69.90	69.86	7	0	(4.63)	○	○
121	平行四辺形	930	871	69.89	69.81	11	6	75.01	○	○
122	台形か	(742)	(569)	69.89	69.82	12	1	(34.95)	○	○
123	方形様か	(1,524)	(1,425)	69.87	69.74	9	2	(152.13)	○	○
124	長方形か	(1,400)	(880)	69.99	69.89	3	0	(112.15)		
125	長方形か	(2160)	1,288	70.03	69.89	6	0	(277.33)	○	○
126	長方形か	2,065	(295)	70.03	69.98	9	2	(75.77)	○	○
127	靴形か	2,051	(662)	70.03	69.95	10	0	(149.73)	○	○
128	扇形か	(1,046)	338	70.02	69.96	11	0	(30.59)		○
129	三角形か	(1,880)	(1,432)	70.06	69.97	8	1	(127.00)	○	○
130	三角形か	(1,665)	(1,350)	70.01	69.93	8	2	(143.56)	○	○
131	台形か	(1,350)	1,130	69.97	69.87	10	3	(127.06)	○	○
132	靴形か	(1,350)	1,040	69.97	69.91	10	1	(111.57)	○	○
133	みかん房形か	(925)	600	70.00	69.86	15	2	(41.38)	○	○
134	台形か	(800)	575	69.87	69.80	13	2	(40.50)		
135	台形か	(695)	662	69.88	69.80	12	3	(34.14)	○	○
136	平行四辺形か	(1,220)	(1,030)	69.86	69.74	9	1	(68.16)		
137	台形か	(1,040)	895	69.86	69.73	8	1	(64.85)	○	○
138	瓢箪形か	(478)	252	69.94	69.90	5	0	(10.55)		
139	横長平行四辺形か	(1,830)	(405)	69.81	69.76	7	3	(86.28)	○	○
140	楕形	271	148	69.83	69.79	8	5	3.56		
141	短冊形	(1,700)	(357)	69.80	69.75	12	4	(57.92)		
142	横長平行四辺形か	(1,855)	(423)	69.87	69.75	9	5	(60.09)		
143	長方形	816	518	69.86	69.66	9	3	39.89		
144	方形か	(220)	(154)	69.89	69.80	3	1	(3.00)		
145	盾形か	(720)	(172)	70.00	69.85	5	4	(7.32)		
146	横長平行四辺形か	(1,070)	(160)	69.79	69.65	17	6	(14.10)		

区画126-127 (西) 28cm

区画126-128 (東) 10cm

区画126-128 (西) 13cm

鋤跡 区画115 長さ 19~249cm

幅 11~20cm

区画125 長さ 23~205cm

幅 9~19cm 深さ 5cm

構造 本水田址の遺存状態は比較的良好で、土層断面観察から同じ位置に畦畔を形成する2時期の造成が想定されるものの、それぞれの時期の畦畔を面的には分別、確認することはできなかった。区画はⅡ区で18区画、Ⅲ区で41区画、Ⅳ区で45区画を確認した。

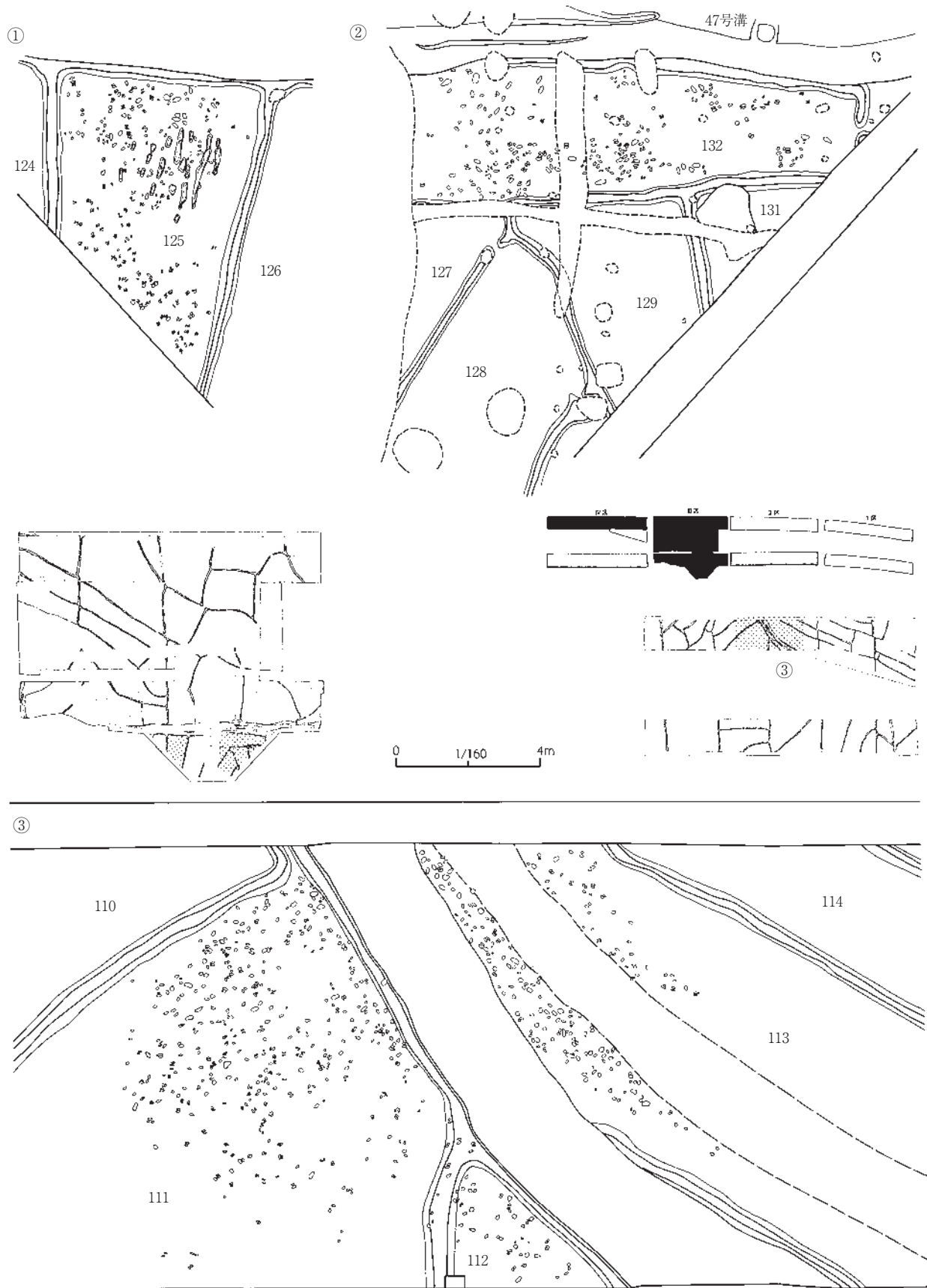
畔のうち大畔と認識できるようなものは特に認められなかった。また水田の軸方向は各様だが、47・48・20号溝を境としてその北側は西北西-東南東方向を向くものが多く、その南側は南北、或いは東北東-西南西方向を向く傾向にある。

区画のプランは表9~11の一覧に記したように一様ではなかったものの、短冊様の菱形が目立っており、台形、長方形のものも比較的多く見られた。

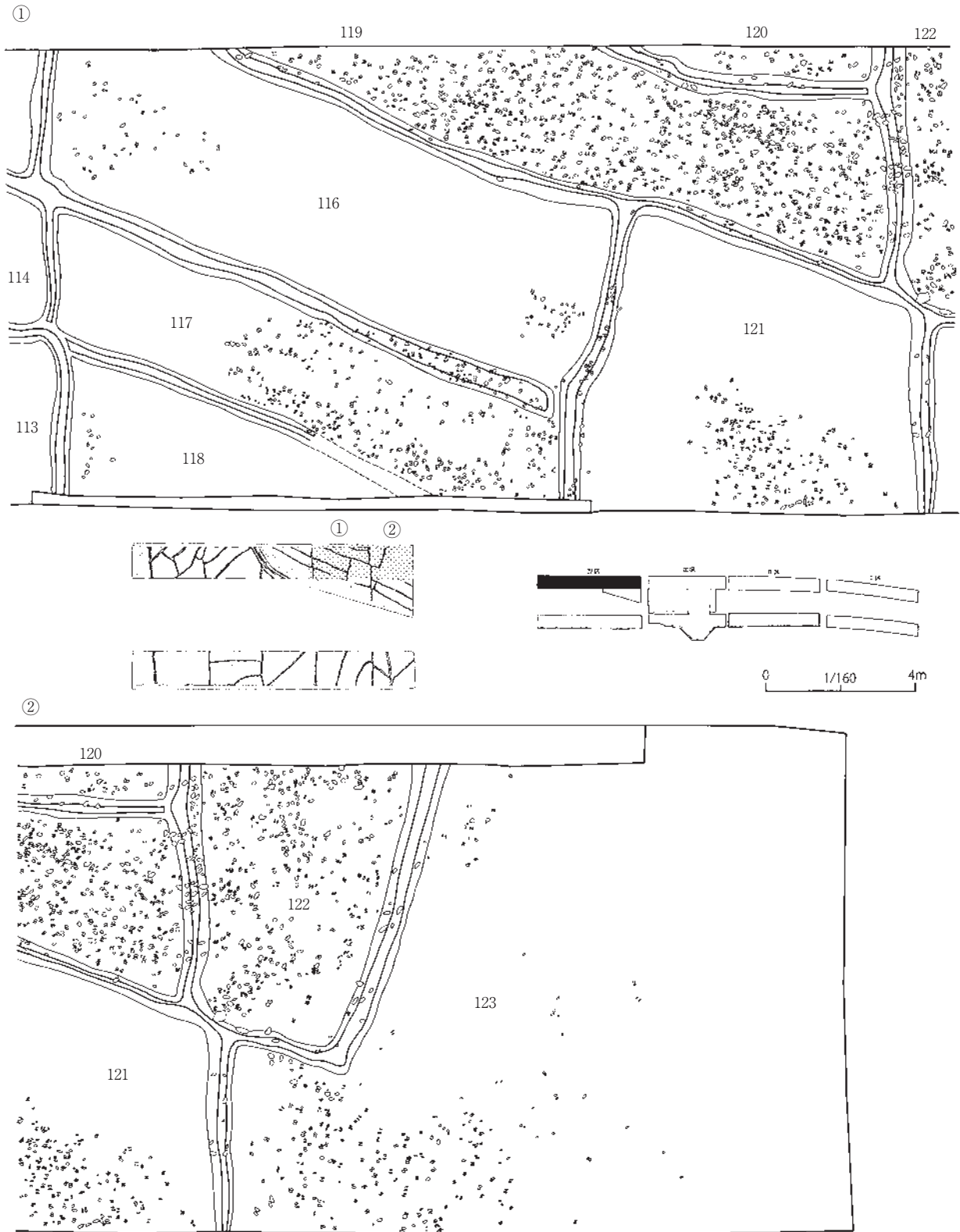
給排水の方向は、水田面が厚平によって塑性変形を生じている箇所も散

見されるため明瞭ではないが、水口は概ね47・48・20号溝の方向に向かって開口している。このうちⅢ区南西の47号溝北側の区画116と北側の区画117の水口の区画117側には流入に伴うと見られる窪地が見られ、この水口の南側に在る区画116の水田面には通水の痕跡を示す直線的な溝状の窪みが見られる。またⅣ区の20号溝南に位置する南側調査区の区画

II 調査の記録



第63図の1 Ⅲ区5面水田の足跡（上）及びⅣ区5面水田の足跡（下、その1）

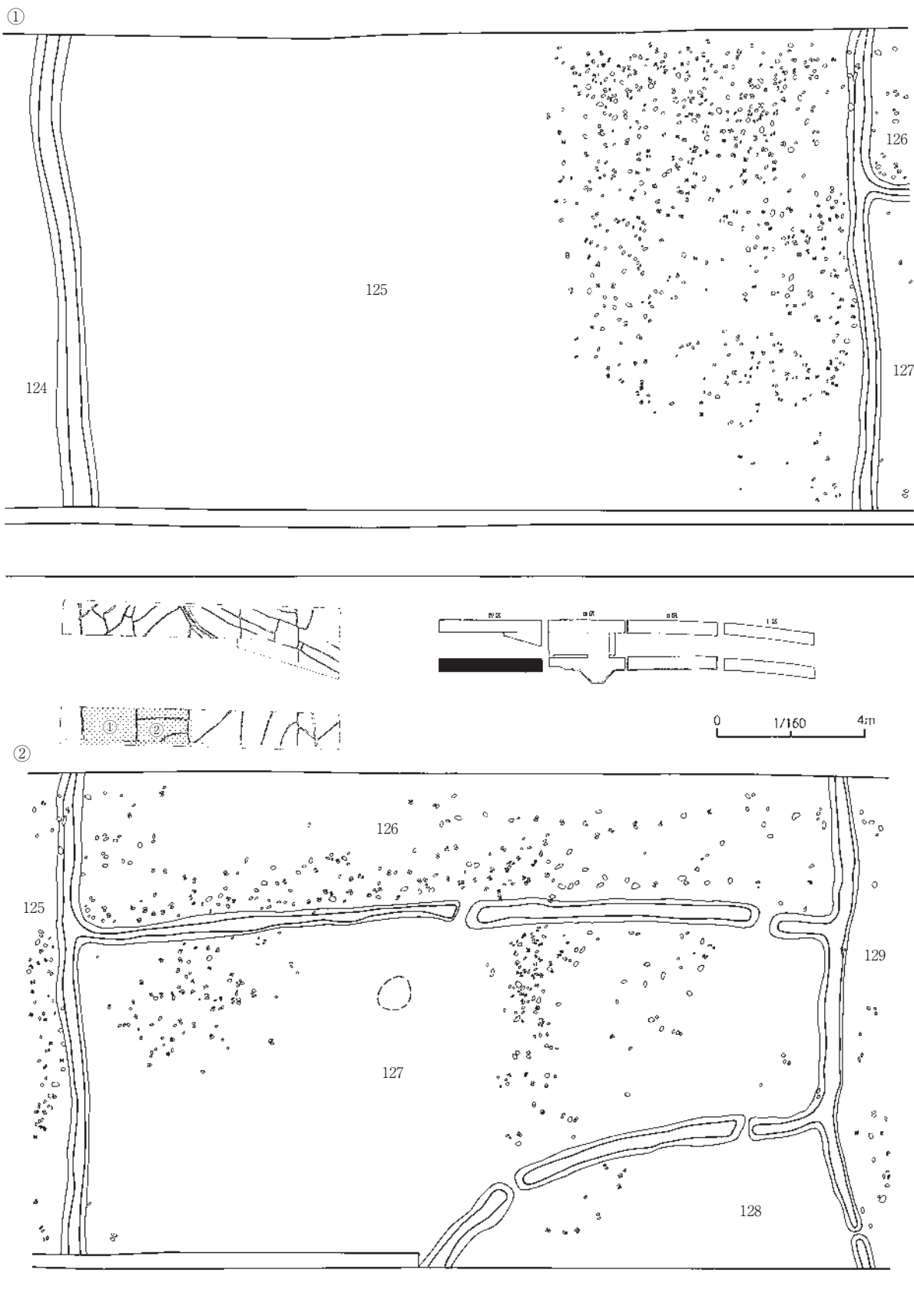


第63図の2 IV区5面水田の足跡（その2）

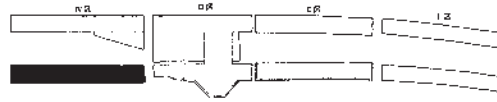
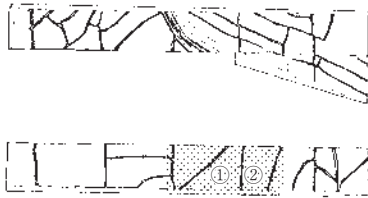
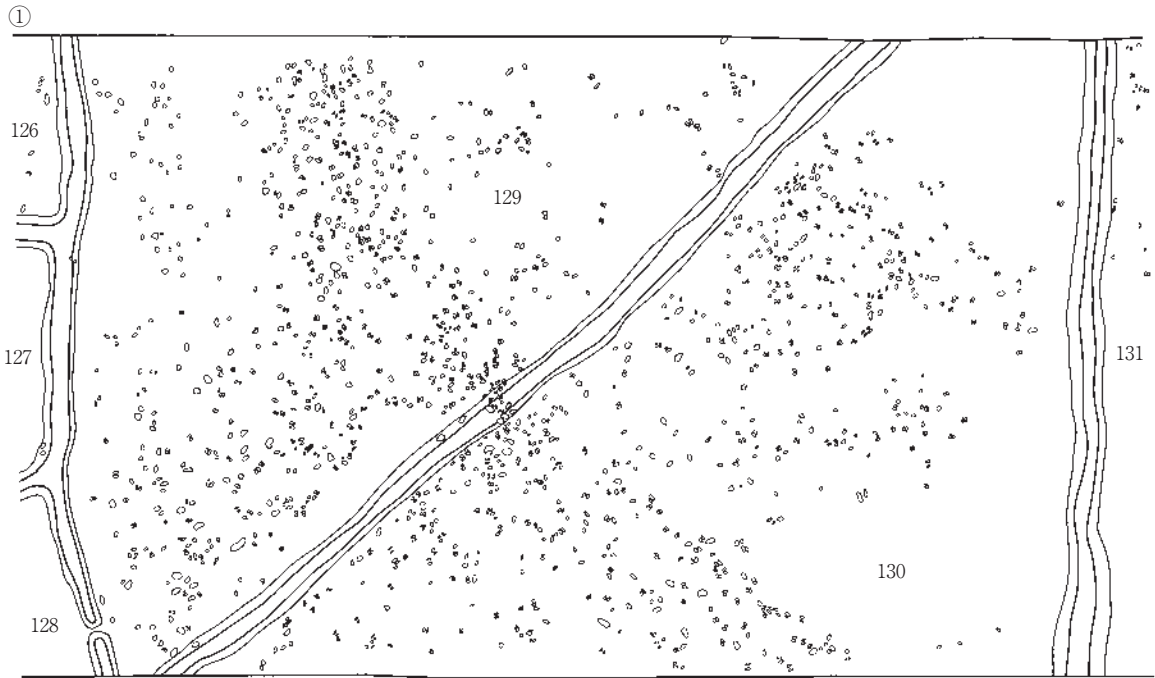
128から北側の区画127への東側水口と東側の区画129への水口の区画127・129側には同じく通水に伴

うと見られる小さな窪地が形成されている。Ⅲ区の区画116・117の状態からは47・48・20号溝は給水路

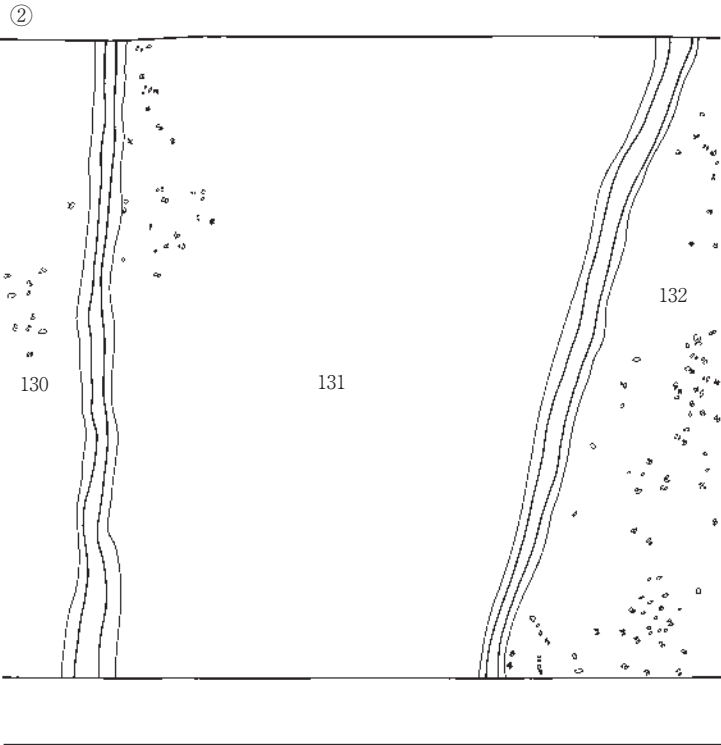
II 調査の記録



第64図の1 IV区5面水田の足跡(その3)



0 1/160 4m



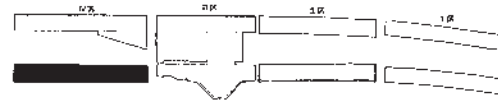
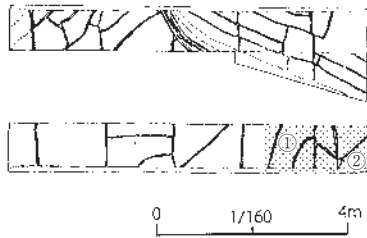
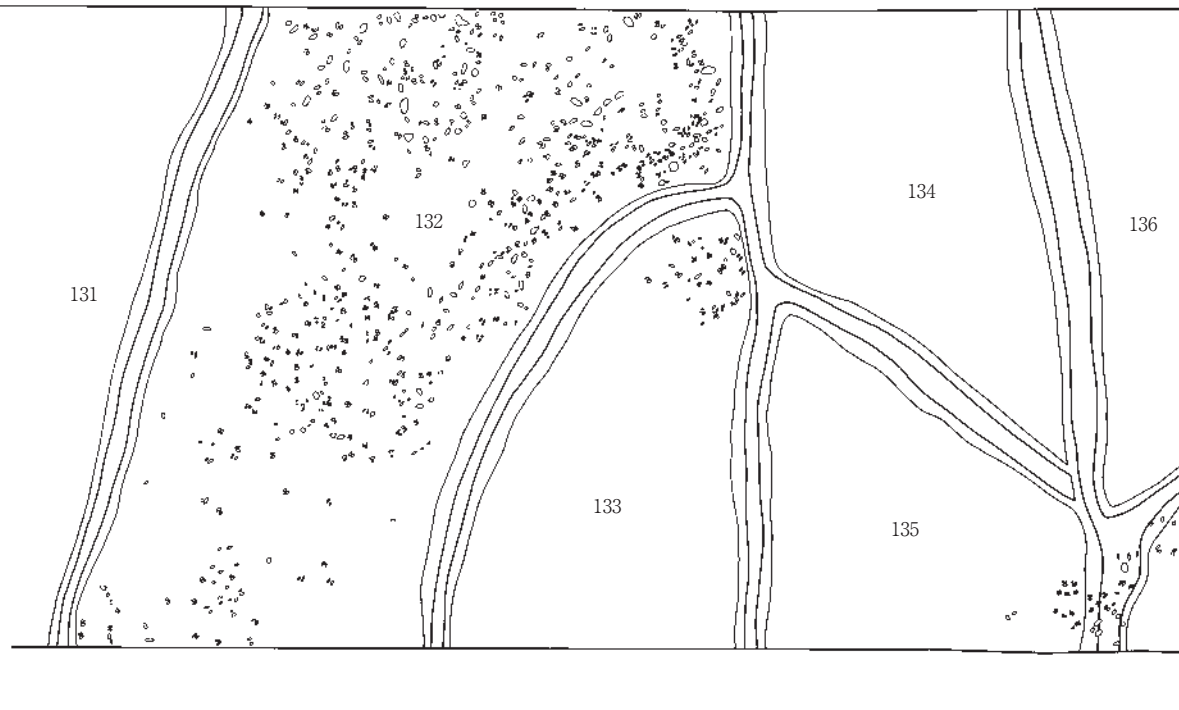
として使用された可能性が考慮されるが、47・48・20号溝に堰等は認められず、Ⅳ区の区画127～129の状態を併せると47・48・20号溝は排水溝として使われた可能性も考慮される。従って通水の方向は判然としない。尚、水口はⅢ区の区画105-107、区画105-140、区画117-118、区画109-110、区画139-141、区画141-142、Ⅳ区区の区画108-109、区画126-127、区画126-128間に開口している。

またⅢ区の区画115では23条の、区画125では断続的なものを含む7条以上の鋤跡を確認している。このうち区

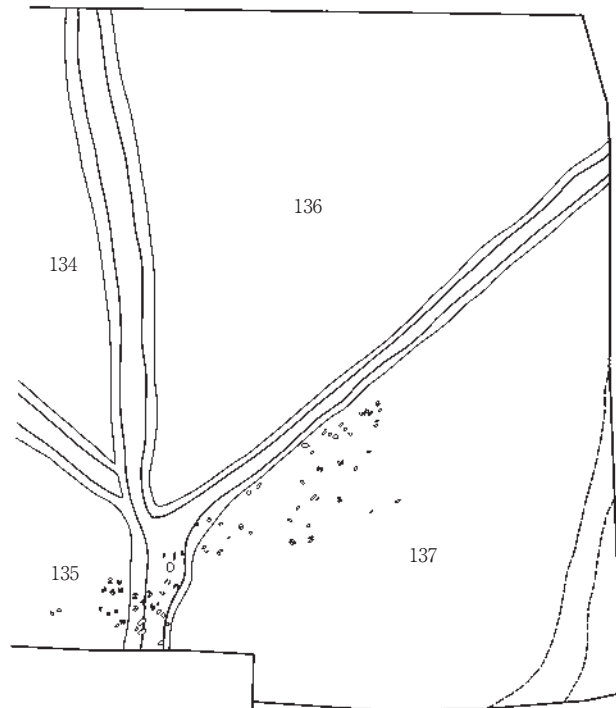
第64図の2 Ⅳ区5面水田の足跡（その4）

II 調査の記録

①



②



画115の長軸方向は南側ではE-N31°を向き北側に向かって反時計回りに湾曲してN-E38°へ転ずるが、区画115の鋤跡は区画の南寄りに在って、その長軸方向に沿って掘削されている。また区画125南部が調査区外に出ているが、その長軸方向はN-E10°方向を向き、鋤跡はその北寄りに在って区画の長軸方向に沿って掘削されている。

Ⅲ区の47号溝以南の区域では粗起しによる凹凸面が顕著に見られた。

また測定した160例の牛蹄跡の長さは8.0～17.0cm、平均11.38cm、幅は6.7～14.0cm、平均10.74cmを測った。その向きは東47例、南33例、西74例、北4例であった。

第65図 IV区5面水田の足跡（その5）

## 5 第4面の調査

### (1) 概要

4面では浅間山の大噴火によるAs-B災害の有った古代末の天仁元年(1108)前後の時期を中心に、一部3面に現れなかった中世にかかる遺構、遺物を確認、調査した。

遺構はI～IV区の全域にその分布が見られたが、Ⅲ区に在ってはその分布は薄い。このうちI区～Ⅱ区東端部とⅣ区西端部にはAs-Bで被覆された水田址が確認され、I～Ⅳ区全体では溝14条(I区1条、Ⅱ区5条、Ⅳ区8条)、土坑25基(I区12基、Ⅱ区7基、Ⅳ区6基)、落ち込み1箇所(Ⅲ区)が確認されている。

尚、こうした遺構の分布状態から古代末に於いてI区～Ⅱ区東端部とⅣ区西端部は低地部に当たり、その間は微高地であったものと判断される。

### (2) I区20号溝 (第67図、P L22)

**概要** 本溝はI区南側調査区の西寄りに位置している。遺存状態はあまり良くなかった。

本溝は上位面3面の9号溝に切られているが、同一面の遺構との重複関係は認められなかった。

また、本溝の掘削意図も確認することはできなかった。

**遺物** 本溝からは若干の土師器片等が出土した。

**時期** 本溝は古代末前後の所産と見られるものの、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ652cm 幅41cm 深さ4cm

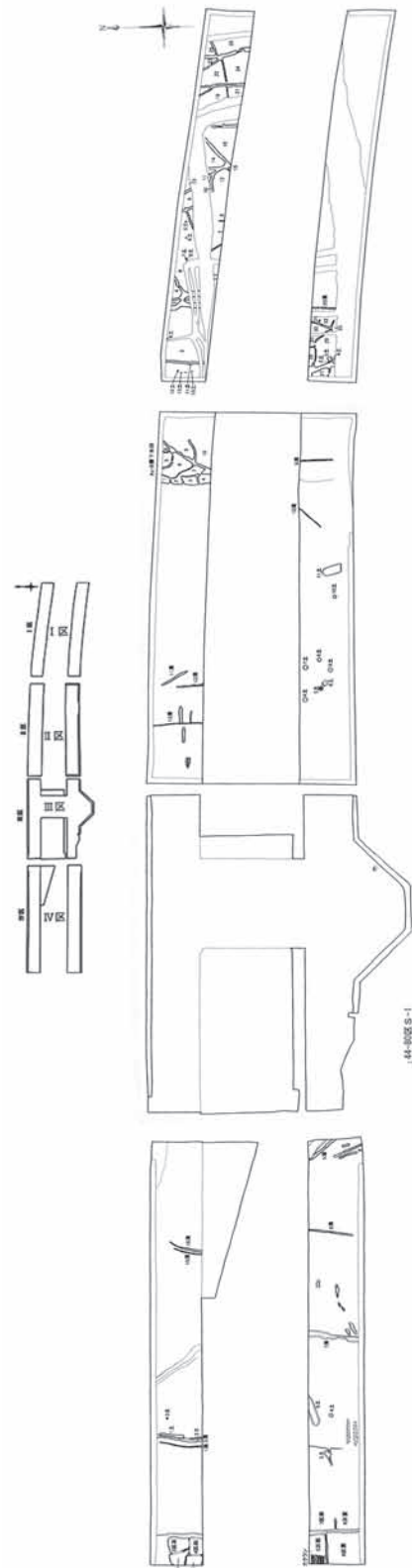
**構造** 本溝の走行の方向はN-E1°を向くが、プランは緩やかな蛇行を以て、やや時計回りに僅かに弧を描いている。

掘削形態は箱堀状を呈する。

### (3) Ⅱ区9号溝 (第67図、P L22)

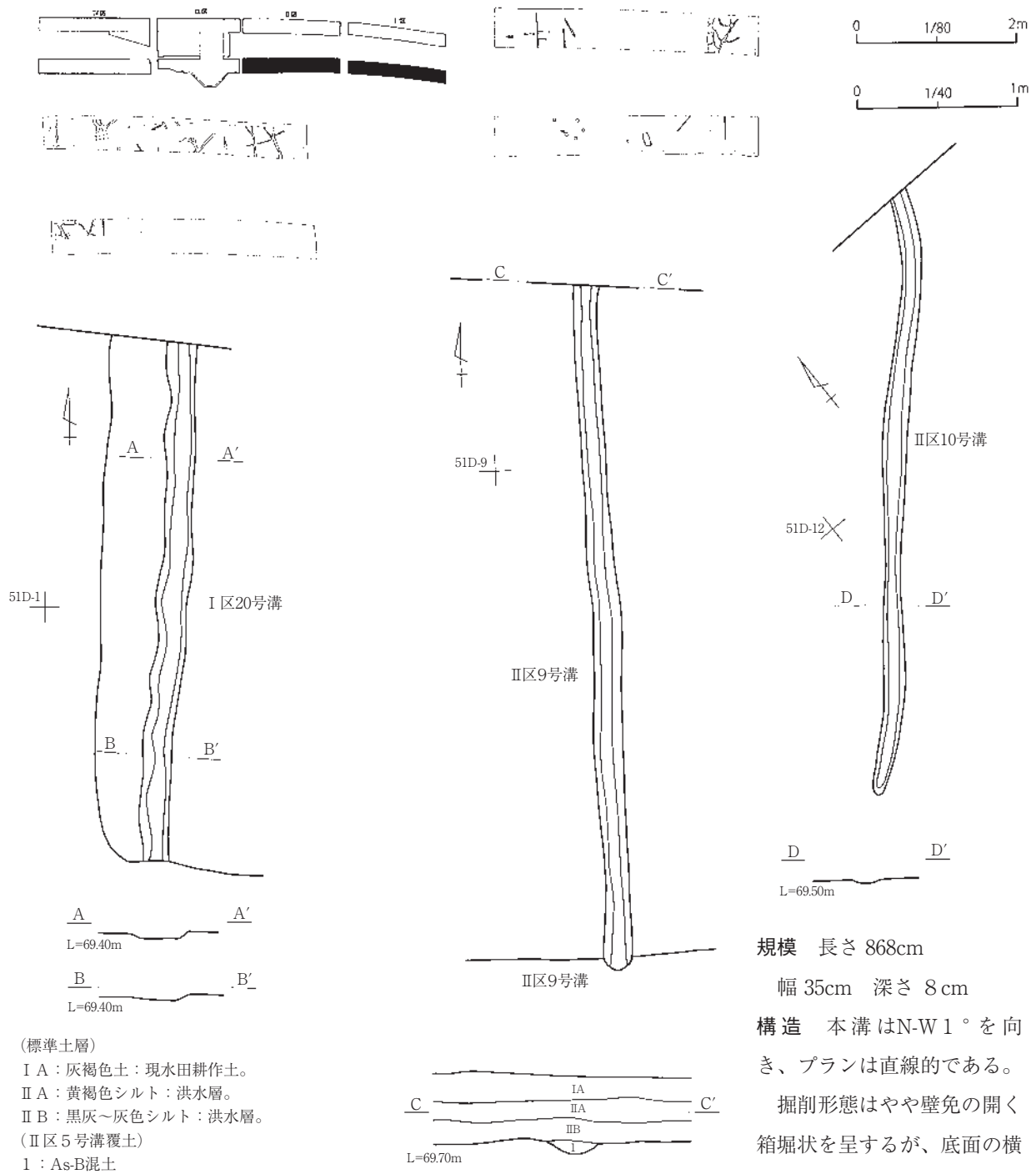
**概要** 本溝はⅡ区南側調査区の東部に位置する。北側は調査区外に出ていて確認できなかった。

他遺構との重複は見られなかった。



第66図 4面全体図 (S=1/2000)

II 調査の記録



第67図 I区20号溝及びII区9・10号溝

本溝の掘削意図は特定できなかったが、軸線の方は付近で見られる条里方眼にはほぼ沿っている。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本溝はAs-Bを含むことから古代末から中世にかけての所産と見られるものの、細かい時期の特定には至らなかった。

(4) II区10号溝 (第67図、P L22)

概要 本溝もII区南側調査区の東部に位置する。遺存状態は良好でない。また北側は調査区外に出ていて確認できなかった。

他の遺構との重複見られなかった。

また掘削意図も確認できなかった。





遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本溝は古代末前後の所産と見

られるものの、時期の特定には至らなかった。

規模 長さ761cm 幅31cm 深さ4cm

構造 軸方向はN-E45°を向くが、北端ではN-E26°、南端ではE-N44°を向いている。プランは和弓形を呈する。

遺存状態が良好ではないため明瞭ではないが、掘削形態は箱堀状を呈すると判断される。

(5) II区11号溝 (第68図、PL22)

概要 本溝はII区北側調査区西部に位置する。

他遺構との重複は見られなかった。

また本溝の掘削意図も特定できなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本溝も古代末前後の所産と想定されるものの、時期特定には至らなかった。

規模 長さ511cm 幅56cm 深さ7cm

構造 軸方向はN-W28°で、プランは弱い蛇行を見せるものの、全体としては直線的なものであった。

掘削形態は箱堀状であるが、底面の横断形は丸みを有する。

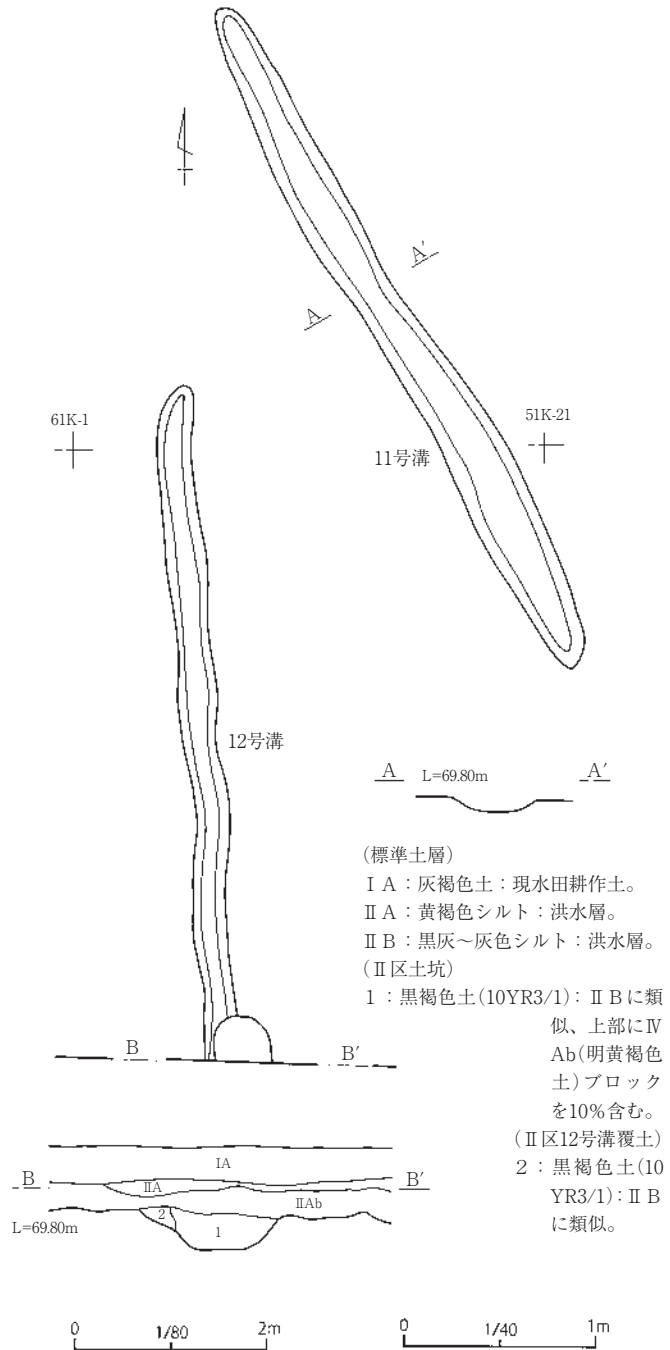
(6) II区12号溝 (第68図、PL22)

概要 II区12号溝はII区北側調査区西部に位置している。遺存状態は良好ではなく、南側は調査区外に出ていて全容を確認することもできなかった。

上位層の土坑に切られるものの、同一面での他遺構との重複は認められなかった。

また掘削意図も特定できなかった。

遺物 土師器片1点の出土が得られた。



第68図 II区11・12号溝

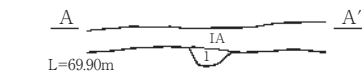
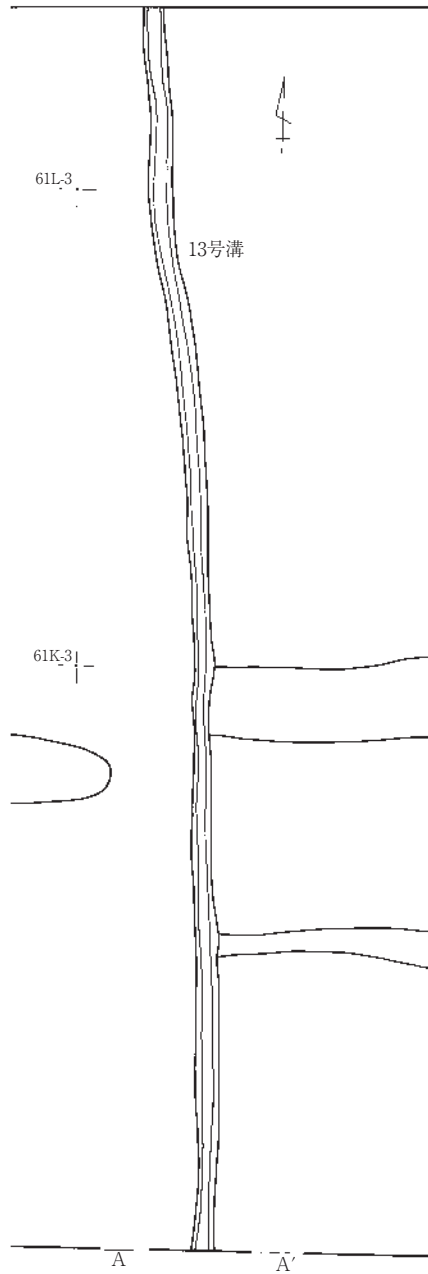
時期 本溝も古代末前後の時期の所産と想定されるものの、時期特定には至らなかった。

規模 長さ711cm 幅42cm 深さ5cm

構造 本溝の軸船はN-W3°方向を向く。プランは直線的だが弱い蛇行が見られる。

掘削形態は箱堀状を呈している。

II 調査の記録



(標準土層)  
 I A : 灰褐色土 : 現水田耕土。  
 (II区13号溝覆土)  
 1 : 黒褐色土(10YR3/1) : II Bに類似。

第69図 II区13号溝



(7) II区13号溝 (第69図、P L 22)

**概要** 本溝はII区の北側調査区西部に位置する。南北両側が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

同一面の他の遺構との重複は見られなかった。

本溝の掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は古代末前後の所産と認識されるものの時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 1,312cm 幅 25cm 深さ 8 cm

**構造** 本溝は、北側よりS-E 6°方向に調査区に入り、時計回りに緩やかな弧を描いてS-E 1°方向に転じ、南側調査区外に出ている。

掘削形態は、箱堀状を呈する。

(8) IV区1・2号溝 (第70図、P L 22)

**概要** IV区1・2号溝はIV区北側調査区の中西部に位置する。1・2号溝は122cm程隔たる並走な位置関係に在る。また、1号溝は南側が、2号溝は南北両側が調査区外に出ていて、共に全容を把握することはできなかった。

2号溝はIV区1・2号土坑と重複するが、1・2号両土坑共に2号溝を切っている。尚、1号溝と他遺構との重複は見られなかった。

1・2号溝共に掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 1号溝から土師器片1点の出土があり、2号溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 共にII A・II B層を主体とするため中世の可能性を有するが、時期特定には至らなかった。

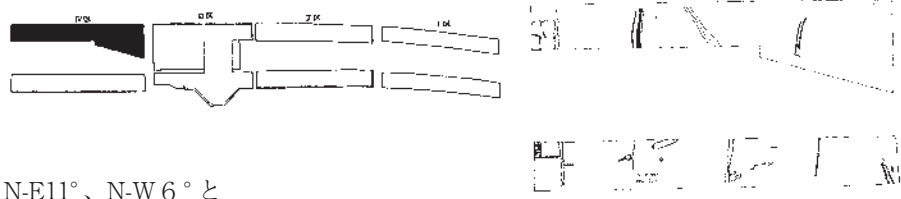
**規模** 1号溝 長さ 1,065cm 幅 30cm

深さ 16cm

2号溝 長さ 1,220cm 幅 100cm 深さ 25cm

**構造** 1号溝は北からN-E 9°、NE13°、NE 4°、

N-W 2°と走行を変ずる。プランは直線の繋げたような形態で全体に蛇行する。一方、2号溝は北からN-W 2°、N-E 8°、N-E 11°、N-W 6°と走行を変ずる、やはり直線を繋げたような蛇行するプランを呈する。



掘削形態は1号溝は蒲鉾形を呈し、2号溝は箱堀状を呈する。

(9) IV区5号溝 (第71図、P L23)

**概要** 本溝はIV区南側調査区東端部に位置している。南側は調査区外に出ており、北側はIV区7号溝と接している全容を把握することはできなかった。

本溝は上位のIV区3号溝に切られるが、他の遺構との重複関係は認められなかった。

また掘削意図も特定できなかった。

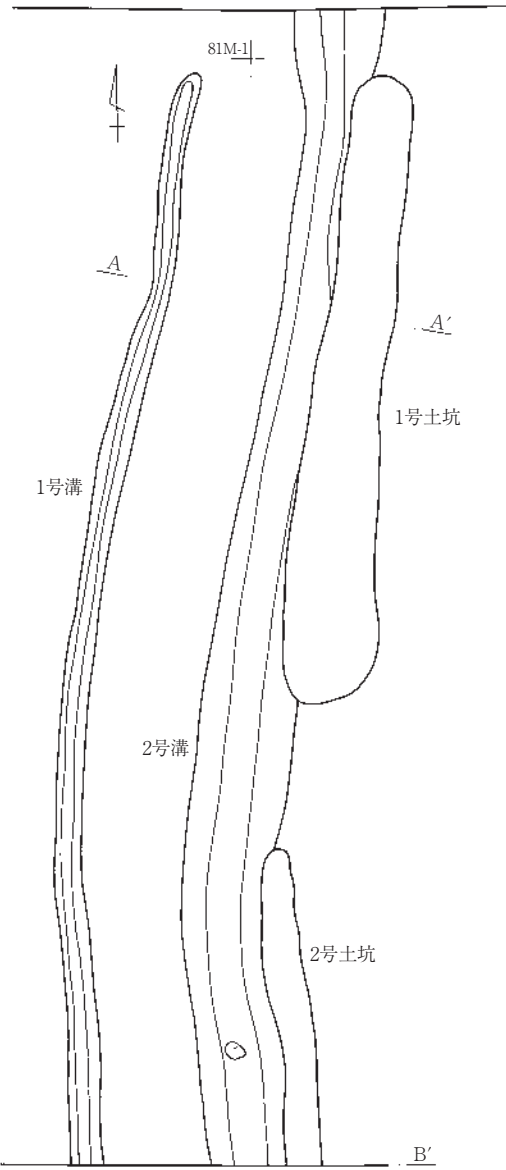
**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 確認面から本溝は古代末前後の所産と見られるものの、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 883cm 幅 88cm 深さ 19cm

**構造** 軸はN-W 40°方向を向き、プランは直線的である。

掘削形態は。箱堀状を呈する。



(標準土層)

- I A : 灰褐色土 : 現水田耕土。
- II A : 黄褐色シルト : 洪水層。
- II B : 黒灰~灰色シルト : 洪水層。

(IV区1号溝覆土)

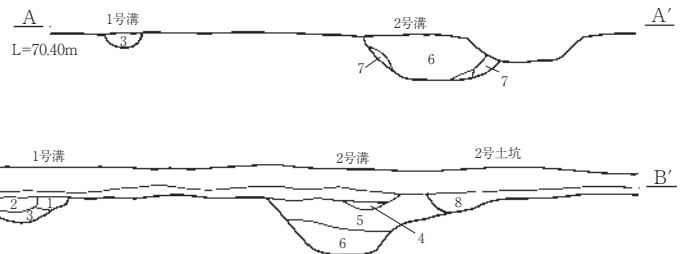
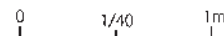
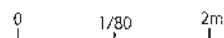
- 1 : II A 主体。
- 2 : II A 主体、II B を10%含む。
- 3 : II A 主体、II B を30%含む。

(IV区2号溝覆土)

- 4 : II A 主体、III (As-B) を30%含む。
- 5 : II A 主体、II よりやや褐色が強い。
- 6 : II A 主体、2 より暗い色調を呈す。
- 7 : II A 主体、II B ブロックを20%含む。

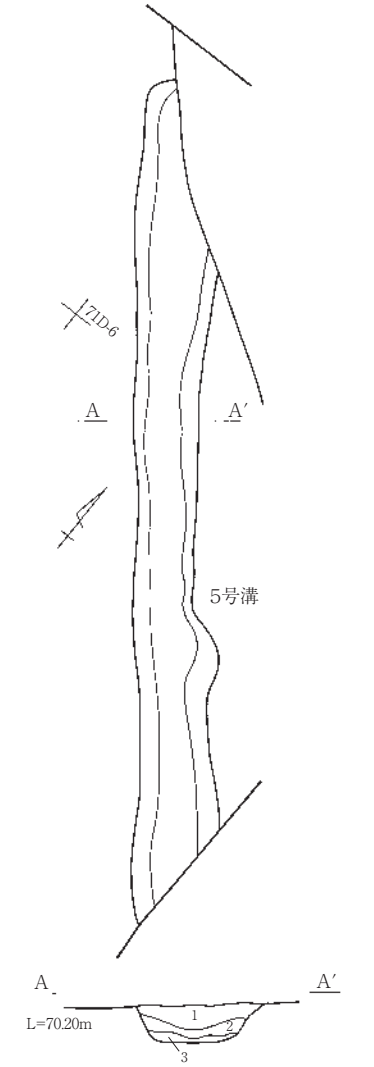
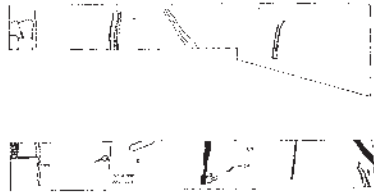
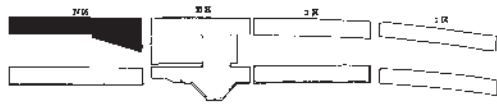
(IV区2号土坑覆土)

- 8 : II A 主体、II B、IV A ブロックを20%含む。

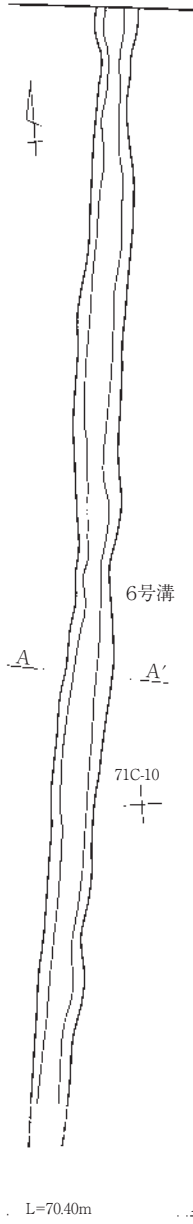


第70図 IV区1・2号溝

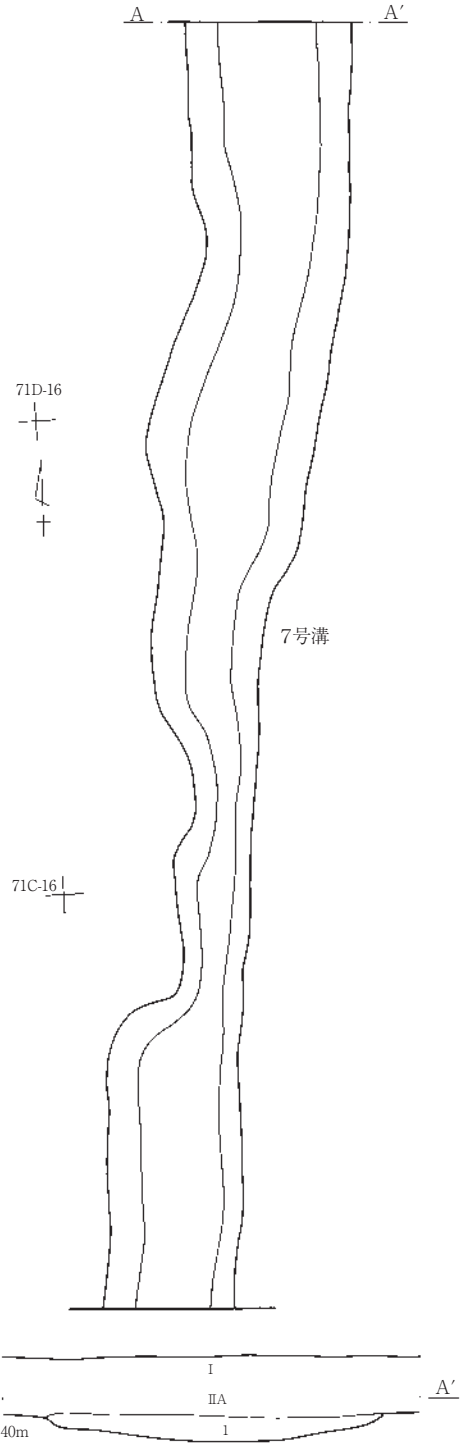
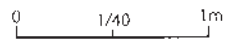
II 調査の記録



- (IV区5号溝覆土)
- 1 : 明黄褐色土(10YR6/8) : IV BにIII Bが混入。
  - 2 : 褐灰色土(10YR6/1) : IV Bを主体とする。
  - 3 : 褐灰色土(10YR4/1) : IV Bに粘土質混入。

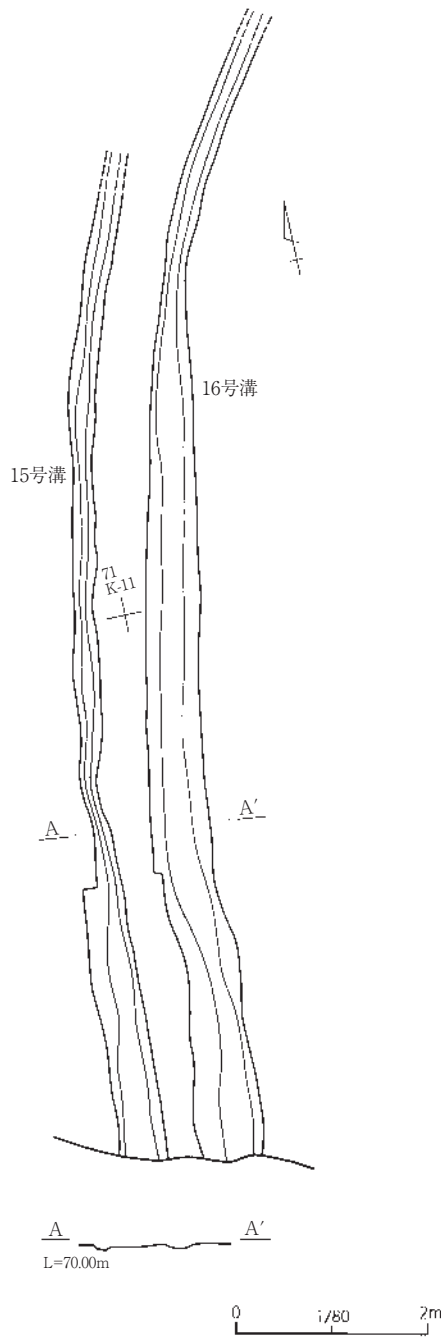
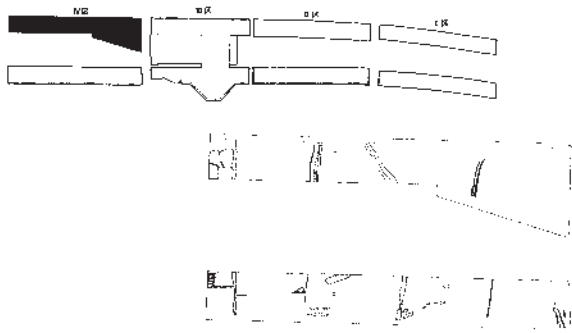


- (IV区6号溝覆土)
- 1 : 褐色土(10YR4/4) : III BとIVのモザイク。
  - 2 : 黒褐色土(10YR3/1) : III B層。



- (標準土層)
- I : 現在耕作土
  - II A : 黄褐色シルト : 洪水層。
- (IV区7号溝覆土)
- 1 : 暗褐色土(10YR3/4) : II Aを基本とし、III Aのブロックを僅かに含む。

第71図 IV区5・6・7号溝



第72図 IV区15・16号溝

(10) IV区6号溝 (第71図、P L23)

**概要** 本溝はIV区東部西寄りに位置する。遺存状態はやや不良であり、北側は調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

他遺構との重複は見られなかった。

本溝も掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は確認できなかった。

**時期** 本溝の時期は特定できなかったが、攪拌したAs-Bを覆土とするため、As-B降下後比較的早い段階の12世紀後半前後の時期の所産と認識される。

**規模** 長さ 1,200cm 幅 48cm 深さ 10cm

**構造** 軸線の方向はN-E 7°を向き、プランは弱い蛇行はあるものの、概ね直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(11) IV区7号溝 (第71図)

**概要** 本溝はIV区南側調査区中程に位置し、南北両側が調査区外に出ていて全容は確認できなかった。

本溝は2面のIV区3号溝の下に在るが、3面には現れない。IV区5号溝と重複するが新旧は不特定。またIV区17号溝に接続する可能性を有する。

本溝は条里方眼ではなく自然地形に沿って掘削されるが、掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 覆土から推すと中世の所産と見られるが、時期の特定には至らなかった。

**規模** 長さ 1,376cm 幅 176cm 深さ 15cm

**構造** 軸方向はN-E 8°、プランは直線的である。

掘削形態は箱堀状を呈するが、底面の横断面形は丸みを有する。

(12) IV区15・16号溝 (第72図、P L23)

**概要** IV区15・16号溝は北側調査区東部に並走して在る。共に南側は調査区外に出て確認できず、北側は遺存状態が悪く調査区内で滅失している。

共に他遺構との重複は見られなかった。

15・16号溝は40cm程隔たって並行に位置しているため、道路の側溝である可能性を有する。

II 調査の記録

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 両溝共に古代末前後の所産の可能性を有するものの、時期の特定には至らなかった。

規模 15号溝 長さ1,070cm 幅50cm

深さ8cm

16号溝 長さ1,227cm 幅70cm 深さ5cm

構造 15・16号溝共に南側よりN-E4°方向に調査区内に入り、時計回りに弧を描き乍N-E10°、N-E21°と方向を転じる。16号溝は更に北端でN-E35°方向に走行を転じている。

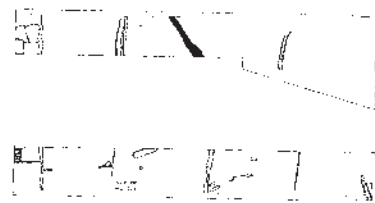
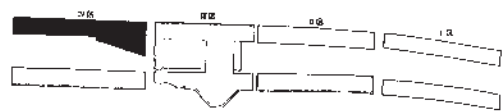
また掘削形態は両溝共に箱堀状であるが、底面の横断面形は共に丸みを有している。

(13) IV区17号溝 (第73図)

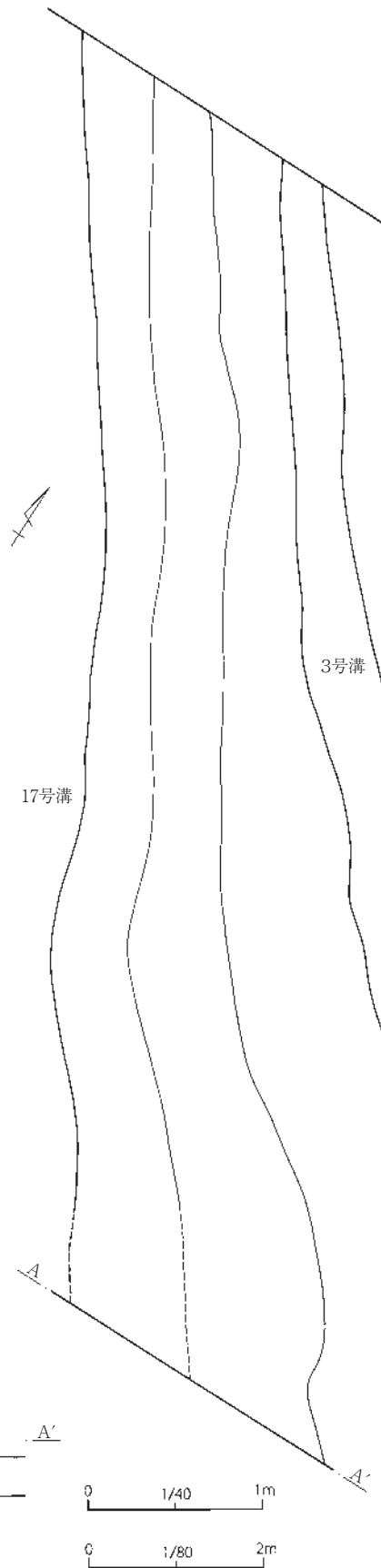
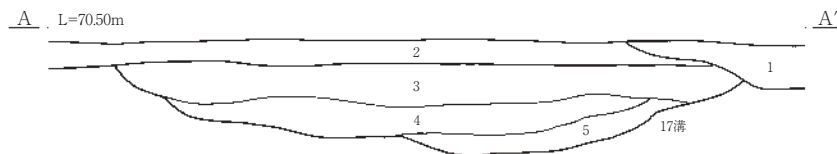
概要 本溝は北側調査区の中程に位置する。南北が調査区外に出ていて全容は確認できなかった。

本溝は3面のIV区3号溝と5面のIV区20号溝に挟まれて在る。尚、本溝は4面の遺構群との重複はない。また走行の方向と規模から推してIV区7号溝に接続する可能性を有する。

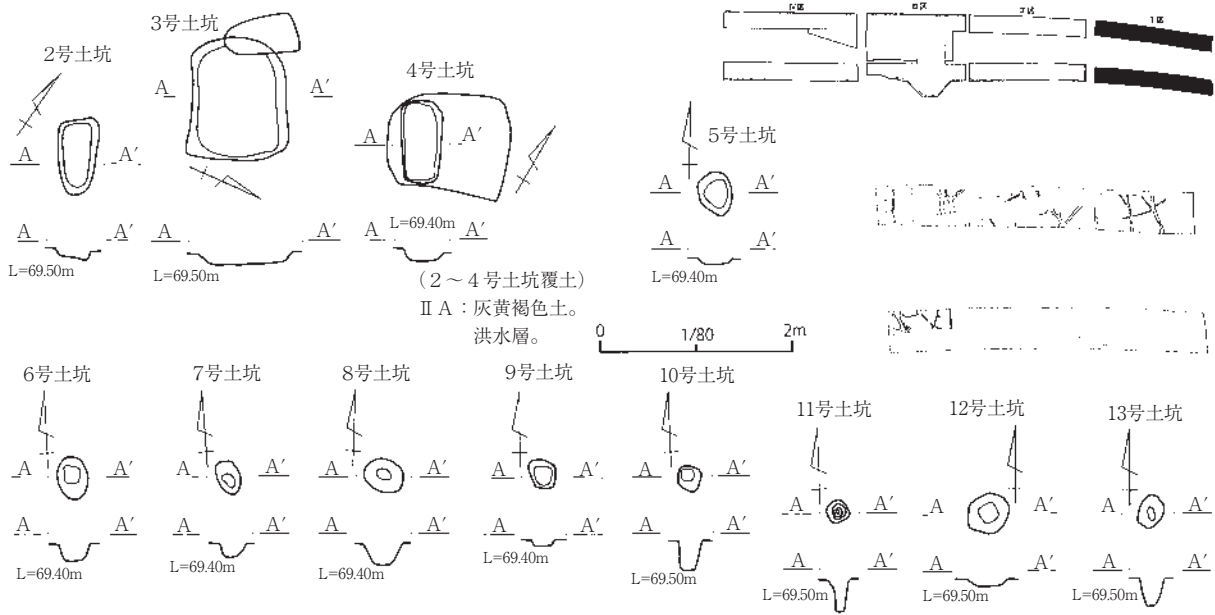
掘削意図は特定できないが、上下に3・20号溝が在って自然地形に沿うため、付近は長く溝の在る位置と認識され、水路であった可能性も考慮される。



- (IV区3号溝覆土)
- 1：黒褐色砂質土(10YR3/2)  
(標準土層)
- 2：シルト質土：洪水層。
- (IV区17号溝覆土)
- 3：にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/3)
- 4：にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3)：砂混入。
- 5：にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)



第73図 IV区17号溝



第74図 I区4面の土坑群

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は古代末頃の所産と認識されるものの、  
時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ 1,664cm 幅 257cm 深さ 45cm

**構造** 軸方向は中・北部はN-W35°、南部はN-W42°  
に取り、それぞれ直線的なプランを呈する。

掘削形態は、箱堀状を呈する。

(14) I区の土坑群 (第74図、P L 23)

**概要** I区4面では12基の土坑を調査した。これらの土坑群は北側調査区の中北部にI区5～8号土坑、西端部に10～13号土坑、南側調査区西端部に2～4号土坑がそれぞれ集中して在り、北側調査区西部北寄りに9号土坑が単独で位置する。

2・3号土坑は重複するが、覆土が同質であり、新旧関係は確認できなかった。また何れの土坑もAs-B下水田と重複するが、2～4号土坑は覆土が標準II A層土であり、As-B水田より新しい。他の土坑も調査状況から、同様にAs-B水田より新しいと思われる。

尚、何れも掘削意図は特定できないが、形態的に2～4号土坑と5～13号土坑の掘削目的は異なるものと見られ、後者は形態、規模から杭や柱穴の可能性を有する。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 2～4号土坑は覆土から中世の所産と認識される。他の土坑の時期は特定できなかったが、中世の可能性が考慮される。

**規模** 2号土坑 径 78×39cm 深さ 12cm

3号土坑 径 130×10cm 深さ 12cm

4号土坑 径 84×43cm 深さ 9cm

5号土坑 径 45×37cm 深さ 6cm

6号土坑 径 45×34cm 深さ 18cm

7号土坑 径 37×23cm 深さ 15cm

8号土坑 径 40×33cm 深さ 24cm

9号土坑 径 28×28cm 深さ 8cm

10号土坑 径 26×24cm 深さ 60cm

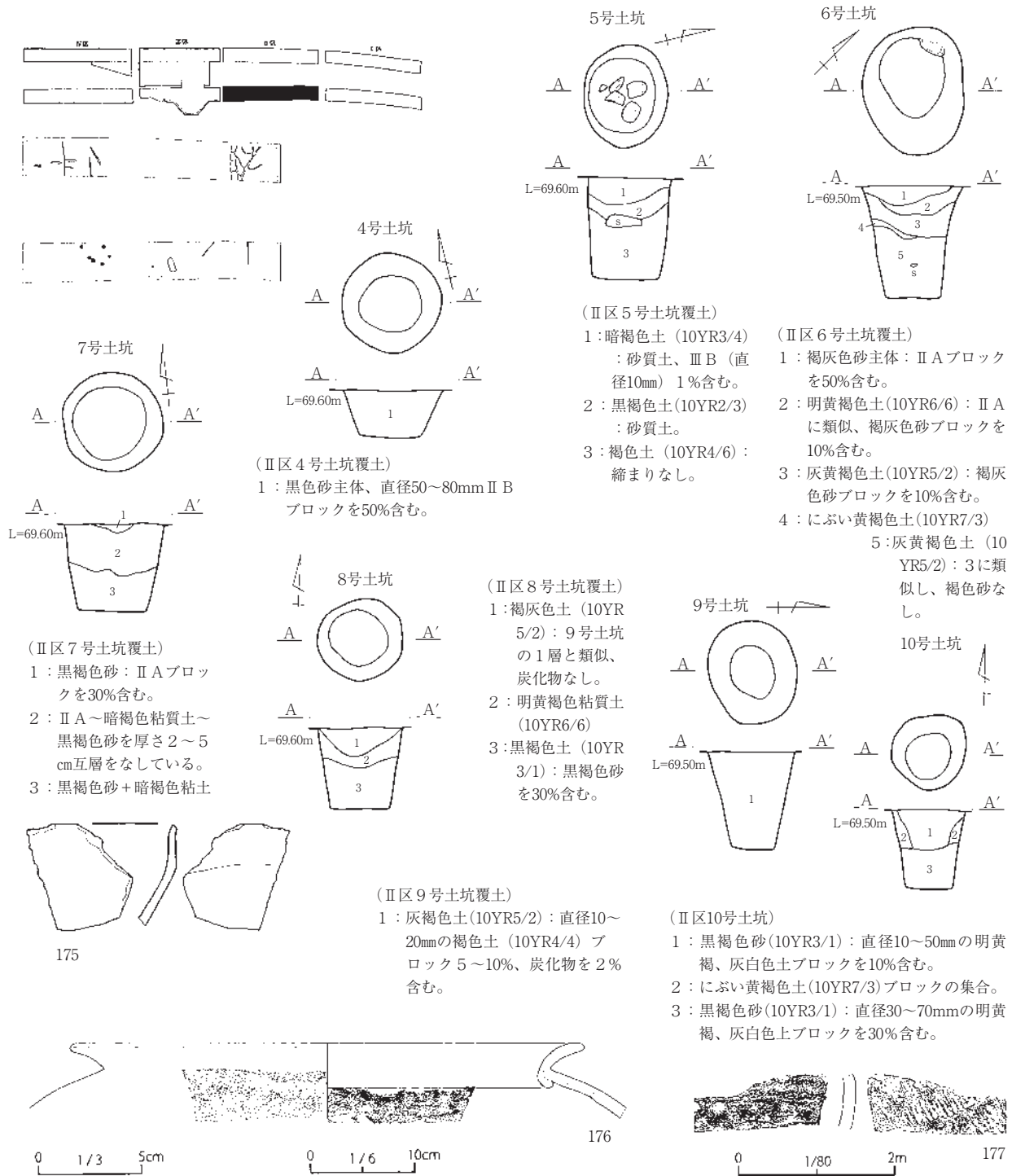
11号土坑 径 21×19cm 深さ 34cm

12号土坑 径 33×25cm 深さ 31cm

13号土坑 径 41×41cm 深さ 7cm

**構造** 長軸の方向は2号土坑はN-W29°、3号土坑はE-N24°、4号土坑はE-W32°、5号土坑はN-W20°、6号土坑はN-W18°、7号土坑はN-W 27°、8号土坑はE-S13°、9号土坑はN-W 4°、10号土坑はN-E 2°、11号土坑はN-W33°、12号土坑はE-N40°、13号土坑はN-E27°を向く。プランは1号土坑は南半

II 調査の記録



第75図 II区4面の土坑群と出土遺物

が楕円形で北半が長方形、5・9・10・11・13号土坑は方形様、3・4号土坑は長方形、6・7・8・12号土坑は楕円形を呈する。

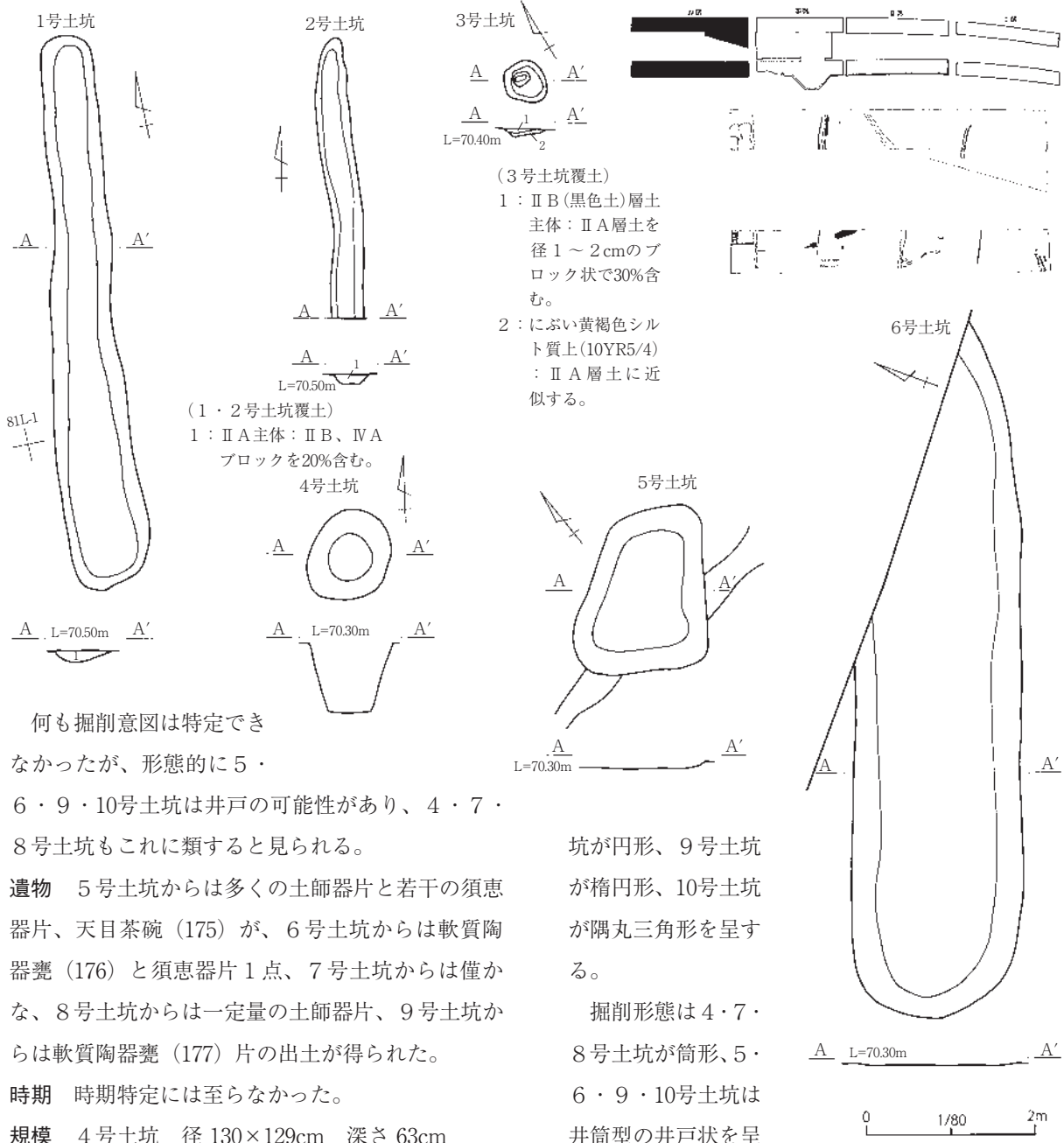
掘削形態は2~5・9・12号土坑は箱形、他の土坑は柱穴状を呈する。底面は7・8・11・13号土坑は丸底を呈し、他は平底である。

(15) II区の土坑群 (第75図、P L24・25・68)

概要 II区4面では南側調査区中部東寄りにII区10土坑、南側調査区中部西寄りに集中して位置するII区4~9号土坑の7基の土坑を調査した。

何れも単独に在り、他遺構との重複はなかった。





何も掘削意図は特定できなかったが、形態的に5・6・9・10号土坑は井戸の可能性があり、4・7・8号土坑もこれに類すると見られる。

**遺物** 5号土坑からは多くの土師器片と若干の須恵器片、天目茶碗(175)が、6号土坑からは軟質陶器甕(176)と須恵器片1点、7号土坑からは僅かな、8号土坑からは一定量の土師器片、9号土坑からは軟質陶器甕(177)片の出土が得られた。

**時期** 時期特定には至らなかった。

**規模** 4号土坑 径130×129cm 深さ63cm  
 5号土坑 径137×108cm 深さ131cm  
 6号土坑 径163×130cm 深さ144cm  
 7号土坑 径130×127cm 深さ113cm  
 8号土坑 径110×108cm 深さ106cm  
 9号土坑 径133×116cm 深さ125cm  
 10号土坑 径96×95cm 深さ103cm

**構造** 長軸は4号土坑がN-W38°、5号土坑がE-S14°、6号土坑がE-S40°、7号土坑がN-W3°、8号土坑がN-E28°、9号土坑がN-W11°、10号土坑がN-W1°。プランは5・6・8号土坑が隅丸方形、4・7号土

(3号土坑覆土)  
 1: II B(黒色土)層土  
 主体: II A層土を  
 径1~2cmのブ  
 ロック状で30%含  
 む。  
 2: にぶい黄褐色シル  
 ト質土(10YR5/4)  
 : II A層土に近  
 似する。

坑が円形、9号土坑が楕円形、10号土坑が隅丸三角形を呈する。

掘削形態は4・7・8号土坑が筒形、5・6・9・10号土坑は井筒型の井戸状を呈する。

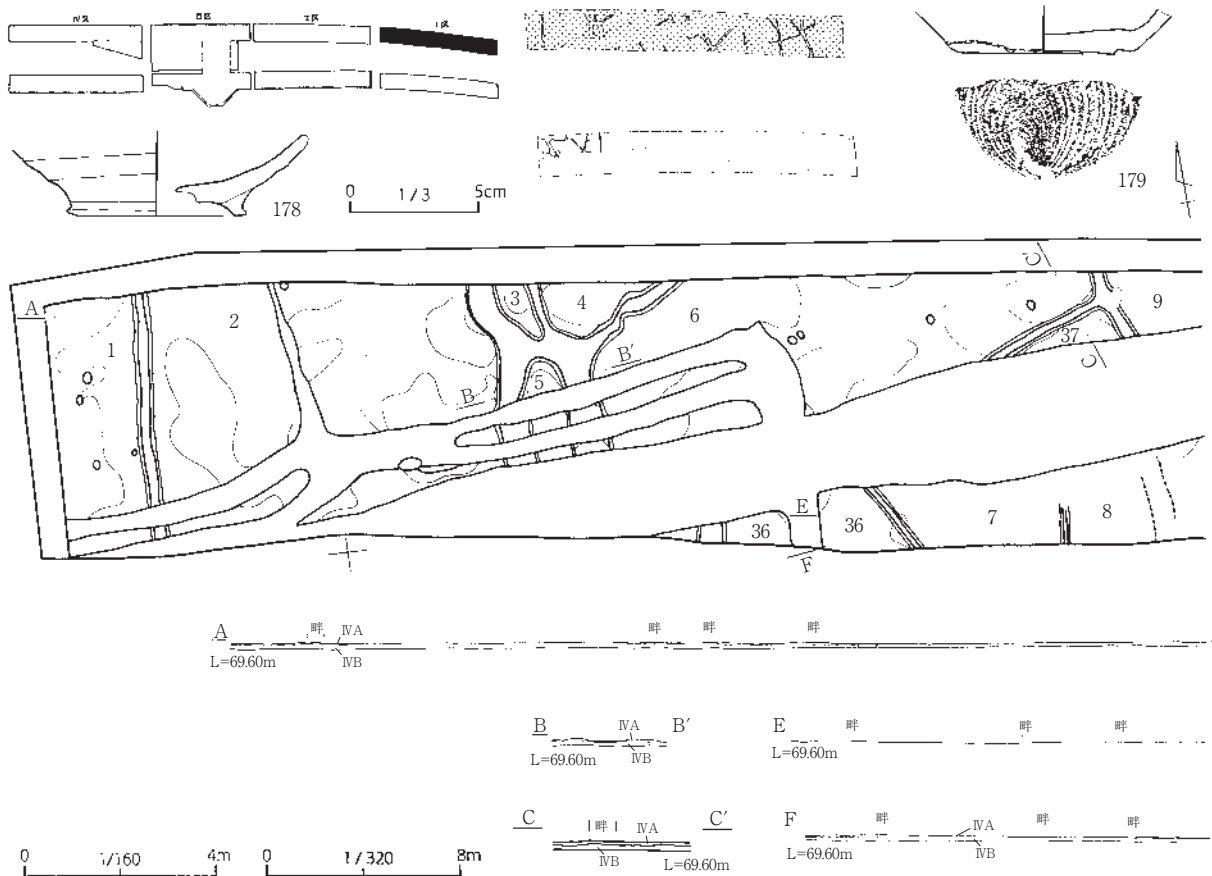
第76図 IV区4面の土坑群

(16) IV区の土坑群 (第76図、P L25・69)

**概要** IV区ではIV区1~6号の6基の土坑を調査した。このうち1~3号土坑は北側調査区中部西寄り、4~6号土坑は南側調査区中部西寄りに在る。

1・2号土坑はIV区2号溝と重複するが、共に2号溝を切っている。また4~6号土坑はAs-B下水田と重複する。断定はできないが、As-B除去時の確認のため、水田面を掘削するものと認識される。

II 調査の記録

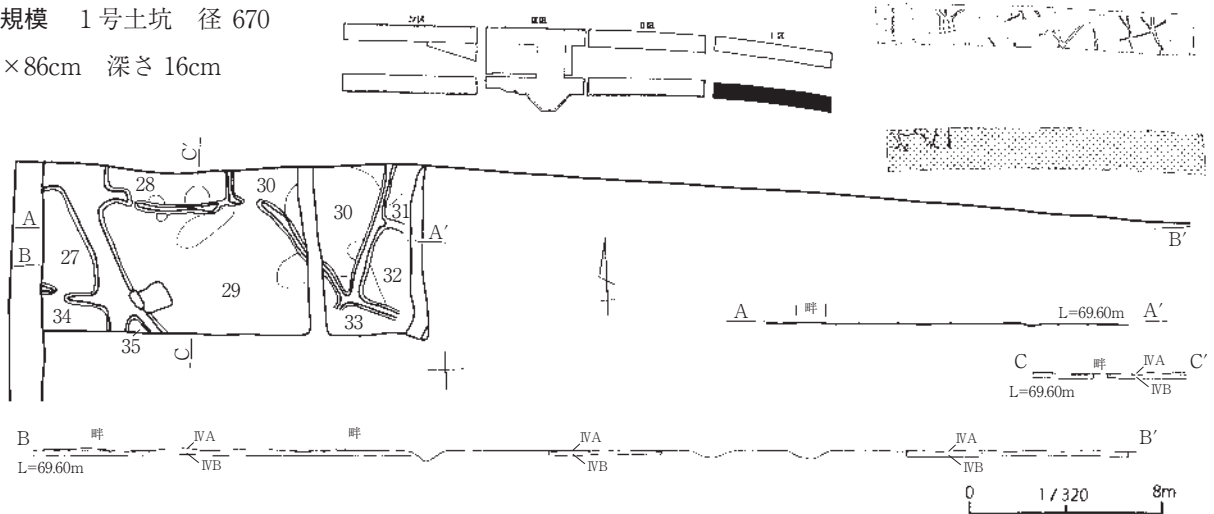


第77図 I区北側調査区のAs-B下水田

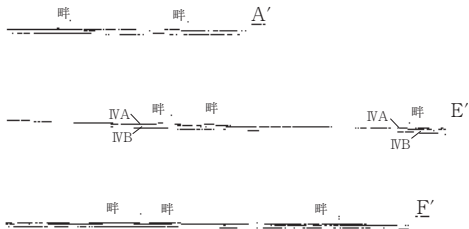
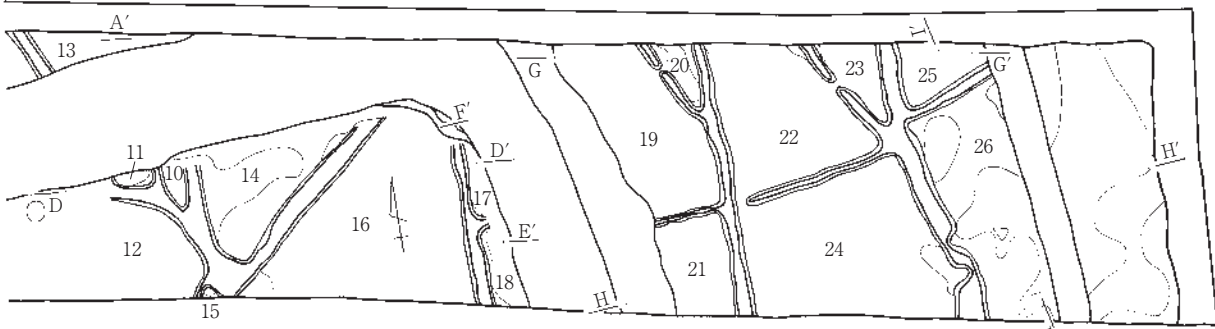
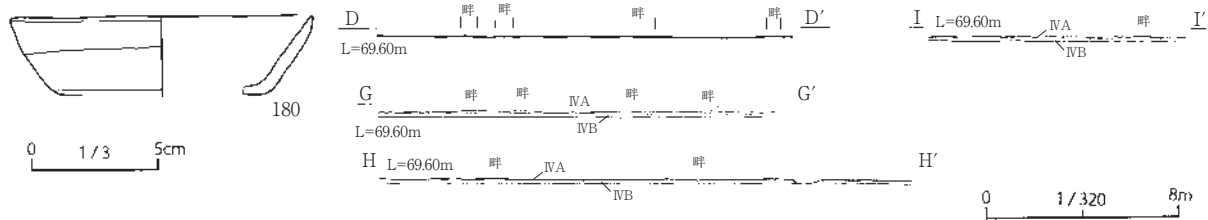
各土坑の掘削意図は特定できなかった。  
 遺物 出土遺物は認められなかった。  
 時期 何れの土坑についても時期の特定には至らなかったが、1～3号土坑は覆土から推して中世の所産と認識される。

- 2号土坑 径(338)×44cm 深さ 6cm
- 3号土坑 径 53×51cm 深さ 11cm
- 4号土坑 径 108×100cm 深さ 84cm
- 5号土坑 径 197×160cm 深さ 3cm

規模 1号土坑 径 670  
 ×86cm 深さ 16cm



第78図 I区南側調査区のAs-B下水田

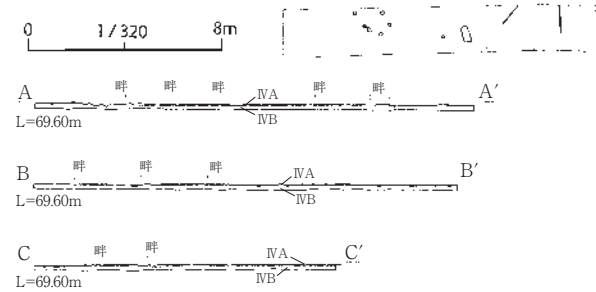
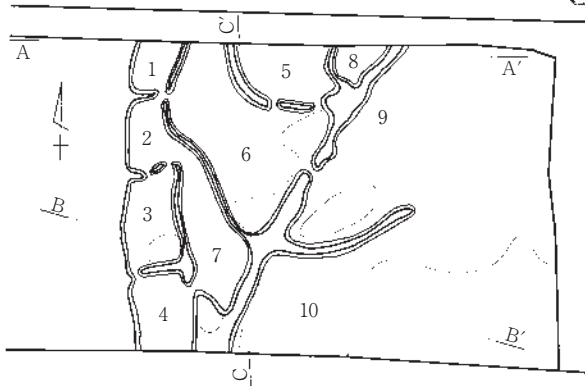
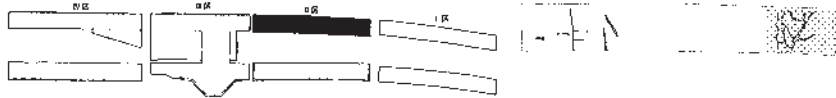


第77図 I区北側調査区のAs-B下水田

6号土坑 径(820)×200cm 深さ 6cm

構造 長軸は1号土坑がN-E 5°、2号土坑はN-W 7°、3号土坑はN-W 10°、4号土坑はN-E 14°、5号土坑はN-E 33°、6号土坑はE-N 19°で、プランは1・2号土坑が溝状、3・5号土坑が隅丸台形、6号土坑が短冊形を呈する。

掘削形態は1・2号土坑は



IV A : 黒色粘質土 : As-B下水田耕作土。  
IV B : 灰褐色～黄褐色の砂～シルト : 洪水層。

第78図 II区北側調査区のAs-B下水田

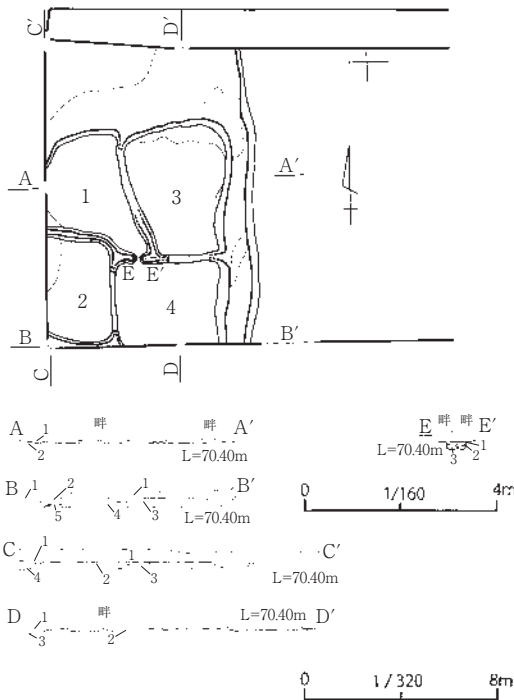
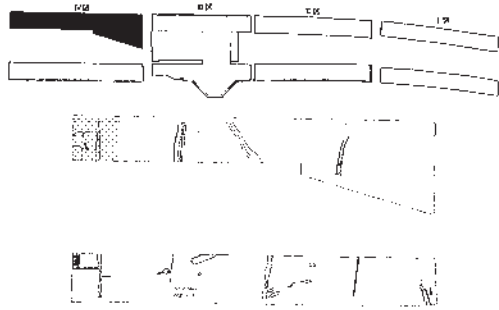
箱堀形、3号土坑は箱形、4号土坑は筒形で、5・6号土坑は、箱形を呈すると見られる。

(17) As-B下水田 (第77～80図、P L 20・21)

概要 本水田址は浅間山噴出のAs-B軽石・火山灰に被覆された水田址で、I区北側調査区、南側調査区の西側中・北部、II区北側調査区東部東寄り、IV区北側調査区西端部と南側調査区の西半部に確認された。水田址はI・II区に跨る区域(以下「東側水田」とする)とIV区(以下「西側水田」とする)がある。

水田址はI区20号溝、I区2～13号土坑、IV区4～6号土坑と重複する。このうちI区2～4号土坑

II 調査の記録



- (A-A')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : IV B (灰褐色～黄褐色の砂～シルト) : 洪水層。
- (B-B'・C-C')
- 1 : 暗灰～灰色シルト : 洪水層。
  - 2 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 3 : IV B (灰褐色～黄褐色の砂～シルト) : 洪水層。
  - 4 : VI A (黒色粘質土) : 黄橙色を20～30%含む。
  - 5 : VI B (黒褐色土) : 径1～2mmのAs-C(か)を2～3%含む。
- (D-D')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : IV B (灰褐色～黄褐色の砂～シルト) : 洪水層。
  - 3 : VI A (黒褐色粘質土)
- (E-E')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : 1・2層土の混土 : 沈殿。
  - 3 : IV B (黒褐色土) : As-C(か)を含む。

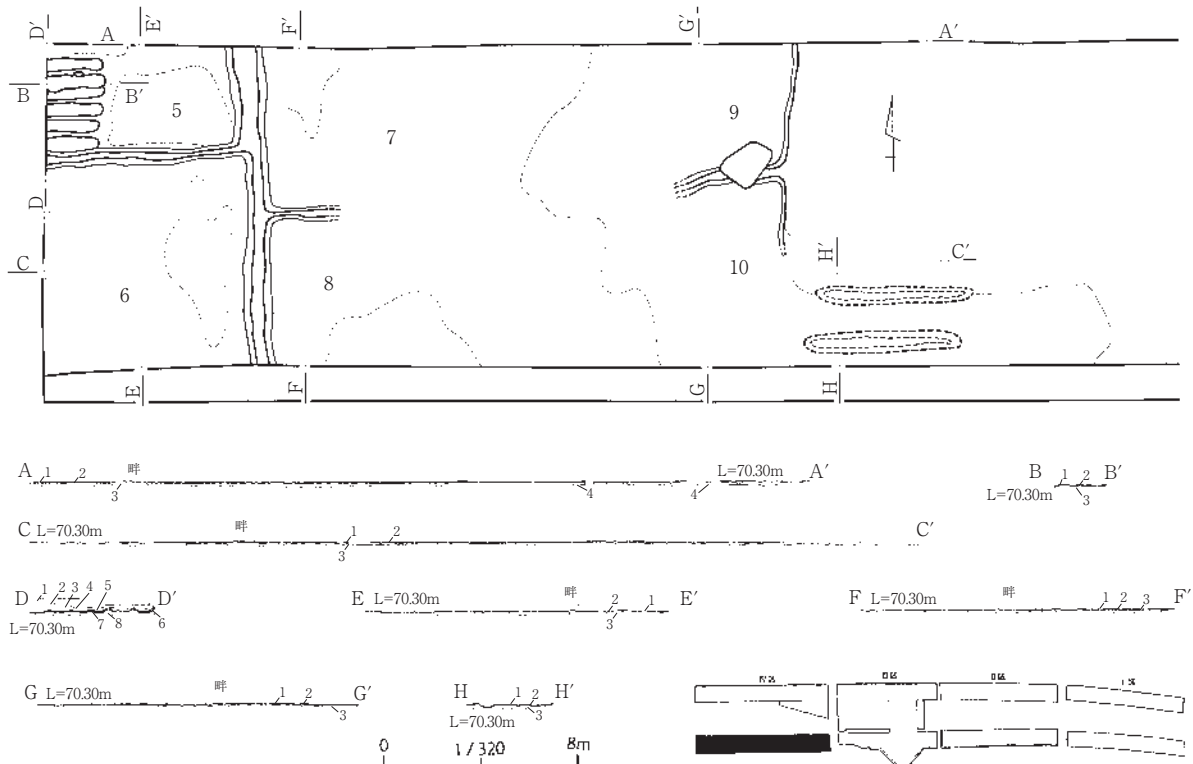
第79図 IV区北側調査区のAs-B下水田

には切られ、同じく切られるものと想定されるものの、他の遺構との新旧は特定できなかった。

また西側水田の畦畔は条里方眼に近い軸線上に乗っているが、東側水田は一部を除いてそうした軸線上には乗って来ない。従って西側水田は条里方眼

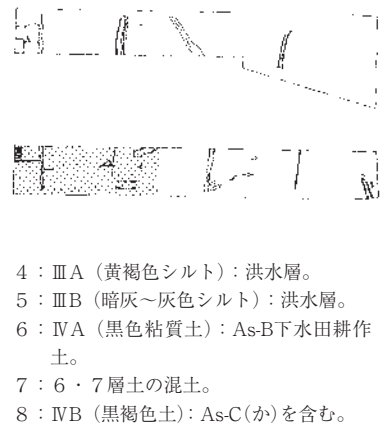
表12 As-B下東側水田区画一覧

区	水田区画	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)	
			長軸	短軸	高位	低位	高	低
I	1	長方形か	(1,060)	(350)	69.42	69.38	5	2
I	2	長方形か	(1,470)	(910)	69.39	69.34	7	2
I	3	短冊形か	(245)	130	69.38	69.34	5	1
I	4	長方形か	(256)	(240)	69.36	69.32	6	1
I	5	短冊形か	(415)	160	69.35	69.32	4	1
I	6	長方形	2,110	(370)	69.35	69.28	5	2
I	7	台形か	(650)	(275)	69.30	69.26	5	1
I	8		353	(245)	69.29	69.26	2	1
I	9	長方形か	380	(270)	69.30	69.27	5	2
I	10	短冊形か	(185)	90				
I	11	短冊形か	160	(70)	69.26	69.24	2	1
I	12	長方形か	920	(410)	69.29	69.26	1	0
I	13		(335)	(175)	69.29	69.23	4	3
I	14	三角形か	(720)	(370)	69.26	69.23	3	1
I	15	短冊形か	(40)	(38)	69.26	69.24	4	1
I	16	長方形か	(900)	(810)	69.27	69.21	4	1
I	17	長方形か	(315)	(60)	69.23	69.19	6	1
I	18	長方形か	(340)	(50)	69.28	69.18	3	0
I	19	長方形か	(740)	(410)	69.25	69.21	3	1
I	20	三角形か	(270)	175	69.26	69.22	5	1
I	21	長方形か	(428)	(290)	69.25	69.22	3	1
I	22	台形	620	(590)	69.24	69.21	5	0
I	23	台形	(340)	(240)	69.26	69.23	3	1
I	24	三角形か	(710)	718	69.24	69.19	5	1
I	25	長方形か	(375)	(275)	69.25	69.21	6	2
I	26	長方形	(970)	(410)	69.26	69.14	5	0
I	27	台形か	465	(215)	69.42	69.41	2	1
I	28	長方形か	490	(120)	69.38	69.34	3	0
I	29	台形	745	(505)	69.39	69.34	5	1
I	30	三角形か	560	(455)	69.37	69.34	3	1
I	31	長方形か	(250)	(75)	69.36	69.26	1	1
I	32	長方形か	313	(225)	69.36	69.34	3	1
I	33		(210)	(25)	69.38	69.36	2	1
I	34	長方形か	(260)	125	69.42	69.41	1	1
I	35	長方形か	(78)	(58)	69.41	69.41	3	2
I	36	台形か	700	(258)	69.30	69.24	5	2
I	37	長方形か	(395)	(143)	69.32	69.26	4	1
II	1	長方形か	(228)	170	69.48	69.47	2	1
II	2	長方形か	290	180	69.47	69.47	3	0
II	3	長方形か	370	234	69.46	69.43	6	1
II	4	長方形か	(300)	250	69.48	69.46	3	1
II	5	隅丸方形か	370	(240)	69.47	69.45	4	1
II	6	三角形か	214	(170)	69.48	69.42	4	2
II	7	扇形	600	230	69.48	69.47	2	0
II	8	アーチ橋形	702	460	69.47	69.47	0	0
II	9	平行四辺形か	(890)	384	69.46	69.38	7	0
II	10	アーチ形か	(525)	(468)	69.44	69.38	5	4



- (B-B'・E-E'・F-F'・G-G'・H-H')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : 1・2層土の混土
  - 3 : IV B (黒褐色土) : As-C(か)を含む。
- (A-A')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : 1・2層土の混土
  - 3 : IV B (灰褐色～黄褐色の砂～シルト) : 洪水層。
  - 4 : IV C (暗褐色土) : 粘性強い。

- (C-C')
- 1 : IV A (黒色粘質土) : As-B下水田耕作土。
  - 2 : 1・2層土の混土
  - 2' : 2層土にII B層土(褐灰色土)混入。
  - 3 : IV B (黒褐色土) : As-C(か)を含む。
- (D-D')
- 1 : 耕作土 : I層土。
  - 2 : II A (黄褐色シルト) : 洪水層。
  - 3 : II B (褐灰色土) : As-B混入。As-Aも混入する。
  - 3' : 2層土に3層土多量に混入。



に則って、東側水田は自然地形に基づいて開削されたものと判断される。

第80図 IV区南側調査区のAs-B下水田

遺物 出土遺物はI区の水田址で

一定量の坏(178)等の土師器、須恵器の坏(179)・椀(180)の出土が得られた。

表13 As-B下西側水田区画一覧

区	水田区画	形状	規模(cm)		水田面標高(m)		畦高(cm)	
			長軸	短軸	高位	低位	高	低
IV	1	扇形	530	(320)	70.32	70.26	3	1
IV	2	長方形か	420	(258)	70.31	70.26	3	0
IV	3	台形	542	422	70.31	70.27	8	5
IV	4	長方形か	(347)	424	70.29	70.26	8	1
IV	5	長方形か	(785)	(435)	70.19	70.13	4	2
IV	6	長方形か	(863)	(870)	70.17	70.07	6	3
IV	7	長方形か	(670)	(240)	70.17	70.10	9	1
IV	8	長方形か	(619)	(217)	70.14	70.12	7	0
IV	9	長方形か	(567)	(411)	70.20	70.16	6	0
IV	10	長方形か	(211)	(392)				

時期 開削時期は9世紀末以降であり、浅間山の噴火でAs-Bテフラの降下した天仁元年(正確には噴火時点は嘉承三年。A.D.1108)旧暦7月耕作が放棄されている。

規模 東側 118.0×45.2m  
西側 31.2×52.0m

水田区画 表12・13参照

畔幅 (大畔) 100~146cm

## II 調査の記録

(畔) 27~68cm

水口幅 (I区) 区画19-20 12cm

区画22-23 30cm 区画27-34 31cm

区画28-29 19cm 区画29-30 48cm

(II区) 区画1-2 26cm 区画1・2-6 24cm

区画2-3 19cm 区画3-4 18cm

区画4-6 21cm 区画5-6 23cm

区画6-9 18cm

(IV区) 区画1-4 18cm

**構造** 本水田址は土厚で厚平され、或いは後世の攪乱で削平されて遺存状態は余り良好ではなかった。その中で水田区画は東側水田で27面、西側水田で10面を認識したが、東側水田のI区17区画と19区画、同じく18区画と21区画、西側水田の区画の7区画と9区画、8区画と10区画は別区画としたが、同一区画の可能性を有するもの含まれる。

水田の軸方向は様々であるが、西側水田は凡そ南北方向に配列し、東側水田はII区の微高地境では若干弧を描きつつも南北に連なるが、その直ぐ東は時計回りに傾斜し、その東は南北方向、更に東は反時計回りに傾斜して水田区画が配置されている。

大畔はI区北調査区の2区画と3・5区画の間、区画5の外周を成す畦畔がそれと認識される。またその東方に在る23・25区画間と24・26区画間、4区の3・4区画東と5・7区画間、6・8区画間の南北走行の畔がこれに準ずる規模を有する。他の畦畔は全体として南北に走行する畦畔の方が東西に走行するものより幅広くなる傾向がある。

個々の区画のプランは表12・13に示したが、西側水田と東側水田の西端では方形か長方形を基本とするが、東側水田の大半は長方形と台形の組み合わせを基本としつつ、三角形の区画を挟んで軸線の違いが起こす歪を調整している。

給排水の方向は、水田面が塑性変形を生じるため部分的な逆転も見られたが、地形の傾斜に沿った北西→南東方向を基本とするものと解釈される。また水口はI区の区

画19と20、区画22と23、区画27と34、区画28と29、区画29と30、II区の区画1と2、区画1・2と区画6、区画2と3(西寄りの開口部分)、区画3と4、区画3と6、区画5と6(東寄りの開口部分)、区画6と9、及びIV区の区画1と4の境に見られた。

### (18) III区3号落込み (第81図、P L33)

**概要** 本落込みはIII区南部に位置する。南側は掘削されていて全容を確認できなかった。また本落込みは5面の水田面に掘り込むものとして確認され、一方、3面(屋敷遺構内)及び4面には現れていないことから、4面の遺構として報告することとした。

上述のように本落込みは遺構確認時の状態から5面水田を掘り込んでいると認識されるものの、4面に相当する遺構との重複は見られなかった。

また本落込みは形態的に人為的なものである可能性や、風倒木の可能性も考慮されるが、掘削意図、或いは形成の経過等は確認できなかった。

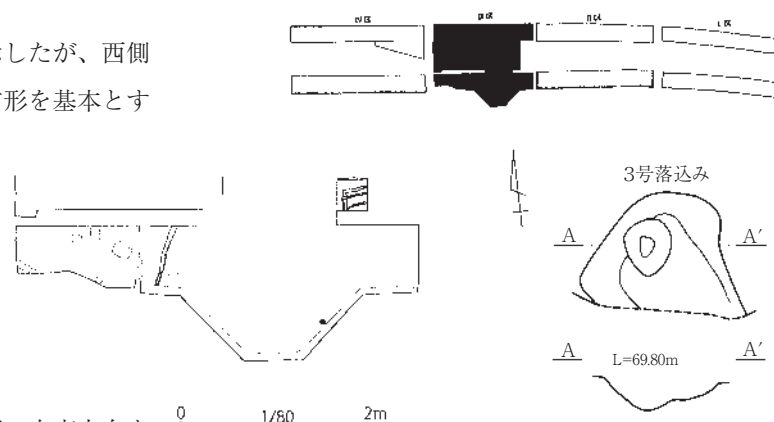
**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時期** 本落込みはAs-B降下時点よりは新しいものの、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ(164)cm 幅161cm 深さ46cm

**構造** 南側が失われて全容は不明だが、長軸方向はE-W37°を向き、プランは扇状を呈すと見られる。

掘削形態は。箱状で、北端中央に径53×51cm、深さ22cmの隅丸台形プランの窪みが付く。



第81図 III区3号落ち込み

## 6 第3面の調査

### (1) 概要

3面では天仁元年（1108）の浅間山の大噴火によるAs-B火山灰・軽石降下災害の復旧期以降の古代末のものを含む、中世の遺構、遺物を調査した。

I～IV区の全域に遺構分布は見られたが、特にⅢ区南東部の屋敷遺構に集中的な分布が認められた。

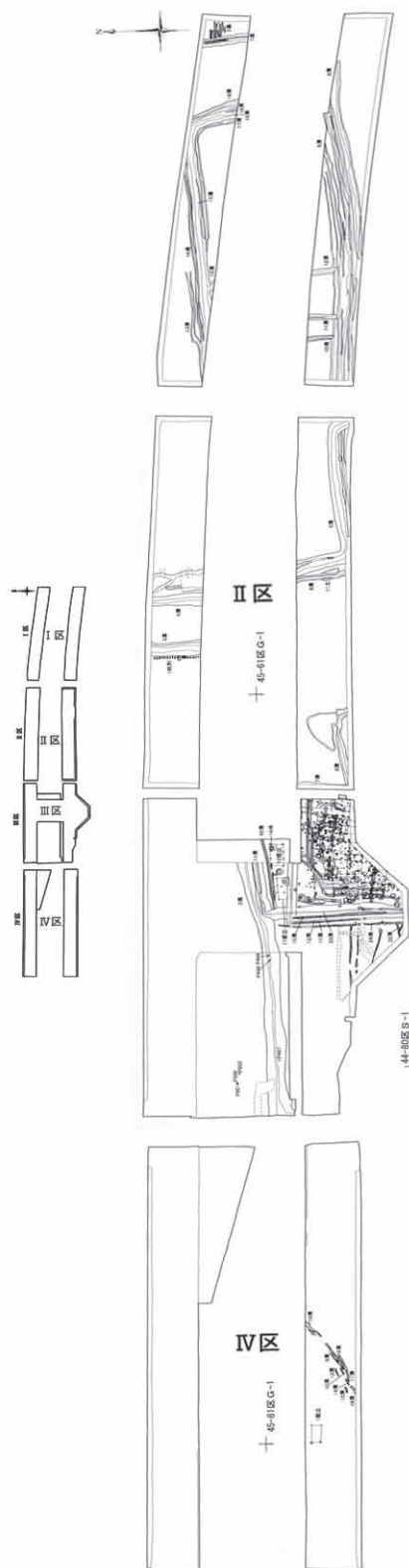
3面に於いて確認した遺構は屋敷1箇所（Ⅲ区）。これに伴う遺構としては掘立柱建物22棟（全てⅢ区）、竪穴遺構5基（全てⅢ区）、杭列、溝57条（Ⅰ区12条、Ⅱ区6条、Ⅲ区33条、Ⅳ区6条）、橋脚2箇所（Ⅲ区）、井戸14基（Ⅲ区）土坑27基（Ⅱ区1基、Ⅲ区26基）、ピット265基（Ⅲ区、掘立柱建物・柵等を含むものを除く）、畠1面（Ⅰ区）、集石1基（Ⅲ区）、落ち込み2箇所（Ⅲ区）があった。

また屋敷以外の遺構としては掘立柱建物1棟、溝26条、杭列1列、土坑1基、畠1面があった。このうちⅠ・Ⅱ区の溝は並行するか直交するといった近似した軸方向を取ることから、土地区画を意図した溝遺構群である可能性が考慮される。

### (2-0) Ⅲ区の屋敷跡

**概要** Ⅲ区の調査区南東部に屋敷跡を確認した。この屋敷は東及び南側が調査区外に出ていて全容は確認できなかったが、郭は堀で囲繞され、堀と判断される溝9条、その他の溝21条、22棟の掘立柱建物とその他の柱穴266基、竪穴遺構5基、落ち込み2箇所、井戸14基、土坑26基、溝条が確認された。このうち溝は本屋敷に伴わない可能性を有するものもあったが、一括報告することとする。

**時期** 本屋敷の時期は出土遺物から推すと概ね13世紀後半から14世紀で、凡そ鎌倉時代を中心とする時期の所産と認識される。一方、掘立柱建物は総柱で内柱を割愛する室町時代的要素を含むものもある。従って本報告に於いては鎌倉・南北朝時代を中心とした12世紀から15世紀に掛かる時期の所産として把握することとする。



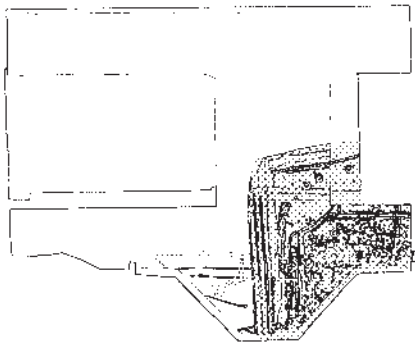
第82図 3面全体図 (S=1/2000)

## II 調査の記録

### (2-0) Ⅲ区の屋敷跡

(第84～136図、P L 27～41・69～72)

概要 屋敷の周堀としてはⅡ-7号溝及びⅢ区11・12・13・14・15・23・29・39・42号溝（以下遺構番号に重複がないため区を省く）を認識した。このう



第83図 Ⅲ区3面の屋敷跡 (S=1/320)

ち7・13・14・39号溝は東面の堀、11・12・42号溝が北面、11・12・15・23・29号溝が西面の堀である。前者は南北両側が、中者は東側が、後者は南側が調査区外に出ていて、全容は確認できなかった。また11号溝からは並列する1・2号橋脚が確認された。

重複する11・12・15・23・29号溝、13・14号溝は其々11・23・15・12号溝、29・15号溝、13・14号溝の順に新しい。また覆土から12号溝と13・14号溝は同一、23・42号溝は位置的に、29・39号溝は規模の近似から一連の溝の可能性を有する。

11号溝はⅢ区1号井戸と、12号溝はⅢ区8号井戸及びⅢ区7号溝と、13・14号溝はⅢ区6・10・18・19・20号掘立柱建物と42号溝はⅢ区41号溝と重複するが新旧は特定できなかった。

遺物 23・29・42号溝の出土遺物はなかったが、11号溝からは軟質陶器の片口鉢(224)・内耳鍋(225)・鉢(226～228)、砥石(230)、軟質陶器火鉢(328)、モモやスモモの種子(231)、土師・陶器片、板碑、こも編み石、馬歯(161～164)の出土が見られた。鑑定所見はⅢ章2節に掲載した。1号橋脚からはアカガシ亜属(254,

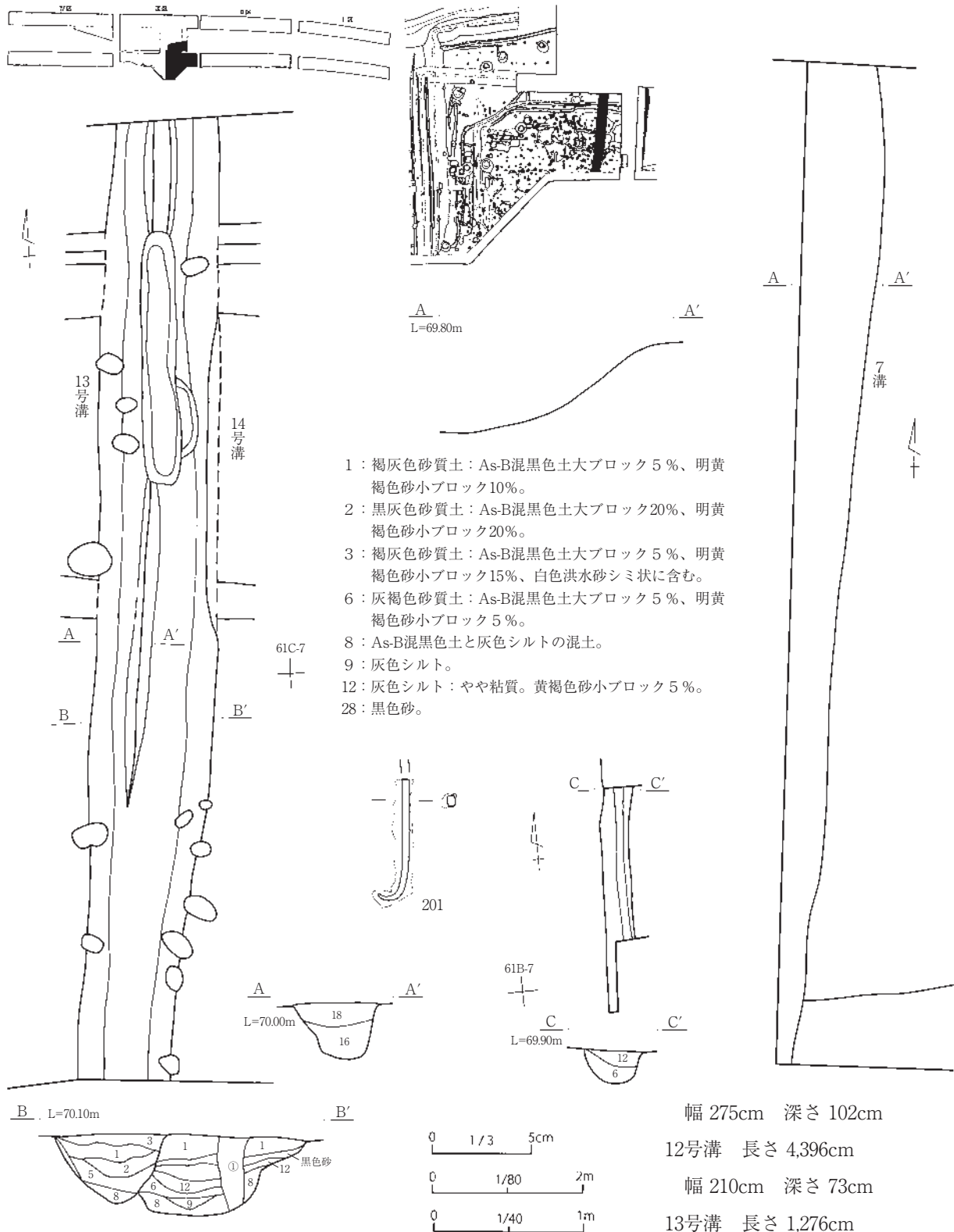
PL43)、2号橋脚では樹種同定不能(255・256, PL43)の橋脚片が出土した。12号溝からは不明鉄製品(196)・須恵器碗(232)、軟質陶器の甕(233)・片口鉢(234)・鉢

(235)と混入品である陶器皿(236)、土師・須恵器片や礫等、馬歯(165～173)馬歯の鑑定所見はⅢ章2節に掲載した。14号溝から鉄製品釘(201)7・13・15号溝からも少量の土師若しくは須恵器片、39号溝からも少量の陶器片の出土が得られた。

時期 個々の溝の時期特定には至らなかった。

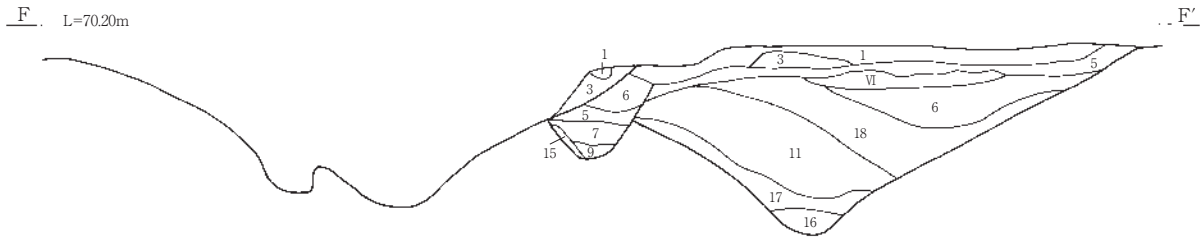
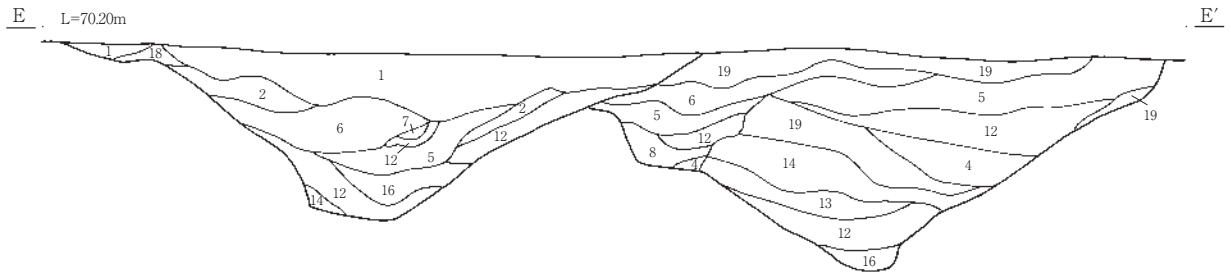
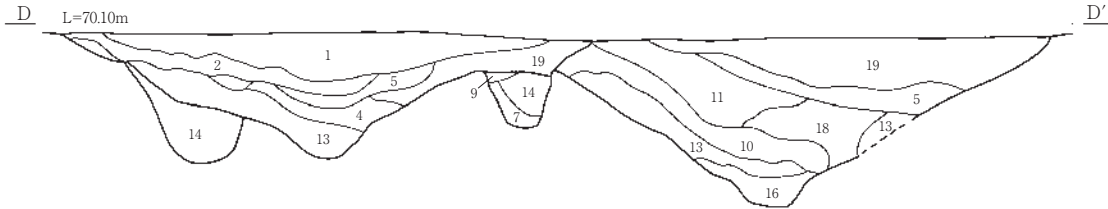
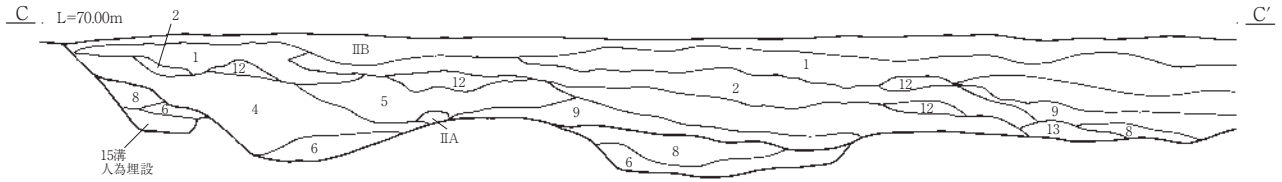
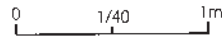
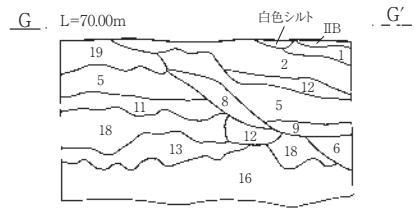
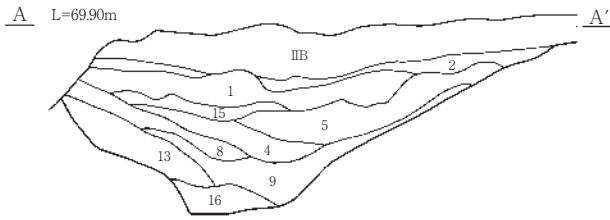
規模 7号溝 長さ1,944 cm 幅107cm





第84図 東面の周堀（Ⅱ区7号溝、Ⅲ区13・14・39号溝）

II 調査の記録



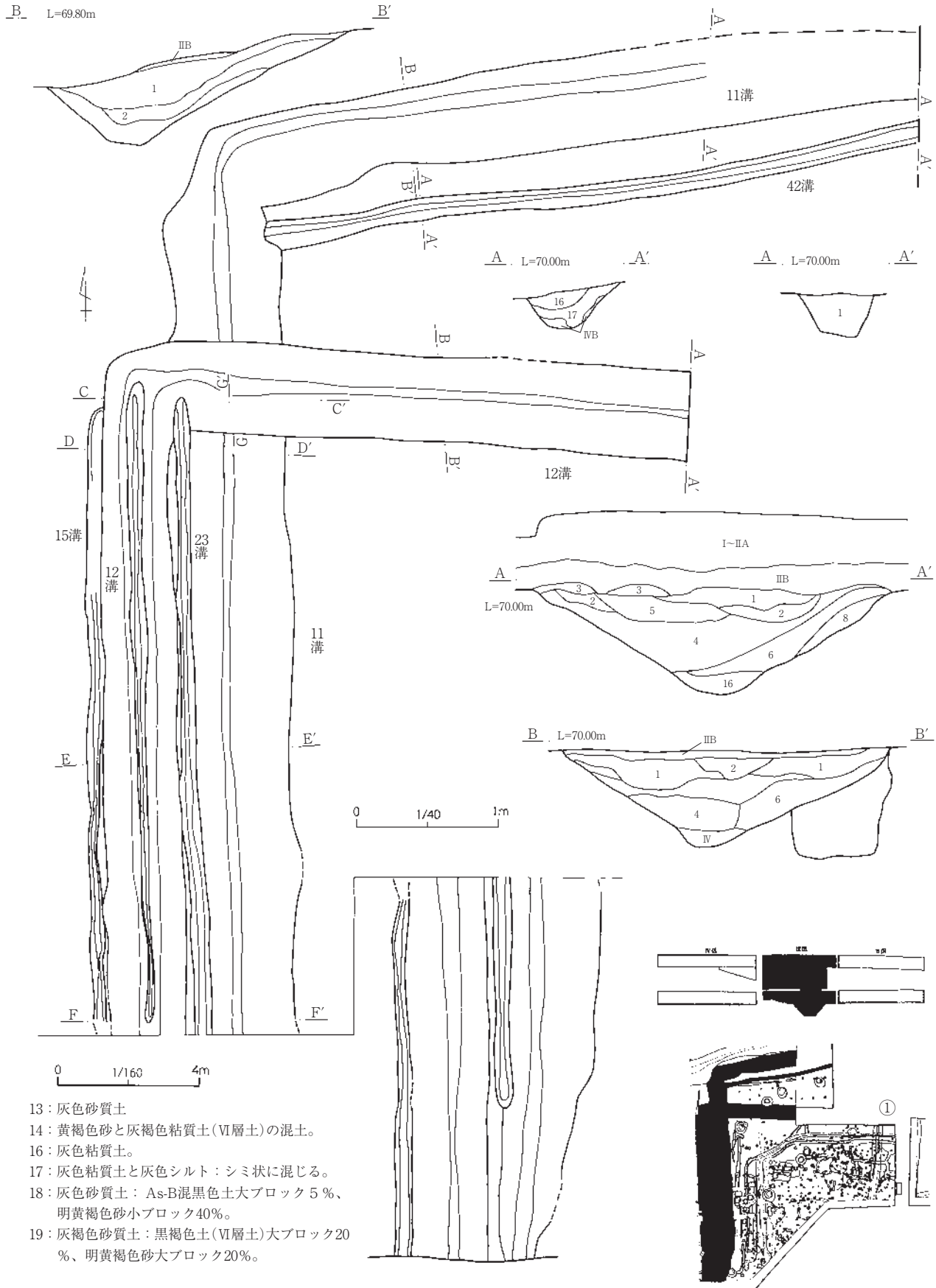
II B : 黒灰~灰色シルト : 洪水層。

- 1 : 褐灰色砂質土 : As-B混黒色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック10%。
- 2 : 黒灰色砂質土 : As-B混黒色土大ブロック20%、明黄褐色砂小ブロック20%。
- 3 : 褐灰色砂質土 : As-B混黒色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック15%、白色洪水砂シミ状に含む。
- 4 : 灰色シルトと灰色砂の互層 : 水性堆積。
- 5 : 灰色砂質土 : As-B混黒色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブ

ク10%。

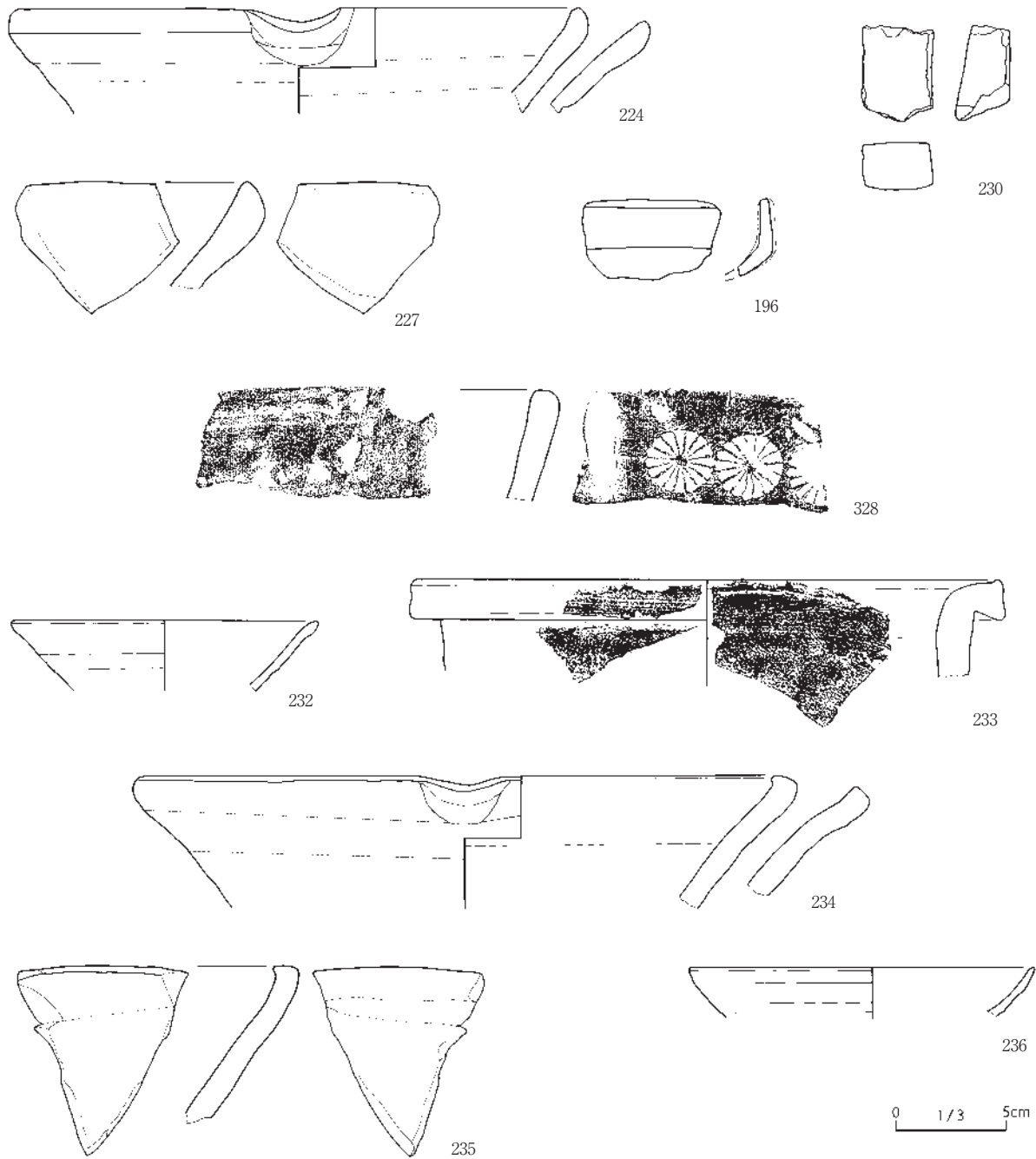
- 6 : 灰褐色砂質土 : As-B混黒色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック5%。
- 7 : 黄褐色砂~シルト。
- 8 : As-B混黒色土と灰色シルトの混土。
- 9 : 灰色シルト。
- 10 : 灰色シルト大ブロック+黄褐色砂 : モザイク状に混じる。
- 11 : As-B混黒色土と灰色シルトの小ブロック混土。
- 12 : 灰色シルト : やや粘質。黄褐色砂小ブロック5%。

第85図の 1 11・12・15・23・29・42号溝



第85図の2 11・12・15・23・29・42号溝

II 調査の記録



第86図 Ⅲ区11・12号溝出土遺物

23号溝 長さ 2,893cm 幅 55cm 深さ 47cm

29号溝 長さ 2,875cm 幅 49cm 深さ 67cm

39号溝 長さ 203cm 幅 37cm 深さ 37cm

42号溝 長さ 1,247cm 幅 67cm 深さ 17cm

1号橋脚 径 95×58cm 深さ 8cm

2号橋脚 径 88×55cm 深さ 49cm

構造 7号溝がN5°、11号溝はN-W3°から時計回りに屈曲してE-N12°、更にE-N5°、12号溝はN-W

3°も時計回りに屈曲してE-S2°、13号溝はN-E5°、14号溝の北半はN-E5°、南半N-E10°、15号溝はN-E2°、23号溝はN-W3°、29号溝はN-E2°、39号溝はN-E3°、42号溝はE-N7°に取る。プランは11・12号溝が鉤状に屈曲し、11号溝と14号溝に僅かな屈曲部分や42号溝が僅かに蛇行するものの全体的には直線的である。

掘削形態は何れも箱堀状である。

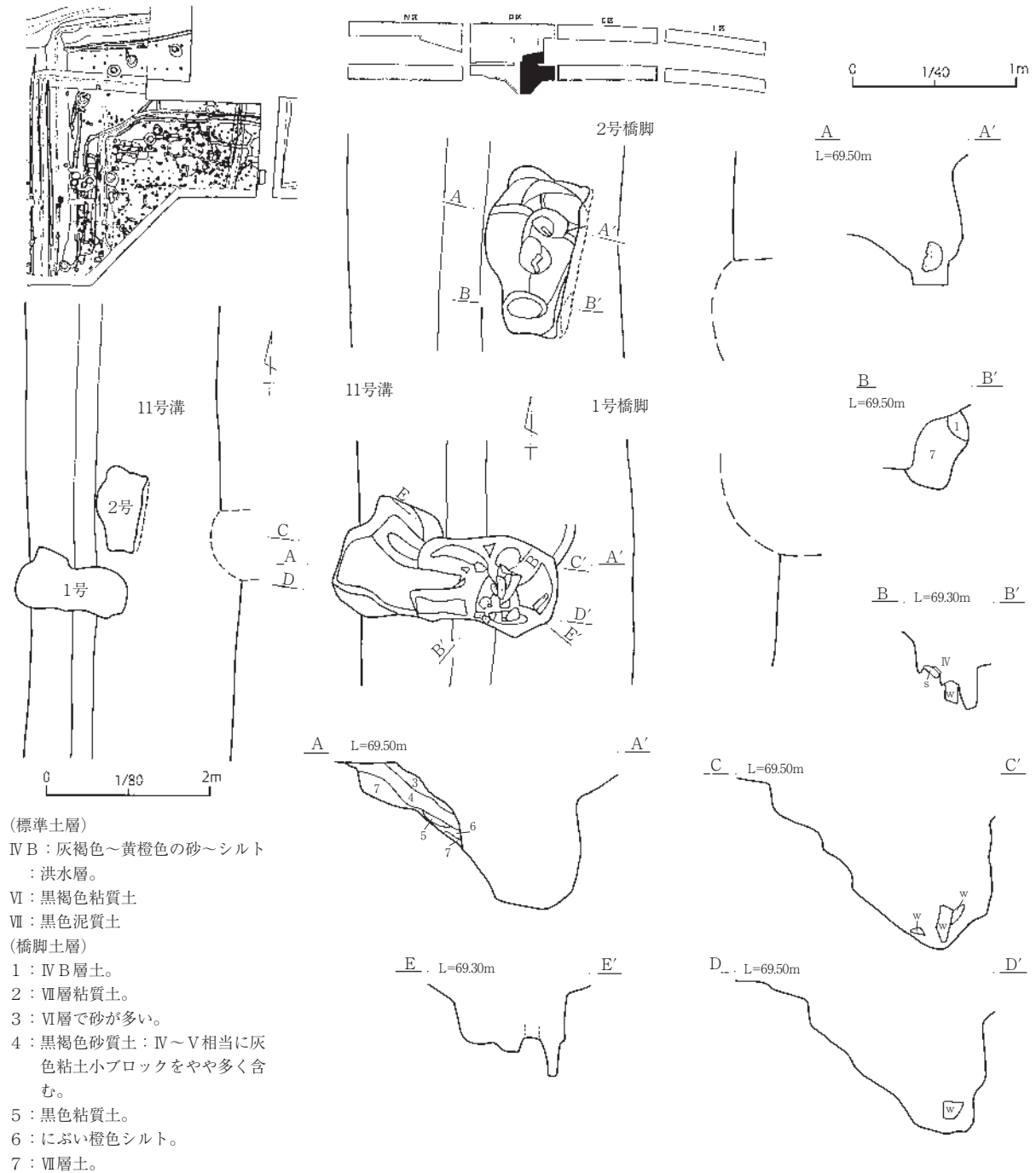
橋脚は11号溝に伴い、1号橋脚は長軸をE-S6°に取る角状の突き出しが付く隅丸方形プランで、掘削形態はアグリを伴う井筒型の井戸に似て、木柱を設置する。木柱は底面径11×15cmを測り、下位の遺存範囲は径30×38cmである。2号橋脚は長軸をN-E3°に取る隅丸長方形プランを呈する。掘削形態は1号橋脚同様で、木柱を設置している。木柱の底面径は推定15cm程である。

(2-2) 郭内周堀沿いの溝群(その2)

(第88図、P L43~46・69)

概要 郭内に於いては、上述した屋敷周堀に並走するようにⅢ区16・18・19・24・34・43号溝の6条の溝が遺されていた。またこれらと関連すると見られるⅢ区34号溝と43号溝も本項にて一括報告する。

16・18号溝は東側、34号溝は北側が調査区外に在り、また18号溝を除く各



第87図 Ⅲ区1・2号橋脚

II 調査の記録

溝は端部が他遺構に当たって全容を確認できなかった。

このうち16・33号溝は折れを介して連なるため同一の溝と判断される。また18号溝は19・24・33～35号溝と重複するが、19・34・35号溝よりは新しく33号溝よりは古いものの、24号溝との新旧関係は不特定。19・24号溝も重複するが、新旧関係は不特定。また18号溝はⅢ区3号土坑に、36号溝がⅢ区6号土坑にそれぞれ切られている。尚、位置的に33号溝又は34号溝は24号溝に接続するか、18号溝に全く重複するものと判断される。

各溝の掘削意図は確認できなかったが、周堀に先行する屋敷の周溝、或いは土塁に伴う排水溝の可能性が、また36・43号溝はⅢ区6号井戸の排水溝の可能性が考えられる。

**遺物** 16号溝からは僅かな土師器・須恵器、18号溝からは土師・須恵器片や軟質陶器甕(237)・内耳鍋(238・239)、軟質陶器鉢(501)、皇宋通寶(241)、砥石(240)、33号溝からは軟質陶器鉢(246)、砥石(247)、モモの種子(248)、19号溝からは僅かな陶器片、34号溝からは軟質陶器鉢(250)、ウメ等の種子(251・252)が出土したが。尚、43号溝の出土遺物は得られなかった。

**時期** 個々の溝の時期の特定には至らなかった。

**規模** 16・33号溝 長さ 2,197cm 幅 64cm  
深さ 28cm

18号溝 長さ 4,912cm 幅 266cm 深さ 23cm

19号溝 長さ 1,295cm 幅 74cm 深さ 43cm

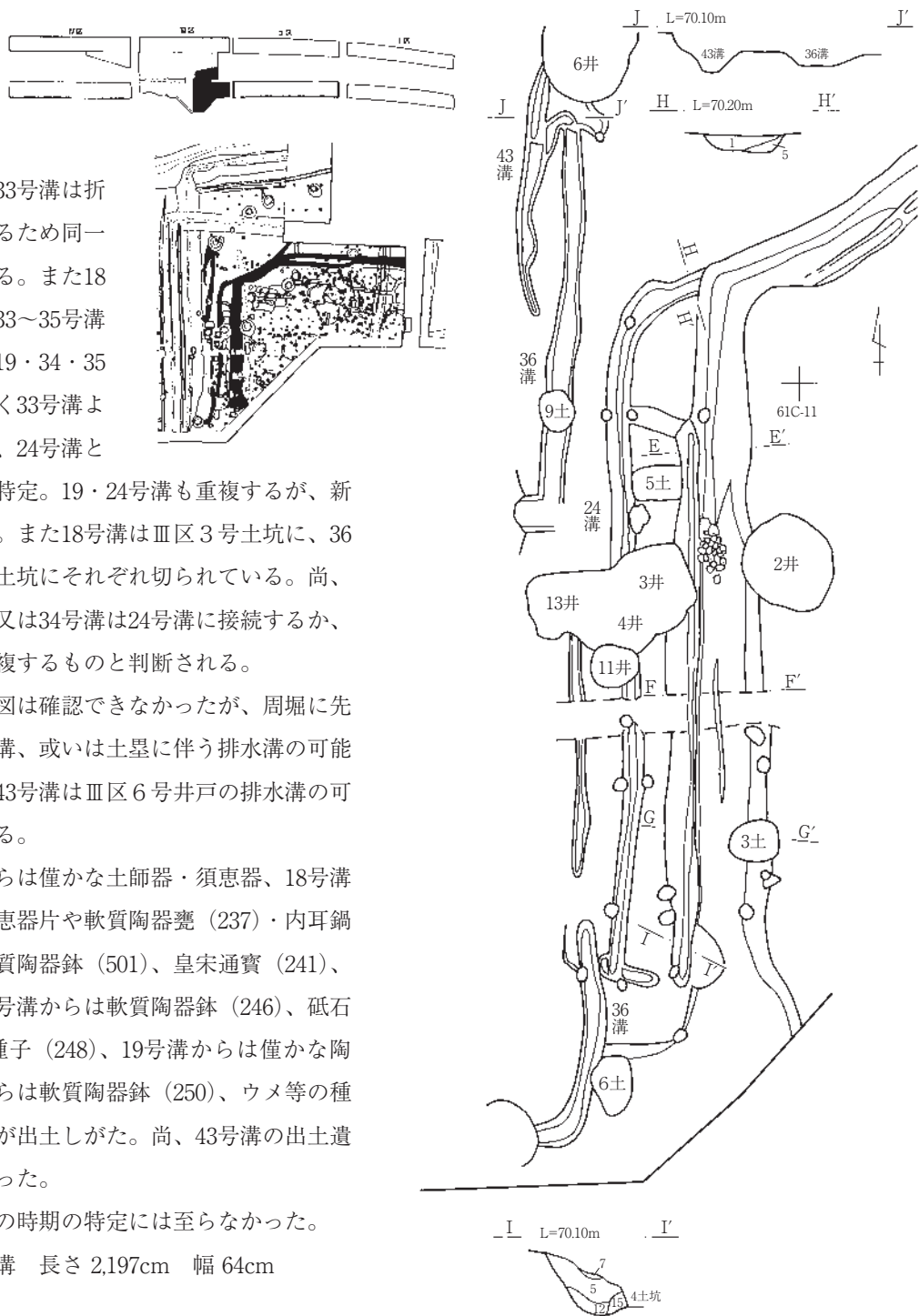
24号溝 長さ 1,696cm 幅 51cm 深さ 11cm

34号溝 長さ 293cm 幅 75cm 深さ 6cm

36号溝 長さ 1,473cm 幅 64cm 深さ 19cm

43号溝 長さ 539cm 幅 55cm 深さ 24cm

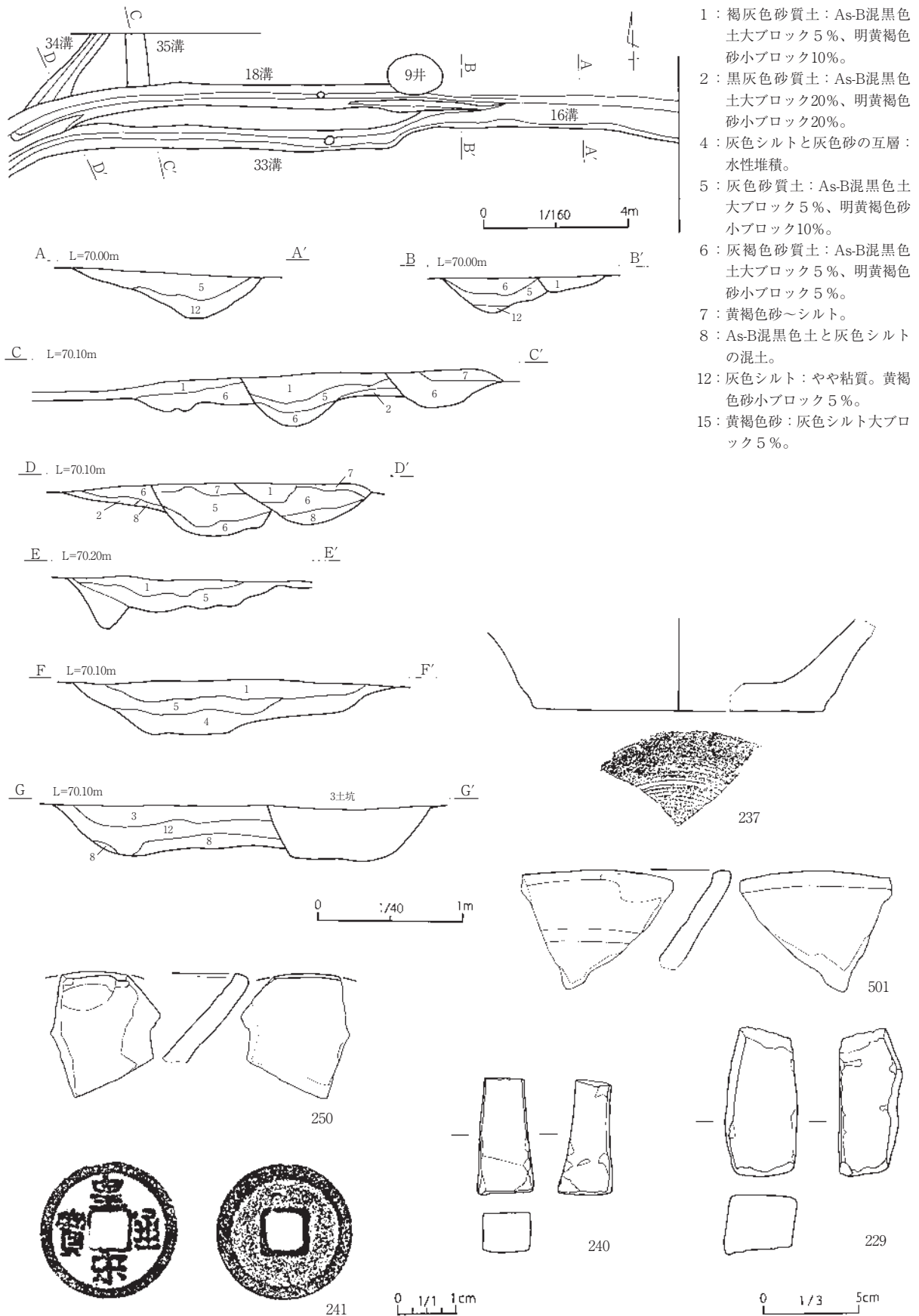
**構造** 18号溝はN-W1°から時計回りにE-N34°方向、



第88図 Ⅲ区16・18・19・24・34・36・43号溝

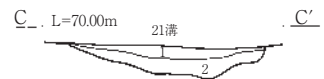
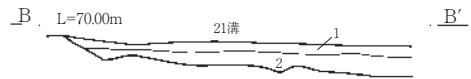
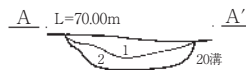
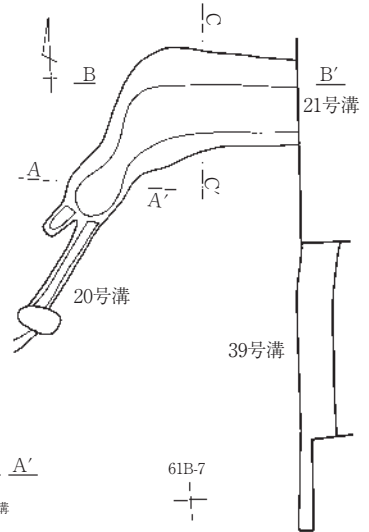
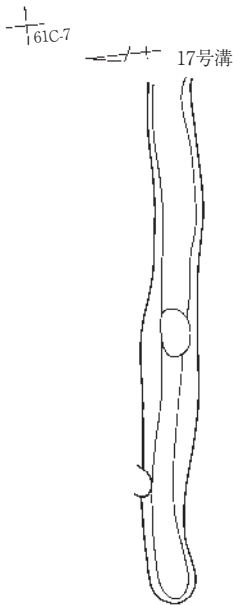
更にE-S2°方向に、19号溝はE-S20°から時計回りにS-E1°方向に変ずる共に直線的な溝である。33号溝はE-N33°方向の直線的なプランから時計回りに緩

6 第3面の調査

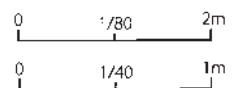
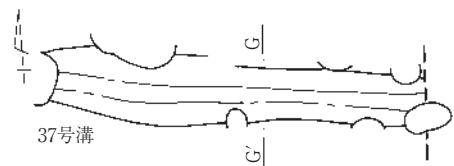
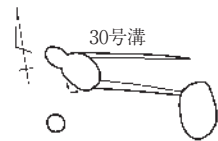
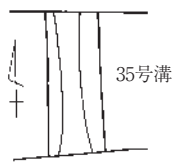
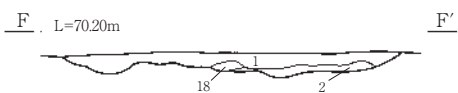
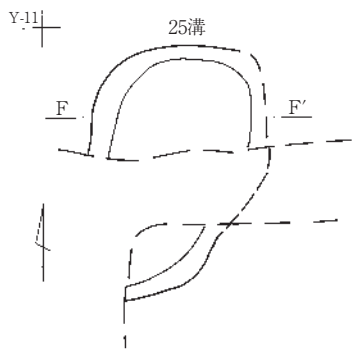
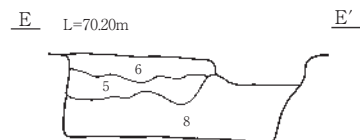
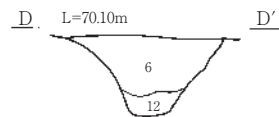
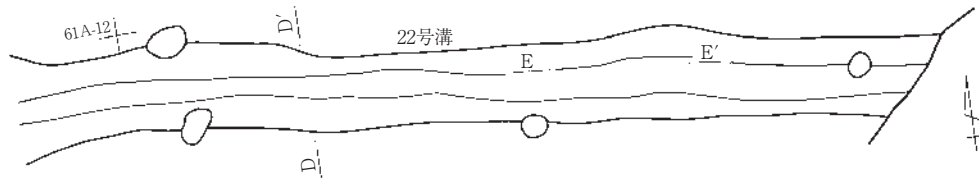


第88図 Ⅲ区18・33図とⅢ区18・33・34号溝出土遺物

II 調査の記録

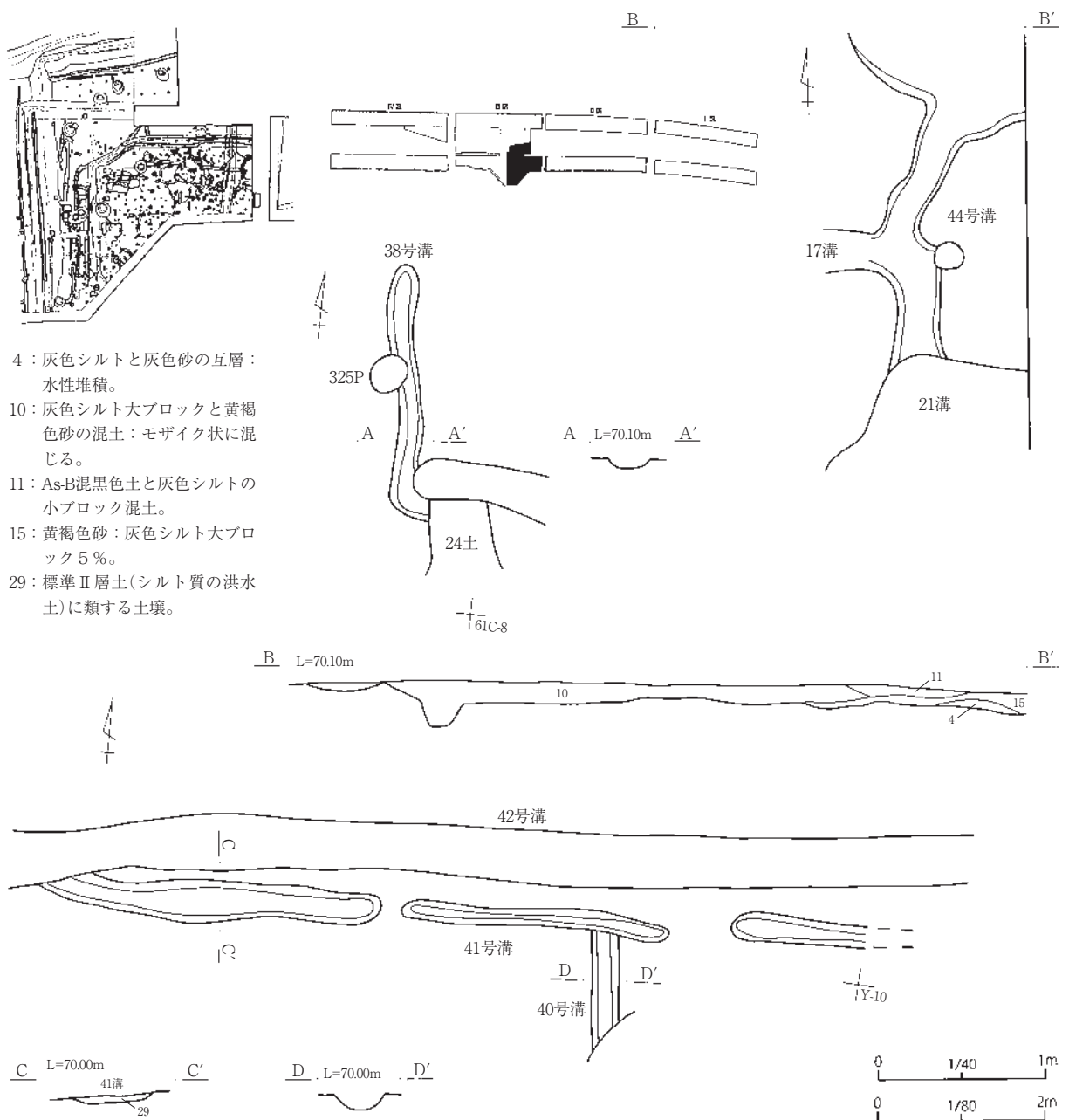


- 1: 褐灰色砂質土: As-B混黑色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック10%。
- 2: 黒灰色砂質土: As-B混黑色土大ブロック20%、明黄褐色砂小ブロック20%。
- 5: 灰色砂質土: As-B混黑色土大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック10%。
- 6: 灰褐色砂質土: As-B混黑色土の大ブロック5%、明黄褐色砂小ブロック5%。
- 8: As-B混黑色土と灰色シルトの混土。
- 12: 灰色シルト: やや粘質。黄褐色砂小ブロック5%。



第89図 III区17・20・21・22・25・30・35・37号溝





- 4：灰色シルトと灰色砂の互層：水性堆積。
- 10：灰色シルト大ブロックと黄褐色砂の混土：モザイク状に混じる。
- 11：As-B混黒色土と灰色シルトの小ブロック混土。
- 15：黄褐色砂：灰色シルト大ブロック5%。
- 29：標準Ⅱ層土(シルト質の洪水土)に類する土壤。

第90図 Ⅲ区38・40・41・44号溝

やか弧を描いてE-S1°方向に直線的なプランに移り、途中50cm程北にずれる折れを伴って16号溝に移行するが、16号溝はE0°から直ぐに屈曲してE-S3°方向に変じて直線的に走行する。また34号溝はN-E40°方向に軸を取る直線的なプランを呈する。36号溝は全体的にはN0°に軸方向を持つが緩やかな蛇行を見せて南端でWS2°方向に鉤型に走行を転ずる。43号溝はN-E8°方向に直線的なプランを見せるが南側ではS-E23°方向に反時計回りに弧を描

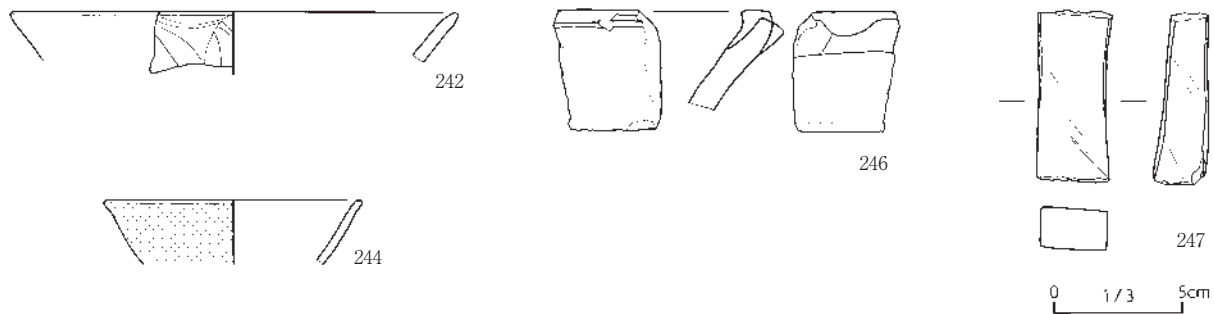
きながら変ずる。

掘削形態は何れも箱堀状を呈する。

(2-3) 郭内の溝群 (第89~91図、P L 45・69)

概要 郭内に於いては前述の溝以外にⅢ区17・20・21・22・25・30・33・35・37・38・40・41・44号溝の13条の溝遺構が確認されている。このうち17・20・21・44号溝は屋敷東端部に位置し、37号溝は同東部南寄り、38号溝は同北寄り、35号溝は中部北寄

## II 調査の記録



第91図 郭内の溝群（Ⅲ-21・22・33号溝）出土遺物

り、22・30号溝は南西部、40・41号溝は北西部に位置している。また21号溝の東側と22号溝の南側、35号溝の北側は調査区外に出ていて確認できなかった。25号溝は南西側が浅くなって滅失するようで、確認できなかった。

このうち17号溝はⅢ1・5・6・9・16・18号掘立柱建物、Ⅲ区38・44号溝、Ⅲ区24号土坑、Ⅲ区46号ピットと、20号溝はⅢ区6号掘立柱建物やⅢ区21号溝、Ⅲ区477号ピットと、21号溝はⅢ区6号掘立柱建物やⅢ区20・44号溝と、22号溝はⅢ区388号ピットと、25号溝はⅢ区14号掘立柱建物やⅢ区27・31・370号ピット等と、30号溝はⅢ区169・183号ピットと、35号溝はⅢ区18号溝と、37号溝はⅢ区1・3・6・9・13・18～20号掘立柱建物やⅢ区25号ピットと、38号溝はⅢ区1・5・9・16・18号掘立柱建物やⅢ区17号溝と、40号溝は41号溝と、41号溝は40号溝及びⅢ区42号溝と、44号溝はⅢ区6号掘立柱建物やⅢ区17・21号溝と重複しているが、何れも新旧関係を特定することはできなかった。

これらの溝の掘削意図は特定できなかった。しかし20号溝、44号溝を除いては軸方向が屋敷の軸に似ることから郭内の区画溝の可能性を有する。また25号溝は溝でない可能性も考慮される。

**遺物** 21号溝からは青磁碗(242)、陶器鉢(243)、22号溝からは灰釉陶器小碗(244)の出土が得られた。20・41・44号溝からは僅かな、25号溝からは若干量の土師器片、33号溝からは土師器坏(246)、砥石(247)と僅かな土師・須恵器片、37号溝からは僅かな須恵器片と若干量の土師器片、22号溝からは礫の出土が

あった。また他の溝からの出土遺物はなかった。

**時期** 郭内所在の各溝の時期は特定できなかった。

**規模** 17号溝 長さ555cm 幅59cm 深さ13cm

20号溝 長さ155cm 幅21cm 深さ16cm

21号溝 長さ323cm 幅117cm 深さ19cm

22号溝 長さ983cm 幅116cm 深さ43cm

25号溝 長さ296cm 幅184cm 深さ8cm

30号溝 長さ133cm 幅38cm 深さ6cm

35号溝 長さ147cm 幅54cm 深さ7cm

37号溝 長さ387cm 73幅cm 深さ16cm

38号溝 長さ310cm 幅32cm 深さ8cm

40号溝 長さ141cm 幅30cm 深さ6cm

41号溝 長さ1,015cm 幅47cm 深さ7cm

44号溝 長さ393cm 幅50cm 深さ12cm

**構造** 17号溝は軸方向をE-S6°に向け、時計回りに屈曲してS-W8°に軸線を変じており、37号溝はE-S9°、38号溝はN-W6°、41号溝はE-S4°で西端がE-S12°を、44号溝はN-E27°を向いて緩やかに蛇行するプランを呈する。また20号溝はE-S8°、21号溝はN-E34°、22号溝はN-E3°、30号溝はE-S12°、35号溝はN-W2°に軸方向を取っており、何れも直線的なプランを呈している。

掘削形態は何れも箱堀状を呈する。

### (2-4) Ⅲ区1号掘立柱建物 (第92図、P L30)

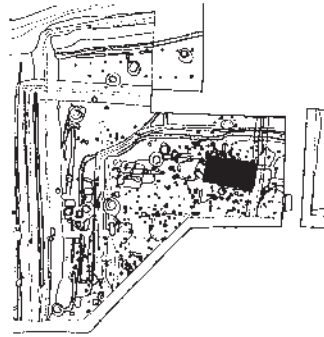
**概要** 本建物は屋敷内東部に位置している。

本建物はⅢ区2・5・6・9・13・16・18・20・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区2・3号竪穴、17・37・38号溝、24・30号土坑、Ⅲ区291・300号ピットなど

6 第3面の調査



- 2：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 6：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。
- 8：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。
- 9：黒褐色土：柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 10：黒褐色砂質土：ⅢB層土。



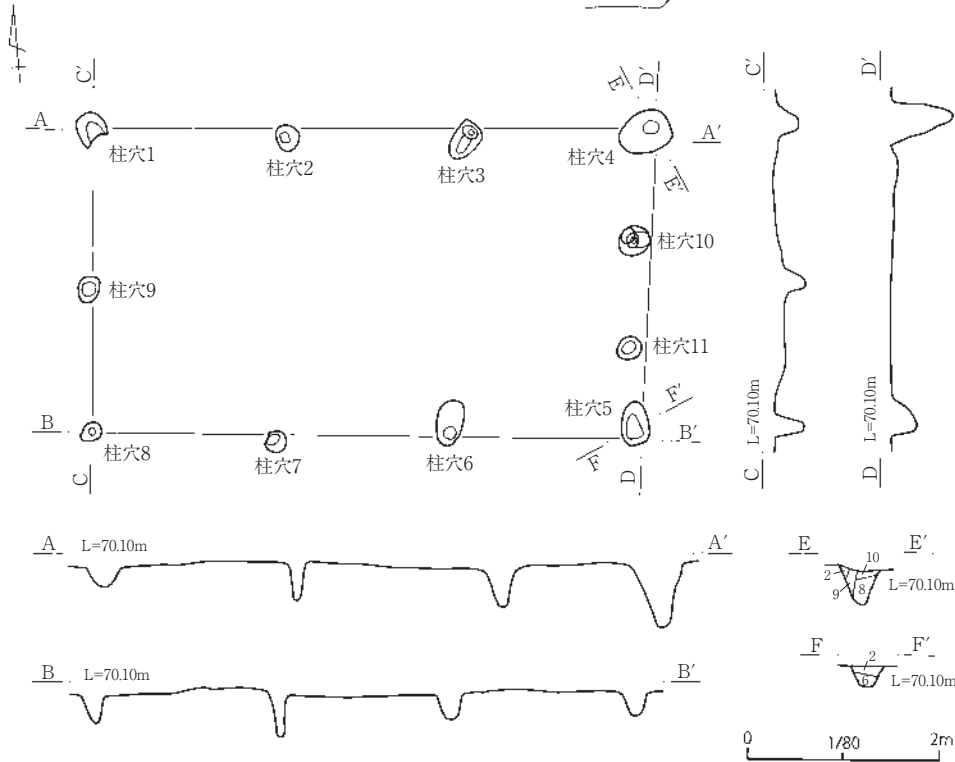
古いことを確認することができた。

尚、本建物はその設置位置と規模から推して、屋敷内に於ける附属舎として使用されたものと想定されるものであった。

遺物 本掘立柱建物からの出土遺物を確認することはできなかった。

時期 本建物は建物配置と桁行柱間と柱穴の規模から推して中世の所産と認識されるものの、その時期を特定するには至らなかった。

規模 範囲 363 × 630cm  
建物規模 318 × 588cm



第92図 Ⅲ区1号掘立柱建物

表14 1号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(69)	隅丸方形	31 × (26)	21
2	(47)	隅丸方形	28 × 24	71
3	(85)	楕円形	45 × 39	48
4	(46)	楕円形	56 × 44	61
5	(207)	隅丸三角形	45 × 30	24
6	(26)	隅丸長方形	46 × 45	49
7	(257)	楕円形	(25) × 23	56
8	(255)	隅丸方形	25 × 19	45
9	(237)	隅丸方形	29 × 24	38
10	(43)	隅丸長方形	34 × 29	25
11	(200)	円形	26 × 25	34

梁間 152~165cm

(平均 159.25cm)

東側梁間 86から119cm (平均 102.00cm)

桁間 185~201cm (平均 192.17cm)

柱穴 表14 (1号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

構造 本建物はE-S6°に棟方向を有する2 × 3間の、所謂2m基準の掘立柱建物である。桁行柱間はほぼ等しく、柱筋の通りは良い。西辺の妻柱柱穴9に対応する東辺の妻柱は見られないものの柱穴10・11が柱筋のやや内側に在り、位置的に入口構造に伴うものと解釈される。

柱穴は柱穴1・2・8・9が隅丸方形、柱穴10が隅丸長方形、柱穴11が円形、柱穴3・4・7が楕円

と重複する。多くの遺構との新旧は明らかにできなかったが、37号溝より新しく11号掘立柱建物よりは

II 調査の記録

形、柱穴5・6が隅丸三角形のプランを呈する。底面形態は一様に丸底形で、根石は見られない。

尚、柱穴4では土層断面に柱痕を確認したがその位置は北に偏しており、幅は10cm程であった。

(2-5) Ⅲ区2号掘立柱建物 (第93図、P L 30)

概要 本建物は屋敷中央北寄りに位置しているが、柱穴の重複が激しく、帰属する柱穴の判別に検討の

余地を残す。

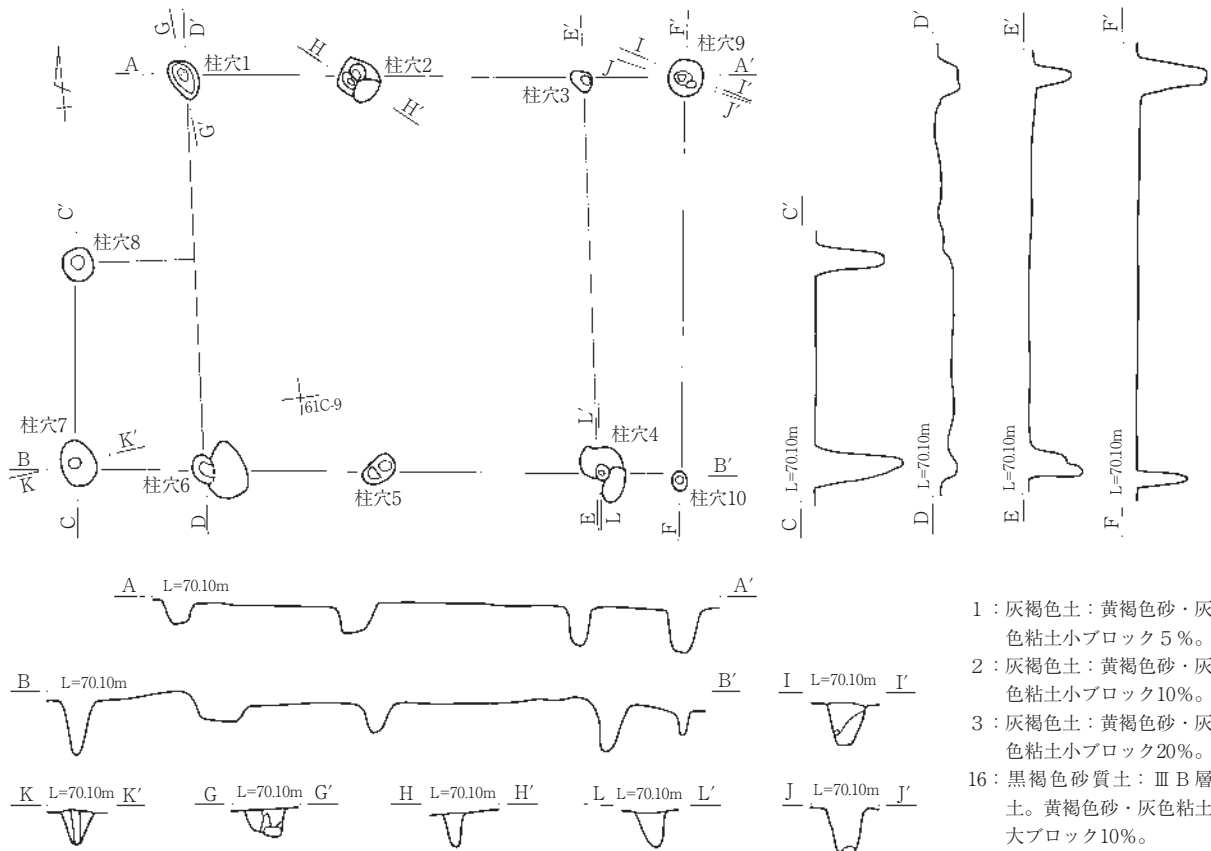
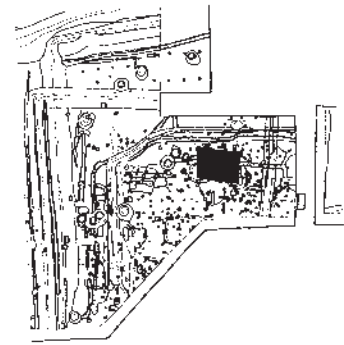
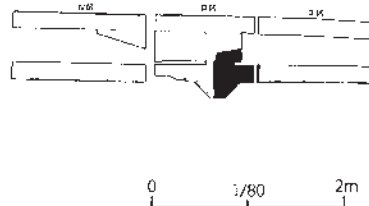
本建物はⅢ区1・3・5・9・13・16・17・18・20・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区2・3号堅穴、Ⅲ区466号ピット等のピット群と重複するが、このうち本建物は22号掘立柱建物より新しいことを確認した。尚、3号堅穴は建物内に納まる位置にあり、同堅穴が関連する内部施設であった可能性がある。

また柱穴には複数の柱穴が重複するものがあり、柱の立て直しなども考慮される。

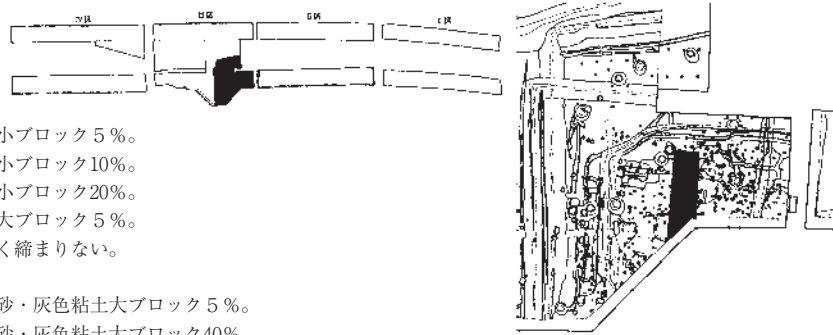
設置位置と規模から推して附属舎と捉えられるが、2号堅穴が本建物に伴うならば本建物は厩の可能

表15 2号掘立柱建物柱穴一覧

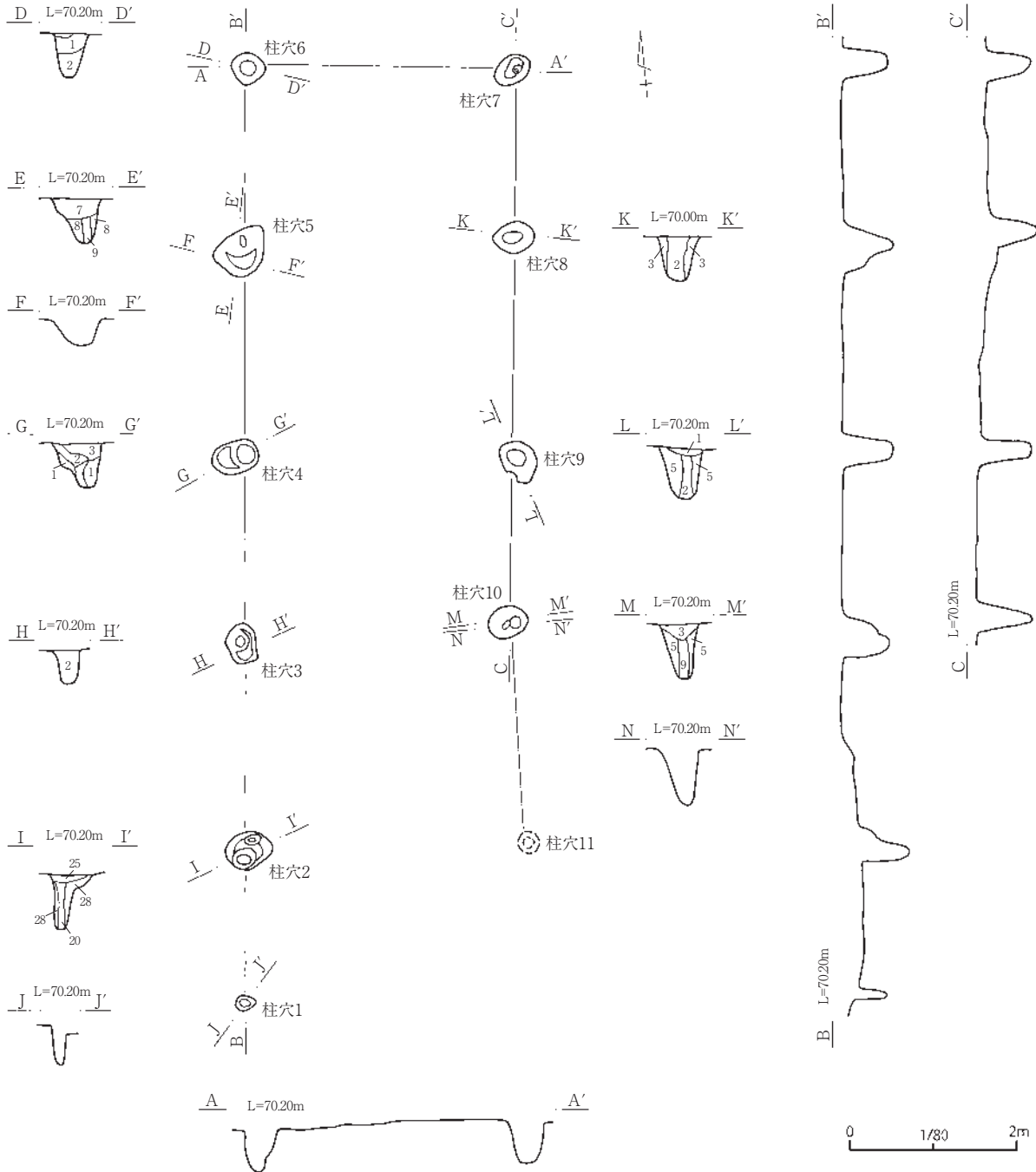
番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(219)	滴形	44 × 31	26
2	(71)	隅丸長方形	46 × 39	34
3	(280)	隅丸三角形	27 × 21	42
4	(33)	円形	16 × (13)	53
5	(215)	楕円形	40 × 27	54
6	(222)	楕円形	30 × (18)	29
7	(217)	楕円形	44 × 37	70
8	(145)	隅丸方形	33 × 33	58
9	(59)	円形	40 × 38	48
10	(184)	円形	20 × 16	35



第93図 Ⅲ区2号掘立柱建物

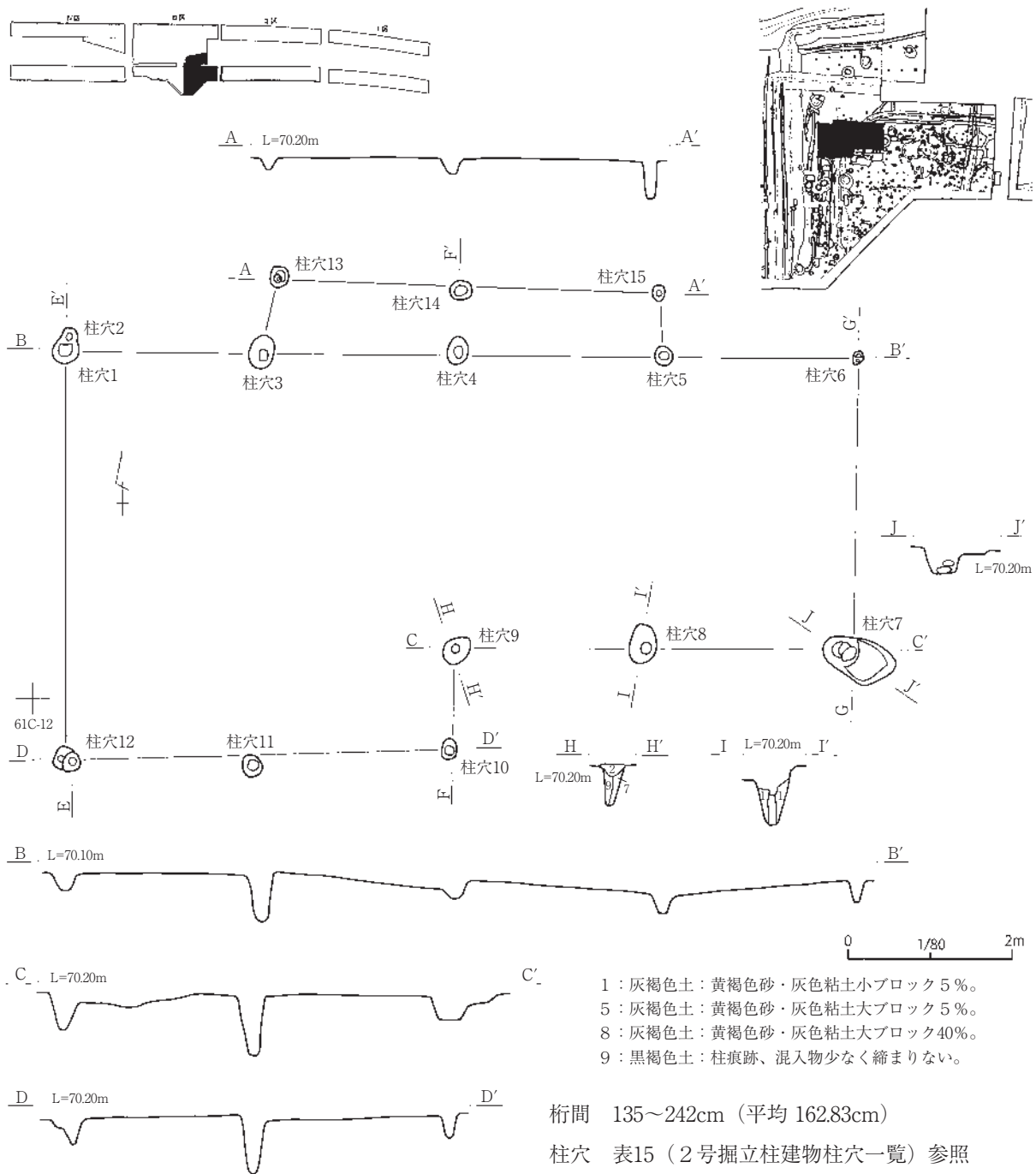


- 1: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。
- 2: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 10%。
- 3: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 20%。
- 5: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 5%。
- 9: 黒褐色土: 柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 20: 褐色砂質土: IV B層土。
- 25: 褐色砂質土: IV B層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 5%。
- 28: 褐色砂質土: IV B層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 40%。



第94図 Ⅲ区3号掘立柱建物

II 調査の記録



第95図の1 III区4号掘立柱建物

性が考慮される。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本建物の時期は特定できなかった。

規模 範囲 453×687cm

建物規模 425×640cm

梁間 143~444cm (平均 424.33cm)

西側梁間 212cm

桁間 135~242cm (平均 162.83cm)

柱穴 表15 (2号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

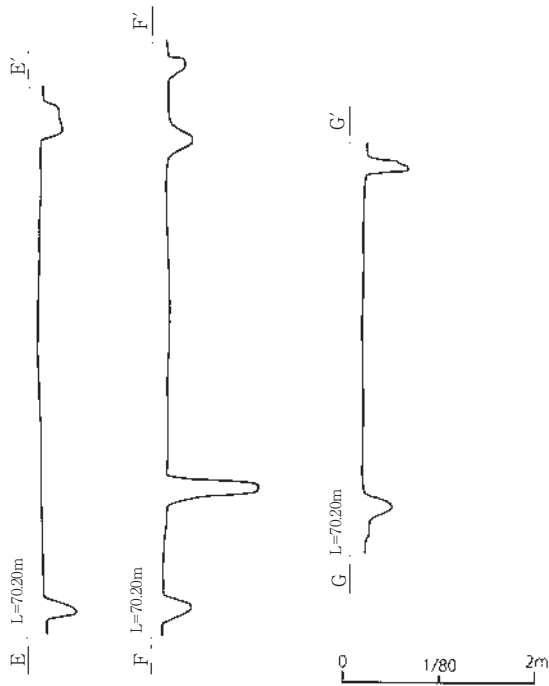
構造 本建物は棟がE-S7°を向く掘立柱建物である。1×2間部分を身屋とし、東側に平均90cm幅、西側に平均130cm幅を測る張り出しを持つ。北辺の柱穴列に比し、南辺の柱穴が若干東にずれて僅かに菱形を呈する。身屋中側の柱穴2・5号がやや西に寄る。また身屋北西隅の柱穴1の西に西側張り出しに対応する柱のあった可能性を持つ。

柱穴のプランは柱穴8が隅丸方形、柱穴2が隅丸長方形、柱穴3が隅丸三角形、柱穴4・9・10が円

形、柱穴5～7が楕円形、柱穴1が滴形を呈している。底面の形態は柱穴1・2が平底状を呈する以外は丸底気味である。尚、柱穴1・2は根石を持つものである。

柱穴1・7では土層断面に柱痕を確認したが、その幅は5cmと7cmであった。

尚、柱穴1の西に痕跡を残さない程度の柱穴があった可能性も考慮される。



第95図の2 Ⅲ区4号掘立柱建物

(2-6) Ⅲ区3号掘立柱建物

(第94図、P L30・31)

**概要** 本建物も屋敷中央部に位置する。南側が調査区外に出ていて全容は把握できなかった。

本建物はⅢ区2・5・7・13・15・17・18・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区1・2号竪穴、Ⅲ区87・288号ピット当のピット群など多くの遺構と重複関係にあるが、新旧を特定することはできなかった。

また柱穴には複数の柱穴が重複するものがあり、柱の立て直しなども考慮される。

本建物は位置と規模から推して副屋と見られる。

**遺物** 本建物からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物は典型的な梁間一間型の中世的な掘立

表16 3号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(竪 P7)	隅丸台形	24 × 18	37
2	(竪 P4)	楕円形	55 × 45	31
3	(110)	鍵穴形	49 × 36	43
4	(67)	楕円形	58 × 41	35
5	(186)	隅丸台形	67 × 53	92
6	(160)	隅丸方形	40 × 39	56
7	(232)	楕円形	46 × 36	56
8	(213)	楕円形	50 × 39	61
9	(78)	滴形	56 × 41	66
10	(182)	楕円形	52 × 42	68
11	(241)	不明	26 × 53	-

表17 4号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(189)	円形	34 × (23)	23
2	(190)	円形	21 × 18	18
3	(179)	隅丸長方形	41 × 31	60
4	(301)	楕円形	35 × 28	9
5	(435)	円形	24 × 25	20
6	(473)	楕円形	16 × 15	42
7	(335)	楕円形	45 × 40	31
8	(57)	楕円形	47 × 33	95
9	(266)	隅丸方形	42 × 31	99
10	(125)	隅丸長方形	25 × 18	29
11	(328)	円形	28 × 24	41
12	(341A)	隅丸方形	29 × (26)	14
	(341B)	滴形	24 × 23	6
13	(180)	円形	25 × 23	16
14	(174)	楕円形	29 × 24	18
15	(436)	楕円形	20 × 17	48

柱建物であるが、細かい時期は特定できなかった。

**規模** 範囲 396×1,167cm

建物規模 337×1,139cm

梁間 326～346cm (平均 333.00cm)

桁間 173～269cm (平均 229.56cm)

柱穴 表16 (3号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

柱 (柱穴11) 径 11cm

**構造** 本建物の全容は把握できないが、棟がN-E 7°を向く、1×5間以上で2.4m基準によると見られる掘立柱建物である。柱筋の通りは良いが、梁間は狭く、細長い平面形を呈して桁行柱間は広い。

柱穴は長径が50cmを越える大型のものが多く、柱穴6は隅丸方形、柱穴1・5は隅丸台形、柱穴2・4・7・8・10は楕円形、柱穴9は滴形で、柱穴3は2基の柱穴の重複とも見られる鍵穴形を呈する。底面形態は柱穴5が尖形、柱穴7・9が平底を呈する以

## II 調査の記録

外は丸底である。根石は見られない。

また柱痕は顕著なものが多く、柱穴2・4・5・8・9・10・11の土層断面で確認できたが、特に柱穴4・8・9・10・11は空隙のある状態で、調査区南壁の柱穴11では石膏型を採取できた。尚、土層断面に見られた柱痕の幅は8～20cmを測った。

### (2-7) Ⅲ区4号掘立柱建物 (第95図、P L 31)

**概要** 本建物は屋敷西部やや北寄りに位置する。

本建物はⅢ区7・17号掘立柱建物、Ⅲ区4号堅穴、Ⅲ区13号土坑、Ⅲ区150号ピット等のピット群と重複するが、何れの遺構に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

本建物は規模と構造から副屋の可能性を考えたいられる。

**遺物** 本建物からの出土遺物を得ることはできなかった。

**時期** 本建物は中世的な梁間一間型建物であるが、時期は特定できなかった。

**規模 範囲** 631×1,046cm

**建物規模** 599×978cm

**身屋規模** 534×978cm

**梁間 西側** 491～534cm (平均 509.67cm)

**東側** 356～365cm (平均 36.00cm)

**桁間** 222～252cm (平均 237.63cm)

**柱穴** 表17 (4号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向をE0°を向く1×4間の2.4m基準に基づくと見られる掘立柱建物で、北辺中央に2間分に下屋を持つ。南辺は中央部を境に、南北に約1.3mずれてL字形の平面形を呈する。身屋の桁行柱間は広く、柱筋の通りは良い。

柱穴のプランは柱穴9と柱穴12の西側のものが隅丸方形、柱穴3・10が隅丸長方形、柱穴1・2・5・11・13が円形、柱穴4・6～8・14・15が楕円形、柱穴12の東側のものが滴形を呈する。底面形態は柱穴1・2が平底である以外は丸底を呈する。尚、柱穴7は底面に接して、根石をもつ。

また柱痕は顕著なものがあり、柱穴8・9の土層

断面で確認でき、その幅は10～11cmを測る。

### (2-8) Ⅲ区5号掘立柱建物 (第96図)

**概要** 本建物は屋敷東部やや北寄りに位置する。

本建物はⅢ区1・2・3・9・13・16・17・18・20・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区1・2号堅穴、Ⅲ区17号溝、Ⅲ区80号ピット等のピット群と重複関係にあるが、新旧関係は特定できなかった。

その規模から推して付属屋と認識される。

**遺物** 本建物では柱穴6から礫の出土が見られたものの、明確な出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物は中世の梁間一間型建物であるが、時期の特定には至らなかった。

**規模 範囲** 479×932cm

**建物規模** 434×885cm

**梁間** 191～233cm (平均 213.50cm)

**桁間** 182～229cm (平均 216.00cm)

**柱穴** 表18 (5号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向がE-S11°を向く、2m基準に基づく2×4間の掘立柱建物で、西側にのみ妻柱を持つ。南辺の西から1間目の柱穴は検出できなかった。柱筋の通りはほぼ揃うが、P2は南に寄る。

柱穴は径40cm超のものが多く含まれるが、北辺の柱穴に小さいものがある。プランは柱穴8が隅丸長方形、柱穴1が円形、柱穴1～3・5～7・9・10が楕円形を呈する。底面形態は柱穴1・2・9が平底、柱穴4・6が尖底、他は丸底を呈する。根石が柱穴6・9で見られた。

また柱痕は顕著なものがあり、柱穴1・2・7の土層断面で確認できるが、幅は6～10cmを測る。

### (2-9) Ⅲ区6号掘立柱建物 (第97図、P L 31)

**概要** 本建物は屋敷東端部に位置するが、南側は調査区端部に接して確認できなかった。

本建物はⅢ区1・10・16・18・19・20号掘立柱建物、Ⅲ区17・20・21号溝、Ⅲ区481号ピット等のピット群と重複関係にあるが、何れに対しても新旧関係は特定できなかった。



尚、規模から推して本建物は副屋の可能性が考慮される。

遺物 本掘立柱建物に於いては、柱穴6から白磁口禿皿(257)の出土が得られた。

時期 本建物は出土遺物から13世紀後半以降の所産と判断されるが、時期特定には至らなかった。

規模 範囲 389×1,071cm

建物規模 391×1,044cm

梁間 320~391cm (平均 357.13cm)

桁間 189~219cm (平均 207.09cm)

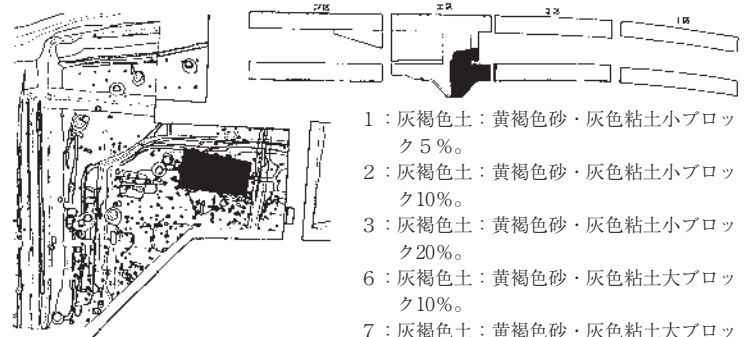
柱穴 表19(6号掘立柱建物柱穴一覧)参照

構造 本建物は棟がN-E10°を向く2×6間以上の2mに基準に基づくと見られる掘立柱建物である。上述のように南側が調査区端に接し、桁側が更に延びる可能性を残す。梁間は狭く、細長い平面形を呈し、柱筋の通りはやや乱れがある。

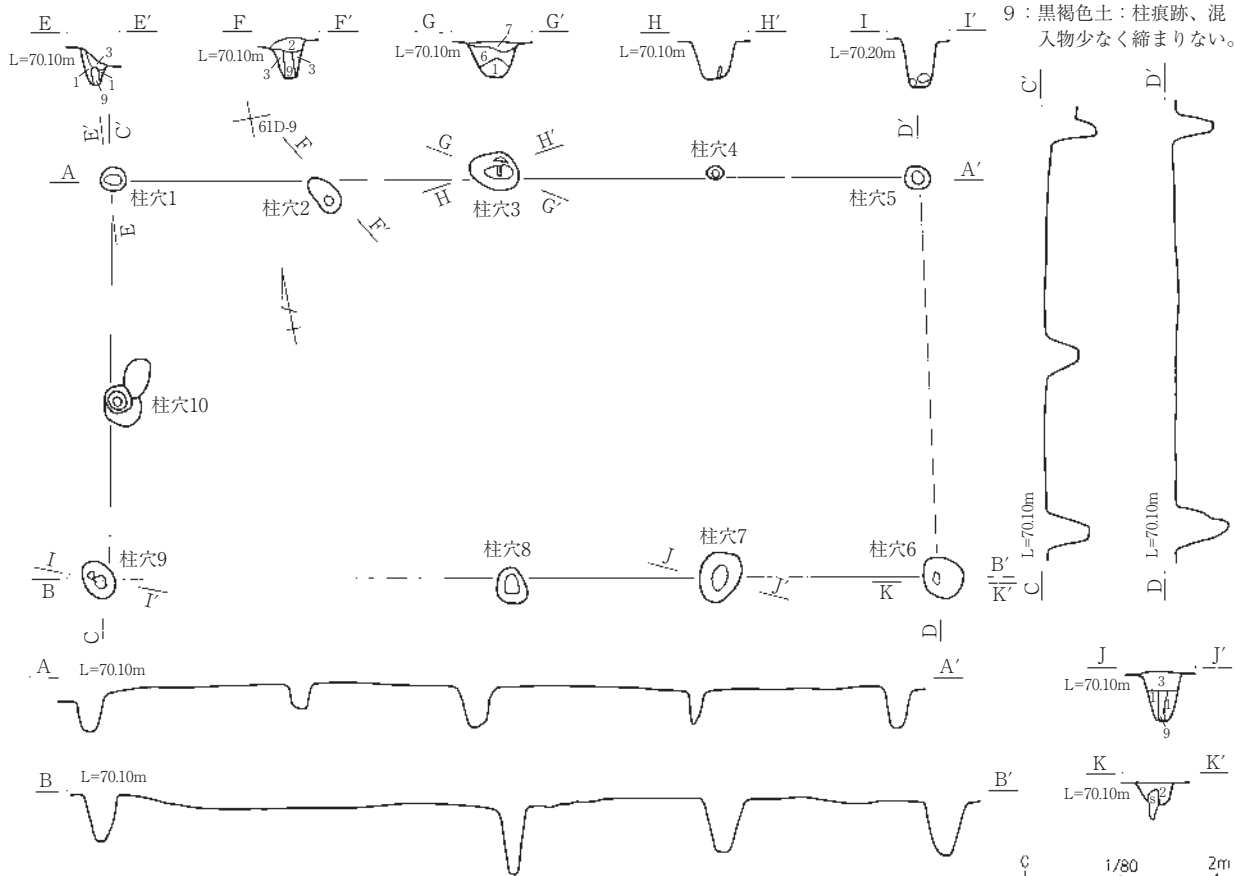
柱穴は多くが径35cmを下回る。プランは柱穴11(西側)と柱穴12は隅丸方形、柱穴10と柱穴11(東

表18 5号掘立柱建物柱穴一覧

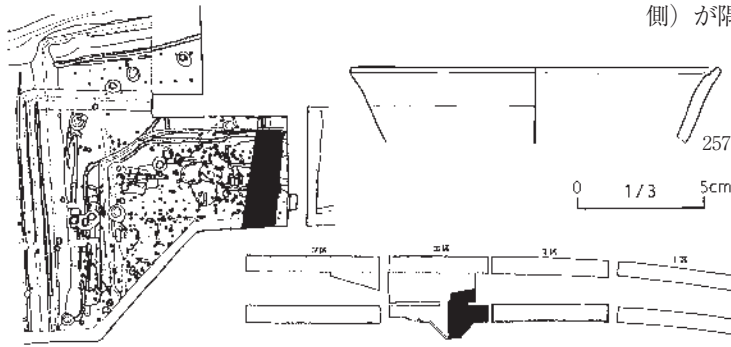
番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(172)	楕円形	28 × 25	36
2	(281)	楕円形	44 × 25	55
3	(75)	楕円形	54 × 39	40
4	(297)	円形	17 × 16	46
5	(277)	楕円形	26 × 27	43
6	(11)	楕円形	47 × 43	70
7	(305)	楕円形	53 × 43	46
8	(238)	隅丸長方形	38 × 31	65
9	(156)	楕円形	42 × 34	41
10	(187)	楕円形	44 × 39	44



- 1: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 2: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 3: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック20%。
- 6: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。
- 7: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック20%。
- 9: 黒褐色土: 柱痕跡、混入物少なく締まりない。



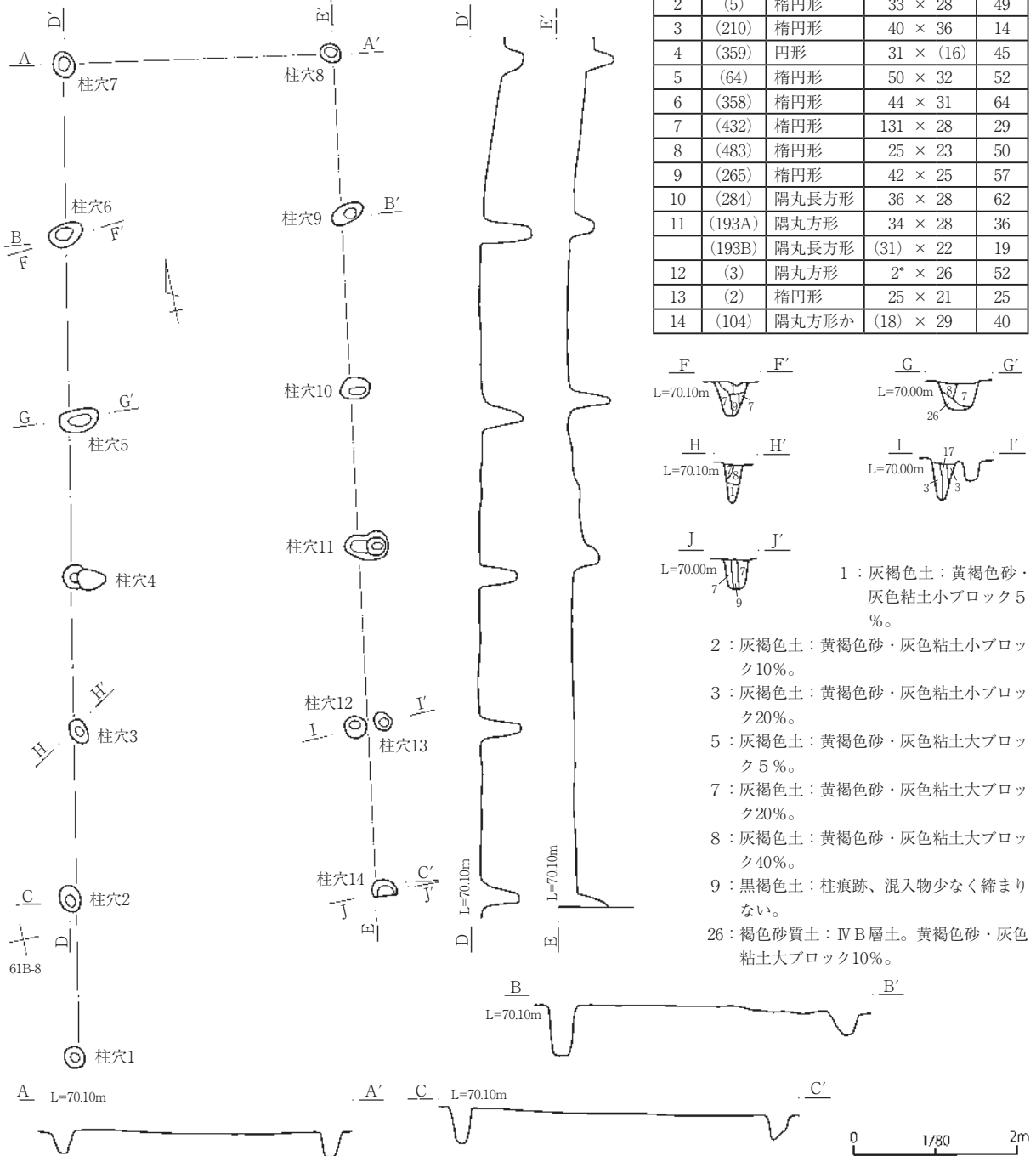
第96図 Ⅲ区5号掘立柱建物



側)が隅丸長方形、柱穴4が円形、柱穴2・3・5~9・13が楕円形を呈する。底面形態は柱穴4・6・8が平底、柱穴10が尖底をなす以外は丸底を呈する。根石は見られない。

表19 6号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(239)	不明	26 × 53	-
2	(5)	楕円形	33 × 28	49
3	(210)	楕円形	40 × 36	14
4	(359)	円形	31 × (16)	45
5	(64)	楕円形	50 × 32	52
6	(358)	楕円形	44 × 31	64
7	(432)	楕円形	131 × 28	29
8	(483)	楕円形	25 × 23	50
9	(265)	楕円形	42 × 25	57
10	(284)	隅丸長方形	36 × 28	62
11	(193A)	隅丸方形	34 × 28	36
	(193B)	隅丸長方形	(31) × 22	19
12	(3)	隅丸方形	2* × 26	52
13	(2)	楕円形	25 × 21	25
14	(104)	隅丸方形か	(18) × 29	40



1 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。

2 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 10%。

3 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 20%。

5 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 5%。

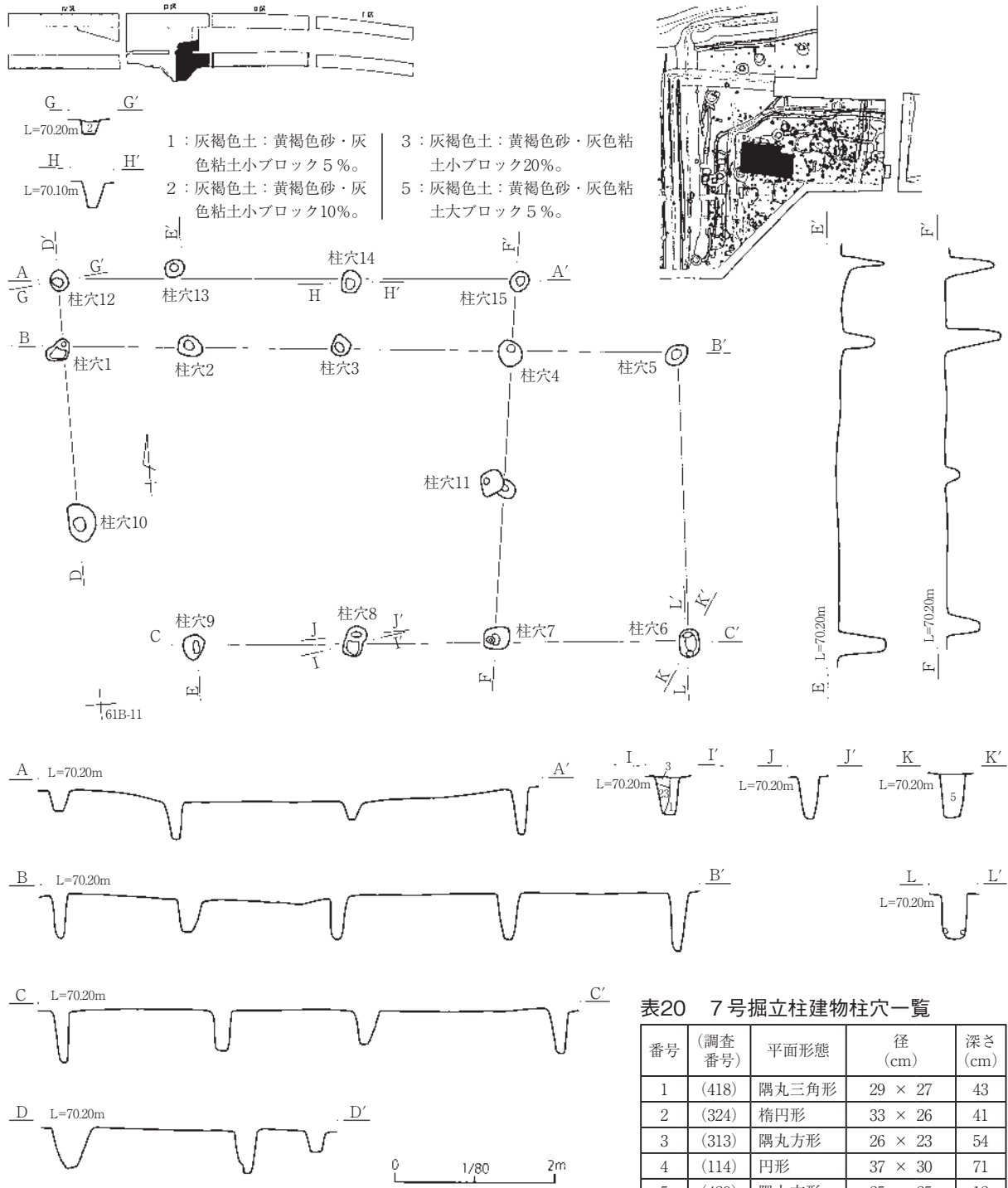
7 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 20%。

8 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 40%。

9 : 黒褐色土 : 柱痕跡、混入物少なく締まりない。

26 : 褐色砂質土 : IV B 層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 10%。

第97図 III区6号掘立柱建物と出土遺物



第98図 Ⅲ区7号掘立柱建物

また柱痕は顕著で、柱穴6・12・14の土層断面で幅は7～10cmを測る。

(2-10) Ⅲ区7号掘立柱建物  
(第98図、P L28・31)

概要 本建物は屋敷西部に位置する。

表20 7号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(418)	隅丸三角形	29 × 27	43
2	(324)	楕円形	33 × 26	41
3	(313)	隅丸方形	26 × 23	54
4	(114)	円形	37 × 30	71
5	(429)	隅丸方形	25 × 25	12
6	(102)	円形	34 × 26	56
7	(375)	長方形	66 × 28	43
8	(107A)	方形	26 × 20	52
	(107B)	楕円形	27 × (20)	16
9		楕円形	31 × 24	62
10	(354)	楕円形	50 × 35	52
11	(112B)	隅丸方形	(20) × 22	16
12	(168)	隅丸方形	27 × 23	16
13	(422)	隅丸長方形	25 × 19	43
14	(153)	隅丸方形	28 × 25	38
15	(427)	隅丸方形	24 × 24	61

## II 調査の記録

本建物はⅢ区3・4・14・15・17号掘立柱建物、Ⅲ区4・5号竪穴、Ⅲ区7号井戸、Ⅲ区13・31号土坑、Ⅲ区372号ピット等のピット群と重複関係にあるが、何れに対しても新旧関係を特定することはできなかった。

本建物の正確は特定できなかったが、その規模と構造から副屋の可能性が考慮される。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物は中世的な梁間1間の建物であるが、時期特定には至らなかった。

**規模 範囲** 531×831cm

建物規模 485×782cm

身屋 383×782cm

梁間 179～192cm (平均 193.00cm)

桁間 159～217cm (平均 155.78cm)

柱穴 表20 (7号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

下屋幅 80～96cm (平均 85.75cm)

**構造** 本建物は棟方向をE-S4°を向く2×4間以上の掘立柱建物である。北辺に下屋を持つが、その幅は狭い。南西角の柱穴は、Ⅲ区7号井戸と重複するため確認できなかった。東1間で間仕切りが設けられるが、一方この部分が側柱で、その東1間が庇の可能性もある。柱筋の通りは良い。

柱穴の規模は径30cm以下と小さいものが多い。プランは柱穴8の南側のものが方形、柱穴3・5・11・12・14・15は隅丸方形、柱穴7は長方形、柱穴13は隅丸長方形、柱穴4・6は円形、柱穴2・10と柱穴8の北側のものが楕円形、柱穴1は隅丸三角形を呈する。底面形態は柱穴2・6・7・8・12・13が平底、柱穴1が尖底を呈し、他の柱穴は丸底を呈している。

### (2-11) Ⅲ区8号掘立柱建物

(第99図、P L28・70)

**概要** 本建物は屋敷南西部に位置する。

本建物はⅢ区3・4・25・27号土坑やⅢ区120・122号ピット等ピット群と重複関係にあるが、新旧関係は特定できなかった。

本建物はその構造から副屋の可能性を有するが、建物の建設目的は特定できなかった。

**遺物** 本掘立柱建物に於いては、柱穴10から戸沢石製の砥石(258)、柱穴8からこも編み石の欠損品の出土が得られた。

**時期** 本建物の柱穴の規模は中世的であるが、時期の特定には至らなかった。

**規模 範囲** 273×766cm

建物規模 522×733cm

梁間 168～213cm (平均 179.42cm)

桁間 152～204cm (平均 180.08cm)

柱穴 表21 (8号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向をE-S8°を向く3×4間で西2間は総柱構造となる掘立柱建物である。北東角に当たる柱穴15東の柱穴は、確認作業を行ったが発見できなかった。南辺柱穴5・6間の柱穴と東辺柱穴4・5間の柱穴は、発掘調査時の湧水対策工事により消滅した可能性があり、柱穴2・3間の柱穴は、Ⅲ区3号土坑と重複して確認できなかった。柱間は桁側・梁側ともにほぼ等しく、側柱の柱筋の通りは良い。

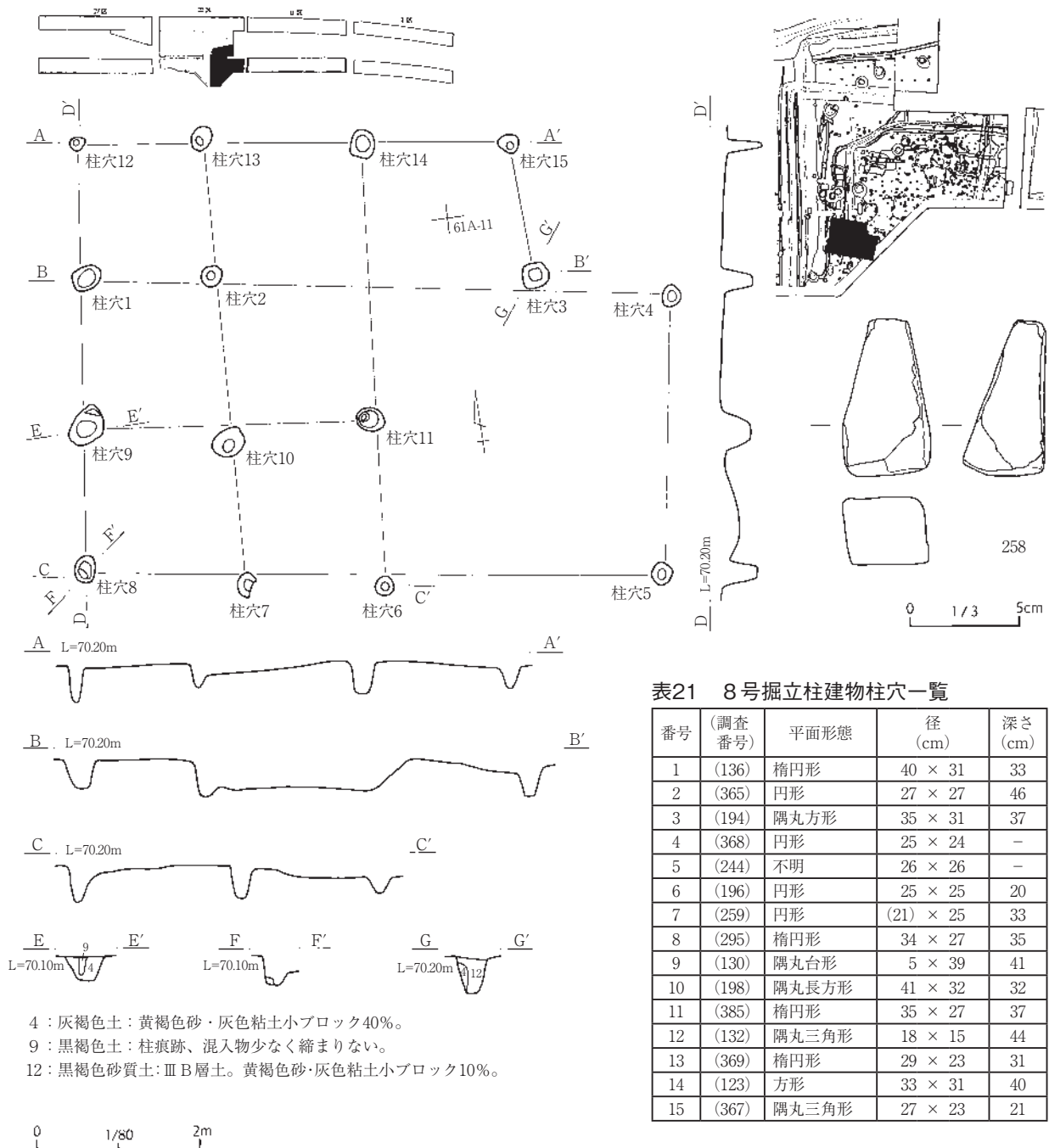
柱穴の規模は径35cmを下回るものが多く含まれる。プランは柱穴14は方形、柱穴3は隅丸方形、柱穴10は隅丸長方形、柱穴9は隅丸台形、柱穴12・15は隅丸三角形、柱穴2・4・6・7は円形、柱穴1・8・11・13は楕円形を呈する。底面形態は柱穴3・8が平底、柱穴12が尖底を呈する以外は丸底であった。根石は見られなかった。

また柱痕は顕著なものがあり、P9の土層断面で確認できたが幅8cm程を測った。

### (2-12) Ⅲ区9号掘立柱建物 (第100図、P L70)

**概要** 本建物は屋敷中東部に位置する。

本建物はⅢ区1・2・5・10・13・16・18・19・20・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区17・38号溝、Ⅲ区12・17・24・30号土坑やⅢ区151号ピット等のピット群と重複関係にあるが、何れの遺構に対しても新旧関係は特定できなかった。



第99図 Ⅲ区8号掘立柱建物と出土遺物

本建物の使用目的は特定できなかったが、その規模、構造から推して付属屋と見られる。

**遺物** 本掘立柱建物にあっては柱穴9から焼締陶器鉢(259)の出土が得られた。

**時期** 本建物は典型的な中世型の梁間一間型建物であるが、明確な時期特定には至らなかった。

**規模 範囲** 420×870cm

建物規模 420×870cm

梁間 195~228cm (平均 211.50cm)

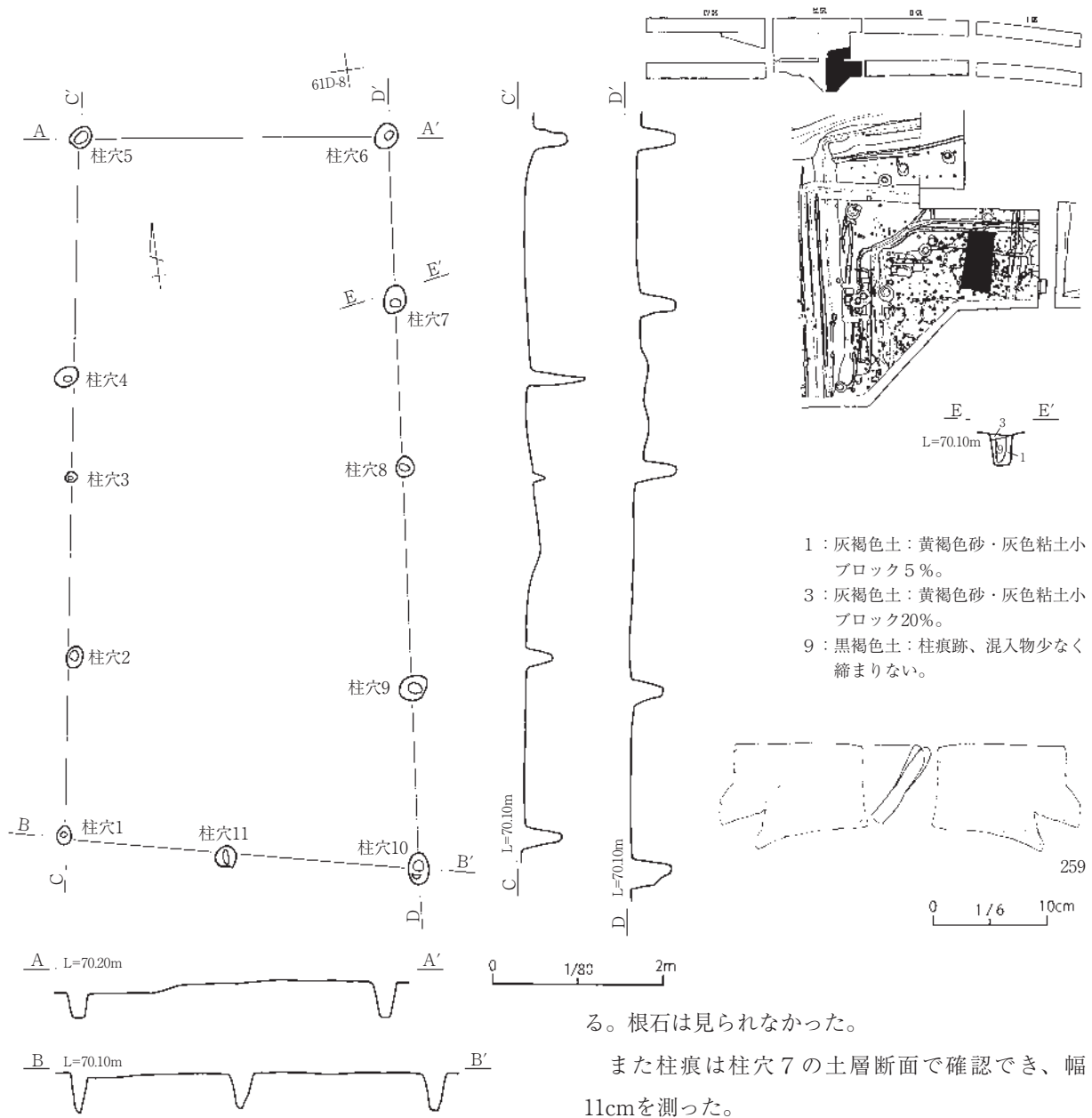
桁間 119~285cm (平均 211.63cm)

柱穴 表22 (9号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向がN-E 7°を向く、2m基準に基づくと見る2×4間の掘立柱建物である。北辺の棟持柱は再度の確認作業でも発見できなかった。

全体に柱筋の通りは良いが、東辺と西辺が平行でなく、南に開くハの字形をなしている。柱穴4は南

II 調査の記録



第100図 Ⅲ区9号掘立柱建物と出土遺物

に寄り、柱穴3との柱間が狭くなっているため、開口部の可能性がある。

柱穴は径30cm以下のものが多く見られた。プランは柱穴8・11が円形であり、他の柱穴は楕円形を呈する。底面形態は柱穴1・4・3・11が尖底を呈する以外は丸底であ

表22 9号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(455)	楕円形	23 × 19	51
2	(86)	楕円形	25 × 20	32
3	(252)	楕円形	15 × 12	10
3	(307)	楕円形	34 × 31	40
4	(225)	楕円形	29 × 22	64
5	(278)	楕円形	26 × 23	27
6	(253)	楕円形	31 × 27	46
7	(50A)	楕円形	65 × 35	48
8	(291)	円形	25 × 23	35
10	(15)	楕円形	35 × 35	46
11	(29)	円形	30 × 27	39

る。根石は見られなかった。

また柱痕は柱穴7の土層断面で確認でき、幅11cmを測った。

(2-13) Ⅲ区10号掘立柱建物

(第101図、P L31)

**概要** 本建物は屋敷東端近くに位置する。南側は調査区外に出ているものと見られる。

本建物はⅢ区6・9・16・18・19・20・22号掘立柱建物やⅢ区20・37号溝、Ⅲ区227号ピット等と重複するが、新旧は特定できなかった。

**遺物** 本建物からの出土遺物は得られなかった。  
**時期** 使用間尺と柱穴は中世的であるが、その時期を特定することはできなかった。  
**規模** 範囲 390×681cm  
 建物規模 360×656cm  
**梁間** 174～185cm (平均 179.67cm)  
**桁間** 202～228cm (平均 214.00cm)  
**柱穴** 表23 (10号掘立柱建物柱穴一覧) 参照  
**構造** 上述のように本建物はその南側 (南東角) が調査区外に在るため断定はできないが、本建物は棟方向がE-S8°を向く、2m基準に基づ2×3間の掘立柱建物と見られる。東半分の間柱が、発掘調査時の湧水対策工事で減した可能性があり、総柱構造になると

想定される。側柱の柱筋の通りは良い。  
 柱穴は径30cmを下回るものが殆どで、プランは柱穴7が方形、柱穴6が隅丸方形、柱穴3が円形、柱穴4が滴形を呈する。底面形態は柱穴4・7が平底で、柱穴2・6が尖底、柱穴1・3が丸底を呈する。根石は見られない。

(2-14) Ⅲ区11号掘立柱建物 (第102図)

**概要** 本建物は屋敷北部西側に位置する。  
 Ⅲ区8号井戸と周堀であるⅢ区12号溝と重複するが、新旧は特定できなかった。

本建物の使用目的は特定できなかったが、その規模から推して付属屋と見られる。  
**遺物** 本建物からの出土遺物は確認できなかった。  
**時期** 本建物は調整的要素を持つが、細かい時期特定には至らなかった。

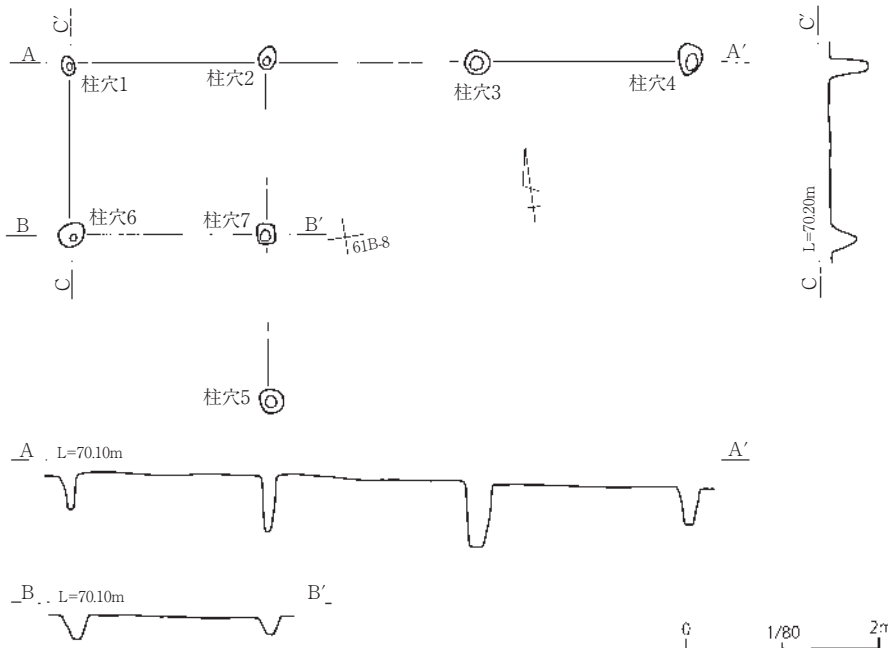
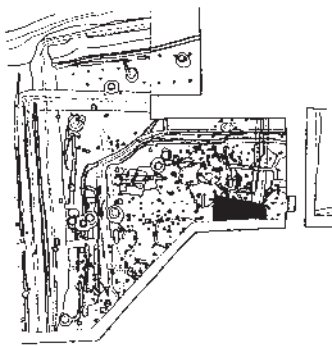
**規模** 範囲 500×598cm  
 建物規模 320×571cm  
**梁間** 317～320cm (平均 318.50cm)  
**桁間** 183～194cm (平均 190.75cm)

**柱穴** 表24 (11号掘立柱建物柱穴一覧) 参照  
**構造** 本建物は、棟方向をE-N5°に向ける、1×3間の掘立柱建物である。南辺の柱穴6の西側は、12号溝との重複により確認できなかった。尚、側柱の柱筋の通りは良い。

柱穴は須らく径30cmを下回る。プランは柱穴1が方形、柱穴2・3・5・6が

表23 10号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1			16 × 14	34
2	(312)	楕円形	26 × 18	55
3	(345)	円形	28 × 26	7
4	(72)	滴形	32 × 25	39
5	(240)	不明	26 × 53	-
6	(83)	隅丸方形	33 × 28	27
7	(16)	方形	24 × 24	20



第101図 Ⅲ区10号掘立柱建物

II 調査の記録

隅丸方形、柱穴4が円形を呈する。底面形態は柱穴4・5が平底、柱穴2・3が尖底、他が丸底を呈する。尚、根石は見られない。

は平底であった。根石は見られなかった。

柱痕は顕著で、柱穴2・6の土層断面で確認でき、それぞれ幅11cm、8cmを測った。

(2-15) Ⅲ区12号掘立柱建物

(第103図、P L29)

**概要** 本建物は屋敷北部東側に位置する。東側が調査区端に近いので、東に延伸する可能性を有する。

本建物はⅢ区102・103号溝、Ⅲ区14号井戸と重複するが、新旧を特定することはできなかった。

使用目的は不明だが、規模から付属屋と見られる。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物も中世に一般的な梁間一間型の掘立柱建物であるが、時期特定には至らなかった。

**規模 範囲** 381×606cm

**建物規模** 350×575cm

**梁間** 332～350cm  
(平均 339.50cm)

**桁間** 180～194cm  
(平均 188.67cm)

**柱穴** 表25 (12号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 上述のように東側に延伸する可能性を持つが、棟方向をE0°を向ける、2m基準の範疇に含まれる1×3間の掘立柱建物と認識される。側柱の柱筋の通りは良い。

柱穴は径35cmを下回る中世的規模のものが多い。プランは柱穴2が隅丸方形、柱穴3・8が隅丸長方形、柱穴4・5が隅丸台形、柱穴1が楕円形、柱穴7は円形を呈し、中央芯の部分は方形を呈する。底面形態は柱穴6・7が尖底、柱穴4・7が丸底を呈する以外

(2-16) Ⅲ区13号掘立柱建物

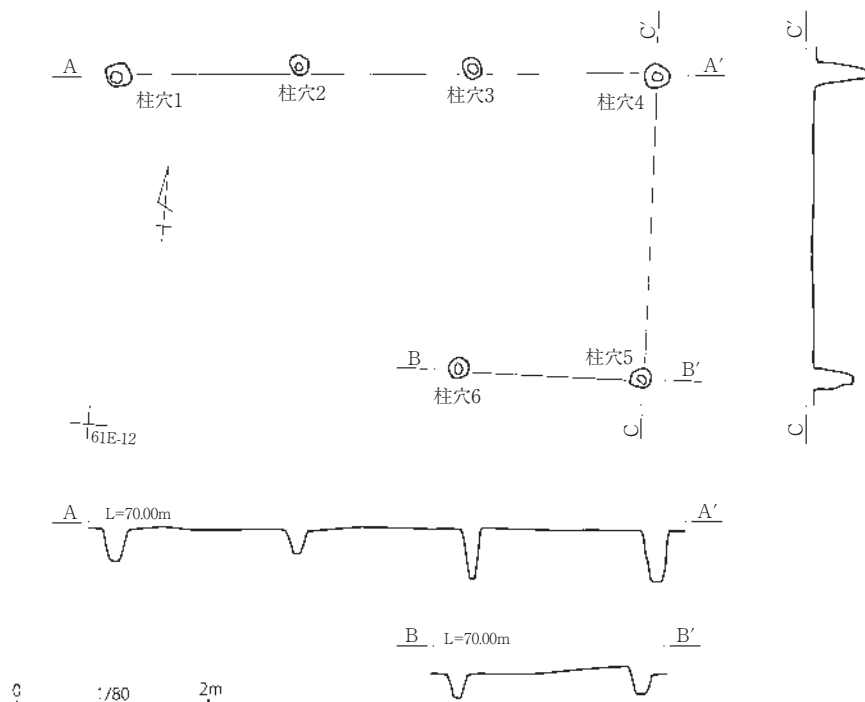
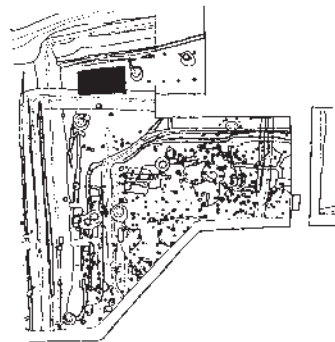
(第104図、P L31)

**概要** 本建物は屋敷中部東寄りに位置している。

本建物はⅢ区1・2・3・5・9・16・18・20・21・22号掘立柱建物、Ⅲ区2号竪穴、Ⅲ区17・38号溝、Ⅲ区24・30号土坑、Ⅲ区53号ピット等の重複関係にあるが、このうちⅢ区1号掘立柱建物よりは後出で、2号竪穴より古いことは確認できたが、他の

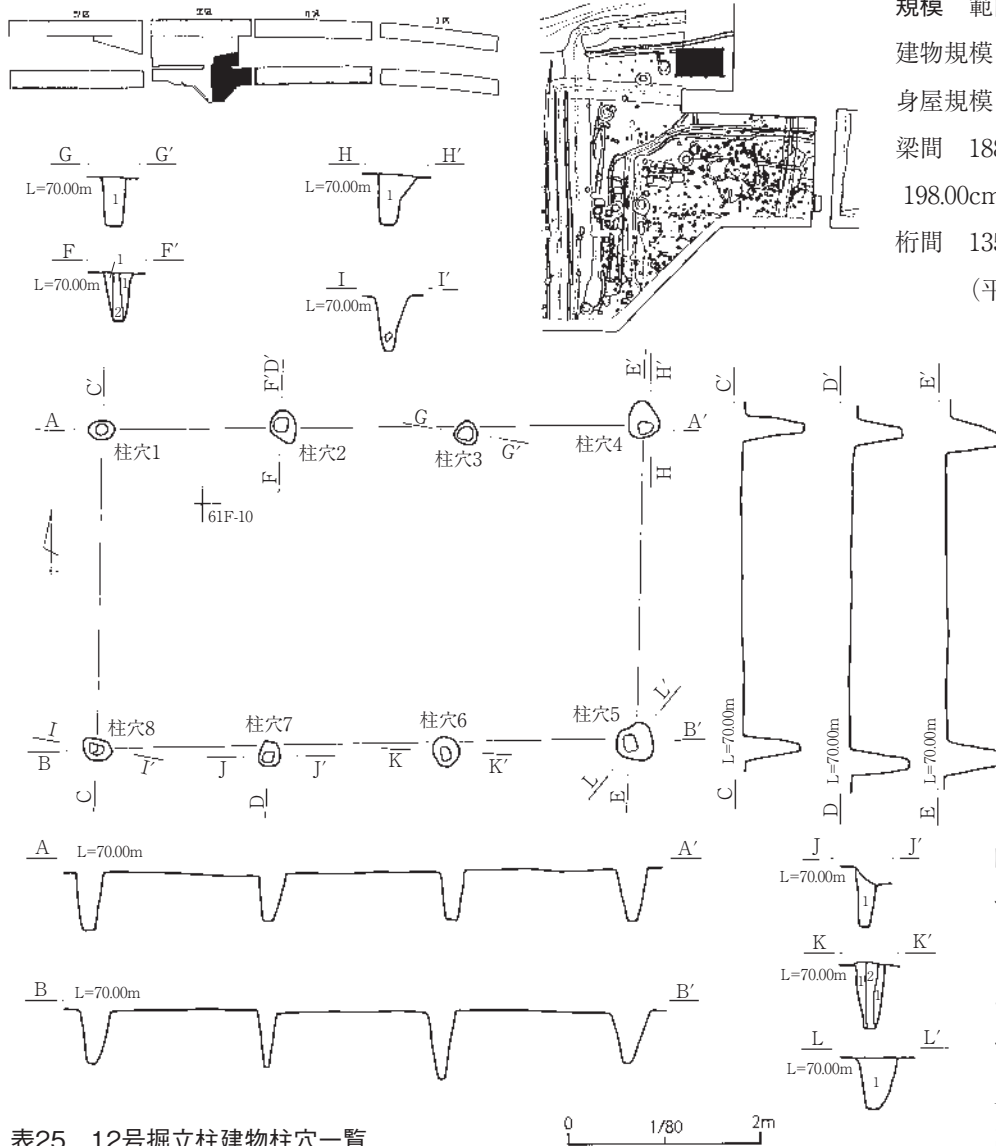
表24 11号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(243)	方形	24 × 23	34
2	(248)	隅丸方形	21 × 22	27
3	(249)	隅丸方形	24 × 21	13
4	(129)	円形	3 × 27	54
5	(164)	隅丸方形	23 × 23	44
6	(163)	隅丸方形	23 × 21	53



第102図 Ⅲ区11号掘立柱建物





規模 範囲 510×691cm  
 建物規模 488×665cm  
 身屋規模 415×665cm  
 梁間 188~194cm (平均 198.00cm)  
 桁間 135~285cm (平均 213.75cm)

下屋幅 55  
 ~79cm  
 (平均 72.25cm)

柱穴 表26  
 (13号掘立柱建物柱穴一覽) 参照

構造 本建物は棟方向をE-S4°を

向く、2m基準に基づくと見られる2×3間の掘立柱建物である。北に下屋を持つ。東辺の間柱は発見できず、東から1間目に間仕切りを設ける。側柱の柱筋の通りは良いが、南辺と北辺・下屋が平行でなく、西に開くハの字形をなす。西辺の柱筋の通りは良くない。柱穴7は

表25 12号掘立柱建物柱穴一覽

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(441)	楕円形	25 × 21	61
2	(504)	隅丸方形	31 × 27	57
3	(505)	隅丸長方形	25 × 23	57
4	(506)	隅丸台形	38 × 34	59
5	(507)	隅丸台形	41 × 38	59
6	(509)	楕円形	32 × 29	74
7	(508)	円形(芯方形)	28 × 23	63
8	(440)	隅丸長方形	33 × 26	55

- 1: 灰黄褐色砂質土(10YR5/2): As-B混入。3~5mm大の褐色土均一に少量含む。明黄褐色土ブロック所々に含む。  
 2: 褐灰色砂質土(10YR6/1): As-B混入。2~3mmの白色軽石微量に含む。軟らかく崩れ易い。

第103図 Ⅲ区12号掘立柱建物

遺構との新旧関係は特定できなかった。

本建物の使用目的は不明であるが、その構造から推して副屋の可能性を有する。

遺物 本建物からの出土遺物は確認できなかった。

時期 本建物は梁間一間型の建物の一つと見られるが、時期特定には至らなかった。

東に寄り、柱穴6との柱間が狭くなっており、開口部の可能性がある。

柱穴の規模は径35cmを下回るものが多く含まれる。プランは柱穴6が長方形、柱穴1が隅丸三角形、柱穴11が隅丸方形、柱穴12も楕円形と見られ、柱穴8が円形、柱穴2・3・9・10・13・14が楕円形、柱穴5が滴形を呈する。底面形態は柱穴1が平底、

II 調査の記録

柱穴3・5・14が尖底、他が丸底である。尚、柱穴8の底面には掘削が不足したものか、塑性変形と見られる段差を伴い、柱穴13の底面形態は確認することができなかった。根石は見られなかった。

柱痕は柱穴8の土層断面で確認でき、幅12cmを測った。

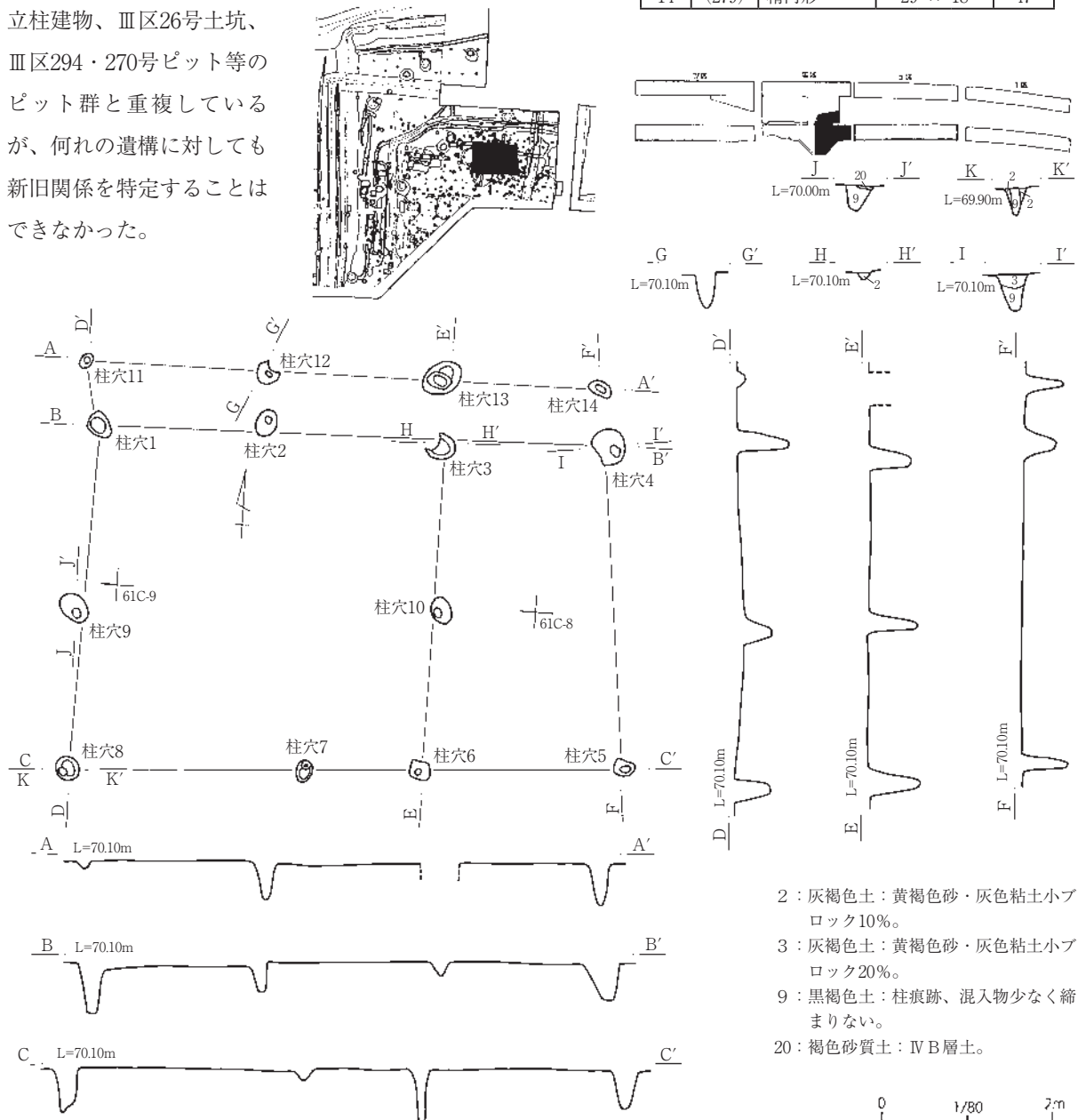
(2-17) Ⅲ区14号掘立柱建物 (第105図)

概要 本建物は屋敷西部のやや南寄りに位置する。

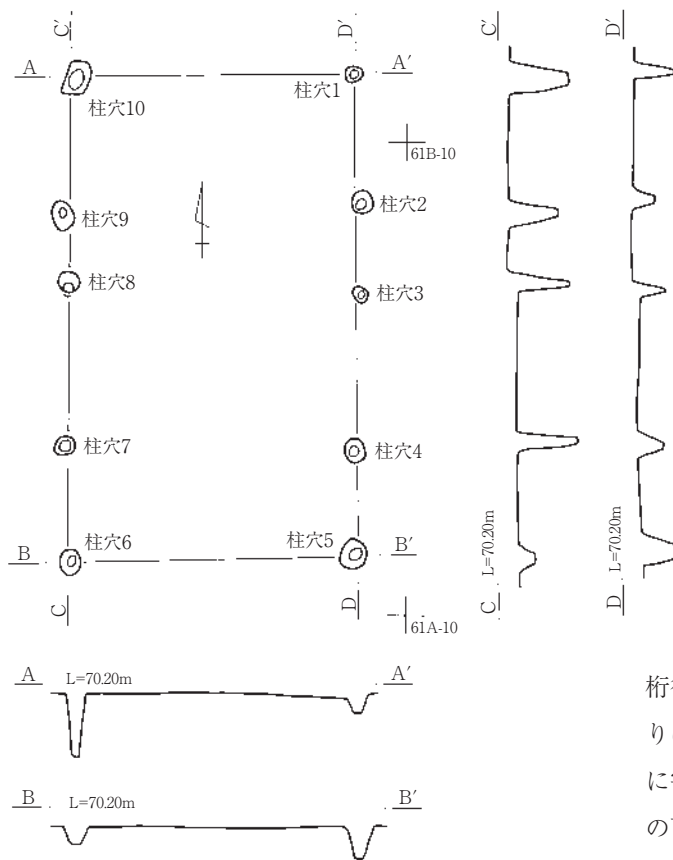
本建物はⅢ区7・15号掘立柱建物、Ⅲ区26号土坑、Ⅲ区294・270号ピット等のピット群と重複しているが、何れの遺構に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

表26 13号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1		隅丸三角形	31 × 28	64
2	(290)	楕円形	31 × 28	31
3	(54)	楕円形	(21) × 29	18
4	(85A)	楕円形	46 × (40)	48
5	(456A)	滴形	25 × 20	58
6	(258)	長方形	25 × 20	65
7	(315)	隅丸長方形	26 × 22	15
8	(412A)	円形	30 × 28	61
9	(349)	楕円形	39 × 29	34
10	(339)	楕円形	32 × 25	61
11	(143)	隅丸方形	16 × 15	9
12		隅丸方形か	29 × (18)	45か
13	(325)	楕円形	47 × 40	-
14	(279)	楕円形	29 × 18	47



第104図 Ⅲ区13号掘立柱建物



第105図 Ⅲ区14号掘立柱建物

本建物の建設目的は確認できなかったのであるが、その規模に照らして付属屋と認識される。

**遺物** 本建物からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物は中世に一般的な梁間一間型の建物ではあるものの、時期の特定には至らなかった。

**規模** 範囲 358×694cm

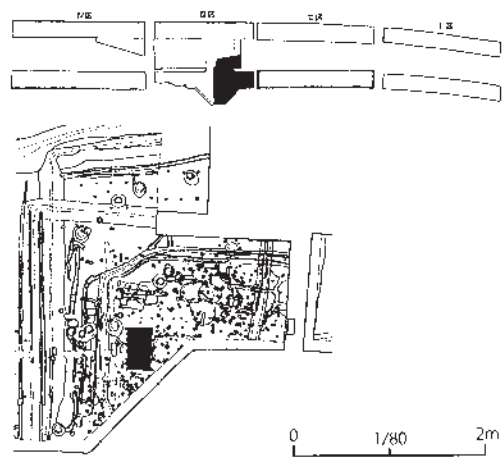
建物規模 260×661cm

梁間 293～345cm (平均 310.40cm)

桁間 83～164cm (平均 127.00cm)

表27 14号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(108)	楕円形	18 × 16	43
2	(267)	円形	25 × 25	23
3	(395)	楕円形	19 × 15	25
4	(128)	円形	25 × 23	27
5	(100)	隅丸方形	31 × 29	34
6	(185)	隅丸方形	27 × 22	15
7	(390)	方形	21 × 19	62
8	(393)	隅丸方形	24 × 21	27
9	(380)	楕円形	31 × 26	53
10	(381A)	方形	37 × 26	65



柱穴 表27(14号掘立柱建物柱穴一覧)参照  
**構造** 本建物は棟方向をN0°に向ける1×4間の梁間一間型の掘立柱建物である。

桁行柱間はばらつきが多く、狭い。側柱の柱筋の通りはほぼ良いが、西辺はやや良くない。柱穴8は北に寄り、柱穴9との柱間が狭くなっており、開口部の可能性がある。

柱穴の規模は中世に一般的な径35cmを下回るものが多く含まれている。プランは柱穴7・10は方形、柱穴5・6・8は隅丸方形、柱穴2・4は円形、柱穴1・3・9は楕円形を呈する。底面形態は柱穴2・5・6・7・9・10が平底、柱穴1・3・4・8が尖底呈するものであった。尚、根石を確認することはできなかった。

(2-18) Ⅲ区15号掘立柱建物

(第106図、P L 32)

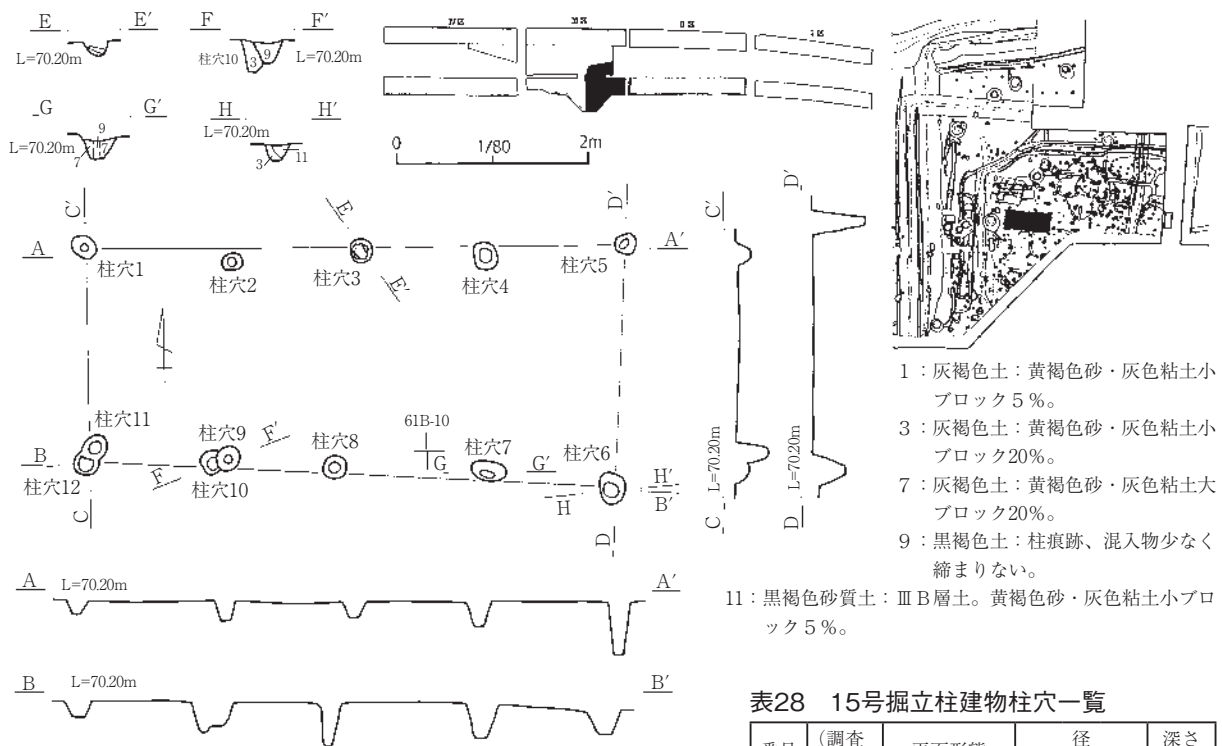
**概要** 本建物は屋敷西部に位置する。

本建物はⅢ区3・7・14号掘立柱建物、Ⅲ区26号土坑、Ⅲ区109・373号ピット等との重複関係にあったが、何れの遺構に対しても新旧を特定することはできなかった。

また南西の2箇所の柱穴(柱穴9・10、柱穴11・12)が重複関係にあるため、建て直しの行われた可能性が考慮される。

建設意図は不明であるが、その規模から推して付属屋と見られる。

## II 調査の記録



第106図 III区15号掘立柱建物

**遺物** 本建物からの出土遺物は確認できなかった。

**時期** 本建物も中世型の梁間一間型のものではあるものの、時期特定には至らなかった。

**規模** 範囲 288×571cm

建物規模 260×570cm

梁間 209～260cm (平均 232.20cm)

桁間 113～162cm (平均 137.90cm)

柱穴 表28 (15号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物E-S4°に棟方向を向ける、2.4m基準に基づくと見られる1×4間の梁間一間型の掘立柱建物である。桁行柱間は狭く、側柱の柱筋の通りはほぼ良いが、東辺柱穴5が北に、柱穴6が南にずれている。

柱穴規模は中世的な径30cmを下回るものが殆どであった。柱穴のプランは柱穴3が方形、柱穴1・6が隅丸方形、柱穴5が隅丸三角形、柱穴2・8～12が円形、柱穴7が長円形を呈している。底面形態は柱穴7・11が丸底、柱穴10が尖底を呈する以外は平底であり、根石が柱穴3で認められた。

また柱穴7の土層断面で幅8cmを測る柱痕が確認された。

表28 15号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(353)	隅丸方形	28 × 23	12
2	(111)	円形	23 × 18	23
3	(347)	隅丸方形	27 × 26	17
4	(356)	方形	26 × 27	28
5	(92B)	隅丸三角形	23 × 22	58
6	(88)	隅丸方形	33 × 23	37
7	(豎P1)	長円形	35 × 13	24
8	(105)	円形	26 × 26	52
9	(106)	円形	26 × 26	28
10	(17)	円形	25 × (17)	34
11	(274)	円形	30 × 26	35
12	(268)	円形	(17) × 28	15

## (2-19) III区16号掘立柱建物

(第107図、P L 32)

**概要** 本建物は屋敷中東部に位置している。

本建物はIII区1～3・5・9・16・18・20・21・22号掘立柱建物、III区3号豎穴、III区17・38号溝、III区12・24・30号土坑、III区60号等のピットの各遺構と重複関係にあった。このうち本建物はIII区1号掘立柱建物より新しいことを確認したものの、他の遺構については新旧関係を特定することはできなかった。

本建物もその規模から付属屋と認識される。

**遺物** 本建物からの出土遺物は確認できなかった。

**時期** 本建物も中世に一般的な梁間一間型の建物であるが、時期の特定には至らなかった。

規模 範囲 464×677cm

建物規模 429×638cm

梁間 379~429cm (平均 404.00cm)

桁間 182~254cm (平均 210.50cm)

柱穴 表29 (16号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向をN-E 5°に向ける、2.0m規模に基づく1×3間の梁間一間型の掘立柱建物である。桁行柱間はばらつきが多く、側柱の柱筋の通りはやや悪い。東辺と西辺は平行でなく、南に開くハの字形を成す。

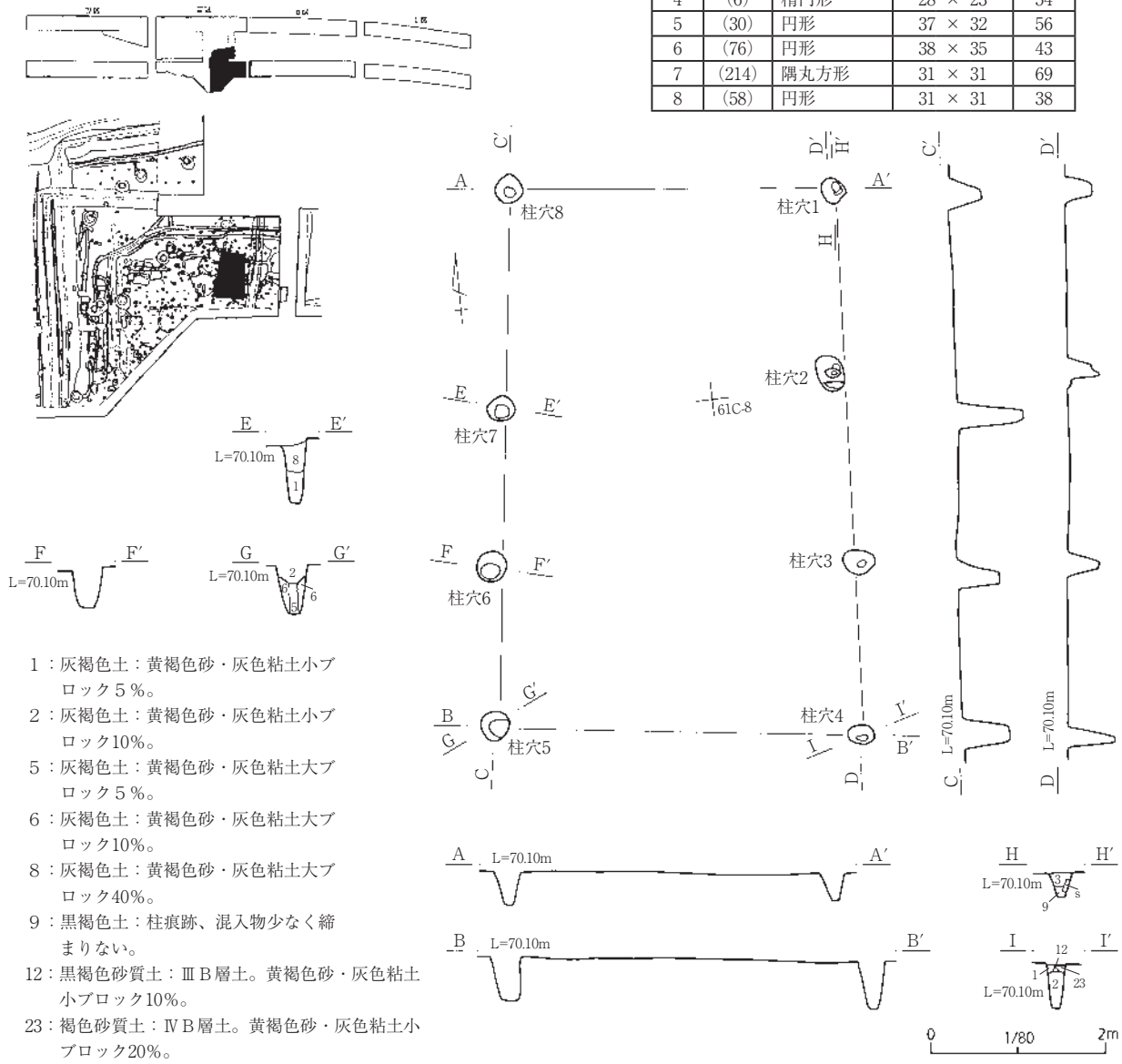
柱穴の規模は径30~40cmで均整がとれている。プ

ランは柱穴1・7が隅丸方形、柱穴2が隅丸長方形、柱穴3・5・6・8が円形、柱穴4が楕円形を呈している。底面形態は柱穴3・8が丸底、柱穴2・4が尖底を呈する以外は平底である。根石が柱穴6で認められた。

また柱痕は顕著なものがあり、柱穴5の土層断面で確認できた。柱痕は土層断面で幅9cmを測る。

表29 16号掘立柱建物柱穴一覧

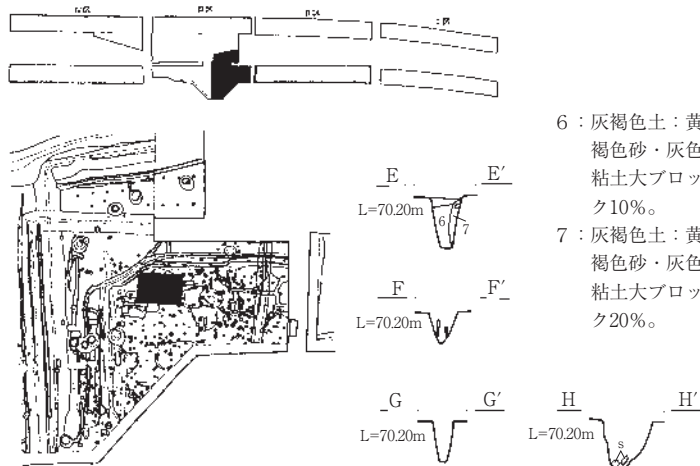
番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(263)	隅丸方形	27 × 24	31
2	(45)	隅丸長方形	41 × 33	37
3	(10)	円形	35 × 31	40
4	(6)	楕円形	28 × 23	54
5	(30)	円形	37 × 32	56
6	(76)	円形	38 × 35	43
7	(214)	隅丸方形	31 × 31	69
8	(58)	円形	31 × 31	38



- 1: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 2: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 5: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック5%。
- 6: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。
- 8: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。
- 9: 黒褐色土: 柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 12: 黒褐色砂質土: III B層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 23: 褐色砂質土: IV B層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック20%。

第107図 III区16号掘立柱建物

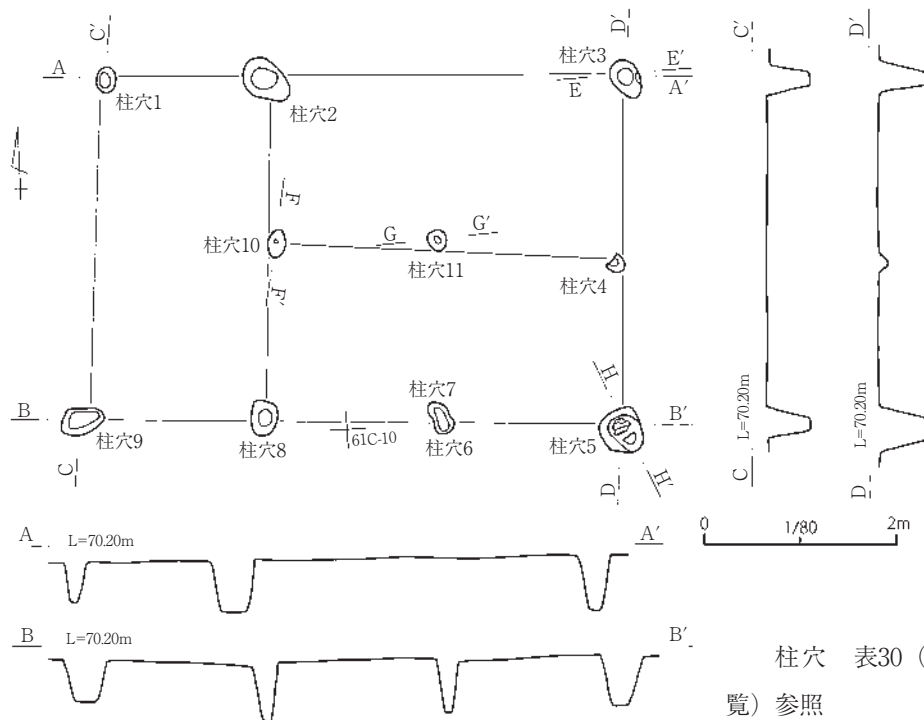
II 調査の記録



6：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。  
7：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック20%。

表30 17号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(434)	隅丸長方形	26 × 20	18
2	(293)	滴形	54 × 43	59
3	(147)	滴形	40 × 31	57
4	(144)	隅丸長方形	(15) × 18	10
5	(93)	隅丸方形	53 × 51	53
6	(426)	瓢箪形	(34) × 21	56
7	(487)	隅丸方形	(34) × 21	56
8	(234)	隅丸方形	37 × 28	59
9	(423)	隅丸長方形	47 × 27	28
10	(378)	楕円形	27 × 18	-
11	(230)	円形	23 × 23	44



第108図 Ⅲ区17号掘立柱建物

時期 本建物は形態等から中世の所産と認識されるものの、細かい時期の特定には至らなかった。

規模 範囲 399 × 603cm

建物規模 366 × 576cm

梁間 171~194cm (平均 182.71cm)

桁間 168~199cm (平均 185.25cm)

柱穴 表30 (17号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

構造 本建物はE-S 4°に棟方向を向ける 2 × 3 間の掘立柱建物であるが、東 2 間は総

(2-20) Ⅲ区17号掘立柱建物 (第108図、P L32)

概要 本建物は屋敷西部に位置している。

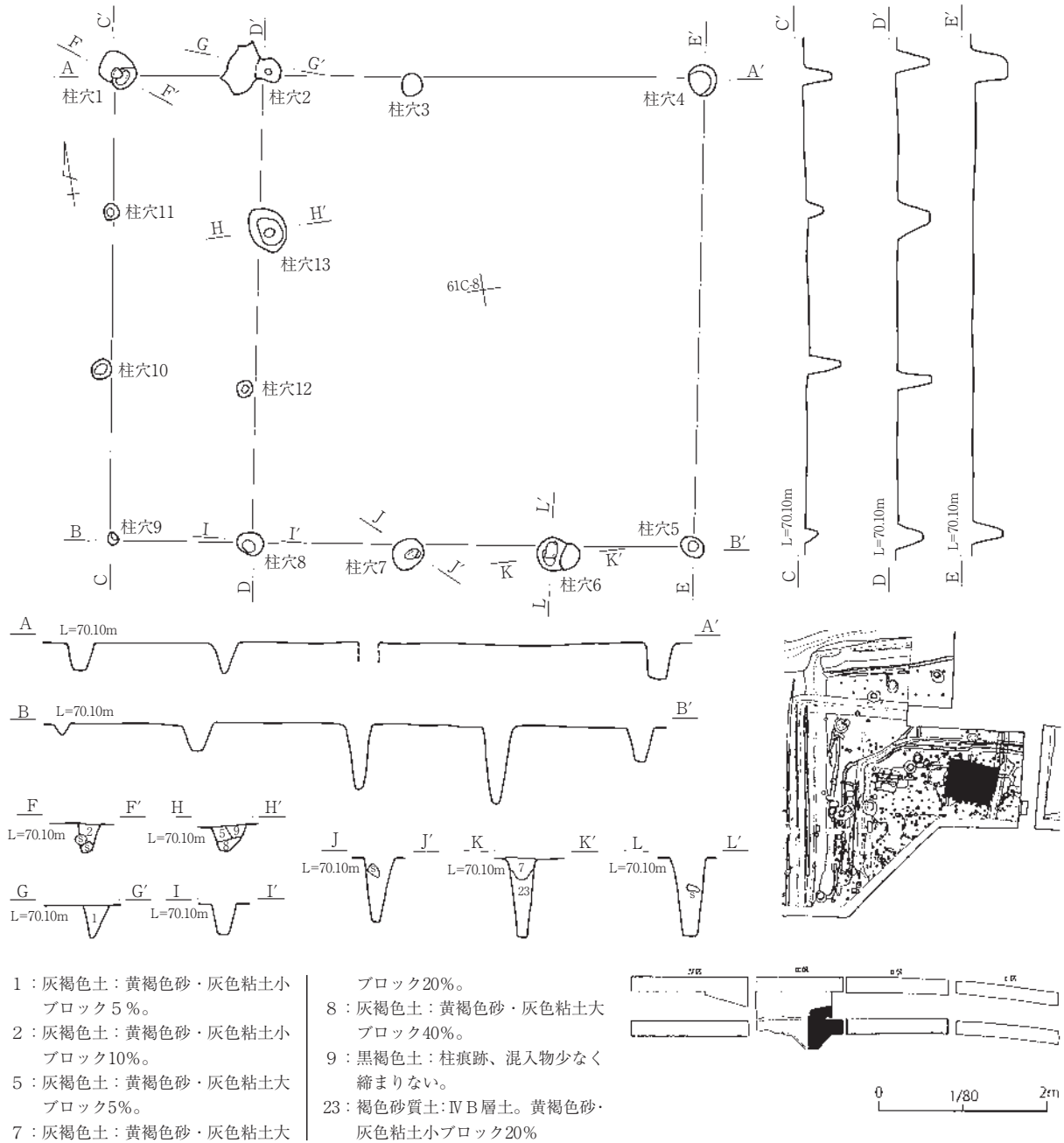
本建物はⅢ区 1~5・7号掘立柱建物、Ⅲ区 2・4・5号竪穴、Ⅲ区 5・12号井戸、Ⅲ区 22・23号土坑、Ⅲ区 152号ピット等と重複関係にある。このうち本建物は 2号竪穴より古いことを確認したものの、他の遺構との新旧は特定できなかった。

本建物は規模に照らして付属屋と認識されるものであるが、使用目的は特定できなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

柱構造を見せる。西辺の間柱は確認に努めたが発見できなかった。また北辺の柱穴 2・3の間は、12号井戸と重複しており、この間の柱穴は消滅した可能性が考慮される。柱間は桁側・梁側ともにほぼ同一で、側柱・間柱とも柱筋の通りは良好であった。尚、柱穴の規模から判断して、柱穴 2・3・5・8を隅柱と考えれば、西辺の柱穴 1と柱穴 9は庇と見なすことができる。

柱穴の規模は大小 2 種類に大別され、柱穴 2・3・5・9が径 40cmを上回るが、柱穴 9の短径は小さ



- 1：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 2：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 5：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック5%。
- 7：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック20%。
- 8：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。
- 9：黒褐色土：柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 23：褐色砂質土：IV B層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック20%

第109図 Ⅲ区18号掘立柱建物

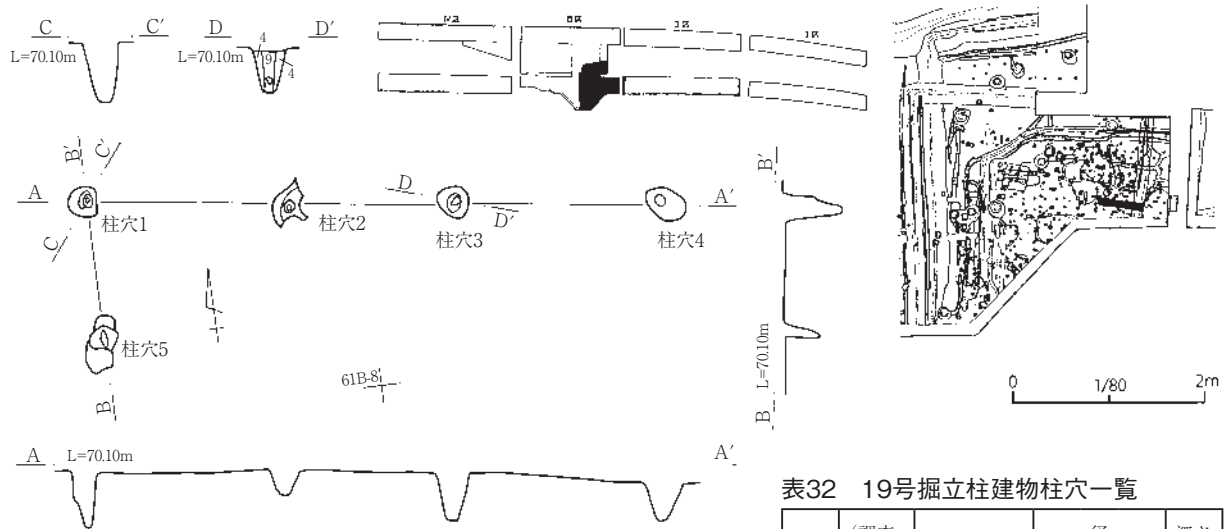
い。他は短径でみると全て径20cm台である。柱穴のプランは柱穴5・7～9は隅丸方形、柱穴1・4は隅丸長方形、柱穴11は円形、柱穴10は楕円形、柱穴2・3は滴形を呈し、柱穴6は2基の柱穴の重複と見られるもので瓢箪形を呈する。底面形態は柱穴3・4が丸底、柱穴8が尖底を呈する他は平底を呈する。根石は柱穴5・6で見られる。

また柱痕は柱穴3で確認できる。柱痕はやや空洞

表31 18号掘立柱建物柱穴一覽

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(71)	隅丸長方形	46 × 39	34
2	(350)	隅丸方形	(36) × 34	-
3	(344)	円形	28 × 25	-
4	(221)	円形	21 × 20	15
5	(308)	楕円形	29 × 23	37
6	(32)	円形	12 × (31)	93
7	(181)	隅丸長方形	43 × 34	79
8	(276)	楕円形	33 × 28	33
9	(251)	円形	17 × 15	18
10	(216)	楕円形	28 × 22	36
11	(211)	円形	36 × 35	43
12	(457)	隅丸方形	20 × 20	40
13	(77)	隅丸方形	36 × 30	39

II 調査の記録



4：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック40%。  
 9：黒褐色土：柱痕跡、混入物少なく締まりない。

第111図 Ⅲ区19号掘立柱建物

表32 19号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(275)	隅丸方形	31 × 28	64
2	(311)	楕円形	50 × 33	28
3	(8)	隅丸長方形	35 × 29	50
4	(201)	隅丸長方形	46 × 29	55
5	(29A)	隅丸方形	27 × 26	45

の状態です。土層断面で幅12cmを測る。

(2-21) Ⅲ区18号掘立柱建物 (第109図、P L 32)

**概要** 本建物は屋敷東部に位置する。

Ⅲ区1～3・5・6・9・10・13・16・19～22号掘立柱建物、Ⅲ区3号竪穴、Ⅲ区17・38・39号溝、Ⅲ区30号土坑、Ⅲ区35号ピット等と重複関係にある。このうち21号掘立柱建物、13号溝よりは新しいことを確認したもの、他の遺構との新旧関係を特定することはできなかった。

本建物は規模から推して副屋の可能性を有する。

**遺物** 本建物から出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物は、屋内柱の省略が見られることから15世紀以降の所産の可能性を有するが、その時期を特定することはできなかった。

**規模 範囲** 624×757cm

**建物規模** 567×699cm

**梁間** 165～203cm (平均 188.25cm)

**桁間** 163～197cm (平均 176.50cm)

**柱穴** 表31 (18号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

**構造** 本建物は棟方向をE-S10°に取る3×4間のものか、或いは3×3間の正方形で西に庇を持つもの

か2つの可能性を有する掘立柱建物である。東辺は13号溝と重複しており、柱穴4と柱穴5の間柱は認識できなかった可能性がある。北辺の柱穴3・4の間柱は確認に努めたものの、検出できなかった。柱間は東西辺が若干狭い。また側柱の柱筋の通りはほぼ良いが、東辺の柱穴4・5が共に北にずれている。

柱穴は長径17～43cmとばらつきがある。プランは柱穴2・12・13が隅丸方形、柱穴1・7が隅丸長方形、柱穴3・4・6・9・11が円形、柱穴5・8・10が楕円形を呈する。底面形態は柱穴6～9・12が丸底、柱穴2・9が尖底を呈し、柱穴3は確認できなかったが、する他の柱穴の底面形は平底を呈する。根石は柱穴1・6で見られる。

(2-22) Ⅲ区19号掘立柱建物

(第111図、P L 32)

**概要** 本建物は屋敷東南部に在る。南側は発掘調査時の湧水施工範囲に在り、失われた可能性が高い。またその南は調査区外となるためどこまで延伸するかは確認できないが、東西棟の可能性が高い。



本建物はⅢ区1～6・9・10・16・18・20・22号掘立柱建物、Ⅲ区202・407号ピット等と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

現況から判断すれば附属舎と認識されるものの、使用目的は特定できなかった。

遺物 柱穴1から板碑らしき石片1点が出土した。

時期 本建物は14世紀以降の所産と見られるものの、時期特定には至らなかった。

かった。

規模 範囲 (153) × 653cm

建物規模 (139) × 363cm

梁間 136cm

桁間 172～218cm (平均 200.67cm)

柱穴 表32 (19号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

構造 本建物は棟方向をE-S8°に取る、2m基準に基づく桁行3間の掘立柱建物である。柱間はばらつきがある。側柱の柱筋の通りはほぼ良いが、西辺柱穴5が東にずれている。

柱穴は径31～50cm。プランは柱穴1・5が隅丸方形、柱穴3・4が隅丸長方形、柱穴2が楕円形を呈する。底面形態は柱穴1・3が平底、柱穴2・4が丸底、柱穴5が尖底である。根石は見られなかった。

柱痕は顕著なものがあり、柱穴3の土層断面で確認できる。断面での柱幅は12cmを測った。

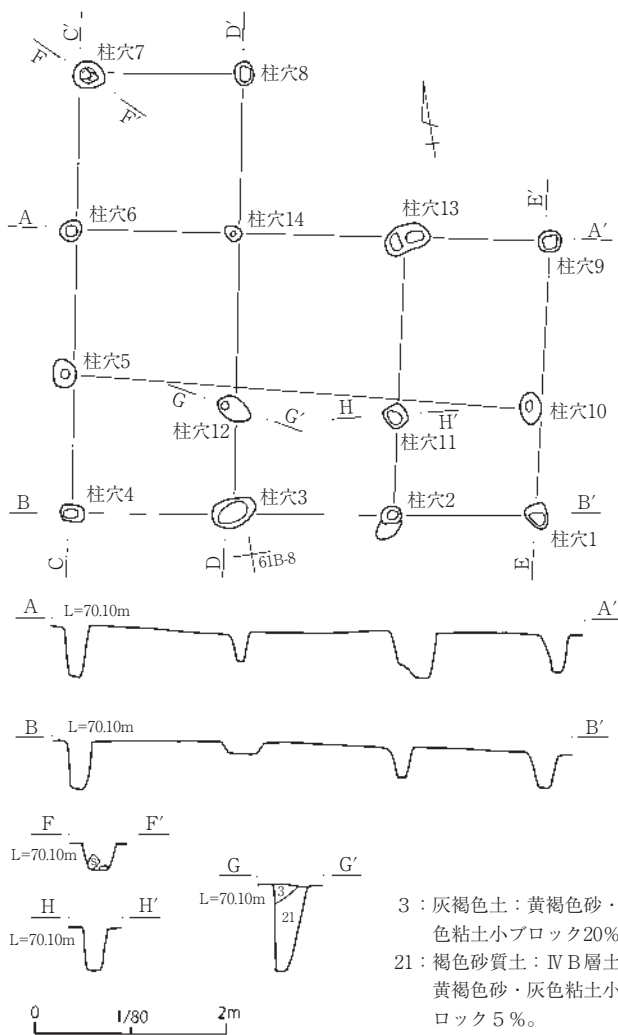
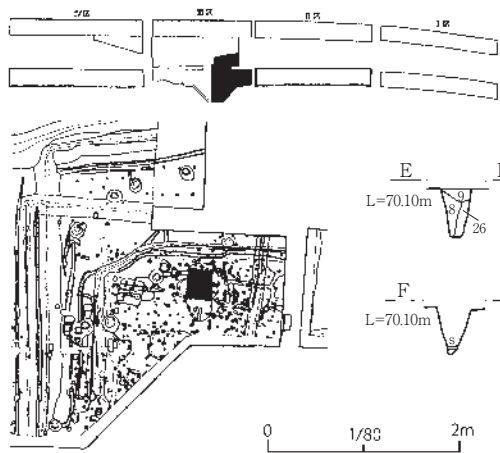


表33 20号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(203)	隅丸三角形	28 × 24	36
2	(309)	隅丸方形	35 × 23	30
3	(316)	楕円形	46 × 31	11
4	(452)	長方形	26 × 20	53
5	(14)	楕円形	31 × 25	86
6	(314)	隅丸長方形	25 × 21	56
7	(306)	円形	33 × 27	24
8	(330)	隅丸方形	24 × 21	23
9	(469)	隅丸方形	24 × 12	39
10	(202)	楕円形	34 × 27	32
11	(407)	方形	25 × 24	43
12	(23)	楕円形	38 × 23	95
13	(208)	隅丸長方形	47 × 27	49
14	(229)	隅丸三角形	17 × 16	35

第112図 Ⅲ区20号掘立柱建物

II 調査の記録



- 8: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。
- 9: 黒褐色土: 柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 26: 褐色砂質土: IV B層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。

表34 21号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(220)	円形	25 × 25	27
2	(357)	隅丸方形	23 × 21	-
3	(319)	楕円形	(25) × 29	-
4	(218)	円形	38 × 31	51
5	(449)	楕円形	(48) × 18	41
6	(446)	隅丸長方形	23 × 19	53
7	(223)	楕円形	58 × 42	29
8	(467)	円形	36 × 33	44

規模 範囲 492×537cm

建物規模 465×508cm

梁間 103~191cm (平均 151.20cm)

桁間 143~191cm (平均 166.30cm)

柱穴 表33 (20号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

構造 本建物はE-S11°に棟方向を取り、北側西部に張り出しを持つ3×2間の掘立柱建物であるが、東部が20・21号溝と重複して確認できなかったことから3×3間の正方形であった可能性も考慮される。柱間は東西・南北ほぼ均質だが、若干東西辺が広い。東西辺・南北辺とも中央1間部分が20cm前後広がっている。

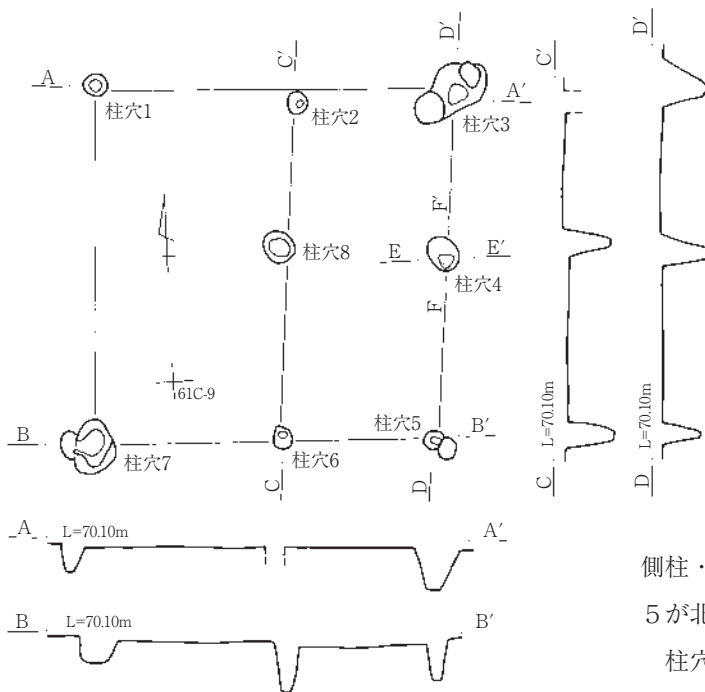
側柱・間柱とも柱筋の通りはほぼ良いが、西辺柱穴5が北西にずれている。

柱穴は径35cm以下のものが多くを占める。プランは柱穴を柱穴4が長方形、柱穴2・8・9が隅丸方形、柱穴6・13が隅丸長方形、柱穴1・14が隅丸三角形、柱穴7が円形、柱穴3・5・12が楕円形を呈する。底面形態は柱穴1~3・9・10が平底、柱穴5・14が尖底で他の柱穴は丸底であった。根石は柱穴7・柱穴8で見られる。

(2-24) Ⅲ区21号掘立柱建物 (第113図)

概要 本建物は屋敷中部やや北寄りに位置する。

Ⅲ区1・2・3・5・9・13・16・18・22号掘立柱建物、Ⅲ区2・3号竪穴、Ⅲ区22号土坑、Ⅲ区252・357号ピット等と重複するが、18号掘立柱建物より古いことを確認しただけで、他の遺構との新旧



第113図 Ⅲ区21号掘立柱建物

(2-23) Ⅲ区20号掘立柱建物 (第112図)

概要 本建物は屋敷東南部に位置する。

本建物はⅢ区1・2・5・6・9・10・13・16・18・19・22号掘立柱建物、Ⅲ区20・21号溝、Ⅲ区12・30号土坑、Ⅲ区202・407号ピット等と重複関係にあるが、何れの遺構に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

構造から推して、副屋の可能性が考慮される。

遺物 本建物からの出土遺物は得られなかった。

時期 総柱建物で柱間が狭いため15世紀以降の可能性も考慮されるが、時期特定には至らなかった。

関係を特定することはできなかった。

建物規模から推して附属屋と認識される。

遺物 本掘立柱建物から出土遺物を得ることはできなかった。

時期 本建物の時期は特定できなかった。

規模 範囲 422×449cm

建物規模 377×382cm

梁間 153～197cm (平均 182.50cm)

桁間 160～216cm (平均 182.80cm)

柱穴 表34 (21号掘立柱建物柱穴一覧) 参照

構造 本建物はE-S5°に棟方向を取る2×2間の正方形の掘立柱建物で、西辺の間柱はないが総柱構造に準ずる。柱間は東西辺・南北辺ともばらつく。側柱の柱筋の通りはほぼ良いが、北辺柱穴2が南東にずれる。

柱穴は長径23～58cmまでばらつきが見られる。径

35cm以下のものが多くを占める。プランは柱穴2が隅丸方形、柱穴6は隅丸長方形、柱穴1・4・8は円形、柱穴3・5・7は楕円形を呈する。底面形態は柱穴1・4・6が平底、柱穴2は不明で他は丸底であった。根石は柱穴4で見られる。

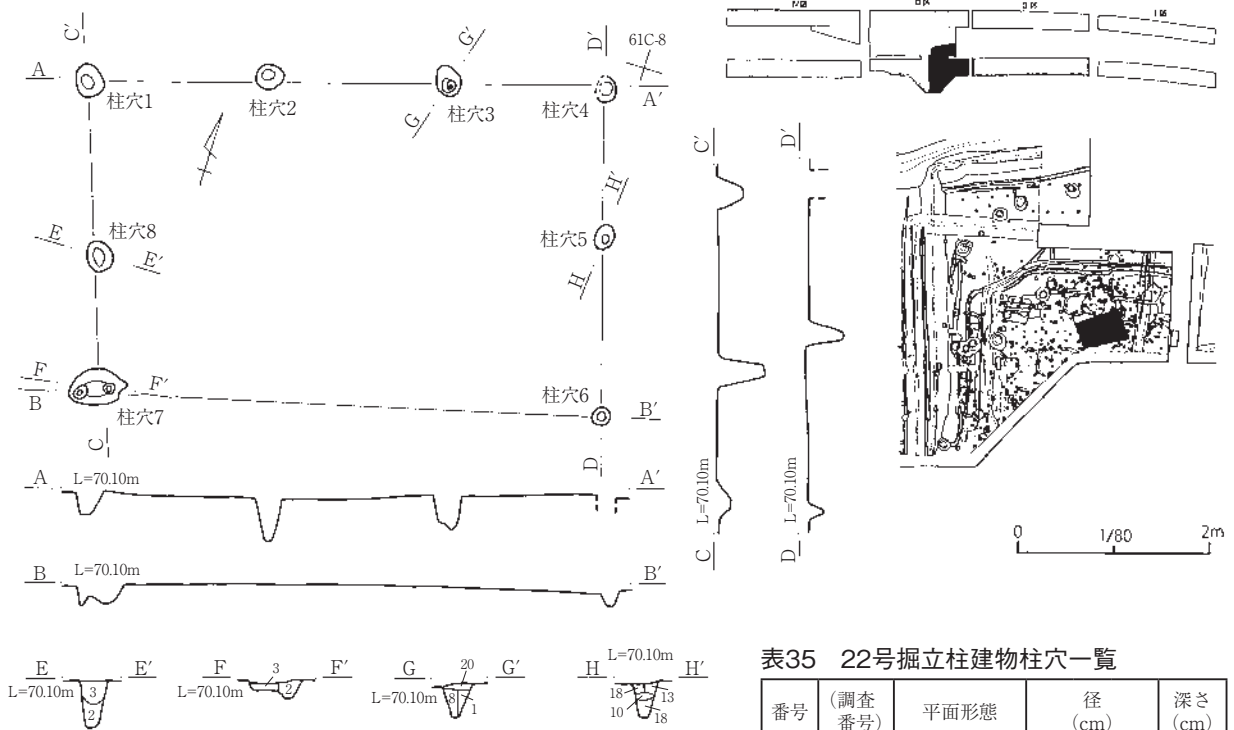
(2-25) Ⅲ区22号掘立柱建物

(第114図、P L32)

概要 本建物は屋敷中部やや南寄りに位置する。

本建物はⅢ区1～3・9・10・13・16・18・19・20・21号掘立柱建物、Ⅲ区12・17号土坑、Ⅲ区23・401号ピット等と重複するが、2号掘立柱建物より古いことを確認しただけで、他の遺構との新旧関係を特定することはできなかった。

本建物もその規模から推して附属屋と認識されるものであった。



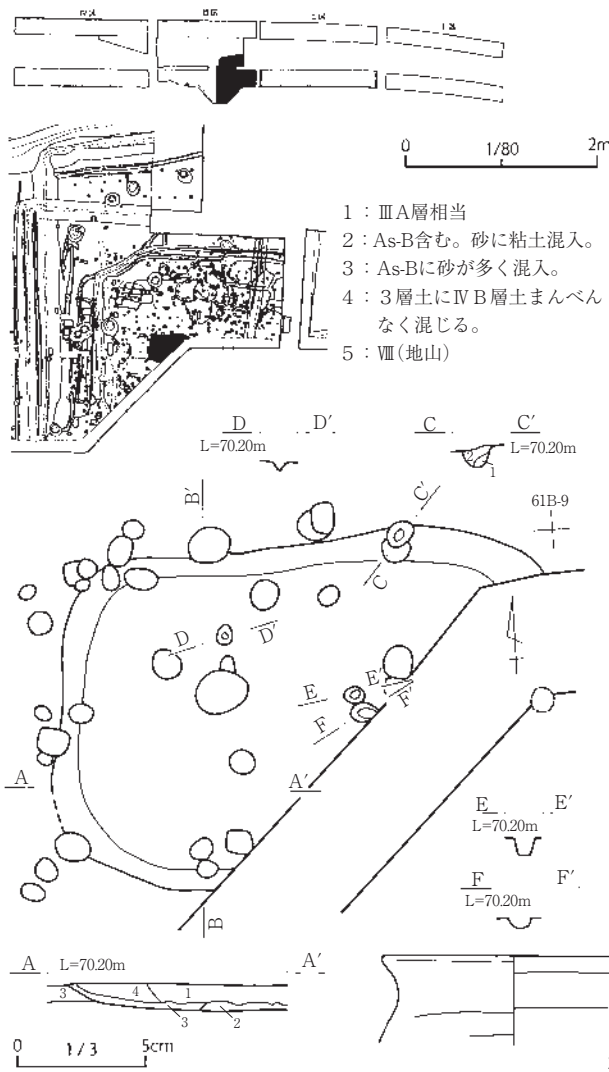
- 1 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。
- 2 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 10%。
- 3 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 20%。
- 8 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 40%。
- 10 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。
- 13 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 20%。
- 18 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 40%。

第114図 Ⅲ区22号掘立柱建物

表35 22号掘立柱建物柱穴一覧

番号	(調査番号)	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	(329)	楕円形	34 × 28	28
2	(409)	隅丸方形	29 × 26	47
3	(55)	楕円形	34 × 28	37
4	(30坑)	隅丸方形	26 × (20)	-
5	(25)	楕円形	27 × 21	41
6	(7)	円形	18 × 16	15
7	(36)	滴形	61 × 39	21
8	(40)	楕円形	33 × 28	50

II 調査の記録



第115図 Ⅲ区1号竪穴と出土遺物

**遺物** 本建物からの出土遺物は得られなかった。  
**時期** 本建物の時期は特定できなかった。  
**規模** 範囲 360×573cm  
 建物規模 347×549cm  
**梁間** 142～188cm (平均 168.50cm)  
**桁間** 170～191cm (平均 179.89cm)  
**柱穴** 表35 (22号掘立柱建物柱穴一覧) 参照  
**構造** 本建物はE-N17°に棟方向を取る2×3間の掘立柱建物であるが、南辺は湧水対策により消滅した可能性があり、或いは南側に延びて3間以上あった可能性も残る。側柱の柱筋の通りはほぼ良い。  
 柱穴は径35cm以下のものが殆どである。プランは柱穴2・4は隅丸方形、柱穴6は円形、柱穴1・3・

表36 Ⅲ-1号竪穴所在ピット一覧

番号	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	楕円形	36 × 22	26
2	楕円形	28 × 27	32
3	楕円形	19 × 15	11
4	楕円形	54 × 45	61
5	隅丸三角形	21 × 18	18
6	楕円形	(29) × 20	9
7	隅丸長方形	23 × 19	61
402	楕円形	31 × 23	62

5・8は楕円形を呈し、柱穴7は滴形だが2基の柱穴の重複。底面形態は柱穴1・8が

平底、柱穴4は不明で他は丸底である。尚、柱穴3の底面には柱の過重に伴う塑性変形様の窪みが見られ、根石も見られた。

(2-26) Ⅲ区1号竪穴

(第115図、P L33・34)

**概要** 本竪穴は屋敷中部やや南寄りに位置する。南東部が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

Ⅲ区7号掘立柱建物やⅢ区97・200号ピット等と重複するが、何れの遺構に対しても新旧関係は特定できなかった。

本竪穴は形態的に整っていること等から竪穴建物であろうと認識される。

本竪穴では7基のピットを調査したが、このうちピット1・2・7は壁柱穴の可能性を

有するものの、他の4基は本竪穴(建物)に伴わない可能性を有するが、ピット2に代わりⅢ区402号ピットが壁柱穴であった可能性も考慮される。

**遺物** 本遺構からは土師器甕(260)を含む若干の土師器片と僅かな須恵器片の出土が得られた。

**時期** 本竪穴の時期は特定できなかった。

**規模** 径(490)×348cm 深さ 29cm

**ピット** 表36 (Ⅲ区1号竪穴所在ピット一覧) 参照

**構造** 本竪穴は主軸をE-S1°に向けており、隅丸長方形のプランを呈している。

掘削形態は箱形を呈する。

ピットのプランは表36に示したが、壁柱穴と認識されるピット1・2・7・402のプランはピット7が隅丸長方形を呈する以外は楕円形を呈する。

(2-27) Ⅲ区2号竪穴 (第116図、P L33)

**概要** 本竪穴は屋敷中部のやや西寄りに在る。

Ⅲ区2・3・5・13・17号掘立柱建物やⅢ区3号竪穴、Ⅲ区256号ピット等と重複するが、このうち13・17号掘立柱建物よりは新しく、軟質陶器に接する3号掘立柱建物より古いことを確認したものの、他の遺構との新旧関係は特定できなかった。

尚、本竪穴が竪穴建物になるか、他の用途であったかを特定することはできなかった。

**遺物** 僅かな土師器・須恵器片の出土が得られた。

**時期** 本竪穴は屋敷に伴う可能性が高いものの、その時期を特定することはできなかった。

**規模** 径(293)×263cm 深さ19cm

**構造** 本竪穴は長軸をE-N10°に向ける隅丸台形のプランを呈する。

掘削形態は箱形である。

(2-28) Ⅲ区3号竪穴 (第116図、P L33)

**概要** 本竪穴は屋敷の中部、Ⅲ区2号竪穴の南東に隣接して位置する。

Ⅲ区1～3・5・16・18・21号掘立柱建物やⅢ区2号竪穴、Ⅲ区466号ピット等と重複するが、2号掘立柱建物より新しいことを確認したが、新旧関係を特定することはできなかった。

本竪穴は先に述べたのようにⅢ区2号掘立柱建物の構造の一部となる可能性を有するが、この場合は形態的に厩に伴う窪地遺構と判断される。

**遺物** 僅かな陶器片の出土が得られた。

**時期** 本竪穴の時期を特

定することはできなかった。

**規模** 径389×235cm 深さ14cm

**構造** 本竪穴は、主軸をE-S13°に向け、プランは楕円形を呈する。

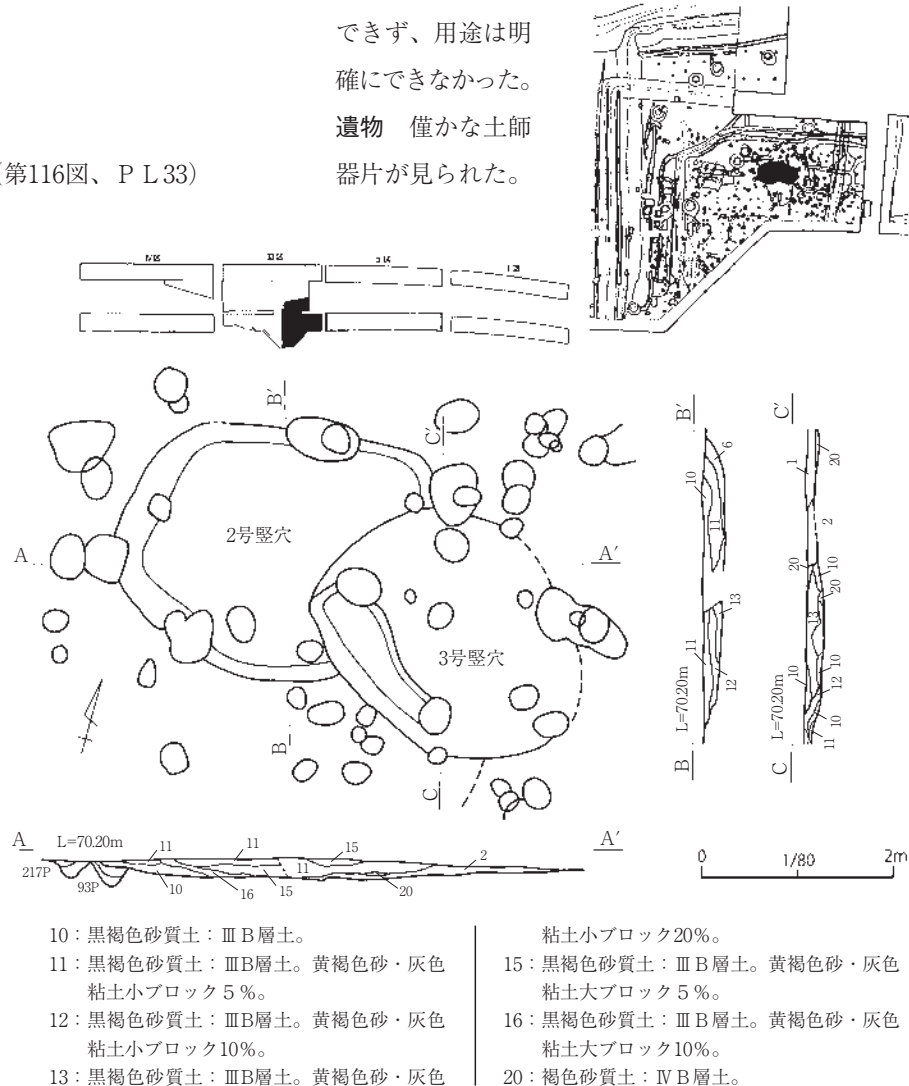
掘削形態は挿鉢状を呈する。

(2-29) Ⅲ区4号竪穴 (第117図、P L33)

**概要** 本竪穴は屋敷西部に位置する。

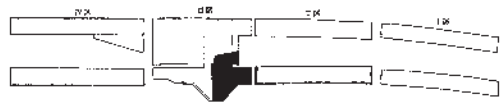
Ⅲ区4・7・17号掘立柱建物やⅢ区5号竪穴、Ⅲ区13号土坑、Ⅲ区161・463号ピット等と重複するが、5号竪穴及び13号土坑より古いことを確認した他は、新旧を特定することはできなかった。

本竪穴は形態的に竪穴建物と認識されるのではあるが、柱穴は確認できず、用途は明確にできなかった。  
**遺物** 僅かな土師器片が見られた。

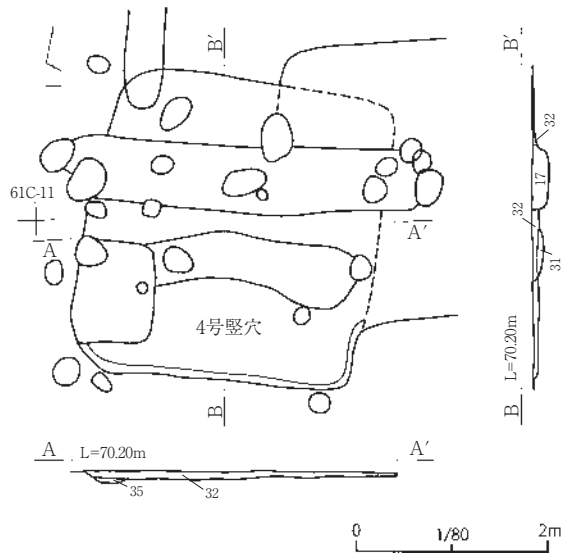
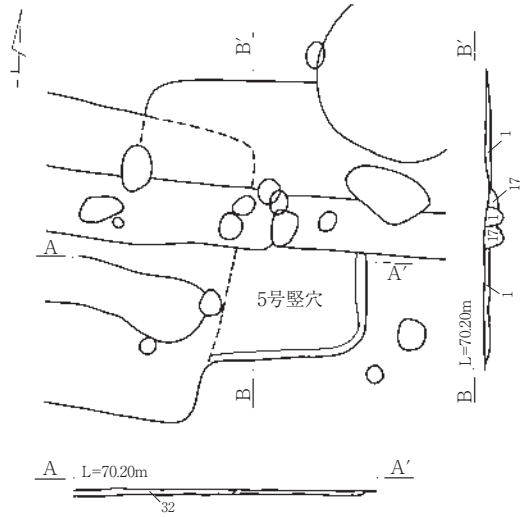


第116図 Ⅲ区2・3号竪穴

II 調査の記録



- 1: 灰褐色土: 黄褐色砂・灰色粘土  
小ブロック5%。
- 17: 黒褐色砂質土: ⅢB層土。黄褐色  
色砂・灰色粘土大ブロック20  
%。
- 31: 灰褐色砂質土: As-B多。黄褐色  
砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 32: 灰褐色砂質土: As-B多。黄褐色  
砂・灰色粘土小ブロック20%。
- 35: 灰褐色砂質土: As-B多。黄褐色  
砂・灰色粘土大ブロック10%。



第117図 Ⅲ区4・5号堅穴

**時期** 本堅穴の時期は特定されなかった。  
**規模** 径 318×307cm 深さ 6cm  
**構造** 本建物はE-S7°に主軸を向け、隅丸方形のプランを呈している。  
 掘削形態は箱形を呈する。

(2-30) Ⅲ区5号堅穴 (第117図、P L33)

**概要** 本堅穴も屋敷西部に位置する。  
 Ⅲ区4・7・17号掘立柱建物やⅢ区4号堅穴、Ⅲ区233・426号ピット等と重複するが、4号堅穴より新しいことを確認した他は、新旧関係の特定はできなかった。  
 本堅穴は形態的に堅穴建物と認識されるものであ

るが、柱穴を特定することはできなかった。  
**遺物** 出土遺物は得られなかった。  
**時期** 本堅穴の時期は確認できなかった。  
**規模** 径 293×(142)cm 深さ 5cm  
**構造** 本堅穴はN-W4°に主軸を向ける隅丸方形プランを呈する。  
 掘削形態は箱形を呈する。

(2-31) Ⅲ区1号落込み (第118図)

**概要** 本落込みは屋敷中部南寄りに位置する。  
 Ⅲ区3・13・16・22号掘立柱建物やⅢ区2号堅穴、Ⅲ区17号土坑、Ⅲ区90号ピット等と重複するが、2号堅穴より古いことを確認した他は、新旧関係を特定することはできなかった。

本落ち込みの掘削意図、或いは形成の経過等を確認することはできなかった。  
**遺物** 出土遺物は得られなかった。  
**時期** 本落ち込みの時期は確認できなかった。  
**規模** 径(316)×333cm 深さ 8cm

**構造** 本落ち込みは主軸をN-W25°に向ける楕円形プランを呈する。  
 掘削形態は浅い播鉢状を呈する。

(2-32) Ⅲ区2号落込み (第118図)

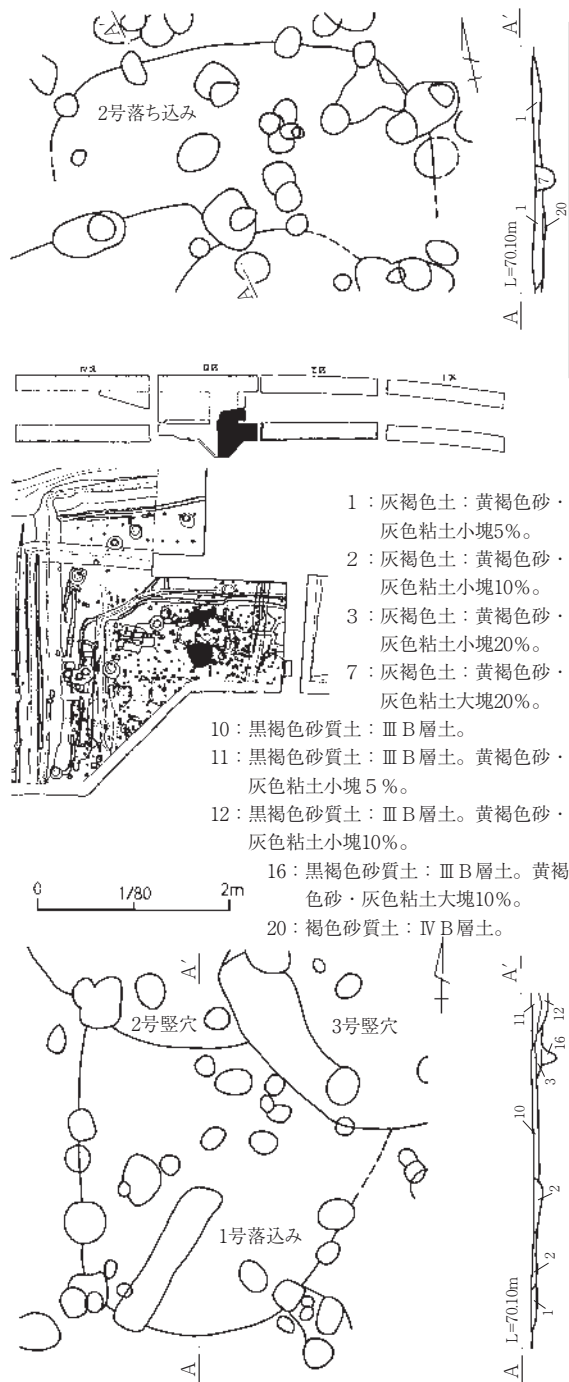
**概要** 本落ち込みも屋敷中部北寄りに位置する。  
 Ⅲ区5・9・13・21号掘立柱建物やⅢ区3号堅穴、

Ⅲ区22号土坑、Ⅲ区348号ピット等と重複するが、3号堅穴より新しいことを確認した他は、新旧関係を特定はできなかった。

本遺構の掘削意図等は確認できなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 本落込みの時期も確認できなかった。



第118図 Ⅲ区1・2号落ち込み

規模 径 256×378cm 深さ 5 cm

構造 本落込みは主軸をE-N5°に向ける楕円形プランを呈する。

掘削形態は浅い挿鉢状を呈する。

(2-33) Ⅲ区1号井戸 (第119図、P L 36・70)

概要 本井戸は屋敷南西端部に位置する。

Ⅲ区11・36号溝と重複するが新旧関係を特定することはできなかった。

湧水層はAs-YP層と見られるが、アグリの形成は無く、比較的短期間の使用であったと判断される。

遺物 僅かな土師器片や焼締陶器鉢(261)や板材(262)、板碑片、桶の側板と見られる板材(263)センダンを含む種子(264・265)の出土が得られた。

礫の投入がやや多かった。

時期 本井戸の時期は特定できなかった。

規模 径 161×157cm 深さ 153cm

構造 本井戸は長軸をE-S29°に方向を有する楕円形プランを呈する井戸であるが、底面は円形プランを呈する。

掘削形態は井筒朝顔型である。

(2-34) Ⅲ区2号井戸

(第120図、P L 36・70)

概要 本井戸は屋敷南西部中程に位置する。

Ⅲ区18号溝と重複し、これに切られている。

湧水層は軽石を多く含むIX層だと想定される。しかし乍アグリの形成は無く、本井戸も比較的短期間の使用であったと判断される。

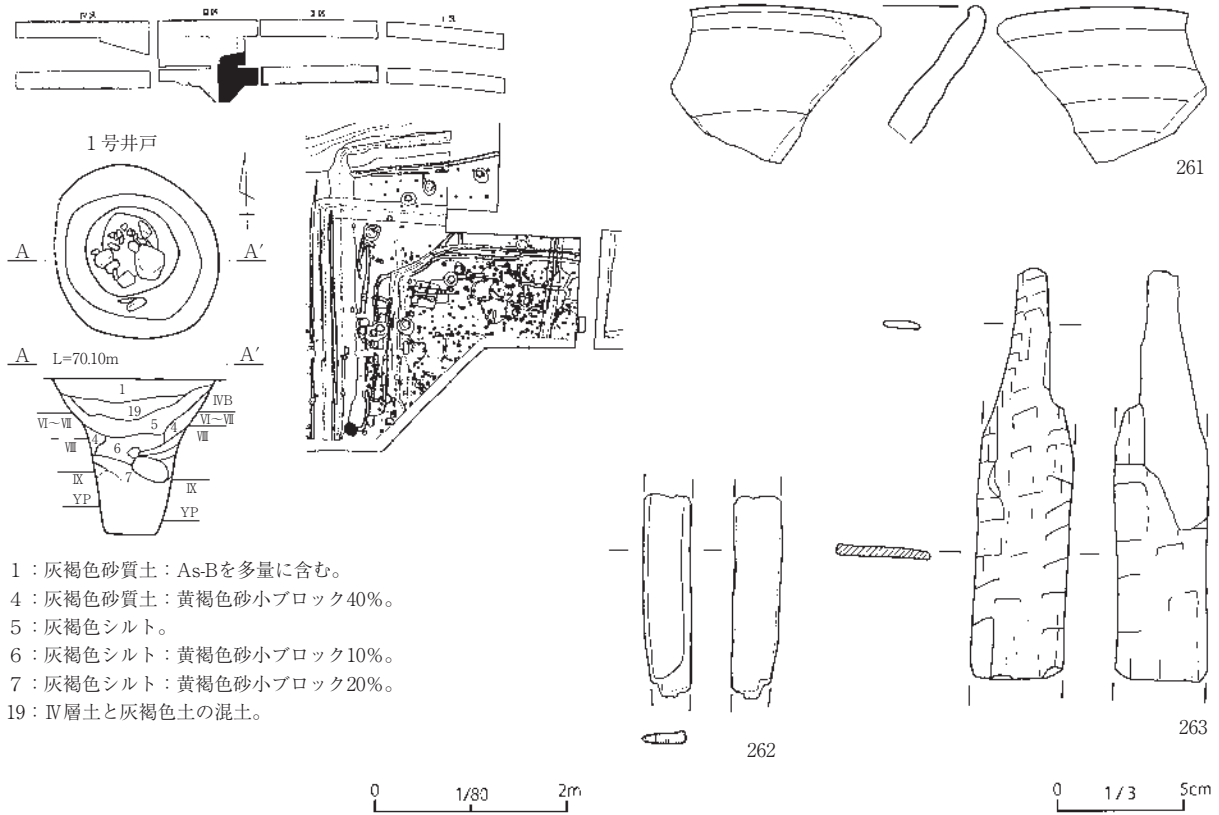
遺物 本井戸からは土師器台付甕(266)、青磁碗(267)、軟質陶器鉢(268)、曲物等の側板と見られる木製品(269)の出土が得られた。

時期 本井戸は出土遺物から14世紀中頃以降の中世の所産と判断されるものの、細かい時期を特定することはできなかった。

規模 径 235×213cm 深さ 164cm

構造 本井戸は長軸をS-E26°方向に持つ水滴様の楕円形プランの井戸であるが、底面は隅丸方形に近い

II 調査の記録

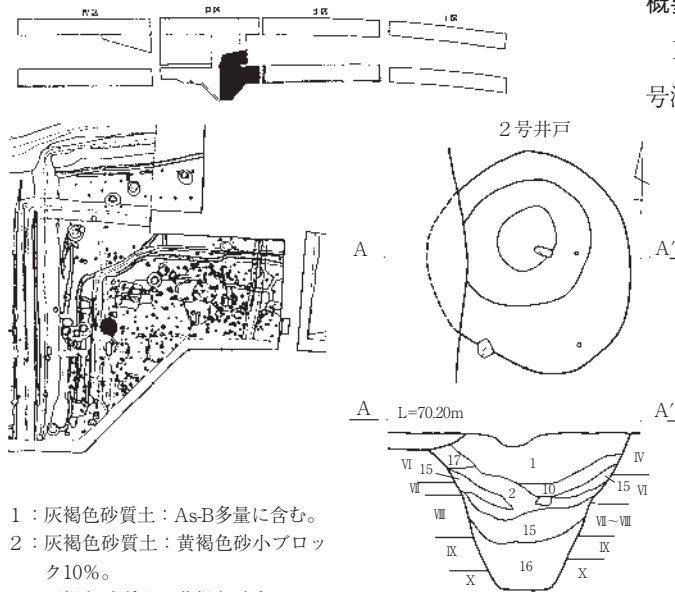


- 1 : 灰褐色砂質土 : As-Bを多量に含む。
- 4 : 灰褐色砂質土 : 黄褐色砂小ブロック40%。
- 5 : 灰褐色シルト。
- 6 : 灰褐色シルト : 黄褐色砂小ブロック10%。
- 7 : 灰褐色シルト : 黄褐色砂小ブロック20%。
- 19 : IV層土と灰褐色土の混土。

第119図 Ⅲ区1号井戸と出土遺物

円形プランを呈している。

掘削形態は井筒朝顔型である。



- 1 : 灰褐色砂質土 : As-B多量に含む。
- 2 : 灰褐色砂質土 : 黄褐色砂小ブロック10%。
- 10 : 灰褐色砂質土 : 黄褐色砂大ブロック20%。
- 15 : 黄褐色砂 : IV B層土。
- 15' : 15層土に同じだが締まらない。
- 16 : 黒灰色砂～シルト。締まらない。
- 17 : 灰褐色砂質土 : 白色粘土大ブロックを層土に40%。人為的に埋まる。

第120図 Ⅲ区2号井戸と出土遺物

(2-35) Ⅲ区3号井戸

(第121・122図、P L 37・70)

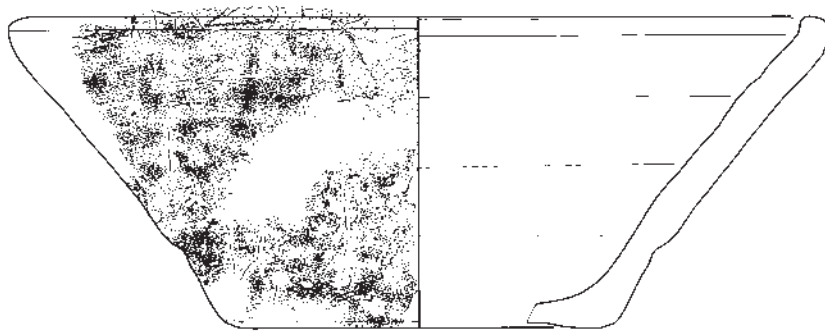
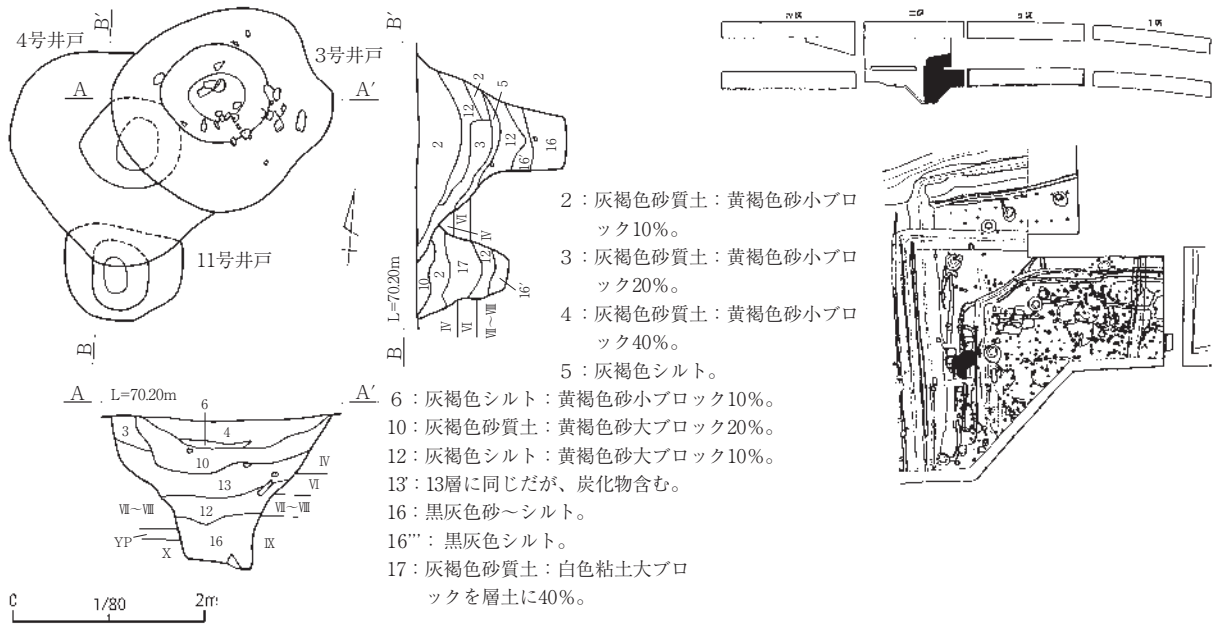
概要 本井戸も屋敷西部のやや南寄りに位置する。

Ⅲ区19・24号溝、Ⅲ区4号井戸と重複するが、24号溝及び4号井戸より新しいことを確認した。尚、19号溝との新旧関係は特定できなかった。

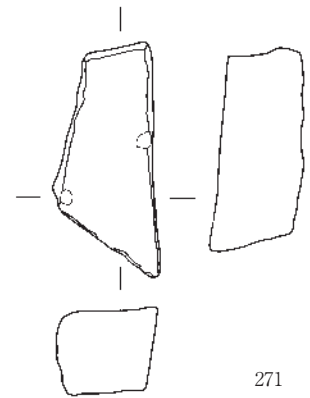
湧水層はAs-YP層と判断されるが、やはりアグリの形成は無く、比較短期間の使用であったものと認識される。

遺物 僅かな土師器片や軟質陶器鉢 (270)、

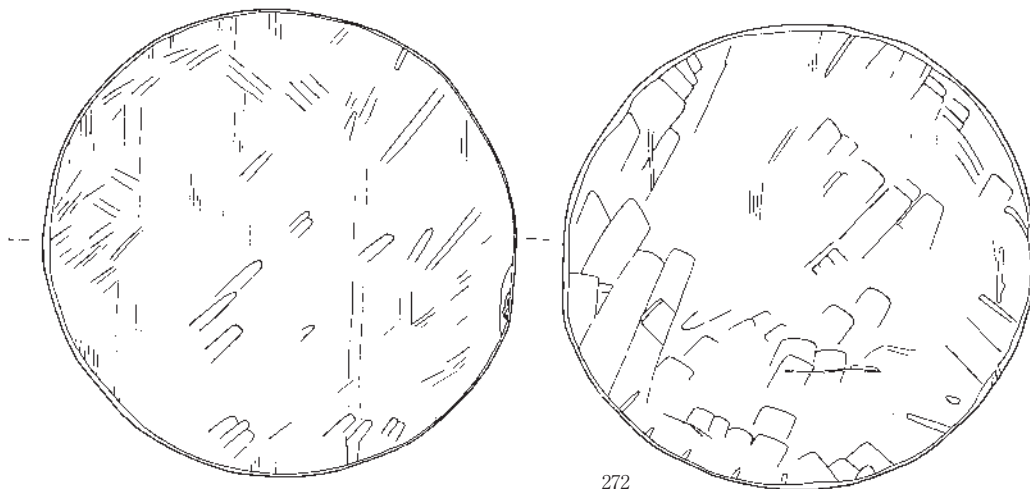




270



271



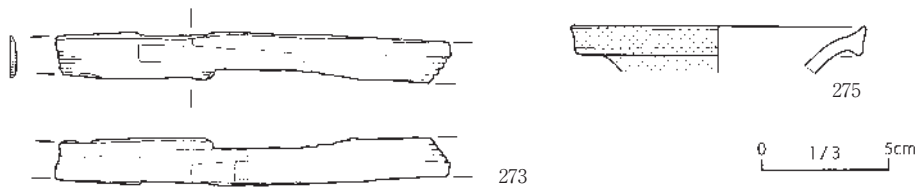
272



0 1/3 5cm

第121図 Ⅲ区3・4・11号井戸と出土遺物(その1)

II 調査の記録



第122図 Ⅲ区3・4号井戸出土遺物(その2)

プランを呈しているが、底面は楕円形プランを成している。

掘削形態は井筒朝顔型で、底面は平底である。

砥石(271)、板碑の破片、円形木製品(272)や曲物側板(273)、モモの種子(274)の出土が見られた。また礫の投入も多かった。

時期 本井戸は出土遺物から14世紀後半以降の中世の所産であるが、時期特定には至らなかった。

規模 径 235×213cm 深さ 155cm

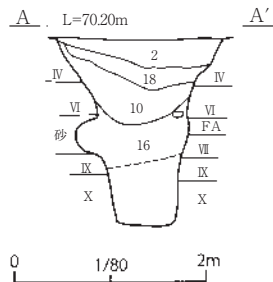
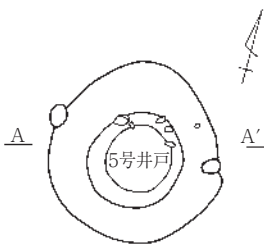
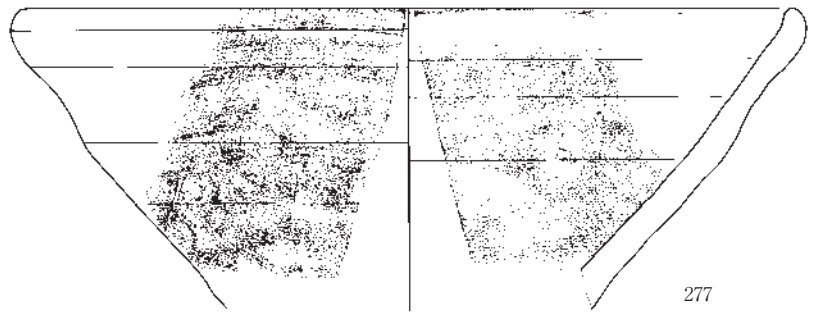
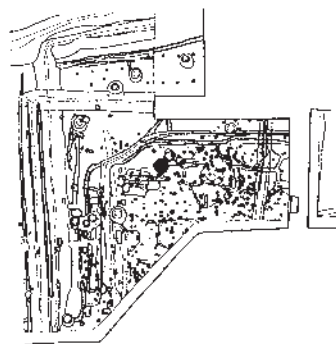
構造 本井戸は、S-E28°に長軸方向を取る隅丸方形

(2-36) Ⅲ区4号井戸(第121・122図、P L37)

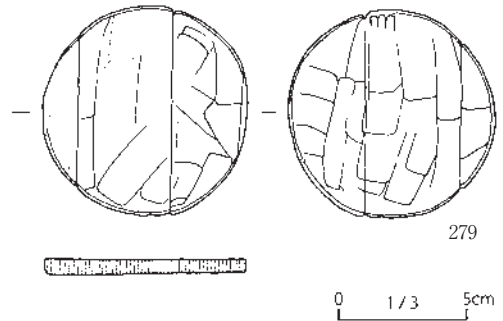
概要 本井戸も屋敷西部のやや南寄りに位置している。

本井戸はⅢ区24号溝及びⅢ区3・11・13号井戸と重複するが、3号井戸に切られ、11号井戸を切ることを確認したものの、13号井戸、24号溝との新旧関係は特定できなかった。

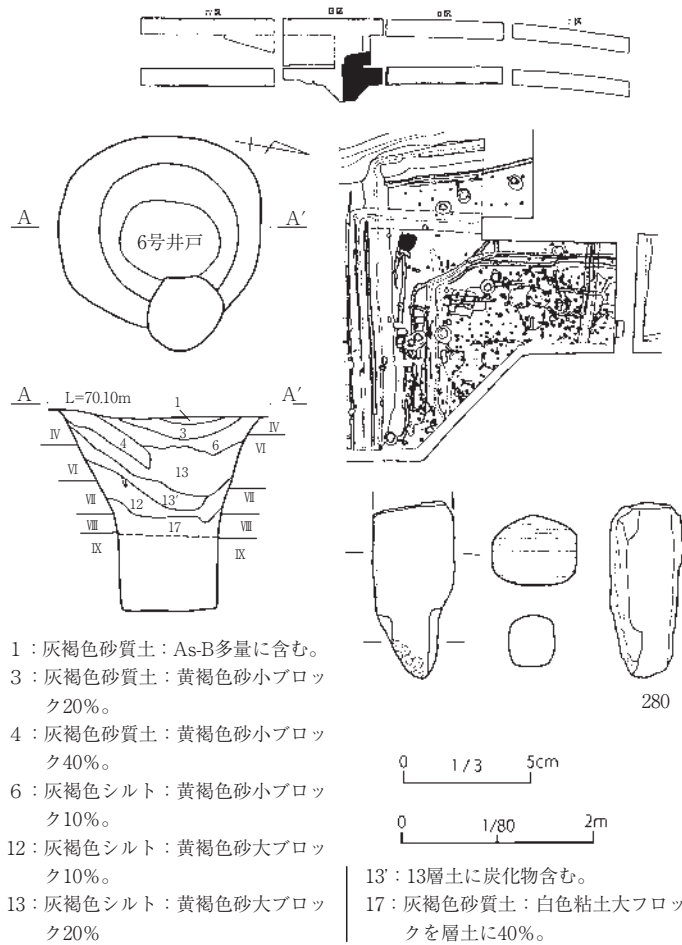
湧水層は軽石を多く含むⅨ層と想定される。アグリの形成は無く、本井戸も比較短期間の使用であった。



- 2: 灰褐色砂質土:黄褐色砂小ブロック10%。
- 18: 灰褐色砂質土:黄褐色砂大ブロック20%、黒色土大ブロック20%。
- 10: 灰褐色砂質土:黄褐色砂大ブロック20%。
- 16: 黒灰色砂~シルト。



第123図 Ⅲ区5号井戸と出土遺物



- 1: 灰褐色砂質土: As-B多量に含む。
- 3: 灰褐色砂質土: 黄褐色砂小ブロック20%。
- 4: 灰褐色砂質土: 黄褐色砂小ブロック40%。
- 6: 灰褐色シルト: 黄褐色砂小ブロック10%。
- 12: 灰褐色シルト: 黄褐色砂大ブロック10%。
- 13: 灰褐色シルト: 黄褐色砂大ブロック20%
- 13': 13層土に炭化物含む。
- 17: 灰褐色砂質土: 白色粘土大ブロックを層土に40%。

第124図 Ⅲ区6号井戸と出土遺物

たものと認識される。

尚、底面から35~60cm付近に砂層が堆積することから下位からの湧水を溜めて使用していた時期があることが窺われ、その上位35cm程に黒い炭化物帯が見られることから、徐々に埋没していった状態が窺われる。

**遺物** 土師器片1片や、灰釉陶器長頸壺(275)やモモの種子(276)が出土している。

**時期** 本井戸は中世の所産と把握されるが、細かい時期を特定することはできなかった。

**規模** 径 221×(123)cm 深さ 159cm

**構造** 本井戸のプランは確認面に於いては長軸方向をS-E33°に取る楕円形様を呈している。底面に於いてもそのプランは楕円形を呈している。

本井戸の掘削形態は井筒朝顔型で、底面は平底である。

(2-37) Ⅲ区5号井戸

(第123図、P L 37・71)

**概要** 本井戸も屋敷中部に位置する。

本井戸はⅢ区4・17号掘立柱建物、Ⅲ区22号土坑と重複するが、何れの遺構に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

湧水層は西側Ⅵ・Ⅸ層間の砂層と判断される。底面から90cm前後のこの砂層部分とこれに対する東側のHr-FA・Ⅶ層部分に幅35~40cmのアグリが形成される。

**遺物** 本井戸では軟質陶器鉢(277)・甕(278)や円形木製品(279)、土師器、礫1点ずつの出土が得られた。

**時期** 本井戸は中世の所産であるが、細かい時期特定には至らなかった。

**規模** 径 221×(123)cm 深さ 159cm

**構造** 本井戸のプランはS-E33°に長軸方向を取る楕円形様で、底面も楕円形プランを呈する。

掘削形態は井筒朝顔型で、底面は平底である。

(2-38) Ⅲ区6号井戸 (第124図、P L 37・71)

**概要** 本井戸は屋敷西部やや北寄りに位置する。

Ⅲ区36・43号溝、Ⅲ区7号井戸と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

湧水層はⅨ層間と想定されるが、アグリ形成はなく、比較的短期間の使用であったと思慮される。

**遺物** 本井戸からは角材と見られる木製品(280)や、ウメ、モモといった種子(281・282)、木葉(283)が得られた。

**時期** 本井戸は中世の所産であるが、時期の特定はできなかった。

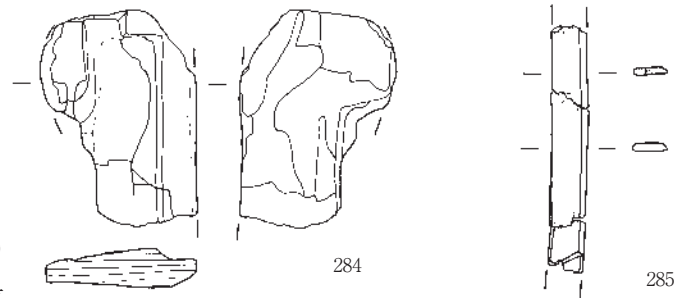
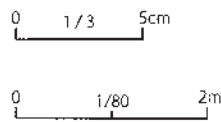
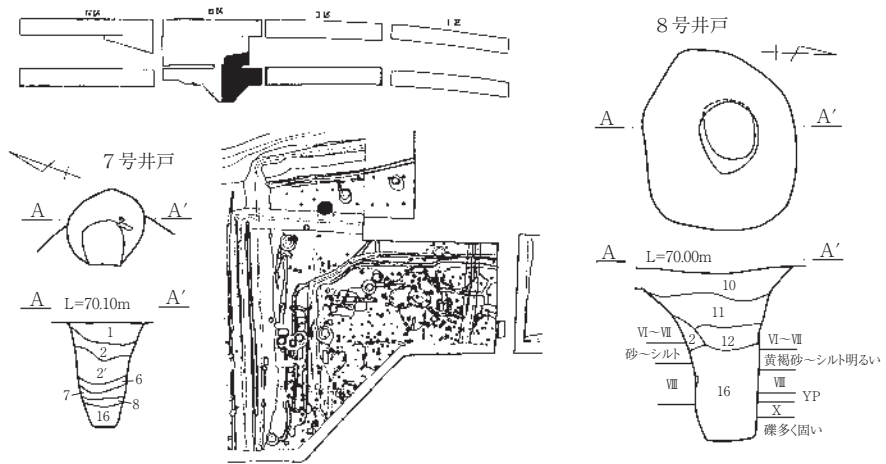
**規模** 径 217×201cm 深さ 212cm

**構造** 本井戸は円形プランの井戸で、底面は南北に長い楕円形プランを呈する。

掘削形態は井筒朝顔型で、底面は平底であった。

## II 調査の記録

- 1：灰褐色砂質土：As-B多量を含む。
- 2：灰褐色砂質土：黄褐色砂小ブロック10%。
- 2'：2層土に黒色土ブロック含む。
- 6：灰褐色シルト：黄褐色砂小ブロック10%。
- 7：灰褐色シルト：黄褐色砂小ブロック20%。
- 8：灰褐色シルト：黄褐色砂小ブロック40%。
- 10：灰褐色砂質土：黄褐色砂大ブロック20%。
- 11：灰褐色砂質土：黄褐色砂大ブロック40%。
- 12：灰褐色シルト：黄褐色砂大ブロック10%。
- 16：黒灰色砂～シルト。



### (2-39) Ⅲ区7号井戸

(第125図、P L 38)

**概要** 本井戸も屋敷西部やや北寄りに位置する小型の井戸である。

Ⅲ区6号井戸と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

掘削深度も浅く湧水層は不明である。またアグリの形成はなく、比較的短期間の使用であったものと思慮される。

**遺物** 礫1点以外出土遺物は得られなかった。

**時期** 本井戸も中世の所産と認識されるだけで、時期の特定は至らなかった。

**規模** 径 75×83cm 深さ 108cm

**構造** 本井戸は円形プランを呈する。

掘削形態は播鉢形に近い井筒型であり、底面形態は平底であった。

第125図 Ⅲ区7・8号井戸と出土遺物

識される。

**遺物** 土師器片と礫1点づつと加工板(284)、薄板(285)、モモ、イヌタデ、オオムギ、イネ、アワ等の種子(286・287)、木葉(288)等出土した。

**時期** 本井戸も中世の所産と確認できるだけで、時期の特定には至らなかった。

**規模** 径 287×165cm 深さ 184cm

**構造** 本井戸のプランは家形で、底面は東西に長い楕円形プランを呈する。

掘削形態は井筒朝顔型で、底面は平底であった。

### (2-40) Ⅲ区8号井戸 (第125図、P L 38・71)

**概要** 本井戸は屋敷北西部に位置する。

Ⅲ区11号掘立柱建物、Ⅲ区12号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

湧水層はAs-YP層と判断される。しかしアグリの形成はなく、比較的短期間の使用であったものと認

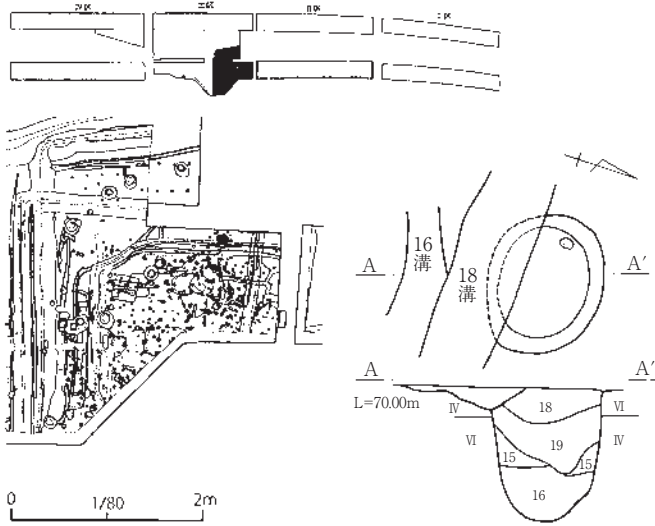
### (2-41) Ⅲ区9号井戸 (第126図、P L 38)

**概要** 本井戸は屋敷東部北寄りに位置する浅い掘り込みの井戸遺構である。

Ⅲ区18号溝と重複するが、本井戸の方が古い。

湧水層は特定できない。アグリの形成もなく、比較的短期間の使用であったものと認識される。

**遺物** 本井戸からの出土遺物は得られなかった。



第126図 Ⅲ区9号井戸

**時期** 本井戸も中世の所産と確認できるだけで、時期は特定できなかった。  
**規模** 径 151×116cm 深さ 138cm  
**構造** 本井戸は主軸をE-S9°を向き、プランは楕円形を呈する。

掘削形態は本遺跡では珍しい井筒型で、底面も丸

底であり、一段狭くなっている。

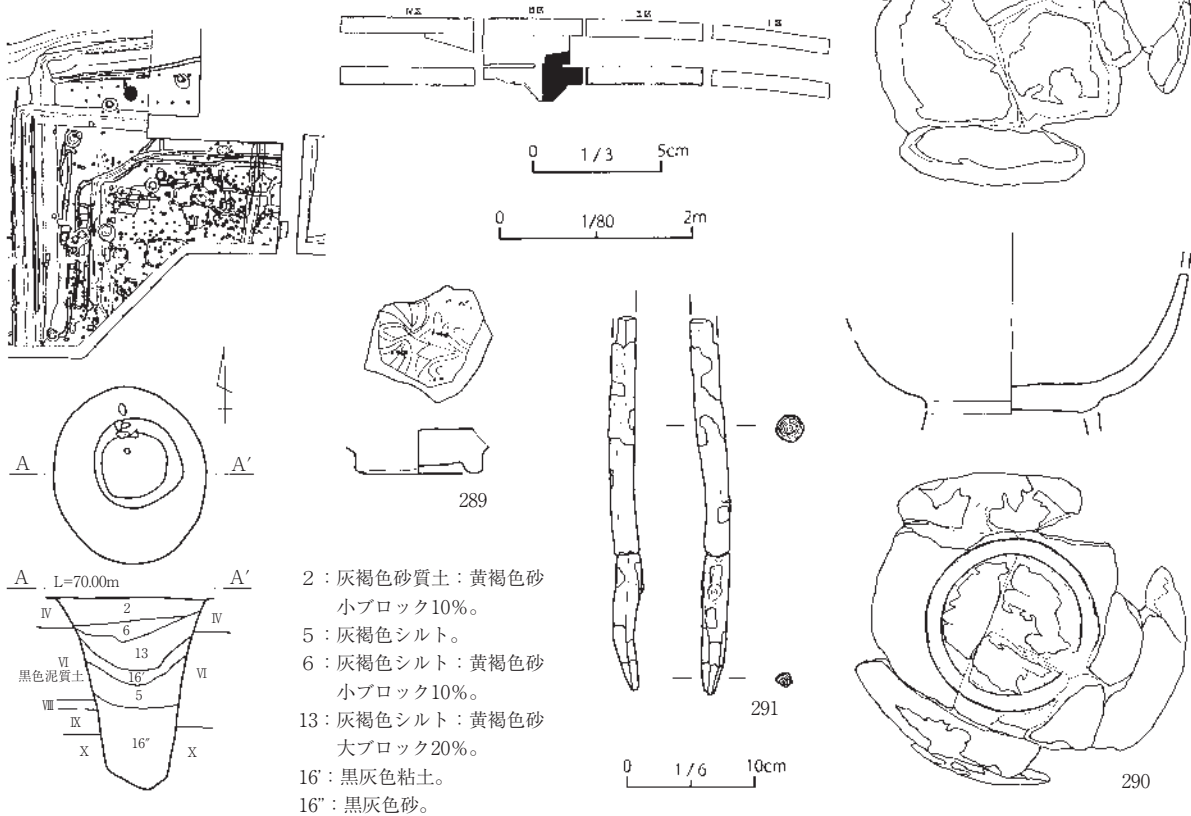
(2-42) Ⅲ区10号井戸

(第127図、P L 38・71)

**概要** 本井戸は屋敷北西部に位置する。Ⅲ区40号溝、Ⅲ区338・470・474号ピットと重複するが、新旧関係は特定できなかった。  
 湧水層は特定できないがⅣ層と想定される。アグリの形成もなく、比較的短期間の使用であったものと認識される。

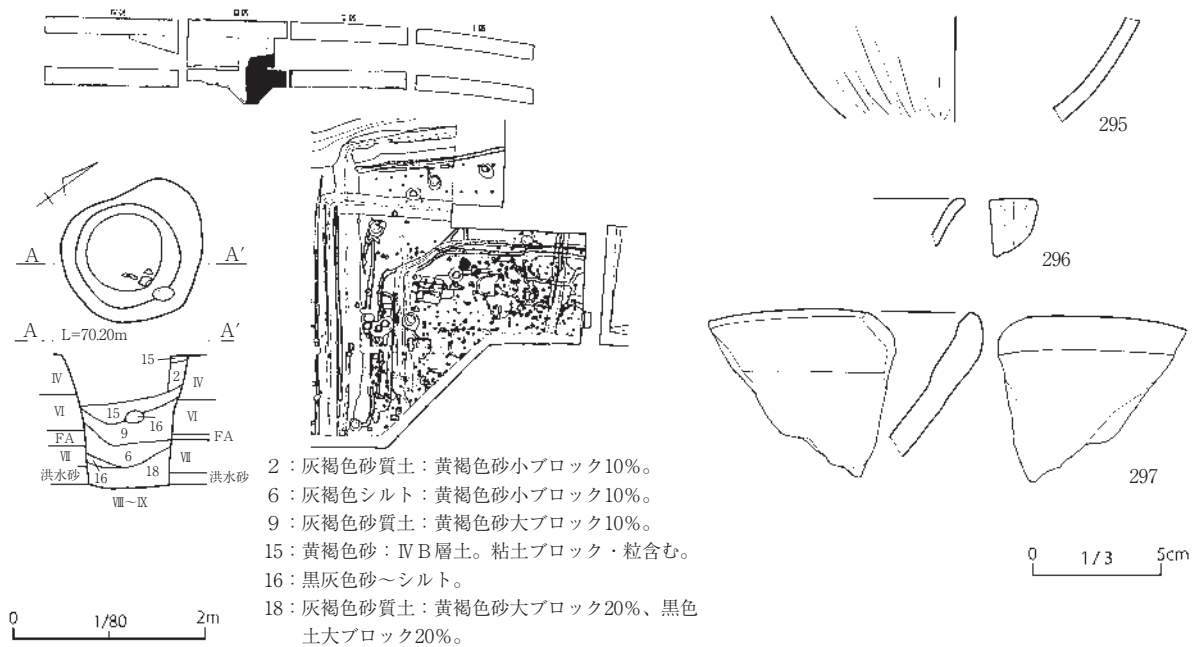
また覆土最下層には埋め戻しの際の湧水対策と見られる80cm厚程の砂の堆積が見られた。

**遺物** 本井戸からは青磁碗(289)、漆碗(290)、杭(291)、オニグルミ、ウメ、モモ、イネ等の種子(292)、木葉(293)等の出土が得られた。



第127図 Ⅲ区10号井戸と出土遺物

## II 調査の記録



第128図 III区12号井戸と出土遺物

**時期** 本井戸は凡そ14世紀以降の所産と確認できただけで、細かい時期特定には至らなかった。

**規模** 径 189×157cm 深さ 190cm

**構造** 本井戸は主軸をS-E 9°を向き、プランは確認面で楕円形、底面で隅丸方形を呈する。

掘削形態は井筒型に近い井筒朝顔型で、底面は一段下がる丸底であった。

### (2-43) III区11号井戸 (第121図、P L 39)

**概要** 本井戸は屋敷西部のやや南寄りに位置する、掘削の浅い小型の井戸である。

III区24号溝、III区4号井戸と重複する。前者との新旧は特定できなかったが後者は本井戸を切っていることを確認した。

湧水層は特定できない。アグリの形成もなく、比較的短期間の使用であったと認められる。

**遺物** 本井戸からはモモの種子(294)が出土があった。

**時期** 本井戸は中世の所産であるが、時期の特定には至らなかった。

**規模** 径 117×97cm 深さ 101cm

**構造** 本井戸は確認面ではE-N 3°に主軸を取る滴形のプランを呈し、また底面ではN-W 8°に軸線に向ける楕円形のプランを見せる。

掘削形態は井筒型に近い井筒朝顔型で、底面は平底気味である。

### (2-44) III区12号井戸 (第128図、P L 39・71)

**概要** 本井戸は屋敷中部北寄りに位置する。

III区17号掘立柱建物、III区22号土坑と重複するが新旧関係は特定できなかった。

湧水層はVII層とVIII・IX層間の砂層であるが、アグリの形成が認められなかったことから、短期間の使用であったと認められる。

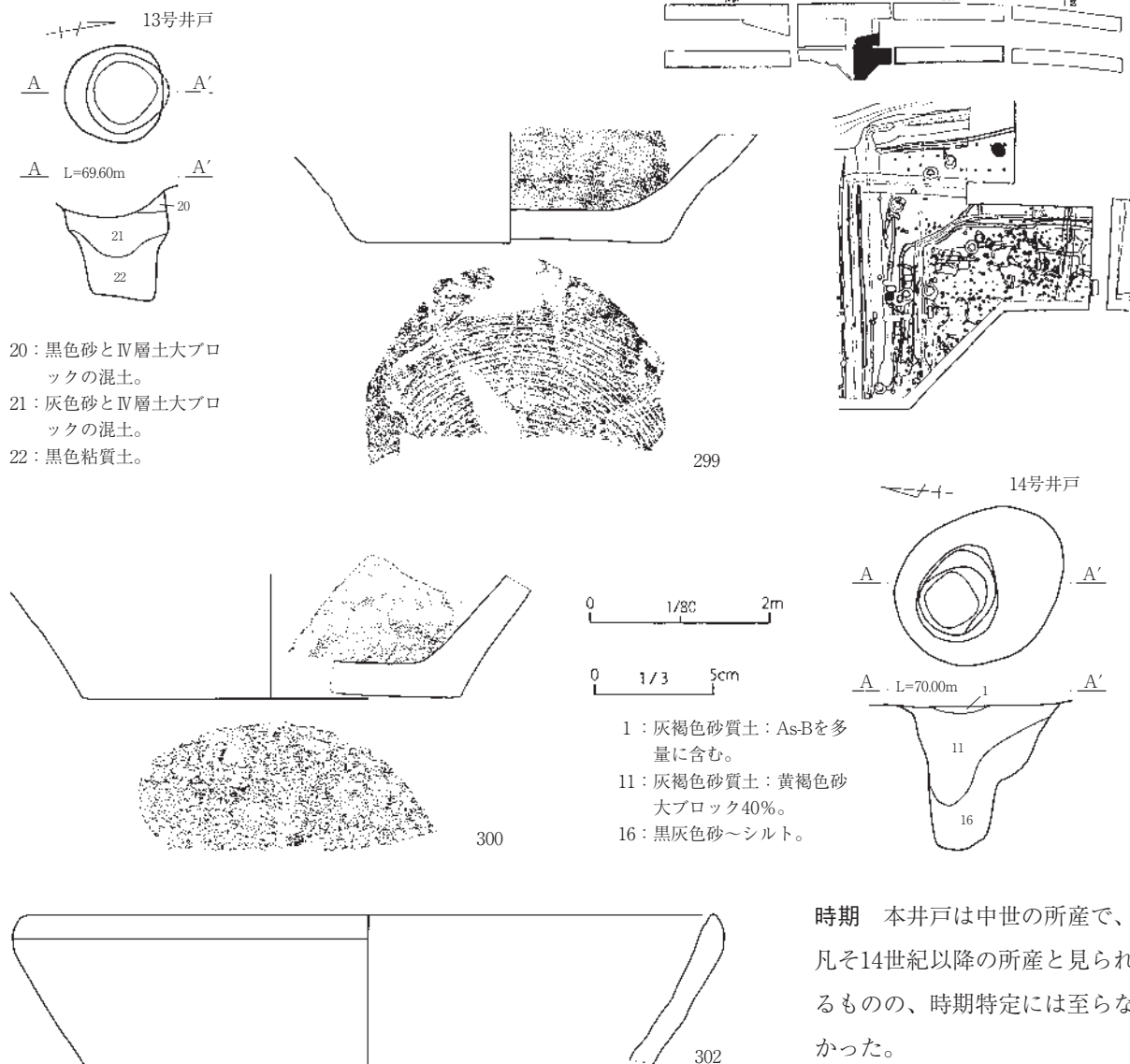
**遺物** 本井戸では出土遺物は青磁碗(295・296)、軟質陶器鉢(297)、種別不明の骨(298)の出土が得られた。

**時期** 本井戸は14世紀中頃以降の中世の所産であるが、細かい時期の特定はできなかった。

**規模** 径 163×147cm 深さ 142cm

**構造** 本井戸はN-W 19°に軸方向を取る滴形のプランを呈し、底面ではプランを円形に変ずる。

掘削形態は井筒型に近い井筒朝顔型で、底面は平底気味である。



第129図 Ⅲ区13・14号井戸と出土遺物

(2-45) Ⅲ区13号井戸 (第129図、P L39)

概要 本井戸は屋敷西部のやや南寄りに位置している。

Ⅲ区36号溝、Ⅲ区4号井戸、Ⅲ区16号土坑、Ⅲ区140号ピットと重複するが新旧関係は特定できなかった。

湧水層は確認できない。またアグリの形成は見られず、短期間の使用であったと認められる。

遺物 本井戸に於いては軟質陶器の鉢(299)や甕(300)、僅かな土師器・須恵器片や種子(301)の出土があった。

構造 本井戸は確認面ではN-E 6°に軸方向を取る絵鏡形、底面では円形のプランを呈する。

掘削形態は二段の井筒型で、底面は平底。

(2-46) Ⅲ区14号井戸 (第129図、P L39)

概要 本井戸は屋敷中北部に位置する。

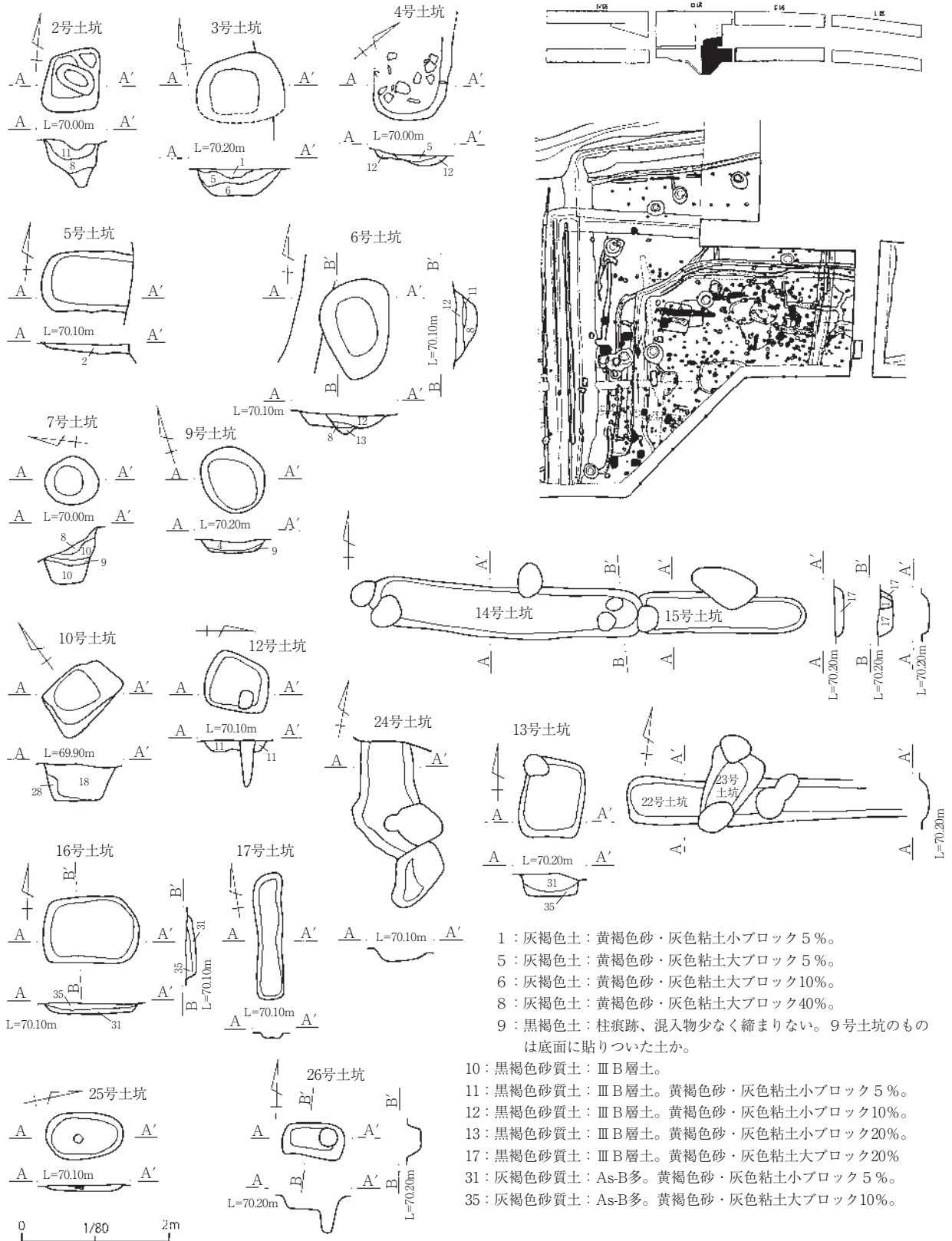
Ⅲ区102号溝、Ⅲ区4号井戸、Ⅲ区16号土坑、Ⅲ区140号ピットと重複するが新旧関係は特定できなかった。

湧水層は確認できなかった。またアグリの形成は認められ無いことから、短期間の使用であったもの

時期 本井戸は中世の所産で、凡そ14世紀以降の所産と見られるものの、時期特定には至らなかった。

規模 径 108×105cm  
深さ 135cm

II 調査の記録



第130図 屋敷内の土坑群 (その1)

と認められる。

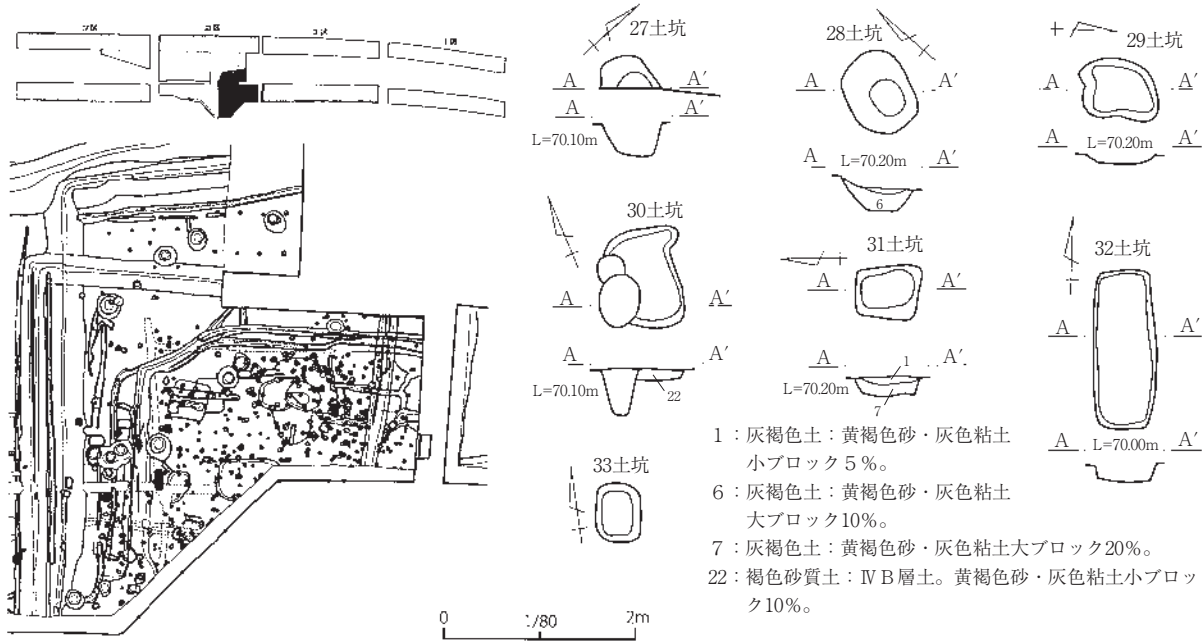
遺物 本井戸からは軟質陶器の鉢 (302) や板破片

1点の出土が得られた。

時期 本井戸は14世紀中頃以降の中世の所産であるが、時期の特定には至らなかった。

規模 径 198×165cm 深さ 171cm





- 1：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土  
小ブロック5%。
- 6：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土  
大ブロック10%。
- 7：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土大ブロック20%。
- 22：褐色砂質土：IVB層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブ  
ロック10%。

第131図 屋敷内の土坑群（その2）

表37 Ⅲ区3面屋敷内所在土坑一覧

番号	平面形態	径 (cm)	深さ (cm)	軸方向	グリッド
2	方形	87 × 78	68	N-W 2°	70S - 11
3	隅丸長方形	118 × (94)	41	E 0°	70T - 11
4	隅丸長方形	(125) × 100	13	N-W 42°	70T - 11
5	隅丸長方形	(123) × 81	13	E-S 1°	61B - 11
6	隅丸三角形	137 × 95	21	N-W 5°	70S - 11
7	楕円形	75 × 67	82	N-E 7°	61D - 11
9	楕円形	46 × 83	16	N-W 28°	61B - 12
10	長方形	110 × 73	52	E-S 2°	70S - 11
12	方形	86 × 79	13	N-E 25°	61B - 8
13	長方形	108 × 85	30	N-E 2°	61B - 10
14	溝形	(375) × 68	22	E-S 7°	61C - 10
15	溝形	(232) × 54	8	E-S 2°	61C - 10
16	隅丸長方形	129 × 93	7	E 0°	61B - 12
17	短冊	174 × 38	7	N-E 8°	61B - 8
22	溝形	(374) × 57	6	W-S 6°	61C - 9
23	楕形	(124) × 78	33	N-E 17°	61C - 9
24	靴形	(165) × 93	14	N-W 9°	61C - 8
25	楕円形	107 × 64	7	N-E 13°	70T - 10
26	長方形	84 × 49	19	E-S 5°	61A - 10
27	楕円形	(33) × 61	27	E-S 8°	70T - 10
28	隅丸長方形	87 × 68	32	N-E 22°	70T - 13
29	隅丸長方形	78 × 63	8	N-E 3°	61A - 11
30	隅丸長方形	106 × 79	10	N-E 13°	61B - 8
31	長方形	71 × 57	22	N 0°	61B - 10
32	長方形	169 × 65	37	N-W 4°	61A - 11
33	隅丸長方形	63 × 47	53	N-E 2°	61B - 12

構造 本井戸は主軸の方向をS-E31°に取り、確認面に於いては楕円形のプランを呈するが、底面では隅丸方形プランを呈している。

掘削形態は井筒朝顔型であり、底面は丸底気味である。

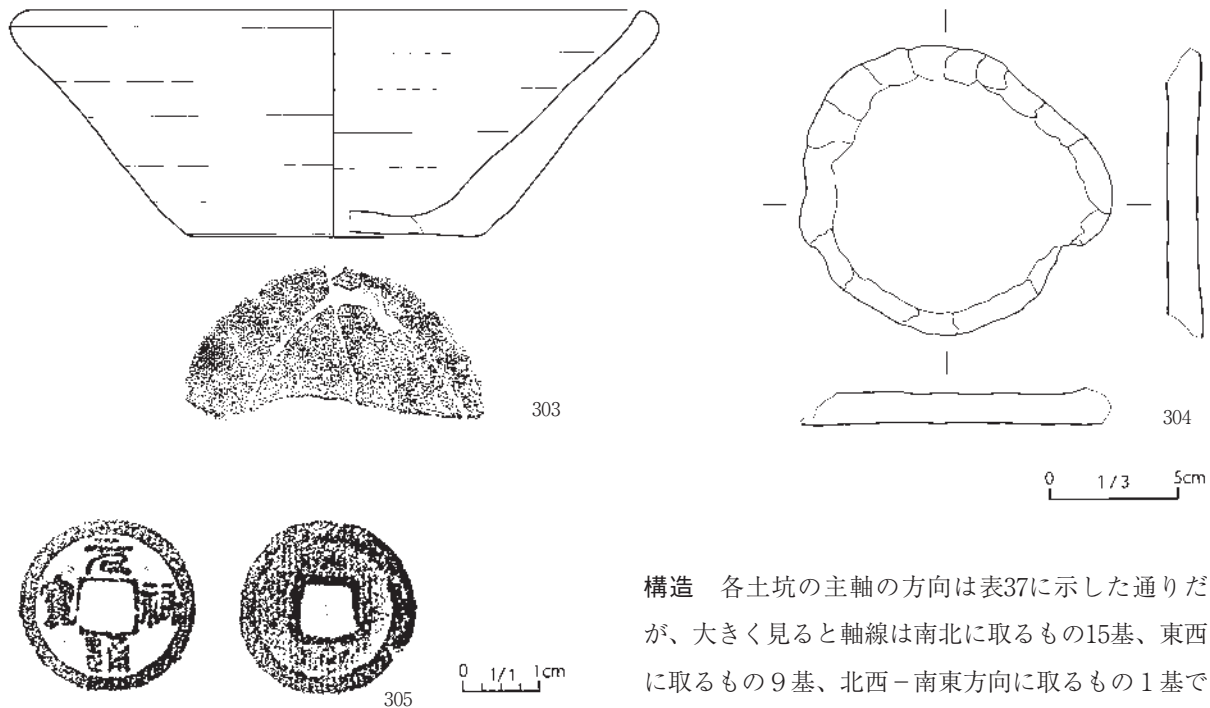
(2-47) Ⅲ区屋敷内の土坑群

(第130・131図、P L 46~50・71・72)

概要 屋敷内ではⅢ区2・3・4・5・6・7・9・10・12・13・14・15・16・17・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33号の26基の土坑を調査した。このうち28号土坑は屋敷の西端在るため、本屋敷に伴わない可能性を有する。これ以外の土坑は屋敷跡全体に分布しているが、集中、拡散等の傾向は確認できなかった。

また3号土坑がⅢ区18号溝、5号土坑がⅢ区24号溝、6号土坑がⅢ区36号溝、12号土坑がⅢ区9・16・20・22号掘立柱建物、13号土坑がⅢ区4・7号掘立柱建物及び4号竪穴、14号土坑がⅢ区233・486号ピット16号土坑がⅢ区13・14号井戸、17号土坑がⅢ区9・22号掘立柱建物、Ⅲ区1号落ち込み、及びⅢ区410号ピット、22号土坑が17・21号掘立柱建物やⅢ区2号落ち込み、Ⅲ区5・12号井戸、23号土坑がⅢ区17号掘立柱建物、24号土坑がⅢ区1・9・13・16号掘立柱建物やⅢ区17号溝、Ⅲ区492・460号ピット、25号土坑がⅢ区8号掘立柱建物、26号土坑がⅢ区14・15号掘立柱建物、27号土坑がⅢ区8号掘立柱建物、28号土坑がⅢ区29号溝、30号土坑がⅢ区1・9・13・16・18・20号掘立柱建

## II 調査の記録



第132図 屋敷内土坑群の出土遺物

物、31号土坑がⅢ区7号掘立柱建物、32号土坑がⅢ区162号ピット、33号土坑が3区11号溝と重複するが、このうち3号土坑が18号溝、13号土坑が4号竪穴より新しいことを確認した以外、新旧関係は特定できなかった。

これらの土坑何れに対しても掘削意図は確認できなかった。しかし長方形、短冊形、溝形に類するものは一般的に屋敷遺構によく見られるもので、貯蔵穴の可能性が考慮されるものである。

**遺物** 4・25号土坑では軟質陶器鉢（303、304）、31号土坑では元祐通寶（305）の出土が見られ、4号土坑には大型の礫の投入が見られた。3・32号土坑では土師器片1片づつ、4号土坑では須恵器片1片、13号土坑では土師器片2片と須恵器片1の出土があったが、他の土坑からの遺物の出土は得られなかった。

**時期** 出土遺物から4号土坑は14世紀後半以降、25号土坑は14・15世紀以降の所産と確認されるものであったが、何れの土坑についても、その時期は特定できなかった。

**規模** 表37（Ⅲ区3面屋敷内所在土坑一覧）参照

**構造** 各土坑の主軸の方向は表37に示した通りだが、大きく見ると軸線は南北に取るもの15基、東西に取るもの9基、北西-南東方向に取るもの1基であった。またプランも表37に示した通りであるが、長方形のものが5基、短冊形1基、溝形3基、隅丸長方形8基、楕形1基、隅丸三角形1基、靴形1基、楕円形4基であり、中世屋敷遺構に多く見られる長方形、短冊形に類するものが26基中18基と多いことが分かる。

また掘削形態は7・27号土坑が柱穴形、14・15・17・22号土坑が箱掘形、28号土坑が挿鉢形を呈する以外は箱型に掘削されており、底面形態は記録にやや不備のある23・33号土坑以外についてみると、4・22・27号土坑がやや丸底である他は平底であった。

### (2-48) Ⅲ区屋敷内のピット群

（第133～135図、P L34・35・72）

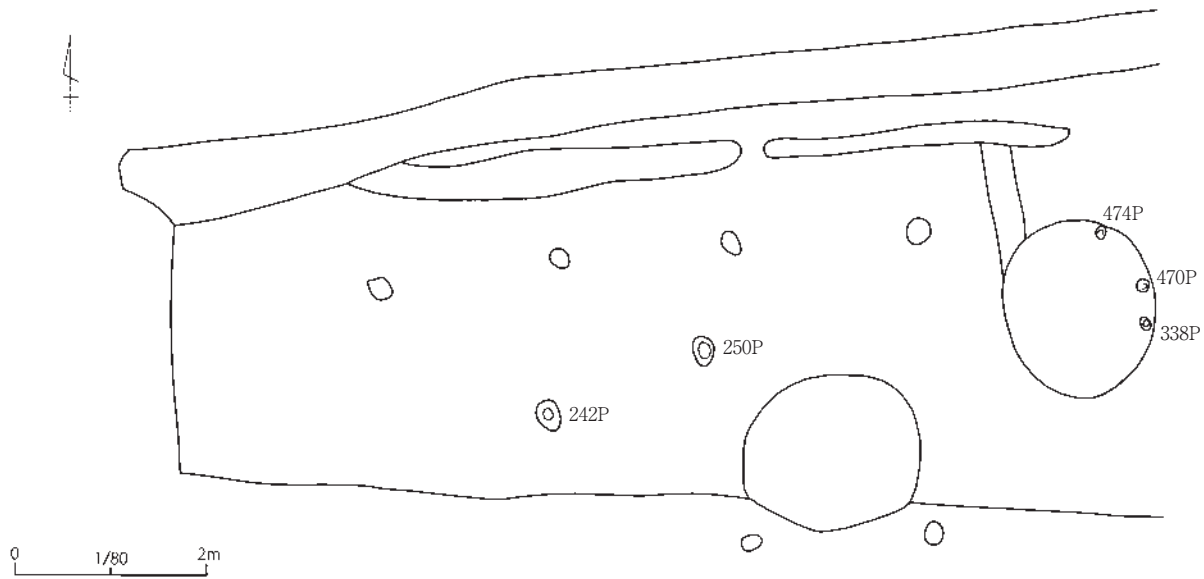
**概要** 屋敷内に於けるピットは、掘立柱建物として抽出したもの以外では、Ⅲ区1・4・9・12号ピット等、表38（Ⅲ区3面屋敷内ピット測定値一覧）に示した265基を確認、調査した。

これらのピットの多くはこれまでに各遺構の項で述べてきたように、掘立柱建物、竪穴、落ち込み、溝、井戸、土坑等多くの遺構と重複していたのであるが、新旧関係は特定できてない。また178・183号ピット、381～383号ピット等がピット同士で重複し

表38の1 Ⅲ区3面屋敷内ピット一覧(その1)

番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)	番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)	番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)
1	円形か	(10)×22	18	61B-7	109	楕円形	36×26	9	61B-9	235	隅丸方形	25×21	20	61B-6
4	楕円形	18×15	5	61B-8	112	方形	30×30	46	61B-10	236	楕円形	21×16	19	61B-6
9	円形	(43)×16	28	61B-7	113	長円形	23×21	40	61B-9	242	滴形	33×27	70	61E-11
12	楕円形	36×27	22	61B-7	115	楕円形	28×24	40	61B-10	245	不明	26×26	-	70S-11
13	楕円形	27×25	11	61B-7	116	隅丸長方形	21×14	26	61B-10	246	不明	26×26	-	70T-9
18	楕円形	27×20	46	61C-11	117	隅丸長方形	45×30	17	70T-10	247	隅丸長方形	(18)×26	50	61A-9
19	隅丸長方形	(56)×51	13	61C-8	118	隅丸三角形	38×37	17	70T-10	250	楕円形	33×26	48	61E-11
20					119	隅丸方形か	50×(27)	28	70T-10	254	隅丸方形	20×20	28	61C-7
21	楕円形	46×37	35	61B-9	120	隅丸方形	21×19	15	70T-11	256	楕円形	31×24	24	61C-9
22	隅丸長方形	31×20	36	61B-8	121	楕円形	19×15	22	70T-11	260	楕円形	26×20	24	70T-11
24	隅丸三角形	25×23	32	61A-10	122	楕円形	25×20	6	70T-11	261	隅丸方形	41×39	39	70T-11
27	楕円形	28×22	36	61A-10	124	隅丸長方形	49×24	18	70T-11	262	滴形	31×18	30	70T-11
28	楕円形	28×(24)	45	61B-8	126	楕円形	34×26	36	70T-11	269	楕円形か	23×(15)	11	61C-8
29B	長円形	(47)×12	39	61B-8	127	滴形	27×18	12	61A-10	270	隅丸台形	18×14	33	61A-10
31	隅丸方形	23×22	24	61A-10	131	楕円形	42×29	26	70T-11	271	楕円形	(31)×29	28	61C-7
34	楕円形	56×38	46	61C-11	133	隅丸方形	58×27	17	61C-8	272	長方形	45×26	17	61A-10
35	楕円形	36×29	31	61B-10	134	円形	29×28	20	61A-11	273	楕円形	42×26	17	61C-9
37A	楕円形	(27)×30	34	61B-8	135	隅丸三角形	37×33	33	61A-11	282	隅丸方形	20×19	19	61B-7
37B	楕円形	(19)×29	17	61B-8	137	隅丸長方形	40×27	22	70T-11	283	隅丸方形	30×27	36	61B-6
38	円形	26×25	27	61D-7	138	楕円形か	17×26	26	61A-6	285	楕円形	51×37	52	61C-9
41	円形	45×43	13	61B-9	139	隅丸方形	24×22	25	70T-11	286	楕円形	23×18	17	61C-10
42	円形	17×15	13	61B-8	140	楕円形	51×40	19	61S-12	287	楕円形	46×31	53	70T-11
44	楕円形	27×23	26	61C-8	146	楕円形	(20)×33	7	61C-9	288	楕円形	22×19	21	61B-9
48	隅丸方形	22×21	35	61C-8	148	楕円形	51×33	26	70S-11	289	隅丸長方形	44×26	43	61B-7
49	楕円形	32×29	37	61C-7	149	楕円形	25×37	32	61D-9	292	方形	57×56	50	61C-7
50B	楕円形か	(21)×29	14	61C-8	150	隅丸三角形	23×20	47	61C-11	294	楕円形	24×20	33	61A-10
50C	円形	26×23	13	61C-8	151	隅丸長方形	20×17	46	61C-8	296	楕円形	17×14	24	61A-11
51	円形か	36×(27)	27	61C-10	152	方形	23×21	22	61C-9	298	隅丸方形	31×28	24	61C-7
52	楕円形	68×45	7	61C-10	157	隅丸方形	23×23	54	61B-11	299	円形	28×25	5	61C-7
53	楕円形	36×25	17	61C-8	158	円形	27×28	41	61D-10	300	隅丸方形	24×21	15	70T-11
56	隅丸長方形	(60)×43	10	61D-8	161	楕円形	42×28	15	61C-10	302	楕円形	23×17	24	61C-8
60	楕円形	32×28	49	61C-8	162	隅丸三角形	31×30	17	61A-11	303A	楕円形	25×24	51	61D-8
61	隅丸方形	21×19	23	61C-10	167	円形か	34×(21)	9	61C-10	303B	楕円形	34×29	31	70T-13
63	隅丸方形	33×31	14	61D-7	169	隅丸長方形	57×38	44	70T-10	304	滴形	34×23	57	61A-13
65	楕円形	21×23	32	61D-7	170	円形	20×30	21	70T-10	310	隅丸長方形	(18)×21	15	61A-7
66	隅丸三角形	28×25	31	61D-8	171	隅丸台形	37×30	14	61C-10	317	隅丸方形	26×23	46	61B-8
68	円形	25×23	24	61C-8	173	楕円形	26×25	53	61C-10	318	長円形	41×25	26	61B-8
70	隅丸三角形	26×23	30	70S-11	175	隅丸台形	36×30	30	61C-11	320	隅丸三角形	33×30	35	61B-8
73	楕円形	31×26	41	61C-8	176	楕円形	31×30	20	61D-11	321	楕円形	39×29	56	61A-10
74	隅丸方形	26×25	38	61C-8	177	楕円形	27×22	27	61C-7	322	隅丸長方形	23×17	37	61C-10
79	楕円形	(31)×35	14	61C-8	178	楕円形	45×33	38	70T-10	323	隅丸台形	34×31	43	61B-10
80	楕円形	54×38	26	61C-8	183	楕円形	(20)×22	17	61A-10	326	隅丸方形	(23)×29	56	61B-8
81	楕円形	64×32	52	61C-7	188	隅丸長方形	51×45	12	61C-11	327	楕円形	(15)×23	-	61B-8
82	楕円形	36×23	45	61C-8	191	円形	21×21	13	61D-12	331	隅丸方形	21×21	-	61B-8
84	隅丸台形	48×35	13	61C-8	192	円形	21×19	31	61D-11	332	楕円形	33×(26)	58	61D-11
85B	楕円形	(40)×27	28	61C-7	195	隅丸方形	26×26	27	70S-11	333	楕円形	31×(19)	20	61D-11
87	楕円形	36×27	52	61B-9	197	隅丸台形	30×30	19	70T-11	334	長円形	101×58	31	61C-8
89	楕円形か	33×(17)	12	61B-9	199	楕円形	31×25	18	70T-10	335	滴形	90×53	10	61C-10
90	隅丸方形	23×21	46	61B-8	204	隅丸長方形	26×22	18	70T-11	336	円形	26×23	21	61B-7
91	円形	31×27	62	61B-9	205	円形	22×18	21	61B-7	338	楕円形	15×10	-	61E-10
92A	楕円形	30×21	4	61B-9	206	円形か	58×31	68	70S-11	340	楕円形	45×35	26	61B-7
94	円形	20×18	12	61B-9	209	楕円形	35×29	13	61A-9	342	円形	49×30	43	61C-8
95	楕円形	18×15	17	61B-6	212	楕円形	40×29	34	61C-8	346	隅丸三角形	24×23	38	61C-10
96	楕円形	28×23	17	61A-9	224	楕円形	65×50	7	61C-8	348	円形	31×30	37	61C-8
97	隅丸長方形	35×31	33	61A-9	226	楕円形	77×42	32	61C-9	350A	隅丸方形か	(39)×(24)	-	61C-8
98	隅丸長方形	(25)×29	29	70T-10	227	長方形	27×22	26	61B-8	350B	楕円形	33×(32)	84	61C-8
99	楕円形か	50×(18)	26	70T-10	228	隅丸方形か	33×(23)	5	61B-7	351	楕円形	12×12	34	61C-7
101	隅丸長方形	(16)×33	30	61B-9	231	円形	25×22	30	61B-8	352	円形	27×23	43	61C-8
103	円形	30×23	31	61B-9	233	楕円形	25×17	14	61C-10	355	楕円形	27×18	-	61A-9

II 調査の記録



第133図の1 屋敷内のピット群 (その1)

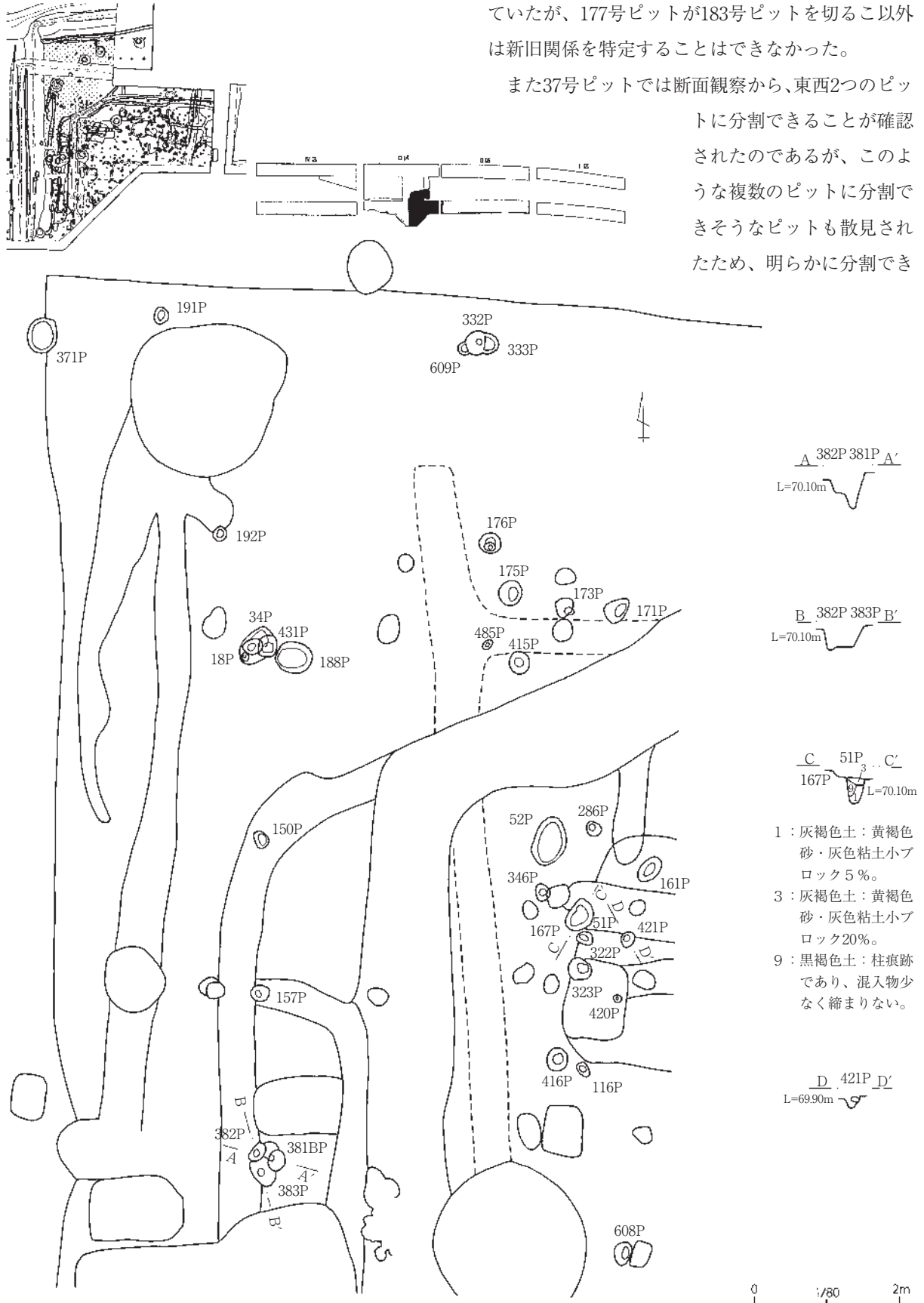
表38の2 Ⅲ区3面屋敷内ピット一覧(その2)

番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)	番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)	番号	平面形	径 (cm)	深さ (cm)	グリッド (Grid)
360	楕円形	23×22	17	70T - 11	401	隅丸長方形	24×18	56	61B - 9	463	円形	15×13	41	61B - 10
361	隅丸三角形	28×24	18	70T - 11	402	楕円形	31×23	67	61D - 7	464	円形	18×17	45	61B - 7
362	隅丸方形か	41×(16)	49	70T - 10	403	隅丸台形	16×14	50	61B - 9	466	円形	19×17	47	61C - 8
363	楕円形	52×31	-	61B - 7	404	円形か	(14)×26	59	61A - 7	470	楕円形	17×10	40	61E - 10
364	楕円形	35×27	-	61D - 7	405	円形	21×18	32	61B - 7	471A	楕円形	36×23	56	61C - 8
366	円形	24×23	46	70T - 10	410	楕円形	18×13	31	61B - 8	471B	隅丸方形	32×27	68	61C - 8
370	楕円形	30×22	18	61A - 10	411	長方形	18×12	38	61B - 8	474	楕円形	17×10	24	61E - 10
371	円形	49×42	16	61D - 12	412B	隅丸台形	16×13	50	61B - 3	475	楕円形	23×22	26	61B - 6
372	隅丸方形	35×29	56	61B - 10	415	円形	32×29	51	61C - 11	476	楕円形	28×23	38	61B - 6
373	隅丸方形	27×24	34	61B - 10	416	円形	30×28	43	61B - 10	477	円形	25×23	32	61B - 7
374	隅丸長方形	25×22	-	61B - 10	420	円形	13×12	33	61B - 10	478	隅丸方形	20×16	53	61B - 7
376	円形	(15)×15	18	61A - 9	421	隅丸方形	21×19	38	61C - 10	479	隅丸方形	15×15	44	61B - 7
377	円形	23×22	-	61A - 9	424	円形	11×11	17	61C - 10	480	隅丸方形	19×18	25	61B - 7
379	円形	26×23	-	61C - 10	425	楕円形	19×16	54	61B - 9	481	隅丸方形	31×29	31	61C - 7
381B	豆形	30 28	47	61B - 11	426A	隅丸方形	19×8	41	61C - 10	482	隅丸方形	62×21	57	61C - 6
382	楕円形	30×17	36	61B - 11	426B	楕円形	21×21	56	61C - 9	484A	方形	24×(21)	10	61A - 10
383	楕円形	(37)×(23)	33	61B - 11	431	方形	29×28	52	61C - 11	484B	隅丸方形	20×19	18	61A - 9
384	楕円形	55×52	34	70T - 11	433	円形	23×17	20	61C - 10	485	方形	13×11	40	61C - 11
386	隅丸長方形	61×46	28	70S - 12	442	隅丸三角形	18×15	44	61A - 11	486	円形	23×21	43	61C - 10
387	隅丸長方形	23×16	46	70T - 10	443	隅丸方形	19×8	67	61C - 8	488	楕円形	17×15	18	70S - 11
388	隅丸方形	33×28	35	61A - 10	444	隅丸長方形	24×20	49	61B - 8	489	隅丸長方形	(15)×19	47	61B - 8
389	隅丸方形	28×24	39	61A - 11	445	楕円形	28×23	40	61D - 9	601	楕円形	22×15	10	70T - 11
391	方形	17×16	44	61A - 10	447	隅丸方形	27×27	45	61D - 9	602	楕円形	17×21	27	61A - 9
392	方形	28×23	30	61A - 9	448	隅丸方形	21×21	49	61B - 9	603	隅丸方形	17×(11)	31	61A - 10
394	隅丸長方形	34×27	27	61A - 10	450	楕円形	33×27	36	61B - 8	604	楕円形	23×13	30	70T - 11
396	楕円形	26×21	49	61A - 10	456B	長方形	18×16	35	61B - 7	605	楕円形	14×(13)	42	61B - 8
397	方形	23×21	46	61A - 10	458	隅丸長方形	18×14	55	61C - 8	606	楕円形	16×14	40	61B - 8
398	隅丸方形	17×16	42	61A - 10	459	方形	33×29	-	61B - 7	607	長方形	42×42	11	61B - 8
399	楕円形	16×13	31	61A - 9	460	隅丸長方形	95×63	25	61B - 7	608	長方形	32×24	64	61B - 11
400	隅丸長方形	33×23	70	61A - 9	462	楕円形	17×-	-	61C - 7	609	円形	18×(12)	5	61D - 11

ていたが、177号ピットが183号ピットを切るこ以外は新旧関係を特定することはできなかった。

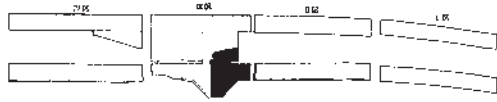
また37号ピットでは断面観察から、東西2つのピット

に分割できることが確認されたのであるが、このような複数のピットに分割できそうなピットも散見されたため、明らかに分割でき



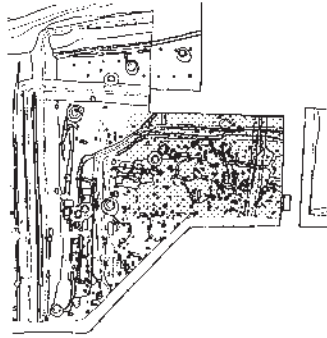
第133図の2 屋敷内のピット群 (その1)

II 調査の記録



るものは分割して報告する。

これらのピットには掘立柱建物や柵列等の一部を成す



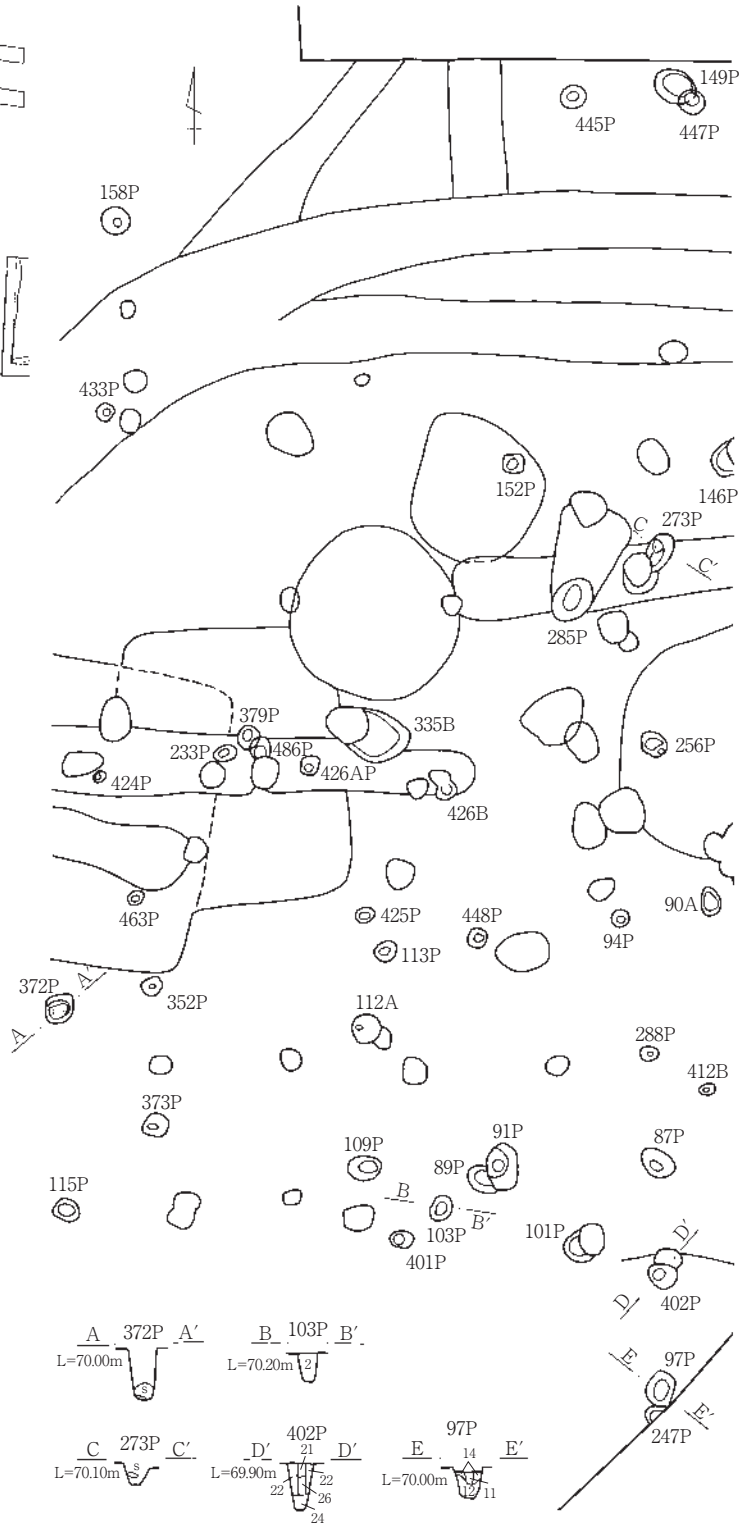
ものと想定できるものもあるが、個々のピットそれぞれについて、掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は22号ピットからは砥石 (306)、41号ピットからは鉄棒 (307)、119号ピットからは刀子 (308) と不明鉄製品 (309)、464号ピットからは凹石1点の出土が見られた。

**時期** 何れのピットも中世の所産として把握される以外、時期特定には至らなかった。

**規模** 表38の1 (Ⅲ区3面屋敷内ピット測定値一覧 (その1)) 及び表38の2 (Ⅲ区3面屋敷内ピット測定値一覧 (その2)) 参照

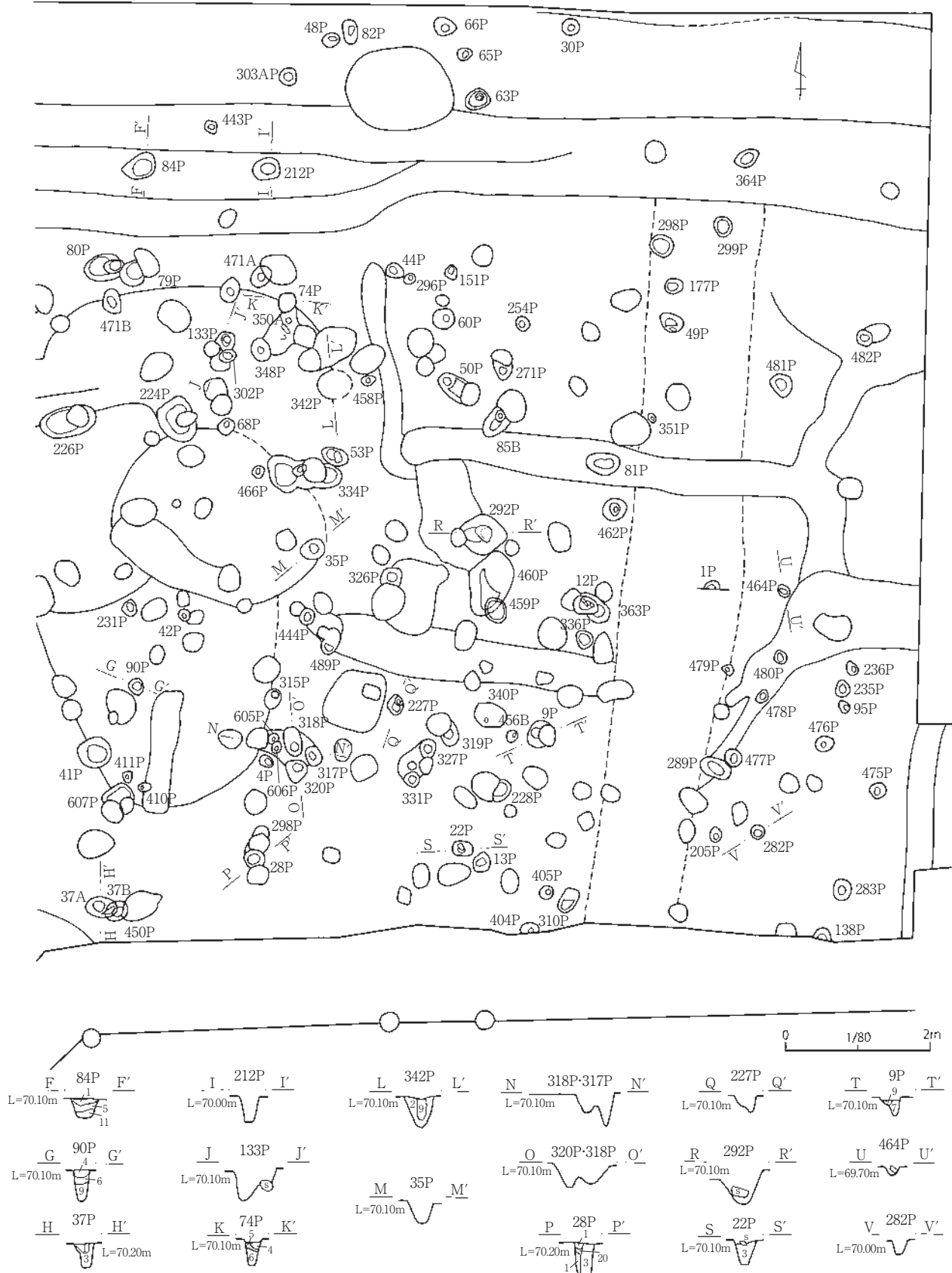
**構造** 個々のピットのプランは表38の1・2に示したが、方形10基、隅丸方形42基、長方形10基、隅丸長方形28基、隅丸台形9基、隅丸三角形11基、



- 1 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。
- 3 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 20%。
- 4 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 40%。
- 5 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 5%。
- 6 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 10%。
- 7 : 灰褐色土 : 黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 20%。
- 9 : 黒褐色土 : 柱痕跡、混入物少なく締まりない。
- 11 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。

- 12 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 10%。
- 14 : 黒褐色砂質土 : Ⅲ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 40%。
- 20 : 褐色砂質土 : Ⅳ B 層土。
- 21 : 褐色砂質土 : Ⅳ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 5%。
- 22 : 褐色砂質土 : Ⅳ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 10%。
- 24 : 褐色砂質土 : Ⅳ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック 40%。
- 26 : 褐色砂質土 : Ⅳ B 層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック 10%。

第134図の1 屋敷内のピット群 (その2)



第134図の2 屋敷内のピット群 (その2)

II 調査の記録

円形44基、楕円形104基、滴形5基、豆形1基、形状不特定2基を数えることができた。またこれらを方形に属するものと円形に属するものとに大別すると、方形110基、円形154基となり、円形の方がや

や多い。

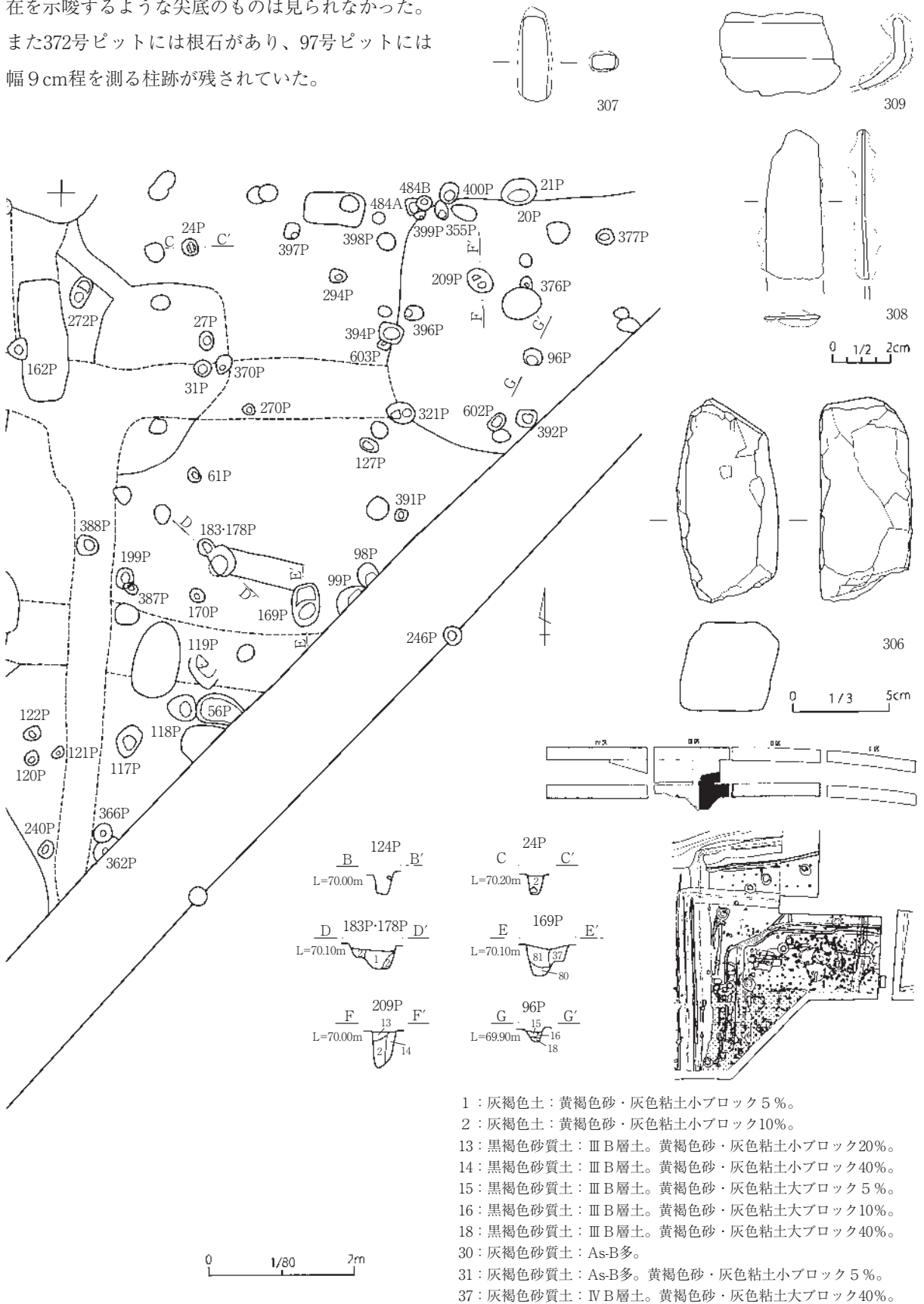
ピットの掘削形態は何れも柱穴状と認められるが、底面形態は断面の記録化できたものについて見ると丸底のものと平底のものが半々であり、杭の存



第135図 屋敷内のピット群 (その3)



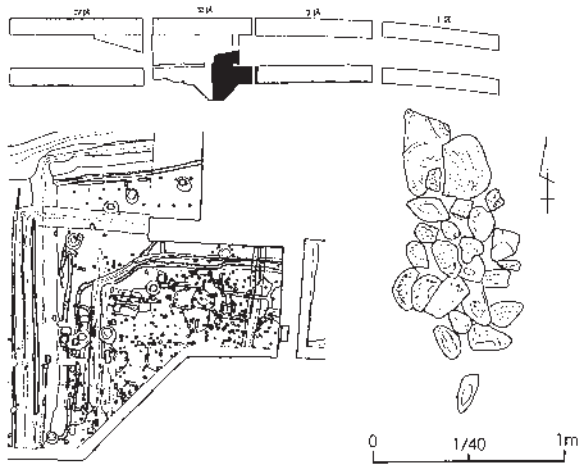
在を示唆するような尖底のものは見られなかった。  
 また372号ピットには根石があり、97号ピットには  
 幅9cm程を測る柱跡が残されていた。



- 1：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 2：灰褐色土：黄褐色砂・灰色粘土小ブロック10%。
- 13：黒褐色砂質土：ⅢB層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック20%。
- 14：黒褐色砂質土：ⅢB層土。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック40%。
- 15：黒褐色砂質土：ⅢB層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック5%。
- 16：黒褐色砂質土：ⅢB層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック10%。
- 18：黒褐色砂質土：ⅢB層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。
- 30：灰褐色砂質土：As-B多。
- 31：灰褐色砂質土：As-B多。黄褐色砂・灰色粘土小ブロック5%。
- 37：灰褐色砂質土：ⅣB層土。黄褐色砂・灰色粘土大ブロック40%。

第135図 屋敷内のピット群（その3）と出土遺物

## II 調査の記録



第136図 Ⅲ区1号集石

### (2-49) Ⅲ区1号集石 (第136図、P L50)

**概要** Ⅲ区1号集石は屋敷西部のⅢ区18号溝内西寄り、Ⅲ区2・3号井戸の間に遺されていた。

本集石と18号溝との新旧関係は特定できなかったが、18号溝を利用した礫の廃棄跡と見られる。また近接する3号井戸でも礫の投棄が多く見られたことから両者に関連のある可能性も考慮される。

尚、本集石から出土した礫は長径10~45cmと大きいことから、投石用の礫とは認められるようなものではなかった。

**遺物** 礫25個が確認された。

**時期** 本集石は18号溝を利用していると見られるが、時期の特定には至らなかった

**規模** 径 160×69cm

**構造** 本集石は南北に長い楕円形プランの範囲に礫が集中して遺存するものであった。

### (3) Ⅳ区1号掘立柱建物 (第137図)

**概要** 本建物はⅣ区南側調査区中部北西寄りに位置しているが、他の遺構との重複は見られなかった。

本建物は4基の柱穴のみの確認であったが、遺構の確認状況等に照らして北側調査外に延伸するものと判断される。

**遺物** 本建物の出土遺物は得られなかった。

**時期** 本建物の時期は特定はできなかったが、As-B堆積面の上層より掘削され、梁間一間型の掘

立柱建物と想定されることから中世の所産と認識される。

**規模** 範囲 525×289cm

**建物規模** (139) × 363cm

**梁間** 242~261cm (平均 251.50cm)

**桁間** 441~473cm (平均 457.00cm)

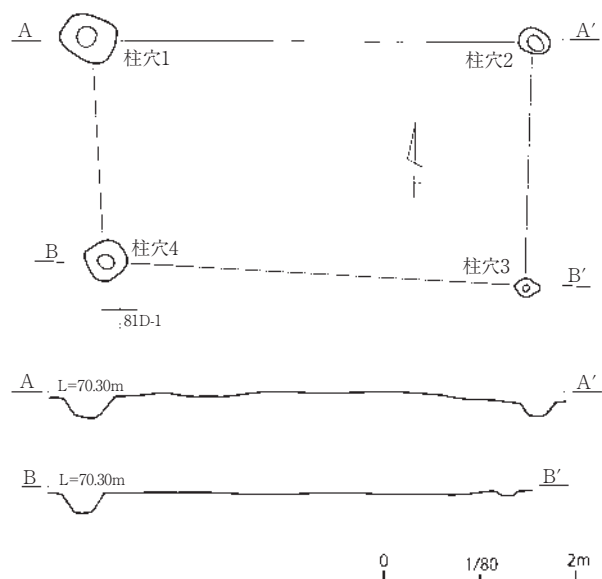
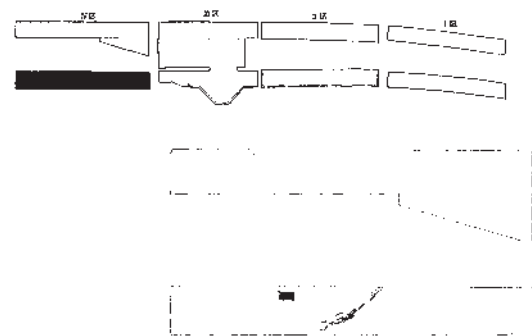
**柱穴1** 径 58×50cm 深さ 23cm

**柱穴2** 径 32×26cm 深さ 17cm

**柱穴3** 径 42×41cm 深さ 22cm

**柱穴4** 径 22×21cm 深さ 6cm

**構造** 本建物は棟方向をN-E 3°に取る、2.4m基準に基づくと認識される梁間一間型の掘立柱建物で、調査段階で北側に延伸するものと想定されている。尚、現況に於いては、南西隅の柱穴が東に寄っていることが確認される。



第137図 Ⅳ区1号掘立柱建物

柱穴の規模にはばらつきがあり、プランは何れも隅丸台形様で、根石は見られない。

柱穴の掘削底面は何れも平底気味である。

#### (4) I区8・9号溝 (第138図、P L40・69)

**概要** I区8・9号溝はI区南側調査区に位置している。共に東西が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかったが、位置的に見て8・9号溝の何れかが後述のII区6号溝に続くものと認識される。

両溝は重複するが8号溝の方が新しい。また9号溝はI区10・11・12号溝とも重複するが、11号溝より新しいものの、他の溝との新旧は特定できなかった。尚、土層断面観察から9号溝は1回以上の掘り直しの実施が確認されている。

両溝共に掘削意図は明瞭ではないが、埋土に砂が多いことから水路の可能性も考慮される。

**遺物** 8・9号溝からは土師・須恵片や陶器片、礫等の出土があったが、8号溝からは土師器杯(181)・甕(182)、軟質陶器鉢(183)・甕(184)・焙烙(185)、青磁碗(186)、板碑(187)、馬歯(188・189)、9号溝からは灰釉陶器碗(190)、軟質陶器鉢(191)・甕(192・193)、青磁碗(194)、古瀬戸卸目皿(195)の出土が見られた。

**時期** 出土遺物から9号溝は15世紀後半以降の所産と認識され、従って8号溝もそれ以降と判断されるものの、何れも時期特定には至らなかった。

**規模** 8号溝 長さ 8,554cm 幅 289cm  
深さ 61cm

9号溝 長さ 5,696cm 幅 391cm 深さ 45cm

**構造** 8・9号溝は上述のように東西が調査区外に出ているため、全容を詳らかにできなかったが、調査区内に於いて両溝は並走しており、西半部ではE-S3°を向いて直線的に、東半部では反時計回りに緩やかな弧を描いて9号溝はE-N 17°、8号溝はE-N12°を向き、東端部でE-S2°に軸方向を変じて共に直線的に調査区外に抜けている。

共に掘削形態は箱堀状を呈する。

#### (5) I区10・11・12号溝 (第139図、P L69)

**概要** I区10・11・12号溝はI区南側調査区西寄りに位置する。このうち12号溝は北に延伸し、I区北側調査区の西寄りにその一部が現れている。

南側調査区で10・11・12号溝は並走しているのであるが、10号溝と11号溝は5.4m、11号溝と12号溝は12.1m程隔たって位置している。また3条共に南側でI区9号溝に重複しているのであるが、10・11・12号溝のそれ以南への延伸は認められなかった。一方北側は何れも調査区外に出てしまっているが、上述のように12号溝だけは北側調査区に延びていて北端がI区15号溝と重複しており、それ以北への延伸はやはり確認されていない。尚、9号溝と10～12号溝の重複では、11号溝が9号溝を切ることが確認されたものの、それ以外の新旧関係を特定することはできなかった。また同じく重複する12・15号溝についても、その新旧関係を特定することはできなかった。

10・11・12号溝の掘削意図を特定することはできなかった。尚、11号溝は明らかに人為的に埋められていることが記録されている。

**遺物** 11号溝からは土師器片、礫が1点ずつの出土があった、尚、10号溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 9号溝との重複関係から11号溝は15世紀後半以前の所産と判断されるものの、何れの溝についても時期特定には至らなかった。

**規模** 10号溝 長さ 703cm 幅 125cm  
深さ 40cm以内

11号溝 長さ 766cm 幅 141cm

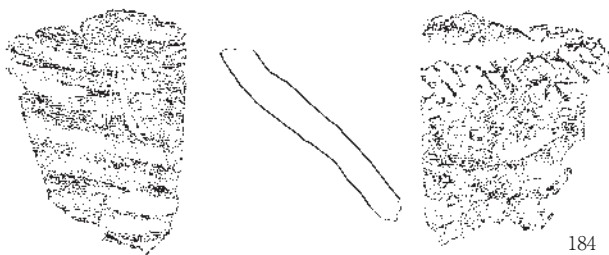
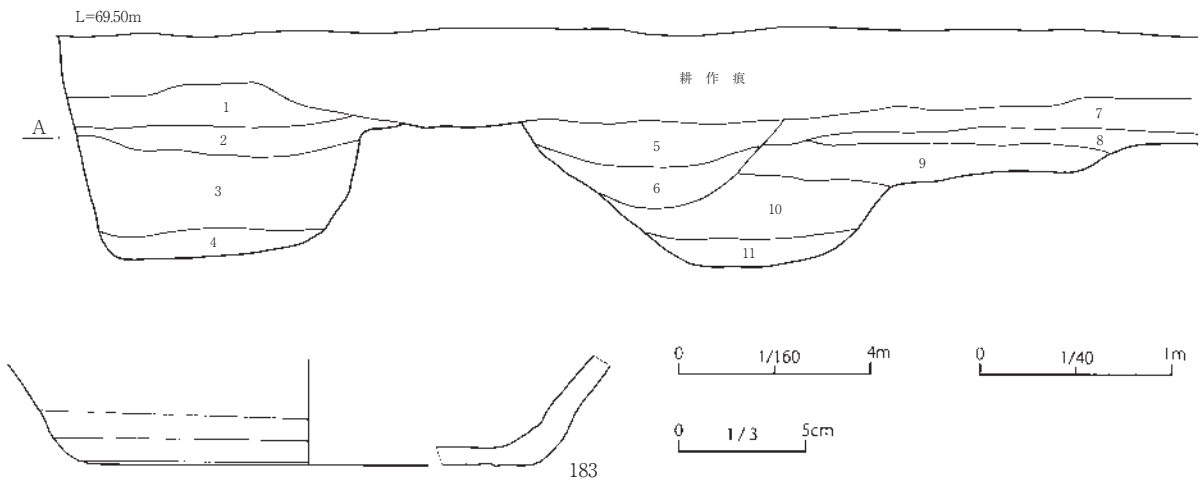
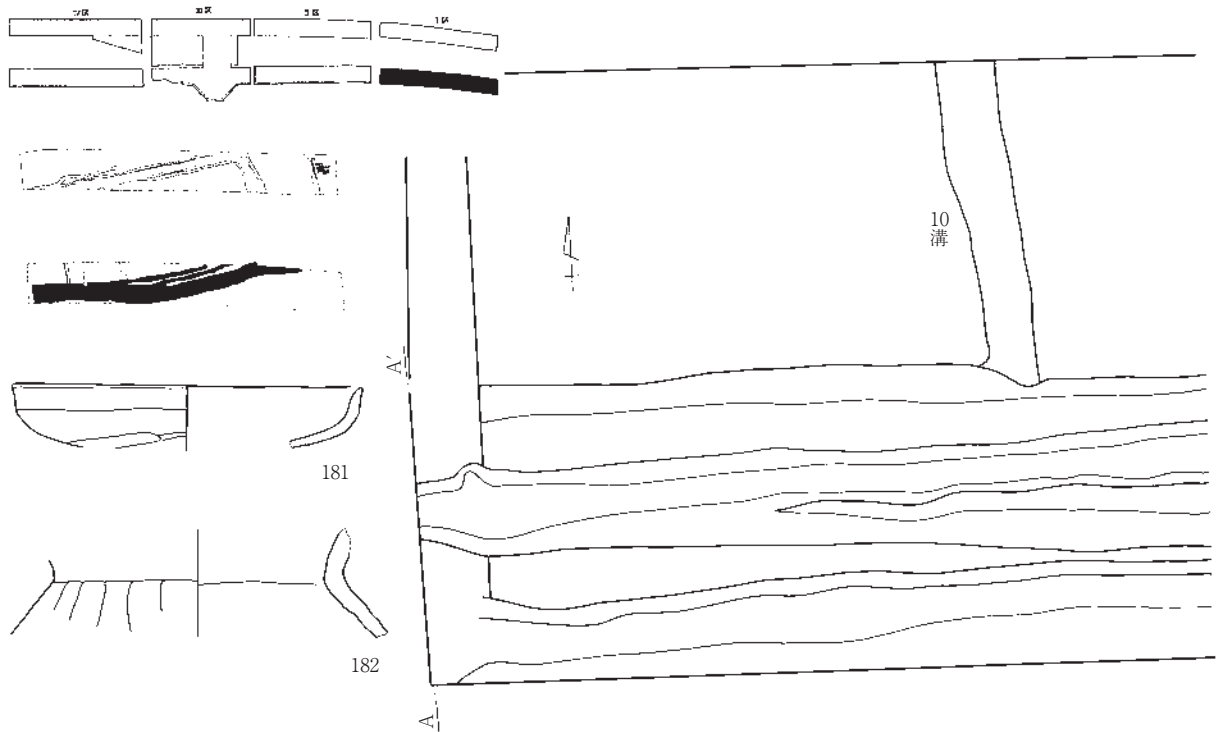
深さ 55cm以上

12号溝 長さ 3,462cm (北側調査区：150cm

南側調査区：874cm) 幅 251cm 深さ 55cm

**構造** 走行の方向は10号溝がN-W3°、11号溝がN-E1°、12号溝が北調査区でN-W30°、南調査区でN-W7°を向くものであったが、共にプランは若干蛇行は見られるものの、概ね直線的な傾向が窺がわ

II 調査の記録



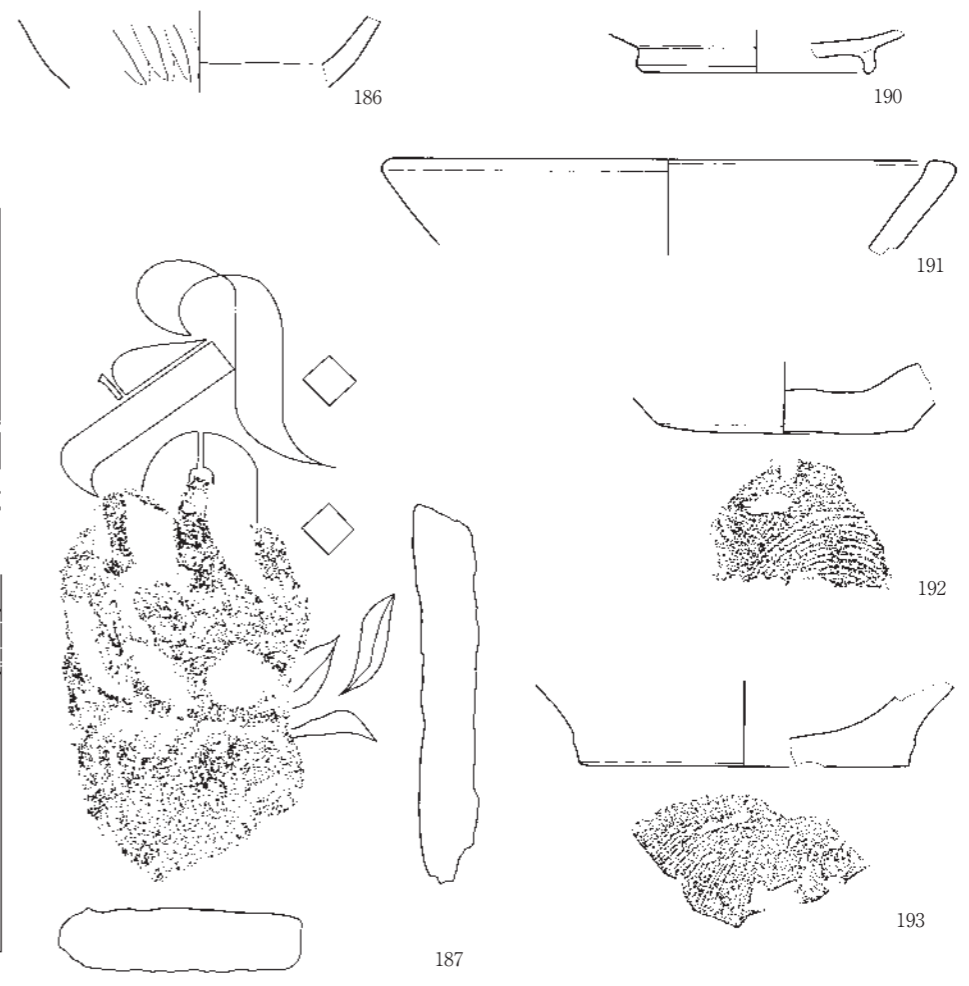
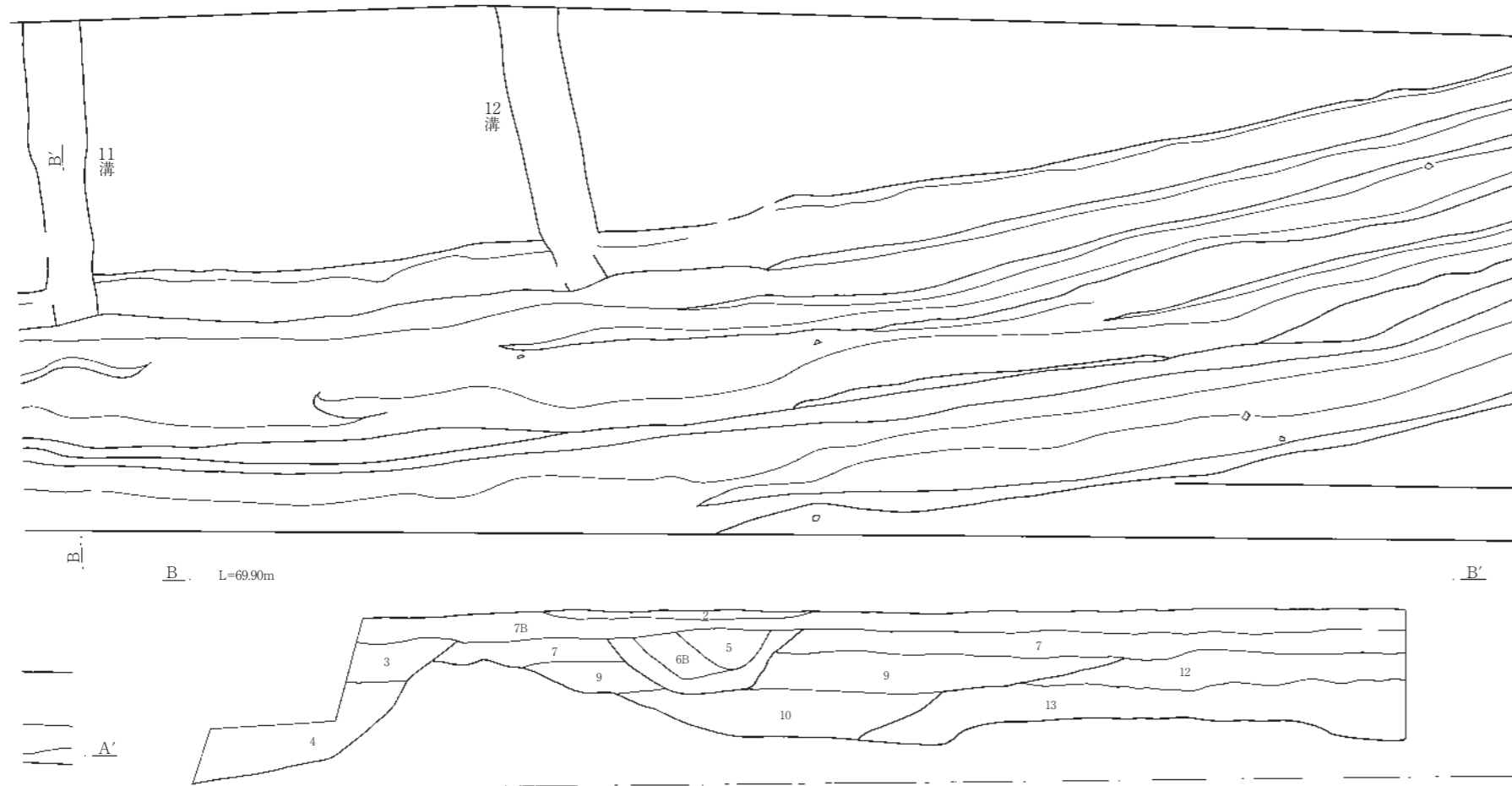
第138図 I区8・9号溝と出土遺物

れるものであった。

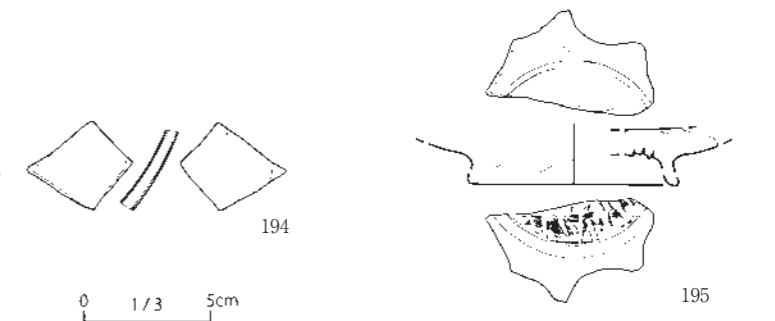
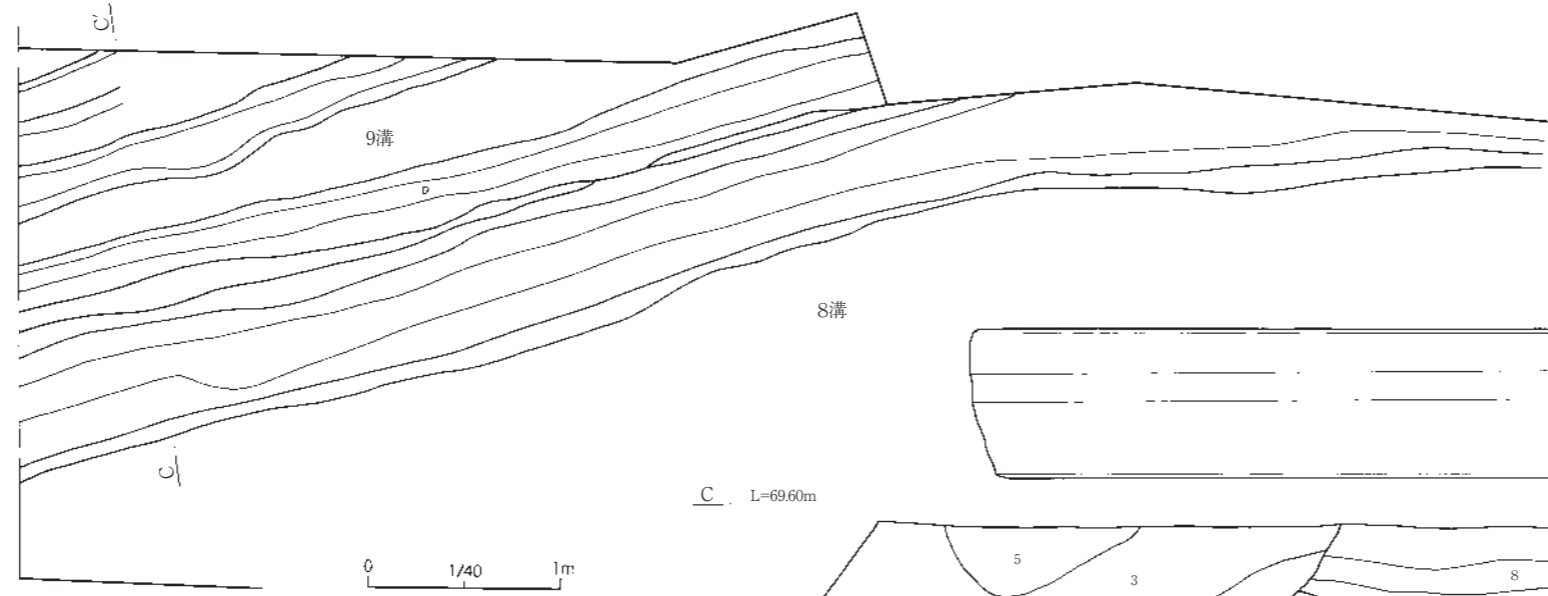
掘削形態は共に箱堀状を呈するものであった。

(5) I区13・14・15・16・17・18・19号溝 (第140図、P L69)

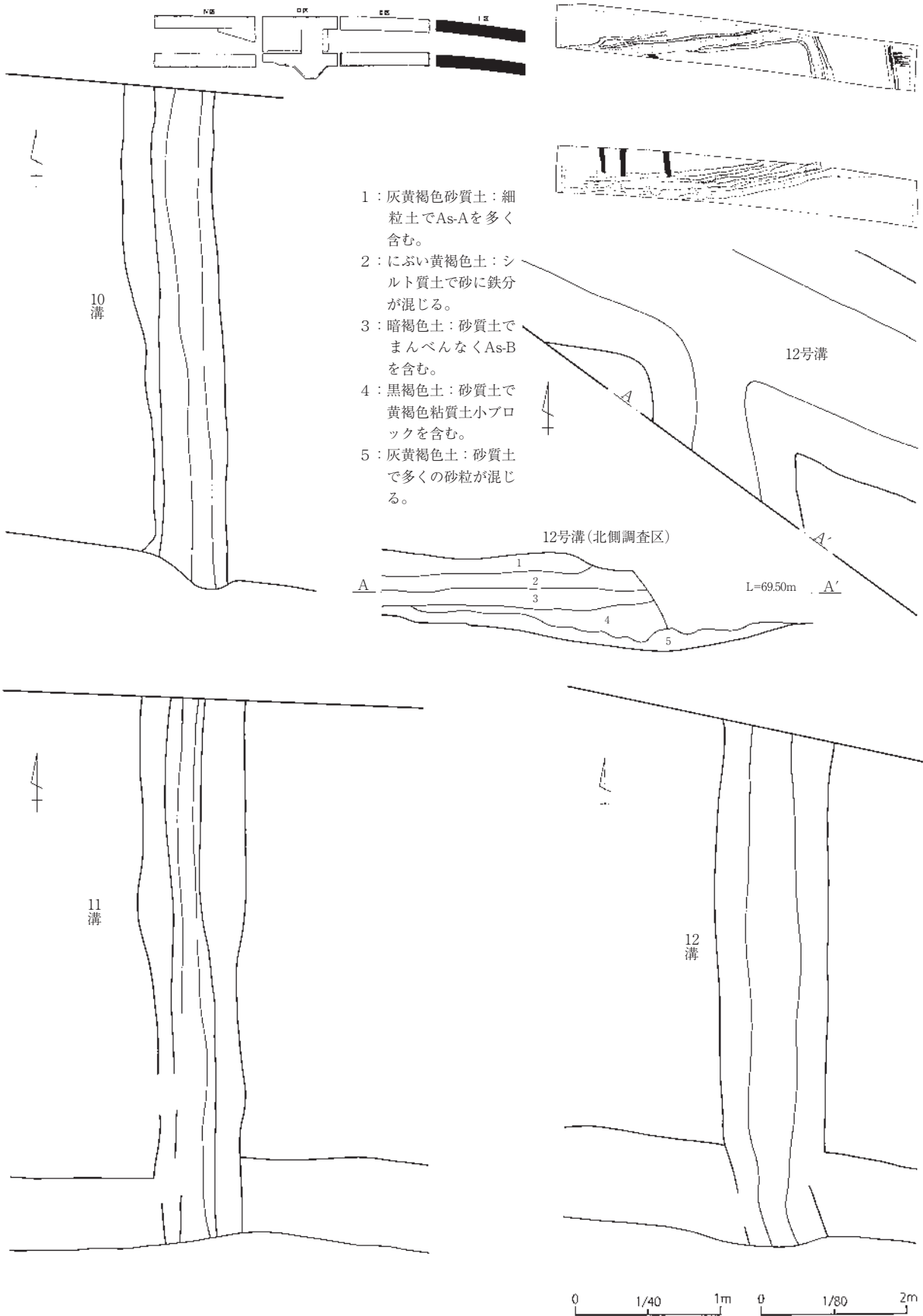
概要 I区13・14・15・16・17・18・19号溝はどれもI区北側調査区に位置するが、位置関係と規模から15号溝と16号溝は同一の溝と見られる。また13・15号溝は西側、14号溝は東西両側、16・17・19号溝は南側、18号溝は南北両側が調査区外に出ていて全容は把握できなかった。尚、16～19号溝は南側調査区に現れないため、南北両調査区の間で走行を(東に)変ずるか、Ⅲ区8・9号溝



- 1：にぶい黄褐色土：細粒土でAs-A含む。
- 2：褐色土：細粒土でAs-A多く含む。
- 3：にぶい黄褐色土：シルト質土で僅かな砂混じる。
- 4：にぶい黄褐色土：シルト質土で砂が混じる。
- 5：にぶい黄褐色土：シルト質土で砂に鉄分混じる。
- 6：灰黄褐色土：砂質土で僅かな砂粒混じる。
- 6b：にぶい黄褐色土：砂質土で締まりを欠く。
- 7：黄褐色土：シルト質土で鉄分混じる。
- 7B：黄褐色土：シルト質土
- 8：にぶい黄褐色土：シルト質土
- 9：褐灰色土：砂質土でAs-Bを含む。
- 10：灰黄褐色土：砂質土でまんべんなく砂粒混じる。
- 11：灰黄褐色土：砂質土で多くの砂粒が混じる。
- 12：暗褐色土：砂質土でまんべんなくAs-Bを含む。
- 13：褐色土：砂質土で黄褐色粘質土小ブロックを含む。

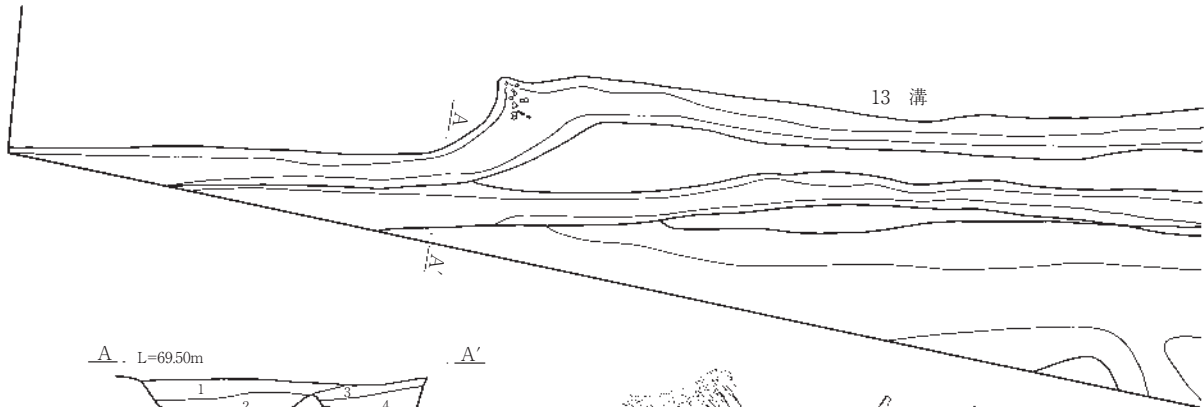


第138図の2 I区8・9号溝と出土遺物



第139図 I区10・11・12号溝

II 調査の記録

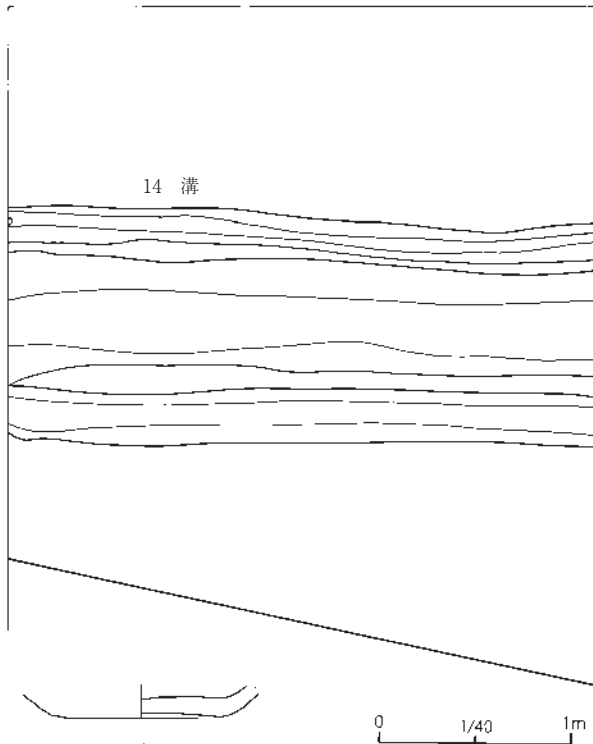
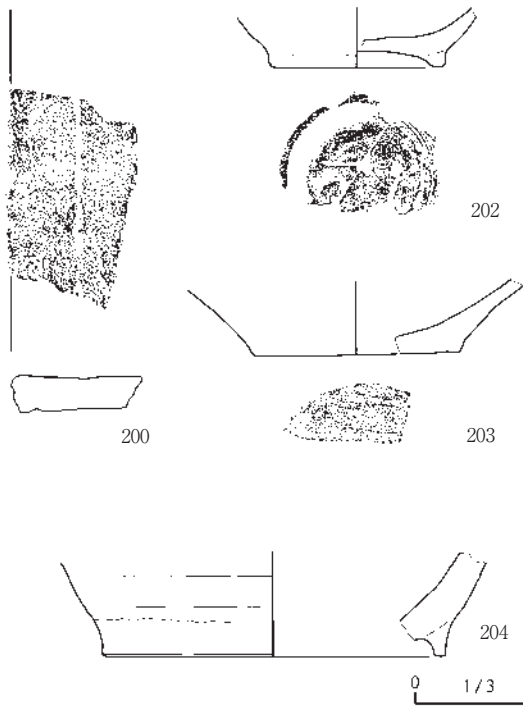


(13・14号溝)

- 1：暗褐色土：砂質土で砂に鉄分が混じる。
- 2：暗褐色土：砂質土でわずかな砂粒が混じる。
- 3：暗褐色土：砂質土で細かなAs-Bを僅かに含む。
- 4：暗褐色土：砂質土でAs-Bを含む。
- 5：黒褐色土：暗褐色土に砂粒がラミナ状に堆積する。



509



(17・18・19号溝)

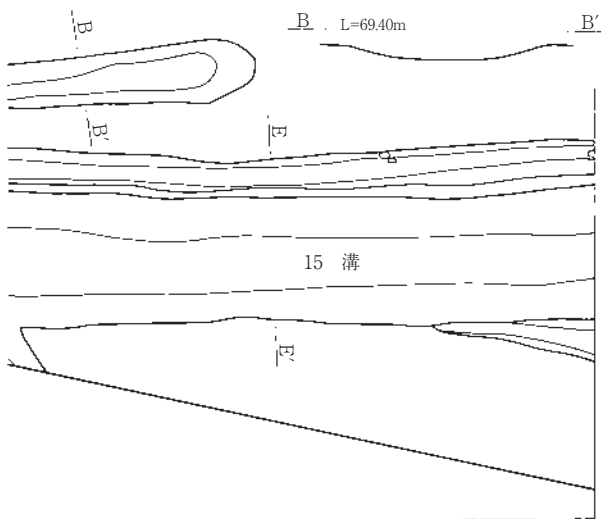
- 1：褐色土：シルト質土
- 2：灰黄褐色土粘質土
- 3：にぶい黄褐色土：砂質土で細かなAs-Bを含む。
- 4：灰黄褐色土：砂質土で多くの鉄分を含む。
- 5：黒褐色土：砂質土で砂粒を多く含む。
- 6：黒褐色土：砂質土で細かなAs-Bを含む。
- 7：黒褐色土：砂質土で粘質土を大ブロック状に含む。
- 8：暗褐色土：砂質土でAs-Bを含む。
- 9：黒褐色土：黄褐色粒と砂粒が混在する。



205



第140図 I区13・14・15号溝と出土遺物



に流入した可能性が考慮される。

13・14・15・17号溝の4条と、16・17・18・19号溝の4条はそれぞれ重複しつつ並走する。このうち前者は13・14・15号溝の順に古く、15号溝と17号溝の新旧は不特定。一方後者は16号溝を17・19号溝が切り、19号溝を18号溝が切る。尚、15号溝はI区12号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。

また各溝の掘削意図は特定できなかった。



(I区14・15号溝)

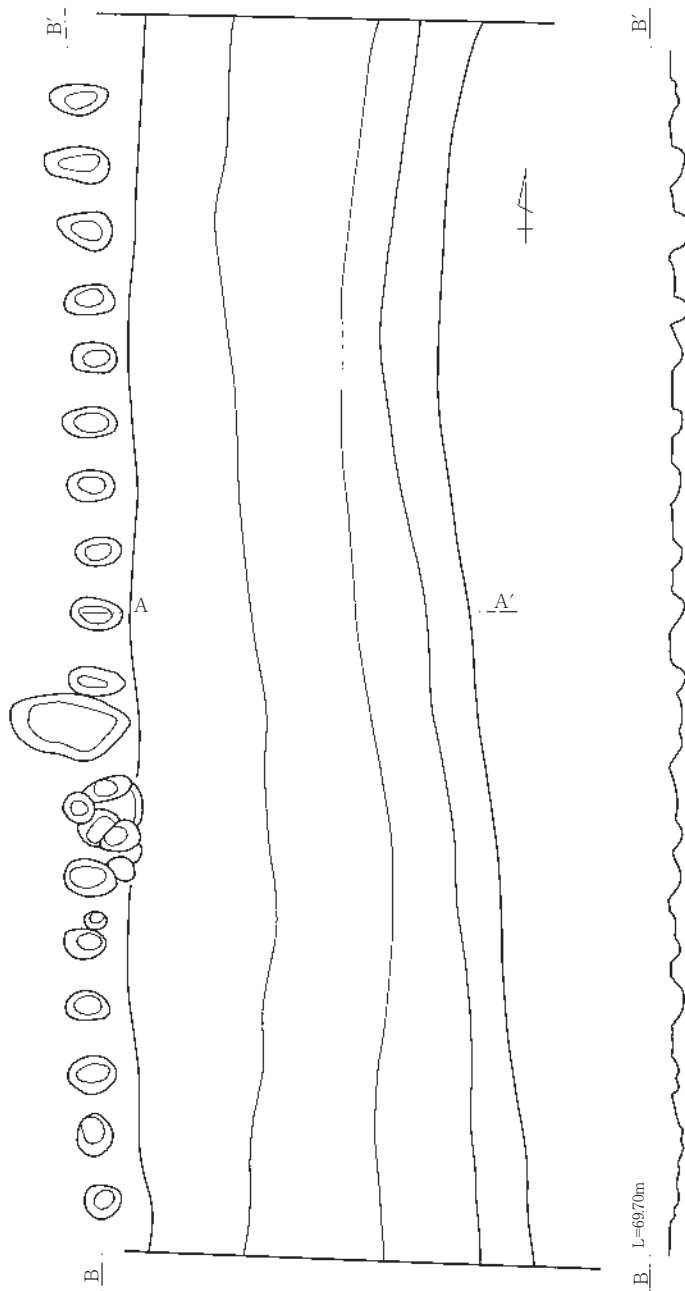
- 1：暗褐色土：砂質土で細かなAs-Bを僅かに含む。
- 2：暗褐色土：砂質土でAs-Bを含む。
- 3：黒褐色土：暗褐色土に砂粒がラミナ状に堆積する
- 4：暗褐色土：砂質土で細かなAs-Bを含む。
- 5：黒褐色土：砂質土でAs-B多く含む。
- 6：黒褐色土：砂質土でAs-Bと黄褐色粘質土小ブロックを含む。
- 7：黒褐色土：細かな砂質土。



第140図 I区13・14・15・16・17・18・19号溝と出土遺物



II 調査の記録

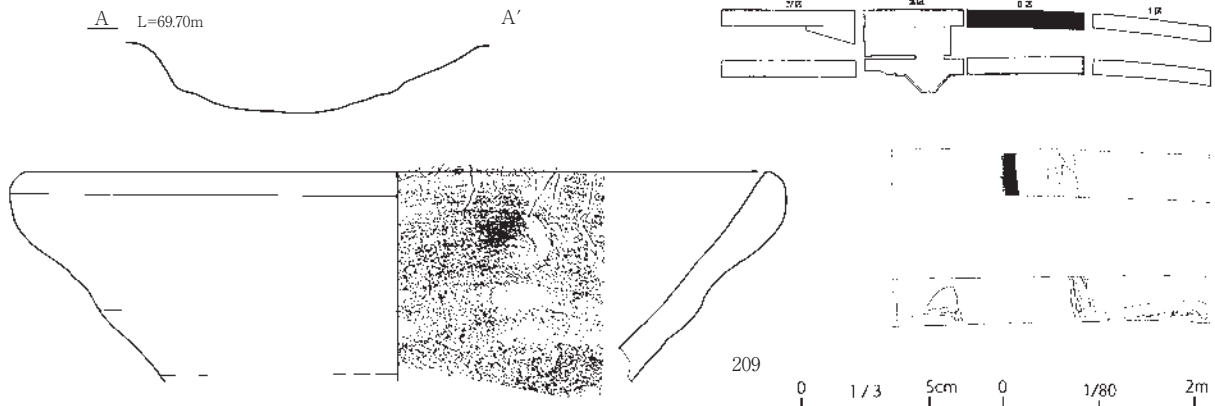


遺物 17・19号溝からの出土遺物は見られなかったが、13号溝からは軟質陶器内耳鍋や播鉢（509・197）、陶磁器片、馬歯（198）及び不明骨（199）等、14号溝からは僅かな土師器片や板碑（200）、15号溝からは須恵器碗（202）、甕（203）等の若干の土師器片や軟質陶器瓶（204）、16号溝からは若干の土師器片や須恵器坏（205）、石鏃（206・505）、馬歯等（207・208）、18号溝からは僅かな陶磁器片の出土が得られた。

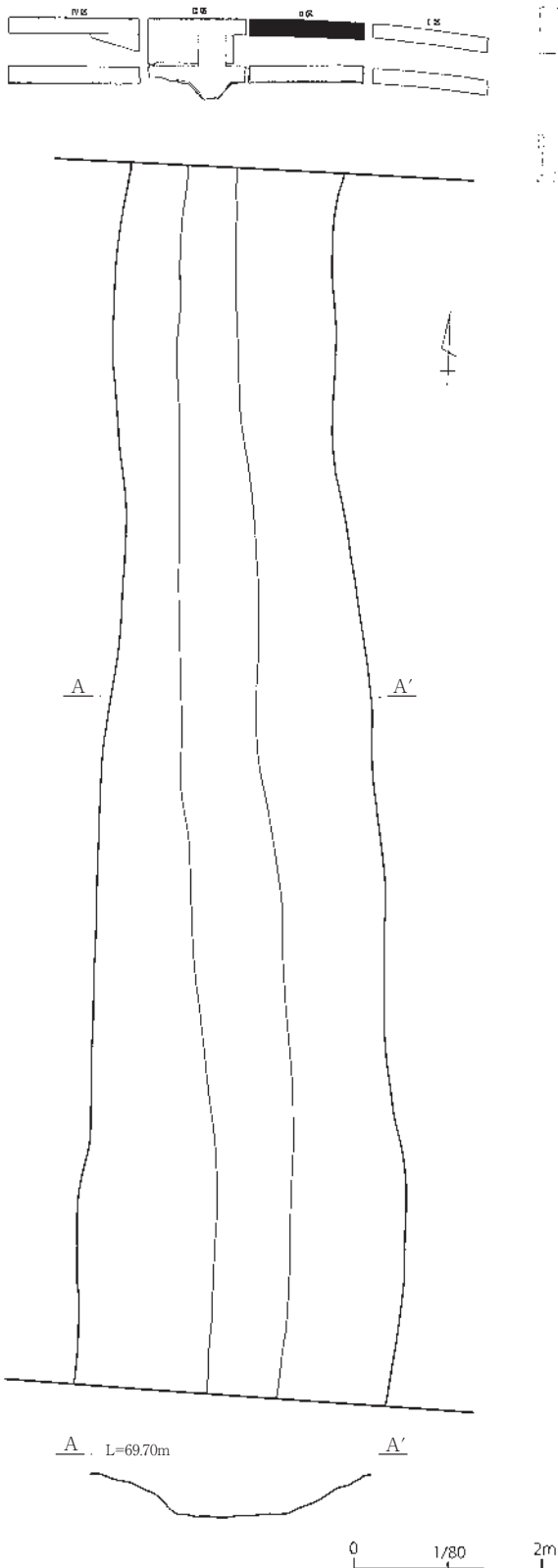
時期 15号溝の出土遺物から本溝群は概ね室町～戦国時代の所産と認められるが、個々の溝の時期特定には至らなかった。

表39 II区1号杭列打設痕一覧

番号	平面形態	底面形態	径 (cm)	深さ (cm)
1	米粒形	凸形	61 × 33	10
2	隅丸長方形	丸底	64 × 34	19
3	隅丸三角形	丸底	60 × 38	19
4	隅丸長方形	丸底	50 × 32	19
5	隅丸長方形	尖底	45 × 33	18
6	楕円形	平底	57 × 33	17
7	楕円形	丸底	49 × 30	15
8	楕円形	丸底	47 × 27	17
9	隅丸長方形	尖底	54 × 34	19
10	隅丸三角形	尖底	58 × 30	20
11	隅丸台形	平底	127 × 67	16
12	複数集合	丸底	85 × 78	23
13	楕円形	尖底	53 × 33	19
14	隅丸方形	丸底	43 × 31	19
15	隅丸長方形	丸底	45 × 35	19
16	楕円形	凸形	48 × 36	20
17	隅丸台形	尖底	35 × 42	13
18	隅丸台形	丸底	25 × 35	17

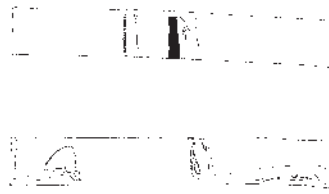


第141図 II区3号溝とII区1号杭列



第142図 II区4号溝

規模 13号溝 長さ 1,990cm 幅 180cm  
深さ 21cm



14号溝 長さ 2,620cm  
幅 73cm 深さ 27cm  
15号溝 長さ 3,645cm  
幅 276cm 深さ 58cm  
16号溝 長さ 1,245cm

幅 289cm 深さ 35cm

17号溝 長さ 2,623cm 幅 98cm 深さ 19cm

18号溝 長さ 1,286cm 幅 167cm 深さ 21cm

19号溝 長さ 303cm 幅 79cm 深さ 18cm

構造 上述のように何れの溝も端部が調査区外に出るか、重複しているために全容を詳らかにすることはできなかったが、調査区内にあっては13号溝は西部ではE-N6°から途中E-N37°に方向を変じ、更に北に140cm程スライドしてから中・東部ではE-N2°に走行を転ずる直線の連続によるプランを呈しており、14号溝は全体としてE-N4°方向を向いて緩やかに蛇行するプランを呈しており、15号溝はE-N5°を向いて東端で時計回りに走行を変じてS-E13°方向を向いて16号溝に接続する直線的なプランを呈している。また17号溝はE-N6°から時計回りにS-E11°に走行を変ずる溝遺構であるが、若干蛇行するものの、全体としては直線的なプランを呈しており、18号溝はS-E23°を向いて直線的に走行して南端でS-E8°方向に屈曲して直線的に調査区外に抜け、19号溝はS-E9°を向く直線的なプランを呈するものであった。

掘削形態は何れも箱堀状を呈する。

#### (6) II区3・4号溝とII区1号杭列

(第141図、P L40・69)

概要 II区3・4号溝とII区1号杭列はII区北側調査区の中程に位置している。3号溝と4号溝は13m程隔たって位置しており、一方1号杭列は3号溝の西肩から50cm程離れて、同溝に並行して位置している。

3・4号溝と1号杭列は共に他の遺構との重複は見られなかった。尚、3号溝と1号杭列はその位置関係と走行或いは配列の方向に照らして一連の遺構

## II 調査の記録

群として把握したい。

3・4号溝の掘削意図は特定できなかったが、断面形態から推して、往時は共に東側の区域に対し西側の区域が上位にあると認識されていたことが窺われる。また1号杭列は3号溝のこうした断面形態と合わせて、東側区域に対する西側区域の防御、或いは西側区域からの移動の制限を目途として設置されたものと認識される。

**遺物** 3号溝からは若干の土師器片等に混ざり、軟質陶器鉢(209)の出土が得られた。4号溝からの出土遺物は得られなかった

**時期** 出土遺物から推して3号溝は14世紀中頃以降の中世の所産であるが、何れについても時期の特定には至らなかった。

**規模** 3号溝 長さ703cm 幅125cm

深さ40cm以内

4号溝 長さ766cm 幅141cm 深さ55cm以上

1号杭列 表39(Ⅱ区1号杭列打設痕一覧)

**構造** 走行の方向は3号溝はN0°を向き、4号溝はN-W3°を向いて、共に緩やかに蛇行する。

一方、1号杭列は列全体としてはN0°を向くが、個々の杭跡の長軸はE0°か、若干時計回りの方向を傾くものであった。

1号杭列の個々の杭跡、即ち打設痕のプランは表39に示したが、楕円形や隅丸長方形、縦長の隅丸三角形が多く、短径に対し長径が中北部ではやや長く、南部では短い。

3・4号溝の掘削形態は何れも箱堀状を呈する。一方個々の杭の打設

痕の底面形態は表39に示したが、17基中丸底が9基、尖底が5基であった。

### (7) Ⅱ区5・6号溝 (第143図、P L40)

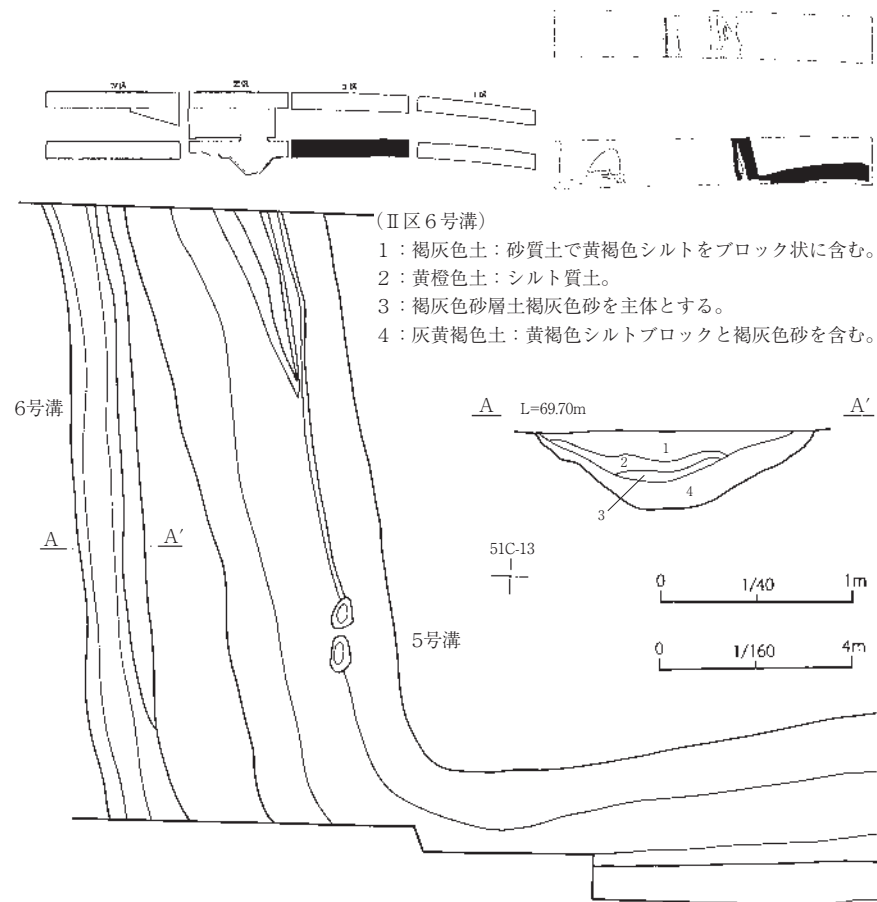
**概要** Ⅱ区5・6号溝はⅡ区南側調査区の東半部に近接して位置しており、並走している。

両溝は重複するが、新旧は特定できなかった。

また共に掘削意図も特定できなかった。尚、Ⅰ区8・9号溝が6号溝に繋がる可能性が考慮される。

**遺物** 5号溝からは多量の土師器や碗(210)等若干の須恵器片、軟質陶器の鉢(211)・播鉢(212)・甕(213)、陶器卸皿(214)、凹石(410)、銅銭(215)、馬歯(216)の出土が見られた。6号溝からは土師器片と陶器片1点筒が出土したに過ぎなかった。

**時期** 出土遺物から5号溝は15世紀後半以降の所産と認識されるが、共に時期特定には至らなかった。



第143図 Ⅱ区5・6号溝

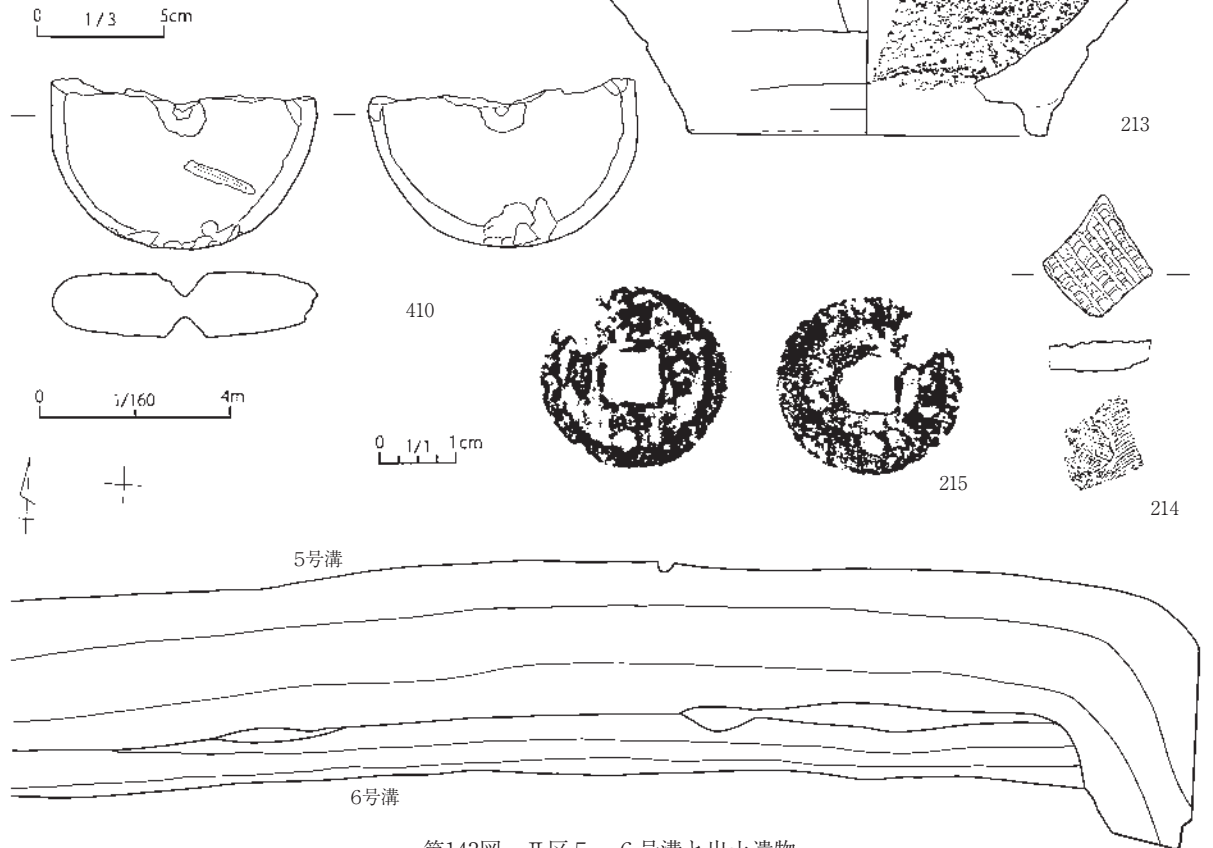
規模 5号溝 長さ4,965cm 幅419cm  
深さ72cm

6号溝 長さ1,296cm 幅147cm 深さ43cm

構造 5号溝は北側からS-E130°方向に調査区に入  
って直線的に走行し、反時計回りに屈曲してE-N  
8°からE 0°方向に向かって緩やかな弧  
状に走行し、更に時計回りにS-E34°に方  
向を転じて直線的に南側調査区外に出  
ている。一方6号溝は北側からS-E 8°方向  
に調査区に入って緩やかな蛇行を以て走  
行し、一旦南側調査区外に出た後時計  
回りに屈曲してE-N 7°方向に調査区  
内に再び入り、緩やかに湾曲してE-N 1  
°方向に転じて5号溝にぶつかっている  
が、以東の状態は確認できない。

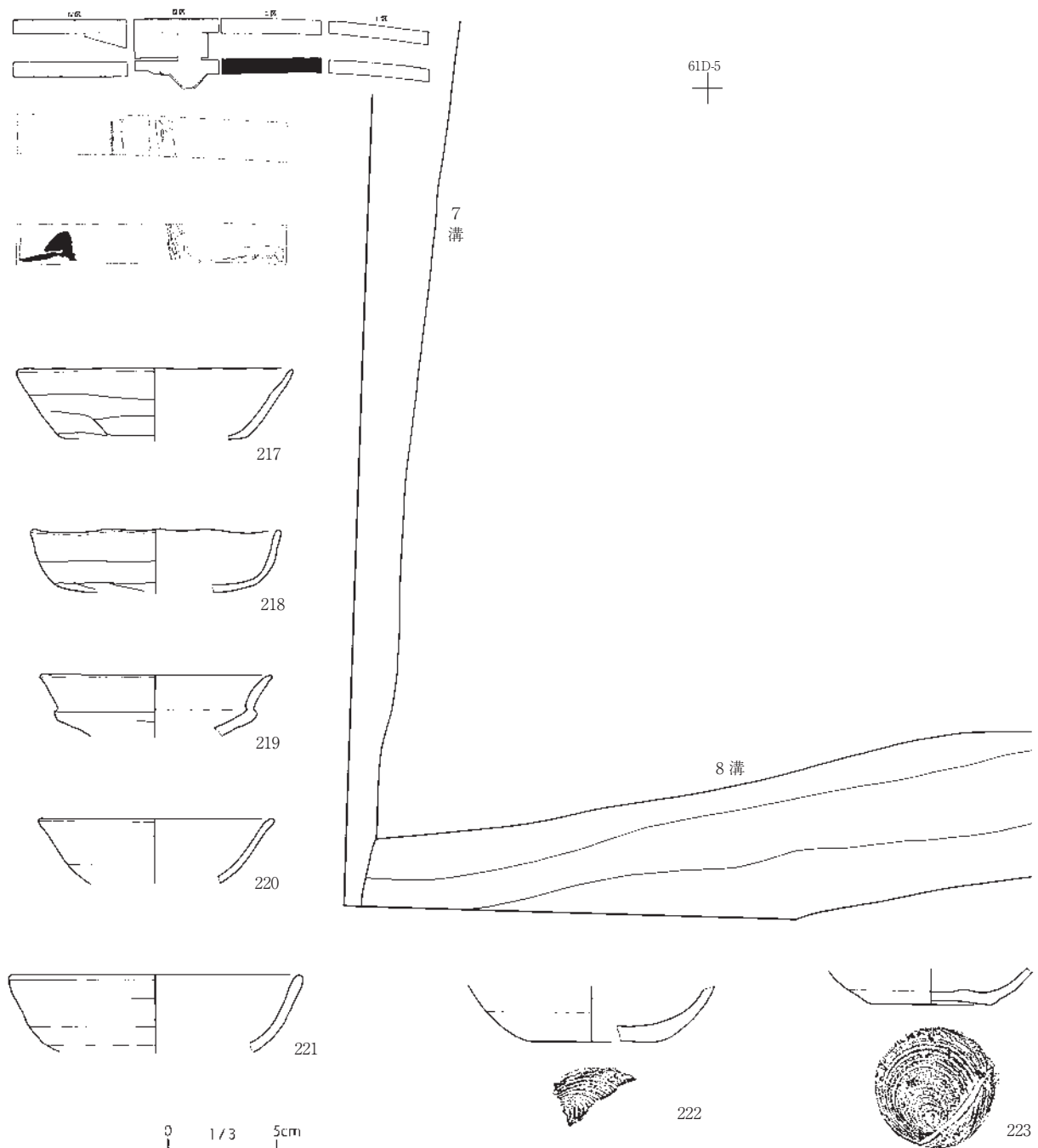
掘削形態は共に箱堀状を呈しているの  
であるが、5号溝の北端では底面が東寄  
りで尾根状に盛り上がり分岐させてお  
り、東側のものが60cm幅、西側のもの

が120cm幅を測る2  
条の溝に分岐してい  
る。



第143図 II区5・6号溝と出土遺物

II 調査の記録



第144図 II区8号溝と出土遺物

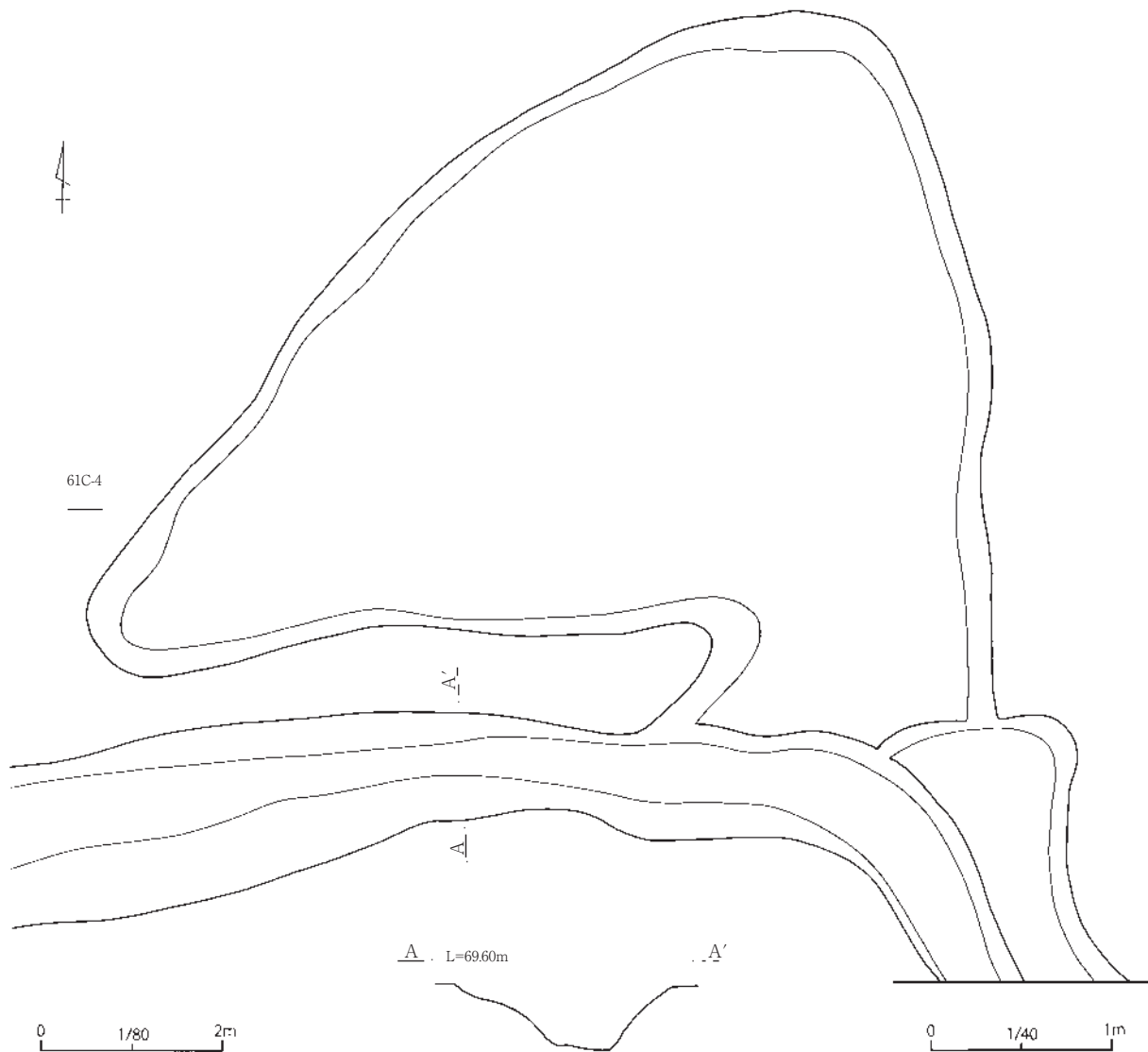
(8) II区8号溝 (第144図)

**概要** 本溝はII区南側調査区西部に位置している。本溝は西側と南側が調査区外に出ており、全容を把握することができなかった。

本溝は西端で前述の中世屋敷遺構の東堀の一つと認識されるII区7号溝と重複しているが、新旧関係を特定することはできなかった。

本溝の掘削意図は特定できなかった。尚、本溝の東部北側と東端部の東側には窪地が接して在るが、この窪地の掘削意図や本溝との関係を特定することはできなかった。

**遺物** 坏 (217・218) 等若干の土師器片や須恵器の高坏と見られるもの (219) や碗 (220~223) の出土が得られた。



第144図 II区8号溝と窪地

**時期** 本溝は中世の所産と認識されるものの、その時期を特定することはできなかった。

**規模** 長さ 1,944cm 幅 197cm以上 深さ 35cm

**構造** 本溝の中・西部はE-N12°方向を向いて直線的に走行しているが、東部ではE-S1°に走行を転じて時計回りに屈曲し、S-E21°方向に直線的に走って調査区外に抜けている。

また東部北側には東西1,048cm、南北798cm、深さ4cmを測る鴨頭形、また東端部の東側には幅164cm以下、深さ23cmを測る窪地が伴っている。

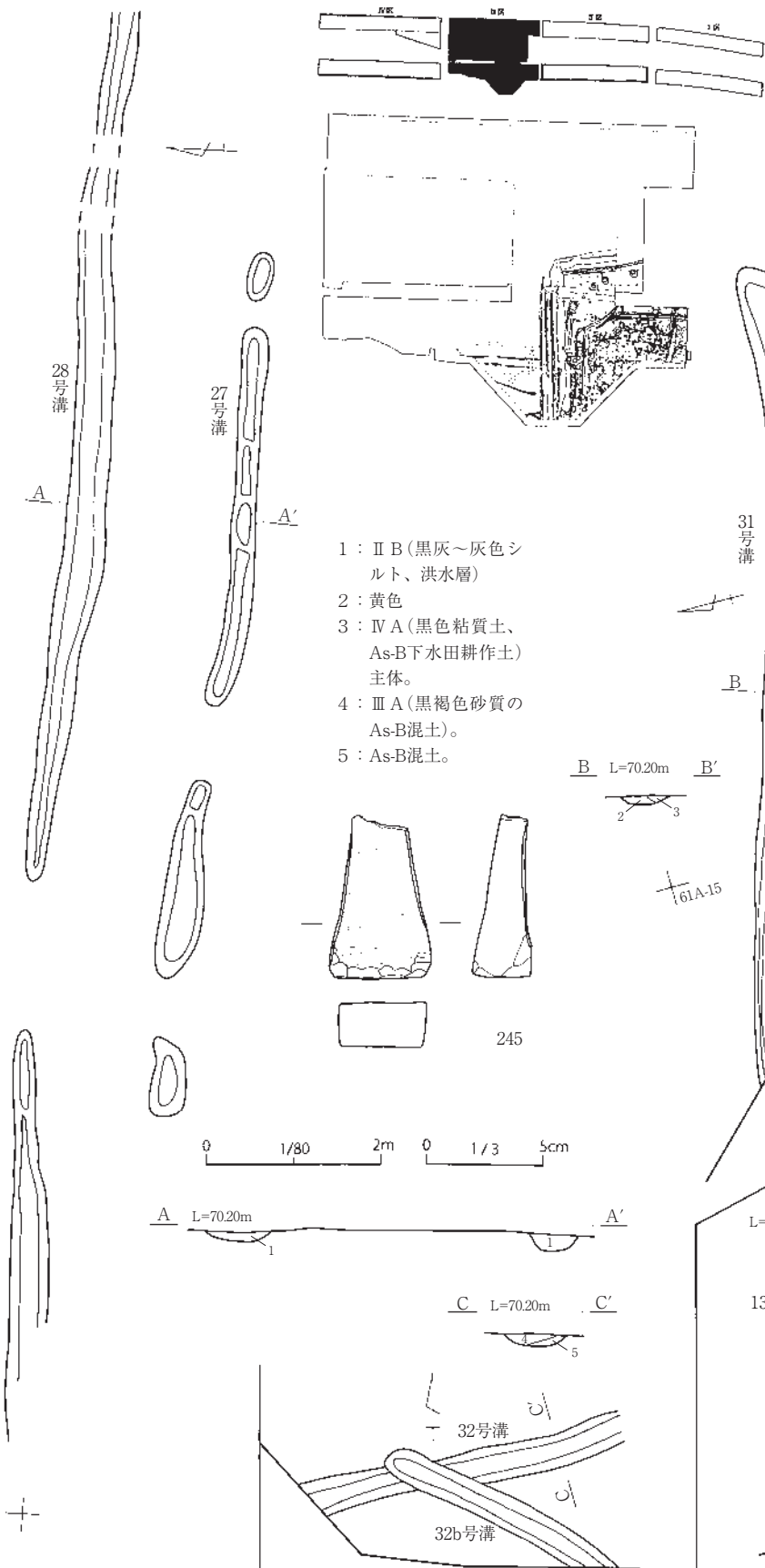
掘削形態は薬研堀状を呈する。

#### (9) III区屋敷外の溝群 (第146図、P L 44)

**概要** III区では屋敷の西側にIII区27・28・31・32・32b号溝の5条の溝を確認、調査した。これらの溝の遺存状態は全体に不良であり、27号溝は途切れ途切れに在り、28号溝も途中途切れる。28・32号溝は東がIII区15・29号溝に接し、西は調査区外に出ており、31号溝は西側が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

上述のように28・32号溝は15・29号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。また32号溝は遺構番号不設定の溝(以下仮に「32b号溝とする」と

II 調査の記録



第146図 III区屋敷外の溝群

重複するが新旧関係は特定できなかった。

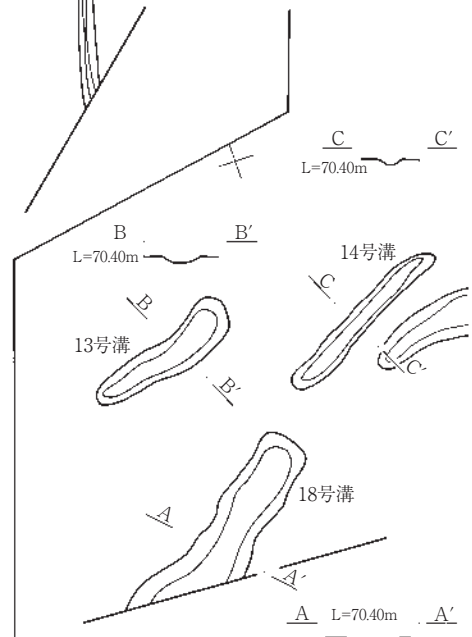
27・28号溝は140cm程隔た  
って並行な位置関係にあり、  
他に並走する溝のないことか  
ら道路の側溝である可能性も

考慮される。しかし  
27・28号溝を含め、  
何れの溝についても  
正確な掘削意図を特  
定することはできな  
かった。

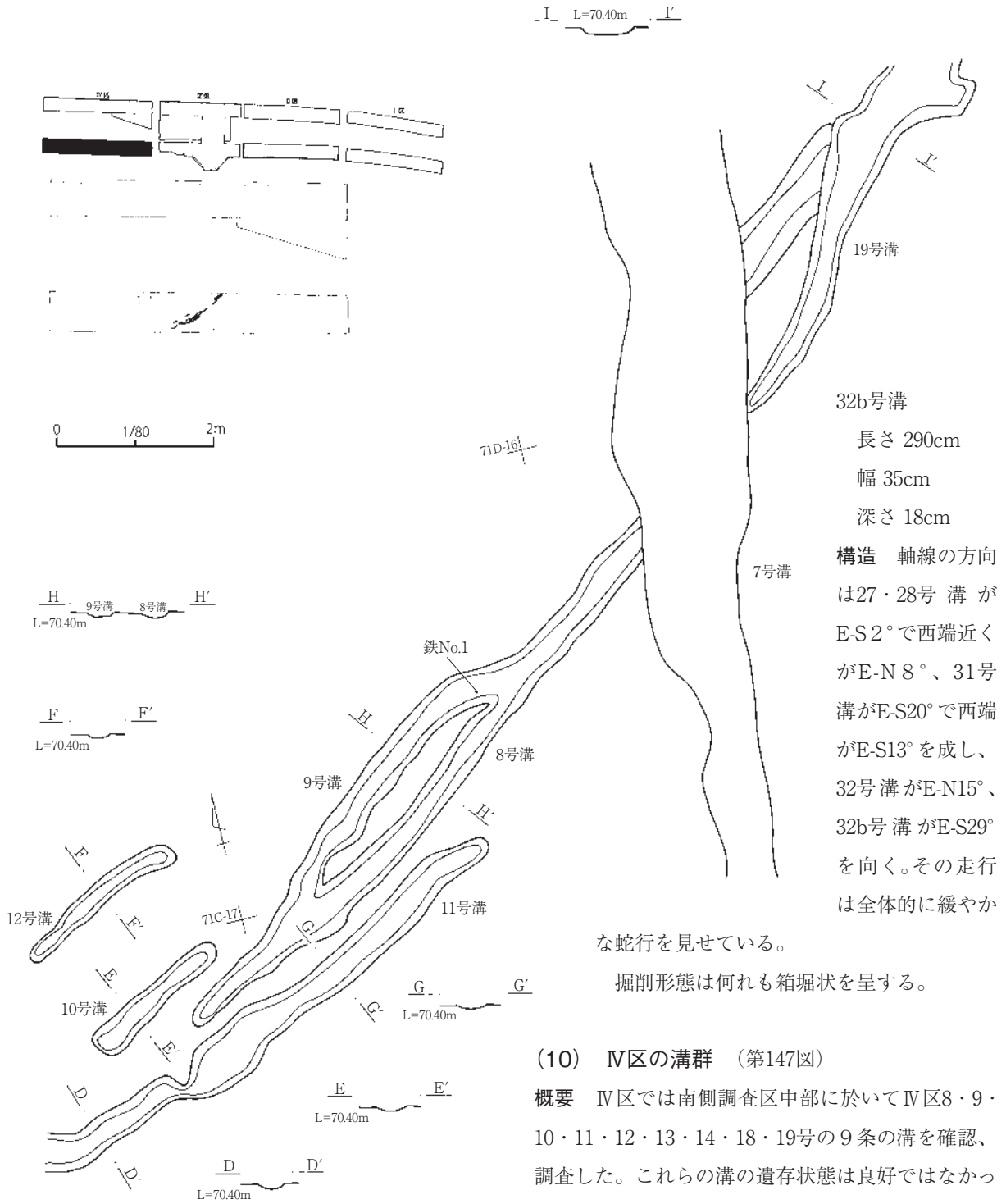
遺物 何れの溝から  
も出土遺物は得られ  
なかった。

時期 本溝群各溝  
は、何れも中世の所  
産と認識されるだけ  
で、細かい時期の特  
定には至らなかった。

規模 27号溝 長さ  
984cm 幅 50cm



第147図 IV区3面の溝群



第147図 IV区3面の溝群

- 深さ 16cm
- 28号溝 長さ 1,249cm 幅 46cm 深さ 6cm
- 31号溝 長さ 931cm 幅 14~56cm 深さ 7cm
- 32号溝 長さ 367cm 幅 43cm 深さ 14cm

な蛇行を見せている。  
掘削形態は何れも箱堀状を呈する。

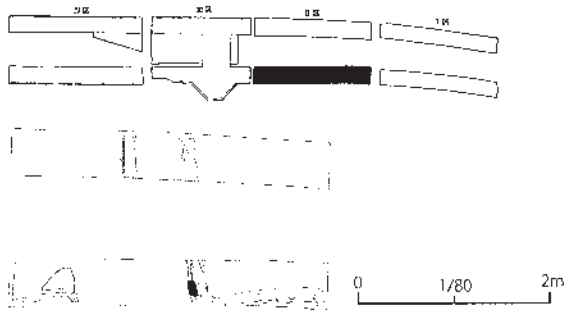
(10) IV区の溝群 (第147図)

概要 IV区では南側調査区中部に於いてIV区8・9・10・11・12・13・14・18・19号の9条の溝を確認、調査した。これらの溝の遺存状態は良好ではなかったが、このうち8号溝は北側がⅢ区7号溝と重複して確認できない箇所があり、18号溝は南側が調査区外に出ており、19号溝は東西2条に別れて北側は調査区外に出て、南側は7号溝と重複していて全容を確認することができなかった。

これらの溝のうち8・9号溝と19号溝の東西に分岐する2条の溝は重複するものの、新旧関係を特定



II 調査の記録



することはできなかった。

また本溝群各溝の掘削意図を特定することはできなかった。

遺物 9号溝から須恵器片1片を得ただけで、他の溝からの出土遺物は得られなかった。

時期 本溝群各溝は中世の所産と認識されるだけであり、時期の特定には至らなかった。

規模 8号溝 長さ1,265cm 幅58cm

深さ5cm

9号溝 長さ600cm 幅45cm 深さ4cm

10号溝 長さ203cm 幅45cm 深さ4cm

11号溝 長さ803cm 幅70cm 深さ5cm

12号溝 長さ228cm 幅32cm 深さ5cm

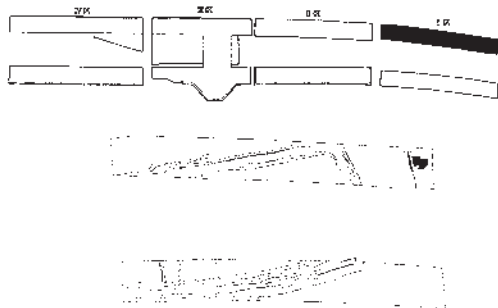
13号溝 長さ165cm 幅48cm 深さ6cm

14号溝 長さ202cm 幅26cm 深さ7cm

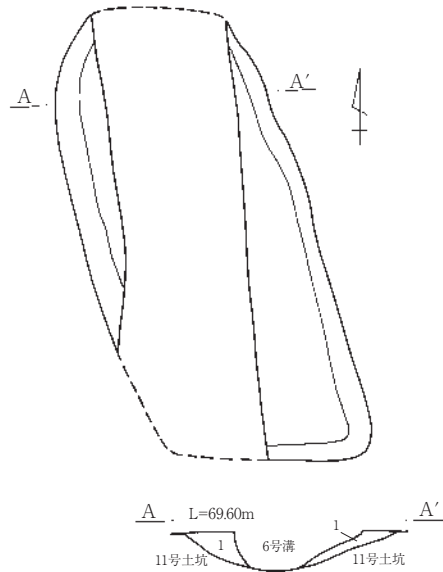
18号溝 長さ243cm 幅59cm 深さ5cm

19号溝 長さ585cm 幅110cm 深さ9cm

構造 本溝群は全体的にはその軸方向をN-E40°に取っている。そのプランは各溝共に蛇行するものであったが、特に9・11・19号溝は蛇行の状態が顕著であった。



第149図 I区2号畠



1: 浅黄色土(10YR4/1): II A aに類似

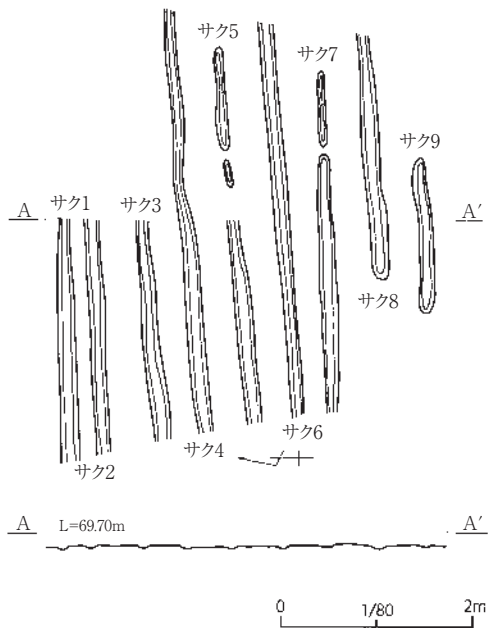
第148図 II区11号土坑

各溝の掘削形態は箱堀状を呈する。

(11) II区11号土坑 (第148図)

概要 本土坑はII区南側調査区の中中部やや東寄りに位置している。

本土坑はII区6号溝と重複するが、6号溝は本土坑の中央を貫くようにこれを切っている。



また本土坑の掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本土坑は中世の所産と認識されるだけで、時期の特定はできなかった。

**規模** 径(523)×240cm 深さ 19cm

**構造** 本土坑はN-W17°に長軸方向を取り、北部が長円形、中南部が隅丸平行四辺形のプランを呈している。

掘削底面は丸底形を呈する。

#### (12) I区2号島 (第149図、P L50)

**概要** 本島は9条のサクから成り、I区北側調査区東端部に位置する。

本島は西側が1面のI区7号溝に切られ、東側は調査区外に出ているため、全容を確認することはできなかった。また遺存状態も良くなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 本島は中世の所産と認識されるが、時期の特

定には至らなかった。

**規模** サク1 長さ 255cm 幅 19cm 深さ 5cm

サク2 長さ 249cm 幅 19cm 深さ 4cm

サク3 長さ 235cm 幅 19cm 深さ 4cm

サク4 長さ 450cm 幅 16cm 深さ 3cm

サク5 長さ 399cm 幅 19cm 深さ 3cm

サク6 長さ 419cm 幅 16cm 深さ 5cm

サク7 長さ 359cm 幅 16cm 深さ 3cm

サク8 長さ 260cm 幅 19cm 深さ 3cm

サク9 長さ 163cm 幅 13cm 深さ 2cm

**構造** 本島は上述のように全容を把握できず、またサクも途切れ途切れになっているものもあるなど、遺存状態も良好なものではなかった。サクは全体としてE-N2°に軸方向を取るが、若干のバラつきがあり、その走行は直線的である。またサクとサクの間隔は30~48cm、平均44.75cmを測る。

掘削底面は箱堀状で、底面の横断面形は丸底形を呈する。



Ⅲ区11号溝調査風景(南より)

II 調査の記録



Ⅲ区3面調査風景（西寄り）

## 7 第2面の調査

### (1) 概要

2面では、概ね中世後期以降～近世前半期にかけての遺構を調査した。

遺構の遺存状態は良好とは言い難く、I・II区にあつては遺構を認めることはできなかったが、III区全域とIV区北東寄りに遺構分布が認められ、III区では溝19条、土坑10基、小型ピット3基、畦畔2条とこれに区画された水田区、IV区に於いては溝2条を確認、調査した。

### (2) III区3号溝・IV区4号溝

及び3号溝内所在1～3号ピット

(第151～153図、PL51・53・72～75)

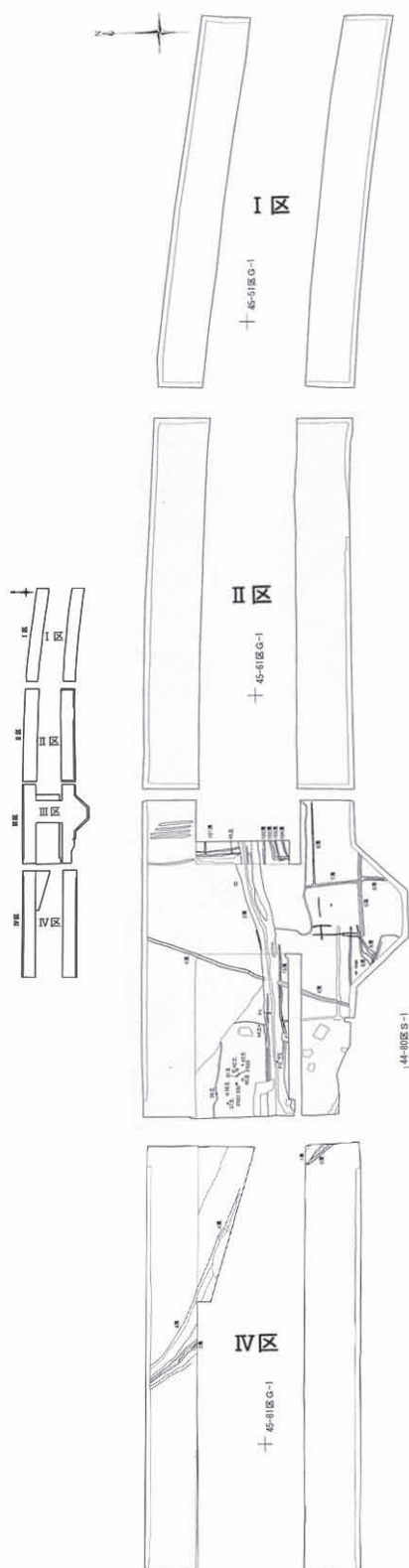
**概要** III区3号溝はIII区中央部を東西に貫通する溝遺構で、東西両側が調査区外に出ていて全容を詳らかにすることはできなかった。IV区4号溝はIV区北側調査区中・東部に位置するが、北側と東側が調査区外に出ていて、同じく全容を詳らかにすることはできなかった。両溝は位置関係及びその規模等から推して同一の溝遺構と判断した。尚、4号溝（遺構番号が異なるため以下区名称は省略する）が上流側に当たる。

3号溝はIII区の中程でIII区10号溝、東部でIII区101号溝及び水田址と重複しているが、本溝が4号溝を切ることは確認したものの、後2者に対しては新旧関係を特定することはできなかった。また4号溝に他遺構との重複は認められなかった。

3・4号溝は覆土等の状態から推して水路として用いられていたものと判断される。

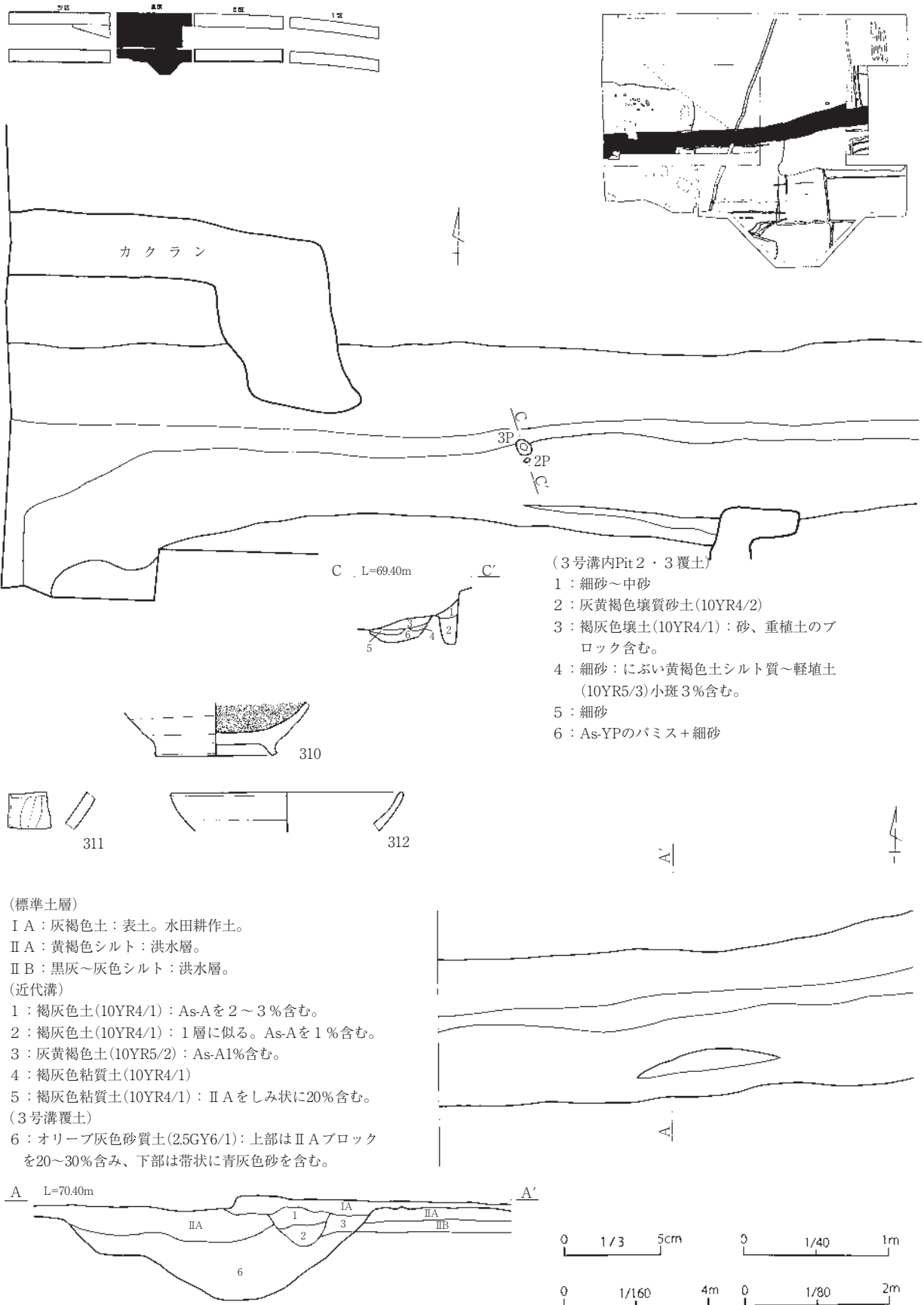
また3号溝では溝の西部では3基の小型ピットを確認した。何れも掘削意図は明確にできなかったが、形態的にピット1は板を差し込んだもの、ピット2は杭の打設痕跡の可能性を有する。

**遺物** 3号溝からは土師器の黒色土器碗(310)等や多くの土師器片や須恵器、青磁碗(311)、陶器碗(312)、磁器碗(313)、平瓦(314～316)、多量の板



第150図 2面全体図 (S=1/2000)

II 調査の記録



第151図 III区3号溝と出土遺物(その1)

碑 (317~325)、石臼 (414)、鑄鉄ら鉄製品 (326) など多くの遺物が得られた。

一方、4号溝からは土師器坏 (364~366)、焼締陶器 (367)、軟質陶器の壺らしき器 (368)・焙烙 (369)・播鉢 (370)、陶器皿 (371)、青磁碗 (372)、古瀬戸の盤と見られる器 (373) など、人骨らしき焼骨 (374) の出土遺物が得られた。

**時期** 3・4号溝は特に3号溝の出土遺物から推して、本溝は近世 (天明3年以前) の所産と認識される。

**規模** 3号溝 長さ 7,350cm 幅 645cm  
深さ 131cm

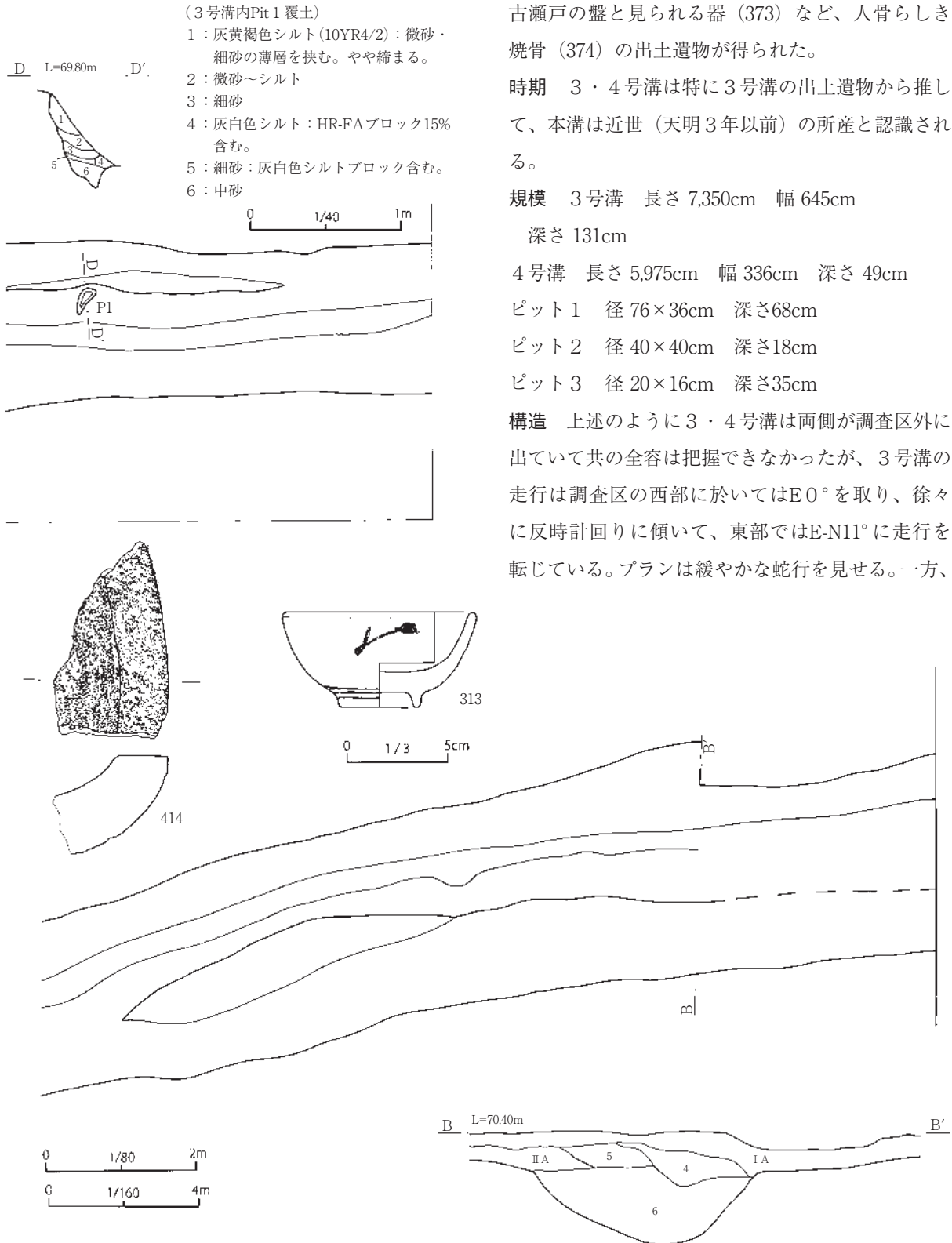
4号溝 長さ 5,975cm 幅 336cm 深さ 49cm

ピット1 径 76×36cm 深さ68cm

ピット2 径 40×40cm 深さ18cm

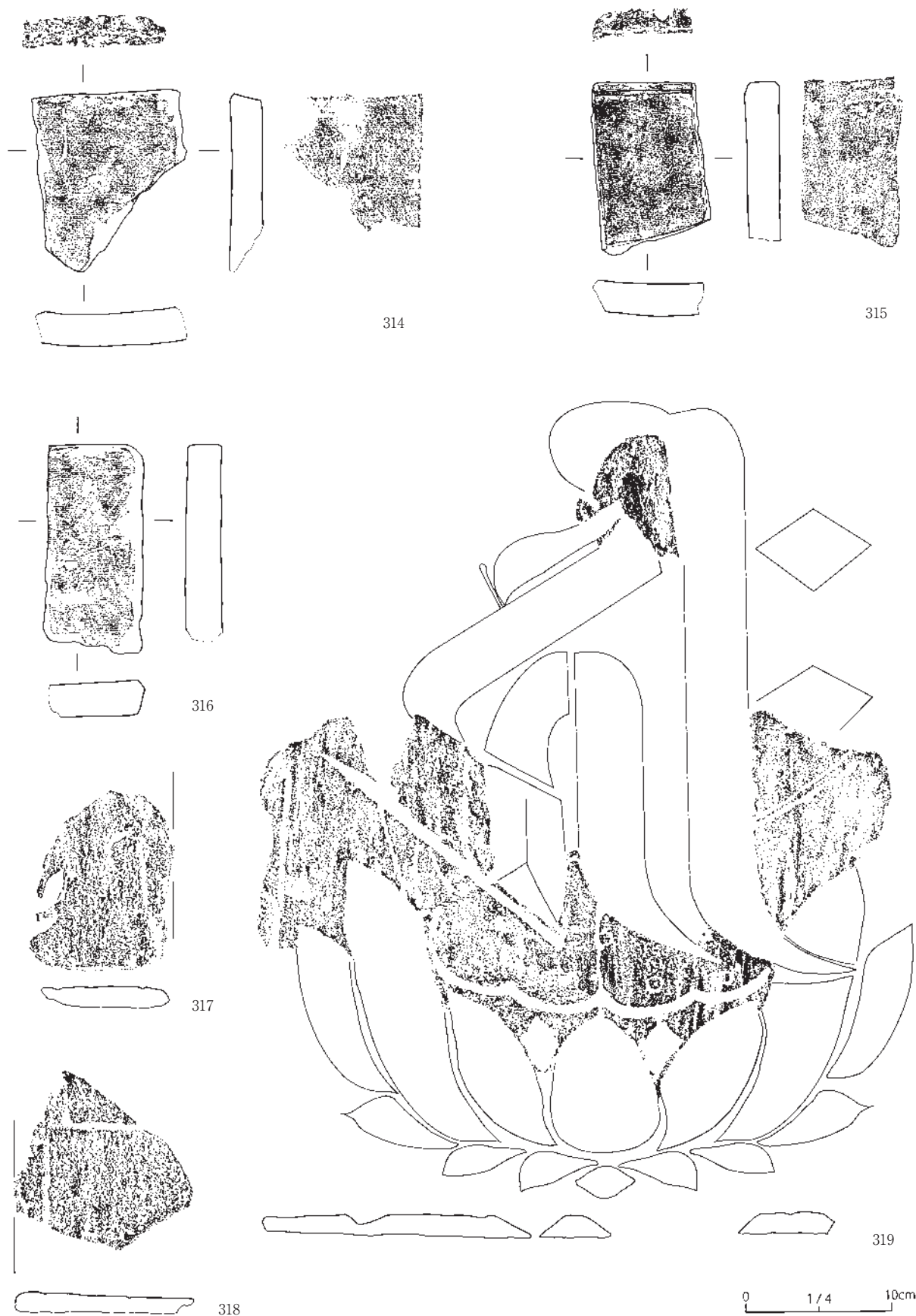
ピット3 径 20×16cm 深さ35cm

**構造** 上述のように3・4号溝は両側が調査区外に出ていて其の全容は把握できなかったが、3号溝の走行は調査区の西部に於いてはE0°を取り、徐々に反時計回りに傾いて、東部ではE-N11°に走行を転じている。プランは緩やかな蛇行を見せる。一方、

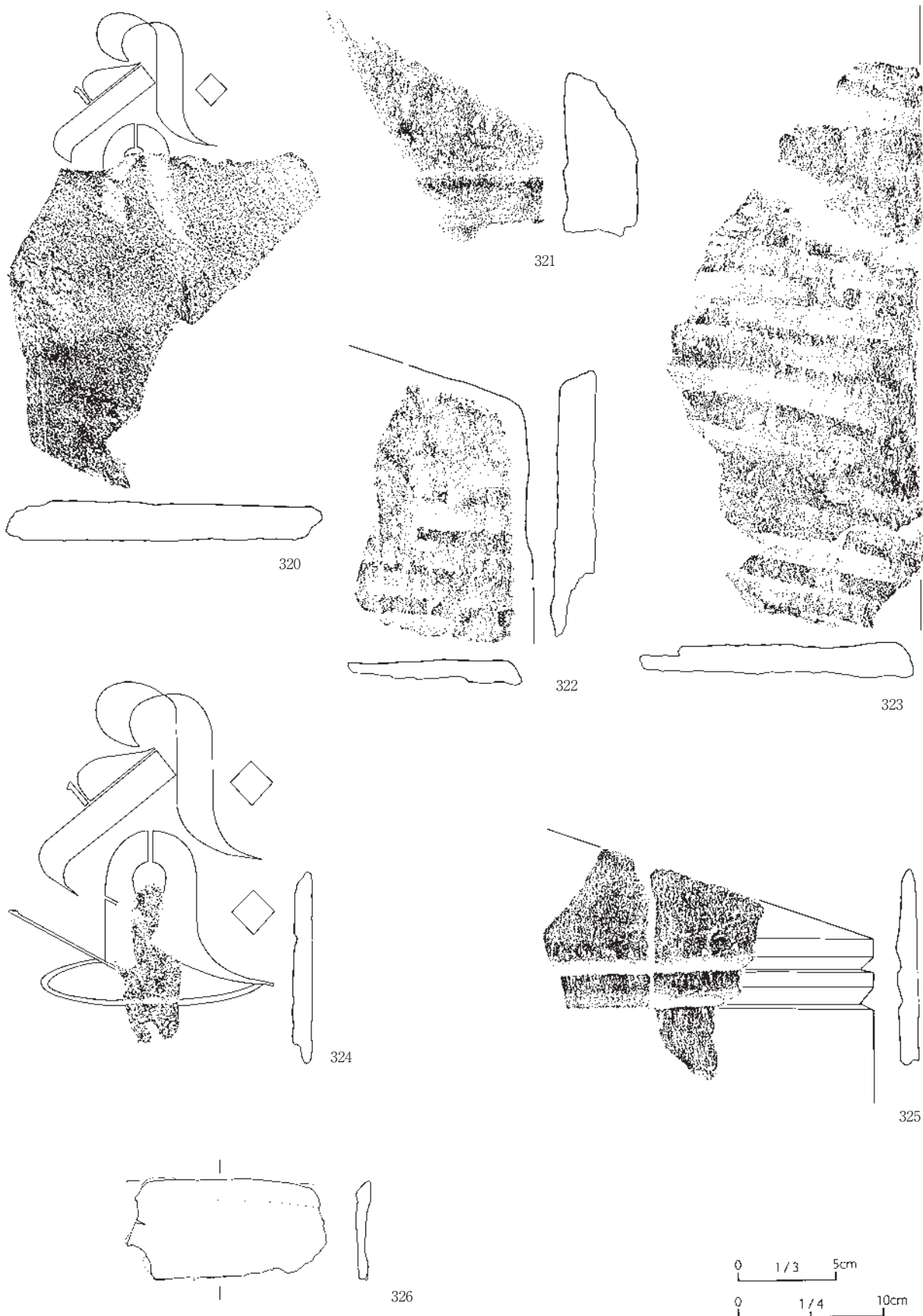


第151図 Ⅲ区3号溝と出土遺物 (その1)

II 調査の記録



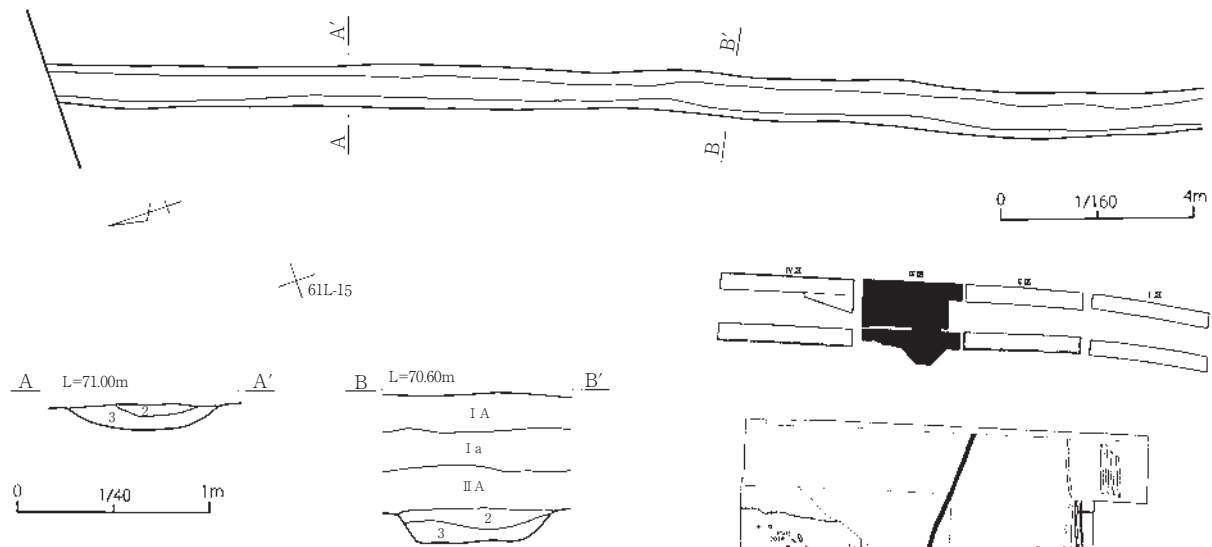
第152図 Ⅲ区3号溝出土遺物（その2）



第153図 Ⅲ区3号溝出土遺物（その3）



## II 調査の記録



(標準土層)

I A : 灰褐色土 : 表土。水田耕作土。

I B : 灰褐色土 : 表土。橙色洪水砂混じり。

II A : 黄褐色シルト : 洪水層。

II B : 黒灰～灰色シルト : 洪水層。

(4号溝覆土)

1 : 黒色砂(10YR2/1) : 明黄褐色シルト質ブロック(2.5Y6/8、II Bに類似した土の下に堆積したシルト質土)20%含む。

2 : 1層に類似。黒色砂50%、3層土粘質土ブロックを20%と明黄褐色シルトブロック30%含む。

3 : 灰黄褐色土(10YR4/2) : 黒色砂ブロックを30%と明黄褐色シルトブロック10%含む。

### 第154図の1 Ⅲ区4号溝

4号溝は調査区へは北側からS-E36°方向に入って反時計回りに緩やかに弧を描いて走行する。中程ではE-S27°方向を向くが、以東は比較的直線的なプランとなって、東端部ではE-S24°方向を向く。また3号溝内のピットのプランはピット1はおたまじゃくし形、ピット2は隅丸方形、ピット3は隅丸台形を呈する。

掘削形態は3・4号溝は共に箱堀状で、ピットはピット1・3は箱形、ピット2は柱穴状を呈する。

### (3) Ⅲ区4号溝 (第154図、PL51・52)

**概要** 本溝はⅢ区中部西寄りに所在し、調査区を南北に横断する。南北両側が調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

本溝はⅢ区3・10号溝と重複するが、3号溝よりは古いものの、後者との新旧関係は不明である。

本溝に流水の痕跡は認められず、掘削意図を確認

することはできなかった。

**遺物** 本溝の出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝はⅢ区の遺構として中世後期以降～近世前半期の所産として捉えられるに過ぎなかった。

**規模** 長さ 5.150cm 幅 115cm 深さ 35cm

**構造** 上述のように本溝の全容は詳らかでないが、その主軸はN-E 19°を向き、プランは全体に緩やかな蛇行が見られる。

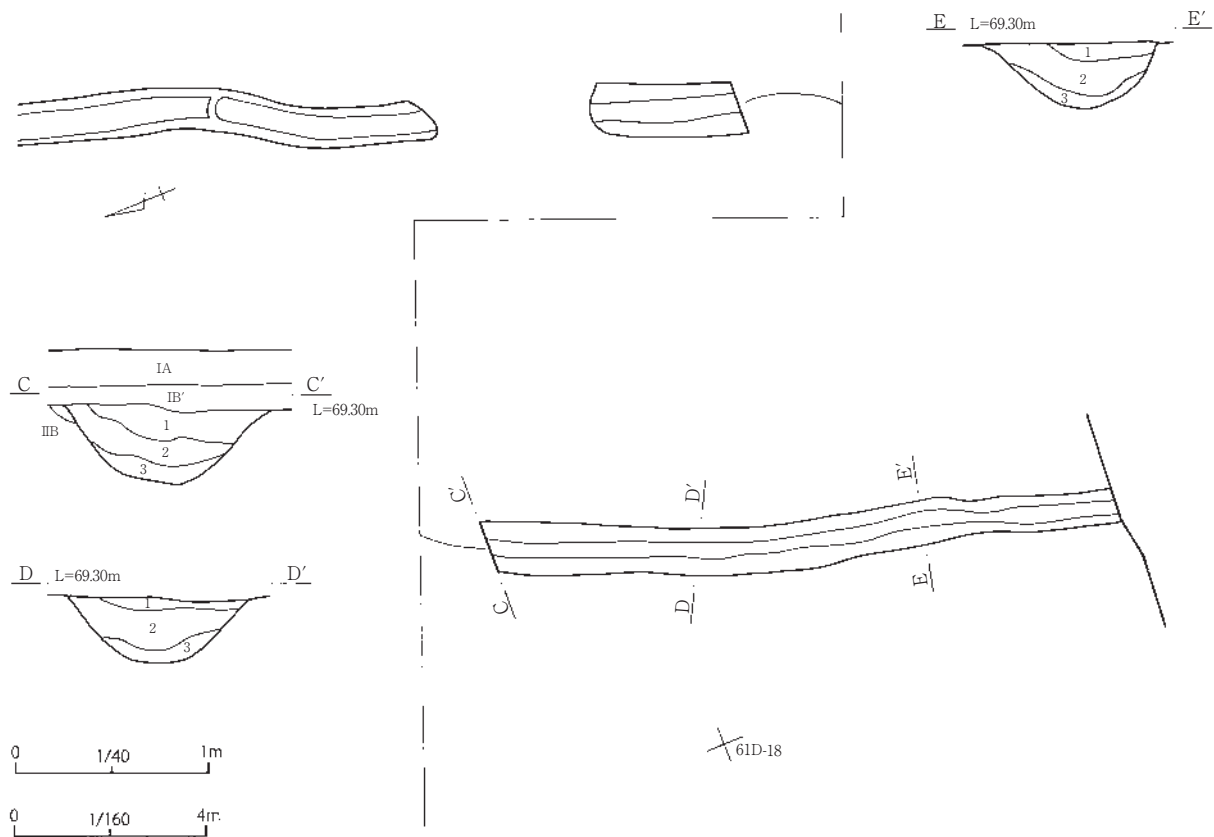
掘削形態は箱堀状を呈するが、底区の横断形は北側は平らで、南側は丸底気味となっている。

### (4) Ⅲ区5・6・7・8号溝

(第155・156図、PL52)

**概要** Ⅲ区5・6・7・8号溝はⅢ区中南～中東部に位置する。このうち5・8号溝は東側が、6号溝は南側が調査区外に在ったため全容を把握することはできなかった。

また5号溝に6・7号溝がT字形に、7号溝に8号溝がT字形に接続するため、一連の遺構と認識されるが、明確な同時性は確認できなかった。



第154図の2 Ⅲ区4号溝

4条の溝は何れも流水の痕跡は確認されず、掘削意図を特定することはできなかった。しかしその軸方向の近似や規格的な配置から、条里制の名残の区画に基づく掘削と見られ、根切り溝、或いは小水路であった可能性が窺われる。また後述するようにⅢ区201～206号溝との関連も考慮される。

**遺物** 5号溝からは若干の土師器片や陶器皿(327)、6号溝からは僅かな土師器片や陶器皿(329)の出土が見られたものの、7・8号溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 5・6・7・8号溝の時期は特定できなかったが、出土遺物等から推して概ね近世前・中期の所産と認識される。

**規模** 5号溝 長さ2,213cm 幅103cm

深さ31cm

6号溝 長さ685cm 幅101cm 深さ19cm

7号溝 長さ1,442cm 幅66cm 深さ22cm

8号溝 長さ2,213cm 幅48cm 深さ14cm

**構造** 上述のように5・6・8号溝は調査区外に延びるため全容は明らかでないが、調査区内に於いて軸方向は5号溝がE-N $2^{\circ}$ を取って東端部でE-S $2^{\circ}$ と若干時計回りに走行を変じ、6号溝はNE $3^{\circ}$ に、7号溝はNW $5^{\circ}$ 、8号溝はEN $1^{\circ}$ に取っている。

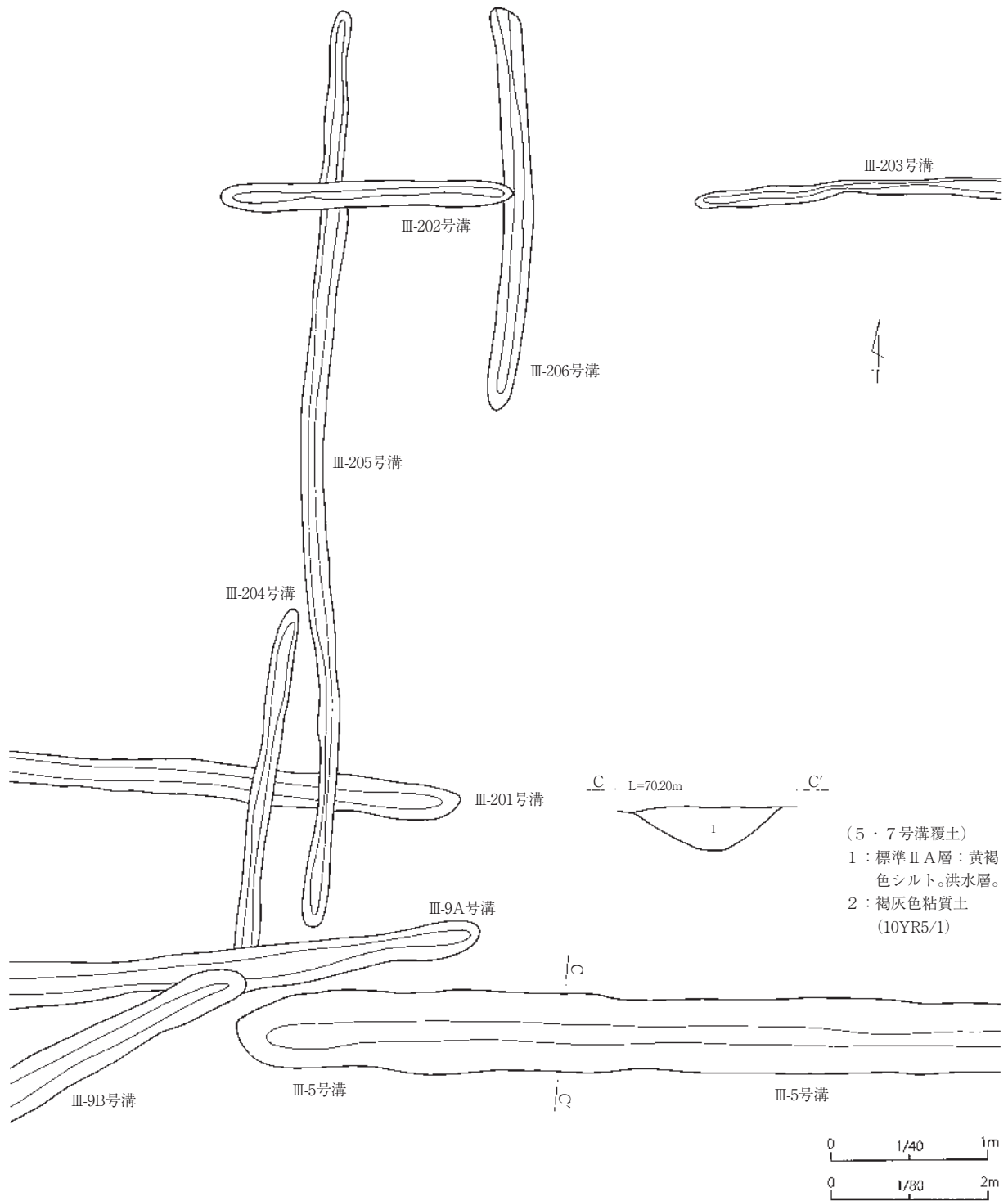
プランは何れも僅かに蛇行するが、概ね直線的。またその中心に於いて、5号溝と8号溝は12.2m程隔たって平行に在り、5号溝を挟んで6・7号溝は0.6m程後者が西に寄る折れを成して在る。

掘削形態は何れも薬研に使い箱堀形を呈する。

#### (5) Ⅲ区9A号溝・9B号溝 (第156図、PL52)

**概要** 9A号溝・9B号溝はⅢ区中南部に位置する。調査段階では9号溝として一括の溝として処理したが、西側の9A号溝と東側の9B号溝とに分けて報告する。9A号溝は南側が滅失傾向にあつて残存部は調査区外に出ており、9B号溝は滅失していて、共に全容を把握することはできなかった。

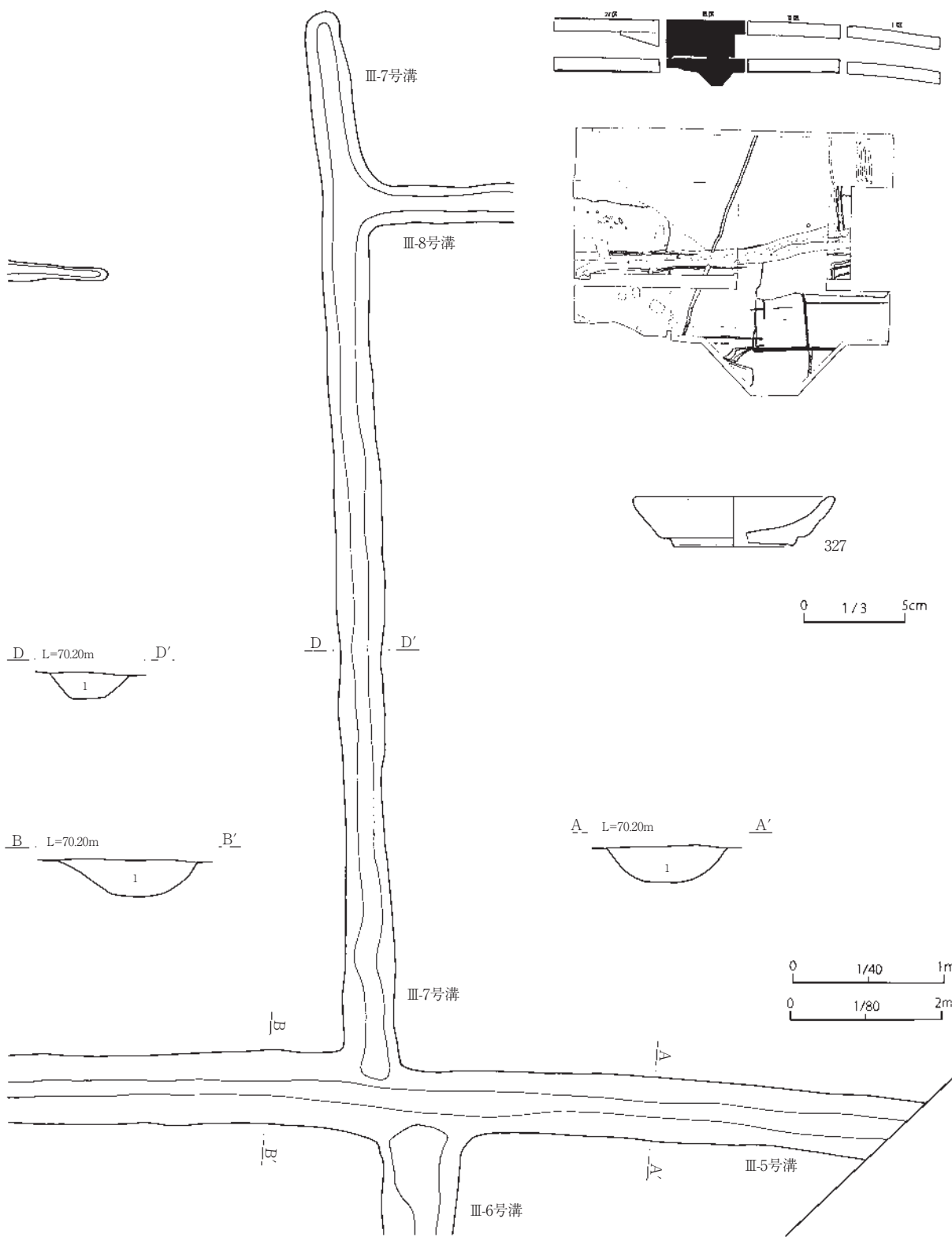
II 調査の記録



第155図 III区5・201・202・204・205・206号溝

9 A号溝・9 B号溝は東部で重複するが新旧関係は特定できなかった。また走行の近似から、一方から一方への掘り直しの可能性が考えられる。

何れもIII区5号溝に隣接し、9 A号溝はIII区204号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。その掘削意図は両溝共に特定できなかった。



第155図 Ⅲ区5・7・203号溝とⅢ区5号溝出土遺物

遺物 僅かな土師器、須恵器、陶器片が出土した。  
 時期 共にその時期は確認区から中世後期から近世  
 中期とできるだけ、特定できなかった。

規模 9 A号溝 長さ 1,142cm 幅 139cm  
 深さ 14 cm

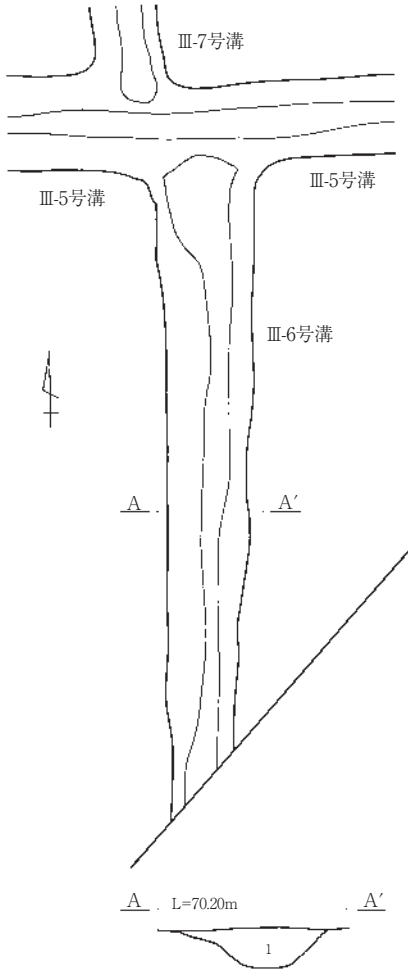
9 B号溝 長さ 605cm 幅 100cm 深さ 9 cm

II 調査の記録

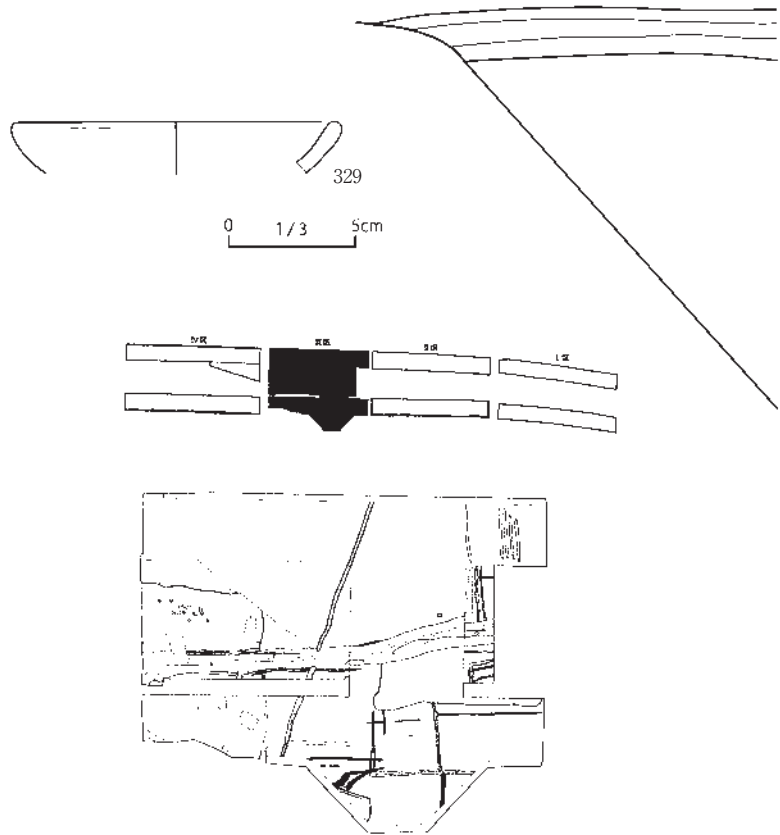
構造 両溝共に全容は詳らかにできなかったのであるが、9 A号溝は南部はN-E45°に走行を取り、途中へ字状に屈曲して東部はE-N9°方向に変ずる。

9 B号溝は南部ではN-E45°に軸を置き、途中緩やかに屈曲して東部はE-N27°に走行を変じている。

掘削形態は共に南部は箱堀上を呈し、東部は薬研堀状の箱堀を呈する。



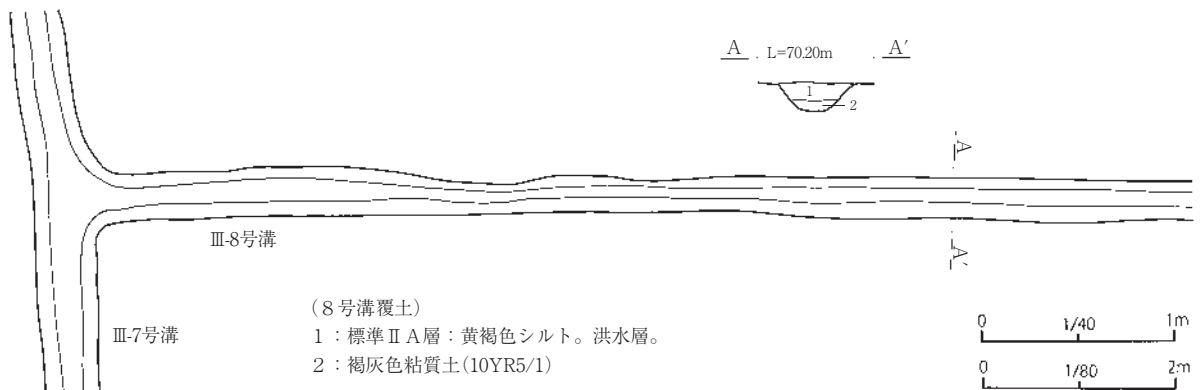
(6号溝覆土)  
1：標準II A層：黄褐色シルト。洪水層。



(6) III区10号溝 (第157図、PL52)

概要 本溝はIII区中西部のやや南寄りに位置する。西側は調査区内で滅失していて確認できなかった。

III区4号溝と重なるが新旧は特定できなかった。



(8号溝覆土)  
1：標準II A層：黄褐色シルト。洪水層。  
2：褐灰色粘質土(10YR5/1)

第156図 III区6・8号溝とIII区6号溝出土遺物

また、本溝の掘削意図も特定できなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時期 その時期は、共に確認区から中世後期から近世中期とできるだけであった。

規模 長さ 670cm 幅 60cm 深さ 21cm

構造 本溝は全体に揺るやかな蛇行するプランを有している。その軸方向は西端近くではE-N<sup>9</sup>°を向くが、全体に走行はE-N<sup>2</sup>°を向いている。

掘削形態は箱堀状を呈する。

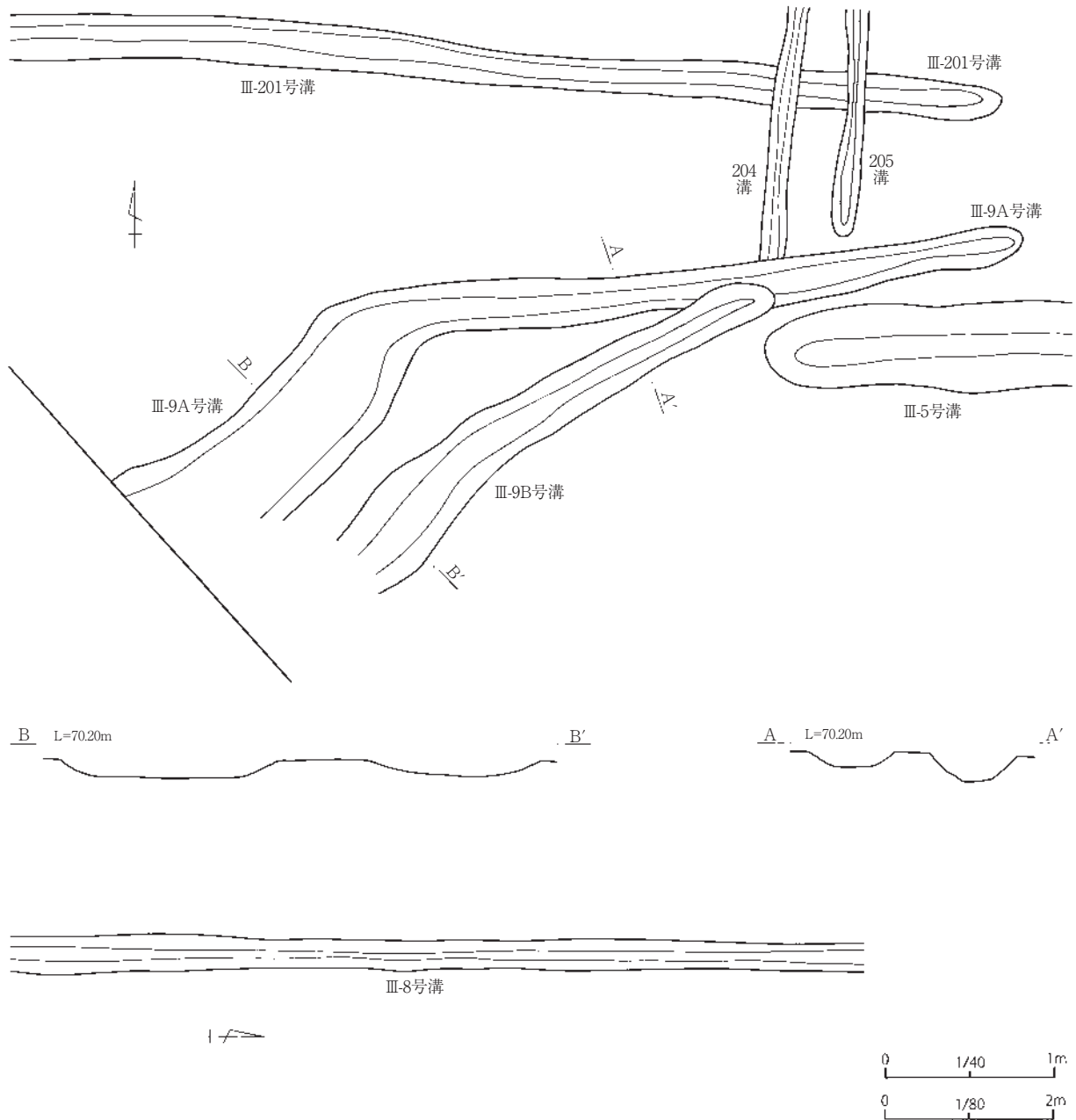
(7) Ⅲ区100・102・103・104号溝

(第157図、PL52・53・72)

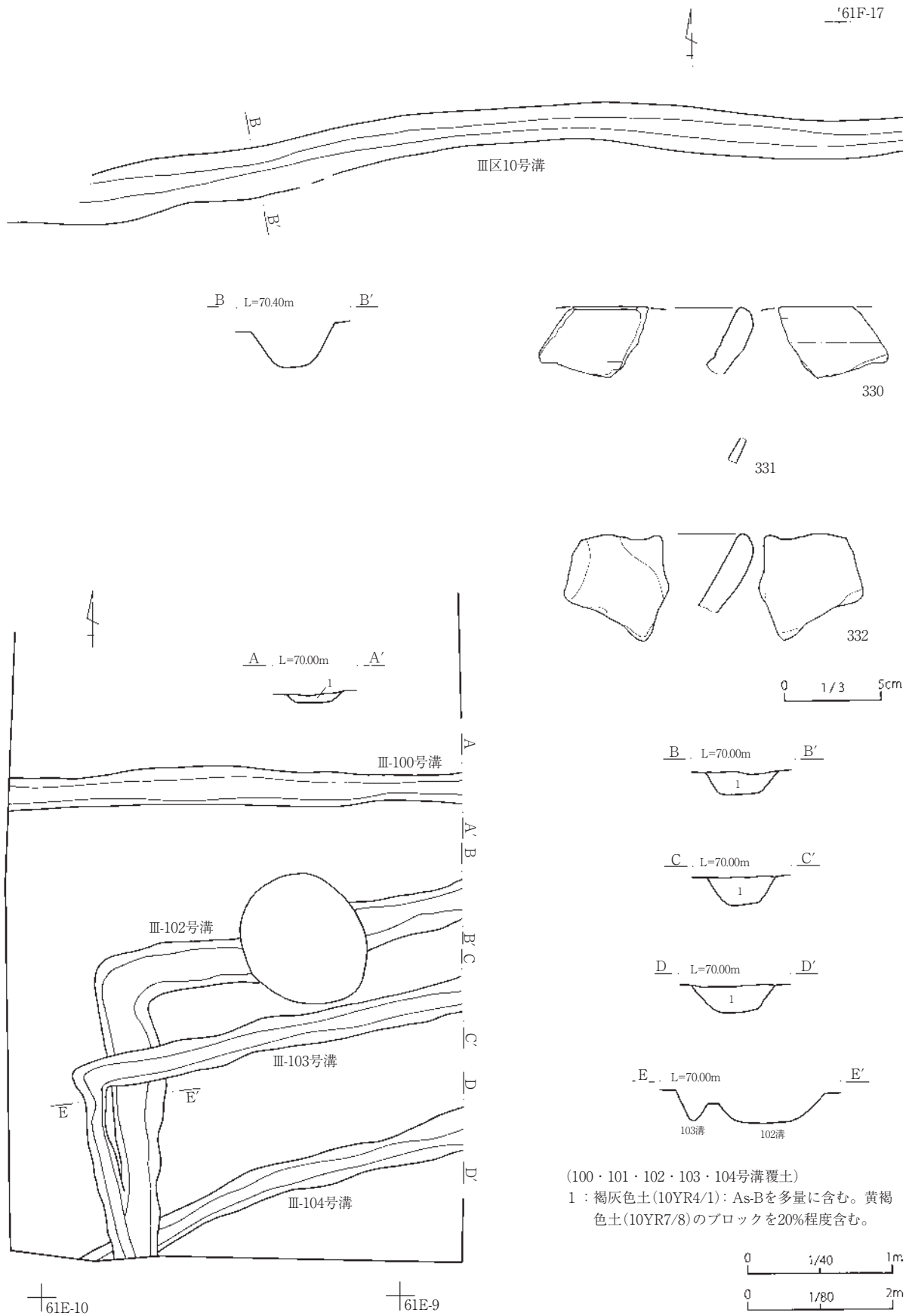
概要 Ⅲ区100・102・103・104号溝はⅢ東端中部南寄りに位置している。何れも東西或いは南側が調査区外に出ていて、全容は把握できなかった。

また102・103・104は三つ巴の重複関係にあるが、新旧は特定できなかった。

共に掘削意図を確認することはできなかったが、流水の痕跡は無く、Ⅱ区にあってAs-Bを多量に含

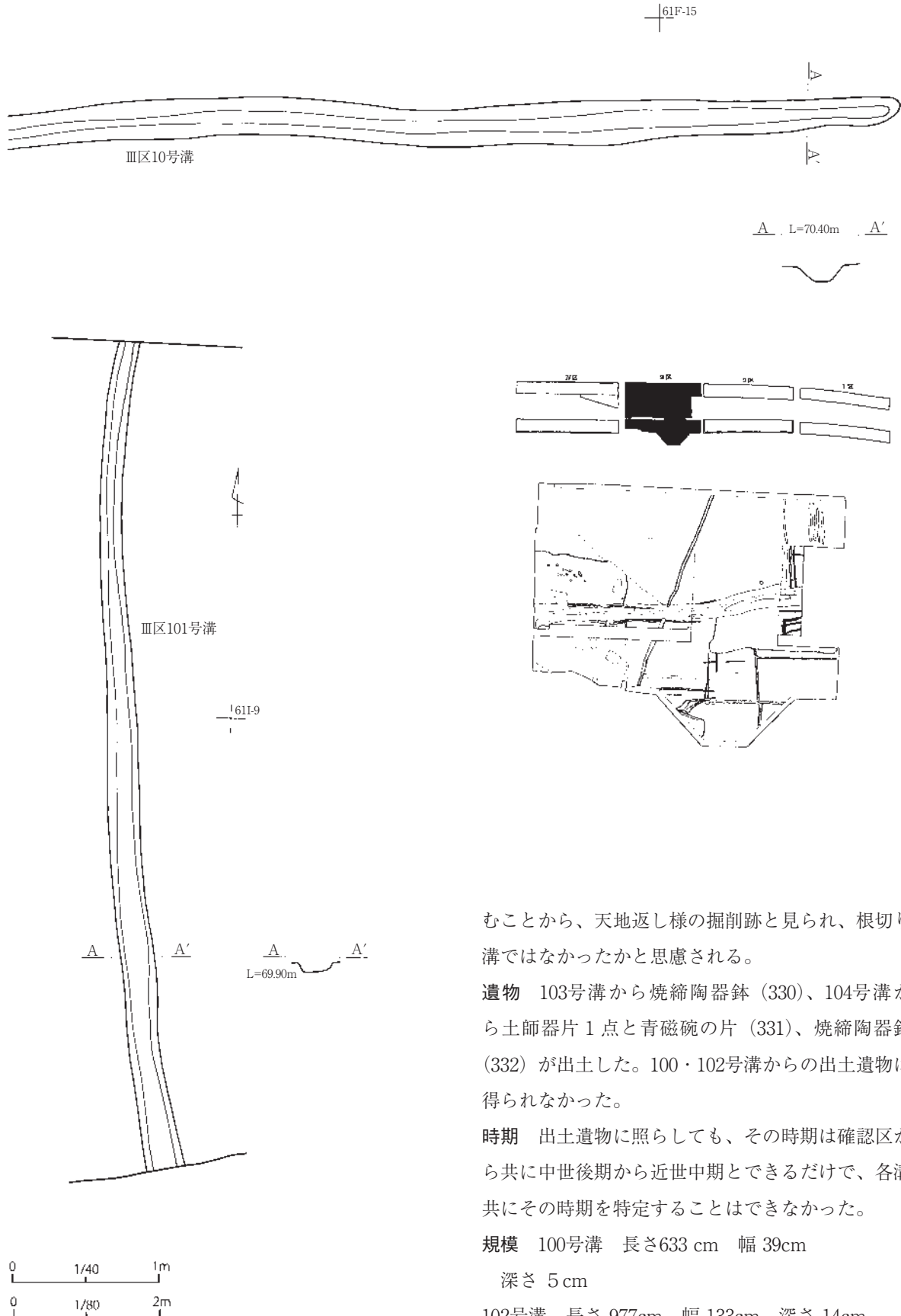


第156図 Ⅲ区8・9A・9B号溝



(100・101・102・103・104号溝覆土)  
 1: 褐灰色土(10YR4/1): As-Bを多量に含む。黄褐色土(10YR7/8)のブロックを20%程度含む。

第157図 III区10号溝(上)とIII区100・102・103・104号溝(下)及びIII区104号溝出土遺物



第157図 III区10号溝（上）とIII区101号溝（下）

むことから、天地返し様の掘削跡と見られ、根切り溝ではなかったかと思慮される。

**遺物** 103号溝から焼締陶器鉢（330）、104号溝から土師器片1点と青磁碗の片（331）、焼締陶器鉢（332）が出土した。100・102号溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 出土遺物に照らしても、その時期は確認区から共に中世後期から近世中期とできるだけ、各溝共にその時期を特定することはできなかった。

**規模** 100号溝 長さ633 cm 幅 39cm

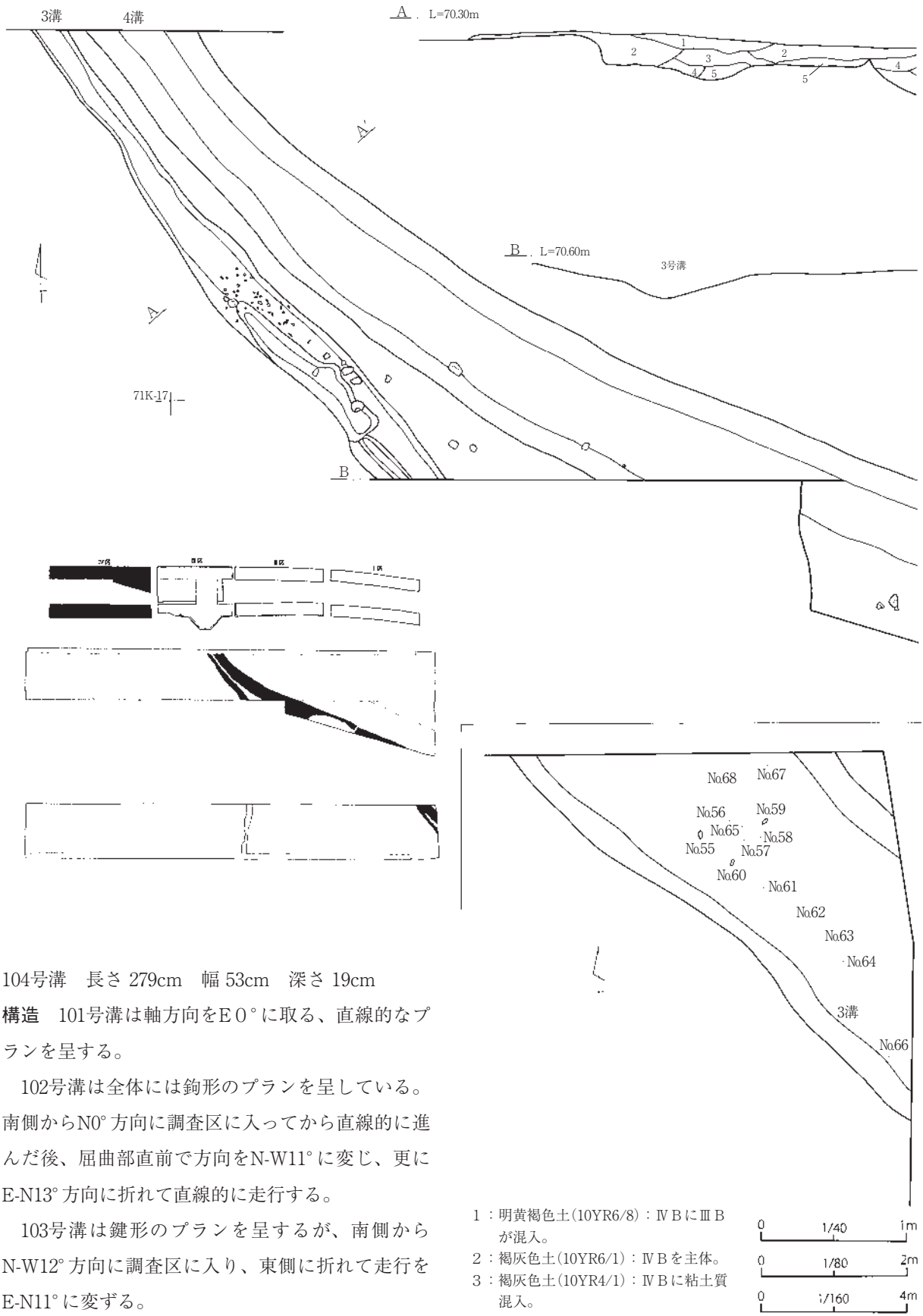
深さ 5 cm

102号溝 長さ 977cm 幅 133cm 深さ 14cm

103号溝 長さ 782cm 幅 47cm 深さ 23cm



II 調査の記録



104号溝 長さ 279cm 幅 53cm 深さ 19cm

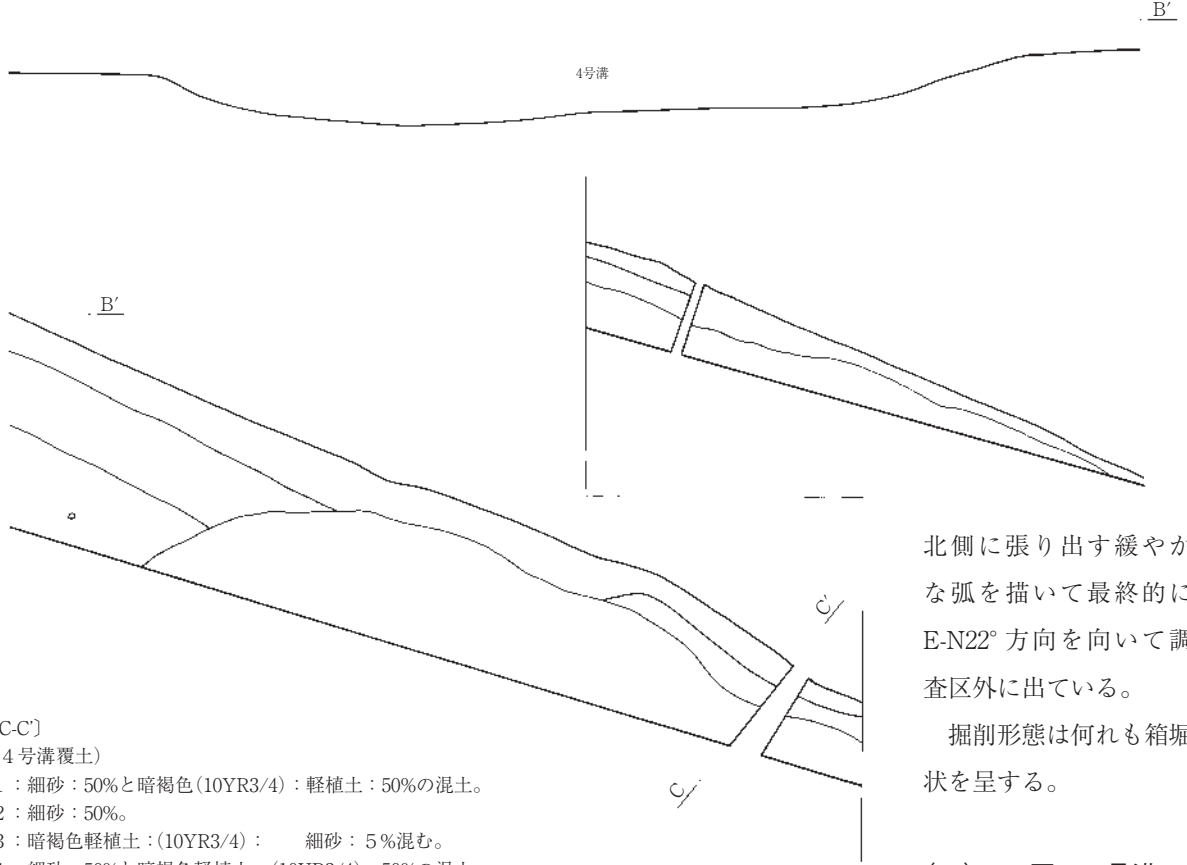
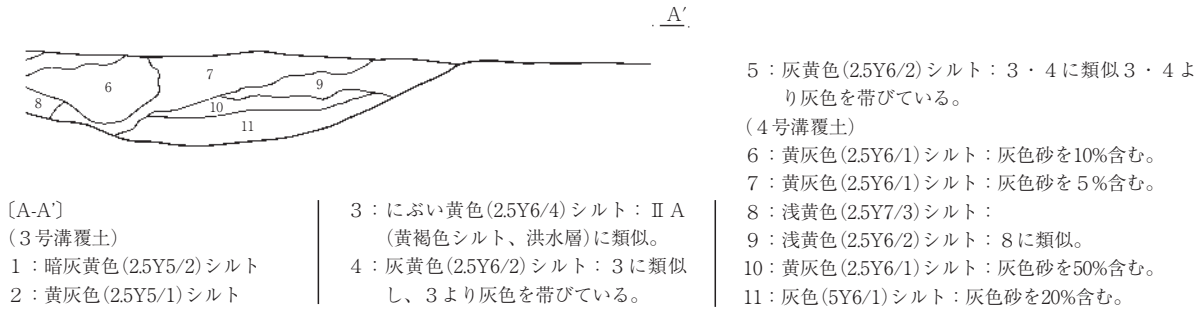
構造 101号溝は軸方向をE0°に取る、直線的なプランを呈する。

102号溝は全体には鉤形のプランを呈している。南側からN0°方向に調査区に入ってから直線的に進んだ後、屈曲部直前で方向をN-W11°に変じ、更にE-N13°方向に折れて直線的に走行する。

103号溝は鍵形のプランを呈するが、南側からN-W12°方向に調査区に入り、東側に折れて走行をE-N11°に変ずる。

104号溝はE-N27°方向に南側から調査区に入り、

第158図 IV区3・4号溝



北側に張り出す緩やかな弧を描いて最終的にE-N22°方向を向いて調査区外に出ている。

掘削形態は何れも箱堀状を呈する。

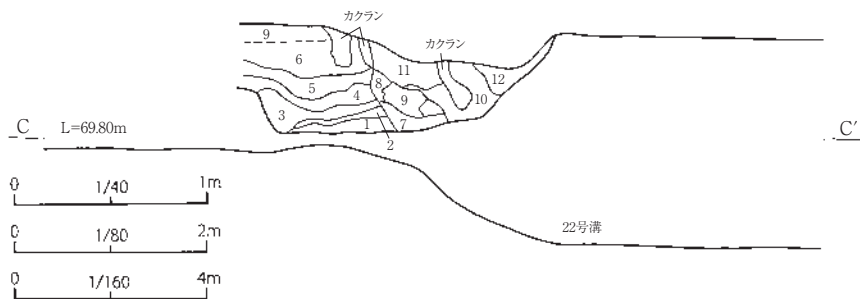
- [C-C']  
 (4号溝覆土)
- 1：細砂：50%と暗褐色(10YR3/4)：軽植土：50%の混土。
  - 2：細砂：50%。
  - 3：暗褐色軽植土：(10YR3/4)：細砂：5%混む。
  - 4：細砂：50%と暗褐色軽植土：(10YR3/4)：50%の混土：
  - 5：細砂：20%と褐色シルト質植土1：(10YR4/4)：80%の混土：しまっている。
  - 6：褐色軽植土：(10YR4/4)：上位9層からの攪乱をうけている。下部は5層に近い。固くしまる。
  - 7：細砂40%と暗褐色軽植土(10YR3/4)：60%の混土：しまっている。
  - 8：褐色軽植土(10YR4/4)：砂粒ごく少ない。しまっている。
  - 9：暗褐色軽植土(10YR3/4)と細砂斑状に30%の混土：鉄汚れ激しい。しまっている。
  - 10：にぶい黄褐色軽植土(10YR4/3)：小斑状に鉄分で汚れる。しまりやや弱い。
  - 11：にぶい黄褐色シルト質植土(10YR4/3)：細砂小斑5%含む。鉄分で小斑状に汚れ、ややしまる。
  - 12：にぶい黄褐色シルト質植土(10YR4/3)：SS小斑1%含む。しまりやや弱い。

(8) III区101号溝

(第157図)

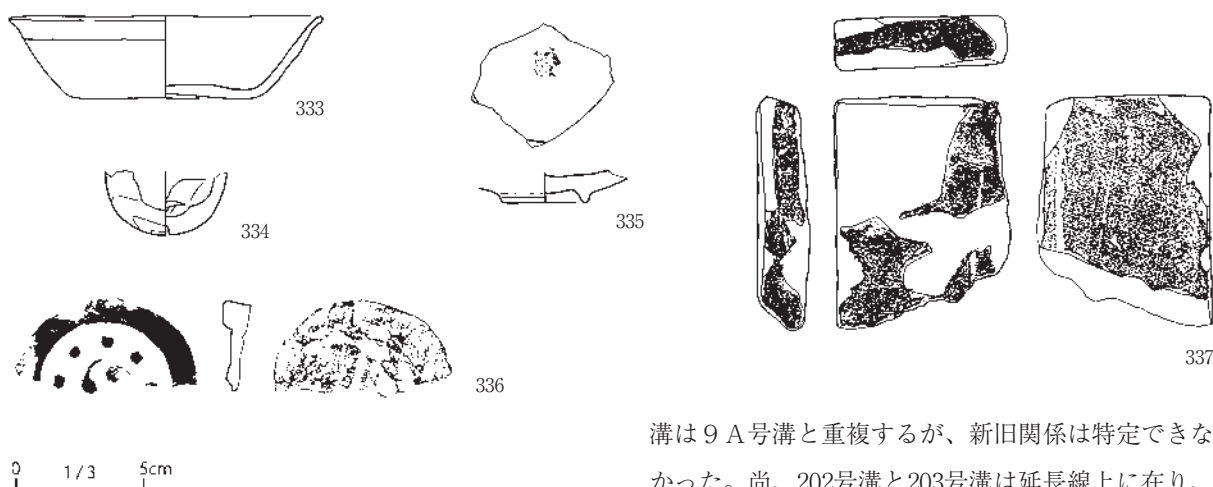
概要 本溝はIII東端中部北寄りに位置する。北側は削平で失われ、南側はIII区3号溝に接し、以南では確認できなかった。また本溝の東西両側には水田址が遺存している。

3号溝との新旧関係は明確ではないが、同溝の壁面の状態から推して、本溝の方が古い可能性が



第158図 IV区3・4号溝

II 調査の記録



第159図 IV区3号溝出土遺物(その1)

ある。また水田址との新旧は特定できなかった。

本溝に流水の痕跡は認められず、掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 土師器片1点が出土した。

**時期** 本溝の時期は中世後期から近世中期とできるだけ、特定することはできなかった。

**規模** 長さ1,149cm 幅45cm 深さ14cm

**構造** 本溝は屈曲部が緩やかな「L」字状のプランを呈するが、過半はN-E4°を向いており、南側の3号溝との重複部近くではE-W11°、北側ではN-E10°に走行を転じている。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(9) III区201・202・203・204・205・206号溝

(第155図)

**概要** III区201・202・203・204・205・206号溝はIII区南寄りの中～東部に位置する。調査段階では遺構番号はなく、整理段階で付した。

このうち201号溝は西側が調査区外に出て、204号溝はIII区9A号溝との接点以南で確認されない。また202～206号溝は軸方向の乗る包含と復員が近似するため、一連のものとして把握している。

本溝群中、201号溝が204・205号溝と、202号溝が205・206号溝と重複関係にあるが、新旧関係を特定することはできなかった。また上述のように204号

溝は9A号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。尚、202号溝と203号溝は延長線上に在り、同一の溝である可能性を有する。

各溝の掘削意図を把握することはできなかったのであるが、202～206号溝の走行は、同じく一群と認識するIII区3・5～8号溝に近接し、且つ走行方向が近似していることから、両溝群が同一の軸線に基づいて掘削された可能性が考慮されるのである。

**遺物** 断定はできないが、出土遺物は認められなかったと判断される。

**時期** 各溝の時期は中世後期から近世中期とできるだけ、特定することはできなかった。

**規模** 201号溝 長さ1,467cm 幅60cm

深さ - cm

202号溝 長さ378cm 幅37cm 深さ - cm

203号溝 長さ529cm 幅32cm 深さ - cm

204号溝 長さ440cm 幅34cm 深さ - cm

205号溝 長さ162cm 幅35cm 深さ - cm

206号溝 長さ514cm 幅39cm 深さ - cm

**構造** 201号溝は若干の屈曲部を有するが、その両側は直線的なプランを呈する。軸方向は、西側ではE-N2°を向き、東側はE-S4°を向く。

202号溝は直線的なプランで、軸方向はE-N5°を向く。

203号溝は北側、204号溝は西側に、206号溝は東側に緩やかに張り出す弧状のプランを呈し、軸方向は全体として203号溝はE-N1°、204号溝はN-E6°、206号溝はN-E8°を向く。

205号溝は南寄りに緩やかな折れを伴う直線的な

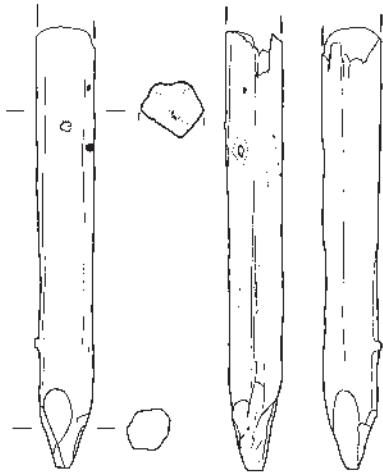
プランで、軸方向は基本的にN-E1°を向く。

掘削形態は概ね葉研堀状と認識される。

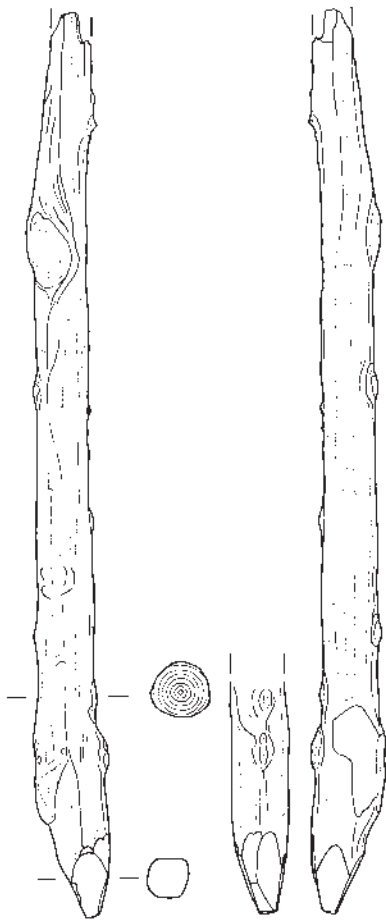
(10) IV区3号溝

(第159～163図、PL53・72～74)

概要 IV区3号溝は北側調査区の中中部、南側調査区の東端部に確認されている。本溝は南北調査区で確認されたものを1条の溝としているが、軸線の延長方向が一致しないことや、南北調査区で復員の違い

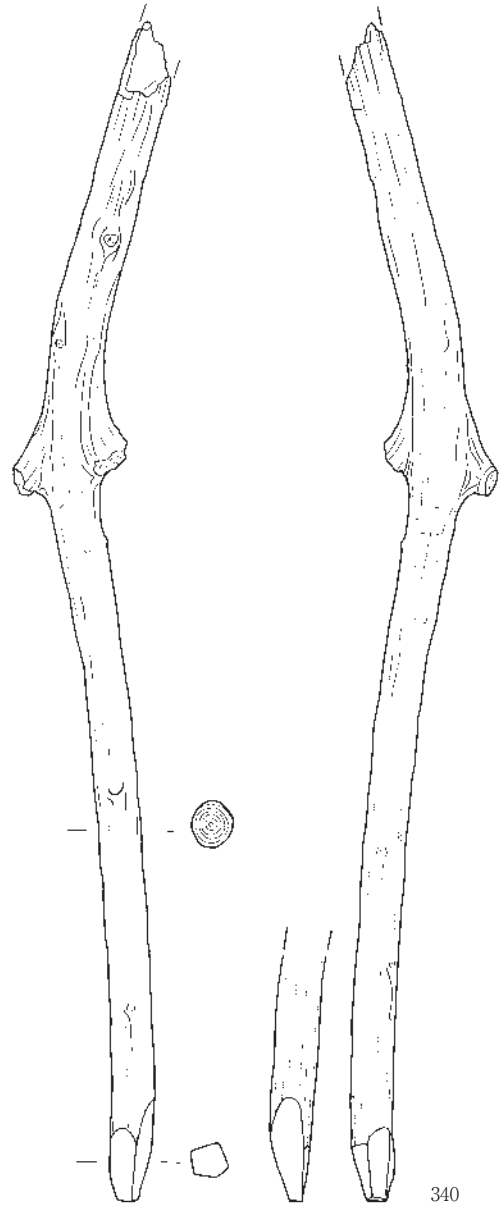


338



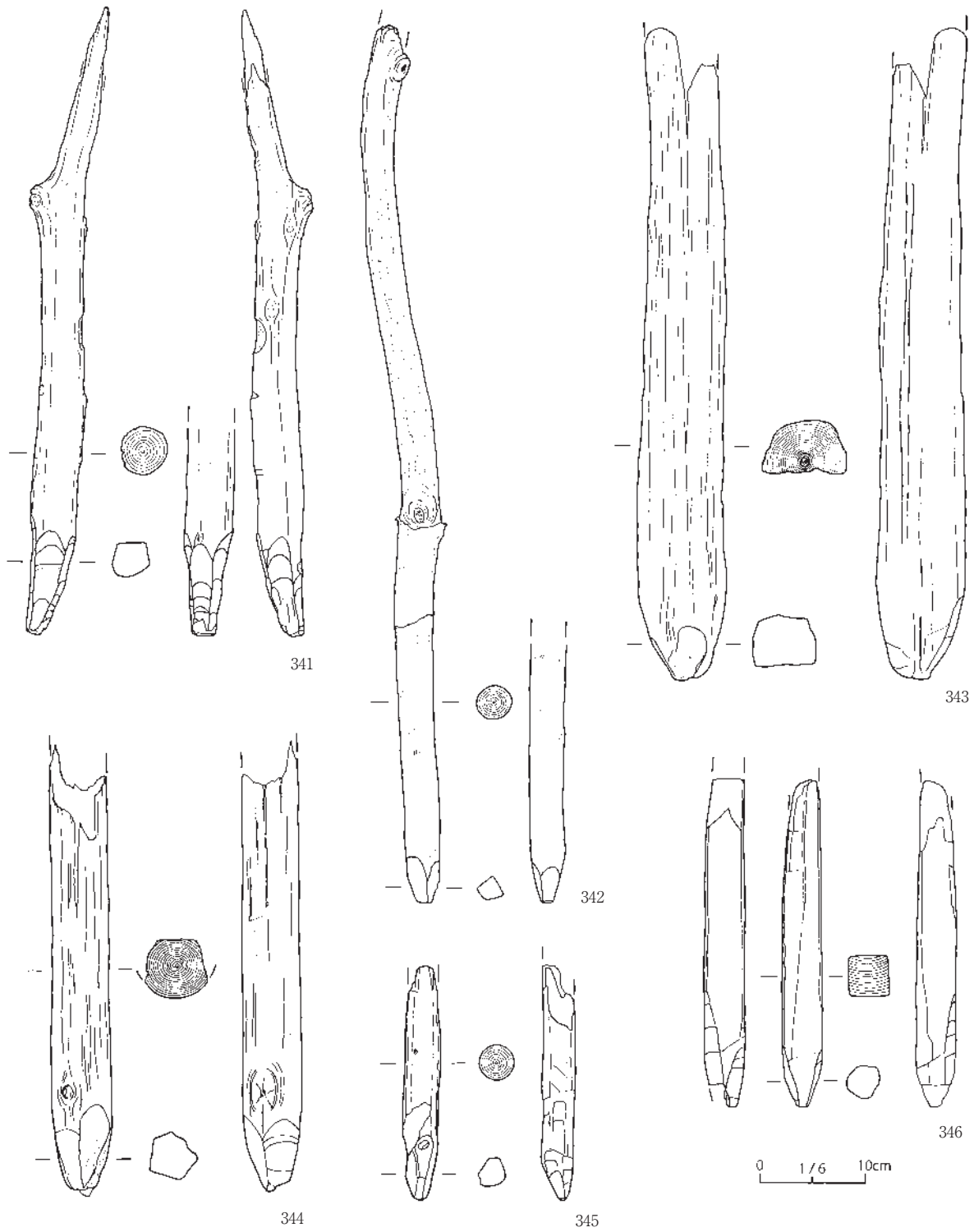
339

0 1/6 10cm



340

第160図 IV区3号溝出土遺物(その2)

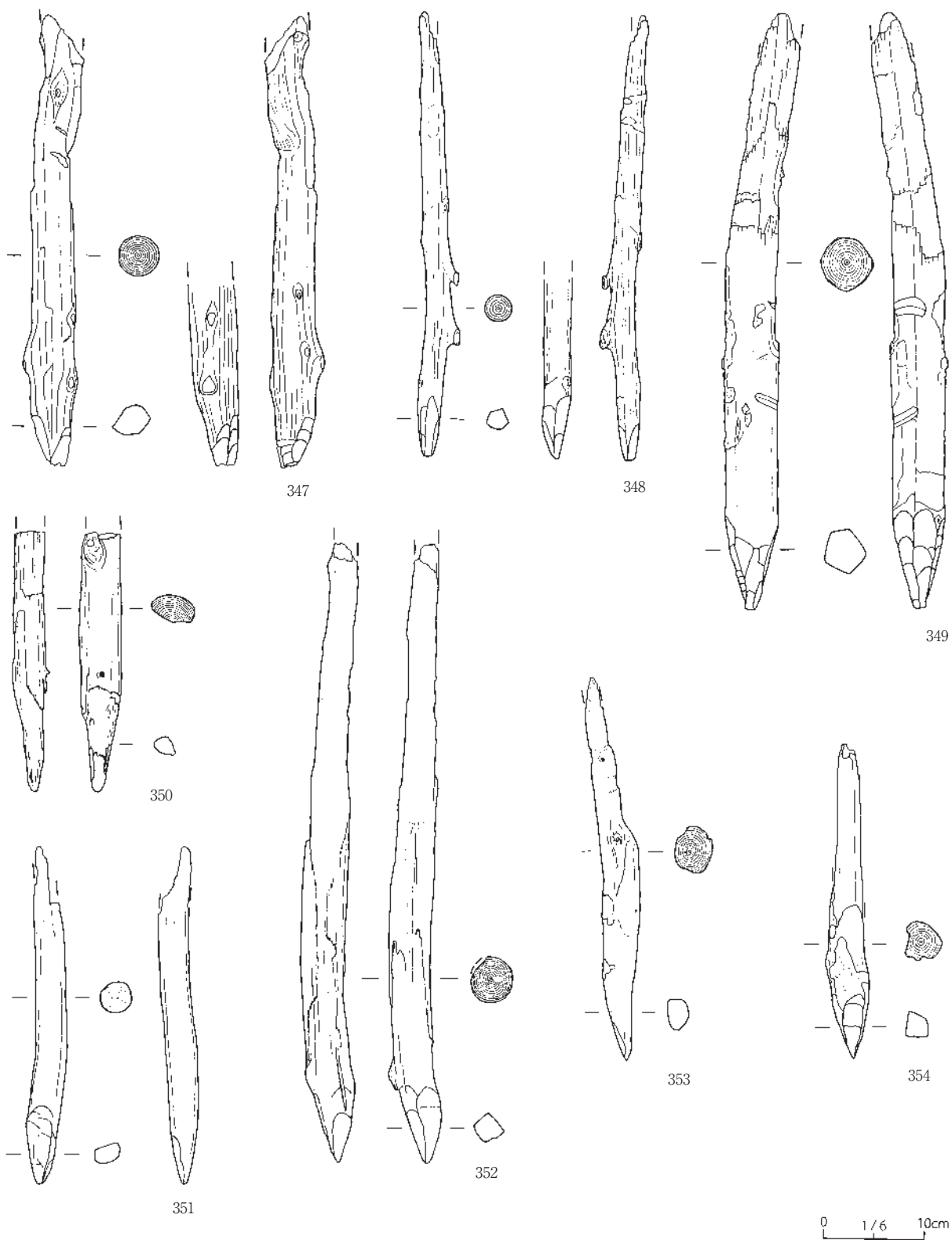


第161図 IV区3号溝出土遺物（その3）

があるため別遺構である可能性も否定できない。  
本溝は調査段階に南側調査区北寄りで5号溝と重複していた。新旧は特定できなかったが、5号溝はその覆土から4面に属すると認識されるので、本溝の

方が新しいものと判断している。

本溝の掘削意図は明確ではないが、走行が自然地形に沿うことから、水路の可能性がと認識される。  
遺物 3号溝からは土師器坏(333)、中世の土鈴の

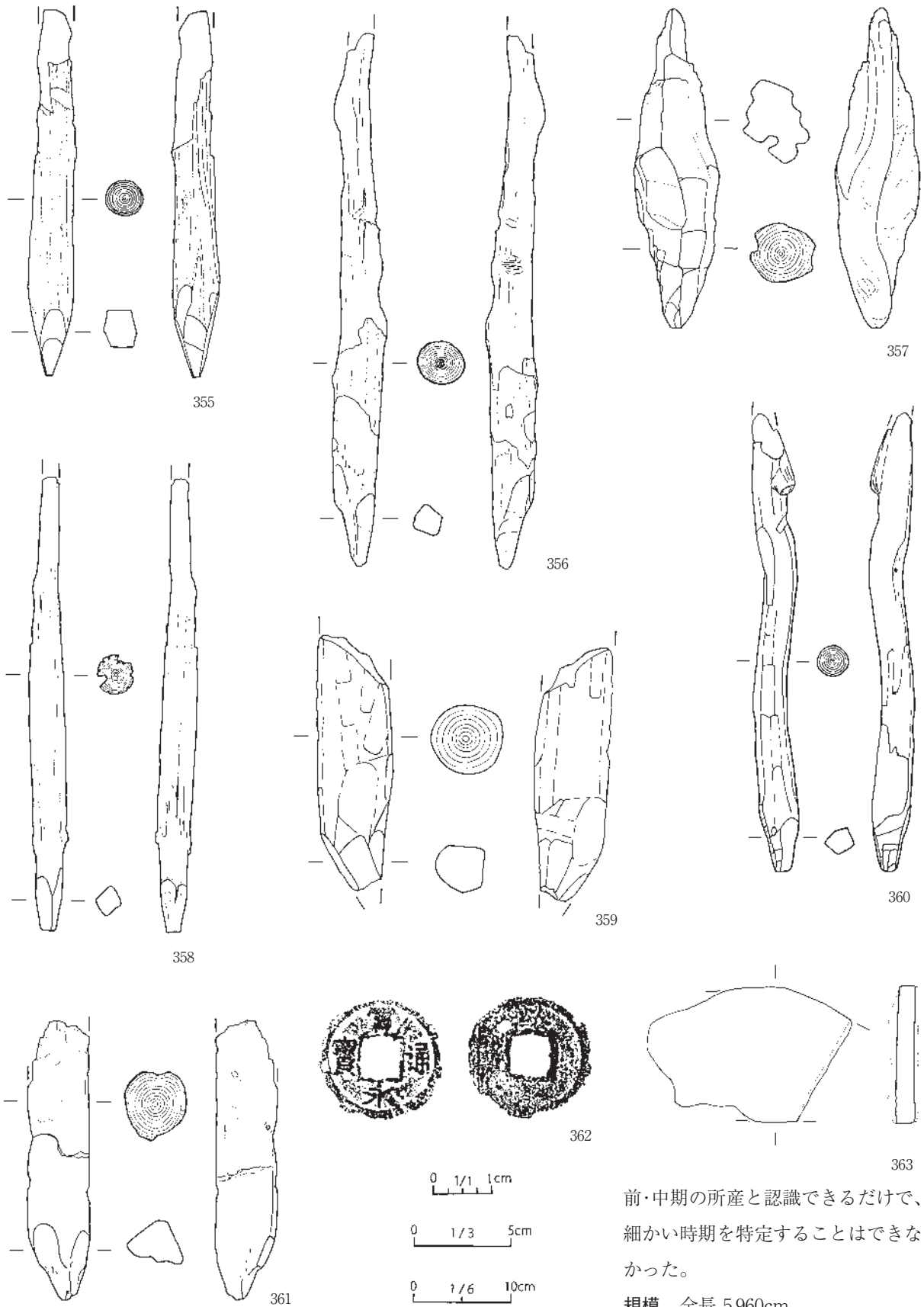


第162図 IV区3号溝出土遺物（その4）

可能性のある素焼きの製品（334）、近代の製品で上位層からの混入と見られる磁器碗（335）、軒丸瓦（336）、平瓦（337）の出土が得られた他、木杭（338

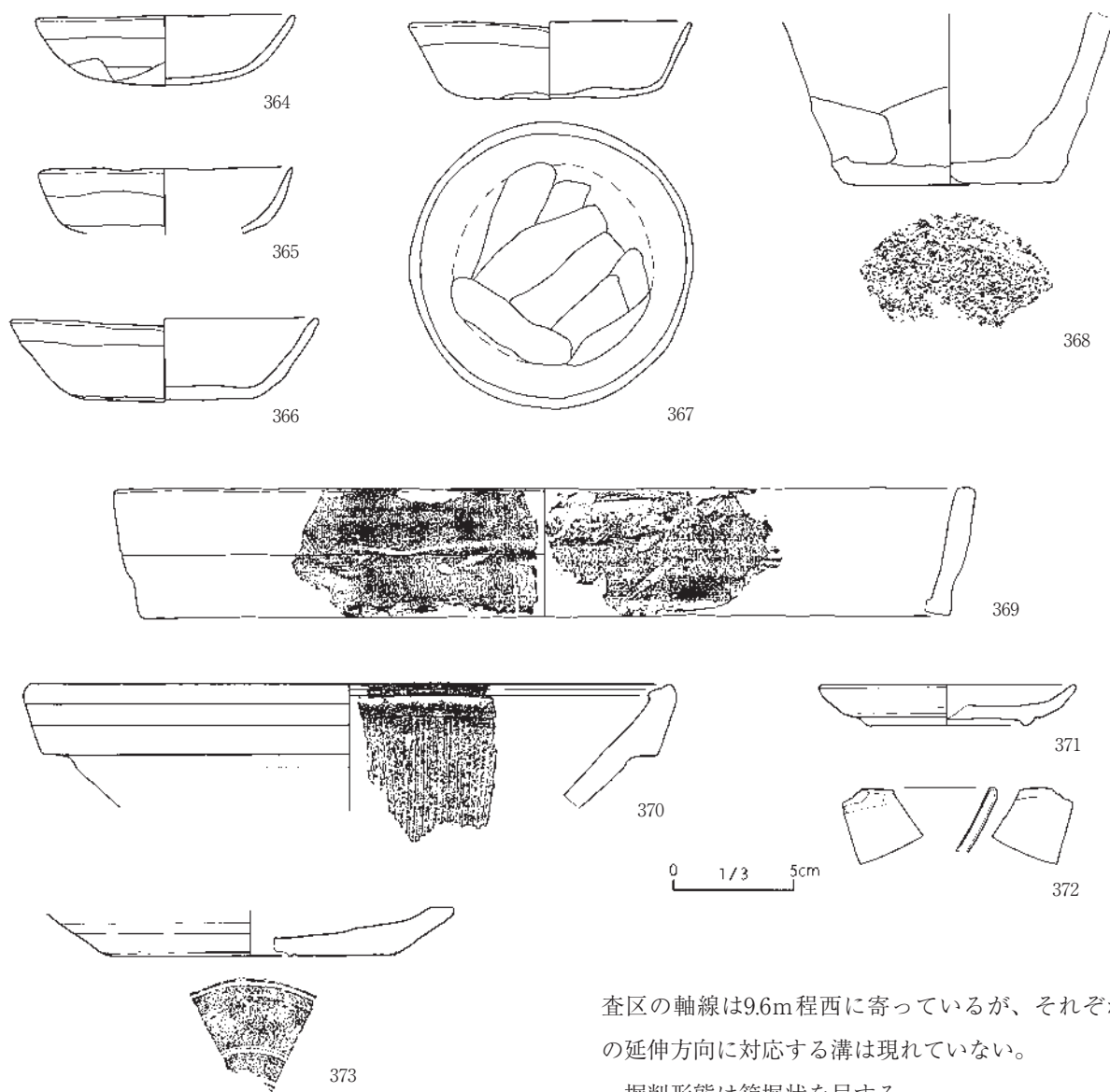
～361）や新寛永の寛永通寶（362）、種類不詳の鉄板（363）など比較的多くの遺物の出土が得られた。  
 時期 本溝は出土遺物や覆土から中世若しくは近世

II 調査の記録



第163図 IV区3号溝出土遺物 (その5)

前・中期の所産と認識できるだけで、  
 細かい時期を特定することはできな  
 かった。  
 規模 全長 5,960cm  
 (北側調査区) 長さ 2,408cm



第164図 IV区4号溝出土遺物

幅 160cm 深さ 23cm

(南側調査区) 長さ 751cm

幅 292cm 深さ 37cm

**構造** 本溝は南北それぞれの調査区域で南北両側が調査区外に出ているため全容は詳らかでないが、北側調査区に於いてはN-W34°に軸方向を取る比較的直線的なプランを呈し、南側調査区ではN-W41°に軸方向を取り、やはり直線的なプランを呈する。前述のように南北調査区部分の溝の延伸軸線にはズレがあり、南側調査区部分の延伸方向に対し、北側調

査区の軸線は9.6m程西に寄っているが、それぞれの延伸方向に対応する溝は現れていない。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(IV-4号溝は報文は185頁)

(11) 2面の土坑群 (第165図、PL55)

**概要** 2面に於いてはⅢ区37・38・39・40・41・42・43・44・45・46号の10基の土坑を確認、調査した。これらの土坑は何れもⅢ区西部中程に在って、集中的な分布状態を見せている。

何れの土坑も単独に在って、他遺構との重複関係は認められなかった。

また何れの土坑についても掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。



II 調査の記録

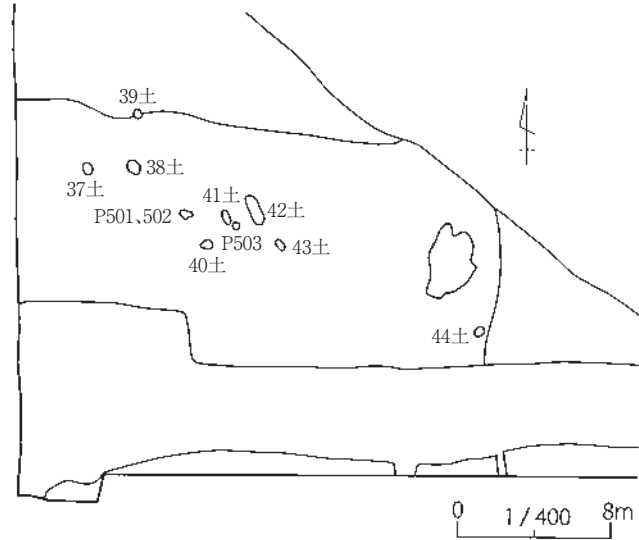
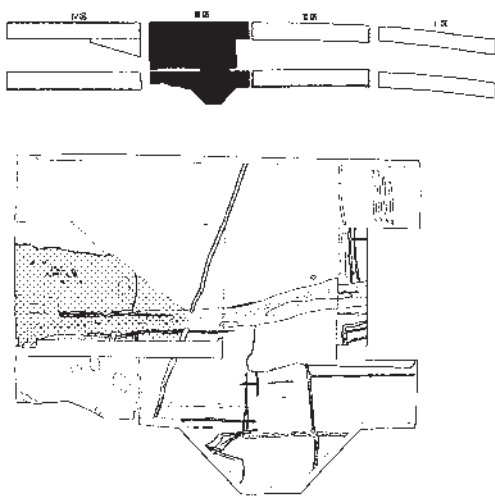
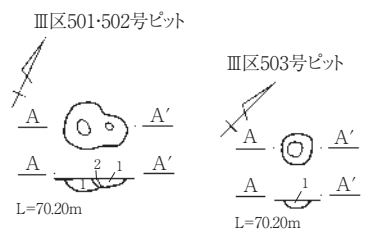


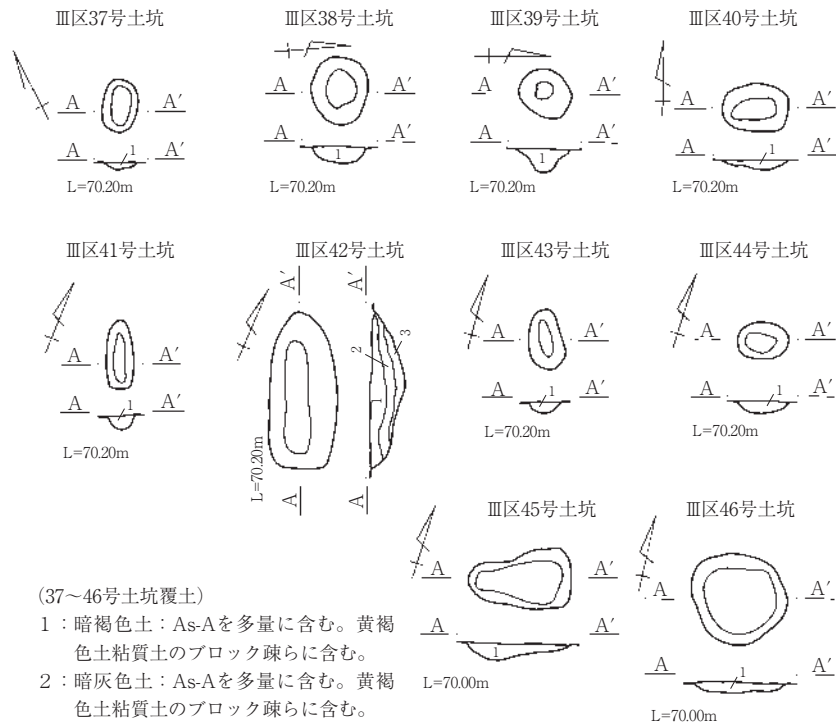
表40 2面土坑・ピット群一覧

番号	径 (cm)	深さ (cm)	軸方向
土坑			
1	59 × 46	8	NE30°
2	69 × 64	19	EN10°
3	38 × 40	25	EN41°
4	67 × 51	12	E0°
5	75 × 28	18	NW23°
6	163 × 65	37	NW23°
7	61 × 32	16	NW25°
8	51 × 38	13	EN17°
9	111 × 65	9	EN15°
10	107 × 43	9	WS27°
ピット			
501	(39) × 53	14	NW22°
502	(29) × 33	11	EN21°
503	32 × 28	11	WN44°



0 1/80 2m

第165図 Ⅲ区2面の土坑群及びピット群



(37~46号土坑覆土)

- 1: 暗褐色土: As-Aを多量に含む。黄褐色土粘質土のブロック疎らに含む。
- 2: 暗灰色土: As-Aを多量に含む。黄褐色土粘質土のブロック疎らに含む。
- 3: 暗灰色粘質土: As-Aを多量に含む。

(501・502・503号ピット覆土)

- 1: 暗褐色土: As-Bを多量に含む。褐色粘質土のブロック疎らに含む。
- 2: 黄褐色粘質土

が、プランは37。40号土坑が隅丸長方形、38号土坑が円形、39・43・44号土坑が楕円形、41・42号土坑が船形、45号土坑が前方後方形、46号土坑が隅丸

時期 各土坑の時期は中世後期から近世中期の所産と認識できるだけで、細かい時期を特定することはできなかった。

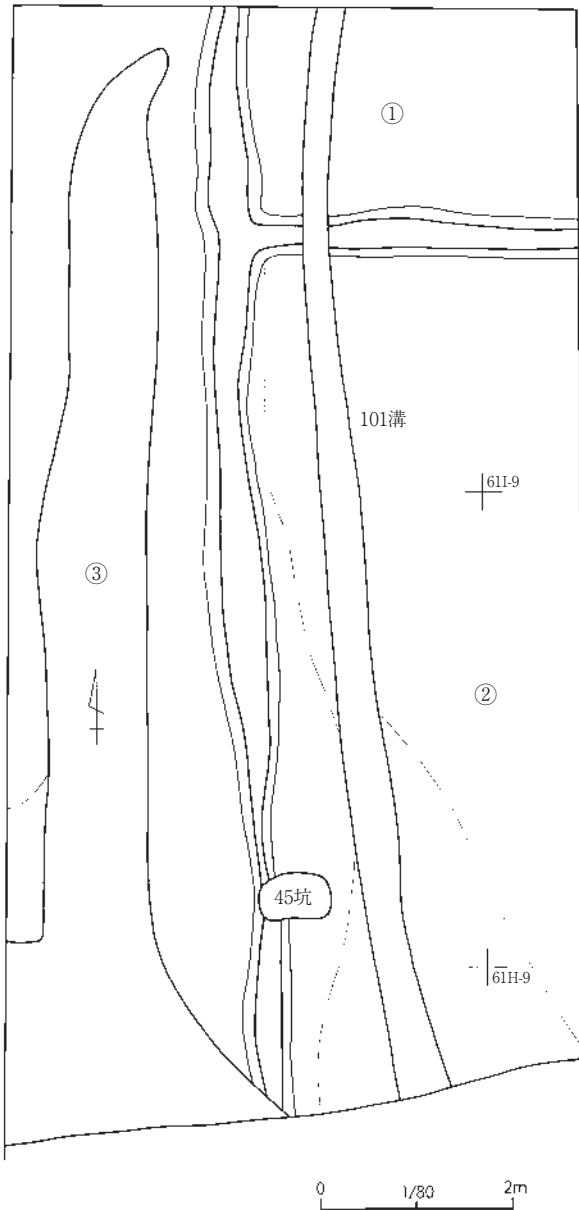
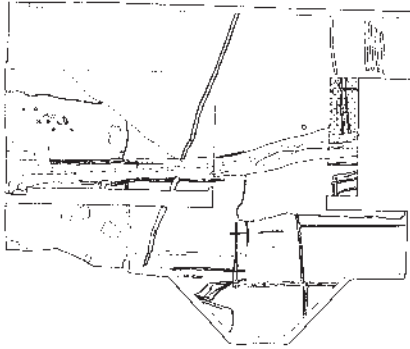
規模 表40 (2面土坑・ピット一覧) 参照

構造 各土坑の長軸方向は表40に記した通りである

台形を呈する。

掘削形態は39号土坑が播鉢形、41・42号土坑が葉研形を呈する以外は何れも箱形を呈する。

底面形態は全体に丸底気味である。



第166図 Ⅲ区2面の水田址

(12) Ⅲ区のピット (第165図)

**概要** Ⅲ区ではⅢ区西部中程の南寄りに、Ⅲ区501・502・503号の3基のピットを確認、調査した。

このうち501・502号ピットは重複していたが、後者の方が新しい。また502号ピットは単独で在って、他遺構との重複は見られなかった。

何れのピットも掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 出土遺物は確認されなかった。

**時期** 何れのピットも中世後期から近世中期の所産として把握できるだけで、細かい時期を特定することができなかった。

**規模** 表40 (2面土坑・ピット群一覧) 参照

**構造** 軸方向は表40に記した通りだが、プランは501・502号ピットが隅丸長方形。503号ピットは隅丸方形を呈している。

掘削形態は何れも柱穴様であり、底面形態は501・502号ピットが丸底、203号ピットが平底であった。

(13) 水田址 (第166図、P52)

**概要** 本水田址は、Ⅲ区東端部の中程北寄りに位置している。北側は削平によって欠失しており、南側はⅢ区3号溝に接して、3号溝以南の区域に於いては確認できていない。

本水田址はⅢ区3・101号溝と重複する。前者はその壁面の状態から推して本址の方が古いものと見られるが、後者との新旧関係は特定できなかった。

また記録が充分に取れなかったため断定はできないが、本水田址は所謂擬似畦畔の可能性を有している。

**遺物** 出土遺物は確認できなかった。

**時期** 本水田址の時期は確認面等から推して中世後期から近世中期とできるだけで、特定することはできなかった。

**規模** 範囲 607×1,210cm

南北畦畔 長さ 1,168cm 幅 73cm

## II 調査の記録

東西畦畔 長さ 347cm 幅 57cm

水田区① 径 356×221cm

水田区② 径 356×894cm

水田区③ 径 267×1,210cm

**構造** 本水田址はN-W $2^{\circ}$ に軸方向を持つ南北走行の畦畔と、これにT字形に接続する主軸をE-S $2^{\circ}$ 方向に持つ東西走行の畔が確認されている。両畦畔共

に直線的ではあるが、僅かに蛇行するプランを呈しており、復員も一定しない。

また第166図中、東西畦畔の北側に①、南側に②、南北畦畔の西側に③と番号を付した3枚の水田区が想定されるが、確認範囲が限定的であるため、範囲も明確ではない。

水口等は確認されていない。

## 8 第1面の調査

### (1) 概要

I面ではI～Ⅲ区で表土直下の確認面に伴う遺構について調査した。尚、圃場整備に伴う削平などによりIV区では遺構は確認することはできず、I区の北東部、Ⅱ区の北西部、Ⅲ区南部と中部西寄りでは遺構の分布が薄いか確認できない区域があった。

確認された遺構群は、概ね近世後半期以降の所産で、天明3年(1783)の浅間火山噴火前後の時期と見られる溝等、同噴火に伴う降下軽石(As-A)災害からの復旧に伴う溝群や土坑群。当該復旧事業施工の遺構で、I区で道路2条、溝5条、土坑1基、畠1面、火山災害復旧遺構3群とAs-A溜り1箇所、As-A混土を覆土とする落ち込みが4箇所、Ⅱ区では溝2条と復旧遺構3群、Ⅲ区では溝8条と復旧遺構9群及び土坑1基であった。

### (2) I区1・2号道路

(第168・169図、PL56・75)

**概要** I区1号道路はI区南側調査区の東部、I区2号道路はI区北側調査区中部西寄りに在った。

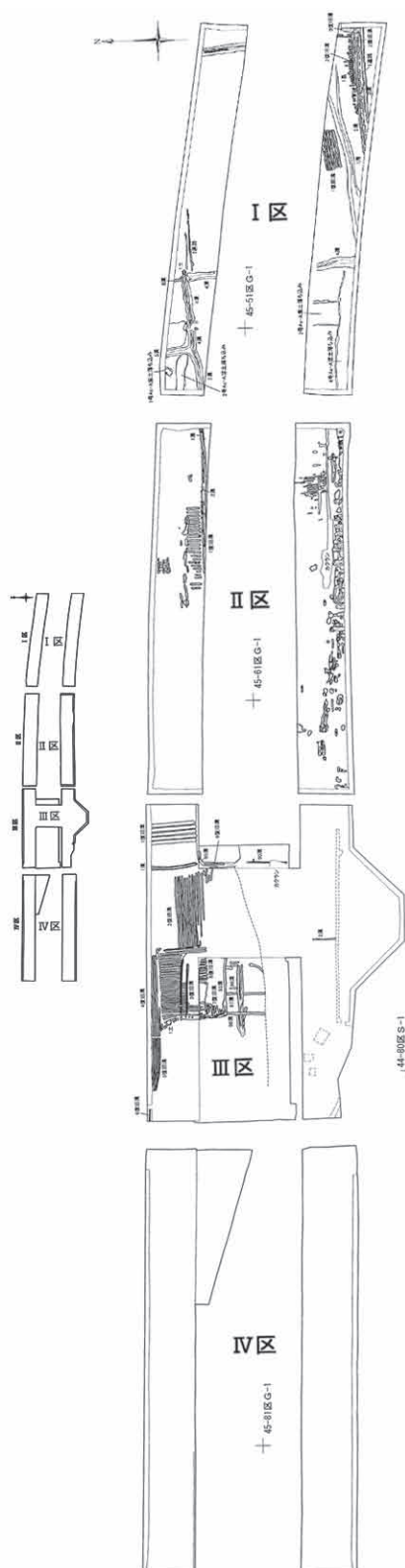
1号道路は当初I区2・3号溝として調査に着手したが、2条が並行すること、及び土層断面に硬化層を確認したことから道路と認識した。尚、北側側溝が旧2号溝、南側側溝が旧3号溝である。

2号道路は2条の側溝から道路遺構と判断した。

両道を圃場整備前(昭和40年頃)の玉村町都市計画図(第173図参照)と付き合わせたが、合致箇所は認められなかった。尚、2号道路は遺存状態が不良で調査区内で東西両側が滅失するが、西側はI区4・5号溝の南側を延びていたと想定される。

**遺物** 両道路共に僅かな土器・陶磁器を出土したに過ぎないが、1号道路側溝(I区2号溝)からは鉄板(375)や骨(376)の出土が見られた。

**時期** 1号道路は側溝覆土にAs-Aが多く入ること、及び後述するI区2号復旧溝の状態から推して天明3年(1783)頃使用されていたものと思慮される。



第167図 I区全体図 (S=1/2000)

II 調査の記録

2号道路の時期は不明だが、As-Aは含まず、圃場整備前の地図になく、1号道路に概ね並行すること等から、1号道に先行する可能性を考えたい。

規模 1号道路 長さ 3,097cm 幅 139cm

(全幅 272cm)

北側側溝 幅 68cm 深さ 22cm

南側側溝 幅 97cm 深さ 20cm

2号道路 長さ 2,256cm 幅 46~119cm

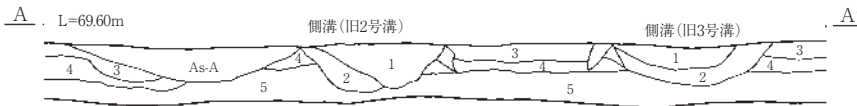
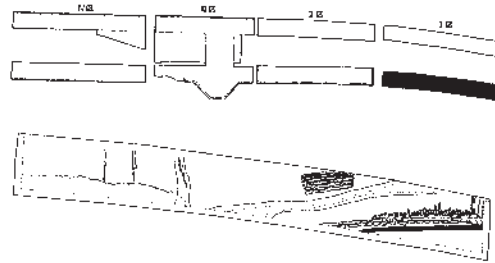
(全幅 198cm)

北側側溝 幅 48cm 深さ 4cm

南側溝 幅 50cm 深さ 5cm

構造 1号道路は東西両側が調査区外に在って全容は詳らかにできなかったが、調査範囲では西部でN-E84°、中・東部でN-E87°方向に走行を取って、概ね直線的なプランを呈する。

2号道路は遺存状態が悪く、全容は不明だが、その走行はN-E86°向く直線的なプランで、幅員は西端近くで広く、中・

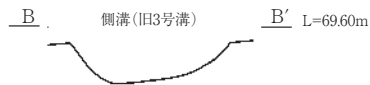
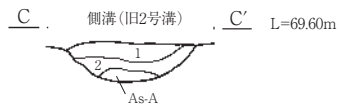


(2・3号溝覆土)

1 : にぶい赤褐色砂質土(5YR4/3) : 粒子粗。締まりなし。As-A (径1-5mm)を主体とし鉄分沈着。

2 : にぶい赤褐色砂質土(5YR4/3) : 粒子粗。締まりなし。As-A (径1-4mm)多く含む。(道路面)

3 : 3層に同じだが少し硬化。路面として使用。



(浅間火山噴出物)

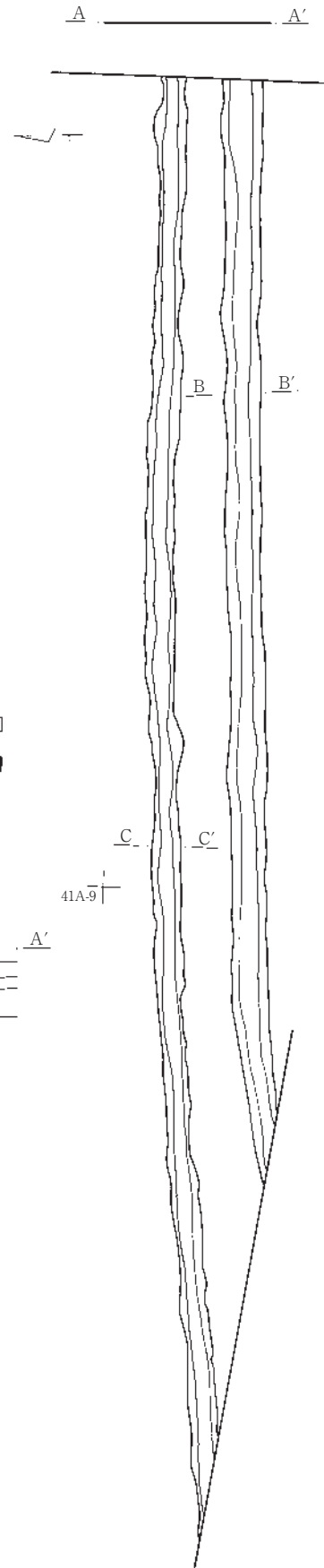
As-A : 天明3年(1783)浅間火山噴出軽石。

(地山)

3 : にぶい赤褐色シルト質土(5YR4/3) : 粒子粗。締まりなし。含有物なし。

4 : 黄褐色シルト質土(10YR5/6) : 粒子粗く締まりなし。含有物なし。

5 : にぶい黄褐色土(10YR5/2) : 粒子粗。締まりなし。含有物なし。



第168図 I区1号道

東部では狭まる。

共に路面は確認できなかったが、1号道路に於いては土層断面観察で地山層の中に硬化層その存在が確認している。

1・2号道路共に左右両側に側溝を有する。1号道路の側溝は箱堀状を呈し、2号道路は遺存状態が不良で明確ではないが、箱堀状を呈するものと判断される。

### (3) I区1号溝

(第170図、PL59・75・77)

**概要** 本溝はI区南側調査区中・東部に位置する。東西両側が調査区外に出ているため全容を確認することはできなかった。

本溝は前述の圃場整備前の都市計画図と付き合わせた結果、第173図中矢印aで示した地境にほぼ一致するものと認められた。

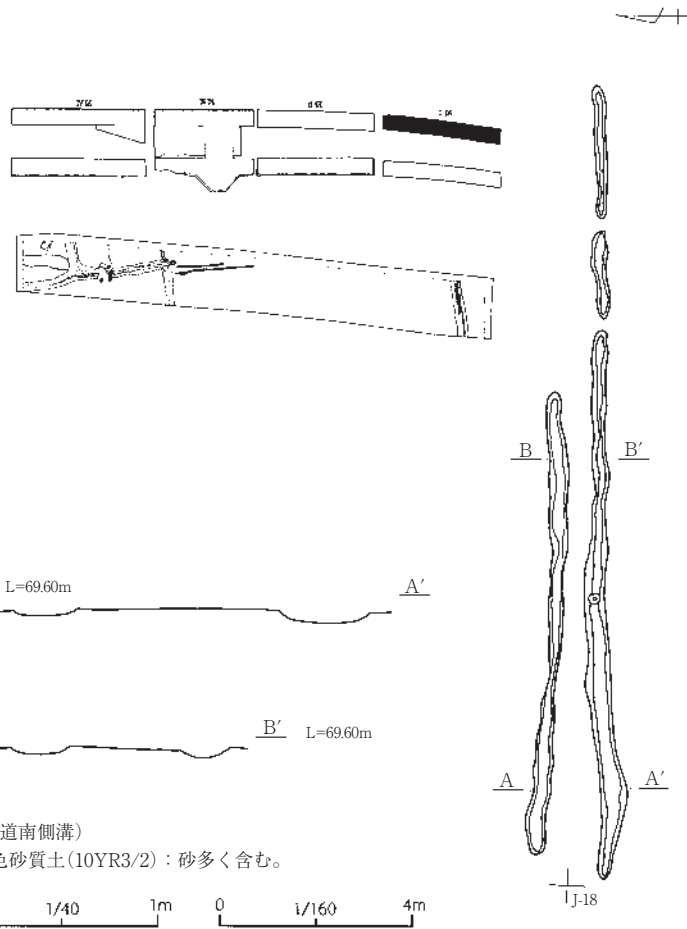
本溝は水路であり、流水方向は東側と見られる。

**遺物** 本溝の出土遺物は比較的多く、須恵器碗(377・378)、軟質陶器鍋(379)・鉢(380)・火鉢(381)、陶器碗(382~384)・灯明皿(385)・灯明台(386)・袋もの(387)、瓦(388)、軟質陶器内耳鍋(389)、砥石(390・391)、寛永通宝(392)、馬蹄(393)、留金具らしき鉄製品(394)、折りたたみナイフ(395)、櫛(507)、昆虫(397)などが見られた。

**時期** 本溝は昭和40年頃の圃場整備まで使用されている。一方その上限は詳らかでないが、上述のI面1・2号道路やI面4~7号溝との軸方向が異なることなどから、天明3年以降の所産と判断される。

**規模** 長さ4.576cm 幅321cm 深さ84cm

**構造** 本溝は全容を調査できなかったものの、走行は全体としてはN-E79°方向に取っており、全体には極緩やかに蛇行するプランを見せている。



第169図 I区2号道

掘削形態は箱堀で東端ではやや拡大し、底面は西端に窪みを持つ。

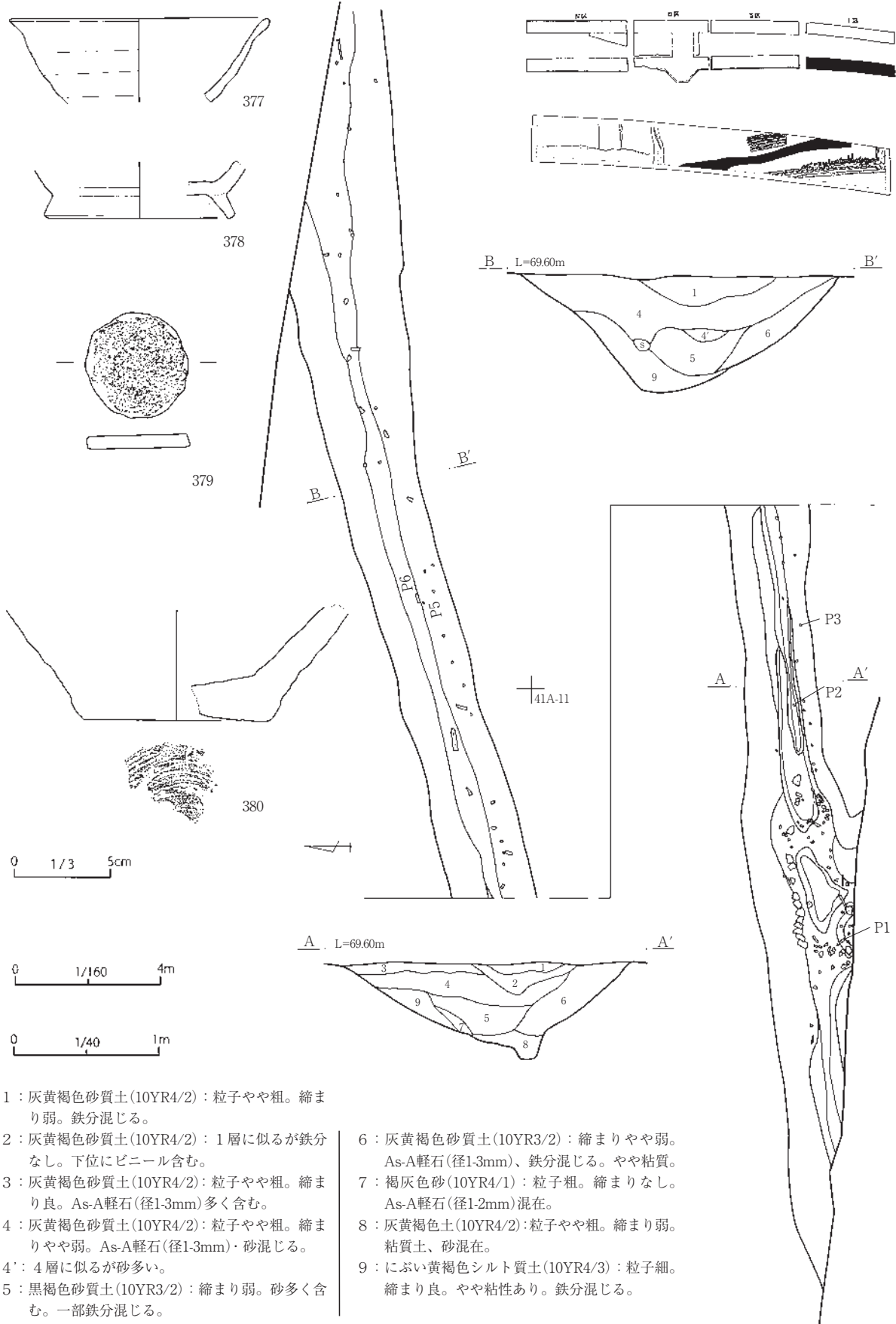
西端部の窪みの北側には礫が1列設置され、窪地を囲むように東西を向く長方形プランで多数の本杭が打設されていた。北辺の杭列は若干東に伸び、南辺の杭列は東部で南壁方向に延び、東部の中程以東では溝中央に杭列が認められた。杭列は新旧のものが入り混じっているようスパンに規則性は見出せなかった。その打設時期は新しいと見受けられる。

### (4) I区4・5・6号溝

(第172~174図、PL59・60・75)

**概要** I区4・5・6号溝はI区北側調査区の西部に位置し、4号溝は南側調査区の西部でも確認され

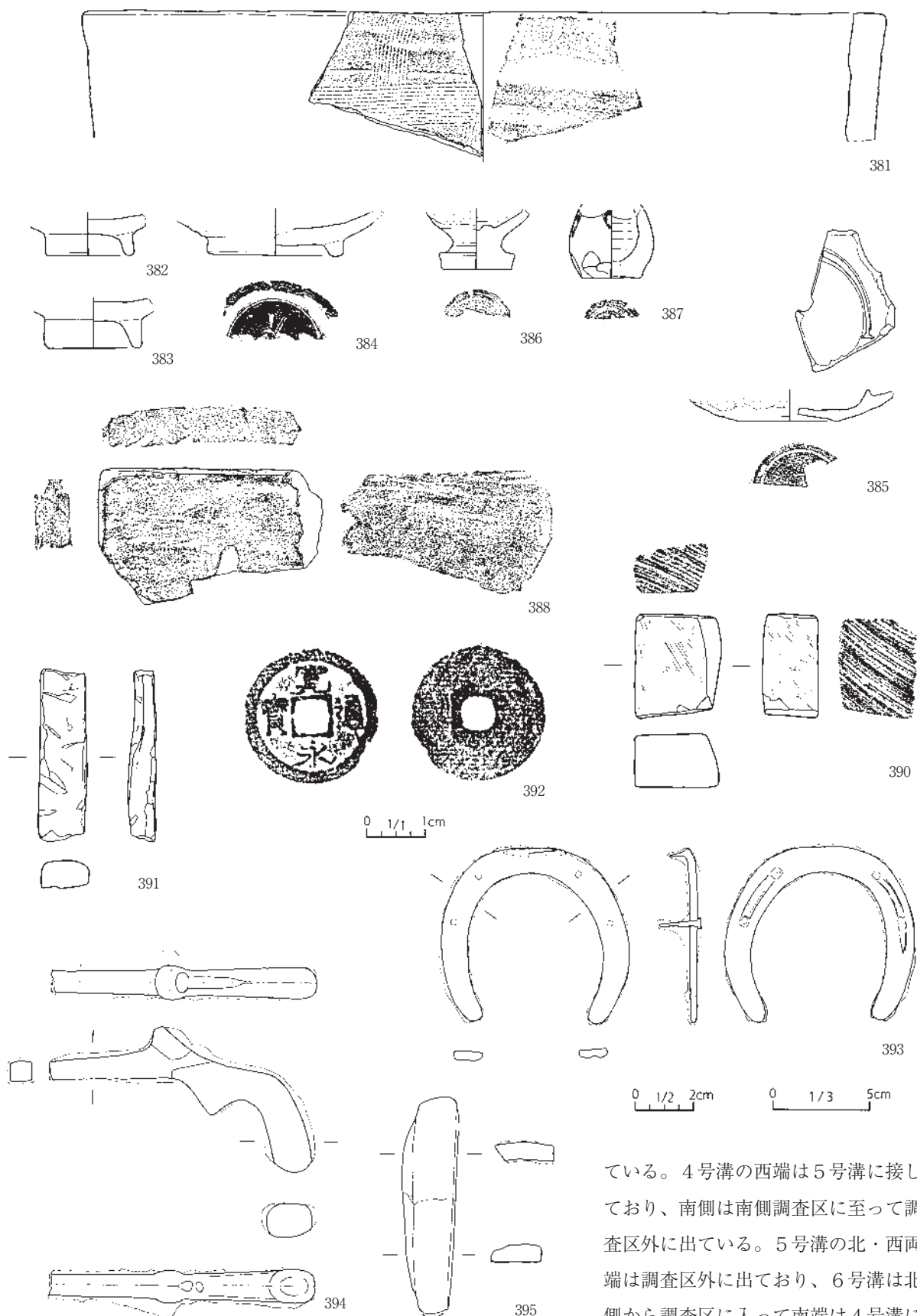
II 調査の記録



- 1 : 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) : 粒子やや粗。縮まり弱。鉄分混じる。
- 2 : 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) : 1層に似るが鉄分なし。下位にビニール含む。
- 3 : 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) : 粒子やや粗。縮まり良。As-A軽石(径1-3mm)多く含む。
- 4 : 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) : 粒子やや粗。縮まりやや弱。As-A軽石(径1-3mm)・砂混じる。
- 4' : 4層に似るが砂多い。
- 5 : 黒褐色砂質土(10YR3/2) : 縮まり弱。砂多く含む。一部鉄分混じる。

- 6 : 灰黄褐色砂質土(10YR3/2) : 縮まりやや弱。As-A軽石(径1-3mm)、鉄分混じる。やや粘質。
- 7 : 褐灰色砂(10YR4/1) : 粒子粗。縮まりなし。As-A軽石(径1-2mm)混在。
- 8 : 灰黄褐色土(10YR4/2) : 粒子やや粗。縮まり弱。粘質土、砂混在。
- 9 : にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) : 粒子細。縮まり良。やや粘性あり。鉄分混じる。

第170図 I区1号溝

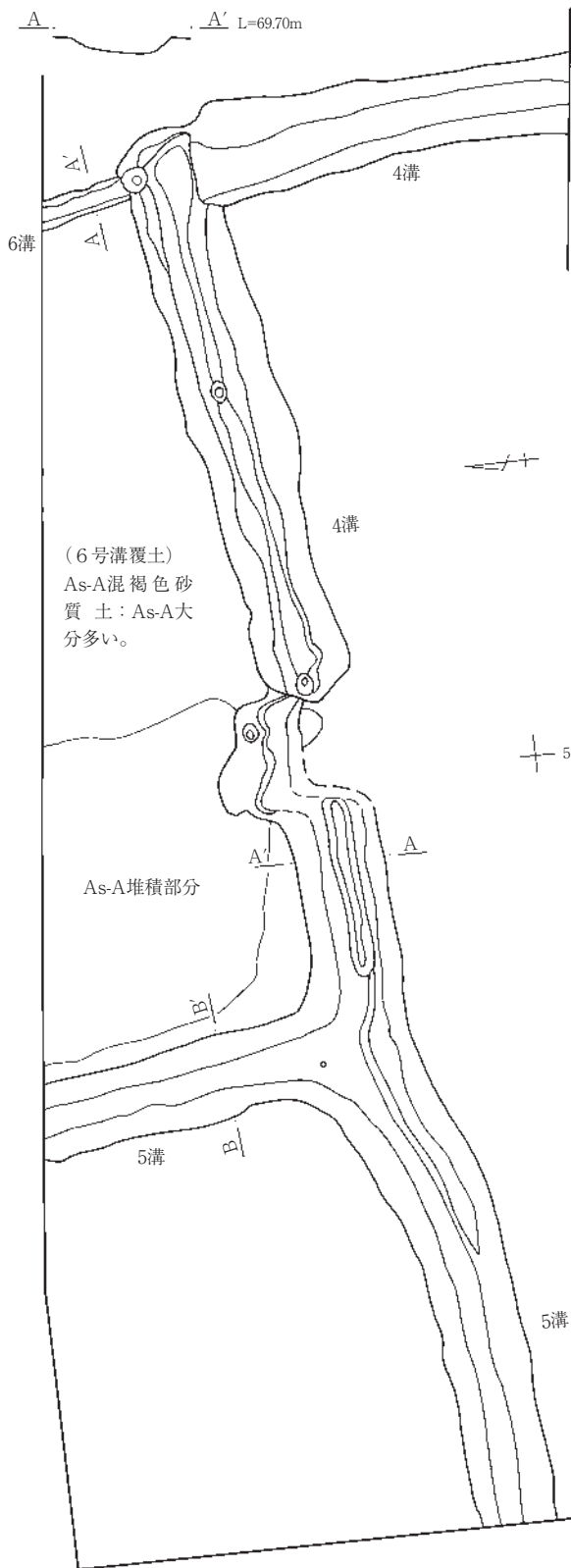


第171図 I区1号溝出土遺物

ている。4号溝の西端は5号溝に接して  
 おり、南側は南側調査区に至って調  
 査区外に出ている。5号溝の北・西両  
 端は調査区外に出ている、6号溝は北  
 側から調査区に入って南端は4号溝に  
 繋がっている。

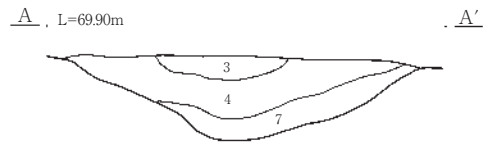
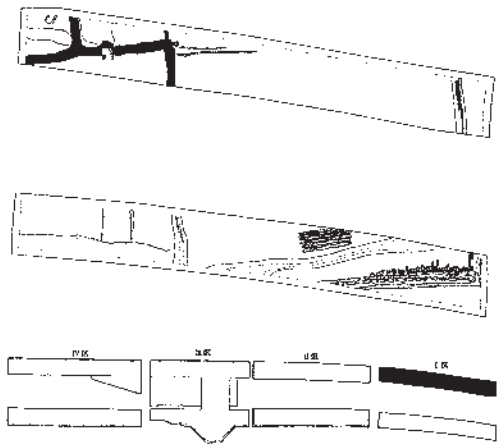


II 調査の記録



第172図 I区4・5・6号溝(その1)

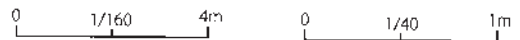
4・5・6号溝は走行の方向から推して一連の遺構群と見られる。圃場整備前の都市計画図と付き合



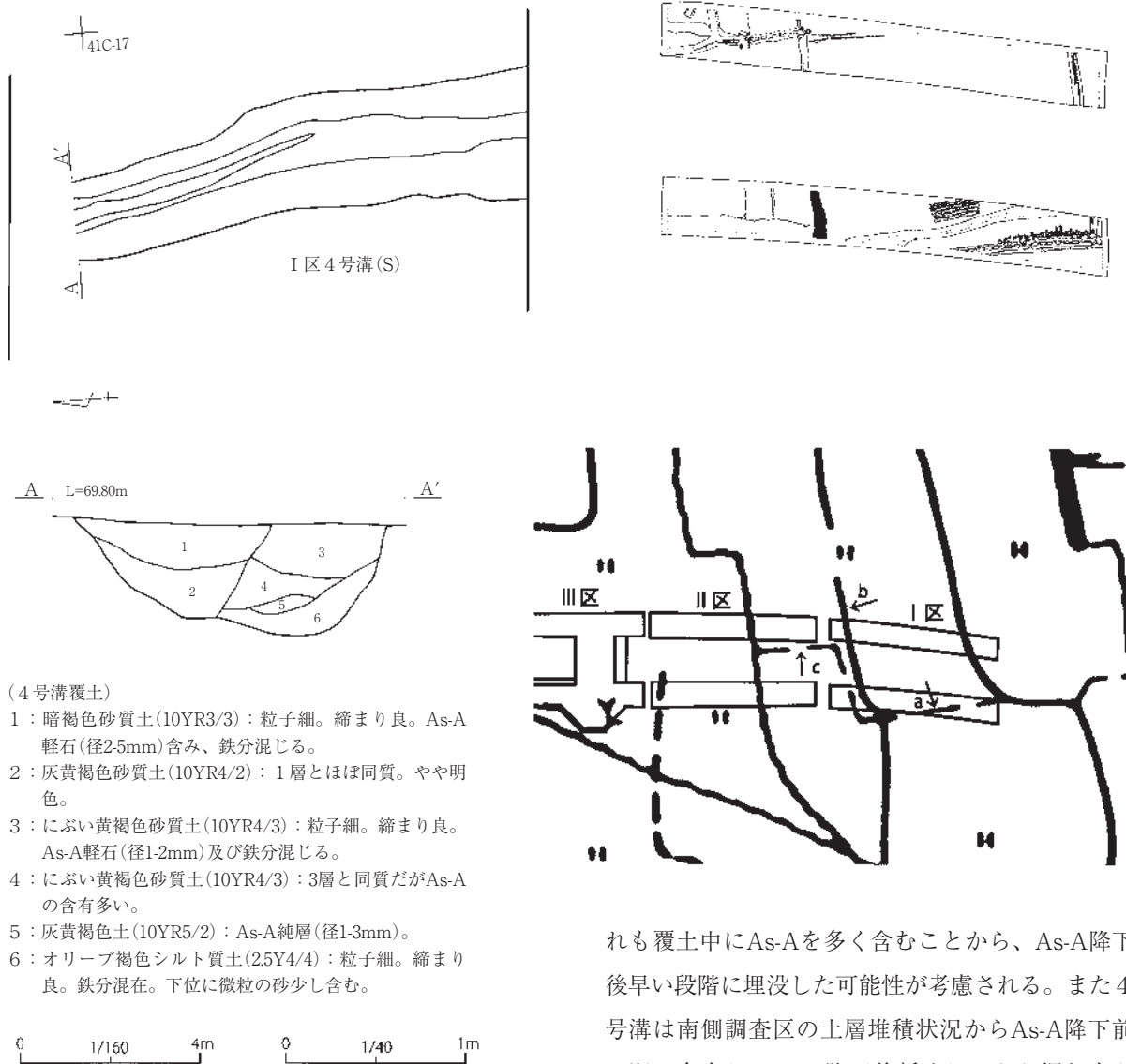
(4号溝覆土) I区4溝1-2+ナシ/3-6  
 3: にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3): 粒子細。締まり良。  
 As-A軽石(径1-2mm)及び鉄分混じる。  
 4: にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3): 3層と同質だがAs-Aの含有多い。  
 7: 暗灰黄色砂質(2.5Y4/1): 粒子やや粗。締まり弱。  
 As-A(径1-4mm)及び砂混じる。



(5号溝)  
 1: 灰黄褐色砂質土(10YR4/2): 粒子細。締まり良。  
 As-A(径1-3mm)やや多く含む。  
 2: にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3): 1層とほぼ同質だがやや明色。  
 (地山)  
 3: にぶい赤褐色シルト質土(5YR4/3): 粒子粗。締まりなし。含有物なし。



わせた結果では、5号溝の北行する部分が第173図中矢印bで示した地境にほぼ一致し、西行する部分は矢印cで示した地境に並行するように在り、後述するII区1・2号溝との関係からほぼこの地境に乗



- (4号溝覆土)
- 1：暗褐色砂質土(10YR3/3)：粒子細。締まり良。As-A軽石(径2.5mm)含み、鉄分混じる。
  - 2：灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：1層とほぼ同質。やや明色。
  - 3：にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粒子細。締まり良。As-A軽石(径1.2mm)及び鉄分混じる。
  - 4：にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：3層と同質だがAs-Aの含有多い。
  - 5：灰黄褐色土(10YR5/2)：As-A純層(径1.3mm)。
  - 6：オリーブ褐色シルト質土(2.5Y4/4)：粒子細。締まり良。鉄分混在。下位に微粒の砂少し含む。



第173図 I区4・5・6号溝(その2)と圃場整備前地図

るものと思慮される。尚、4・6号溝に一致する箇所を確認することはできなかった。

4号溝は一部覆土に流水の痕跡により水路と見られ、5号溝も準じると見られるが、6号溝の掘削意図は不特定。また4号溝の南側調査区で掘り直しの痕跡がある。尚、4号溝は240頁に別記がある。

**遺物** 4号溝では鉢(398)等の陶磁器が比較的多く出土し、土師器片や砥石(399)、礫、鉄が出土し、5号溝では陶器皿(400)・菊皿(401)・磁器碗(402)の若干の陶磁器、6号溝からは陶磁器片1点の出土が見られた。

**時期** 4・5・6号溝の時期は明確ではないが、何

れも覆土中にAs-Aを多く含むことから、As-A降下後早い段階に埋没した可能性が考慮される。また4号溝は南側調査区の土層堆積状況からAs-A降下前に既に存在し、As-A降下後暫くしてから掘り直されたと想定される。4・5・6号溝は一連の溝遺構と見られることから、何れも天明3年(1783)前後の所産のものとして把握したい。

**規模** 4号溝 全長 5,100cm

(北側)長さ 2,725cm 幅 225cm 深さ 63cm

(南側)長さ 1,046cm 幅 296cm 深さ 61cm

5号溝 長さ 1,716cm 幅 222cm 深さ 44cm

6号溝 長さ 199cm 幅 60cm 深さ 10cm

**構造** 上述のように4号溝は北側調査区と南側調査区に跨り、北側調査区では西から5号溝との接点近く、その東の几字状プランを成す区域、最初のラインに戻る区域、南に走行を変ずる区域の4区域(以下順に「区域1～4」、南側調査区部分を「区

## II 調査の記録

域5」とする)に分けられる。区域1は5号溝から分岐し、全体としてN-E85°方向を向いて5号溝際で若干北を向く。区域2では区域1・3の南肩のライン上に径98×95cmと149×56cmを測る2基の浅い楕円形プランの土坑が124cm隔てて在り、溝はこれを避けるように1m近く北側に迂回する。迂回先ではN-E88°方向に2.6m程直線的に走行するが、溝の中心は南に偏り、北壁面は葉研状に広がる。区域3では全体としてはN-E82°方向に直線的な走行を取り、東端で走行を南に転じている。屈曲箇所では区域4より若干深く、底面は区域4の底面東端より僅かに東に張り出している。区域4の走行は全体としてN-W5°方向で東に張り出す極緩やかに弧状を描く。区域5は北半はN-W11°、南半はN0°を向く逆く字状のプランを呈する。

5号溝は北から調査区に入ってN-W12°方向に直

線的に走行して4号溝との分岐地点に至り、ここで屈曲してW-S24°からW-S4°方向に転じて緩やかな弧状プランを成して西側調査区外に出る。

6号溝は4号溝のうち区域4の東半部の延長線上に位置している。北側より調査区に入って4号溝に流入するが、N-W10°方向に直線的なプランを呈している。

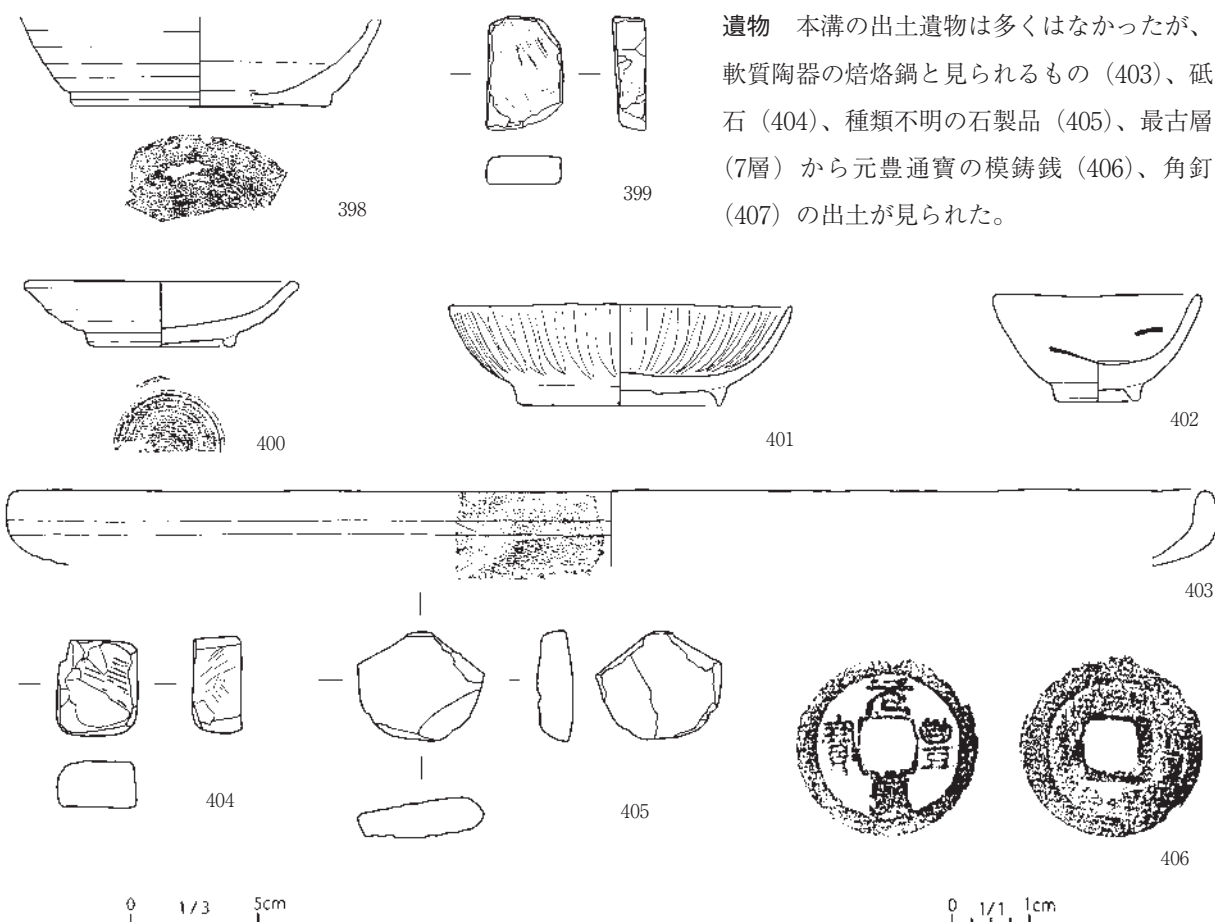
掘削形態は何れも箱堀状を呈するが、4号溝と5号溝の規模は近似しており、4号溝西部と5号溝は全体として逆T字に近い菱形の配置をなす。

### (5) I区7号溝 (第175図、PL75)

**概要** 本溝は北側調査区の東端近くに位置する。南北両端が調査区外に出ており、全容を確認することはできなかった。

本溝に流水の痕跡は見られず、掘削意図も特定できなかった。

**遺物** 本溝の出土遺物は多くはなかったが、軟質陶器の焙烙鍋と見られるもの(403)、砥石(404)、種類不明の石製品(405)、最古層(7層)から元豊通寶の模鑄銭(406)、角釘(407)の出土が見られた。



第174図 I区4・5・7号溝出土遺物

時期 覆土は3期に分かれるが、2期下層（4層）はAs-Aの堆積により天明3年前後の所産と認識される。また1期の土層はAs-Aが多いため、As-A降下後程無く掘り直され、早い段階で放棄されたと見られる。当初掘削時期は不明だが近世以降と見られる。

規模 長さ 1,193cm 幅 235cm  
深さ 53cm

構造 本溝は調査範囲ではN-W7°を向き、直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状だが、中～北寄りの底面中央に幅16cm、深さ628cmを測る低い島状の掘り残しが見られる。

(6) II区1・2号溝

(第176図、PL.60・75)

概要 II区1・2号溝はII区北側調査区東南部に位置する。1号溝は東側、2号溝は東西両側が調査区外に在るため全容は確認できなかった。

1・2号溝は重複し、前者は後者の北寄り覆土内に掘削されている。また両溝はI区5号溝の西側延長線上に在るが、規模等から推して同溝より新しい別遺構と判断される。

圃場整備前の都市計画図との付き合

(3期覆土)

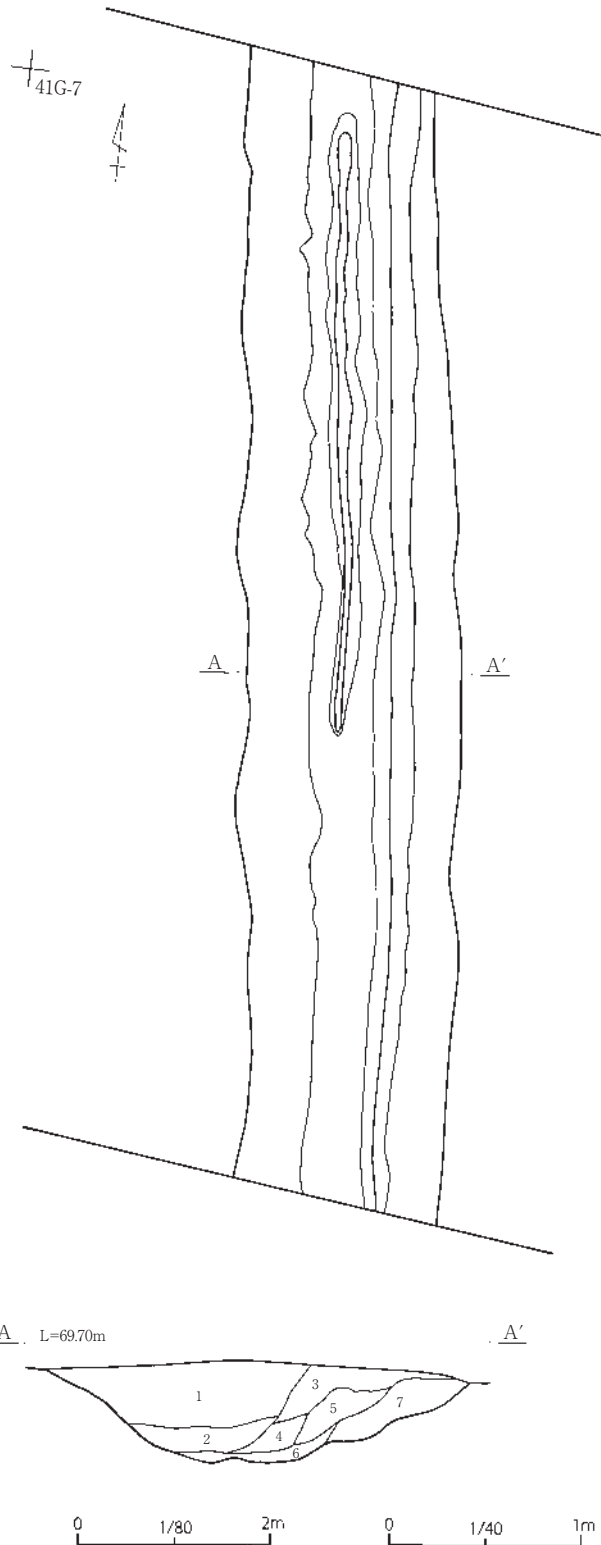
- 1：灰黄褐色土(10YR4/2)：粒子細。締まり良。As-A(径2-4mm)多く含む。
- 2：灰黄褐色土(10YR4/2)：1層と同質だが、やや粒子大きく、締まり弱く、As-A多い。

(2期覆土)

- 3：にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粒子細。締まり良。As-A(1-2mm)含む。
- 4：灰黄褐色軽石(10YR5/2)：As-A純層(径1-5mm)。

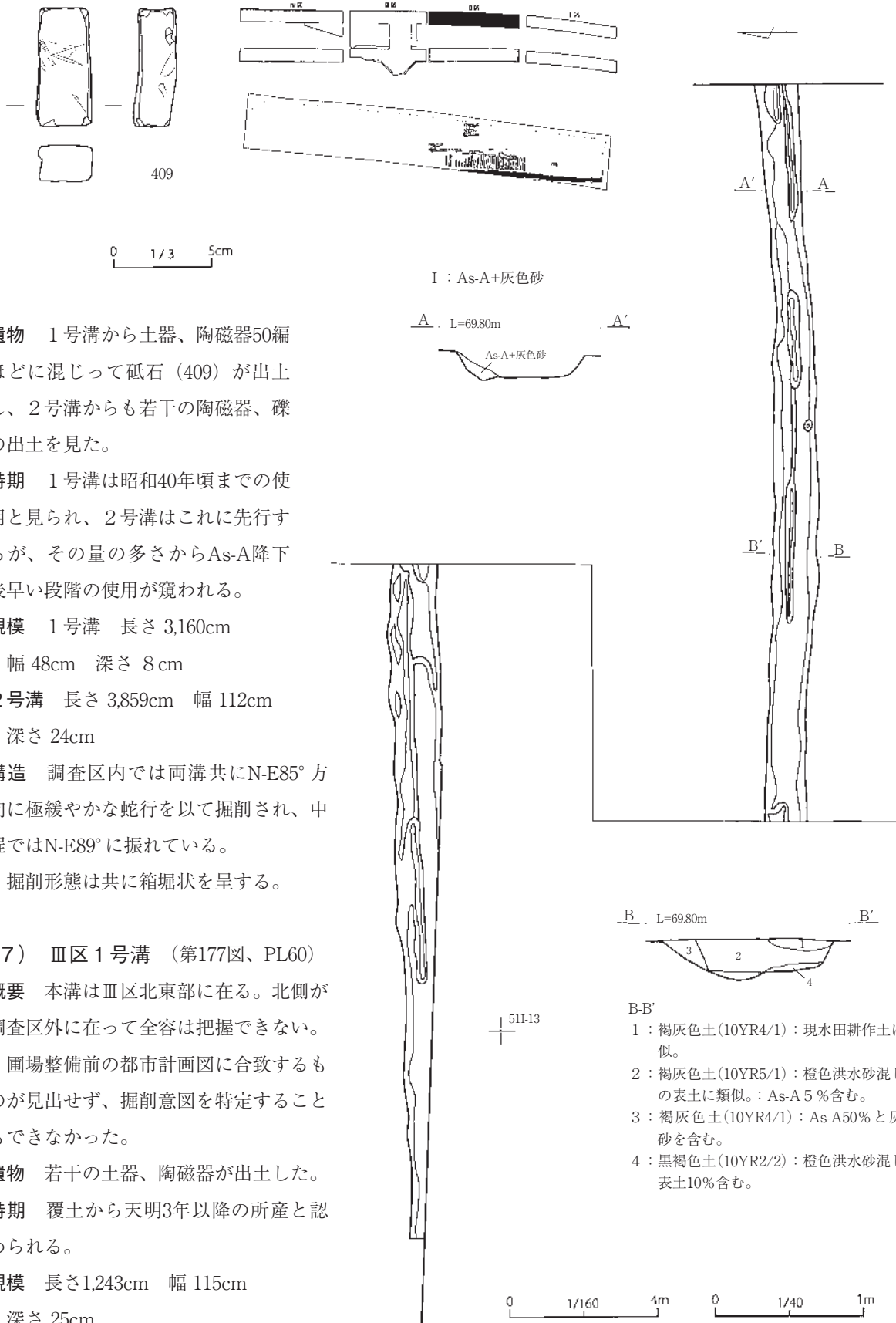
(1期覆土)

- 5：にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4)：粒子細。締まり良。白色軽石(径1-5mm)混じる。
- 6：暗灰黄色シルト質土(2.5Y4/2)：粒子細。締まり良。含有物なし。
- 7：にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3)：粒子細・締まり良。As-B軽石(径1-2mm)少し混じる。



第175図 I区7号溝

II 調査の記録



遺物 1号溝から土器、陶磁器50編ほどに混じって砥石(409)が出土し、2号溝からも若干の陶磁器、礫の出土を見た。

時期 1号溝は昭和40年頃までの使用と見られ、2号溝はこれに先行するが、その量の多さからAs-A降下後早い段階の使用が窺われる。

規模 1号溝 長さ3,160cm  
幅48cm 深さ8cm

2号溝 長さ3,859cm 幅112cm  
深さ24cm

構造 調査区内では両溝共にN-E85°方向に極緩やかな蛇行を以て掘削され、中程ではN-E89°に振れている。

掘削形態は共に箱堀状を呈する。

(7) III区1号溝 (第177図、PL60)

概要 本溝はIII区北東部に在る。北側が調査区外に在って全容は把握できない。

圃場整備前の都市計画図に合致するものが見出せず、掘削意図を特定することもできなかった。

遺物 若干の土器、陶磁器が出土した。

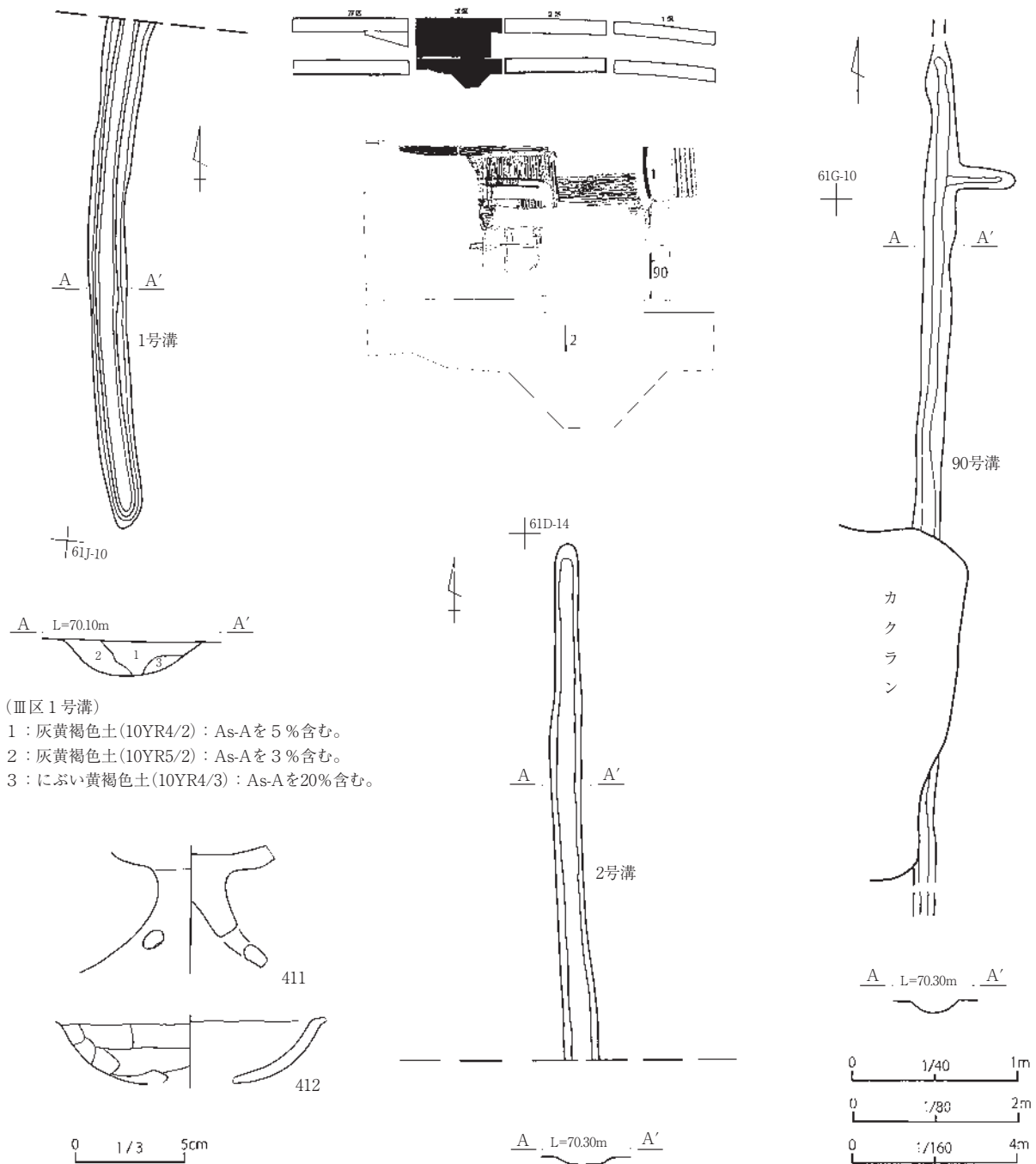
時期 覆土から天明3年以降の所産と認められる。

規模 長さ1,243cm 幅115cm  
深さ25cm

構造 調査範囲内ではN-W4°からN-E

- B-B'
- 1: 褐灰色土(10YR4/1): 現水田耕作土に類似。
  - 2: 褐灰色土(10YR5/1): 橙色洪水砂混じりの表土に類似。: As-A 5%含む。
  - 3: 褐灰色土(10YR4/1): As-A50%と灰色砂を含む。
  - 4: 黒褐色土(10YR2/2): 橙色洪水砂混じり表土10%含む。

第176図 II区1・2号溝と出土遺物



(Ⅲ区1号溝)  
 1：灰黄褐色土(10YR4/2)：As-Aを5%含む。  
 2：灰黄褐色土(10YR5/2)：As-Aを3%含む。  
 3：にぶい黄褐色土(10YR4/3)：As-Aを20%含む。

第177図 Ⅲ区1・2・90号溝と出土遺物

13°に走行を変ずる弧状のプランを呈している。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(8) Ⅲ区2号溝 (第177図、PL61・75)

概要 本溝はⅢ区中南部在り、遺存状態は不良。

本溝も圃場整備前の都市計画図に合致する箇所は見出せず、掘削意図も特定できなかった。

遺物 出土遺物には土師器器台(411)・坏(412)や軟質陶器鉢(413)等が見られた。

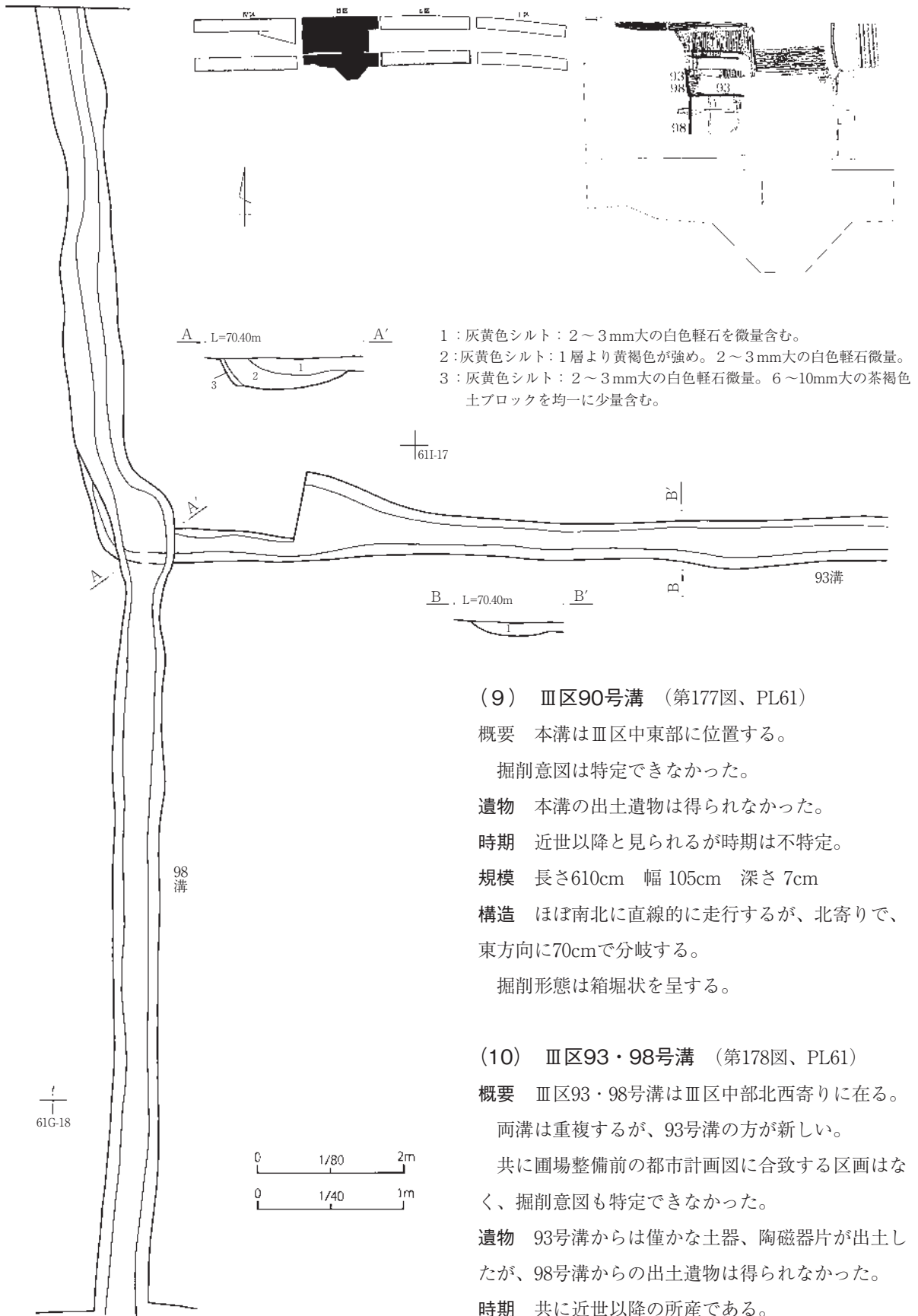
時期 近世以降の所産と見られる。

規模 長さ630cm 幅37cm 深さ5cm

構造 本溝はほぼ南北方向に走行を取り、僅かに屈曲するものの直線的プランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈するものと判断される。

II 調査の記録



第178図 Ⅲ区93・98号溝

(9) Ⅲ区90号溝 (第177図、PL61)

概要 本溝はⅢ区中東部に位置する。

掘削意図は特定できなかった。

遺物 本溝の出土遺物は得られなかった。

時期 近世以降と見られるが時期は不特定。

規模 長さ610cm 幅 105cm 深さ 7cm

構造 ほぼ南北に直線的に走行するが、北寄り、東方向に70cmで分岐する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(10) Ⅲ区93・98号溝 (第178図、PL61)

概要 Ⅲ区93・98号溝はⅢ区中部北西寄りに在る。

両溝は重複するが、93号溝の方が新しい。

共に圃場整備前の都市計画図に合致する区画はなく、掘削意図も特定できなかった。

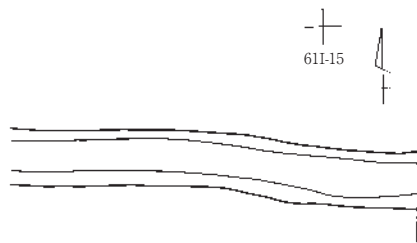
遺物 93号溝からは僅かな土器、陶磁器片が出土したが、98号溝からの出土遺物は得られなかった。

時期 共に近世以降の所産である。

規模 93号溝 長さ1,674cm 幅 120cm

深さ 7cm  
 98号溝 長さ1,810cm 幅 85cm  
 深さ 19cm  
 構造 93号溝は緩やかに蛇行するが、調査区にN-W 7°方向から入って、鉤型に曲がりE-S 16°に転ずる。  
 98号溝はほぼ南北方向に走行する溝で、直線的なプランを呈する。

掘削形態は98号溝は箱堀状で、明確ではないが93号溝も箱堀状と見られる。



第178図 Ⅲ区93号溝

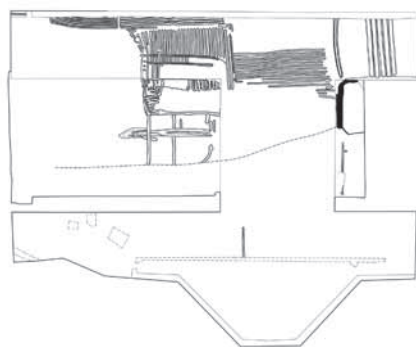
(11) Ⅲ区95号溝 (第179図、PL76)

概要 本溝はⅢ区中東部のやや北寄りに在り、東側が調査区外に出、南側は削平されている。

同時期の遺構との重複は見られなかったが、南寄りて近・現代の溝との重複が見られた。

本溝は圃場整備前の都市計画図の区画には対応せず、掘削意図も特定できなかった。

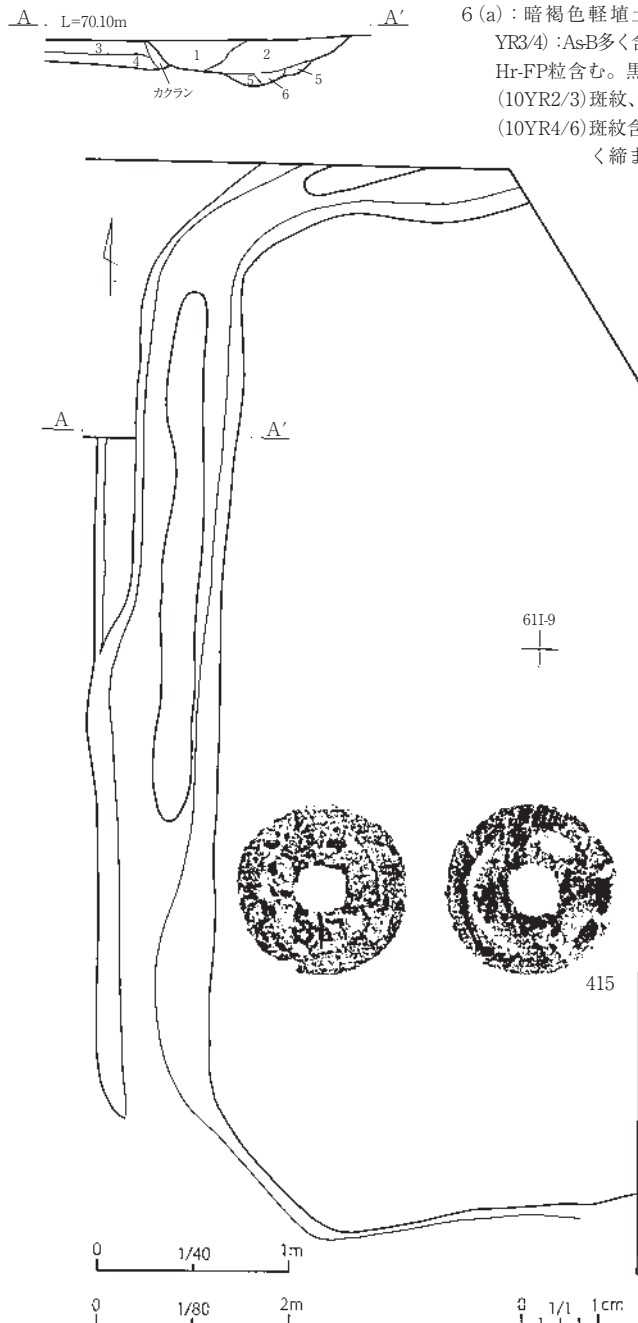
遺物 寛永通寶 (415) 1点のみが出土した。



第179図 Ⅲ区95号溝と出土遺物

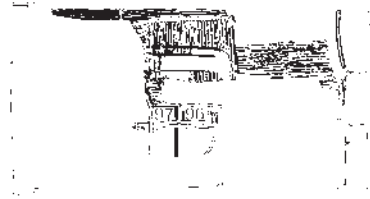
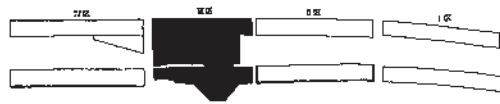
時期 本溝はAs-A降下後の所産である。  
 規模 長さ1,824cm 幅 137cm 深さ 33cm  
 構造 調査範囲では逆コ字様のプランを呈する。即ち東よりE-N21°方向より入り、3.3m程でW-S87°

- |   |   |
|---|---|
| (近現代溝)                                    | (地山層)   |
| 1 : 6層に近い。As-A 3%。固く締まる。                  | 3 : 暗褐色軽埴土(10YR3/4)40%、黒褐色軽埴土(10YR3/2)50%、As-A 10% : 締まる。                       |
| (95号溝覆土)                                  | 4 : 汚れたAs-A主体。  |
| 2 : 暗褐色軽埴土(10YR3/4) : As-A 5%。鉄分で汚れ固く締まる。 | 5 (b) : 黒褐色軽埴土(10YR3/2) : As-A・As-B・Hr-FP粒含む。                                   |
|   | 6 (a) : 暗褐色軽埴土(10YR3/4) : AsB多く含む。Hr-FP粒含む。黒褐色(10YR2/3)斑紋、褐色(10YR4/6)斑紋含み固く締まる。 |



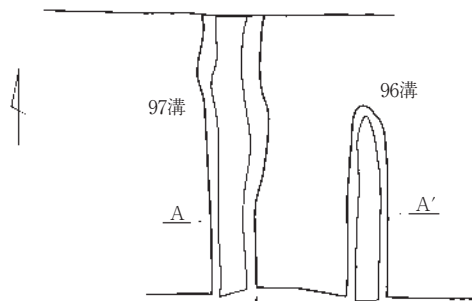


II 調査の記録



1: 黒褐色砂質埴土(10YR3/2): As-A粒を少量含み、縮まる。

A L=70.40m A'



61G-17

0 1/2 2cm

0 1/80 2m

第180図 Ⅲ区96・97号溝

方向に転じ、更に8.8m程でS-E42方向、2.8m程でE-N8°方向に転じて調査区外に去っている。

掘削形態は壁面が開くものの箱堀状を呈する。

(12) Ⅲ区96・97号溝 (第180図、PL.61)

概要 Ⅲ区96・97号溝はⅢ区中部北西寄りに位置するが、何れも遺存状況は良好ではない。

共に圃場整備前の都市計画図に両溝に合致する区画を確認できず、掘削意図も特定できなかった。

遺物 96号溝からの出土遺物は得られなかった。97号溝からは陶器片1点のみが出土した。

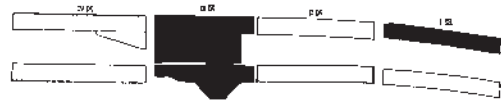
時期 共に近世以降の所産だが、時期は不特定。

規模 96号溝 長さ208cm 幅38cm 深さ8cm

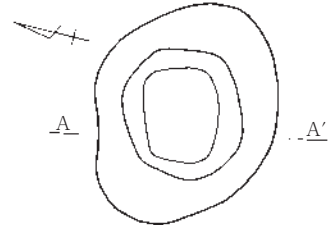
97号溝 長さ1,050cm 幅38cm 深さ8cm

構造 両溝共に南北方向に直線的に走行する。

遺存状態が不良なため明確でないが、掘削形態は箱堀状を呈する。

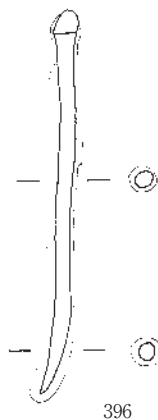


I区1号土坑

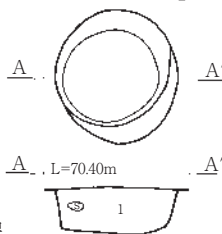


A L=69.60m A'

0 1/40 1m



396



A L=70.40m A'



1: にぶい黄褐色土(10YR4/3): 黄褐色シルトブロック(径20~50mm、洪水層土)を20%とAs-Aをブロック状に30~40%含む。

第181図 I区1号・Ⅲ区1号土坑

(13) I区1号土坑及びⅢ区1号土坑

(第181図、PL58)

**概要** I区1号土坑はI区北側調査区の中央部北西寄りに、Ⅲ区1号土坑はⅢ区北側調査域の中央やや西寄りに位置している。

I区1号土坑はI区4号溝の屈曲部(区域3東端)の東側に接し、Ⅲ区1号土坑はⅢ区3号復旧溝群と重複するが、明確ではないものの本土坑の方が新しいようである。

I区1号土坑、Ⅲ区1号土坑共に掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** I区1号土坑からは陶磁器片1点、Ⅲ区1号土坑からは陶磁器片1点と留金具かと見られる鉄製品(396)の出土があった。

**時期** Ⅲ区1号土坑はAs-A降下後の所産と認識されるものの、共に時期特定には至らなかった。

**規模** I区1号土坑

径 109×106cm

深さ 24cm

Ⅲ区1号土坑 径

51×42cm 深さ

48cm

**構造** I区1号土

坑はE-N13°に長

軸方向を取り、や

や菱形に近い隅丸長方形のプランを呈する。掘削形態は播鉢形で、底面は尖底である。

Ⅲ区1号土坑はN-W24°に長軸を取る楕円形のプランを呈する。掘削形態は箱形で、平底である。

(14) I区1号畠 (第182図)

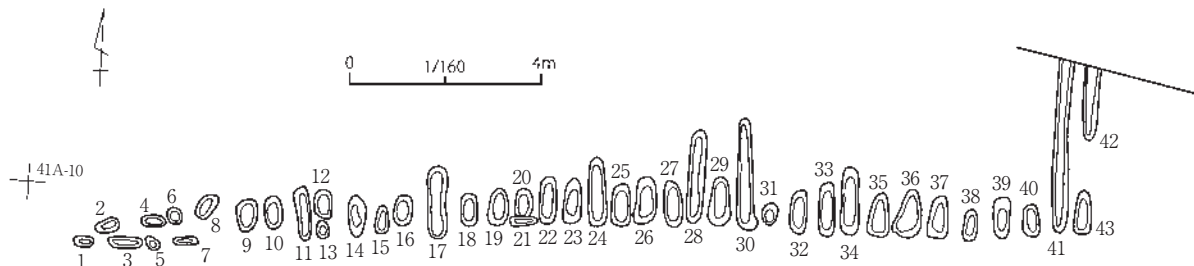
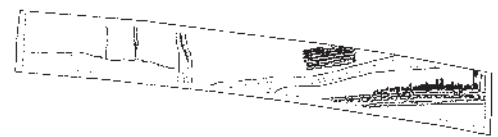
**概要** I区1号畠はI区南側調査区東部に位置する。南側は後述の1-2号復旧溝に接するが重複はない。また北側は短く止まるものと少し延びるもの、長く延びるものの3種類に大別され一定ではない。

本畠は、圃場整備前の都市計画図に合致する区画等を見出せず、耕作物は不明である。

表41 I区1号畠サク一覽

番号	長×幅(cm)	平面形	軸方向
1	38 × 21	隅丸長方形	N-E85°
2	51 × 29	隅丸長方形	N-E69°
3	73 × 21	隅丸短冊形	N-E89°
4	53 × 23	隅丸長方形	E 0°
5	27 × 23	隅丸方形	E 0°
6	32 × 30	円形	N-W30°
7	51 × 17	隅丸短冊形	N-E84°
8	45 × 32	隅丸長方形	N-E34°
9	68 × 43	隅丸長方形	N-W12°
10	67 × 38	隅丸長方形	N-W16°
11	113 × 34	隅丸短冊形	N-W10°
12	62 × 38	隅丸長方形	N-W 2°
13	30 × 24	隅丸方形	N-W 3°
14	85 × 36	隅丸長方形	N-W 3°
15	58 × 28	隅丸長方形	N-W 3°
16	60 × 33	隅丸長方形	N-W 4°

番号	長×幅(cm)	平面形	軸方向
17	100 × 40	隅丸短冊形	N-W 5°
18	64 × 43	隅丸長方形	N-W 6°
19	78 × 40	隅丸長方形	N-W 3°
20	(74) × 43	隅丸長方形	N-W 5°
21	61 × 18	隅丸短冊形	N-E81°
22	98 × 30	隅丸長方形	N-W 3°
23	97 × 37	隅丸長方形	N-W 1°
24	143 × 38	隅丸短冊形	N-W 6°
25	83 × 41	隅丸長方形	N-W 4°
26	101 × 47	隅丸長方形	N-W 3°
27	97 × 40	隅丸長方形	N-W 4°
28	195 × 33	隅丸短冊形	N 0°
29	100 × 45	隅丸長方形	N 0°
30	231 × 41	隅丸短冊形	N-W 5°
31	45 × 35	隅丸長方形	N 0°
32	91 × 33	隅丸長方形	N 0°
33	110 × 30	隅丸長方形	N-W 3°
34	139 × 38	隅丸短冊形	N-W 2°
35	92 × 45	隅丸長方形	N-W 1°
36	100 × 54	隅丸三角形	N-E 3°
37	89 × 44	隅丸長方形	N-E 2°
38	62 × 25	隅丸長方形	N-E 4°
39	83 × 34	隅丸長方形	N-W 2°
40	67 × 37	隅丸長方形	N-W 7°
41	(366) × 33	溝形	N-W 2°
42	(155) × 33	隅丸長方形	N-W 2°
43	93 × 35	溝形	N-W 1°



第182図 I区1号畠

II 調査の記録

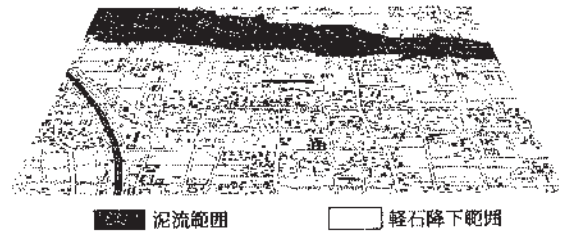
遺物 本島からは陶磁器片2点の出土があった。

時期 本島の時期は明確にできなかったが、上述のように1-2号復旧溝に接し、その南側の範囲が上述の1号道路と並行に近接して在るため、As-A降下の前後の時期に在ったものと思慮される。

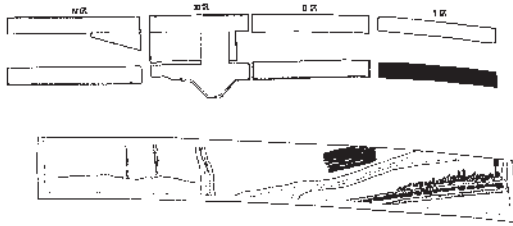
規模 東西 2192cm 南北 372cm

各サクの規模 表41（1号島サク一覧）参照

構造 本島は43条のサクから成る。主軸は凡そ南北



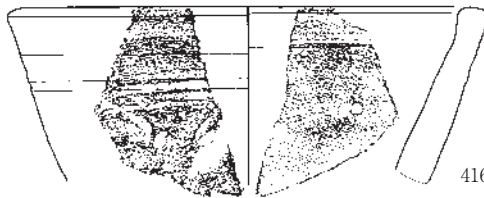
第183図 玉村町域に於ける天明3年の火山災害



に取るものは37条を数える。またその走行はN-W30°~34°で、平均はN-W2.85°で、サク9~43のまとまりでは、サク22以西がN-W3.36°とやや西に傾くのに対し、サク23以东ではN-W1.48°と真北に近い方向を向く。一方、東西に主軸を持つものは西端部に5条、中程に1条の6条で、その方位はE-N0°~21°の間であって、平均はE-N6.00°である。

表42 I区1号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(745)	33	17	E-N12°
2	(482)	47	17	E-N8°
3	1,098	42	21	E-N10°
4	1,070	44	22	E-N10°
5	1,025	49	25	E-N8°
6	1,026	75	33	E-N11°

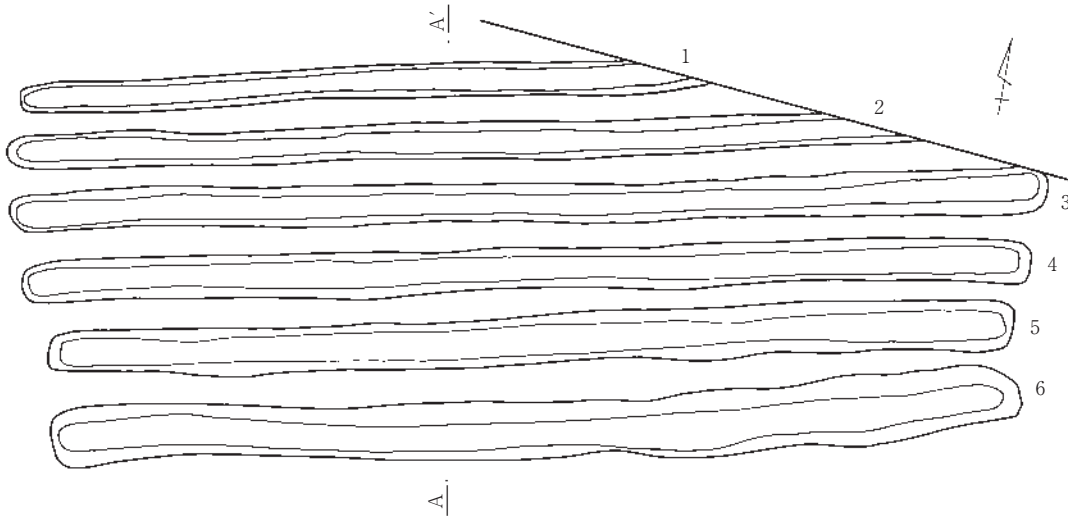


0 1/80 2m

0 1/40 1m

0 1/3 5cm

4C-11



A' L=69.60m A'



第184図 I区1号復旧溝群と出土遺物

8 第1面の調査

プランは大別すると円形1基、隅丸方形2基、隅丸長方形28条、隅丸短冊形9条、隅丸三角形1条、溝形2条であり、前2者は西部西寄りに偏って在り、後1者は東端部に在る。また東西走行のものは幅狭の隅丸長方形プランのものが多く、サク9以东では隅丸長方形プランのものが中心となるが、所々に隅丸短冊形のものが配置する。

サク群の南端は、若干の凹凸は見られるものの、N-E86°方向を向くライン上に端部を揃えて連なっている。

遺存状態が悪いので明確ではないが、サクの掘削形態は箱堀状と見られる。

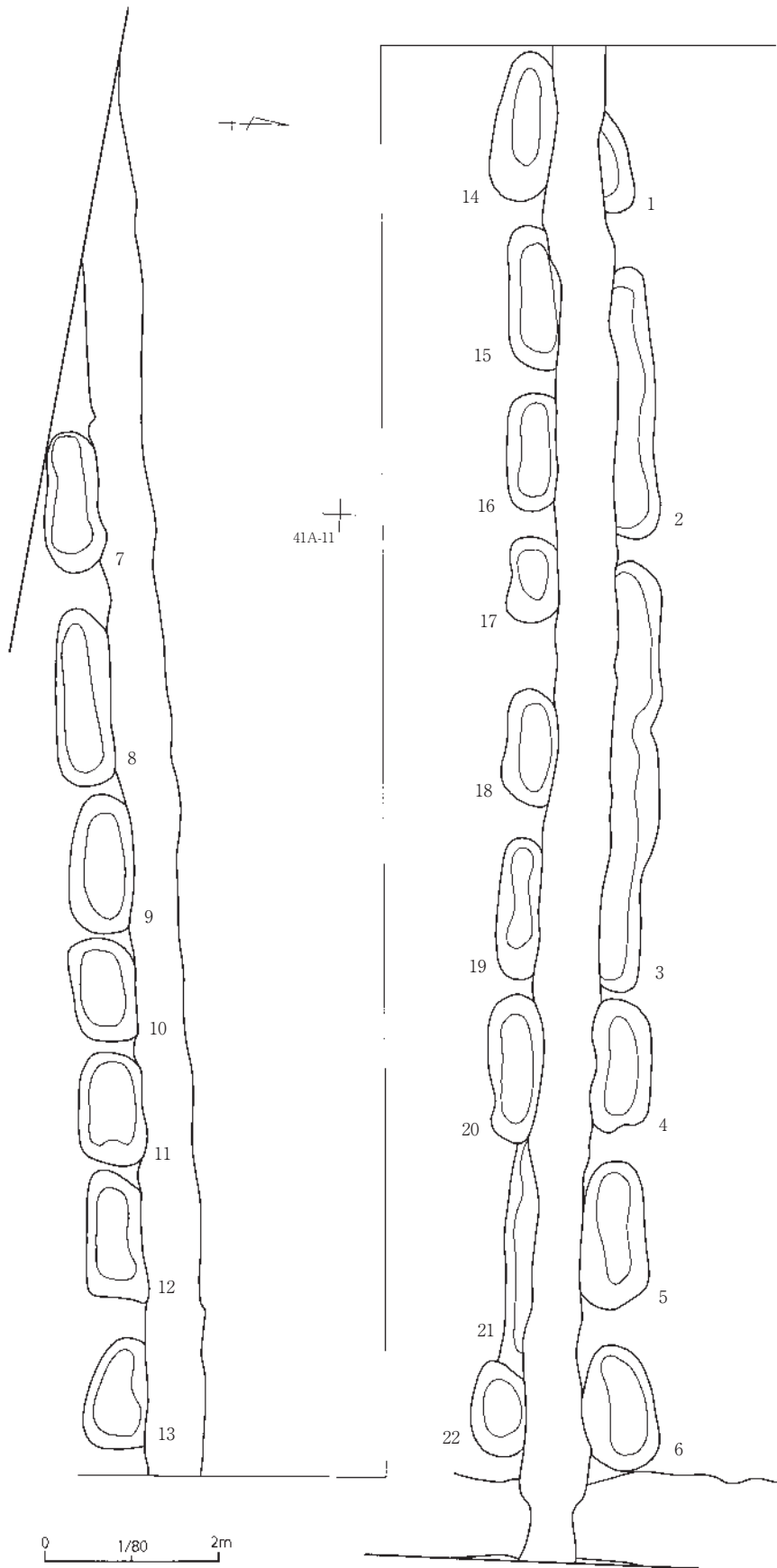


表43 I区2号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	軸方向
1	(110)	(33)	E-N10°
2	318	(54)	E-N79°
3	505	(54)	E 0°
4	154	68	E-S 2°
5	170	80	E-N 2°
6	150	88	E-N11°
7	168	71	E-N 3°
8	206	(68)	E-N79°
9	160	(79)	E-N 5°
10	124	75	E-N10°
11	130	80	E-N 3°
12	146	(83)	E-N10°
13	130	(72)	E-S 8°
14	174	(80)	E-N 6°
15	165	(59)	E-N 5°
16	136	(57)	E-N 4°
17	98	62	E-S 6°
18	134	64	E-N87°
19	164	(54)	E 0°
20	169	64	E 0°
21	(285)	(36)	E-S 2°
22	110	68	E-N 7°

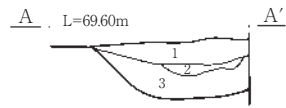
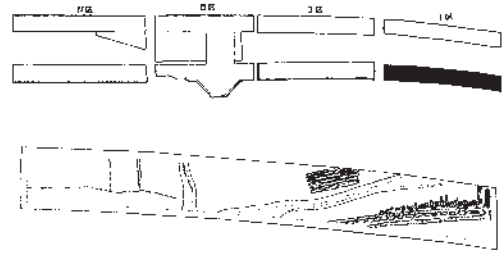
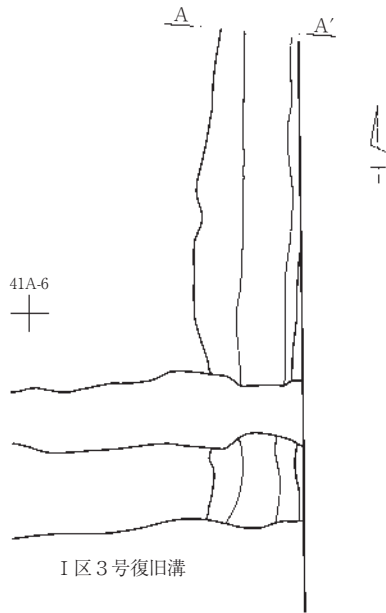
第185図 I区2号復旧溝群

II 調査の記録

(14) 火山災害復旧遺構群

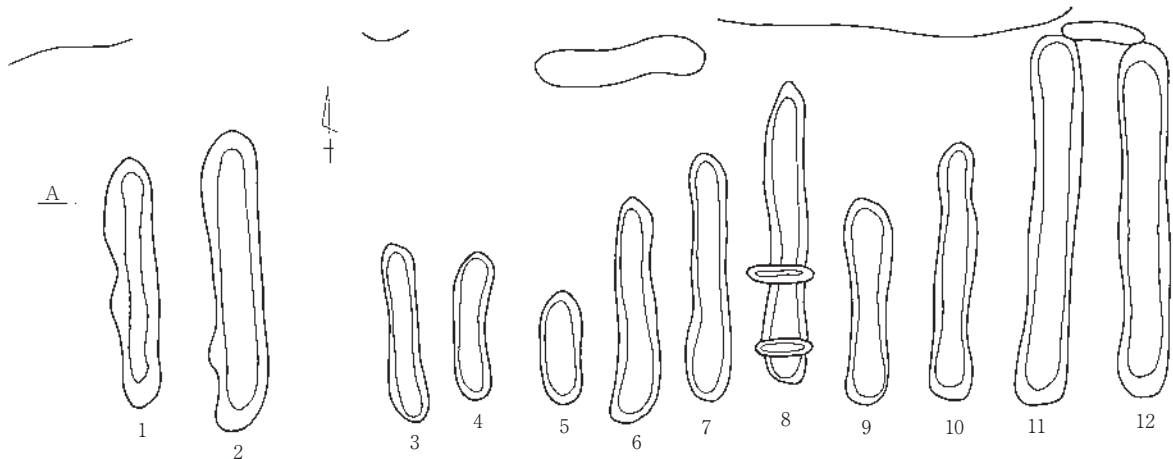
(第184~193図、PL56~58・76)

概要 本遺跡の所在する玉村町域に於いては天明3年(1783)の浅間山の大噴火、所謂浅間焼に際して全域にAs-A軽石・火山灰が降下し、集落や田畑の被覆によって大きな被害が生じている。また利根川



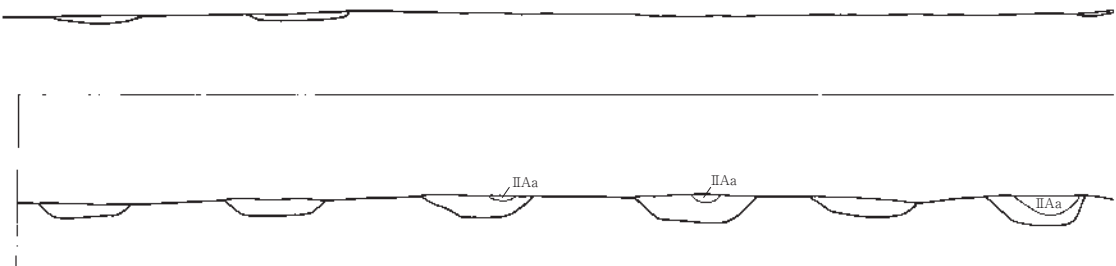
(I区3号復旧溝覆土)

- 1: 黄褐色砂質土(10YR5/6): 粒子やや粗。締まりなし。As-A(径2-3mm)含む。鉄分沈着。
- 2: にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3): 粒子やや粗。締まり弱。As-A(径2-3mm)多く含む。
- 3: にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3): 2層と同質だがAs-Aやや少ない。



II区1号復旧溝

A L=70.00m



第186図 I区3号復旧溝(上)とII区1号復旧溝群(下)

流域や町東部の矢川流域では、大規模な泥流の流下、氾濫によって人的被害、建物の流出、田畑の埋没といった甚大な被害もあり、利根川流路の埋没によって変流が起こり、部分的な烏川への逆流も発生している。

本遺跡付近に於ける火山災害の具体的記録は遺されていないのであるが、最近の調査、研究によって第183図に示したように、泥流の被害は利根川沿いの区域に限定されていたことが知られてきたが、降下軽石・火山灰による被害が確認されてきている。こうした降下テフラの被害に対して、本遺跡付近ではその復旧対策として

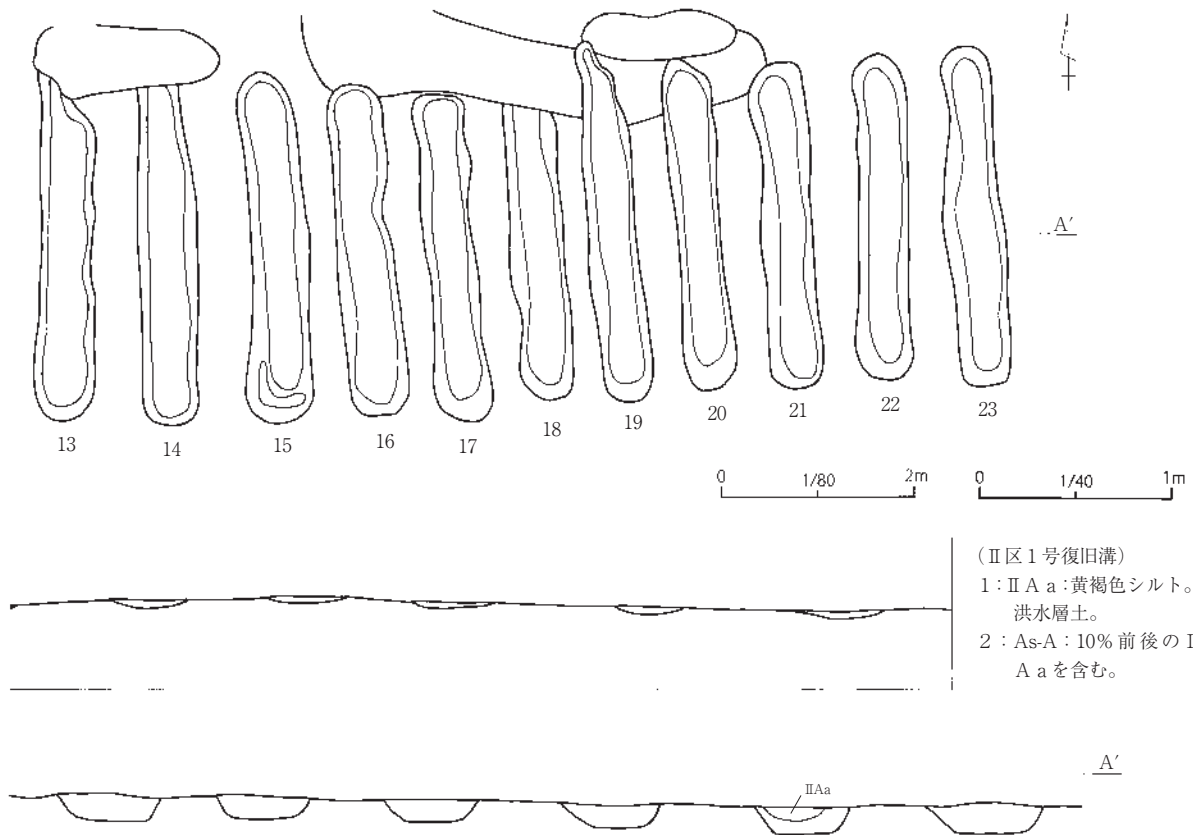
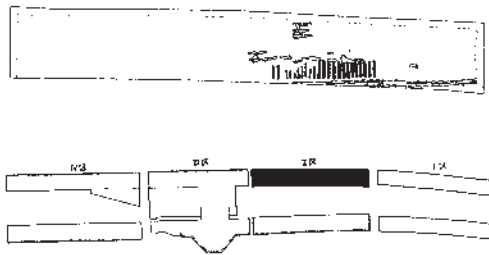
田畑に於いては降下軽石・火山灰と耕作土及び下位層土との置換、即ち所謂天地返しが行われている。こうした

た天地返し施工の痕跡は、福島大島遺跡など近隣の遺跡でも確認されているものであるが、本遺跡に於いては溝或いは土坑としてその痕跡が遺されていた。

このうち I 区南側調査区東半部には溝群 1

表44 II区1号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	260	50	6	N0°
2	311	62	7	N0°
3	184	35	4	N-W6°
4	54	37	4	N-E3°
5	117	41	5	N-W1°
6	232	40	6	N-E2°
7	261	45	4	N-E2°
8	319	69	3	N-E2°
9	215	50	5	N-E1°
10	268	41	3	N-E4°
11	387	53	3	N-E5°
12	370	63	7	N-E2°
13	362	61	6	N-E3°
14	355	58	9	N0°
15	366	63	14	N-W3°
16	342	60	9	N-W4°
17	343	51	12	N-W4°
18	309	65	12	N-W3°
19	370	57	9	N-W5°
20	344	68	9	N-W4°
21	340	5	14	N-W3°
22	341	59	3	N-W1°
23	354	60	16	N-W2°

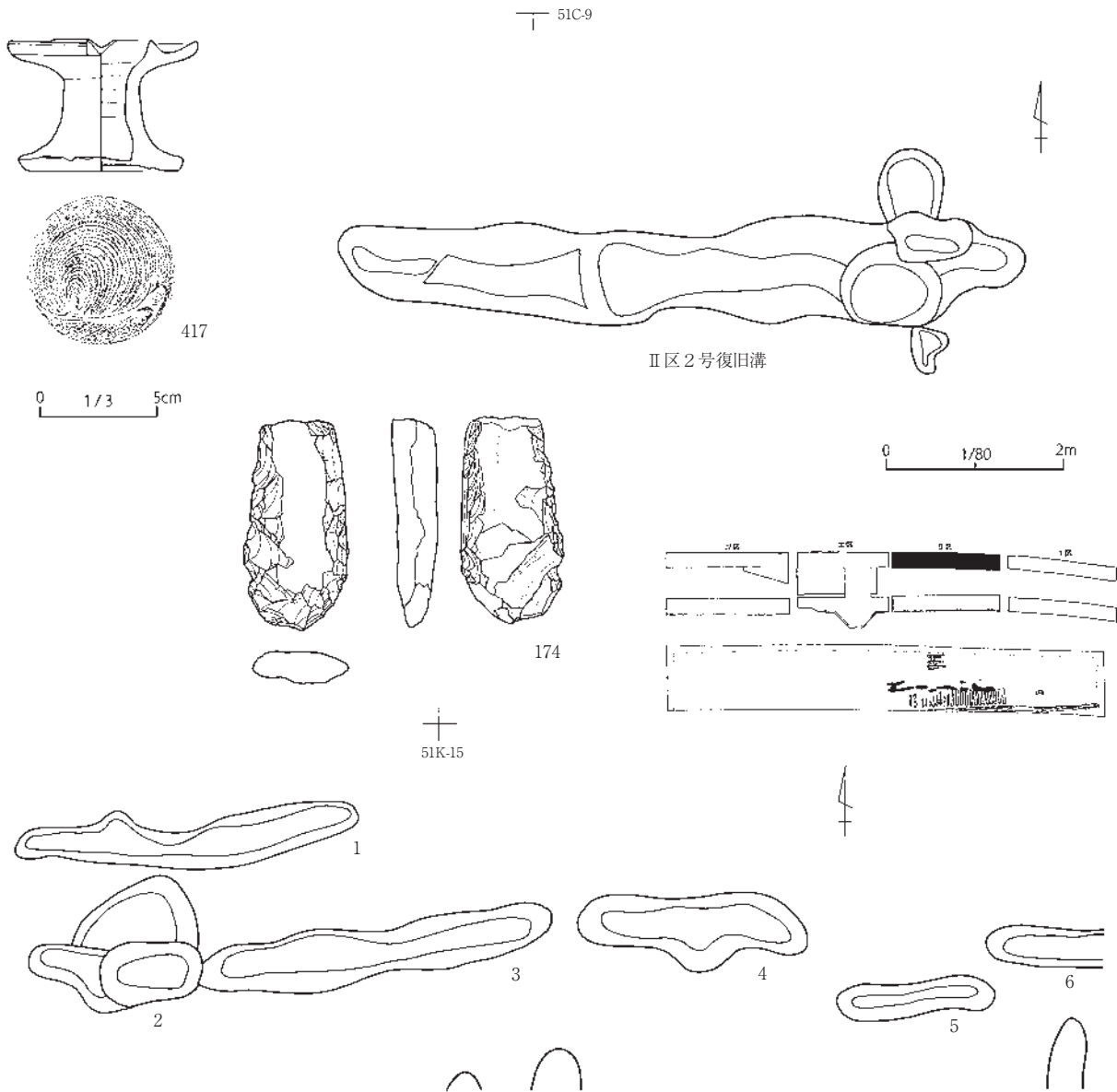
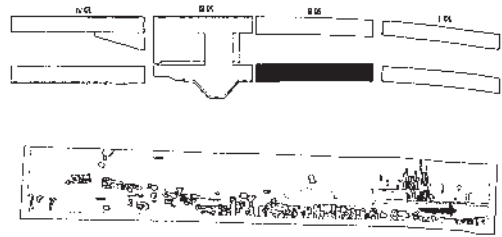


第186図 II区1号復旧溝群

II 調査の記録

区画及び溝1条と土坑群1区画（遺構名称としては「溝群」としている）、II区北側調査区中東部には溝群3区画、南調査区では溝群及び土坑群が在り、III区では区中部北半と北西部北端で溝群6区画と溝1条、東部では溝1条が確認されている。これらはの平面的な分布域はAs-A降下時の田畠の単位を示すものと判断される。尚、これらの掘削痕の軸方向が真の東西或いは南北方向に近い方角にあることから、当時の土地区画が未だに条里区画に依拠してい

た可能性が窺がわれのである。尚、II区の2号復旧溝周辺には規格化された掘削ではなかったため復旧溝としては扱わなかったのであるが、多様なプランの掘込みが遺されていたことを付記しておく。



第187図 II区2号復旧溝及び出土遺物（上）とII区3号復旧溝群（下）

さてこれらの復旧溝のうちⅠ区の2号復旧溝群と3号復旧溝の南側は、Ⅰ区1号道の北半部に沿うように重複しており、北側は1号畠と接していた。またⅡ区の1号復旧溝群はⅡ区1・2号溝の北側に沿うように在り、一方Ⅲ区の7号復旧溝群はⅢ区93号溝の南北走行部分に重複し、その走行は93号溝の東西走行部分に並行しており、Ⅲ区3号復旧溝群はⅢ区1号土坑と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

尚、Ⅱ区の復旧溝群のうちⅡ区2号復旧溝は、調査時点の3号土坑である。Ⅱ区3・4号復旧溝群は調査段階ではⅡ区1号復旧溝群の一部及び1・2号土坑として扱ったが、走行と形態の相違から別遺構と判断して分離して、Ⅱ区3・4号復旧溝群と新たに遺構名称を付して報告することとした。

遺物 Ⅰ区の復旧溝より軟質陶器鉢(416)、Ⅰ区1号復旧溝から僅かな陶磁器片、Ⅱ区復旧溝より天

目茶碗(418)、Ⅱ区1号復旧溝跡から陶器片1点、Ⅱ区2号復旧溝から陶器灯明台(417)、打製石斧(174)Ⅲ区の1号復旧溝からは若干の土器、陶磁器に混ざって焼締陶器甕(419)、2号復旧溝からは僅かな土器、陶磁器と流入物と見られるガラス片、3号復旧溝からは僅かな陶磁器片と礫、5号復旧溝からは軟質陶器内耳鍋(420)と僅かな陶磁器片と角釘(421)の出土が見られた。

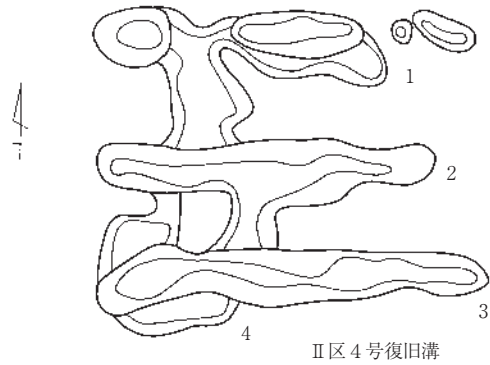
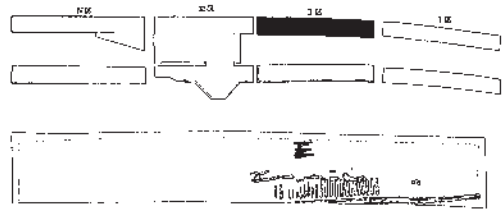
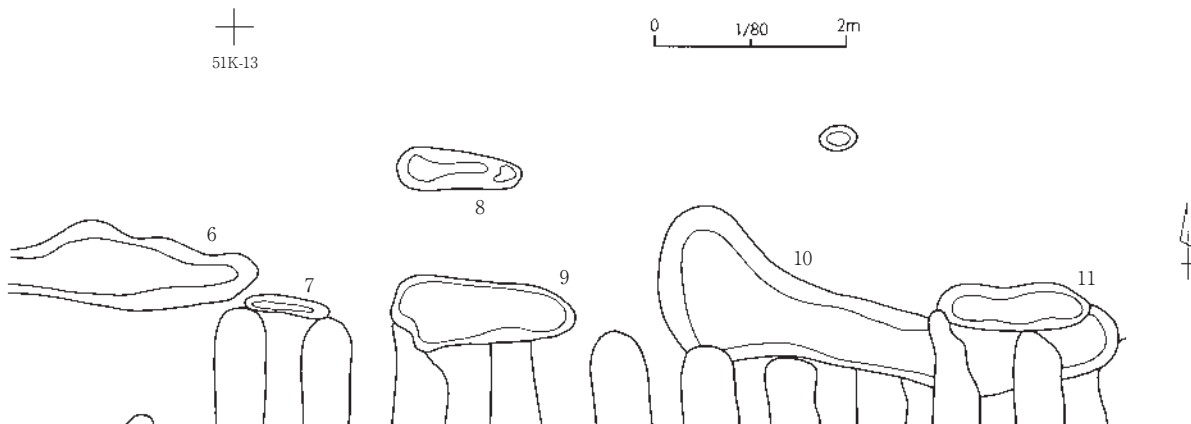


表45 Ⅱ区3号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	397	60	9	E-N6°
2	199	43	20	E-S5°
3	405	92	9	E-N10°
4	261	85	13	E-S5°
5	175	40	4	E-N6°
6	399	86	8	E-S1°
7	90	19	3	E-S6°
8	134	47	9	E-S1°
9	195	99	8	E-S2°
10	479	151	6	E-S5°
11	63	47	6	E-N1°

表46 Ⅱ区4号復旧溝群一覧

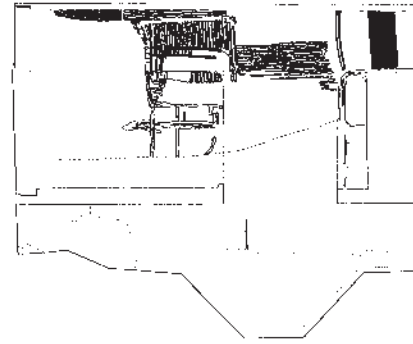
番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	402	72	1	E0°
2	351	70	14	E-N1°
3	409	58	10	E-N1°
4	325	187	8	N0°



第187図 Ⅱ区3号復旧溝群(下)とⅡ区4号復旧溝群(上)



II 調査の記録



時期 本遺構群は災害復旧遺構であるため、天明3年(1783)のAs-A降下後、比較的早い時期の所産と判断されるものである。

規模 I区1号復旧溝群

範囲1,098×426cm

サク 表42 (I区1号復旧溝群一覧) 参照

I区2号復旧溝群

範囲 2,882×176cm

サク 表43 (I区2号復旧溝群一覧) 参照

I区3号復旧溝

長さ520cm 幅 110cm

深さ 29cm

II区1号復旧溝群

範囲 2,618×378cm

サク 表44 (II区1号復旧溝群一覧) 参照

II区2号復旧溝

長さ780cm 幅 202cm

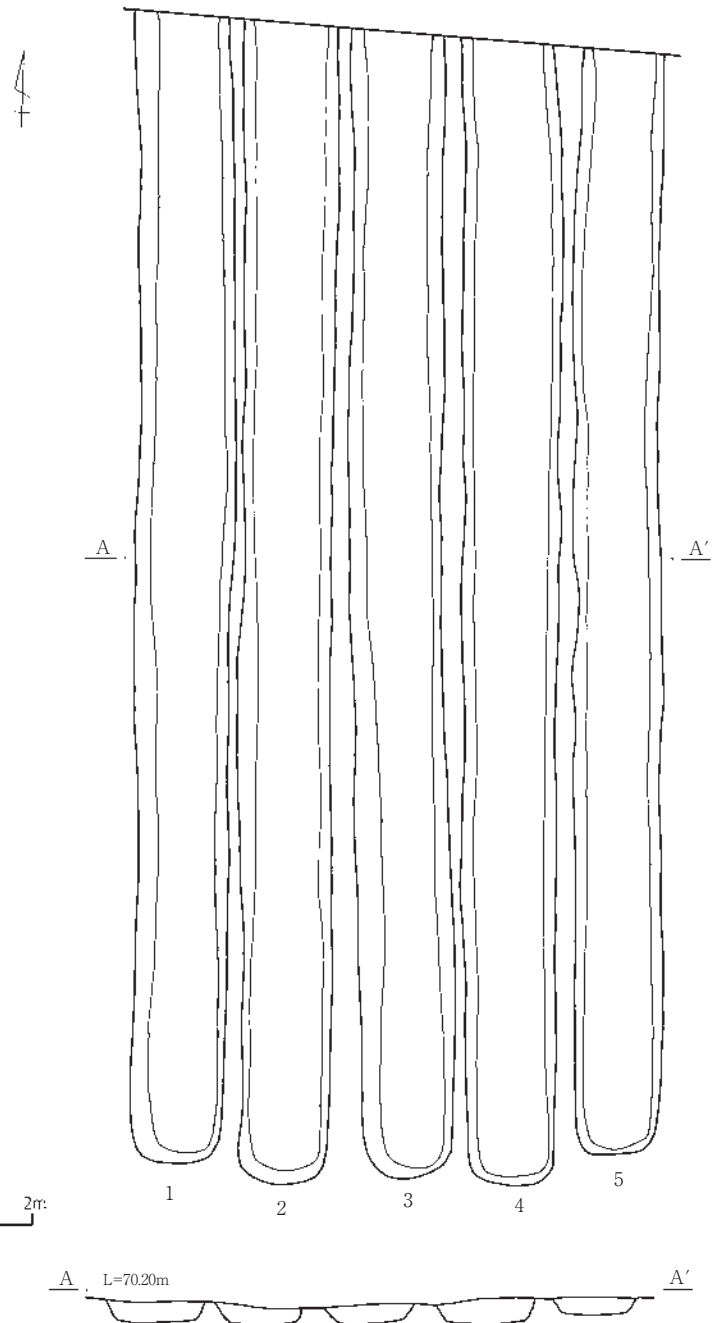
深さ16 cm

II区3号復旧溝群

範囲 3,215×250cm

表47 III区1号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(1,209)	103	21	N-W 3°
2	(1,222)	100	27	N-W 3°
3	(1,203)	99	28	N-W 4°
4	(1,200)	102	28	N-W 4°
5	(1,161)	93	27	N-W 3°



1 : 褐灰色土(10YR6/1) : As-A主体。帯状のIIAブロック(黄褐色シルト、洪水層)を20~30%含む。

第188図 III区1号復旧溝群

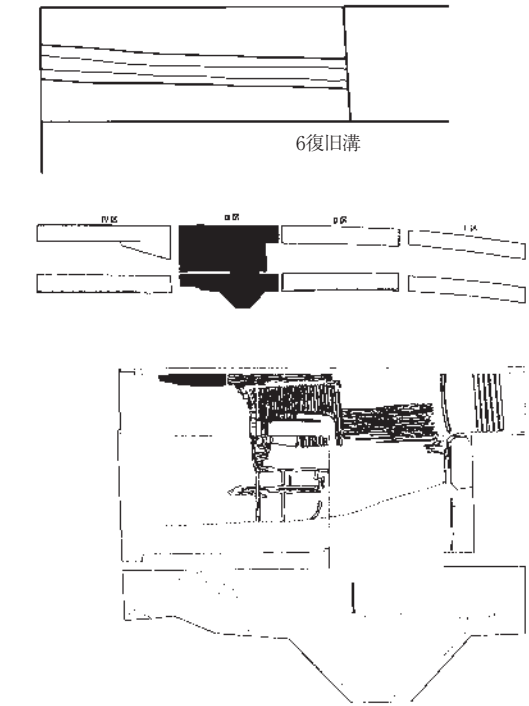
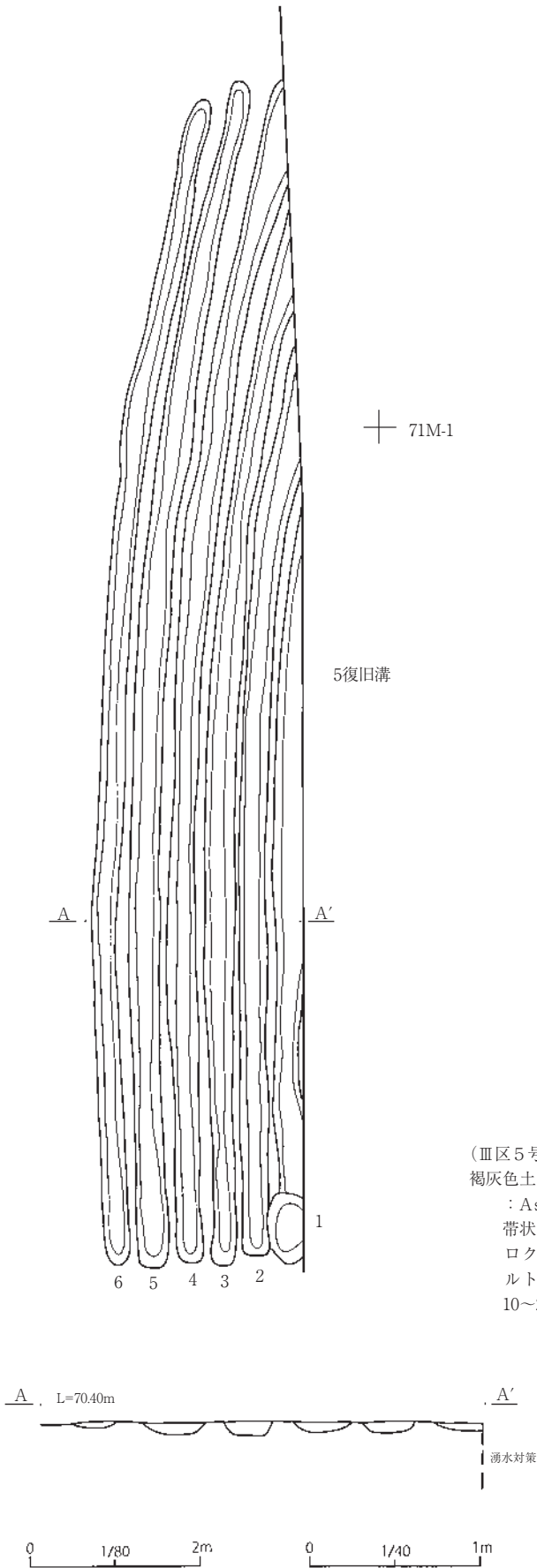


表48 Ⅲ区5号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(923)	29	5	E-S12 ~ ES-1°
2	(1,104)	34	7	E-S13 ~ ES-1°
3	(1,272)	38	8	E-S15 ~ ES-1°
4	(1,431)	40	8	E-S12 ~ E0°
5	1,432	39	10	E-S13 ~ ES-1°
6	1,406	30	3	E-S12 ~ E0°

サク 表45 (Ⅱ区3号復旧溝群一覧) 参照

Ⅱ区4号復旧溝群

範囲 409×370cm

サク 表46 (Ⅱ区4号復旧溝群一覧) 参照

Ⅲ区1号復旧溝群

範囲 1,256×562cm

サク 表47 (Ⅲ区1号復旧溝群一覧) 参照

Ⅲ区2号復旧溝群 範囲 1,857×776cm

サク 表49 (Ⅲ区2号復旧溝群一覧) 参照

Ⅲ区3号復旧溝群

範囲 3,768×1,374cm

サク 表50 (Ⅲ区3号復旧溝群一覧) 参照

Ⅲ区4号復旧溝群

(Ⅲ区5号復旧溝群)  
 褐灰色土(10YR6/1)  
 : As-A主体。  
 帯状のⅡAブ  
 ロク(黄褐色シ  
 ルト、洪水層)  
 10~20%含む。

第189図 Ⅲ区5号復旧溝群(左)とⅢ区6号復旧溝(上右)

II 調査の記録

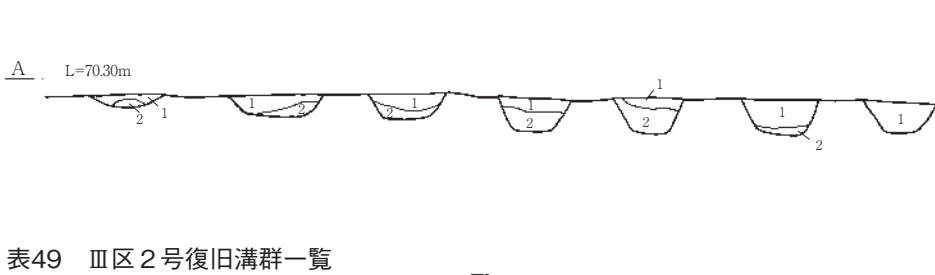
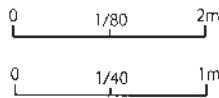
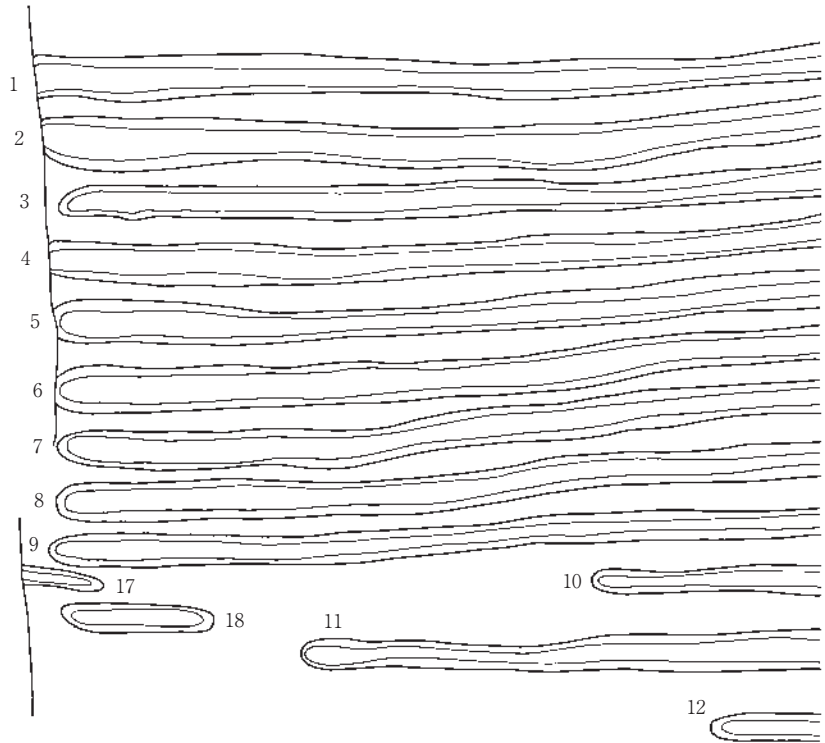
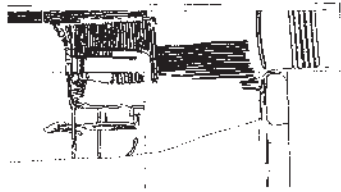
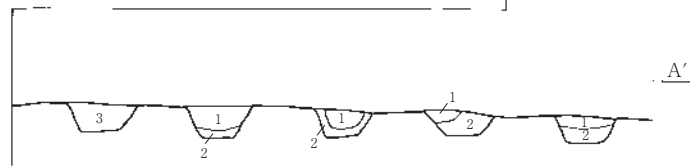


表49 Ⅲ区2号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(1,909)	46	14	N-W 2°
2	(1,908)	53	15	N-W 1°
3	1,844	37	19	N-W 3°
4	1,914	46	19	N-W 3°
5	1,853	45	21	N-W 2°
6	1,844	44	18	N-W 2°
7	1,913	45	18	N-W 3°
8	1,908	43	20	N-W 2°
9	1,903	41	15	N-W 2°
10	1,907	41	10	N-W 1°
11	1,745	49	10	N-W 2°
12	1,286	43	7	N-W 2°
13	163	51	9	N-W 3°
14	383	39	12	N-E 1°
15	191	33	4	N-E 5°
16	340	41	3	N-E 6°
17	(81)	19	7	N-E 6°
18	58	29	5	N-E 2°



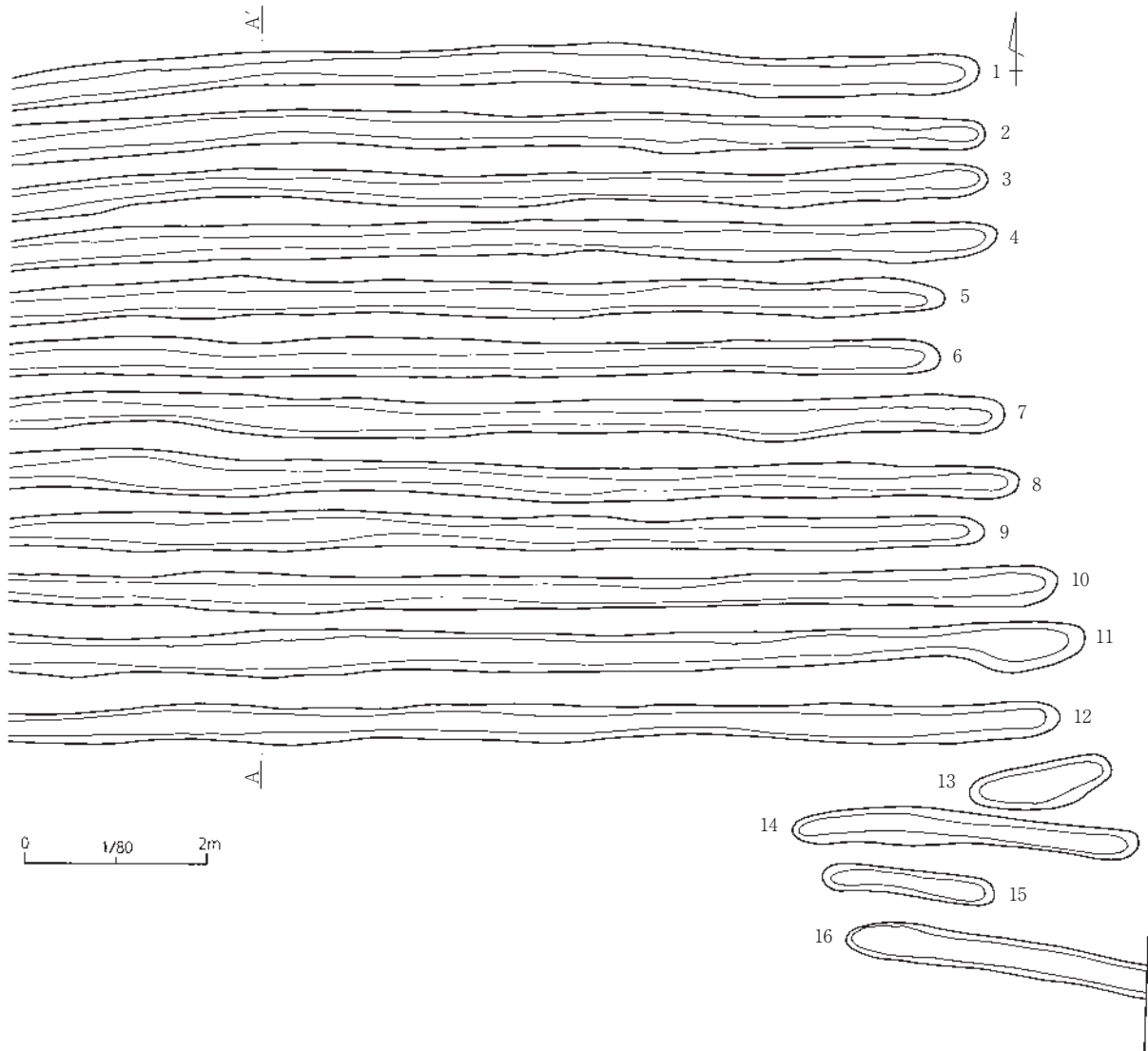
- 1：にぶい黄褐色土(10YR5/4)：ⅡAに類似。As-Aを5～10%含む。復旧坑掘削時の土。
- 2：As-A主体：ⅡAブロックを10%含む。
- 3：にぶい黄褐色土(10YR5/3)：ⅡAブロック主体。As-A50%含む。

第190図 Ⅲ区2号復旧溝

範囲 2,240×313cm

サク 表51 (Ⅲ区4号復旧溝群一覧) 参照

Ⅲ区5号復旧溝群



第190図 Ⅲ区2号復旧溝

表50 Ⅲ区3号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	9	(58)	5	N-E47°
2	74	42	19	N-E40°
3	51	49	14	N-W25°
4	78	38	8	E-S 1°
5	133	55	9	E-S 4°
6	43	29	11	E-S 3°
7	57	38	7	E-S25°
8	39	43	4	N-W19°
9	(980)	48	6	N-W17~ N-E 1°
10	280	42	17	N-W 7°
11	93	53	12	N-W 2°
12	496	36	16	N-E 3°
13	(1,000)	37	17	N-E 2°
14	(946)	37	17	N-E 1°
15	412	36	13	N-W 1°
16	(567)	44	10	N-E 2°

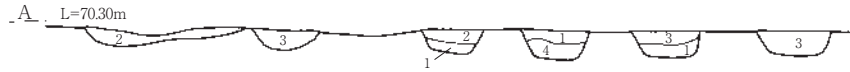
番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
17	267	41	9	N-E2°
18	(680)	41	6	N-E2°
19	(679)	43	7	N-E3°
20	(686)	40	7	N-E4°
21	(675)	46	9	N-E3°
22	(668)	36	9	N-E2°
23	(692)	39	6	N-E2°
24	(698)	40	9	N-E1°
25	(700)	39	13	N0°
26	(707)	38	3	N-E1°
27	(554)	40	11	N-E2°
28	(560)	43	13	N-E1°
29	(576)	46	17	N-W2°
30	(559)	49	16	N-W1°
31	(575)	47	12	N-W2°
32	(581)	52	12	N-W4°
33	(595)	53	13	N-W2°

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
34	600	40	19	N-W2°
35	617	39	7	N-W2°
36	608	45	5	N-W3°
37	603	41	2	N-W2°
38	1,255	47	17	N-W4°
39	43	40	9	N-W18°
40	52	38	12	N-W12°
41	1,255	47	17	N-W3°
42	1,123	49	8	5°
43	1143	23	5	E-S4~ 19°
44	1439	28	8	E-S3~ 17°
45	1,449	25	4	E-S3°
46	1,220	25	4	E-S3°

II 調査の記録

範囲 1,422×225cm

サク 表48 (Ⅲ区5号復旧溝群一覽) 参照

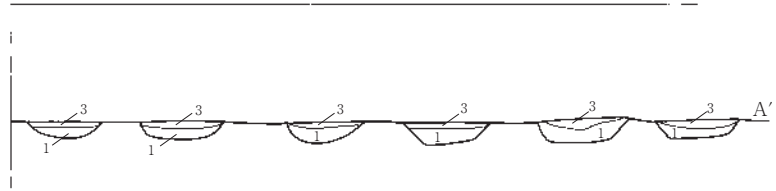


Ⅲ区6号復旧溝

長さ625cm 幅 37cm

Ⅲ区7号復旧溝群

範囲 325×688cm



Ⅲ区8号復旧溝群

範囲 1644×381cm

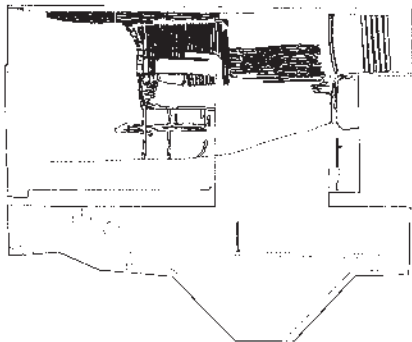
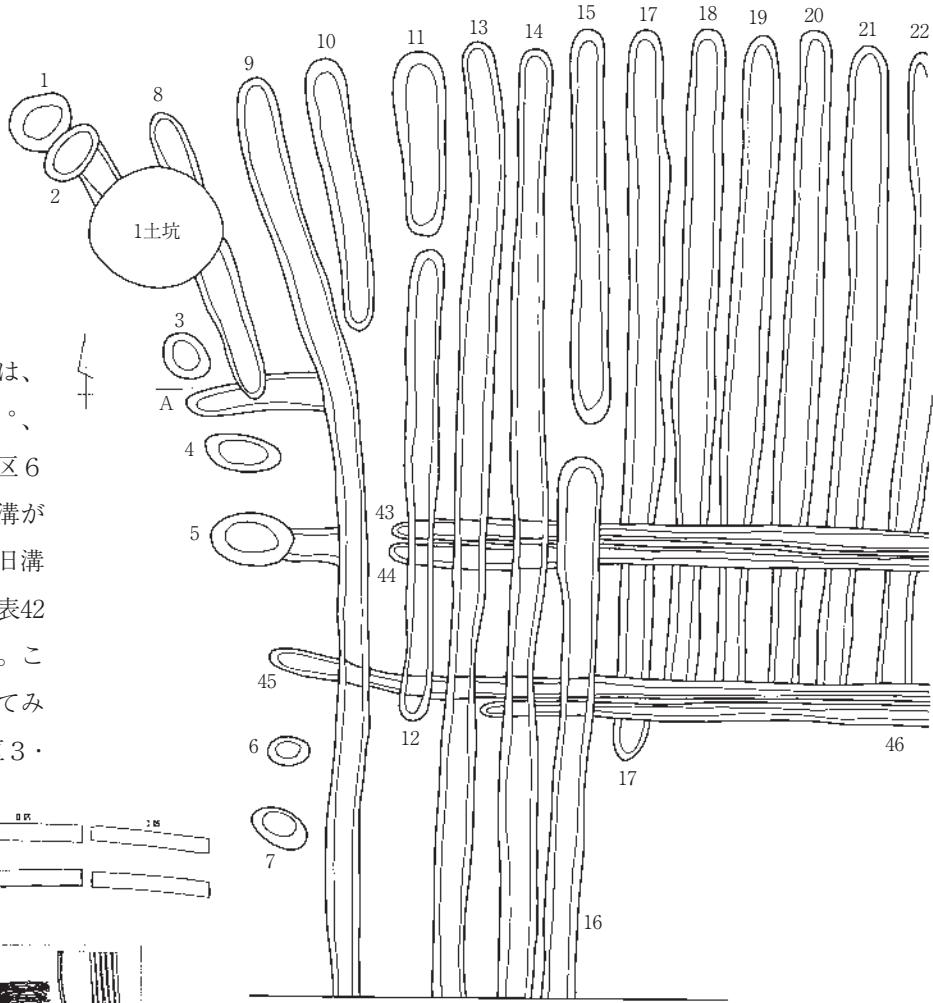
サク 表52 (Ⅲ区8号復旧溝群一覽) 参照

Ⅲ区9号復旧溝

長さ780cm 幅 202cm

深さ 16cm

構造 復旧溝の掘削方向は、I区3号復旧溝がN-E 1°、II区2号溝がE 0°、Ⅲ区6号復旧溝とⅢ区9号復旧溝がN-E 3°で、群を成す復旧溝の個々の溝の掘削方向は表42～52に記した通りである。これらの溝群は塊として見るとI区1・I区2・II区3・

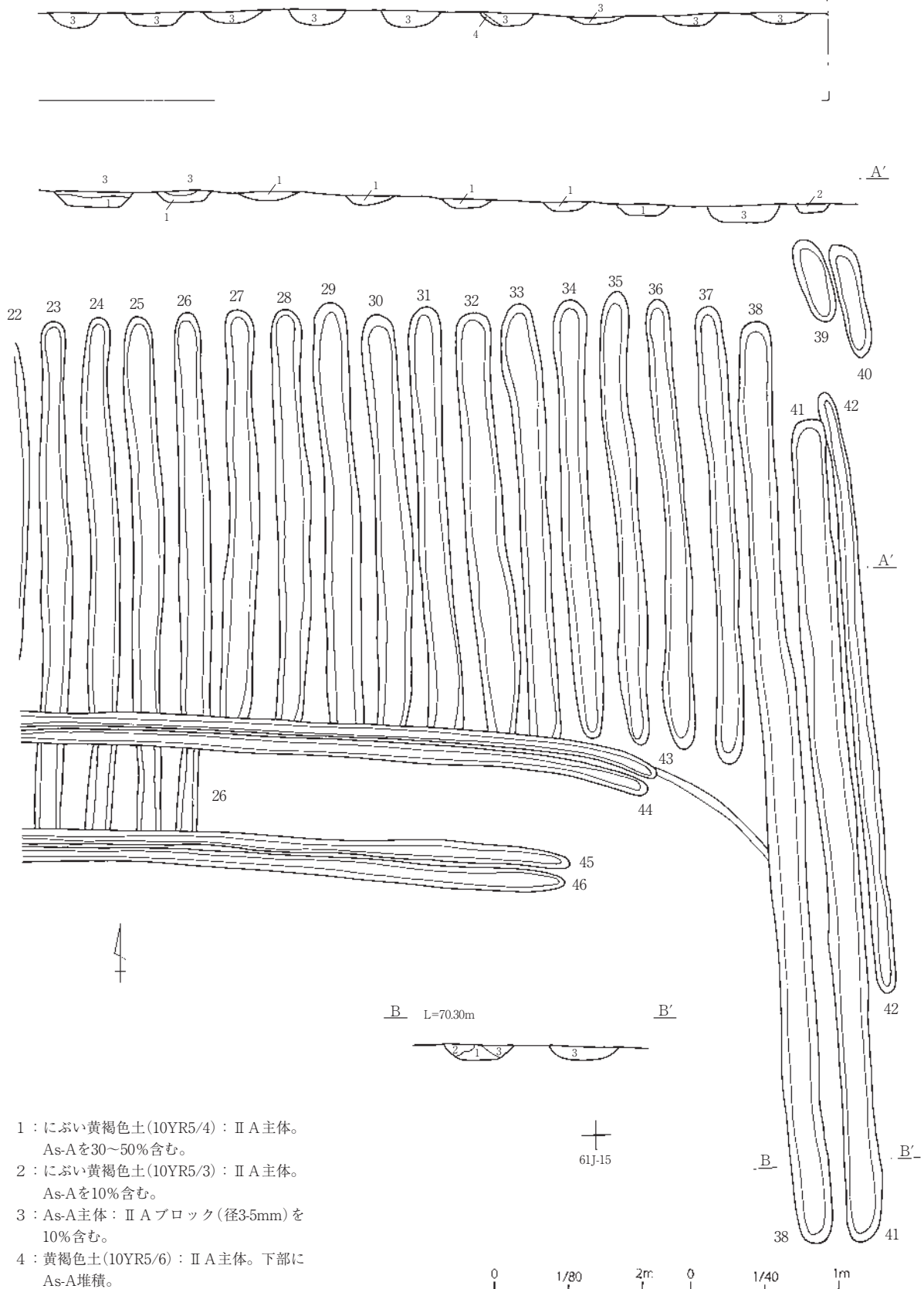


61J-17

0 1/40 1m

0 1/80 2m

第191図 Ⅲ区3号復旧溝群

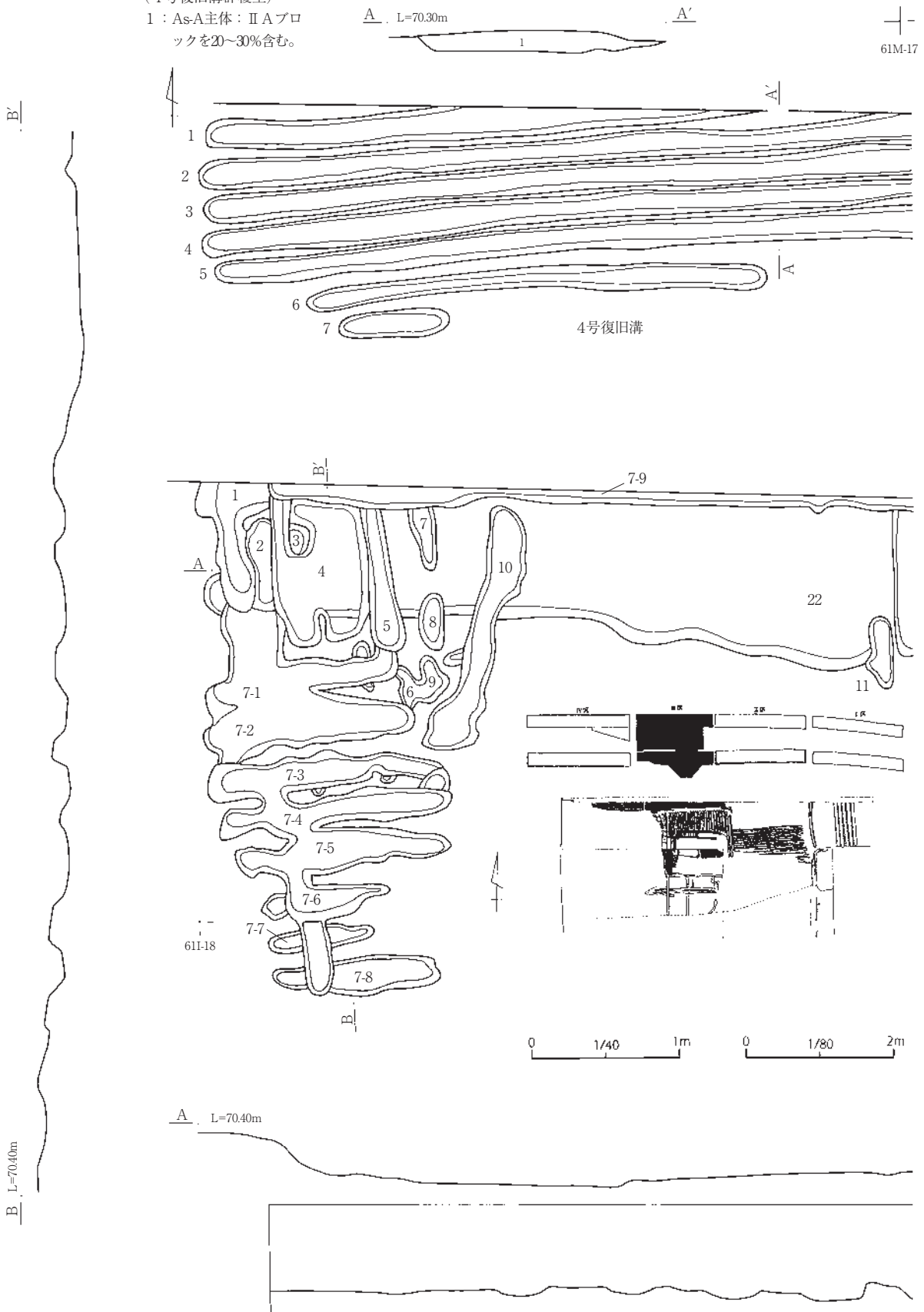


第191図 Ⅲ区3号復旧溝群

II 調査の記録

(4号復旧溝群覆土)

1: As-A主体: II Aプロ  
ックを20~30%含む。



第192図 Ⅲ区4号・7号・Ⅲ区8号復旧溝群

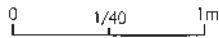
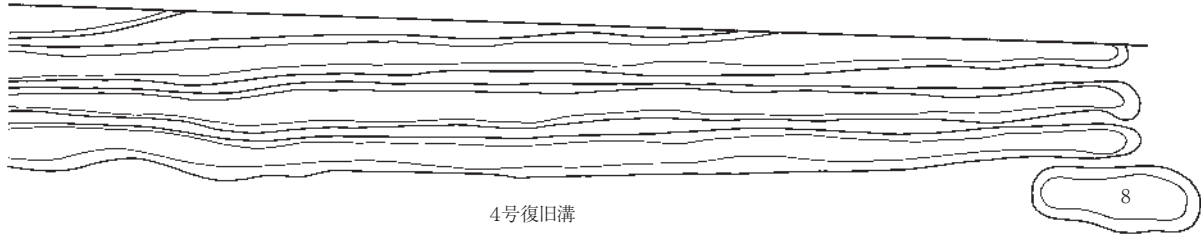


表51 Ⅲ区4号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(747)	41	9	E-N 3°
2	(1,168)	37	12	E-N 4°
3	2,153	48	18	E-N 3°
4	2,169	47	20	E-N 2°
5	2,161	53	9	E-N 1°
6	633	35	7	E-N 3°
7	153	37	5	E-N 2°
8	177	68	9	E-S 2°

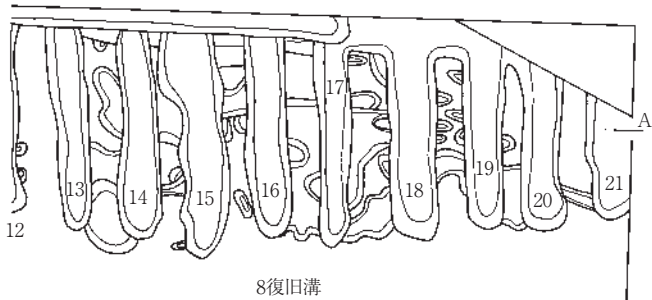


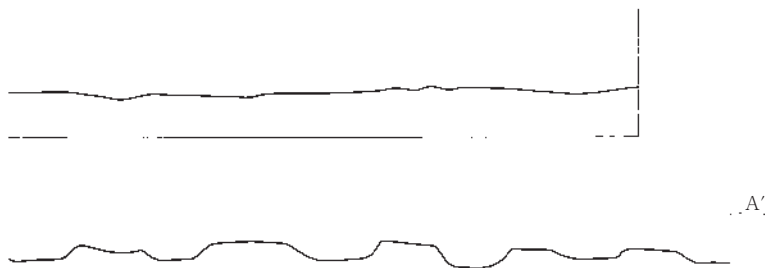
表52 Ⅲ区8号復旧溝群一覧

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
1	(180)	63	24	E-N 7°
2	129	88	16	E-N 3°
3	(204)	47	16	E-N 2° ~ 8°
4	190	60	15	E-N 1°
5	(199)	46	19	E-N 8°
6	58	26	10	N-W 16°
7	(81)	36	19	N-W 13°
8	78	35	13	N-W 8°
9	65	41	10	N-W 21°
10	347	73	14	N-E 10°
11	95	36	9	N-W 21°

番号	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	軸方向
12	(200)	33	9	N-W 3°
13	(215)	37	13	N-W 5°
14	(222)	47	13	N-W 4°
15	(238)	67	16	N-W 4°
16	(213)	47	16	N-W 4°
17	(211)	37	12	N 0°
18	(236)	51	10	N-W 1°
19	(222)	44	11	N-W 2°
20	(221)	48	9	N-W 2°
21	(205)	(47)	8	N-W 1°
22	(945)	(203)	10	E-S 3°

Ⅱ区4・Ⅲ区2・Ⅲ区4・Ⅲ区5・Ⅲ区7号復旧溝群は概ね東西方向を向くが、Ⅰ区1号復旧溝群はやや反時計回りの方向に傾き、Ⅲ区5号復旧溝の西部はやや時計回りに回っている。一方でⅡ区1・Ⅲ区1・Ⅲ区3・Ⅲ区8号の各復旧溝群は概ね南北に軸方向を向くが、Ⅲ区3号復旧溝群の一部は北部がやや時計回りにその走行を変じている。

個々の掘削溝（坑）のプランを見ると、Ⅰ区2号復旧溝群が隅丸長方形の土坑状、Ⅲ区8号復旧溝群の多くが溝の下に潜り込むように掘削される同群サク22が竪穴状を呈している他は溝状を呈していた。またⅠ区2号復旧溝群が2列の縦列を成している以外は一部を除き並列に配置するものであった。溝は長さ



第192図 Ⅲ区4号・8号復旧溝群



## II 調査の記録

の短いものは直線的プランを呈していたが、長いものは緩やかに蛇行する傾向があり、Ⅲ区5号復旧溝群のものは逆へ字状に屈曲する。

掘削形態は遺存状態が悪く明瞭ではないものもあったが、何れも箱堀状を呈するものと認められる。

### (15) As-A混土落ち込み (第194図)

**概要** I区の南北両調査区の西寄りでAs-A混土を覆土とするI区1・2・3・4号の4箇所の落ち込み(以下「落ち込み」とする)を確認した。尚、1号落ち込みは北側が、2号落ち込みは西側が、4号落ち込みは南側と西側が調査区外に出でおり、3号落ち込みは南が4号溝と接し、北は滅失して全体を調査することはできなかった。

このうち北側調査区のI区1・2号落ち込みはI区5号溝に囲まれた範囲に限って確認できたもので、耕作に伴う掘削痕と想定している。またI区3・4号落ち込みはI区4号溝の西に限って確認されているため、同じく耕作に伴う掘削痕と考えたい。

**遺物** 遺物は得られなかった。

**時期** 何れもAs-A降下後の所産である。

**規模** I区1号落ち込み 径(201)×193cm  
深さ33cm

I区2号落ち込み 径(954)×306cm 深さ7cm

I区3号落ち込み 径688×620cm 深さ14cm

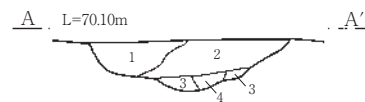
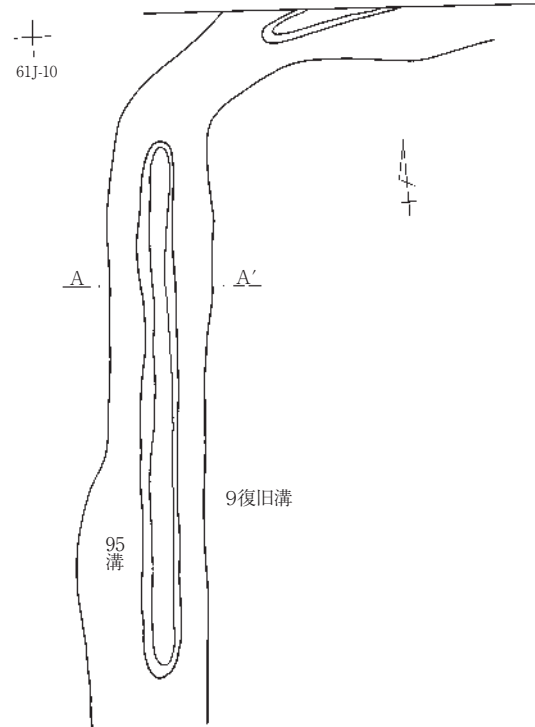
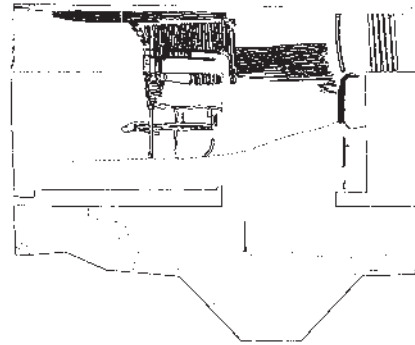
I区4号落ち込み 径(3,144)×372cm 深さ6cm

**構造** そのプランは1号落ち込みはN-E25°を長軸とする長方形を呈し、2号落ち込みはE-S21°からE0°、更にE-S20°へと変ずるS字状を呈している。3号落ち込みはN0°長軸を取る方形様、4号落ち込みはE-S5°を向くもので、溝状を呈するものと想定される。

落ち込みの掘削形態は何れも箱状であった。

### (16) As-A溜り (第195図)

**概要** I区の北調査区西寄りでAs-A溜りを確認した。As-A溜りは北側が調査区外に出でいて全容を



(近現代溝)

1 : 4層に近い。As-A 3%。固く締まる。

(95号溝覆土)

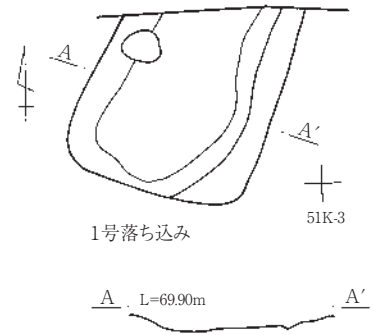
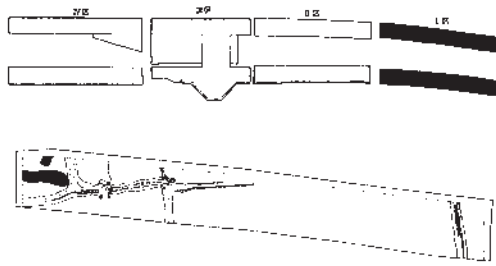
2 : 暗褐色軽埴土(10YR3/4) : As-A 5%。鉄分で汚れ、固く締まる。

3 : 黒褐色軽埴土(10YR3/2) : As-A, As-B, Hr-FP粒含む。

4 : 暗褐色軽埴土(10YR3/4) : As-B多く含む。Hr-FP粒含む。黒褐色(10YR2/3)斑紋、褐色(10YR4/6)斑紋含む。固く締まる。

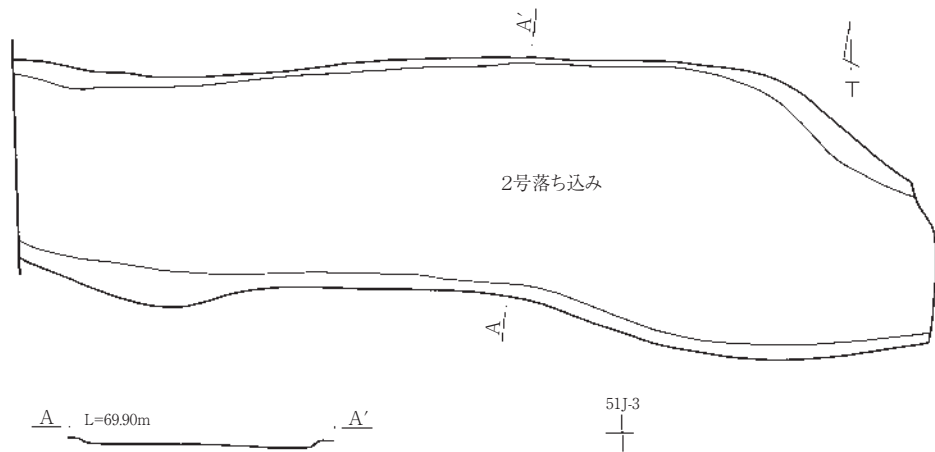


第193図 Ⅲ区9号復旧溝



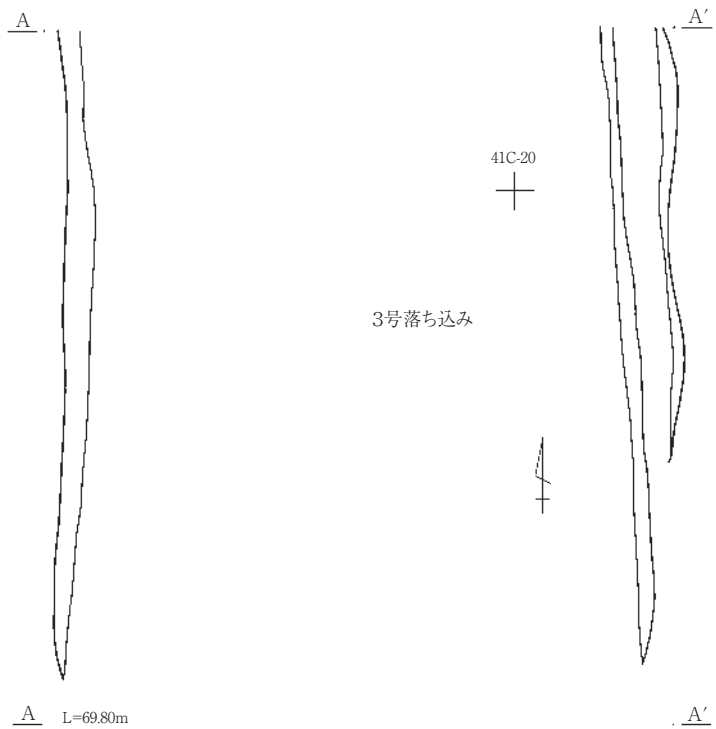
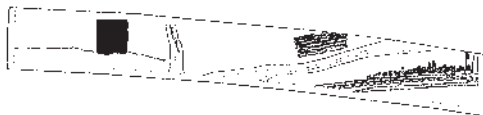
確認することはできなかつた。

As-A溜りは前述のI区4・5号溝に囲まれた中に位置しているもので、4号溝の走行が北にスライドする位置に向かって広がりが見られ、4号溝と80cmに亘って接している。



この広がりには小型ピットの存在と併せてAs-A溜り側への用水の流入或いは流出箇所と想定されるもので、この状態とAs-Aの確認範囲、及び4・5溝との間に畦畔の存在を窺わせる帯状の隔たりが存在するため、As-A溜りのAs-A下区は水田区と認識される。  
遺物 出土遺物は得られなかつた。

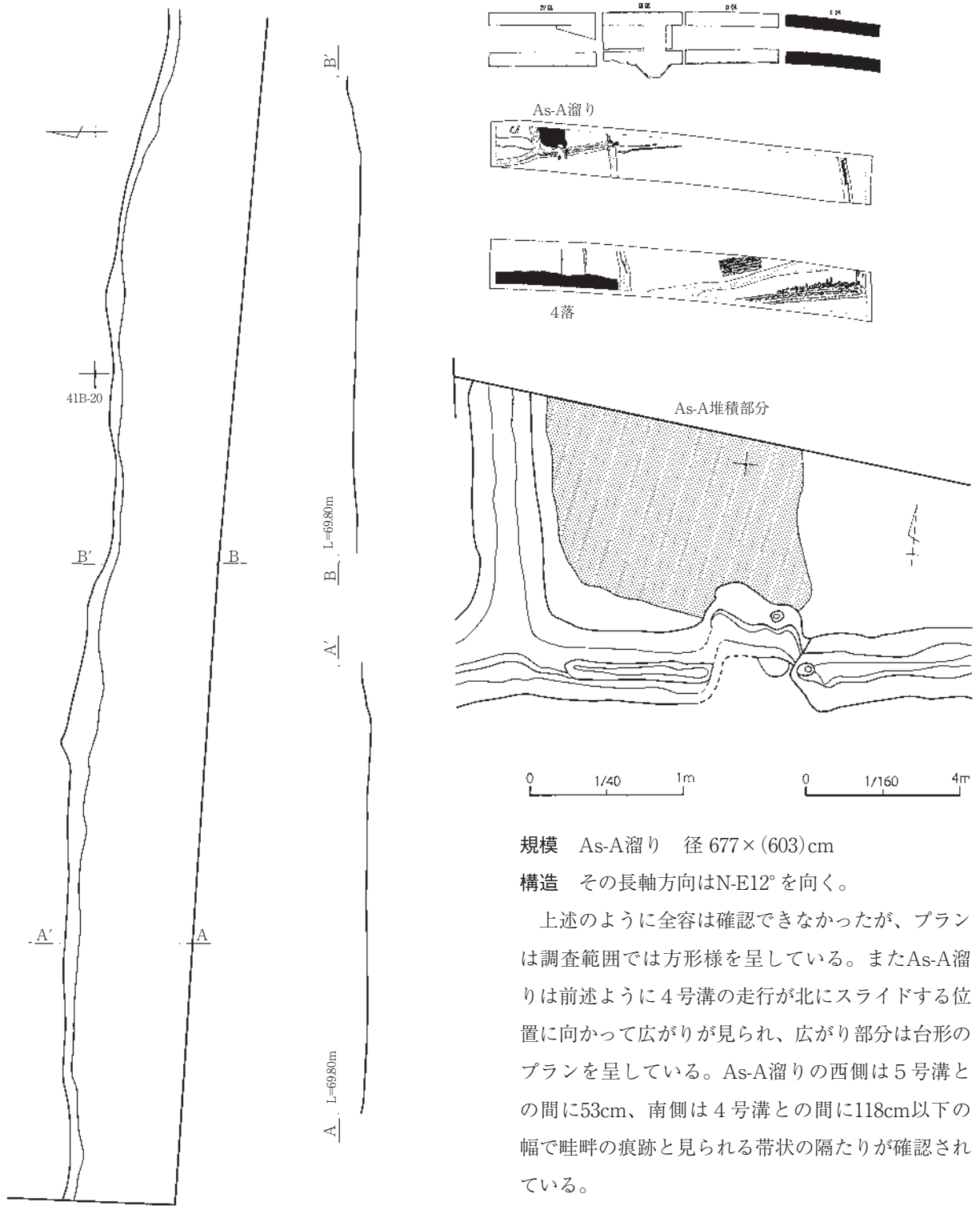
時期 As-A溜りは天明3年(1783)



0 1/80 2m

第194図 I区1・2・3号落ち込み

II 調査の記録



第195図 I区4号落ち込み(左)とAs-A溜り(右上)

を下限とする近世の所産と判断されるものである。

規模 As-A溜り 径 677×(603)cm

構造 その長軸方向はN-E12°を向く。

上述のように全容は確認できなかったが、プランは調査範囲では方形様を呈している。またAs-A溜りは前述のように4号溝の走行が北にスライドする位置に向かって広がりが見られ、広がり部分は台形のプランを呈している。As-A溜りの西側は5号溝との間に53cm、南側は4号溝との間に118cm以下の幅で畦畔の痕跡と見られる帯状の隔たりが確認されている。

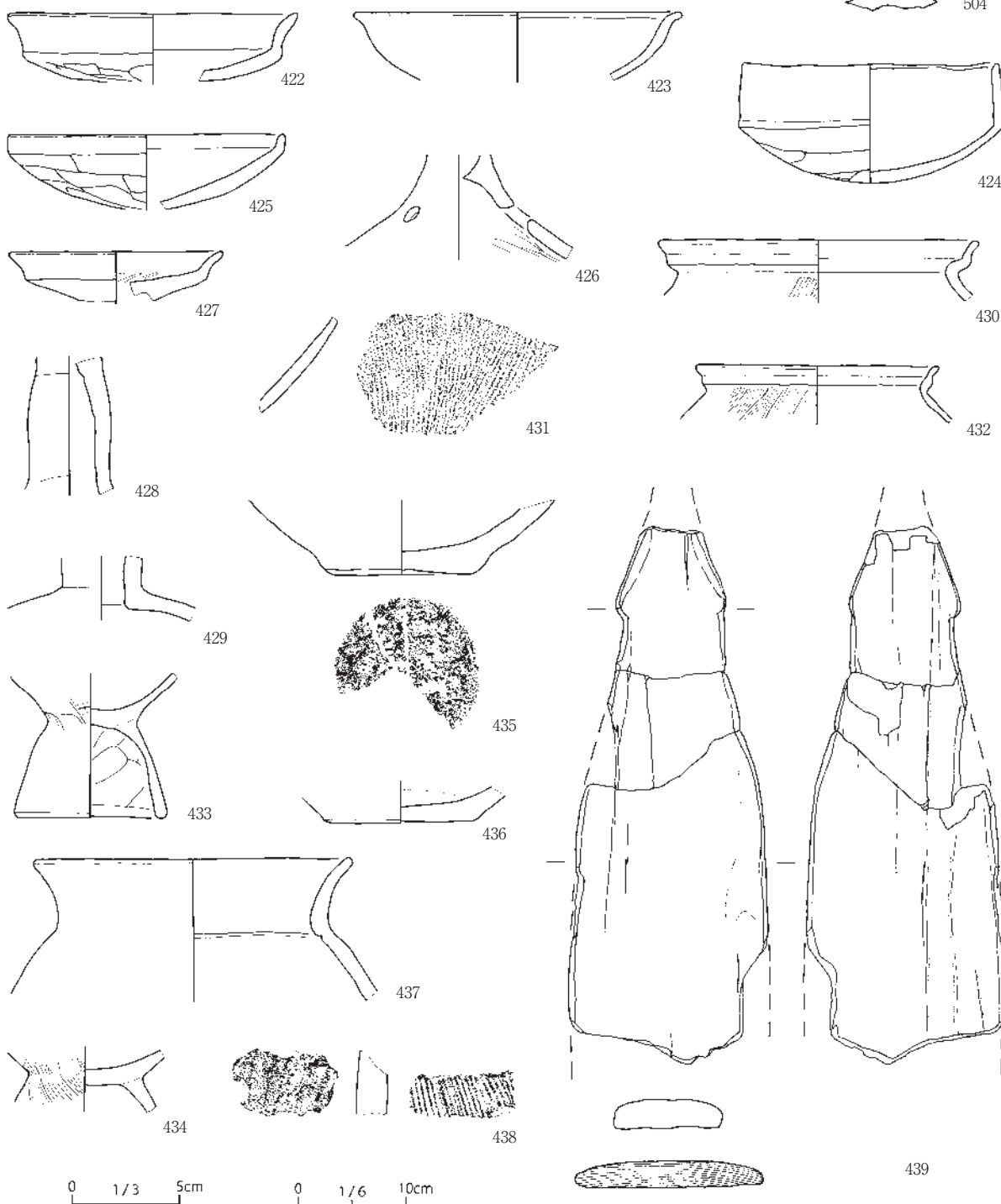
As-A溜りの底面は平坦であった。

## 9 遺構外の出土遺物

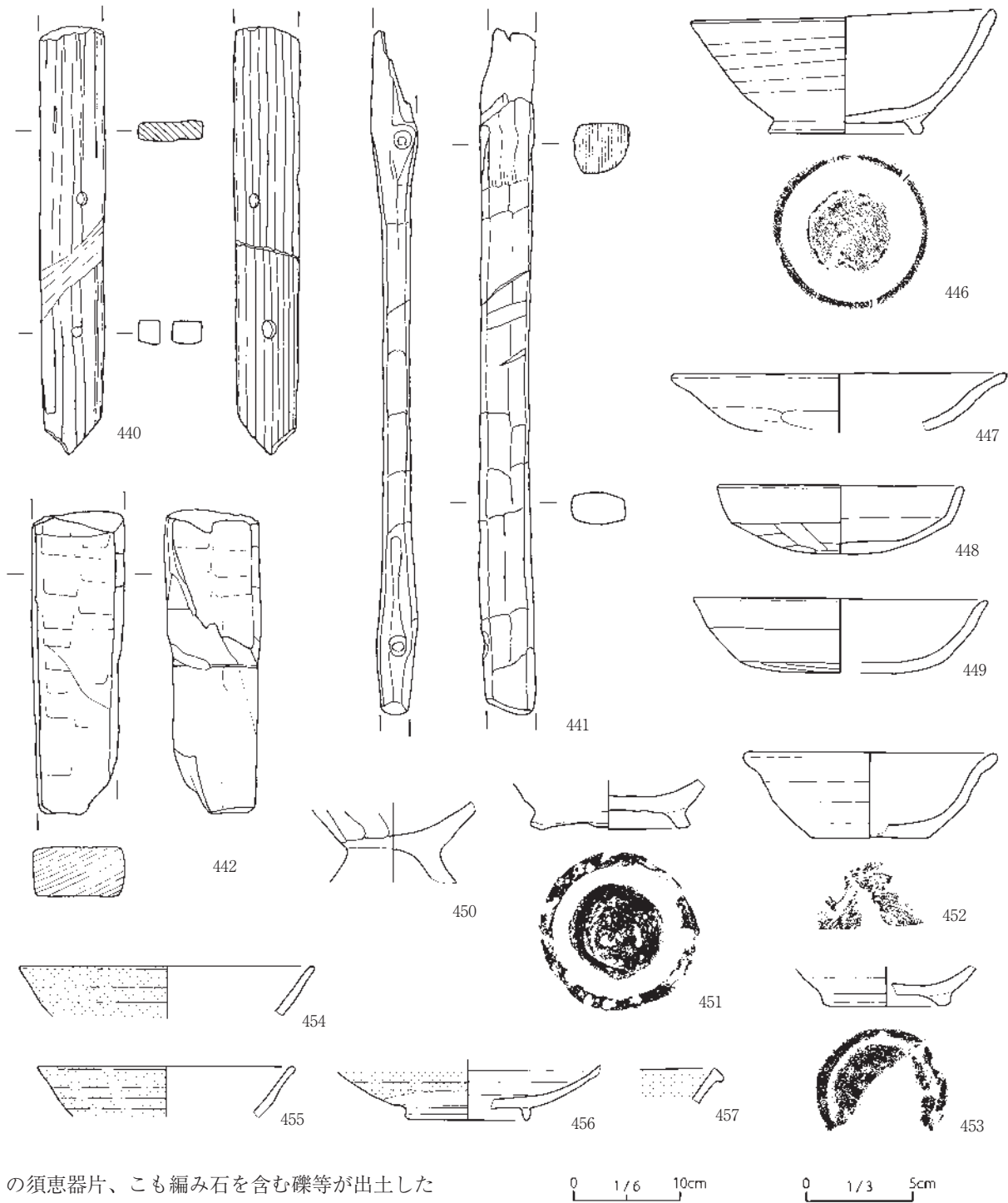
遺構外の遺物 (第196~200、PL76・77)

本遺跡では遺構に属さない、或いは遺構の特定できない出土遺物もあった。本節に於いてはこれらを一括、遺構外の出土遺物として報告する。

I区では陶磁器片や多くの土器類(土師器中心)、少量の礫や鉄製品、II区では多くの土器類や陶磁器片、若干量



第196図 遺構外の出土遺物 (その I、縄文時代、古墳時代(1))

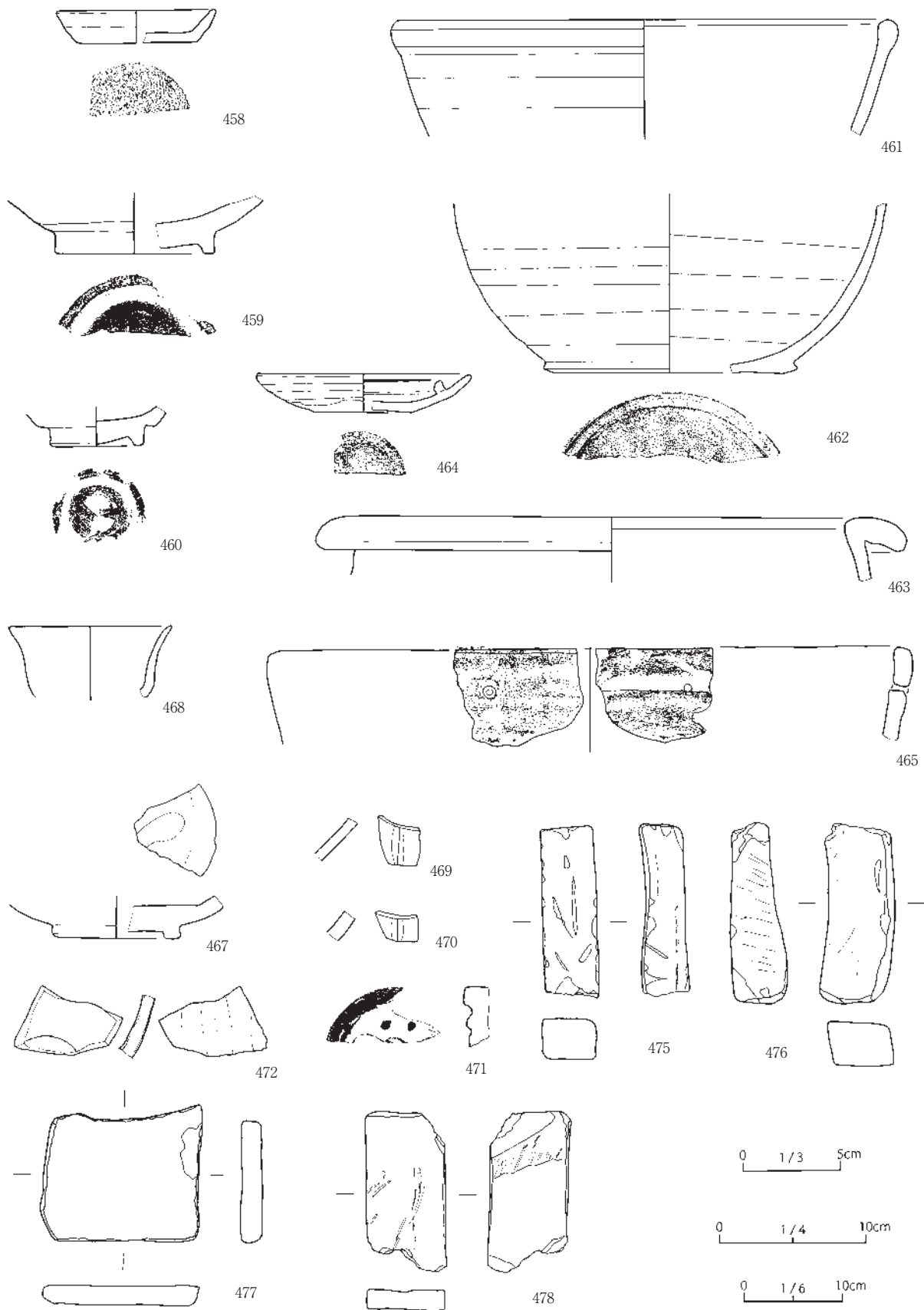


第197図 遺構外の出土遺物  
(その2、古墳時代(2)・奈良平安時代)

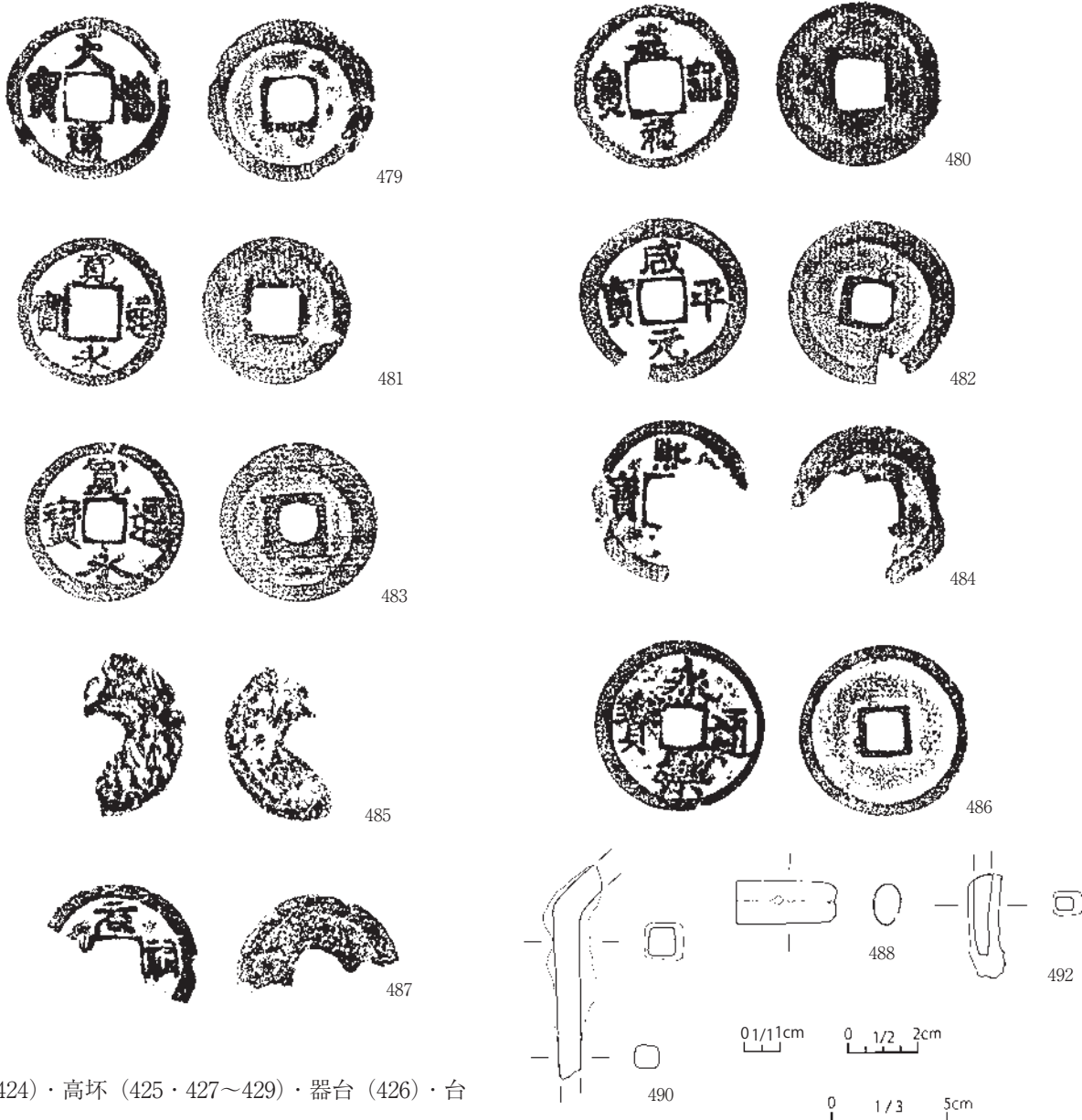
の須恵器片、こも編み石を含む礫等が出土したが、出土遺物は1・4面に多く、前者は陶磁器、後者は土師器を主体とした。Ⅲ区では多量の土器片、多くの須恵器片、礫等があったが、出土遺物は2・5面に多く、2面では土器・須恵・陶磁器片、5面では土器類を中心とした。Ⅳ区では多量の土師器等の土器類、若干量の陶磁器類や40点以上の礫等の出土を見たが、3面にや

や多く、1・2・5面がこれに続くが、1面では陶磁器類が、他の面では土器類を主体とした。

こうした遺物の中には縄文時代の石鏃(504)、古墳時代に属するものとしては土師器の坏(422～



第198図 遺構外の出土遺物（その3、中世・近世(1)と石製品）

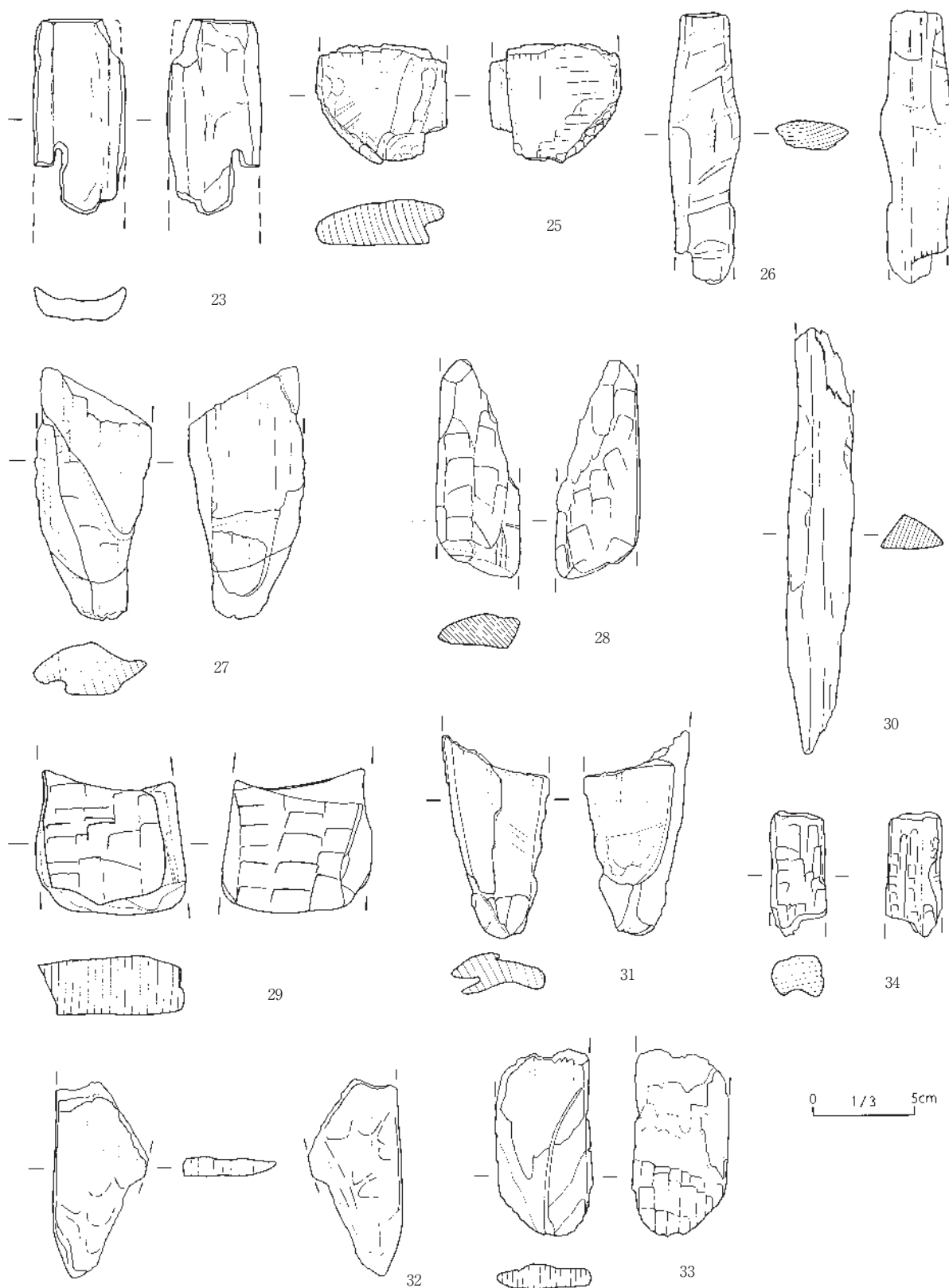


第199図 遺構外の出土遺物 (その4、中世・近世(2))

424)・高坏 (425・427~429)・器台 (426)・台付甕 (430~434)・甕 (435~437)、円筒埴輪片と思われるもの (438) や、なすび型鋏 (439)、組み物部材 (440)、角棒 (441・442) といった木製品も見られ、種子 (443~445) の出土もあった。律令期に属する遺物としては須恵器碗 (446・451~453) や、土師器の坏 (447~449) や台付甕 (450)、灰釉陶器の碗 (454~456) や長頸壺 (457) が見られ、中近世に属する遺物としては、かわらけ (458)、陶器の鉢 (459・461)・椀 (460)・壺 (462・463)・灯明皿 (464)、軟質陶器の内耳鍋 (465・474) や鉢 (466・502・503)、青磁の碗 (467・469・470・472)・小盃 (468)、軒丸瓦 (471)、陶器ぐいのみ

(473)、天禧通寶 (479)、嘉祐通寶 (480)、寛永通寶 (481)、咸平元寶 (482)、寛永通寶 (483)、熙寧元寶 (484)、銭種不明銅銭 (485)、永樂通寶 (486)、天禧通寶 (487) といった本銭、模鑄銭を含む銅銭、煙管吸口 (488)、鉄製鎌 (489)、角釘 (490~492) があった。この他、近代以降のガラス製品おはじき (493)、時期不特定の砥石 (475~478)、中世以降と見られる馬歯 (494~496) の出土も見られた。

補遺 (1節 旧河道出土遺物)



第200図 8面旧河道出土木製品 (補遺)



## 第4章 考察並びに自然科学分析

### 1 齊田中耕地遺跡Ⅲ区の中世屋敷について

#### 1. はじめに

本遺跡は、筆者が調査担当者の一人として従事し、遺構確認から掘立柱建物の認定まで関与した事例である。掘立柱建物の認定に当たっては、存在が想定される部分において、柱穴の有無が検証できたかも重要になってくる。本事例では調査段階でその確認作業ができており、しかも下層の平安時代水田面でピットの再抽出が行えた点で、柱穴の遺漏はほぼ無いと言える。ただし、調査区境において施工された湧水対策によって、相当数のピットが消滅していたことも考慮する必要がある。

結果として22棟の掘立柱建物が復元できた。しかし、屋敷遺構においては、建物を変遷づける作業をへなければ、屋敷の自体の位置づけをすることはできない。それは主観的な作業を伴ってくる。本稿は、こうした作業を担当者の一人として試みた次第である。

#### 2. 中世屋敷の概要

屋敷は溝で囲まれており、内部に掘立柱建物や竪穴状遺構、井戸、土坑など多くの遺構が認められる。屋敷の規模はおそらく一辺40m程度と推測されるが、南辺は調査区域外となり確定できていない。区画溝は重複する溝4条があり、一部は北辺から西辺をL字形に囲む。このことから、最少でも四時期にわたる区画段階を推測させる。

土層観察の結果、最も古いⅠ期のⅢ区（以下略）11号溝は、北辺が最北に位置し、西辺は最も東側となる。西辺の新旧関係から次のⅡ期は、23号溝である。ただし、23号溝はL字形でないため、位置関係から北辺が42号溝につながるとすれば辻褃が合う。Ⅲ期は15号溝であるが、北辺はⅣ期と重複して消滅した可能性が高い。最後のⅣ期は12号溝で、北辺から西辺までL字形をなしている。

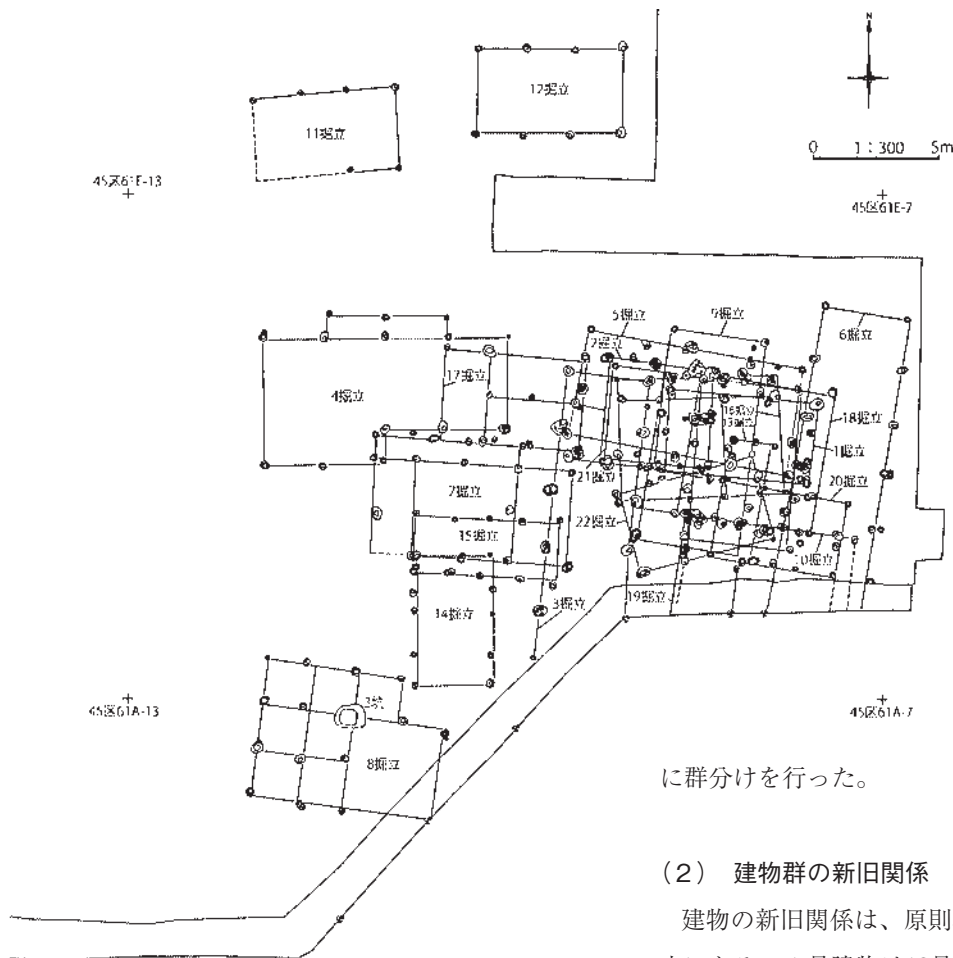
東辺の確実な区画溝は2条で、14号溝、13号溝の

新旧順位で重複している。洪水砂による埋没状況(後述)から、14号溝がⅠ期の11号溝の段階に類似する印象もある。一方、2条の区画溝がほぼ同位置に作られる状況は、Ⅲ・Ⅳ期の15・12号溝と同段階を思わせる。12号溝の延長とすると、直角に南へ折れた形となり区画溝として適当である。ただし、後出の13号溝は、整地盛土の存在や後出する柱穴の存在から屋敷最終段階ではない。13・14号溝については、前者が後出する点以外、Ⅰ～Ⅳ期のどれに該当するか明らかにできない。東辺では、ほかに位置関係からⅡ区7号溝が想定される。調査段階では現代の用水路によってほとんど壊され、規模などの詳細はわからない。区画溝として、Ⅰ～Ⅳ期いずれに対応するかも不明である。

南辺としては唯一22号溝があり、重複する掘立柱建物や溝との関係から初期段階と推測される。直ぐ西側に立ち上がりを持つ23号溝との位置関係と規模から、Ⅱ期に当たると考えられる。

以上をもとに、屋敷規模をまとめると、東西規模は約30～約40mとなる。南北規模はほとんど不明だが、Ⅱ期については約30mと想定できよう。

区画内部ではピット約460基が発見され、22棟の掘立柱建物が認識できた。これらは重複関係から4時期以上の存在を示している。あるいは溝で区画されていない段階なども考慮する必要がある。ピットは区画内東南部分に集中が認められ、掘立柱建物13棟が復元される。この部分に関しては、比較的多くのピットが掘立柱建物の柱穴として採用できたため、屋敷の存続時期に近い傾向が捉えられる。一方で、区画中央部から南西部にかけては、建物認定できていないピットがやや見られるが、ピット自体の数量が少ないため、全体像に大きな影響はないだろう。内部を区画する溝として、18・33号溝がピット群をめぐる状況もあり、建物の新旧関係を判断する



第201図 Ⅲ区屋敷内掘立柱建物群位置図

手がかりとなる。

### 3. 掘立柱建物群の検討

#### (1) 主軸方位による分類 (表53)

建物群は主軸方位の違いにより6つに分類され、さらに重複関係からA・B・C群に一部細分される。僅差による分類であるが、重複が激しい状況のため細かなグループ別けが可能であり、重複関係に矛盾しない分類を試みた結果である。

主軸方位は真北に対して西に傾くものが多いが、1・2類の3棟は東に傾くものである。2類はN-85~87°-E(東西棟基準、以下同じ)で、I・II期の11・42号溝の北辺の走向軸にほぼ一致している。おそらく同時期であろう。3類は真北かその直交方向に主軸方位を持つものである。3棟と少な

く、分布状況を考慮すると同時存在した建物群と考えられる。4~6類はN-79~86°-Wで、16棟が7度内に納まる。結果として、2・3度の違いをもとに、3つの分類を行ったが、主軸方位の計測基準や方法など精度を考慮すると、かなり危うさがある。しかし、分類内でも重複関係から更に細分されることが判明しており、あえて3つの類に分け、更に群分けを行った。

#### (2) 建物群の新旧関係

建物の新旧関係は、原則柱穴同士の新旧関係が基本になる。1号建物は13号建物より前出。22号建物は2号建物より前出。21号建物は18号建物より前出と、建物6棟が判明した(表53)。これらは何れも柱穴を半裁した断面観察で判断しており、信用性が高い。ただし、6棟は2対ずつの新旧関係しか判明していない。

竪穴状遺構(以下、竪穴)は、遺構の規模が大きいため、ピットとの重複が起こりやすい。特に2・3号竪穴及び1・2号落ち込み遺構(以下、落ち込み)周辺は、建物が集中する部分で、柱穴との重複が激しい。断面観察によって、17号建物が2号竪穴に前出、3号建物が2号落ち込みに後出する関係が判明した。調査時の所見メモでは、13号建物が2号竪穴に前出する点もある。

最も重複の多い3号竪穴については、ピットとの重複関係が不明な場合が多い。土層観察ベルトに係るピットでも、ベルト幅内に納まっていたなど、意識した土層観察が出来ておらず、容易に決めがたい

Ⅲ 考察並びに自然科学分析

ことが要因である。なお、2・3号堅穴及び2つの落ち込みは、平面形が不整円形に近く、深さからしても同種の遺構であり、建物の内部施設ではないかと考えている。

一方、整った矩形をなす4・5号堅穴は、明確な主軸方位を持ち、建物の主軸方位分類と相関関係を持たせられる。特に5号堅穴は建物種別の2類に属し、ほぼ共伴関係が想定できる。また、4号堅穴は建物種別の5類に属し、5号堅穴に後出する関係にある。この結果、2類の建物群がほぼ溝Ⅰ・Ⅱ期に属する点が、濃厚となってくる。

溝との関係を根拠とすることもできる。18号建物

は、平面観察により13号溝に後出することが判明しており、同溝が区画溝として屋敷の最終段階でない根拠となる。この結果、18号建物以外で13号溝に重複する建物、6・10・19・20号建物4棟も、一概に前出と即断できなくなる。

内部を浅く仕切る程度の溝では、18・33溝が大きく建物群を囲んでいる。建物柱穴との直接的な新旧関係は捉えられていないが、33号溝が18号溝に後出する点と合わせて、相対的な判断基準となる。一方、37号溝は小規模ながら多くの建物と重複して、重要な手がかりを与えている。断面観察の結果、1・22号建物が37号溝に後出するものと判明する。また、

表53 齊田中耕地遺跡掘立柱建物跡計測表

No.	種別	主軸方位	面積㎡	桁行1	桁行2	桁行(平均)	桁行平均柱間	寸尺	梁間1	梁間2	梁間(平均)	梁間平均柱間	寸尺	規格	下屋など	重複	
22	1類	N-73°-E	18.76			5.5	1.8333	6.1	3.5	3.32	3.41	1.705	5.6	2×3間・東西棟		1・2より前出・3・5・9・10・13・16・18・19・20・21	
11	2類	N-85°-E	18.52			5.75	1.9166	6.3			3.22			1×3間・東西棟			
13		N-87°-E	31.49	6.7	6.8	6.75	2.25	7.4	3.79	4.1	3.945	1.9725	6.5	2×3間・東西棟	北	1より後出・2・3・5・9・16・18・20・21・22	
4	3類	N-90°	46.26			9.82	2.455	8.1			3.6			1×4間・東西棟	北・南?	7・17	
12		N-90°	19.69	5.85	5.8	5.825	1.9417	6.4	3.38	3.38	3.38			1×3間・東西棟			
14		N-0°	15.29	5.03	5.08	5.055	1.26375	4.2	3.04	3.01	3.025			1×4間・南北棟		7・15	
7	4類	A群	N-86°-W	32.98			7.85	1.9625	6.5		3.6	1.8	5.9	2×4間・東西棟	北	3・4・14・15・17	
21			N-5°-E	13.73	3.83	3.53	3.68	1.84	6.1	3.76	3.7	3.73	1.865	6.2	2×2間・正方形		1・2・3・5・9・13・16・18より前出・22
15		B群	N-86°-W	14.14	5.75	5.52	5.635	1.40875	4.6	2.67	2.35	2.51			1×4間・東西棟		3・7・14
16			N-5°-E	25.19	6.38	6.2	6.29	2.09666	6.9	4.21	3.8	4.005			1×3間・南北棟		1・2・5・6・9・10・13・18・19・20・21・22
1	5類	A群	N-84°-W	21.47	5.79	5.97	5.88	1.96	6.5	3.09	3.26	3.175	1.5875	5.2	2×3間・東西棟	北	2・5・6・9・13より前出・16・18・20・21・22
3			N-7°-E	37.75以上			11.51	2.302	7.6			3.28			1×5以上間・南北棟		2・5・7・13・15・17・18・21・22
8			N-82°-W	34.96			7.12	1.78	5.9			5.32	1.7733	5.9	3×4間・東西棟		
10			N-82°-W	23.87?			6.63	2.21	7.3			3.6?	1.8	5.9	2?×3間・東西棟		6・9・16・18・19・20・22
2	6類	B群	N-83°-W	24.87	4.24	4.28	4.26	2.13	7.0	4.16	4.17	4.165	2.0825	6.9	2×2間・東西棟	東・西張出	1・3・5・9・13・16・17・18・20・21・22より後出
19			N-82°-W				6.1	2.03333	6.7						?×3間・東西棟		6・9・10・16・18・20・22
9			C群	N-7°-E	33.46	8.68	8.26	8.47	2.1175	7.0	3.66	4.24	3.95	1.975	6.5	2×4間・南北棟	
17	N-84°-W	20.48		5.76	5.54	5.65	1.8833	6.2	3.6	3.65	3.625	1.8125	6.0	2×3間・東西棟		2・3・4・5・7	
5	6類	A群	N-79°-W	36.73	8.86	8.57	8.715	2.17875	7.2	4.25	4.18	4.215	2.1075	7.0	2×4間・東西棟		1・2・3・9・13・16・17・18・20・21・22
6			N-10°-E	41.65以上			12.36	2.06	6.8			3.37			1×6以上間・南北棟		1・10・16・18・19・20
18			B群	N-80°-W	43.08	7.11	7.04	7.075	1.76875	5.8	5.54	5.64	5.59	1.8633	6.1	3×4間・東西棟	
20	C群	N-79°-W		17.69	5.06	5	5.03	1.67666	5.5			4.55	1.5167	5.0	3?×3間・東西棟	北	1・2・5・6・9・10・13・16・18・19・22

1 齊田中耕地遺跡Ⅲ区の中世屋敷について

表54 遺構新旧表

旧		新		新	根 拠	評 価
竪穴1	→	ピット88			平面観察	1 竪→15建
竪穴1 P 2	→	ピット402				
竪穴2	→	竪穴3				
竪穴4	→	竪穴5				
竪穴4	→	土坑13				
竪穴4	→	土坑14				
竪穴5	→	土坑14	→	ピット233		
井戸2	→	溝18				
井戸9	→	溝18				
土坑2	→	溝18				
土坑5	→	溝19				
土坑8	→	溝35				
土坑12	→	ピット258			断面観察	12土→13建
土坑23	→	土坑22				
土坑24	→	溝17				
土坑30	→	ピット305			断面観察	30土→5建
溝11	→	井戸1				
溝11	→	溝12				
溝11	→	溝23	→	溝15		
溝11	→	溝3				
溝12	→	溝15				
溝13	→	ピット49				
溝13	→	ピット211			平面観察	13溝→18建
溝14	→	溝13	→	溝18		
溝14	→	ピット1				
溝14	→	溝16				
溝15	→	溝12				
溝18	→	土坑3				
溝18	→	ピット212				
溝19	→	溝18				
溝19	→	溝24				
溝22	→	土坑25				
溝22	→	溝18	→	土坑3		
溝22	→	ピット119				
溝23	→	溝12				
溝33	→	ピット212				
溝34	→	溝18	→	溝33		
溝35	→	溝18	→	溝33		
溝36	→	井戸4				
溝37	→	ピット26			断面観察	37溝→1建
溝37	→	ピット25			断面観察	37溝→22建
ピット17	→	ピット106				
ピット42	→	ピット255				
ピット47	→	ピット54			断面観察	1建→13建
ピット51	→	土坑14				
ピット55	→	ピット33			断面観察	22建→2建
ピット64	→	ピット84				
ピット84	→	溝18				
ピット89	→	ピット110				
ピット93	→	竪穴2	→	竪穴3	断面観察	17建→2 竪
ピット101	→	ピット102				
ピット153	→	土坑14				7建→14土
ピット160	→	土坑23				
ピット184	→	溝37			調査メモ	2建→37溝 要注意
ピット208	→	溝37			調査メモ	20建→37溝 要注意
ピット210	→	ピット9				
ピット218	→	ピット77			断面観察	21建→18建
ピット230	→	土坑22				
ピット231	→	落込1				
ピット234	→	土坑15	→	土坑14	断面観察	17建→15土
ピット265	→	溝44				
ピット285	→	土坑22				
ピット349	→	竪穴2			調査メモ	13建→2 竪
ピット350	→	ピット343				
ピット357	→	ピット12				
ピット363	→	ピット12				
落込2	→	ピット232			断面観察	2落込→3建

2・20号建物は調査時の所見メモで、37号溝に前出すると判断される。ただし、断面観察でない点で根拠も弱く、疑問が残る。具体的には、2号建物と22号建物との直接的な新旧関係と、37号溝を介した新旧関係が逆転する矛盾を生じている。この場合、断面観察でもあり、建物同士の直接的な新旧関係を採用した。しかし、37号溝との新旧関係が唯一の根拠となる場合として、20号建物が前出して最古の建物となる場合が生じている。遺構の重複による新旧関係は、都合に合わせて単純に否定したりすると、根拠全体が瓦解する危険があるので、疑問も残しつつ採用しておく。

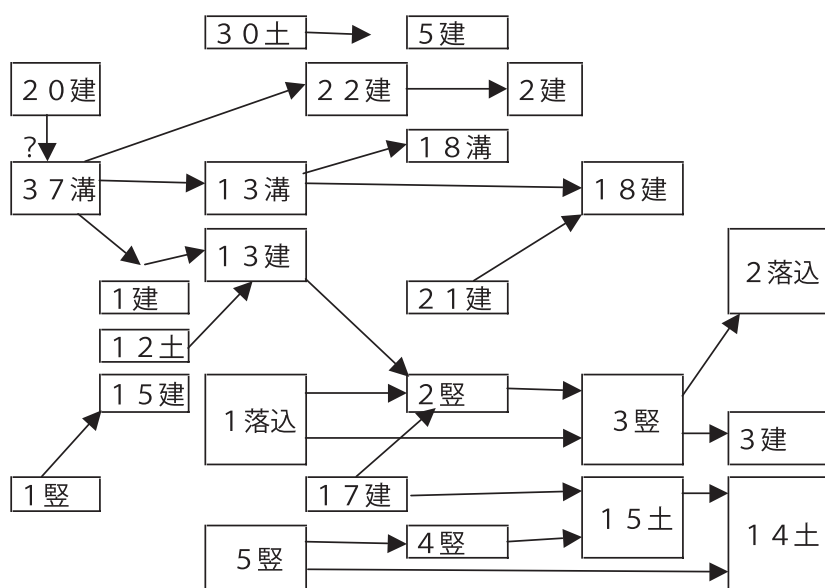
(3) 形態的な特徴

基本形は側柱建物であり、梁間が1間と2間が多い。桁行は3間か4間が基本である。これに下屋を持つものや、間仕切りを持つものがある。その中で、3号建物は1×5間以上、6号建物は1×6間以上と長大で、南側が調査区域外に延びる可能性を残している。面積も概ね40㎡を超えるものと想像される。ともに南北棟である点が共通する。ほかに南北棟では9・16号建物があり、南側調査区域外に延びる可能性も想像させるが、梁間が3・6号建物に比べて広く、同種の建物ではないと判断される。

梁間3間の建物には、8号建物と18号建物があり、20号建物もその可能性がある。18号建物は側柱建物で西側1間は庇で、身屋は3間四方とも思われる。8号建物と20号建物は総柱建物であろう。総柱構造には、ほかに17・21号建物がある。

小規模な建物のうち、14・16号建物は桁側の柱間が狭く、柱数が多い特徴を持っている。

Ⅲ 考察並びに自然科学分析



第202図 掘立柱建物変遷図

建物は約7.6尺と大きい、規模形態とも6号建物に類似して、建て替えによる桁行平均柱間の変動を感じさせる。残る建物7棟についても、10・19号建物は類似するものの全体形がわからず検討できないが、1・7号建物はともに約6.5尺で北側に下屋を持つ東西棟である。2・5号建物は約7.0尺、約7.2尺とやはり数値が近く、ともに東西棟ながら規模が異なる反面、ほぼ同位置に重なっている。つまり、4号建物だけが、約8.1

(4) 桁行及び梁間平均柱間の状況

桁行平均柱間は多様である。最短は20号建物で約5.5尺、最長は4号建物で約8.1尺を計り、全体として等量に数値がバラけている。建物の主軸方位別分類でも傾向を捉え難い。しかし、短いものに関しては、傾向がうかがえる。総柱構造の8・17・21号建物をみると、約5.9～6.2尺にとどまる。加えて、梁間3間の18・20号建物でも、後者が特に約5.5尺と狭いが、前者は約5.8尺である。約6.1尺の22号建物も、南側調査区外に延びて、梁間3間となる可能性を持っている。こうなると、柱数が多く特異な14・16号建物を除いて、数値の短いもの、つまり約6.2尺以下はすべて総柱が梁間3間で、建物形態が限定できることとなる。

ついで6.4尺前後では、11号建物と12号建物が隣接し、形態も近似する。主軸方位は2類と3類で、限られた分類に入る。状況から両分類は、単独で1時期を構成する建物群とみられ、更に前後する関係と考えられる。廃材再利用による立て替えとすれば、12号建物から11号建物の順で変遷したと言えよう。

以上により、本遺跡では桁行平均柱間数値と建物形態が関連するように思えてくる。南北棟の6・9・16号建物は、ともに6.9尺前後であるし、残る3号

尺と広く、比較する建物がないこととなる。

ところで、桁行平均柱間数値と建物形態が関連するとしても、南北棟と東西棟とで意図的に桁行平均柱間を変えているとは考えにくい。単なる偶然とも見なせないだろう。やはり、こうした場合は、廃材再利用による建物の建て替えによって、物理的な継続が生まれたのだと理解したい。建物の重複が多い点とも合致すると言えよう。

さて、建物の建て替えが多く、桁行平均柱間が多様になっていると考えれば、正確な建物変遷が捉えられなければ、建物の基準寸法を導くことはできないだろう。前項でもみたとおり、建物の新旧関係把握には限界がある。結果として、状況証拠の積み上げでしか、想定案を提示できない。したがって、基準寸法までは想定できない。ただし、4号建物は変遷の中で画期となる建物であり、その意味で基準寸法を示していると思う。同じ分類内で、桁側の柱数の多い14号建物も、柱数を半分とすれば、桁行平均柱間が約8.4尺となって、4号建物と同種となる。3類では8.1～8.4尺の数字が、基準寸法として捉えられる気がする。もちろん、他の建物にこの数値がないので、別の分類・時期の建物には援用できそうもない。特異な例なのかもしれない。

ところで、桁行平均柱間だけ取り上げてきたが、本遺跡では桁行と梁間の平均柱間が近似する例も比較的多くみられる。全22棟中6棟であるから、極端に多いわけでもないが、総柱建物と梁間3間のもので4棟を占めるので、この建物形態に帰属する特徴とも考えられよう。

#### (5) 建物の変遷案と建物配置

これまで検討してきた成果をもとに、建物変遷を第202図のとおり試みた。主軸方位別が基本である。ただし、1期の20号建物、2期の1号建物、7期の22号建物については図示せず、除外して論を進める<sup>(註1)</sup>。

3期は3類の3棟で構成される。当初段階であり、区画溝は11号溝となるが、12号建物の位置関係からも適当であろう。4号建物が最大面積であるが、西端に偏在しており、中心建物は屋敷内の北東部か南東部に存在する余地がある。4期は2類の2棟である。区画溝は42号溝とすれば、11号建物との関係からも肯定されよう。主軸方位から5号堅穴も伴うと考えられる。

以下の変遷は溝の新旧関係に拠っている。つまり、14号溝→13号溝→18号溝であり、区画溝東辺と内部溝の新旧関係である。5期の15・16号建物、6期の9・17号建物、8期の7・21号建物は、13・14号溝と共伴が可能である。次いで、9期の2・19号建物、10期の8・18号建物、11期の5・6号建物、12期の3・10号建物は、13・14号溝より後出と位置づけられる。

全体を通覧して言えることは、建物は2棟程度でずっと構成されていることであろう。屋敷の規模からみて、もう少し建物が多くてもとは思うのだが、調査区域外を考慮してもさほど多いとは思えない。それでいながら、高い頻度で立て替えが図られていることは確かである。このエネルギーは何なのだろうか。

建物形態で注目される8・18号建物は、10期に位置づけられたが、やや唐突な出現である。これは変遷として疑問が残ってしまう。一方で、長大な建物である3・6号建物は11・12期と最終時期にある。

筆者は、かねてからこの形態が中世末から江戸前期に特徴つけられる(註2)と考えているが、本事例はそれより古い時期であろう。

#### (6) 建物変遷からみた桁行平均柱間

変遷から再び桁行平均柱間を見直すと、3期から6期までは2棟あるうち大きい方が、8.1尺→7.4尺→6.9尺→7.0尺と、小さい方が6.4尺→6.3→6.2尺と推移していることが判明する。これは主屋と付属屋で2種の桁行平均柱間が存在する可能性を示す。ただし、12号建物から11号建物でうかがえる立て替えの要素もあり、6期の17号建物は総柱構造の要素も考慮される。

8期から12期までは、大きい方が6.5尺→7.0尺→(5.8尺)→6.8尺→7.6尺、小さい方が6.1尺→6.7尺→(5.9尺)→7.2尺→7.3尺と推移する。数値の変動は不規則でとらえどころがないが、各時期2棟では数値が近似している。10期の2棟は総柱構造であり、他の数値傾向と全く違う次元にあることがわかる。

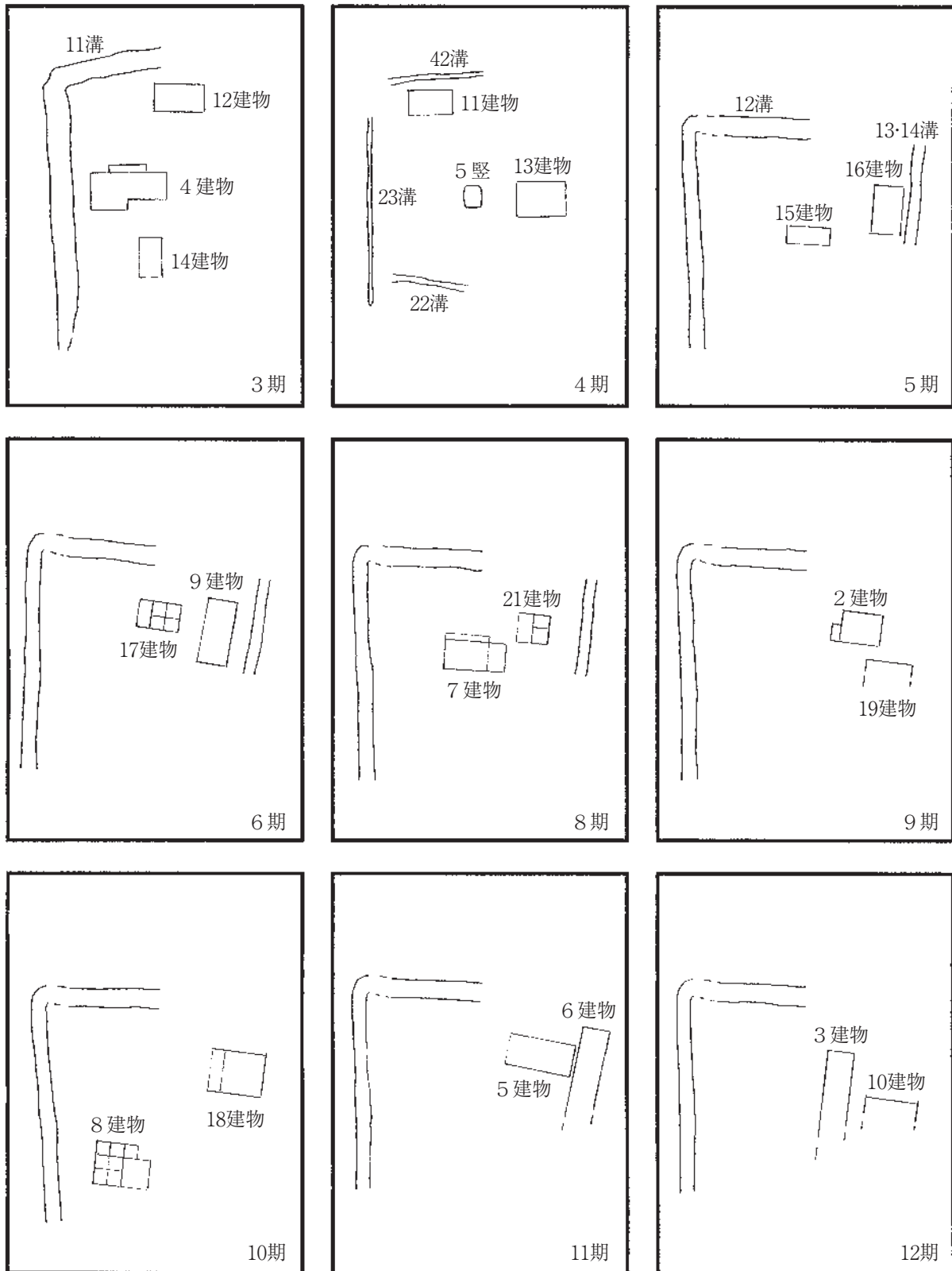
### 4. その他の留意点

#### (1) 溝

北辺から西辺を区画する4つの溝は、土層観察の結果、11号溝→23・(42)号溝→15号溝→12号溝の順で推移することが判明している。これまでの建物の検討の結果、11号溝に3類の建物群(3期)、23号溝に2類の建物群(4期)が共伴し、以下建物時期では12期まで8時期にわたり、15号溝→12号溝段階が続くと考えた。この場合、当初段階が短命に過ぎないかという疑問が生じるが、その理由は、洪水に求められる。11号溝の南端10m程の範囲は洪水砂によって一気に埋まっている。おそらく、これによって11号溝は廃棄されたと思われる。洪水は堆積の状況から判断して北側から来ており、近世まで続く用水とみられる3号溝から流入したとみられる。その後の区画溝が、3号溝から南に逃げながら底面標高を上げているのも、傍証と考えている。

内部を区画する小規模な溝として、北辺で18・33

Ⅲ 考察並びに自然科学分析



第203図 屋敷内建物変遷図

号溝があり、西辺では分岐して19・24号溝もみられる。状況から北辺の34・35号溝、西辺の36号溝も同様な溝の可能性もある。新旧関係では、34・35号溝→18号溝→33号溝と南に向かって新しくなる傾向がある。

これらの溝は建物群を囲む様相があり、一見して内部を区画する溝と思われるが、加えて井戸との関係が看取される。5・10・12・14号井戸以外は、すべてこれらの溝群と重複していることから、周辺に多く分布していることがわかる。10・14号溝は、むしろ屋敷の区画溝との関係が想起される位置にある。おそらく排水と関係することは容易に想像される。特に36・43号溝が6号井戸を起点にするのは、この関係をよく表している。40号溝と10号井戸、36号溝と1号井戸も、こうした関係を感じさせる。

いずれにしろ井戸は、屋敷内の北側から西側に集中して配置されている様相がうかがえる。これは奥向きの空間であったことを示すと思われ、建物との関係を加味すれば、6・8・10・14号井戸は建物群2・3類段階に伴う可能性を示唆している。8号井戸が12号溝に前出、1号井戸が11号溝より後出する点でも、傍証となる。

## (2) 竪穴状遺構

5基の竪穴状遺構と、平面形が判然としなかったため竪穴状遺構としなかった2つの落ち込み状遺構がある。このうち、1号竪穴は1基だけ単独で存在しており、規模は最も大きい。内部で複数のピットが発見され、建物2棟と重複関係にあるが、おそらくピットのいくつかは1号竪穴に帰属して、上屋の柱穴となるであろう。重複しない建物との位置関係も考慮して、独立した竪穴建物と考えられる。

4・5号竪穴は形態が近似し、重複関係から4号竪穴が後出と判明している。5号竪穴は主軸方位から2類の建物群と共伴するものとみられる。2基とも柱穴が見つからず、上屋の有無は不明であるが、重複する建物もないことから、独立した施設であったと考えられる。

2・3号竪穴と1・2号落ち込みは、確認段階の

形態差によって、遺構名称を分別したが、結果として相違点を見いだせなかった。底面は1・4・5号竪穴に比べて丸みを持っている。建物の重複が激しい屋敷内部の東側に位置し、いくつかの建物内部に納まる様相を持つが、関連付けることはできない。建物内部のウマヤ空間を思わせるが、想像の域を出ない。

## 9. まとめ

本事例は、一辺約40m規模の典型的な小規模屋敷であり、内部建物の面積は最大でも50㎡を超えるものはなかった。建物変遷を検討すると、12期の変遷が想定でき、比較的長期にわたる事例と言える。建物構成をみると、同時存在する建物は2～3棟と少なく、零細な様相を示す。居住者の階層を考えると、領主層というより在家クラスを思わせる。こうした零細な屋敷が、12期の長期にわたり存続できる環境とは一体どういうものなのか。今後は、この地域で見つかっている他遺跡の屋敷遺構などと比較しながら、考えていきたいテーマである。

建物の検討では、興味深い側面があった。変遷での位置づけは疑問を残すが、側柱構造の建物と総柱構造の建物が混在し、後者は桁行平均柱間に一定の基準があり、6尺前後の数値を示していた。また、全体として桁行平均柱間数値はバラツキが多いが、およそ初期段階では主屋と付属屋の2種類の基準があり、ある時期から同じ数値となっていく様相がうかがえた。

出土遺物では、13世紀後半～14世紀前半の中国青磁が9片とまとまっており、在地土器ではほぼ片口鉢のみで、内耳土器を伴っていない。県内の土器編年の現状では、14世紀末～15世紀初めまでには終焉を向かえていた屋敷となり、希少である。

### 註

1. 3棟は新旧関係に基づけば、ここに置かざるをえないが、状況から時期設定がおそらく間違っていると推測する。したがって、検討から除外した。
2. 波志江中屋敷遺跡や荒砥宮田遺跡で、この傾向が確認できている(飯森康広「小規模な中世屋敷内部の建物変遷と傾向－掘立柱建物跡の桁行平均柱間を視点に－」(財)財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要23 2005年)。



## 2 齊田中耕地遺跡出土馬歯

生物考古学研究所 榎崎修一郎

### はじめに

齊田中耕地遺跡は、群馬県佐波郡玉村町に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成14(2002)年4月～同17(2005)年3月まで実施された。

本遺跡のⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区から、馬(ウマ) [*Equus caballus*] の歯と骨が検出されたので以下に報告する。時代が特定できる遺物は検出されていないが、残存状態から、中世～近世であると推定される。

出土した馬歯は、水洗後、できる限りの接着復元後、観察・計測・写真撮影を行った。なお、馬歯の計測方法は、フォン・デン・ドリーシュ [von den Driesch] (1976) の方法に従った。

### 1. Ⅰ区出土獣骨

Ⅰ区では、2号溝・8号溝・13号溝・16号溝から、馬歯が検出された。しかしながら、どれも破損しており完形のものはない。

#### (1) 2号溝出土獣骨

覆土から出土しているが、破片であり、不明である。頭蓋骨片か四肢骨片であると推定される。

#### (2) 8号溝出土獣骨

馬歯が、2点出土している。どちらも破片であるが、上顎臼歯と下顎臼歯であると推定される。

#### (3) 13号溝出土獣骨

馬歯が1点と骨が1点出土している。馬歯は下顎臼歯で、骨は頭蓋骨片であると推定される。

#### (4) 16号溝出土獣骨

骨と馬歯が出土している。骨は馬の

下顎骨片で、馬歯は上顎臼歯であると推定される。

### 2. Ⅱ区出土獣骨

Ⅱ区では、5号溝から馬歯が検出された。しかしながら、どれも破損しており完形のものはない。

#### (1) 5号溝出土獣骨

馬歯片が2点出土している。前歯片であると推定される。

### 3. Ⅲ区出土獣骨

Ⅲ区では、11号溝・12号溝・37号溝・12号井戸・グリッドから、馬歯が検出された。

#### (1) 11号溝出土獣骨

馬歯4点が出土している。この内、同定できたものは上顎右M1のみである。その他は、前歯1点と

表55 齊田中耕地遺跡出土獣骨まとめ表

区名	遺構名	出土位置	同定	報告書番号	取り上げ日
Ⅰ区	2号溝	覆土	不明	378	2003.10.16
	8号溝	馬歯11	上顎臼歯	191	2002.12.20
		馬歯7	下顎臼歯	192	
	13号溝	馬歯19	下顎臼歯	202	
		馬歯20	馬骨?	203	
	16号溝	骨21	馬下顎骨	211	
馬歯24		上顎臼歯	212		
Ⅱ区	5号溝	上層	馬歯	222	2003.11.7
		覆土	馬歯	223	2003.10.31
Ⅲ区	11号溝	No.4	下顎臼歯	161	2004.1.20
		No.5	上顎右M1	162	
		No.11	前歯	163	2004.1.26
		No.15	下顎臼歯	164	2004.1.30
	12号溝	上層No.1	上顎左P2	165	2004.1.19
		上層No.2	上顎左M3	166	
		上層No.3	上顎左P3	167	
		上層No.4	不明	168	
		上層No.5	不明	169	
		上層No.6	下顎臼歯	170	
		上層No.7	不明	171	
		No.10	馬四肢骨	172	
	G区画上層	上顎臼歯	173	2004.1.16	
	37号溝	P-1	火葬骨?	259	2004.2.12
	12号井戸	-	不明	300	2004.2.18
	60T-11G	-	上顎左M3	496	2003.12.19
60T-12G	No.1	上顎臼歯	497	2004.2.10	
71-G-2	-	上顎臼歯	498	2004.1.28	
Ⅳ区	4号溝	No.8	火葬骨?	378	2005.1.28

下顎臼歯2点であると推定される。

性別は不明で、死亡年齢は全歯高より、約5歳の幼齢馬であると推定される。ちなみに、馬の年齢区分は、1歳～5歳が幼齢馬・6歳～16歳が壮齢馬・17歳以上が老齢馬である。

#### (2) 12号溝出土獣骨

馬歯4点・馬骨1点・不明3点が出土している。この内、同定できたものは上顎左P2・同P3・同M3の3点である。

この3本の歯は、色・形等が似通っており、恐らく同一個体であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は全歯高より、約5歳から6歳の幼齢馬であると推定される。



Ⅲ区12号溝出土馬歯類側面観

馬歯の上顎臼歯片が、1点出土している。

#### (3) 37号溝出土獣骨

不明骨1点が出土している。火熱を受けている火葬骨であると推定される。

#### (4) 12号井戸出土獣骨

不明骨1点が出土している。

#### (5) グリッド出土獣骨

##### ①60T-11G

馬歯の上顎左M3が、1点出土している。

##### ②60T-12G

馬歯の上顎臼歯片が、1点出土している。

##### ③71-G-2

#### 4. Ⅳ区出土獣骨

##### (1) 4号溝出土獣骨

火葬骨が1点出土している。但し、種同定及び部位同定には至らなかった。

#### まとめ

齊田中耕地遺跡のⅠ区～Ⅳ区から、馬歯を中心とした獣骨が出土した。詳細は表55を参照されたい。

表56 齊田中耕地遺跡出土馬歯計測表

遺構名	歯種	計測項目	
		MD	BL
Ⅲ区12号溝No.1	上顎左P2	37mm	24mm
Ⅲ区12号溝No.2	上顎左M3	25mm	22mm
Ⅲ区12号溝No.3	上顎左P3	27mm	26.5mm

#### 引用文献

von den Driesch, A. 1976 *A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites*, Peabody Museum Bulletin No.1, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University

### 3 齊田中耕地遺跡から出土した大型植物遺体

#### パレオ・ラボ

#### 1. はじめに

齊田中耕地遺跡は群馬県佐波郡玉村町に位置し、利根川の右岸、前橋台地南端部に立地している古墳時代から近世までの複合遺跡である。古墳時代後期の溝や中世の溝と井戸からは種実や葉などの大型植物遺体が出土した。ここでは同定を行い、利用植物や周辺植生について検討した。なお、葉の同定にあたり千葉大学大学院園芸学研究科百原新氏のご教示を得た。

#### 2. 試料と方法

試料は抽出・洗浄済みの大型植物遺体18試料である。古墳時代後期（⑥面）のⅣ区22号溝が1試料、中世（③面）のⅢ区1・3・4・6・8・10・11号井戸と11号溝、Ⅲ区Nの33・34号溝が計15試料、遺構外のため、時期不明のⅢ区とⅣ区Nの試料がそれぞれ1試料（計2試料）あった。18試料には計数可能個体が371点、破片が42点含まれていた（葉の破片は除く）。ほとんどの資料は、1資料あたり、大型の種実が数点で含まれていたが、3試料（Ⅲ区8号井戸2試料と10号井戸1試料）は複数の葉および種実が含まれ、葉を同定する目的で取り上げられていた。洗浄は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われ、水漬け保存されていた。種実および葉の抽出・同定・計数は肉眼および実体顕微鏡下で行った。葉は微細に割れているものが多かったため、基部が残存しているものを1として数え、基部が残存していない葉は計数していない。得られた種実分類群ごとに分類し、葉は状態良いものはエタノール70%水溶液で透明フィルム中にシーリングした。資料は、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管されている。

#### 3. 結果

同定の結果、木本植物ではオニグルミ核、ヤナギ属葉、ウメ核、モモ核・炭化核、スモモ核、フジ属葉、センダン核、エゴノキ核の8分類群、草本植物ではヤナギタデ果実、イヌタデ果実、オモダカ属果実、ツユクサ種子、イボクサ種子、オオムギ炭化種子、イネ果実、アワ果実、ウキヤガラ果実、ホタルイ属果実、カヤツリグサ属果実の11分類群が得られた。この他に不明A葉と不明B葉、不明炭化種子、不明芽、植物以外では昆虫が得られた。同定結果を表1に示す。

以下に時期と遺構番号別に出土傾向を記載する。破片も1点として計数する。なお試料番号のNo.1のⅢ区1号井戸出土試料は昆虫であったため、記載および表に含めていない。

[⑥面：古墳時代後期]

Ⅳ区22号溝 (No.18)：スモモ核1点、不明芽が1点得られた。

[③面：中世]

Ⅲ区1号井戸 (No.2)：センダン核が1点得られた。

Ⅲ区3号井戸 (No.4)：モモ核が1点得られた。

Ⅲ区4号井戸 (No.5)：モモ核が1点得られた

Ⅲ区6号井戸 (No.6-8)：ウメ核が1点、モモ核が2点、不明B葉が1点得られた。

Ⅲ区8号井戸 (No.10・11)：ヤナギ属葉が57点、モモ核が4点、フジ属葉が244点、ヤナギタデ果実が1点、イヌタデ果実が1点、ツユクサ種子が9点、イボクサ種子が3点、オオムギ炭化種子が2点、イネ果実が3点、アワ果実が1点、カヤツリグサ属果実が2点、不明A葉が1点、不明炭化種子が1点得られた。葉は破片を含め、1点を除いてヤナギ属とフジ属の2分類群で占められていた。

Ⅲ区10号井戸 (No.12・13)：オニグルミ核が1点、ウメ核が1点、モモ核が4点、フジ属葉が4点、オモダカ属果実が1点、イネ果実が1点、ホタルイ属

表57 齊田中耕地遺跡出土の大型植物遺体 (③面：中世、⑥面：古墳時代後期、( ) は破片を示す)

分類群	部位	③面											⑥面			③面		遺構外・面不明			
		Ⅲ区											Ⅳ区			Ⅲ区N		Ⅳ区N		Ⅲ区	
		1号井戸	3号井戸	4号井戸	6号井戸	6号井戸	8号井戸	8号井戸	8号井戸	10号井戸	10号井戸	11号溝	11号井戸	22号溝	33号溝	34号溝	-	-			
No.2	No.4	No.5	No.6	No.7	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.15	No.17	No.18	No.19	No.20	No.21	No.22					
オニグルミ	核								(1)								(1)				
ヤナギ属	葉					—	57														
ウメ	核				1				1						1						
モモ	核		1	(1)		(2)		1(3)	2(2)		7(1)	(1)									
	炭化核													(2)							
スモモ	核										1	(1)									
フジ属	葉						244			4											
センダン	核	1																			
エゴノキ	核																1				
ヤナギタテ	果実						1														
イヌタテ	果実						1														
オモダカ属	果実									1											
ツユクサ	種子						9														
イボクサ	種子						3														
オオムギ	炭化種子								2												
イネ	果実						(3)			(1)											
アワ	果実						(1)														
ウキヤガラ	果実															2822					
ホタルイ属	果実									1											
カヤツリクサ属	果実						2														
不明A	葉						(1)														
不明B	葉					(1)															
不明	炭化種子								1												
不明	芽												1								

果実が1点得られた。

Ⅲ区11号井戸 (No.17)：モモ核が1点が得られた。

Ⅲ区11号溝 (No.15)：モモ核が8点、スモモ核が1点が得られた。

Ⅲ区N33号溝 (No.19)：モモ炭化核が2点得られた。

Ⅲ区N34号溝 (No.20)：ウメ核が1点得られた。

[遺構外出土 (面不明)：時期不明]

Ⅲ区 (No.22)：オニグルミ核が1点、エゴノキ核が1点得られた。

Ⅳ区N (No.21)：ウキヤガラ果実が50点得られた。

以下に大型植物種実遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino. 核 クルミ科

茶褐色で、全体の1/2の半割破片である。緻密で硬い。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凸凹が不規則に入る。No.12の破片は外面の一部が炭化しており、頂部が破損している。長さ27.8mm、幅25.5mm。

(2) ヤナギ属 *Salix* spp. 葉 ヤナギ科

黄土色～茶褐色で、葉身は線形、互生で、波状の細かい鋸歯がある。完形のもので長さ3.5cm、幅0.9cm程度。長さが約半分のもので、残存長4.8cm、幅1.8cm程度。こうした特徴をもつヤナギ属にはシロヤナギ、コゴメヤナギなどがある。

(3) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

黄褐色で、卵円形で上面観は両凸レンズ形、側面観は卵形。表面には全体的に不規則な深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。長さ13.2mm、幅9.8mm、厚さ8.9mm程度。

(4) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

黄褐色～淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は円形～ゆがんだ楕円形で先が尖る。下端に大きな臍がある。表面に不規則な深い皺がある。また片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。大きい個体で長さ31.7mm、幅22.5mm、厚さ17.0mm、小さい個体で長さ27.1mm、幅19.0mm、厚さ16.6mm。

(5) スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

### Ⅲ 考察並びに自然科学分析

茶褐色で、卵形～楕円形。上面観はやや扁平な両凸レンズ形、側面観は紡錘形。両側に縫合線があり浅い溝が入る。表面は平滑。長さ16.5mm、幅11.7mm、厚さ7.3mm。

(6)フジ属 *Wisteria* spp. 葉 フジ科

黄褐色で、長楕円形または狭卵形で全縁、互生。本来は羽複葉となる。ほぼ完形個体で長さ5.5cm、幅2.0cm。破片で残存長4.3cm、残存幅2.5cm。

(7)センダン *Melia azedarach* L. 核 センダン科

淡黄色で、上面観は星形で5分裂し、側面観は菱形で平滑。大きな着点が下端にある。長さ15.9mm、幅8.8mm。

(8)エゴノキ *Styrax japonica* Sieb. et Zucc. 核 エゴノキ科

黄色で、上面観は円形、側面観は卵形～楕円形。縦方向に4条の溝が走り先端で収束する。黄白色の大きな着点が下端に付く。長さ9.9mm、幅6.6mm程度。

(9)ヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Spach 果実 タデ科

黒灰色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は両端が尖る。果皮は厚く硬い。表面にはボントクタデより小さい網目模様があり、やや光沢がある。基部には果柄である小突起がある。長さ2.1mm、幅1.8mm程度。

(10)イヌタデ *Persicaria longiseta* (Brujin) Kitag. 果実 タデ科

黒褐色で、上面観は三角形、側面観は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で他のタデ属より光沢がある。また稜となる部分が幅広である。大きさは他のタデ属より小さい。長さ2.0mm、幅1.1mm程度。

(11)オモダカ属 *Sagittaria* spp. 果実 オモダカ科

淡褐色で、上面観は扁平、側面観は歪んだ倒卵形。翼は黄白色で厚く柔らかく、弾力がある。翼の中心部にいびつなU字形をした種子がある。長さ2.6mm、幅1.8mm。

(12) ツユクサ *Commelina communis* L. 種子 ツユクサ科

黒色で上面観は半円形、側面観の一端は円形、その逆の端は切形に終わる。切形の端に接して線状の着点が伸びる。表面には多角形の構造がある。長さ3.5mm、幅2.5mm。

(13)イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.) Hand.-Mazz. 種子 ツユクサ科

黒灰色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。中央部に狭楕円形の褐色の着点がある。表面はやや凹凸がある。長さ3.5mm、幅1.5mm。

(14)オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子 イネ科

側面観は長楕円形ないし紡錘形、断面は楕円形。腹面中央部には、上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には、類三角形の胚がある。コムギに比べて細長く、幅に対して厚みが薄い傾向がある。長さ7.5mm、幅3.8mm、厚さ3.8mm。

(15)イネ *Oryza sativa* L. 果実 イネ科

黄褐色～淡褐色で、上面観は扁平、側面観は長楕円形。基部が突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長7.0mm、残存幅2.5mm。

(16)アワ *Setaria italica* P. Beauv. 果実 イネ科

茶褐色で、紡錘形。遺存状態は良くないが、独立した細かい乳頭突起がある。長さ2.8mm、幅1.9mm。

(17)ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) soják subsp. *yagara* (Ohwi) T. Kovama. 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で表面は黒色化し、側面観は倒卵形、断面観は三稜形にふい光沢があり、表面は平滑。長さ3.0mm、幅2.0mm程度。

(18)ホタルイ属 *Scirpus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は短倒卵形。頂部が尖り、基部は狭まって着点がある。着点に針状の細い付属物が数本みられる場合がある。壁は硬い。光沢がある。長さ2.5mm、幅2.0mm程度。

(19)カヤツリグサ属 *Cyperus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、側面観は狭倒卵形、断面観は三角形。

### 3 齊田中耕地遺跡から出土した大型植物遺体

果皮は硬く光沢がある。長さ1.6mm、幅0.7mm程度。

#### (20)不明A Unknown A 葉

茶褐色で、全体の3/4程度の大きさが出土した。全体形は不明。先端と基部が失われている。全縁で互生。残存長5.3mm、残存幅4.3mm。

#### (21)不明B Unknown B 葉

茶褐色で基部のみが出土した。全体形は不明で、互生、鋸歯がある。ヤナギ属に似る。残存長1.5mm、残存幅1.5mm。

#### (22)不明 Unknown 炭化種子

長さ7.5mm、幅3.8mm、厚さ3.8mm。

#### (23)不明 Unknown 炭化芽

長さ14.3mm、幅9.6mm。

## 4. 考察

古墳時代後期の溝では栽培植物のスモモが確認された。中世では栽培植物のウメ、モモ、スモモ、オオムギ、イネ、アワが確認された。ほとんどは現場で肉眼により取り上げられた種実であるが、イネやアワは葉同定用に取り上げられた試料から産出しており、多量の堆積物を洗浄したことにより、偶発的

に得られたと考えられる。この他にオニグルミは打撃痕をもつものが含まれており、利用が示唆される。Ⅲ区8号井戸にはヤナギ属とフジ属の葉が多量に出土した。完形で残されているものは数点で、大多数が基部や先端を残さない碎片であった。井戸という閉塞的な空間を考慮すれば、かなり近接した場所に生育していたと考えられる。フジ属はつる性植物のため、樹木などに絡んでいたと思われる。この他センダンやエゴノキは食用とはならないため、これらの高木が遺構周辺に生育し、自然落下して堆積したことが考えられる。

草本植物では、路傍や畑の縁などに生育するイヌタデ、ツユクサ、水辺に生育するヤナギタデが得られた。これらの種実は遺構付近に生育していたものが流れ込んだのであろう。また水田や沼沢地などの水湿地に生育するイボクサ、抽水植物であるウキヤガラやホタルイ属は遺構内に生育していたことが示唆される。今回同定された大型植物遺体はほとんどが肉眼で検出されやすい大型の種実であるが、今後堆積物に含まれる微細な種実をあわせて検討することにより、利用植物や周辺の植生が明らかになると考えられる。

## 4 齊田中耕地遺跡出土木材の樹種同定

### パレオ・ラボ

#### 1. はじめに

齊田中耕地遺跡は利根川右岸の前橋台地南端部に立地し、古墳時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。現在では平坦な水田地帯となっているが、発掘調査によって以前は利根川をはじめとする河川の影響により微高地と低地が入り組む複雑な地形が形成されていたことが確認されている。

江戸時代では溝跡や土坑、中世では大規模な屋敷

跡や溝跡など、平安時代では水田跡や溝跡、古墳時代では畠跡や水田跡、河川跡、谷地跡などが検出され、自然木や木製品が出土した。ここでは古墳時代中期以前、古墳時代後期、中世、中・近世、時期不明の木製品と自然木の樹種同定を行い、樹種の検討を行った。なお、同定にあたり森林総合研究所の能城修一氏に御教示を受けた。

2. 試料と方法

試料は、齊田中耕地遺跡の河道、谷地、溝跡、橋脚、井戸跡から出土した木製品と自然木の62点である。これらは（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によって木取り等の観察と材の切片採取が行われた。プレパラートは204点作製され、そのうち142点は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によってが同定が行われ、残りの62点について同定を行った。

同定はこれらのプレパラートを光学顕微鏡下にて40~400倍で検鏡し、現生標本と対比して行った。なおプレパラートは、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

62点の同定の結果、針葉樹のカヤ、イヌガヤ、ヒノキ、アスナロ、スギ、モミ属、マツ属複雑管束亜属の7分類群と、広葉樹のヤナギ属、カバノキ属、ムクノキ、クワ属、ツバキ属、ウツギ属、バラ属、サクラ属、モモ、ヌルデ、カエデ属、ムクロジ、トチノキ、エゴノキ属、ハイノキ属サワフタギ節の15

分類群の計22分類群が産出した。モミ属が最も多く11点で、カエデ属が7点、アスナロ、カヤ、アスナロが6点、ヒノキが5点、サクラ属が4点、イヌガヤ、スギが各3点、マツ属複雑管束亜属、ツバキ属、エゴノキ属が2点、その他が各1点産出した。

次に同定された材の特徴を記載し、1分類群1点の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 PL.80 1a-1c (No.124)

仮道管と放射柔細胞からなる針葉樹である。晩材部は量が極めて少ない。仮道管の壁は厚い。放射柔細胞は1~6細胞高である。分野壁孔は小型のトウヒ型で1~5個存在する。仮道管にはらせん肥厚がみられ、2本で対になる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で水湿によく耐える。

(2)イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イヌガヤ科 PL.80 2a-2c (No.10)

仮道管と、樹脂細胞、放射柔細胞から構成される針葉樹材である。晩材部は量が極めて少ない。放射柔細胞は1~6細胞高である。分野壁孔は小型のトウヒ型で1~5個存在する。仮道管にはらせん肥厚がみられる。

イヌガヤは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する常緑小高木の針葉樹である。樹木自体が小さいため、現在では顕著な木材利用は行われていない。

(3)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 PL.80 3a-3c (No.93)

仮道管と、樹脂細胞、放射柔細胞によって構成される針葉樹材である。晩材は量が少ない。放射組織は1列で、1~15細胞高になる。分野壁孔は小型のヒノキ型~トウヒ型で、1分野に2個存在する。

表58 齊田中耕地遺跡樹種同定結果

樹種/時代	古墳時代		中世	中・近世	不明	合計
	中期以前	後期				
カヤ	5				1	6
イヌガヤ	3					3
ヒノキ			5			5
アスナロ		1	1	4		6
モミ属	11					11
マツ属複雑管束亜属				2		2
スギ			1	1	1	3
ヤナギ属		1				1
カバノキ属	1					1
クリ	1			18		19
コナラ属アカガシ亜属	13	1	4		1	19
コナラ属クスギ節	56	6	1	1		64
コナラ属コナラ節	1		2	1		4
ムクノキ	1					1
ケヤキ	14		1	2		17
クワ属	1					1
ツバキ属	1				1	2
ウツギ属			1			1
バラ属	1					1
サクラ属	4					4
モモ	1					1
ヌルデ				1		1
コクサギ	3					3
カエデ属	7					7
ムクロジ	1					1
トチノキ	1					1
エゴノキ	1			1		2
ハイノキ属サワフタギ節				1		1
シオジ	2					2
不明	7	1	2	4		14
合計	131	10	18	36	3	198

### 3 齊田中耕地遺跡から出土した大型植物遺体

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(4)アスナロ *Thujopsis dolabrata* Siebold. et Zucc.  
ヒノキ科 PL.80 4a-4c (No.57)

仮道管と、放射柔細胞、樹脂細胞から構成される針葉樹材である。晩材部は量がやや少ないか多い。放射柔細胞は1～6細胞高である。分野壁孔は小型のヒノキ～トウヒ型で、1分野に2～4個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。

(5)スギ *Cryptomeria japonica* (L.fil.) D. Don  
スギ科 PL.80 7a-7c (No.159)

仮道管と、樹脂細胞、放射柔細胞によって構成される針葉樹材である。晩材は量が多い。放射組織は1列で、2～18細胞高になる。分野壁孔は孔口の大きく開いたスギ型で、1分野に2個存在する。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

(6)モミ属 *Abies* マツ科 PL.80 5a-5c (No.12)

仮道管と放射柔細胞によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は放射柔細胞によって構成され、放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁をもつ。放射柔細胞の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個存在する。

モミ属には北海道に分布するトドマツ、亜高山帯など高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミ、低標高域に分布するモミなどがありいずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易で、割裂性も大きい。

(7)マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen *Diploxylon*  
マツ科 PL.80 6a-6c (No.59)

仮道管と、垂直・水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞、放射柔細胞、放射仮道管によって構成される針葉樹材である。放射仮道管の水平壁の肥厚は重鋸歯状を呈す。放射柔細胞の分野壁孔は窓状とな

る。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に育成する。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(8)ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 PL.80  
8a-8c (No.164)

小型の道管が単独または2～3個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性で単列である。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギ、シダレヤナギなど多数の種があり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉小高木の広葉樹である。材は軽軟で強度が強く、切削加工などは容易である。

(9)カバノキ属 *Betula* カバノキ科 PL.80・81  
9a-9c (No.80)

道管が単独ないし2～3個が放射方向に複合し、まばらに散在する散孔材である。軸方向柔細胞は単接線状に配列する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は同性で、1～3列となる。

カバノキ属にはマカンバやダケカンバ、ウダイカンバなどがあり、代表的なマカンバは北海道から本州北中部の温帯の、日当たりの良い場所に生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で強靱だが、切削加工は容易である。

(10)ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.)  
Planch. ニレ科 PL.81 10a-10c (No.126)

中型で厚壁の道管が単独ないし2～3個放射方向に複合する散孔材である。軸方向柔細胞は翼状～連合翼状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性で、1～3列となる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、靱性があり割裂しにくい。

(11)クワ属 *Morus* クワ科 PL.81 11a-11c (No.168)

大型の道管が年輪の始めに数列並び、晩材部では径を減じた道管が2～4個複合する環孔材である。



### Ⅲ 考察並びに自然科学分析

軸方向柔細胞は周囲型である。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で1～6列である。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

(12)ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 PL.81

12a-12c (No.86)

きわめて小型の道管が単独で密に散在する散孔材である。道管は階段穿孔を有し、内腔にはらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で1～3列となり、結晶がみられる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

(13)ウツギ属 *Deutzia* ユキノシタ科 PL.81

13a-13c (No.49)

小型の道管が単独でやや疎らに分布する散孔材である。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性で背が高く、鞘細胞がみられる。

ウツギ属にはウツギ、マルバウツギなどがあり、日当たりの良い小川付近に生える落葉低木である。代表的なウツギの材はやや重硬で、切削加工は中庸である。

(14)バラ属 *Rosa* バラ科 PL.81 14a-14c

(No.14)

中型の道管が年輪の始めに1～4列並び、晩材部では径を減じた道管が放射方向に複合して散在する環孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で背が高く、単列のものと6～10列のものがある。

バラ属にはノイバラやヤマバラなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉低木の蔓性の広葉樹である。

(15)サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 PL.81

15a-15c (No.156)

小型の道管が単独ないし2～4個不定方向に複合し、継続的に連なってが配列する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁には顕著ならせん肥厚が明瞭に認められる。放射組織は同性で1～3列である。

サクラ属 (広義)にはヤマザクラ、オオシマザクラなどがある落葉高木の広葉樹である。材は中庸からやや重硬で、粘りがあり強靱である。切削加工も困難でない。

(16)モモ *Amygdalus persica* L. バラ科 PL.81

16a-16c (No.13)

年輪のはじめにやや大型の孤立道管が2～3列並び、その後は非常に小さい道管が単独ないし2～3個複合する半環孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁には鮮明ならせん肥厚が見られる。放射組織は異性で幅は1～4列となる。

原産地は中国北部で、古来より日本でも栽培されている樹木である。

(17)ヌルデ *Rhus javanica* L. var. *chinensis* (Mill.)

T.Yamaz. ウルシ科 PL.81・82 17a-17c (No.53)

大型の道管が年輪の始めに2～3列並び、晩材部では径を減じた道管が帯状に複合する環孔材である。軸方向柔細胞は晩材部で周囲状になる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で、1～5列である。

ヌルデは北海道、本州、四国、九州などの2次林などに見られる陽性の落葉小高木の広葉樹である。材は比較的軽いが耐朽性が良く、切削加工は容易である。

(18)カエデ属 *Acer* カエデ科 PL.82 18a-18c

(No.11)

中型の道管が単独または2個放射方向に複合して疎らに散在する散孔材である。晩材部では道管の径は小さくなる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～3列となる。

カエデ属にはイタヤカエデ、ウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切

削加工はやや困難である。

(19) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 PL.82 19a-19c (No.22)

大型の道管が年輪の始めに1～3列に並び、晩材部では径を減じた道管が1～3列放射方向に複合して配列する環孔材である。軸方向柔細胞は翼状～連合翼状である。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で、1～2列である。

ムクロジは関東、新潟、富山県境以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は中庸ないしやや重硬である。

(20) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 PL.82 20a-20c (No.122)

中型の道管が単独または2～3個複合して密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は単列同性である。

トチノキは分布は北限が北海道南部で、九州まで広く分布するが、東北に多くみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや軽軟で、切削加工は極めて容易である。

(21) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 PL.82 21a-21c (No.17)

中型の道管が2～5個放射方向または塊状に複合し、徐々に小型化する散孔材である。晩材では木部柔組織が接線状となる。道管は10本ほどの階段穿孔を有する。放射組織は異性で1～2列である。

エゴノキ属はエゴノキやハクウンボクがあり、エゴノキは温帯から亜熱帯の低山地、原野に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて韌性があり、切削加工などは容易である。

(22) ハイノキ属サワフタギ節 *Symplocos* sect. *Palura* ハイノキ科 PL.82 22a-22c (No.107)

小型の道管が単独でやや疎らに散在する散孔材である。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性で、1～2列となる。放射組織は多列部と単列部が同じ幅になる。

ハイノキ属サワフタギ節にはサワフタギやタンナサワフタギがあり、サワフタギは北海道、本州、四国、九州に分布し、タンナサワフタギは関東以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で韌性がある。

#### 4. 考察

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った142点の同定の結果では、広葉樹のオニグルミ、クリ、コナラ属アカガシ亜属(以下アカガシ亜属)、コナラ属クヌギ節(以下クヌギ節)、コナラ属コナラ節(以下コナラ節)、ケヤキ、クスノキ、コクサギ、シオジ、単子葉の10分類群が産出し、その他に樹皮と樹種の同定が出来なかった不明が産出した。クヌギ節が最も多く64点で、アカガシ亜属20点、クリ19点、ケヤキ14点、シオジ5点、コナラ節4点、コクサギと樹皮が各3点、オニグルミと単子葉?が各2点、クスノキ1点が産出した。不明は5点であった。上記の結果を含めて、表59に時期別の樹種同定結果を示す。また表64に樹種同定結果一覧を示す。

上記の結果を含めて考察を行う。時期別の木製品の樹種同定結果を表59に、時期別の自然木の樹種同定結果を表61に示した。また、古墳時代中期以前の木製品器種別樹種組成を表62に、中・近世の木製品器種別樹種組成を表63に示した。

#### ・木製品と自然木の比較

古墳時代の木製品には広葉樹が比較的多く利用されていた(針葉樹22%、広葉樹72%、不明6%)が、中世の木製品は針葉樹が比較的多く利用され(針葉樹64%、広葉樹36%)、様相が異なっていた(表60)。

古墳時代の自然木では、クヌギ節が59%と最も多く産出し、その他にアカガシ亜属やモミ属、カエデ属などがみられた(針葉樹7%、広葉樹89%、不明4%)のに対し、中・近世の自然木ではクリが25%、アスナロ、マツ属複雑管束亜属などの針葉樹が33%みられたが、クヌギ節は顕著には確認できず、

Ⅲ 考察並びに自然科学分析

表59 齊田中耕地遺跡遺構別木製品樹種同定結果

樹種/時代	古墳時代		中世	中・近世	不明	合計
	中期以前	後期				
カヤ	5				1	6
イヌガヤ	3					3
ヒノキ			5			5
アスナロ		1	1	4		6
スギ			1	1	1	3
モミ属	11					11
マツ属複雑管束亜属				2		2
ヤナギ属		1				1
オニグルミ				2		2
カバノキ属	1					1
クリ	1			18		19
コナラ属アカガシ亜属	14	1	4		1	20
コナラ属クスギ節	56	6	1	1		64
コナラ属コナラ節	1		2	1		4
ムクノキ	1					1
ケヤキ	11		1	2		14
クワ属	1					1
クスノキ	1					1
ツバキ属	1				1	2
ウツギ属			1			1
バラ属	1					1
サクラ属	4					4
モモ	1					1
ヌルデ				1		1
コクサギ	3					3
カエデ属	7					7
ムクロジ	1					1
トチノキ	1					1
エゴノキ属	1			1		2
ハイノキ属サワフタギ節				1		1
シオジ	5					5
樹皮	3					3
単子葉		1		1		2
不明	2		2	1		5
合計	136	10	18	36	4	204

表61 齊田中耕地遺跡遺構別自然木樹種同定結果

樹種/時代	古墳時代		中世	中・近世	合計
	中期以前	後期			
カヤ	1				1
イヌガヤ	2				2
アスナロ				2	2
モミ属	3				3
マツ属複雑管束亜属				2	2
ヤナギ属		1			1
クリ				3	3
コナラ属アカガシ亜属	6	1	4		11
コナラ属クスギ節	44	6		1	51
コナラ属コナラ節				1	1
ケヤキ	2				2
クワ属	1				1
ウツギ属			1		1
バラ属	1				1
サクラ属	2				2
モモ	1				1
ヌルデ				1	1
コクサギ	2				2
カエデ属	3				3
ムクロジ	1				1
エゴノキ属	1				1
シオジ	1				1
樹皮	2				2
単子葉				1	1
不明	1		2	1	4
合計	74	8	7	12	101

表60 齊田中耕地遺跡遺構別木製品樹種同定結果

樹種/時代	古墳時代		中世	中・近世	不明	合計
	中期以前	後期				
カヤ	3				1	4
イヌガヤ	1					1
ヒノキ			5			5
アスナロ			1	2		3
スギ			1	1	1	3
モミ属	7					7
オニグルミ				2		2
カバノキ属	1					1
クリ	1			15		16
コナラ属アカガシ亜属	8					8
コナラ属クスギ節	10		1			11
コナラ属コナラ節	1		2			3
ムクノキ	1					1
ケヤキ	6		1	2		9
ツバキ属	1				1	2
サクラ属	1					1
コクサギ	1					1
カエデ属	2					2
トチノキ	1					1
エゴノキ属				1		1
ハイノキ属サワフタギ節				1		1
シオジ	3					3
樹皮	1					1
単子葉		1				1
合計	49	1	11	24	3	88

古墳時代と中・近世では自然木の組成が異なっていた（針葉樹33%、広葉樹50%、不明17%）（表61）。

また、古墳時代の木製品と自然木では樹種組成が比較的類似する傾向にあり、中世や中・近世の木製品と自然木の樹種組成はほとんど類似していなかった。

花粉分析の結果では、古墳時代中期と中世の周辺地域にはナラ類（コナラ属コナラ亜属）やカシ類（コナラ属アカガシ亜属）を主要構成要素とする森林が分布する、という結果が得られている（花粉分析の項参照）。古墳時代の自然木ではクスギ節が50点と卓越し、アカガシ亜属は6点であった。中世の自然木では試料7点中アカガシ亜属が4点の産出であった。齊田中耕地遺跡の自然木は周辺植生を反映していると考えられる。

・時期別の木製品の樹種利用

古墳時代中期以前の樹種では、広葉樹を木製品に多く利用する傾向がみられた（表62）。針葉樹の利用が確認できたのは板状に加工された木製品と建築部材、杭の11点で、その他の木製品には広葉樹が利

表62 古墳時代中期以前の器種別樹種組成

樹種/器種	農具類	机の脚か	槽?	板状木製品	棒状木製品	建築部材	杭	楔か	割材	自然木	不明	合計
カヤ							3			1	1	5
イヌガヤ							1			2		3
モミ属				4		1	2			3	1	11
カバノキ属	1											1
クリ				1								1
コナラ属アカガシ亜属	1	1		1	1		3	1		6		14
コナラ属クスギ節	1			6	1	1			1	44	2	56
コナラ属コナラ節	1											1
ムクノキ					1							1
ケヤキ				3	1		2			2	3	11
クワ属										1		1
クスノキ											1	1
ツバキ属					1							1
バラ属										1		1
サクラ属							1			2	1	4
モモ										1		1
コクサギ					1					2		3
カエデ属							2			3	2	7
ムクロジ										1		1
トチノキ							1					1
エゴノキ属										1		1
シオジ					1		2			1	1	5
樹皮			1							2		3
不明										1	1	2
合計	4	1	1	15	7	2	17	1	1	74	13	136

用されていた。

樹種別では自然木にはクスギ節が最も多く産出したが、木製品には板状に加工された木製品で利用される程度で、際立って多く利用される傾向はみられなかった。

表63 中・近世の器種別樹種組成

樹種/器種	杭	自然木	合計
アスナロ	2	2	4
スギ	1		1
マツ属複雑管束亜属		2	2
オニグルミ	2		2
クリ	15	3	18
コナラ属クスギ節		1	1
コナラ属コナラ節		1	1
ケヤキ	2		2
スルデ		1	1
エゴノキ属	1		1
ハイノキ属サワフタギ節	1		1
単子葉		1	1
不明		1	1
合計	24	12	36

農具類には、カバノキ属やアカガシ亜属、クスギ節、コナラ節などの重硬で強靱な材が利用されていた。また古墳時代後期では、22号溝より樹

種不明の単子葉が1点出土した。

中世の井戸からは構築材と木製品が出土した。10号井戸の杭はコナラ節、椀はケヤキで、その他の井戸の構築材では、針葉樹が7点産出した。

中・近世では、杭24点にクリが15点と、多く利用されていることが確認できた(表63)。しかし自然木ではクリは25%と顕著に確認できなかった。クリは重硬で耐朽性が高い木材である。杭としてクリ材を選択して利用していた可能性が考えられる。また古墳時代中期以前と中・近世の杭の樹種を比較すると、古墳時代中期以前では広葉樹、針葉樹共に多く利用している樹種は確認できなかったが、中・近世ではクリの産出が多かった。

関東地方北部で木製品全般に利用される樹種の傾向は、古墳時代ではクスギ節、コナラ節、アカガシ亜属が多く利用され、中世や中・近世ではヒノキやモミ属、マツ属複雑管束亜属などが利用されている(山田, 1993)。齊田中耕地遺跡でも、古墳時代には

Ⅲ 考察並びに自然科学分析

クスギ節、コナラ節、アカガシ亜属が多く利用されていたが、中世、中・近世になると井戸の構築材には針葉樹、杭材にはクリなどの選択性が認められ、遺跡周辺の自然木の樹種構成とは異なる樹種を利用

する傾向が確認できた。

引用文献

山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究 特別第1号, 242p.

表64 齊田中耕地遺跡遺構樹種同定結果一覧

No.	区	遺構名	遺物No.	面	器種名	木取り	樹種名	時代
1	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
2	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
3	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
4	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
5	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
6	ⅡS	1号谷地		⑥	自然木		クスギ節	古墳時代後期
7	Ⅲ	1号橋脚	8	③	自然木		アカガシ亜属	中世
8	Ⅲ	1号橋脚	11	③	自然木		アカガシ亜属	中世
9	Ⅲ	1号橋脚	13	③	自然木		アカガシ亜属	中世
10	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		イスガヤ	古墳時代中期以前
11	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		カエデ属	古墳時代中期以前
12	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		モミ属	古墳時代中期以前
13	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		モモ	古墳時代中期以前
14	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		バラ属	古墳時代中期以前
15	Ⅲ	1.2号河道		⑦	自然木		サクラ属	古墳時代中期以前
16	Ⅲ	1.2号河道		⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
17	Ⅲ	1.2号河道		⑦	自然木		エゴノキ属	古墳時代中期以前
18	Ⅲ	1.2号河道		⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
19	Ⅲ	2号河道		⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
20	Ⅲ	2号河道		⑦	自然木		コクサギ	古墳時代中期以前
21	Ⅲs	3号河道	5	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
22	Ⅲ	3号河道	12	⑦	自然木		ムクロジ	古墳時代中期以前
23	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
24	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
25	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
26	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
27	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
28	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
29	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
30	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
31	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
32	Ⅲ	3号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
33	Ⅲ	4号河道	2	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
34	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
35	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
36	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
37	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
38	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
39	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
40	Ⅲn	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
41	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
42	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節-	古墳時代中期以前
43	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
44	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
45	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
46	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
47	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
48	Ⅲ	5号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
49	Ⅲ	6号井戸		③	自然木		ウツギ属	中世
50	Ⅲ	5号河道	1	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
51	Ⅲ	3号河道	2	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
52	Ⅳ	3号溝	3	②	自然木		コナラ節	中・近世
53	Ⅳ	3号溝	6	②	自然木		ヌルデ	中・近世
54	Ⅳn	3号溝	8	②	自然木		クスギ節	中・近世
55	Ⅳn	3号溝	13	②	自然木		マツ属複雑管束亜属	中・近世
56	Ⅳn	3号溝	20	②	自然木		クリ	中・近世
57	Ⅳn	3号溝	32	②	自然木		アスナロ	中・近世
58	Ⅳn	3号溝	35	②	自然木		クリ	中・近世
59	Ⅳn	3号溝	45	②	自然木		マツ属複雑管束亜属	中・近世
60	Ⅳn	3号溝	47	②	自然木		クリ	中・近世
61	Ⅳn	3号溝	52	②	自然木		不明	中・近世

4 齊田中耕地遺跡出土木材の樹種同定

No.	区	遺構名	遺物No.	面	器種名	木取り	樹種名	時代
62	IVn	4号溝	1	②	自然木		アスナロ	中・近世
63	IV	2号河道	1	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
64	IV	2号河道	12	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
65	IV	2号河道	16	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
66	IV	2号河道	22	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
67	IV	2号河道	26	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
68	IV	2号河道	32	⑦	自然木		カエデ属	古墳時代中期以前
69	IV	2号河道	36	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
70	IV	2号河道	38	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
71	IV	2号河道	47	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
72	IV	2号河道	49	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
73	IV	2号河道	52	⑦	自然木		カエデ属	古墳時代中期以前
74	IV	2号河道	96	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
75	IV	2号河道	97	⑦	自然木		カヤ	古墳時代中期以前
76	IV	2号河道		⑦	自然木		モミ属	古墳時代中期以前
77	IV	2号河道		⑦	自然木		シオジ	古墳時代中期以前
78	III	1号河道		⑦	杭	割	モミ属	古墳時代中期以前
79	III	1.2号河道		⑦	杭	半割	イヌガヤ	古墳時代中期以前
80	III	2号河道		⑦	農具か		カバノキ属	古墳時代中期以前
81	III <sub>s</sub>	3号河道	4	⑦	不明	芯持ち	サクラ属	古墳時代中期以前
82	III <sub>s</sub>	3号河道	4	⑦	不明	榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
83	III <sub>s</sub>	3号河道	10	⑦	丸棒	芯持ち	アカガシ亜属	古墳時代中期以前
84	III <sub>s</sub>	3号河道	6	⑦	建築部材	榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
85	III <sub>s</sub>	3号河道	8	⑦	割材	斜め榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
86	III	3号河道		⑦	丸棒	芯持ち	ツバキ属	古墳時代中期以前
87	III	3号河道		⑦	丸棒	芯持ち	クスギ節	古墳時代中期以前
88	III	3号河道		⑦	厚板	榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
89	III	3号河道		⑦	板	板目	クスギ節	古墳時代中期以前
90	III	2号河道	1	⑦	板	榎目	モミ属	古墳時代中期以前
91	III	1号井戸		③	桶の側板か	榎目	スギ	中世
92	III	3号井戸	8	③	円形木製品	榎目	ヒノキ	中世
93	III	5号井戸		③	円形木製品	榎目	ヒノキ	中世
94	III	10号井戸		③	椀		ケヤキ	中世
95	IV	3号溝	1	②	自然木		不明	中・近世
96	IVn	3号溝	9	②	杭	割	アスナロ	中・近世
97	IVn	3号溝	17	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
98	IVn	3号溝	18	②	杭	芯持ち	不明	中・近世
99	IV	3号溝	26	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
100	IV	3号溝	28	②	杭	芯持ち	不明	中・近世
101	IV	3号溝	29	②	杭	半割	クリ	中・近世
102	IV	3号溝	31	②	杭		クリ	中・近世
103	IVn	3号溝	37	②	杭		スギ	中・近世
104	IV	3号溝	49	②	杭	芯持ち	ケヤキ	中・近世
105	IV	3号溝	55	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
106	IV	3号溝	56	②	杭	半割	アスナロ	中・近世
107	IV	3号溝	57	②	杭	芯持ち	ハイノキ属サワフタギ節	中・近世
108	IV	3号溝	59	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
109	IV	3号溝	60	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
110	IV	3号溝	61	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
111	IV	3号溝	62	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
112	IV	3号溝	63	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
113	IV	3号溝	64	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
114	IV	3号溝	66	②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
115	IV	3号溝	67	②	杭		クリ	中・近世
116	IV	3号溝		②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
117	IV	3号溝		②	杭	芯持ち	クリ	中・近世
118	IV <sub>s</sub>	3号溝		②	杭	芯持ち	ケヤキ	中・近世
119	IV	3号溝		②	杭	芯持ち	エゴノキ属	中・近世
120	IV	2号河道	6	⑦	板	榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
121	IV	2号河道	8	⑦	杭	割	シオジ	古墳時代中期以前
122	IV	2号河道	9	⑦	杭	芯持ち	トチノキ	古墳時代中期以前
123	IV	2号河道	11	⑦	杭	芯持ち	カエデ属	古墳時代中期以前
124	IV	2号河道	13	⑦	不明	割	カヤ	古墳時代中期以前
125	IV	2号河道	14	⑦	二又楸		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
126	IV	2号河道	14	⑦	棒	割	ムクノキ	古墳時代中期以前
127	IV	2号河道	15	⑦	不明	割	不明	古墳時代中期以前
128	IV	2号河道	17	⑦	板	斜め	モミ属	古墳時代中期以前
129	IV	2号河道	18	⑦	板	割(榎目)	クスギ節	古墳時代中期以前
130	IV	2号河道	20	⑦	不明	割	モミ属	古墳時代中期以前
131	IV	2号河道	21	⑦	板	榎目	モミ属	古墳時代中期以前
132	IV	2号河道	22	⑦	杭	芯持ち	カヤ	古墳時代中期以前
133	IV	2号河道	23	⑦	杭	芯持ち	カヤ	古墳時代中期以前

Ⅲ 考察並びに自然科学分析

No.	区	遺構名	遺物No.	面	器種名	木取り	樹種名	時代
134	Ⅳ	2号河道	24	⑦	杭	芯持ち	カヤ	古墳時代中期以前
135	Ⅳ	2号河道	25	⑦	板	榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
136	Ⅳ	2号河道	27	⑦	板	斜め	モミ属	古墳時代中期以前
137	Ⅳ	2号河道	29	⑦	竖杵		コナラ節	古墳時代中期以前
138	Ⅳ	2号河道	30	⑦	角棒	割	ケヤキ	古墳時代中期以前
139	Ⅳ	2号河道	33	⑦	板		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
140	Ⅳ	2号河道	35	⑦	杭	芯持ち	モミ属	古墳時代中期以前
141	Ⅳ	2号河道	39	⑦	組み物部材	榎目	モミ属	古墳時代中期以前
142	Ⅳ	2号河道	42	⑦	自然木		サクラ属	古墳時代中期以前
143	Ⅳ	2号河道	43	⑦	机の脚か	板目	アカガシ亜属	古墳時代中期以前
144	Ⅳ	2号河道	44	⑦	棒	芯持ち	コクサギ	古墳時代中期以前
145	Ⅳ	2号河道	45	⑦	不明	榎目	不明	古墳時代中期以前
146	Ⅳ	2号河道	46	⑦			カエデ属	古墳時代中期以前
147	Ⅳ	2号河道	51	⑦	掘り棒か	斜め榎目	クスギ節	古墳時代中期以前
148	Ⅳ	2号河道	58	⑦	杭	斜め榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
149	Ⅳ	2号河道	59	⑦			ケヤキ	古墳時代中期以前
150	Ⅳ	2号河道	60	⑦	不明	半割	カエデ属	古墳時代中期以前
151	Ⅳ	2号河道	60	⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
152	Ⅳ	2号河道	61	⑦	杭	板目	ケヤキ	古墳時代中期以前
153	Ⅳ	2号河道	75	⑦	杭		カエデ属	古墳時代中期以前
154	Ⅳ	2号河道		⑦	杭	芯持ち	アカガシ亜属	古墳時代中期以前
155	Ⅳ	2号河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
156	Ⅳ	2号河道		⑦	杭	板目	サクラ属	古墳時代中期以前
157	Ⅳ	2号河道		⑦	杭	芯持ち	不明	古墳時代中期以前
158	Ⅳ	2号河道		⑦	杭	半割	アカガシ亜属	古墳時代中期以前
159	Ⅳ	トレンチ		外	組み物部材	斜め	スギ	外
160	Ⅲ	3号井戸	10	③	曲物側板	榎目	アスナロ	中世
161	Ⅲ	1号河道		⑦	楔か	板目	アカガシ亜属	古墳時代中期以前
162	Ⅲ	1号河道		⑦	自然木		モミ属	古墳時代中期以前
163	Ⅲ	1号橋脚	7	③	自然木		アカガシ亜属	中世
164	Ⅳ	22号溝	2	⑥	自然木		ヤナギ属	古墳時代後期
165	Ⅳ	2号河道	7	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
166	Ⅳ	2号河道	28	⑦	自然木		イヌガヤ	古墳時代中期以前
167	Ⅳ	2号河道	31	⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
168	Ⅳ	2号河道	40	⑦	自然木		クワ属	古墳時代中期以前
169	Ⅳ	2号河道	50	⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
170	Ⅳ	2号河道	56	⑦	自然木		コクサギ	古墳時代中期以前
171	Ⅳ	2号河道	69	⑦	自然木		不明	古墳時代中期以前
172	Ⅳ	2号河道	70	⑦	自然木		不明	古墳時代中期以前
173	Ⅳ	22号溝		⑥	加工竹	—	不明	古墳時代後期
174	Ⅳ	22号溝		⑥	自然木		アカガシ亜属	古墳時代後期
175	Ⅳ	22号溝		⑥	不明	榎目	アスナロ	古墳時代後期
176	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		ケヤキ	古墳時代中期以前
177	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
178	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		ケヤキ	古墳時代中期以前
179	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		クスギ節	古墳時代中期以前
180	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		不明	古墳時代中期以前
181	Ⅲ中央	旧河道		⑦	掘り棒か	斜め榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
182	Ⅲ中央	旧河道		⑦	杭	斜め榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
183	Ⅲ中央	旧河道		⑦	板	板目	クスギ節	古墳時代中期以前
184	Ⅲ中央	旧河道		⑦	板	榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
185	Ⅲ中央	旧河道		⑦	不明	斜め榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
186	Ⅲ中央	旧河道		⑦	板	榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
187	Ⅲ中央	旧河道		⑦	加工板	榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
188	Ⅲ中央	旧河道		⑦	不明	榎目	ケヤキ	古墳時代中期以前
189	Ⅲ中央	旧河道		⑦	不明	板目	クスギ節	古墳時代中期以前
190	Ⅲ中央	旧河道		⑦	板	斜め榎目	クリ	古墳時代中期以前
191	Ⅲ中央	旧河道		⑦	不明	板目	ケヤキ	古墳時代中期以前
192	Ⅲ中央	旧河道		⑦	自然木		アカガシ亜属	古墳時代中期以前
193	Ⅲ中央	旧河道		⑦	槽?		不明	古墳時代中期以前
194	不明	不明		外	角棒	榎目	カヤ	外
195	不明	不明		外	不明	板目	アカガシ亜属	外
196	不明	不明		外	ナスビ鍬		ツバキ属	外
197	Ⅲ区	1号井戸	-1	③	板		ヒノキ	中世
198	Ⅲ区	6号井戸	-2	③	角材か		コナラ節	中世
199	Ⅲ区	10号井戸	-	③	杭		コナラ節	中世
200	Ⅲ区	2号橋脚	1	③	自然木		不明	中世
201	Ⅲ区	2号橋脚	2	③	自然木		不明	中世
202	Ⅲ区	8号井戸	-	③	加工版		クスギ節	中世
203	Ⅲ区	8号井戸	-	③	薄板		ヒノキ	中世
204	Ⅲ区	2号井戸	-2	③	側板か		ヒノキ	中世

## 5 土壌分析

本遺跡では株式会社古環境研究所に土壌分析（火山噴出テフラ・プラントオパール・花粉分析）を委託、実施した。遺憾な諸般の事情により当該分析報告書の全文を掲載することはできないため、以下に当該報告書中の分析成果と結論を中心とした箇所を抜粋、掲載することとする。項目番号が連番でないのは原報文をそのまま掲載したためである。

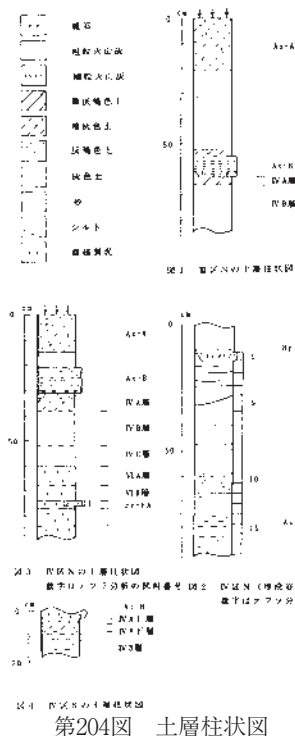
尚、当該分析の報告書「群馬県、斉田中耕地遺跡における自然科学分析」全文は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

### (1) 斉田中耕地遺跡の土層とテフラ

#### 3. テフラ検出分析

##### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表59に示す。IV区N（埋没谷部）では、試料4および試料3に、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石（最大径2.1mm）が少量ずつ含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料1のテフラ層には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径4.0mm）



第204図 土層柱状図

が多く含まれている。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

火山ガラスとしては、試料15に軽石型ガラスが比較的多く認められる。火山ガラスの色調は、無色透明または白色である。試料11や試料9

には、火山ガラスは認められないものの、斜長石が多く含まれて

表65 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
IV区N (埋没谷部)	1	+++	白	4.0	+++	pm	白
	3	+	灰白	2.1	+	pm	灰白
	4	+	灰白	2.1	+	pm	灰白
	5	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	+	pm	透明
	9	-	-	-	-	-	-
	10	-	-	-	-	-	-
	11	-	-	-	-	-	-
	13	-	-	-	+	pm	透明
	15	-	-	-	++	pm	透明, 白
	17	-	-	-	+	pm	透明

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は、mm。bw: バブル型, pm: 軽石型。

いる特徴がある。

#### 4. 屈折率測定

##### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表70に示す。IV区N（埋没谷部）の試料15に含まれる斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.704-1.711で、1.705前後の斜方輝石が多い。また試料11および試料9に含まれる斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、いずれも1.704-1.710であるが、前者では若干ながら1.707-1.710程度の斜方輝石が多い傾向にある。

#### 6. 小結

斉田中耕地遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間大窪沢テフラ群（As-Ok1・Ok2, 約1.6~1.7万年前\*1）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 約1.3~1.4万年前\*1）の再堆積層、浅間C軽石（As-C, 3世紀終末~4世紀初頭）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B, 1108

表66 屈折率測定結果

地点	試料	斜方輝石( $\gamma$ )
IV区N (埋没谷部)	9	1.704-1.710
IV区N (埋没谷部)	11	1.704-1.710
IV区N (埋没谷部)	15	1.704-1.711

温度変化型屈折率測定法(RIMS86)による。



Ⅲ 考察並びに自然科学分析

年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)などのテフラ層やそれらに由来するテフラ粒子を検出できた。本遺跡で検出された疑似畦畔および畦畔については、Hr-FAより上位で、As-Bより下位にあると考えられる。

(2) 齊田中耕地におけるプラント・オパール分析

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表71および第205図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

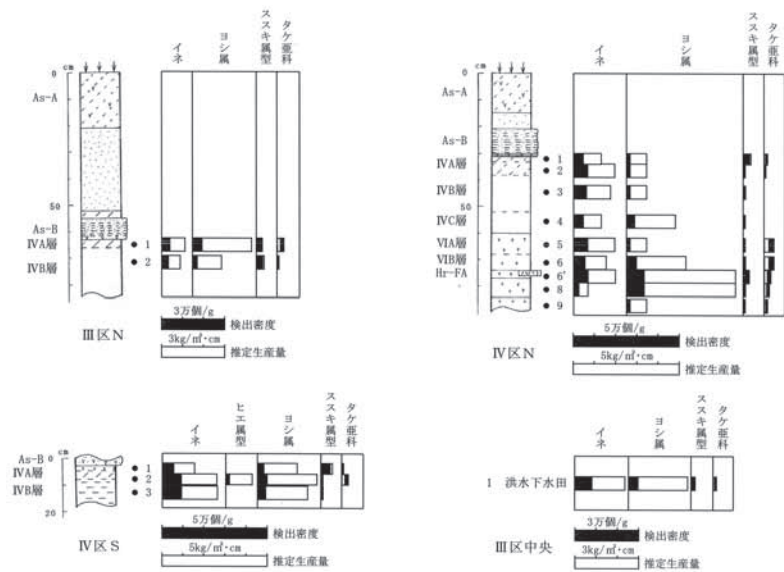
6. まとめ

分析の結果、浅間Bテフラ(As-B,1108年)直下層から榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA,6世紀初頭)混層にかけての各層では、イネのプラント・オパールが多量に検出され、それぞれ稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、Hr-FA直下層でも稲作が行われていた可能性が認められた。

(3) 齊田中耕地における花粉分析

5. 花粉分析から推定される植生と環境

第205図 プラントオパール分析結果



(1) Ⅳ区N

榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA,6世紀初頭)下位の谷埋土の堆積当時は、オモダカ属、ミズアオイ属、カヤツリグサ科、ガマ属-ミクリ属などが生育する水湿地の環境であったと考えられ、周辺では水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺地域にはナラ類(コナラ属コナラ亜属)やカシ類(コナラ属アカガシ亜属)を主要構成要素とする森林が分布していたと考えられ、やや遠方にはスギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹林が分布していたと推定される。

(2) Ⅳ区S

As-B直下層の堆積当時は、ヨモギ属を主としてタデ属サナエタデ節、カヤツリグサ科、イネ科など

表67 プラントオパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		Ⅲ区N		Ⅳ区N (基本土層)									Ⅳ区S			Ⅲ区中央
分類群	学名	1	2	1	2	3	4	5	6	6'	8	9	1	2	3	1
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	38	30	45	67	60	45	67	53	68	23		53	90	91	82
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type													15		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	45	22	15	15	15	37	15	45	83	83	15	30	45	38	45
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	23	30	30	7	8	7	7	8	23	8	7	45	7	8	15
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	30	7	15	7				45	45	30	23	15	8	30	15
推定生産量 (単位: kg/m²·cm)																
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.11	0.88	1.32	1.98	1.77	1.32	1.98	1.55	1.99	0.67		1.56	2.64	2.66	2.42
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type													1.26		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	2.86	1.42	0.95	0.95	0.95	2.36	0.94	2.86	5.22	5.25	0.95	1.91	2.83	2.38	2.83
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.28	0.37	0.37	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.28	0.09	0.09	0.56	0.09	0.09	0.19
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.14	0.04	0.07	0.04				0.22	0.22	0.14	0.11	0.04	0.14		0.07

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

4 齊田中耕地遺跡出土木材の樹種同定

表68 齊田中耕地遺跡における花粉分析結果

分類群	和名	IV区N	IV区S	Ⅲ区11号溝	Ⅲ区12号溝	Ⅲ区9号溝
		埋設谷部	西壁	東壁セクション	東壁セクション	
学名		2	1	1	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉					
<i>Abies</i>	モミ属	4		1	1	
<i>Picea</i>	トウヒ属			1		
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1		1	2	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	3	1	6	1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylois</i>	マツ属単純管束亜属	1				
<i>Corylmopsis japonica</i>	スギ	7	2	11	4	
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ	1				
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科	5		6	4	
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1		2		
<i>Juglans</i>	クルミ属			2		
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	1	1	1		
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	2		5	5	
<i>Betula</i>	カバノキ属	2	1	9	8	
<i>Corylus</i>	ハシバミ属			1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシダ属-アサダ	10	1	6	5	
<i>Castanea crenata</i>	タリ	1	4	14	9	
<i>Castanopsis</i>	シイ属	1	5	3	2	
<i>Fagus</i>	ブナ属	9	3	5	1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	25	35	17	29	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	25	15	13	26	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	2	1	3	2	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		1	3		
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ		3	2	3	
<i>Vitis</i>	ブドウ属	1				
<i>Tilia</i>	シナノキ属	1				
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属			2	1	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					
Moraceae-Urticaceae	タケノコ科-イラクサ科	2		7	6	
Leguminosae	マメ科	1		1		
Araliaceae	ウコギ科			2		
Nonarboreal pollen	草本花粉					
<i>Typha-Spergionium</i>	ガマ属-ミクリ属	10	7	3		
<i>Alisma</i>	サジメモガカ属	1		1		
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	33		1		
Gramineae	イネ科	76	40	104	61	
<i>Oryza tpe</i>	イネ属型	12		58	15	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	97	38	72	25	
<i>Ascleris krusak</i>	イボクサ	1				
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	1		3	1	
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タゲノコ属サナエタゲノコ	4	22	1		
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属			1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アザミ科-ヒコ科	3		6	2	
Caryophyllaceae	ナデシコ科			5	1	
<i>Ranunculus</i>	キンポウゲ属			1		
Cruciferae	アブラナ科	1		11	16	
Apioidae	セリ亜科	6	5	1	1	
Labiatae	シソ科				2	
<i>Plantago</i>	オオバコ属			2		
<i>Actinostemma lobatum</i>	ゴキウソ	1				
Lactucoideae	タンポポ科		2	4	6	
Asteroidae	キク亜科		6	3	6	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	26	120	26	22	
Fern spore	シダ植物胞子					
Monolate type spore	単条線胞子	3	19	5	10	1
Celatopteris	ミズウラボ	1				
Trilate type spore	三条線胞子	1	3	5	1	
Arboreal pollen	樹木花粉	103	73	114	103	0
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	3	0	10	6	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	272	240	303	158	0
Total pollen	花粉総数	378	313	427	267	0
Unknown pollen	未同定花粉	2	12	7	7	0
Fern spore	シダ植物胞子	5	22	10	11	1
Helminth eggs	寄生虫卵					
<i>Trichuris(trichiaria)</i>	鞭虫卵			2		
Total	計	0	0	2	0	0
	明らかな消化残産	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

が生育する日当たりの良い比較的乾燥した人里の環境であったと考えられ、周辺地域にはナラ類やカシ類などを主要構成要素とする森林が分布していたと推定される。

(3) Ⅲ区11号溝・Ⅲ区12号溝

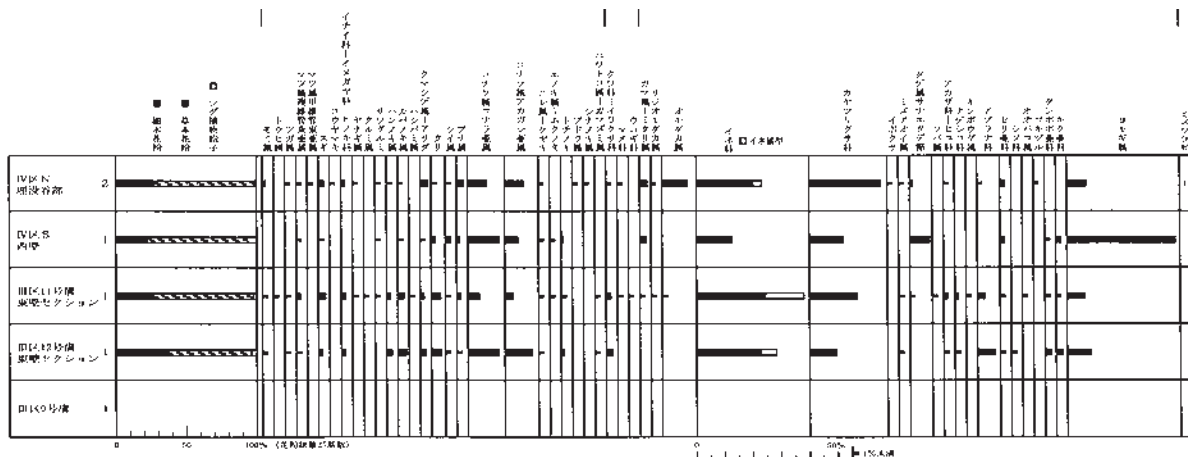
中世とされる溝埋土の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、部分的にソバやアブラナ科の栽培も行われていたと推定される。また、周辺地域にはナラ類やカシ類などを主要構成要素とする森林が分布していたと考えられる。

なお、Ⅲ区11号溝では鞭虫卵が検出された。鞭虫は、中間宿主を必要としない種類であり、虫卵の付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。ここでは密度が低いことから、集落周辺における通常の汚染程度と考えられる。

(4) Ⅲ区9号溝

9世紀とされる溝埋土では、花粉は検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

表69 齊田中耕地遺跡における花粉ダイアグラム



## おわりに

以上のように、斉田中耕地遺跡に於ける発掘調査成果を述べてきた。本遺跡に於いては区によって層位に異同はあるものの、古墳時代前・中期（A.D.4・5c.）、古墳時代後期～平安時代（A.D.6～11c.）、浅間山が大噴火を起こした天仁元年（嘉承3年/A.D.1108）前後の古代末から中世初め、中世、中世～近世中期、浅間山が大噴火を起こした天明3年（A.D.1783）及びそれ以降の都合2～6面の遺構面による発掘調査を実施して、整理段階では更に時代・時期別に分割して8面の遺構面に区分して報告を行ってきたのである。

詳細は繰り返さないが、最下面の8面に於いては旧河道や風倒木痕、7面ではAs-C混土を覆土とする擬似畦畔水田跡、6面では溝やHr-FA下水田址など、5面では大型水路や9世紀末の洪水層で被覆され、多量のヒトの足跡や牛の蹄跡を伴う水田址など、4面ではAs-Bで被覆された水田や溝など、3面では溝や柵列、そして屋敷跡やこれに伴う、堀、掘立柱建物、井戸、土坑やピットなど、2面では溝や土坑、畠など、1面では溝や降下As-A軽石災害からの復旧作業に伴う復旧溝群など、多くの遺構を記録し、これらの遺構に伴う土師器、須恵器、陶磁器の類や、石器、石製品、木製品、金属製品等多くの出土遺物を得たのである。そして、こうした遺構、遺物等の埋蔵文化財を本報告書に記してきたのであるが、遺構記録や出土遺物には元より本報告書には掲載できなかったものもあり、記録保存に資する資料が更に少なくないことを記しておきたい。

さて土壌分析の成果によれば古墳時代本遺跡付近は「ヨシ属などが生育する湿地的な環境」であり、A.D.5世紀の何時頃かに水田耕作が始まり、微高地の部分では畠作が始まり、やがて中世に至って屋敷跡が作られ、また耕地に帰して今日に至ったようである。唯一居住の痕跡が確認された中世屋敷は、土器類の分析から鎌倉時代末から南北朝時代の頃を中心とする時期の所産と判断された。本県ではこの

時期の屋敷の調査例は少なく、近隣では前橋市中内町の中内村前遺跡の3区屋敷（「中内村前遺跡(1)」2003）が知られるだけである。旧那波郡域に於ける2例目の確認例となった本遺跡屋敷跡は、今後、かつては上野守護安達氏家宰の玉村氏の支配地であり、霜月騒動後は得宗領となった当地域の有り様を考えるに重要な遺構になるものと思われる。これも併せて、本書が学術研究、歴史学習に活用されることを祈るものである。

最後になるが、本書刊行までにお世話になった伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会、地元関係者各位に御礼を申し上げたい。また寒冷の発掘現場で奮闘して戴いた発掘作業員各氏、整理作業に尽力戴いた補助員各位に謝意を述べ、更には様々なご教示を賜った各位に感謝して稿を閉じたいと思う。

## 出土遺物観察表

8面

Ⅲ区76号溝・84号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 甕	Ⅲ区76号溝Hr-FA/ 下底部片	底 7.0	細砂粒/良好/橙	胴部・底部ともヘラ削りであるが、単位不鮮明、内面も平滑のため不明。	
2	土師器 甕	Ⅲ区84号溝 底部～脚部片	底 6.8	細砂粒/良好/橙	外面は胴部・脚部ともハケ目。	

Ⅲ区1・2号河道・5号河道・旧河道

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
3	土師器 杯	Ⅲ区1号河道 口縁部片	口 11.8	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ。	4 C.
4	土師器 杯	Ⅲ区1号河道 1/8	口 13.4 高 5.2	細砂粒良好橙	口縁部上位は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。内面口縁部には放射状ヘラ磨き。	内湾口縁 5 C.後半～ 6 C.前半
5	石器 鏃	Ⅲ区1号河道 基部一部欠損	長 3.1 幅 1.5 厚 0.3 重 0.8	石材	比較的丁寧な整形。	
6	木製品 楔か	Ⅲ区1号河道 完形	長 13.8 幅 3.2 厚 1.7	板目	裏は一部薄く削り込まれ、先端をつくり出す。	アカガシ亜属 組み物部材か。
7	木製品 杭	Ⅲ区1号河道 上部欠損	長 31.5 幅 4.5 厚 3.2	割	一方を単純に削る。	モミ属
8	木製品 杭	Ⅲ区1・2号河道 上部欠損	長 39.5 幅 5.0 厚 2.9	半割	一方を単純に削る。	イヌガヤ
21	土師器 杯	Ⅲ区1号河道 1/5	口 12.6 稜 12.0	細砂粒やや軟質に ぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	須恵器杯蓋模 倣
9	木製品 農具か	Ⅲ区2号河道 上下欠損	長 21.0 幅 13.3 厚 1.0	柾目	両面から削り、厚さを調節する。両サイドには面取りを施す。	カバノキ属
10	木製品 板	Ⅲ区2号河道 一部分	長 43.0 幅 6.6 厚 1.5	柾目	明確な加工痕は確認できない。	モミ属
11	木製品 建築部材	Ⅲ区3号河道 上下欠損	長 38.0 幅 6.4 厚 2.0	柾目	表面は、削りで平に調整される。中央にアリ溝状に窪みが施され、そこは摩滅している。敷居か。裏面は剥離している。	クヌギ節
12	木製品 厚板	Ⅲ区3号河道 上下欠損	長 27.1 幅 8.4 厚 4.6	柾目	二箇所に半円形の溝を施し、完全に残存する方ではその中央部に縛痕をもつ。組み物の部材か。	クヌギ節
13	木製品 板	Ⅲ区3号河道 上下欠損	長 7.5 幅 5.7 厚 2.0	板目	残存する端部に調整痕が残る。	クヌギ節
14	木製品 割材	Ⅲ区3号河道 上下欠損	長 32.5 幅 4.8 厚 3.6	斜め柾目	表面を調整している。	クヌギ節
15	木製品 丸棒	Ⅲ区3号河道 上下欠損	径 40×3.0 長 48.0	芯持ち	全面に削りが観察され、3箇所に貫通する孔があように観察できる。縛痕はない。	ツバキ属
16	木製品 丸棒	Ⅲ区3号河道 ほぼ完形	径 4.2×3.9 長 36.4	芯持ち	全面に削りが観察され、両端部を始末している。	クヌギ節
17	木製品 丸棒	Ⅲ区3号河道 ほぼ完形	径 3.5×3.2 長 25.7	芯持ち	全面に削りが観察され、摩滅痕が見受けられる。播り粉木か。	アカガシ亜属
18	木製品 不明	Ⅲ区3号河道 上部欠損	長 11.4 幅 2.0 厚 2.0	芯持ち	表面を丁寧に削る。先端部には使用による潰れがある。組み物部材(杭状)か。	サクラ属
19	木製品 不明	Ⅲ区3号河道 上下欠損	長 8.5 幅 2.7 厚 1.5	柾目	組み物部材(棒状)の剥離したものか。両サイドに調整痕がある。	クヌギ節
20	土師器 杯	Ⅲ区5号河道 口縁部片	口 12.6	細砂粒良好橙	口縁部上位は横ナデ、中位・下位ヘラ削り。	内斜口縁
22	土師器 甕	Ⅲ区5号河道Hr-FA下 口縁部～胴部上位片	口 16.6	細砂粒良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
23	木製品 槽か	Ⅲ区旧河道 破片	長 9.7 幅 4.6 厚 1.9	樹皮か	全面を削り、形を整える。節の部分を利用し、部分的に材に厚みをもたせている。組み物部材か。	(樹皮) 採取 不能

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
24	木製品 掘り棒か	Ⅲ区旧河道 上下欠損	径 5.0×2.2 長 25.0	斜め柀目	背には丁寧な削りが見受けられ、部材を転用したと思われる。先端部には使用による潰れがある。	ケヤキ
25	木製品 組み物か	Ⅲ区旧河道 上部欠損	長 21.3 幅 30.2 厚 1.8	斜め柀目	上部をやや細めに削り込む。組み物部材か。	ケヤキ
26	木製品 加工板	Ⅲ区旧河道 上下欠損	長 5.8 幅 6.5 厚 2.4	柀目	先端部に向けて丁寧な削りを施す。矢板の先端部か。	ケヤキ
27	木製品 板	Ⅲ区旧河道 下部欠損	長 13.6 幅 3.5 厚 1.5	板目	表裏に調整痕があり、一方の端部が炭化している。裏面に僅かに縛痕がある。	クスギ節
28	木製品 板	Ⅲ区旧河道 上下欠損	長 12.5 幅 5.7 厚 2.5	柀目	残存部には調整痕が見受けられ、側面の一部に削りがある。矢板の先端部か。	ケヤキ
29	木製品 板	Ⅲ区旧河道 上下欠損	長 10.7 幅 4.3 厚 1.8	斜め柀目	先端部に向けて丁寧な削りを施す。部材を転用した矢板の先端部か。	クリ
30	木製品 板	Ⅲ区旧河道 上下欠損	長 7.1 幅 7.5 厚 3.0	柀目	端部を削り落とし形を整える。部分的に溝状に削り込む。	ケヤキ
31	木製品 不明	Ⅲ区旧河道 上部欠損	長 10.2 幅 5.2 厚 2.0	斜め柀目	表裏に調整痕がある。	ケヤキ
32	木製品 不明	Ⅲ区旧河道 上部欠損	長 9.8 幅 4.7 厚 1.0	柀目	両脇に縛痕があり、削りにより成形している。掘削具の柄との接合部分か。	ケヤキ
33	木製品 不明	Ⅲ区旧河道 上部欠損	長 9.3 幅 4.7 厚 1.3	板目		ケヤキ
34	木製品 不明	Ⅲ区旧河道 下部欠損	長 6.2 幅 2.8 厚 2.1	板目	表裏に調整痕があり、一方の端部が炭化している。	クスギ節

Ⅳ区1・2・3・4号河道

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
35	土師器 壺	Ⅳ区1号河道Hr-FA 下底部片	底 2.0	細砂粒/良好/橙	底部中央に径10mm、深さ11mmの小孔。外面はヘラ削りだが、摩滅のため単位不明。	埴か。 5 C.
36	土師器 埴	Ⅳ区1号河道 底部～胴部中位	胴 10.4	細砂粒/良好/灰黄	胴部下半は横方向のハケ目、内面はヘラナデ。	5 C.
47	石器 打製石斧	Ⅳ区1号河道 刃部一部欠損	長 14.4 幅 6.5 厚 2.4 重 191.5	石材/珪質頁岩	刃部は使用時に破損か。	
37	土師器 杯	Ⅳ区2号河道As-C 下口縁部片	口 12.8	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ、稜下はヘラ削り。	6 C.
38	土師器 壺	Ⅳ区2号河道底面 口縁部片	口 12.8	粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口唇端部は平坦面をもつ。口縁部横ナデ。	
39	土師器 埴	Ⅳ区2号河道As-C 下口縁部片	残高 5.6	微砂粒/良好/橙	外面はやや斜め方向にヘラ磨き、内面はナデ。	5 C.
40	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道底面 口縁部～胴部上位片	口 15.4	細砂粒/良好/に ぶい黄	口縁部横ナデ、胴部ハケ目、内面胴部はナデ。	4 C.
41	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道底面 口縁部～胴部上位片	残高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部ハケ目、内面胴部はナデ。	4 C.
42	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道As-C 下脚部	底 5.5 脚 8.4	細砂粒/良好/褐 灰	脚部貼付、端部折り返し。上半はハケ目が残る、下半はナデ、内面はナデ。	4 C.
43	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道Hr-FA 下脚部上位片	底 5.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	脚部は貼付。外面はハケ目、内面はナデ。	4 C.
44	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道Hr-FA 下胴部上半片	頸 20.6	細砂粒/良好/灰 黄褐	外面はハケ目、内面はヘラナデ。	4 C.
45	土師器 甗	Ⅳ区2号河道 胴部下半片	底 10.0	粗砂粒・赤褐粒/ 良好/橙	外面は中位は縦方向ヘラ削り、下位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	6 C.
46	石器 鎌	Ⅳ区2号河道 完形	長 2.3 幅 1.4 厚 0.3 重 0.8	石材/	表裏とも丁寧な整形。	
48	石器 石核	Ⅳ区2号河道 完形	長 7.0 幅 7.5 厚 3.0 重 153.9	石材/珪質頁岩	自然面が残る。	
49	木製品 二又鎌	Ⅳ区2号河道 刃部欠損	長 62.4 幅 17.5 厚 2.4	柀目		アカガシ亜属

No PL	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
50	木製品 机の脚か	Ⅳ区2号河道 ほぼ完形	長 9.7 幅 15.2 厚 2.0	板目	全面を丁寧に削り、厚さを調節する。突部が一箇所確認できるが、炭化及び欠損箇所について詳細については不明な点が多い。	アカガシ亜属
51	木製品 組み物部材	Ⅳ区2号河道 上下欠損	長 22.2 幅 2.2 厚 3.2	柾目	削り出しでひさし部分をつくり出す。裏面にはアリ溝状に窪みがある。	モミ属
52	木製品 竪杵	Ⅳ区2号河道 1/2欠損	径 10.3×10.2 長 63.9	割		コナラ節
53	木製品 掘り棒か	Ⅳ区2号河道 ほぼ完形	径 4.1×2.3 長 37.5	斜め柾目	極めて樹皮に近い部分の辺材を使用し、先端を削り出す。	クヌギ節
54	木製品 板	Ⅳ区2号河道 端部欠損	長 47.5 幅 8.6 厚 3.4	柾目	両サイドからの削り込みが見られる。	モミ属
55	木製品 板	Ⅳ区2号河道 上部欠損	長 39.8 幅 7.0 厚 3.5	斜め	表裏から削り、先端部を鋭角に形成する。	モミ属
56	木製品 板	Ⅳ区2号河道 上下欠損	長 27.5 幅 5.5 厚 3.2	割	表裏に削りあり。	クヌギ節
57	木製品 板	Ⅳ区2号河道 上下欠損	長 22.0 幅 5.5 厚 0.7	板目	鋸の欠損品か。	アカガシ亜属
58	木製品 板	Ⅳ区2号河道 上下欠損	長 18.2 幅 10.3 厚 1.8	柾目	わずかにかまぼこ形をなす。	クヌギ節
59	木製品 板	Ⅳ区2号河道 端部欠損	長 18.1 幅 3.2 厚 1.5	斜め	一方の端部が削り込まれる。	モミ属
60	木製品 棒	Ⅳ区2号河道 上下欠損	長 35.2 幅 3.0 厚 2.0	芯持ち		コクサギ
61	木製品 棒	Ⅳ区2号河道 上下欠損	径 3.1×1.6 長 22.5	割	両側を削りで調整する？年輪密。	ムクノキ
62	木製品 角棒	Ⅳ区2号河道 端部欠損	径 2.3×2.2 長 23.5	割	先端を一方から削り落とす。	シオジ節
63	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 5.0×5.0 長 136.0	上部欠損	6方向から綿密に削り、先端を尖らせる。	モミ属
64	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上下欠損	径 4.0×4.0 長 73.2	芯持ち	多方向から綿密に削り、先端を尖らせる。	カヤ
65	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 5.8×5.6 長 60.8	上部欠損	6方向から綿密に削り、先端を尖らせる。	カヤ
66	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 5.8×4.5 長 57.3	上部欠損	多方向から綿密に削り、先端を尖らせる。	カヤ
67	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 8.0×4.2 長 48.0	斜め柾目	極めて樹皮に近い部分の辺材を使用し、先端を削り出す。	シオジ節
68	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 6.8×5.0 長 45.3	板目	丸棒の4面を削る。	サクラ属
69	木製品 板	Ⅳ区2号河道 上下欠損	径 4.0×1.8 長 44.0	柾目	表裏に綿密な削りあり。	クヌギ節
70	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 3.9×3.8 長 27.5	上部欠損	建築部材を転用したか。	アカガシ亜属
71	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 6.2×6.0 長 27.0	上部欠損	大きく4方向から削り、5方向めで形を整える。	カエデ属
72	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 5.5×5.5 長 25.4	上部欠損	先端部を5面で形成する。杭先は、使用により潰れている。裏は、芯が剥離する。	カエデ属
73	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 6.8×3.5 長 23.5	半割	表面の摩滅が激しいが、孔が2箇所あり、その間に縛痕がある。	アカガシ亜属
74	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 5.5×4.4 長 22.8	斜め柾目	先端を丁寧に削り出す。杭先は使用により潰れている。	シオジ節
75	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上下欠損	径 3.4×3.1 長 19.5	芯持ち	表面は丁寧に皮むきされている。杭パターン建築部材の転用か。	アカガシ亜属
76	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 4.7×2.5 長 18.4	板目	杭先は使用による潰れあり。角棒の両脇を削った転用杭。	ケヤキ
77	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 上部欠損	径 5.3×4.5 長 17.6	割	3片接合。3方向から削る。	シオジ節
78	木製品 杭	Ⅳ区2号河道 芯持ち	径 4.2×3.9 長 12.0	上部欠損	裏面欠損。	トチノキ

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
79	木製品 杭か	Ⅳ区2号河道 半割	径 5.3×3.8 長 29.8	下部欠損	杭か	カエデ属
80	木製品 不明	Ⅳ区2号河道 柱目	長 12.7 幅 2.5 厚 1.5	上部欠損	表面や両側を削り、形を整える。先端を細く削り出す。組み物部材か。	クスノキ
81	木製品 不明	Ⅳ区2号河道 割	長 44.0 幅 3.0 厚 1.7	上下欠損	劣化激しく、観察は不可。	モミ属
82	木製品 不明	Ⅳ区2号河道 割	長 35.0 幅 4.8 厚 3.6	上下欠損	孔を有す？	同定不可
83	木製品 不明	Ⅳ区2号河道 割	長 32.0 幅 3.0 厚 2.3	上下欠損	顕著な加工痕なし。	カヤ
84	木製品 不明	Ⅳ区2号河道 半割	長 14.3 幅 4.5 厚 1.8	上部欠損	表面丁寧に削る。先端部は鋭角に作り出され、潰れはない。組み物部材(杭状)か。	カエデ属
85	土師器 台付甕	Ⅳ区2号河道底面 口縁部片	口 18.4	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部横ナデ。	
86	土師器 杯	Ⅳ区4号河道 2/3	口 12.6 高 5.3	粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	須恵器杯蓋模倣
87	土師器 杯	Ⅳ区4号河道 2/3	口 12.6 高 5.8	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	内斜口縁
88	土師器 杯	Ⅳ区4号河道 口縁部小片	口 12.2	粗砂粒/良好/に ぶい褐	内面黒色処理。口縁部上位横ナデ、中位から底部ヘラ削り。内面放射状ヘラ磨き。	

6面

Ⅲ区49号溝・61号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
89	土師器 高杯	Ⅲ区49号溝 脚部片	残高 3.5	細砂粒/良好/明赤 褐	整形は器面摩滅のため不明。	5 C.~6 C.
90	土師器 甕	Ⅲ区61号溝 口縁部~胴部中位片	口 13.2	細砂粒/やや軟質/ 淡黄	口縁部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	5 C.~6 C.

Ⅳ区22号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
91	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 1/4	口 15.0 稜 13.2	細砂粒/やや軟質/ 橙	口唇端部に平坦面をもつ。口縁部は横ナデ、稜下はヘラ削り。	須恵器杯蓋模倣 6 C.前半
92	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 1/6	口 10.8 底 6.6 高 2.8	細砂粒/良好/明 褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	8 C.後半~
93	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 1/6	口 10.9 底 8.6	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	8 C.後半~
94	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 1/6	口 10.8 底 8.0	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	8 C.後半~
95	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 口縁部小片	口 13.4	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上位は横ナデ、中位はヘラ削り。	内湾口縁 5 C.~6 C.
96	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 完形	口 12.6 高 4.0 稜 10.6	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	7 C.前半
97	土師器 杯	Ⅳ区22号溝 完形	口 13.1 高 4.2 稜 11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部の外面中位と内面端部に凹線巡る。口縁部は横ナデ、稜下から底部ヘラ削り。	7 C.前半
98	土師器 壺	Ⅳ区22号溝 口縁部~胴部上半片	口 15.0	粗砂粒(φ 1~5 mm)/良好/橙	口縁部中位に幅 8 mm前後の凹線が巡る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面胴部ヘラナデ。	5 C.~6 C.
99	木製品 不明	Ⅳ区22号溝 上部欠損	長 8.5 幅 1.5 厚 0.5	柱目	割材を加工し、一方を削り込む。身の部分か。	アスナロ
100	竹製品 加工竹	Ⅳ区22号溝 一部分	長 5.7 幅 1.8 厚 0.2		丁寧に調整し、形を作り出す。編み具か。	同定不可
101	種子	Ⅳ区22号溝			スモモ核が1点。	スモモ
102	土師器 高杯	Ⅳ区22号溝 脚部片	残高 7.4	粗砂粒(φ 1~5 mm)/良好/明 赤褐	外面ヘラナデ、内面ナデ。	5 C.~6 C.

Ⅱ区16土坑

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
506	石器 鏃	Ⅱ区16号土坑 完形	長 3.0 1.9 重 厚 0.42	石材/珪質変質岩	無茎鏃。二等辺三角形を呈し、表裏よりの剥離調整。	

Ⅲ区35号土坑・36号土坑

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
103	土師器 甕	Ⅲ区35号土坑 口縁部～胴部上位片	口 18.6	細砂粒/良好/褐 灰	口縁部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	104と同一個体、接点無し。6 C.
104	土師器 甕	Ⅲ区35号土坑 底部～胴部上位	底 6.4	細砂粒/良好/褐 灰	胴部は縦方向ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面はヘラナデ。	103と同一個体、接点無し。6 C.
105	土師器 甕	Ⅲ区36号土坑 口縁部～胴部上位片	口 22.0	細砂粒/良好/明 褐灰	口縁部横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	6 C.

5面

Ⅲ区Hr-FA層下水田

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
106	土師器 甕	Ⅲ区Hr-FA層下水田 口縁部～胴部下位片	口 13.4	粗砂粒/良好/褐灰	口縁部横ナデ、胴部は上位がナデ、中位から下位は縦方向、底部付近は横方向のヘラ削り。	6 C.前半

Ⅲ区47溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
107	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/6	口 11.0 底 8.0 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
108	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/3	口 11.0 底 8.0 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
109	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 ほぼ完形	口 11.3 底 7.7 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半は指頭痕が残るナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
110	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 完形	口 11.3 底 8.3 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	内面に漆付着。 9 C.
111	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 11.7 底 8.8 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
112	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 11.7 底 9.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
113	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 5/6	口 11.8 底 8.0 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
114	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/8	口 11.8 底 8.6 高 2.8	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
115	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 11.8 底 8.4 高 2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
116	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 2/3	口 11.8 底 7.2 高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
117	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 11.8 底 7.8 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
118	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/5	口 11.8 底 7.0 高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
119	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 ほぼ完形	口 11.8 底 8.5 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
120	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/6	口 11.8 底 8.5 高 3.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
121	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 2/3	口 12.0 底 9.3 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
122	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 4/5	口 12.0 底 8.2 高 3.1	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部は周辺部がヘラ削り。	9 C.
123	土師器 杯	Ⅲ区47号溝 1/3	口 12.0 底 8.5 高 3.2	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.



No PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
124	土師器杯	Ⅲ区47号溝 完形	口 12.2 底 7.6 高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
125	土師器杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 12.2 底 8.0 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
126	土師器杯	Ⅲ区47号溝 3/4	口 12.2 底 8.2 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
127	土師器杯	Ⅲ区47号溝 1/2	口 12.2 底 8.2 高 2.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
128	土師器杯	Ⅲ区47号溝 2/3	口 12.4 底 8.5 高 3.4	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
129	土師器杯	Ⅲ区47号溝 口縁部片	口 13.0 底 10.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部は周辺部がヘラ削り。	9 C.
130	土師器杯	Ⅲ区47号溝 口縁部片	口 13.8 底 10.0	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部は周辺部がヘラ削り。	口縁部歪み大、 口径残部で測 る。9 C.
244	土師器杯	Ⅲ区47号溝 1/4	口 13.2 底 10.0 高 2.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.前半
131	須恵器杯	Ⅲ区47号溝 1/3	口 12.2 底 7.0 高 4.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	8 C.後半～ 9 C.前半
132	須恵器椀	Ⅲ区47号溝 底部	底 5.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	9 C.後半
133	須恵器椀	Ⅲ区47号溝 底部片	底 6.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	9 C.後半
134	須恵器椀	Ⅲ区47号溝 ほぼ完形	口 15.2 底 7.6 高 6.7	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	9 C.後半
135	須恵器椀	Ⅲ区47号溝 底部～口縁部下位	底 7.8	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	9 C.後半
136	須恵器 広口壺	Ⅲ区47号溝 口縁部片	口 17.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	9 C.
137	須恵器 長頸壺	Ⅲ区47号溝 胴部片	残存 10.4×11.0 厚 0.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	9 C.
138	石器 槍	Ⅲ区47号溝 両端部欠損	長 3.9 幅 1.2 厚 0.4 重 2.4	石材/黒曜石	表裏とも丁寧な整形。	
139	石製品 用途不明	Ⅲ区47号溝 1/4	径 13.6×13.6 厚 0.6	石材/榛名二ツ岳 軽石	表面は球面状に擦り磨かれている。	
140	金属製品 鉄板	Ⅲ区47号溝上層 破片	長 14.1 幅 1.9 厚 0.3	鉄	途中で曲がり、端部は折り返し。剥離状態から推して鍛冶製品と見られる。	錆に磁器付 着。上位の流 入品
141	金属製品 角釘	Ⅲ区47号溝 両側欠損	径 0.6×0.5 長(5.2)	鉄	細身。横断面方形。	上位層からの 流入か
142	金属製品 角釘	Ⅲ区47号溝上層 両側欠損	径 0.8×0.8 長(4.9)	鉄	尖端側破片。横断面方形。	上位層からの 流入か

#### Ⅳ区20号溝

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
143	土師器杯	Ⅳ区20号溝As-C混 下1/4	口 12.8 高 5.6 稜 12.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ削りであるが、摩滅のため単位不鮮明。	6 C.
144	土師器杯	Ⅳ区20号溝 2/3	口 14.6 底 8.6 高 5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部ヘラ削り、内面は口縁部上半螺旋状、下半斜放射状、底部螺旋状の暗文が施される。	8 C.前半
145	土師器杯	Ⅳ区20号溝 1/3	口 10.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削りであるが、摩滅のため単位不明。	
146	土師器杯	Ⅳ区20号溝 口縁部片	口 11.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.前半
147	土師器杯	Ⅳ区20号溝 完形	口 12.5 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	8 C.後半
148	土師器杯	Ⅳ区20号溝 口縁部片	口 13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.前半
149	土師器杯	Ⅳ区20号溝 ほぼ完形	口 12.8 底 10.0 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	8 C.後半

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
150	土師器 杯	Ⅳ区20号溝 1/3	口 12.4 底 8.4 高 3.1	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.後半
151	土師器 杯	Ⅳ区20号溝 1/6	口 13.2 底 8.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り、内面は口縁部に斜放射状暗文が施されている。	9 C.前半
152	土師器 杯	Ⅳ区20号溝 ほぼ完形	口 11.7 底 8.7 高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部に歪みあり。口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.後半
153	土師器 杯	Ⅳ区20号溝 口縁部片	口 13.8 底 6.6 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.後半
154	土師器 杯	Ⅳ区20号溝 口縁部片	口 11.8 底 5.2 高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.後半
155	土師器 甕	Ⅳ区20号溝 口縁部片	口 18.6	細砂粒/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。	6 C.ごろ

Ⅱ区・Ⅳ区洪水層下水田

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
156	土師器 杯	Ⅱ区洪水層下水田 口縁部の1/3欠	口 13.0 高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部上位は横ナデ、中位にナデ部分が残る、下位から底部はヘラ削り。	8 C.中
157	土師器 杯	Ⅱ区洪水層下水田 完形	口 12.0 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位にナデ部分が残る、下位から底部はヘラ削り。	8 C.中
158	石器 鏃	Ⅳ区洪水層下水田 先端部・基部欠損	長 3.3 幅 1.6 厚 0.4 重 1.4	石材/	表裏は若干の摩滅が見られる。	
159	石器 鏃	Ⅳ区洪水層下水田 先端部・基部欠損	長 2.4 幅 2.4 厚 0.5 重 1.2	石材/黒曜石	刃部はやや雑な整形。	
160	石器 鏃	Ⅳ区洪水層下水田 先端部・基部欠損	長 1.8 幅 1.5 厚 0.4 重 0.7	石材/黒曜石	比較的丁寧な整形。	

4面

Ⅱ区5・6・9号土坑

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
175	天目 茶碗	Ⅱ区5号土坑1層 口縁～体部片	径 残高 5.2	細砂粒/還元焰/ 黒色	ロクロ整形。内外面施釉。	
176	軟質陶器 甕	Ⅱ区6号土坑 口縁部～胴部上位片	口 48.8	細砂粒/還元焰/ 灰	段面に輪積み痕がみられる。ロクロ整形。	
177	軟質陶器 甕	Ⅱ区9号土坑 胴部小片	残存 13.6×5.4 厚 1.2	細砂粒/還元焰/ 灰	外面に叩き痕、内面にアテ具痕が残る。	

AS-B層下水田

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
178	土師器 杯	Ⅰ区As-B層下水田 1/5	口 11.8 底 8.6 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
179	須恵器 杯	Ⅰ区Ⅳ層 底部片	底 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	9 C.
180	須恵器 椀	Ⅰ区41-R13Ⅳ層 底部片	底 6.8	細砂粒/還元焰燻 し/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	9 C.

## I区8・9・13・14・15・16号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
181	土師器 杯	I区8号溝 1/8	口 13.8	細砂粒／良好／ にぶい褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
182	土師器 甕	I区8号溝 口縁下半～胴上位片	頸 11.2	粗砂粒／やや軟質 ／にぶい黄	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。	6 C.か
183	軟質陶器 鉢	I区8号溝 底部片	底 18.0	細砂粒／還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は周辺部回転ヘラ削り。体部も回転ヘラ削り。	14 C.中頃～ 15 C.前半
184	軟質陶器 甕	I区8号溝 胴部片	残存 9.7×7.6 厚 1.2	細砂粒／還元焰/ 灰白	外面に格子目状叩き痕が残る、内面はヘラナデ。	
185	軟質陶器 焙烙	I区8号溝 口縁部片	口 46.4 底 46.0 高 5.9	細砂粒／酸化焰/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、最下部にヘラ削り痕が残る、底部は砂底。	
186	青磁 碗	I区8号溝 口縁部下位	残存 4.4×3.4 厚 0.8	夾雑物無／還元焰/ 灰オリーブ	外面に連弁文。釉薬は厚く施釉されている。	龍泉窯系、 13 C. 後半～ 14 C. 前半
187	石製品 板碑	I区8号溝 主導部下部片	残存 10.1×15.7 厚 2.2	石材／緑色片岩	浅い葉研彫りの阿弥陀如来(キリーク)と葉研彫りの蓮座の一部が残る。裏面は斜め方向の板状整形痕が数条みとめられるが、表裏とも風化による摩滅が激しい。	
188	骨 馬歯	I区8号溝		上顎臼歯	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
189	骨 馬歯	I区8号溝		下顎臼歯	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
190	灰釉陶器 椀	I区9号溝 底部片	底 9.2	微砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期 9 C.後半
191	軟質陶器 鉢	I区9号溝 口縁部片	口 20.6	細砂粒／酸化焰/ 黄褐	ロクロ整形。外面はナデ。	
192	軟質陶器 甕	I区9号溝 底部片	底 10.0	粗砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	
193	軟質陶器 甕	I区9号溝 底部片	底 12.0	粗砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。	
194	青磁 碗	I区9号溝 体部片	残存 4.1×3.4 厚 0.4	細砂粒／還元焰/ 灰オリーブ色	ロクロ整形、回転方向不明。外面に連弁文。	龍泉窯系 13 C.後半～ 14 C.前半
195	古瀬戸 卸目皿	I区9号溝 底部	底径 残高 1.8	細砂粒／還元焰/ 灰オリーブ色	高台欠損。内外面緑釉。底面見込み目卸目。	
197	軟質陶器 内耳鍋	I区13号溝 頸部	残存 7.3×5.3 厚 0.8	粗砂粒／酸化焰/ 灰褐色	外面やや吸炭。内外面撫で。耳付く。	15 C.中頃か
509	軟質陶器 播鉢	I区13号溝 体部片	残存 9.8×7.7 厚 1.4	細砂粒／酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、外面はヘラナデ、内面に6条の櫛描き。	
198	骨 馬歯	I区13号溝		下顎臼歯	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
199	骨 不明骨	I区13号溝		部位等不詳	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
200	石製品 板碑	I区14号溝 側端部片	残存 5.2×8.9 厚 1.3	石材／緑色片岩	枠線の一部が残る。枠線の太さと端部からの間隔より中型板碑と推察される。	
202	須恵器 椀	I区15号溝 底部片	長 (4.2) 底 7.0	細砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ナデ、高台は貼付。	9 C.
203	土師器 甕	I区15号溝 底部片	底 8.0	細砂粒／良好／ にぶい褐	胴部・底部ともヘラ削りであるが、単位は摩滅のため不明。	古墳時代後半 か
204	軟質陶器 瓶	I区15号溝 底部片	底 13.6	粗砂粒／還元焰/ 灰白	胴部下位はヘラ削り、高台は貼付。	
205	須恵器 杯	I区16号溝 底部片	底 7.0	細砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
206	石器 鏃	I区16号溝 完形	長 2.5 幅 1.7 厚 0.6 重 0.6	石材/	表裏とも丁寧な整形。	
505	石器 鏃	I区16号溝 片脚部か	長 1.7 幅 1.0 厚 0.26 重	石材/チャート	脚の長い脚部片か。表裏より剥離調整。	
207	骨 馬歯か	I区16号溝		下顎骨	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
208	骨 馬歯	I区16号溝		下顎臼歯	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	

Ⅱ区3・5・8号溝

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
209	軟質陶器 鉢	Ⅱ区3号溝 口縁部片	口 29.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。内面は使用によつて研磨されている。	14世紀中頃
210	須恵器 椀	Ⅱ区5号溝 底部	底 8.8	細砂粒/還元焰/ 灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	9 C.
211	軟質陶器 鉢	Ⅱ区5号溝 口縁部片	口 25.4	細砂粒/酸化焰/ におい褐	ロクロ整形、回転方向不明。	14世紀後半
212	軟質陶器 擂鉢	Ⅱ区5号溝 体部下位片	底 12.0	細砂粒/酸化焰/ におい黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ヘラ削り、内面に7条の凹線。	15世紀後半以降
213	軟質陶器 甕	Ⅱ区5号溝 底部～脚部下位片	底 14.6	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付、胴部下位は横方向のヘラ削り。	
214	陶器 卸皿	Ⅱ区5号溝 底部片	残存 3.5×3.5 厚 1.2	夾雑物無/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り、内面に直線と半円状の沈線で凹凸作る。	
410	石製品 凹石	Ⅱ区5号溝 1/2	径 10.4 厚 2.5 重		表裏に径2.0、深さ0.5・0.8の孔。表裏はよく研磨されている。	
215	銭貨 不明	Ⅱ区5号溝 一部欠損	径 2.85×2.84 厚 0.125	銅銭	銭種判別不能。鋳欠けあり。表面郭一部欠け。裏面平ら。	模鑄銭
216	骨 馬歯	Ⅱ区5号溝		2点、歯種不明	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	No.8・9
217	土師器 杯	Ⅱ区8号溝 1/8	口 12.8 底 9.0 高 3.3	細砂粒/良好/ におい褐	口縁部は上位が横ナデ、中位がナデ、下位と底部はヘラ削り。	9 C.前半
218	土師器 杯	Ⅱ区8号溝 1/5	口 11.4 底 9.5 高 3.0	細砂粒/良好/褐	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.前半
219	須恵器 高杯か	Ⅱ区8号溝 杯身片	口 10.6	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転方向不明。	6 C.
220	須恵器 椀	Ⅱ区8号溝 口縁部片	口 10.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。	9 C.後半
221	須恵器 椀	Ⅱ区8号溝 口縁部片	口 13.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。	9 C.
222	須恵器 椀	Ⅱ区8号溝 底部～口縁部下半片	底 6.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
223	須恵器 椀	Ⅱ区8号溝 底部	底 5.6	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	9 C.後半

Ⅲ区11・12・14・18・21・22・28・33・34・37号溝

No PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
224	軟質陶器 片口鉢	Ⅲ区11号溝 口縁部片	口 25.4	細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部に注口を設けている。	
225	軟質陶器 内耳鍋	Ⅲ区11号溝 体部片	残存 4.5×6.2 厚 1.0	粗砂粒/酸化焰/ 灰色	内外面横ナデで吸炭による黒色処理。	14C.か
226	軟質陶器 鉢	Ⅲ区11号溝 口縁片	残存 3.1×6.9 厚 1.2	粗砂粒/酸化焰/ 灰赤色	外面中心に還元。内外面横ナデ。弱い磨耗面残る。口端部上向きで尖る。	14C.中頃
227	焼締陶器 鉢	Ⅲ区11号溝 口縁片	残存 7.2×6.0 厚 1.3	粗砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。磨耗面残る。口端部上向きで尖る。	14C.前半
228	焼締陶器 鉢	Ⅲ区11号溝 体部片	残存 7.3×4.4 厚 1.2	粗砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。内面強い磨耗により研磨面形成。	14C.中～15C.前半
328	軟質陶器 火鉢	Ⅲ区11号溝 口縁部片	残存 11.5×5.4 厚 1.6	微砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。口縁部に菊花文が押印。	近世

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
230	石製品 砥石	Ⅲ区11号溝 一部片	長 4.3 幅 3.2 厚 2.3 重	石材/砥沢石	残存部はよく使い込まれている。	
231	種子	Ⅲ区11号溝			モモ核8点、スモモ核1点。	モモ、スモモ
161 ~ 164	骨 馬歯	Ⅲ区11号溝		161:下顎臼歯 162:上顎右第1大白歯 163:前歯 164:下顎臼歯	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
232	須恵器 碗	Ⅲ区12号溝 口縁部片	口 13.8	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。	下面からの混 入品。9C.
233	軟質陶器 甕	Ⅲ区12号溝 口縁部小片	口 26.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面に降灰が付 着。	
234	軟質陶器 片口鉢	Ⅲ区12号溝 口縁部片	口 28.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部に注口を設 けている。	
235	軟質陶器 鉢	Ⅲ区12号溝 口縁片	残存 7.7×8.6 厚 1.1	細砂粒/酸化焰/ 黄灰色	外面吸炭による黒色処理。内外面横ナデ。磨耗 痕残る。口端部上向きで尖る。	14C.後半
236	陶器 皿	Ⅲ区12号溝 口縁部片	口 15.6	夾雑物無/還元焰/ 灰オリーブ	ロクロ整形、外面褐色釉、内面緑灰色釉が施 釉。	混入品。近世
196	鉄製品 不明	Ⅲ区12号溝 破片	長 4.1 幅 2.6 厚 1.0	鉄	309の上側に相当する破片か。横断面形はへ字 状に屈曲する。	Ⅲ区119号 ビット-309 に似る。
201	鉄製品 釘	Ⅲ区14号溝 先端側欠損	径 0.6×0.6 幅	鉄	角釘か、丸釘か判別付かず。頭部平頭。	混入品の可 能性あり。
229	石製品 砥石	Ⅲ区18号溝 上部欠損	長 7.7 幅 3.3 厚 2.3 重	石材/砥沢石	欠損部、下端部を除きよく使い込まれている。	
165 ~ 173	骨 馬歯	Ⅲ区12号溝		165:上顎左第2小臼歯 166:上顎左第3大白歯 167:上顎左第3小臼歯 170:下顎臼歯 172:四肢骨 不明168・169・171・ 173	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	
237	軟質陶器 甕	Ⅲ区18号溝 底部~胴部下位片	底 15.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切 り、周辺部はヘラナデ。	
238	軟質陶器 内耳鍋	Ⅲ区18号溝 腰部	残存 6.3×4.1 厚 0.9	粗砂粒/酸化焰/ 黄灰色	表裏面吸炭処理。内外面指撫で。やや肉厚。	14C.後半か
239	軟質陶器 内耳鍋	Ⅲ区18号溝 底部	残存 7.2×6.2 厚 0.25	粗砂粒/酸化焰/ 灰黄色	表裏面吸炭処理。腰部内外面指撫で。底面回し 乍の指撫で。肉厚。	14C.後半か
501	軟質陶器 鉢	Ⅲ区18号溝 口縁片	残存 7.9×6.2 厚 1.2	細砂粒/還元焰/ 灰	外面吸炭による黒色処理。内外面横ナデ。磨耗 痕残る。口縁平らで口端部内向きで尖る。	15C.前半
240	石製品 砥石	Ⅲ区18号溝 上部・下部欠損	長 6.0 幅 2.9 厚 2.8 重	石材/砥沢石	欠損部を除きよく使い込まれている。	
241	銭貨 皇宋通寶	Ⅲ区18号溝 完形	径 2.44×2.42 厚 0.13	銅銭	裏面やや平ら。	模鑄銭
242	青磁 碗	Ⅲ区21号溝 口縁部片	口 17.6	細砂粒/還元焰/ オリーブ灰	ロクロ整形、口縁部には輪花文。	龍泉窯系、13 C. 後半~14 C. 前半
243	陶器 鉢	Ⅲ区21号溝 口縁片	残存 10.2×8.0 厚 1.0	粗砂粒/酸化焰/ 橙色	内外面横ナデ。磨耗痕残る。口端部平らで、弱 い凹線巡る。卸目見られず。	15C.前半
244	灰釉陶器 小碗	Ⅲ区22号溝 口縁部片	口 9.8	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛 けか。	下面の混入 品。大原2 号窯式期
245	石製品 砥石	Ⅲ区28号溝 上部欠損	長 7.0 幅 4.4 厚 2.6 重	石材/砥沢石	欠損部を除きよく使い込まれている。	
246	軟質陶器 鉢	Ⅲ区33号溝 口縁片	残存 4.3×4.7 厚 1.1	粗砂粒/酸化焰/ 灰色	表裏面吸炭処理。片口に周辺に指頭痕。内外面 横ナデ。口端にぶい尖り内向き。	14C.後半
247	石製品 砥石	Ⅲ区33号溝 上部・下部欠損	長 6.7 幅 2.8 厚 2.1 重	石材/砥沢石	欠損部を除きよく使い込まれている。	
248	種子	Ⅲ区33号溝			モモ炭化核1点。	モモ
249	種子	Ⅲ区33号溝				
250	軟質陶器 鉢	Ⅲ区34号溝 口縁片	残存 5.6×6.5 厚 1.1	細砂粒/酸化焰/ 灰色	内外面横ナデ。片口に指頭痕。口端にぶく尖り 内向き。磨耗痕残る。	14世紀後半
251	種子	Ⅲ区34号溝			ウメ核1点。	ウメ
252	種子	Ⅲ区34号溝				
253	骨 火葬骨か	Ⅲ区37号溝		種類・部位等不詳	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	

Ⅲ区1・2号橋脚

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
254	木製品 橋脚か	Ⅲ区1号橋脚 部分				アカガシ属 自然木の可能性
255	木製品 橋脚か	Ⅲ区2号橋脚 部分				同定不能 自然木の可能性
256	木製品 橋脚か	Ⅲ区2号橋脚 部分				同定不能 自然木の可能性

Ⅲ区6・8・9号掘立柱建物

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
257	白磁口 禿皿	Ⅲ区6号掘立(358 ピット)口縁部小片	口 14.6	夾雑物無/還元焰 /灰白	口唇部外面は幅2mmほど施釉が施されていない、内面に凹線が1条巡る。	13C. 後半～ 14C. 前半
258	石製品 砥石	Ⅲ区8号掘立(198 ピット)上部欠損	長 7.3 幅 4.0 厚 3.7 重	石材/砥沢石	下端面を除きよく使い込まれている。	
259	焼締陶器 鉢	Ⅲ区9号掘立柱建物 (15ピット)口縁片	残存 13.2×9.6 厚 1.5	粗砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。片口端外面指圧痕。口端部上向きで尖る。磨耗痕残る。肉厚。	14世紀前半

Ⅲ区竪穴

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
260	土師器 甕	Ⅲ区1号竪穴 口縁部～胴部上位片	口 10.2	微砂粒/良好/橙		13C. 後半～ 14C. 前半

Ⅲ区1号～6号・8号・10号～14号井戸

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
261	焼締陶器 鉢	Ⅲ区1号井戸 口縁片	残存 8.2×6.2 厚 1.1	粗砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。口端部上向きで尖る。	14C. 中頃
262	木製品 板	Ⅲ区1号井戸	長 8.0 幅 3.7 厚 0.5			ヒノキ
263	木製品 桶の側板か	Ⅲ区1号井戸 一部分	長 16.2 幅 3.7 厚 0.4	柾目	削り込み、同じ厚さに調整する。	スギ 板草履?
264	種子	Ⅲ区1号井戸				
265	種子	Ⅲ区1号井戸			センダン核1点。	センダン
266	土師器 台付甕	Ⅲ区2号井戸 脚部片	脚 9.6	細砂粒/良好/橙	脚部下位は横ナデ、中位・上位はヘラナデ。内面はヘラナデ。	8C.～9C.
267	青磁 碗	Ⅲ区2号井戸 口縁部小片	口 11.8	夾雑物無/還元焰/ /灰オリーブ	ロクロ整形、内面に劃花文。	龍泉窯系、12 C. 後半～13 C. 前葉
268	軟質陶器 鉢	Ⅲ区2号井戸 口縁片	残存 6.5×3.6 厚 1.2	細砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。部分的に酸化焰。口端部上向きで尖る。	14C. 中頃
269	木製品 側板か	Ⅲ区2号井戸 破片	長 2.5 幅 0.8 厚 0.2			ヒノキ
270	軟質陶器 鉢	Ⅲ区3号井戸 1/6	口 30.4 底 15.0 高 12.3	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部回転糸切り、外面体部はヘラナデ。口端部内向きで尖る。	14世紀後半。
271	石製品 砥石	Ⅲ区3号井戸 完形?	長 9.3 幅 4.0 厚 3.3 重	石材/粗粒輝石安 山岩	表面は非常によく使い込まれているが、他の面は裁断時の凹凸が残る。	
272	木製品 円形木製品	Ⅲ区3号井戸 完形	長 18.4 幅 18.7 厚 1.0	柾目	上部から下部に向け、厚みが薄くなる。木釘痕は観察されない。	ヒノキ
273	木製品 曲物側板	Ⅲ区3号井戸 一部分	長 15.6 幅 1.7 厚 0.5	柾目	上部から下部に向け、一定の角度を保ち削り込む。その角度はおおよそ20度。	アスナロ
274	種子	Ⅲ区3号井戸			モモ核1点。	モモ
275	灰釉陶器 長頸壺	Ⅲ区4号井戸 口縁部片	口 11.6	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。内外面とも施釉、施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期以降 10C.
276	種子	Ⅲ区4号井戸			モモ核1点。	モモ
277	軟質陶器 鉢	Ⅲ区5号井戸 口縁部片	口 30.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面体部はヘラナデ。口端部上向きで尖る。	14世紀中頃
278	軟質陶器 甕	Ⅲ区5号井戸 胴部片	残存 12.5×7.7 厚 1.2	細砂粒/還元焰/ 灰	外面は格子目状叩き痕が残る、内面はヘラナデ。	
279	木製品 円形木製品	Ⅲ区5号井戸 完形	長 8.3 幅 8.1 厚 0.7	柾目	曲物底板と仮定した場合、側板との接合法は不明。孔や木釘痕が見あたらない。側板との接合痕跡は底板表面に残る。	ヒノキ
280	木製品 角材か	Ⅲ区6号井戸	長 7.0 幅 3.4 厚 2.8			コナラ節

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
281	種子	Ⅲ区6号井戸				
282	種子	Ⅲ区6号井戸			ウメ核が1点、モモ核が2点、不明B葉が1点。	ウメ核、モモ、不明B葉
283	落ち葉他	Ⅲ区6号井戸				
284	木製品 加工板	Ⅲ区8号井戸	長 8.6 幅 6.3 厚 1.6			クスギ節
285	木製品 薄板	Ⅲ区8号井戸	長 9.7 幅 1.4 厚 0.3			ヒノキ
286	種子	Ⅲ区8号井戸			モモ核4点、ヤナギタデ果実が1点、イスタデ果実1点、ツユクサ種子9点、イボクサ種子3点、オオムギ炭化種子2点、イネ果実3点、アワ果実1点、カヤツリグサ属果実1点。	モモ、ヤナギタデ果実、イスタデ、オオムギ、イネ、アワ、等
287	種子	Ⅲ区8号井戸				
288	落ち葉他	Ⅲ区8号井戸			ヤナギ属葉が57点、フジ属葉が244点。	ヤナキ、フジ
289	青磁 碗	Ⅲ区10号井戸 底部	底 5.0	夾雑物無/還元焰 /灰オリープ	ロクロ整形、内面底部に劃花文。高台内側を除き施釉。	龍泉窯系
290	漆製品 椀	Ⅲ区10号井戸	口 14.0 底 7.0 高 5.4		内外面に黒漆塗布。内面底面付近と外面口縁付近に赤漆による模様一部残存。	ケヤキ
291	木製品 杭	Ⅲ区10号井戸	径 2.2×2.1 長 29.0			コナラ節
292	種子	Ⅲ区10号井戸			オニグルミ核が1点、ウメ核1点、モモ核4点、オモダカ属果実1点、イネ果実1点、ホタルイ属果実1点。	オニグルミ、ウメ、モモ、オモダカ属、イネ等
293	落ち葉他	Ⅲ区10号井戸			フジ属葉4点、	フジ
294	種子	Ⅲ区11号井戸			モモ核1点。	モモ
295	青磁 碗	Ⅲ区12号井戸 口縁部小片	残存 6.6×5.9 厚 0.5	夾雑物無/還元焰 /灰オリープ	ロクロ整形、外面に輪花文。	龍泉窯系
296	青磁 碗	Ⅲ区12号井戸 口縁部小片	残存 1.8×2.2 厚 0.4	夾雑物無/還元焰 /灰オリープ	ロクロ整形、外面に連弁文。	龍泉窯系、13C. 後半~14C. 前半
297	軟質陶器 鉢	Ⅲ区12号井戸 口縁片	残存 7.2×6.5 厚 1.1	粗砂粒/酸化焰/ 橙色	内外面横ナデ。磨耗痕残る。口端部上向きで尖る。	14C. 中頃
298	骨 不明骨	Ⅲ区12号井戸		種類・部位等不詳	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁最小)	
299	軟質陶器 鉢	Ⅲ区13号井戸 底部~体部下位片	底 13.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り、外面体部はヘラナデ。	14世紀前半か
300	軟質陶器 甕	Ⅲ区13号井戸 底部~体部下位片	底 16.0	細砂粒/還元焰/ 灰褐	ロクロ整形。内面は二次的使用により研磨されている。	
301	種子	Ⅲ区13号井戸				種8
302	軟質陶器 鉢	Ⅲ区14号井戸 口縁部片	口 29.2	細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、体部はヘラナデ。口端部上向きで尖る。	14世紀中頃

Ⅲ区4・25・31号土坑

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
303	軟質陶器 鉢	Ⅲ区4号土坑 2/5	口 24.4 底 11.2 高 8.9	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部に輪積み痕がみられる。底部ナデ。	14世紀後半
304	軟質陶器 鉢	Ⅲ区25号土坑 底部片	底 11.4	細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。底ヘラナデ。周辺部は打ち欠かされている。	14世紀か
305	錢貨 元祐通寶	Ⅲ区31号土坑 ほぼ完形	径 2.36×2.38 厚 0.14	銅錢	篆書。裏面やや平ら。	模鑄錢

Ⅲ区22・41・119号ピット

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
306	石製品 砥石	Ⅲ区22号ピット 下部欠損	長 10.5 幅 5.1 厚 4.6	石材/変質デイス サイト	表面・右側面はよく使い込まれているが、他の面は裁断時痕跡が残る。	

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
307	鉄製品 鉄棒	Ⅲ区41ピット 破片	長(3.2) 幅 1.2 厚 0.6	鉄	おたまじゃくし形を呈し、下部欠損。肉厚の板状。	釘の類か
308	鉄製品 刀子	Ⅲ区119号ピット 刃部破片	長 5.2 幅 2.1 厚 0.3	鉄	薄い片刃の製品。切っ先側破片で尖端欠損。	
309	鉄製品 不明	Ⅲ区119号ピット 破片か	長 4.0 幅 3.3 厚 1.6	鉄	亀の甲羅状を呈する。一端は欠損か。	12号溝-196 に似る

2面

Ⅲ区3号・5号・6号・103号・104号溝

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
310	黒色土器 椀	Ⅲ区3号溝 底部	底 6.2	細砂粒／酸化焰／ 橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。底部ナデ、高台は貼付。	下面からの混 入品。10C.
311	青磁 椀	Ⅲ区3号溝 口縁部小片		夾雑物無／還元焰 ／灰オリーブ	連弁文部分片。ロクロ整形。	龍泉窯系、13 C. 後半～14 C. 前半
312	陶器 椀	Ⅲ区3号溝 口縁部片	口 12.0	夾雑物無／還元焰 ／灰白	ロクロ整形。緑灰色の釉薬が施釉。	近世
313	磁器 椀	Ⅲ区3号溝 1／10	口 9.6 底 4.2 高 4.8	夾雑物無／還元焰 ／灰白	ロクロ整形。口縁部に草花文。高台周囲に圏 線。底面に印文。	近世
314	瓦 平瓦	Ⅲ区3号溝 一部片	残存 9.3×1.7 厚 1.8	細砂粒／還元焰／ 灰	内外面、側面ともヘラ削り。	近世
315	瓦 平瓦	Ⅲ区3号溝 一部片	残存 9.0×5.8 厚 1.7	細砂粒／還元焰／ 暗灰	内外面、側面ともヘラ削り。	近世
316	瓦 平瓦	Ⅲ区3号溝 一部片	残存 10.9×5.1 厚 1.8	細砂粒／還元焰／ 灰	内外面、側面ともヘラ削り。	近世
317	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 上半部右端片	残存 7.2×10.3 厚 1.2	石材／緑色片岩	浅い薬研彫り蓮座の一部と枠線の一部が残る。 破片の厚みから小型の板碑の主導蓮座部と推定 されるが、大型板碑脇侍蓮座部の可能性も有る。	
318	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 上半部左端片	残存 9.3×9.3 厚 1.2	石材／緑色片岩	枠線コーナー部と主導種子の一部が残る。主導 は残存部より深い薬研彫りの阿弥陀如来種子 (キリーク)が推察される。破片は裏面が石目に 沿って剥落。種子の大きさから大型板碑とな ると可能性がある。	
319	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 主導部碑面剥落片	推定全幅38cm	石材／緑色片岩	主導は薬研彫りの正字体キリーク(阿弥陀如来) 種子。碑面は丁寧な水研磨、風化による摩滅が やや見られる。種子アキ点下の2条の線刻は破 片転用によるものと見られる。蓮実をもつ蓮座 も深い薬研彫り。	大型板碑
320	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 主導部碑面剥落片		石材／緑色片岩	主導は浅い彫り込みの阿弥陀如来種子(キリー ク)。下部に蓮座を持たず、おそらく一主導種 子、左下部に枠線の一部が残る。罷免は風化の ためやや摩滅。	
321	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 上半部右端片	残存 16.0×7.1 厚 4.1	石材／緑色片岩	浅い彫り込みの二条線を有す。碑面は丁寧な水 研黄が施されている。	厚さから大型 板碑と推察さ れる。
322	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 頂部左端破片	残存 9.8×13.1 厚 2.0	石材／緑色片岩	板碑は石目に沿い剥落、裏面には板状成整形時 の幅1.4mmを測る横方向の平ノミ状工具痕を規 則的に配する。裏面周縁端部は丁寧な面取りが 施されている。	
323	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 裏面剥片		石材／緑色片岩	碑面は石目に沿って剥落。幅10mmを測る平ノミ 状工具による横方向の板状成整形痕を明瞭に残す。	
324	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 主導部碑面剥落片	残存 3.7×9.7 厚 1.0	石材／緑色片岩	薬研彫りの種子の一部が残り、阿弥陀如来種 子(キリーク)の一部と推定され、下方に蓮座蓮 実の一部も残る。	裏面は石目に 沿って剥落。
325	石製品 板碑	Ⅲ区3号溝 頂部中央部破片	残存 30.5×14.2 厚 1.9	石材／緑色片岩	浅い彫り込みの二条線を有す。裏面側は石目に 沿って剥落。	石材が295に 類似するため 同一個体か。
326	金属製品 鉄板	Ⅲ区3号溝 破片	長(10.1) 幅 5.2 厚 0.6	鉄	鑄鉄と見られる。円弧形で中央付近とやや右に 寄ったところで欠失する。上面上端は曲線を描く。	
414	石製品 石臼	Ⅲ区3号溝 下臼受け部小片	残幅 9.8 残高 5.1	石材／	非常によく研磨されている。	
327	陶器 皿	Ⅲ区5号溝 1／6	口 9.6 底 6.2 高 2.5	微砂粒／還元焰／ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は削り出し、 底部はヘラ削り。	近世



No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
329	陶器 皿	Ⅲ区6号溝 口縁部片	口 12.6	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、内外面に施釉。	近世
330	焼締陶器 鉢	Ⅲ区103号溝 口縁片	残存 5.5×3.7 厚 1.2	粗砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。口端部上向きで尖る。	14世紀中頃
331	青磁 碗	Ⅲ区104号溝 口縁部小片		夾雑物無/還元焰/ 灰オリーブ	ロクロ整形、口縁部には連弁文。	龍泉窯系、13 C. 後半~14 C. 前半
332	焼締陶器 鉢	Ⅲ区104号溝 口縁片	残存 5.8×5.5 厚 1.2	細砂粒/還元焰/ 灰色	内外面横ナデ。片口指撫で。口端部上向きで尖る。	14世紀中頃

Ⅳ区3・4号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
333	土師器 杯	Ⅳ区3号溝 1/8	口 12.2 底 7.0 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位はナデ、底部はヘラ削り。	9 C. 後半
334	素焼き 土鈴か	Ⅳ区3号溝 体部片	残存 3.7×4.1 厚 0.5	細砂粒/酸化焰/ 灰白色	手捏。内面指頭痕重なり、外面平滑に研磨。	中世 群馬県内初出 か
335	磁器 碗	Ⅳ区3号溝 底部片	底 3.4	夾雑物無/還元焰/ 灰白	外面高台周辺に二重圏線、内面底部中央に五弁花のコンニャク印判、周辺に圏線。	近代。混入 か、出土に疑 問有り
336	瓦 軒丸瓦	Ⅳ区3号溝 軒先部片	径 7.2	微砂粒/還元焰/ 灰	瓦頭面は右巻き三ツ巴紋、珠文数は9または10か	近代。混入 か、出土に疑 問有り
337	瓦 平瓦	Ⅳ区3号溝 一部片	残存 9.1×6.9 厚 1.9	微砂粒/還元焰/ 灰	表裏、側面ともナデ。	近代。混入 か、出土に疑 問有り
338	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.6×4.6 長 34.4	割	角棒に加工した材の転用か。多方向から削り、先端に鋸と思しき切り落とし痕残る。	アスナロ
339	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 5.7×4.3 長 70.0	芯持ち	先端部の節を落とし、4方向から単純に削る。先端に鋸と思われる切り落とし痕残る。	クリ
340	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 9.0×3.7 長 92.0	芯持ち	5方向から削る。	オニグルミ
341	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.5×4.7 長 52.2	芯持ち	4方向から綿密に削る。先端に鋸と思われる切り落とし痕が残る。	クリ
342	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.3×3.2 長 82.7	芯持ち	4方向から削る。先端に鋸と思われる切り落とし痕が残る。	オニグルミ
343	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 8.0×5.0 長 61.5	半割	表裏から削る。先端に潰れあり。	クリ
344	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 5.7×5.5 長 42.7	芯持ち	5方向から削る角杭。	クリ
345	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 3.2×3.3 長 22.2	芯持ち	多方向から削る。劣化が著しい。	ケヤキ
346	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上下欠損	径 3.8×3.8 長 30.7	辺材	角杭。	スギ
347	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 5.2×4.8 長 44.6	芯持ち	5方向から削る。先端部の節は落とされている。	クリ
348	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 2.7×2.7 長 44.0	芯持ち	4方向から削る。先端に潰れあり。	クリ
349	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 5.3×5.3 長 59.0	芯持ち	5方向から削る。先端に切り落としの痕跡あり。	クリ
350	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.1×2.7 長 25.7	半割	劣化激しく、観察は不可。	アスナロ
351	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 3.1×3.1 長 33.5	芯持ち	片面を3方向から削る。	ハイノキ属サ ワフタギ節
352	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.1×4.6 長 61.0	芯持ち	3方向から単純に削る。	クリ
353	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 3.8×4.6 長 38.8	芯持ち	一方からのみ削る。	クリ
354	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.1×4.0 長 31.1	芯持ち	4方向から綿密に削り、先端を尖らせる。	クリ
355	木製品 杭	Ⅳ区3号溝 上部欠損	径 4.8×3.6 長 37.3	芯持ち	4方向から削る。先端の潰れは僅か。	クリ

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
356	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上部欠損	径 4.7×4.3 長 54.3	芯持ち	樹皮付き。先端の潰れはほとんどない。	クリ
357	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上部欠損	径 4.5×4.2 長 16.5	芯持ち	劣化激しく、観察は不可。	クリ
358	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上部欠損	径 3.6×4.0 長 46.2	芯持ち	4方向から削る。先端に切り落としの痕跡あり。	クリ
359	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上部欠損	径 3.9×3.6 長 13.2	芯持ち	先端部を多方向から削る。	ケヤキ
360	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上部欠損	径 4.1×3.2 長 46.7	芯持ち	4方向から削る。先端に切り落としの痕跡あり。	クリ
361	木製品 杭	Ⅳ区3溝 上下欠損	径 6.3×7.1 長 28.6	芯持ち	2片接合。4方向から削る。刃当たり痕が顕著。	エゴノキ
362	銭貨 寛永通寶	Ⅳ区南調査区3号溝 縁欠ける	径(2.18)×(2.20) 厚(0.12)	銅銭	小型で郭平ら。	新寛永
363	金属製品 鉄板	Ⅳ区北調査区3号溝 破片	長(6.8) 幅 4.9 厚 0.5	鉄	鑄鉄と見られる。円弧形で中央付近と端部で欠失されている。	磐の可能性も考慮される。
364	土師器 杯	Ⅳ区4号溝 1/8	口 10.4 高 2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9C.
365	土師器 杯	Ⅳ区4号溝 口縁部片	口 10.6 底 8.4	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9C.
366	土師器 杯	Ⅳ区4号溝 2/3	口 13.0 底 8.0 高 3.5	細砂粒/良好/橙 にぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、底部はヘラ削り。	9C.
367	土師器 焼締陶器	Ⅳ区4号溝 完形	口 11.8 底 8.4 高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半横ナデ、下半ナデ、底部はヘラ削りであるが、一部周辺部はナデ。	9C.
368	軟質陶器 壺か	Ⅳ区4号溝 底部～胴部下位片	底 8.8	粗砂粒/還元焰/ オリープ黒	底部、胴部ヘラ削り。	
369	軟質陶器 焙烙	Ⅳ区4号溝 口縁部片	口 36.2 底 34.2 高 5.4	粗砂粒/酸化焰/ にぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半にヘラナデ痕が残る、底部は砂底か。	
370	軟質陶器 播鉢	Ⅳ区4号溝 口縁部片	口 27.0	粗砂粒/酸化焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形、播り目は細かい。	近代。混入か、出土に疑問有り
371	陶器 皿	Ⅳ区4号溝 1/6	口 10.6 底 7.4 高 1.7	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台削り出し、底部ヘラ削り。外面底部を除き施釉。	近代。混入か、出土に疑問有り
372	青磁 碗	Ⅳ区4号溝 口縁片	残存 3.6×3.2 厚 0.5	細砂粒/還元焰/ オリープ灰色	ロクロ整形。口縁外面に弱い稜。内外面施釉。	龍泉窯系 15C.後半
373	古瀬戸 盤か	Ⅳ区4号溝	底径 残高 2.2	細砂粒/還元焰/ にぶい褐色	ロクロ整形。内面に鉛釉施釉。	14～15C.初
374	骨 人骨	Ⅳ区4号溝		焼骨か。部位等不明。	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	

1面

Ⅰ区1号道(Ⅰ区2号溝)

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
375	金属製品 鉄板	Ⅰ区2号溝 破片	長 5.6 幅 1.5 厚 0.5	鉄	厚1.5mm、2mm、1.5mm、1mmの4枚の鉄板を打ち合わせた鉄板。	
376	骨 不明骨	Ⅰ区2号溝		不明	Ⅲ章2節鑑定所見(256・257頁参照)	

Ⅰ区1・4・5・7号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
377	須恵器 碗	Ⅰ区1号溝 口縁部片	口 13.4	細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。	下面からの混入品。 10C.
378	須恵器 碗	Ⅰ区1号溝 底部片	底 9.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。	下面からの混入品。 8C.後半
379	軟質陶器 鍋	Ⅰ区1号溝上層 底部片	径 5.4 厚 0.7	細砂粒/還元焰/ 黄灰	底部砂底。周囲は打ち欠かれて円盤状に作り替えられている。	中世
380	軟質陶器 鉢	Ⅰ区1号溝 口縁部片	底 9.8	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、底部は回転糸切り、体部はヘラナデ。	中近世

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
381	軟質陶器 火鉢	I区1号溝上層 口縁部片		細砂粒/還元焰/ にぶい褐	外面に縦・横に櫛描きが施されている。	近世
382	陶器 椀	I区1号溝 底部片	底 4.6	夾雑物無/還元焰/ 黄灰	内外面とも施釉。	近世
383	陶器 椀	I区1号溝 底部片	底 5.0	夾雑物無/還元焰/ にぶい灰	内外面とも施釉。	近世
384	陶器 椀	I区1号溝上層 底部片	底 7.0	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は削りだし。 内面に底部にトチン痕が残る。施釉は内面のみ。	近世
385	陶器 灯明皿	I区1号溝上層 底部片	底 5.0	夾雑物無/還元焰/ 褐灰	ロクロ整形、回転右回りか。施釉は内面は全面 であるが、外面は口縁部上半。	近世
386	陶器 灯明台	I区1号溝上層 台部片	底 3.8	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。 施釉範囲は内面と外面上半。	近世
387	陶器 袋もの	I区1号溝 体~底部片	底径 残高 3.6	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形。底面回転糸切り切り放し。外面施 釉。	瀬戸美濃、織部 近世
388	瓦 平瓦	I区1号溝上層 端部片		細砂粒/還元焰/ 灰白	型作り、表裏面ともヘラナデ。	近世
389	軟質陶器 内耳鍋	I区1号溝 体部片	残存 5.2×54.8 厚 0.7	粗砂粒/酸化焰/ 灰色	内外面吸炭による黒色処理。内外面撫で。	15C.中頃以 降
390	石製品 砥石	I区1号溝上層 ほぼ完形	長 5.3 幅 4.4 厚 2.8 重		上面と裏面を除き使い込まれている。上面と裏 面は未使用か。	
391	石製品 砥石	I区1号溝 上端部欠損	長 8.8 幅 2.5 厚 1.4 重	石材/砥沢石	欠損部以外は非常によく使い込まれている。	
392	銭貨 寛永通宝	I区1号溝 縁一部欠け	縦厚 横重	新寛永		
393	金属製品 馬蹄	I区1号溝 完形	長 9.1 幅 9.6 厚 0.3 重	鉄	本体幅1.5cm以下。径0.4cmの孔1箇所。釘2本 装着のまま残る。	近代以降。
394	金属製品 不明	I区1号溝 両端欠けか	長 9.2 幅 0.9~1.7 高 5.5	鉄	短銃形。横断面形先端方形、中位長方形、元部 楕円形で、先端0.9×1.0cm、中位1.1×1.3cm、 本部1.3×1.7cm。中位上下に孔とホゾ開く。	不明製品の一 部品
395	金属製品 ナイフ	I区1号溝 尖端欠	長(7.2) 幅(1.9) 厚 0.6	鉄	折りたたみナイフ。刃は鞘に収まったまま出 土。刃の幅は0.3cm	近代以降
507	木製品 櫛	I区1号溝 破片			前方向に湾曲。歯の厚みは1mm、間隔は3 mmを測る。	近代以降か
397	昆虫	I区1号溝				
398	陶器 鉢	I区4号溝 底部片	底 10.0	夾雑物無/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。外 面底部を除き褐釉が施釉。	近世
399	石製品 砥石	I区4号溝 下部欠損	長 4.4 幅 3.0 厚 1.3 重		欠損部以外は非常によく使い込まれている。	
400	陶器 皿	I区5号溝 1/3	口 10.2 底 6.0 高 2.6	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は削りだし、 底部はヘラ削り。内面と外面口唇部に施釉。	近世
401	陶器 菊花皿	I区5号溝 2/3	口 13.3 底 7.8 高 4.0	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は削りだし、 施釉は外面底部周辺を除き全面。	近世
402	磁器 椀	I区5号溝 1/3	口 8.0 底 3.6 高 4.3	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。高台は削りだし。外面に草花文。	近世
403	軟質陶器 焙烙か	I区7号溝 口縁部片		細砂粒/酸化焰/ にぶい褐	ロクロ整形、口縁部上半は横ナデ、下半に叩き 痕?が残る。	近世
404	石製品 砥石	I区7号溝 一部欠損	長 3.7 幅 3.3 厚 1.9 重		欠損部以外はよく使い込まれているが、一部に 裁断時の痕跡が残る。	
405	石製品 用途不明	I区7号溝 一部欠損	長 4.2 幅 4.9 厚 1.4 重		各面は研磨されている。	
406	銭貨 元豊通寶	I区7号溝最古層 縁一部欠損	径(2.44)×2.46 厚 0.11	銅銭	字明瞭だが、表面の郭欠け、裏面平ら	模鑄銭
407	金属製品 角釘	I区7号溝 尖端欠損	径 0.7×0.6 長(12.2)	鉄	上位屈曲。皆折れ釘か。横断面形方形。	

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
408	金属製品 角釘	Ⅱ区7号溝 中位破片	径 0.7×0.6 長(5.9)	鉄	横断面形方形。	5寸釘か

Ⅱ区1号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
409	石製品 砥石	Ⅱ区1号溝 上部欠損	長 6.0 幅 2.8 厚 1.9 重		欠損部以外は非常によく使い込まれている。	

Ⅲ区2・95号溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
411	土師器 器台	Ⅲ区2号溝 脚部～底部片	残高 6.6	粗砂粒/やや軟質 /橙	脚部に透かし3箇所。台部と脚部は貼付か。整形は摩滅のため不明。	4 C.
412	土師器 杯	Ⅲ区2号溝 口縁部片	残高 4.0	細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はヘラ削り。	内斜口縁。 5 C.～6 C.
413	軟質陶器 鉢	Ⅲ区2号溝 腰～底部片	底径 残高 5.4	細砂粒/酸化焰/ 灰褐色	外面やや吸炭。内外面撫で。内面に磨耗による弱い研磨面形成。	14 C.中～ 15 C.前半
415	銭貨 寛永通寶	Ⅲ区95号溝 一部欠損	径 2.30×2.30 厚 0.10	銅銭	孔やや丸みを帯び、裏面平ら。	新寛永

Ⅲ区1号土坑

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
396	金属製品 有頭留金具か	Ⅲ区1号土坑 一端欠	径 0.6×0.5 長(10.3)	鉄	頭部ピラミッド形で径0.8×0.7cm、長0.7cmを測る。本体横断面形楕円形。	近代以降

Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区1・5号復旧溝

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
416	軟質陶器 鉢	Ⅰ区復旧痕 口縁部片	口 17.4	細砂粒/還元焰/ 灰	口縁部は横ナデ、体部はヘラナデ、	中近世
417	陶器 灯明台	Ⅱ区2号復旧溝 口縁部一部欠	口 8.0 底 6.4 高 5.7	夾雑物無/還元焰 /にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、底部を除き全面施釉。	
418	天目 茶碗	Ⅱ区復旧溝 口縁片	残存 2.4×2.1 厚 0.6	細砂粒/還元焰/ 黒色	ロクロ整形。内外面施釉。	
174	石器 打製石斧	Ⅱ区2号復旧溝 上部欠損	長 8.9 幅 4.4 厚 1.8 重	石材/黒色片岩	表裏・側面とも摩滅が激しい。	
419	焼締陶器 甕	Ⅲ区1号復旧溝 体部片	残存 7.6×7.6 厚 1.0	粗砂粒/還元焰/ 暗オリーブ色	内外面撫で。外面に灰釉施釉。	中世
420	軟質陶器 内耳鍋	Ⅲ区5号復旧溝 口縁	残存 6.9×5.5 厚 0.9	細砂粒/酸化焰/ 灰色	外面やや吸炭。内外面撫で。	15 C.中頃
421	金属製品 角釘	Ⅲ区5号復旧溝 尖端側欠損	径 0.6×0.6 長(5.7)	鉄	頭部屈曲、皆折釘か。横断面形方形に近い。	

遺構外の出土遺物

古墳時代遺構外出土遺物

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
504	石器 鏃	51C-1グリッド 片脚欠損	長 2.1 幅 1.5 厚 0.5 重	石材/黒曜石	無茎鏃。二等辺三角形を呈し、表裏よりの剥離調整。	

古墳時代遺構外出土遺物

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
422	土師器 杯	Ⅰ区41-F13 1/6	口 13.4 稜 10.2 高 3.2	細砂粒/やや軟質 /橙	口縁部は横ナデ、稜下はヘラ削り。	7 C.
423	土師器 杯	Ⅲ区遺構外 口縁部小片	口 15.0	細砂粒/良好/橙	口縁部上位横ナデ、中位から下位はヘラ削りであるが、器面摩滅のため単位不明。	内斜口縁。 5 C.末～6 C.前
424	土師器 杯	Ⅲ区61-D-10/5面 1/2	口 11.8 高 5.7 稜 12.4	細砂粒/良好/橙	焼き歪みあり。口唇端部平坦面をつくる。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	須恵器蓋模倣。 5 C.末～6 C.前
425	土師器 高杯	Ⅲ区遺構外(河道) 杯身片	口 12.8	細砂粒/良好/灰 黄	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	4 C. Hr-FA下
426	土師器 器台	Ⅲ区遺構外(河道下 層)脚部片	残高 5.6	細砂粒/良好/に ぶい橙	脚部中位に透かし3箇所、外面ヘラナデ、内面はハケ目がかすかに残る。	4 C.
427	土師器 高杯	Ⅳ区遺構外3面Ⅶ層 上杯身片	残高 3.1	細砂粒/やや軟質 /橙	口縁部横ナデ、底部ナデ、内面底部に平行なヘラ磨き。	5 C.
428	土師器 高杯	Ⅱ区遺構外Ⅵ層下 脚部	残高 7.4	細砂粒/良好/橙	内外面ともナデ。	5 C.～6 C.
429	土師器 高杯	Ⅲ区遺構外5面 脚部片	残高 3.3	細砂粒/良好/橙	外面は横ナデ、内面はナデ。	5 C.～6 C.

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
430	土師器 台付甕	Ⅲ区遺構外5面 口縁部小片	口 14.6	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部は縦方向のハケ目。	4 C.
431	土師器 台付甕	Ⅲ区遺構外(河道) 胴部片	残存 9.1×5.8 厚 0.5	細砂粒/良好/褐 灰	外面は縦方向のハケ目、内面はヘラナデ。	4 C. Hr-FA下
432	土師器 台付甕	Ⅳ区遺構外Ⅵ層下 口縁部小片	口 11.2	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のハケ目。	4 C.
433	土師器 台付甕	Ⅳ区71-K-14 脚部	底 4.2 脚 6.6	細砂粒/良好/に ぶい橙	脚部は貼付、端部折り返し。胴部から脚部接合部はハケ目。脚部はナデ。	4 C.
434	土師器 台付甕	Ⅳ区71-K-14 脚部上位片	底 5.4	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	脚部は貼付。胴部・脚部ともハケ目。内面はナデ。	4 C.
435	土師器 甕	Ⅳ区71-J-14 底部	底 6.4	粗砂粒/良好/灰 黄褐	底部に木葉痕が残る。胴部はヘラ削りであるが、摩滅のため単位不明。	5 C.~6 C.
436	土師器 甕	Ⅱ区遺構外Ⅵ層下 底部	底 7.2	粗砂粒/良好/灰 黄褐	胴部下位・底部ともヘラ削り、内面はヘラナデ。	5 C.~6 C.
437	土師器 甕	Ⅱ区遺構外Ⅵ層下 口縁部~胴部上位片	口 14.6	粗砂粒/良好/灰 黄褐	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	5 C.~6 C.
438	埴輪 円筒か	Ⅲ区遺構外6面	残存 5.2×3.3 厚 1.5	細砂粒/褐色粒/ 良好/橙	外面は縦方向ハケ目、内面はナデ。	5 C.~6 C.
439	木製品 ナスピ鉄	不明	長 33.7 幅 厚 2.0 12.5	板目	目の詰まった材使用。表裏面を削って板材とし、丁寧に整形。括れ部幅6.4cm。	ツバキ属
440	木製品 組み物部材	Ⅳ区トレンチ 上下欠損		斜め	削り込み、同じ厚さを調整する。上位に0.7mm、中位に径0.7mmの円孔あり。	スギ
441	木製品 角棒	不明 上部欠損	長 3.25 径 2.6×2.2	柁目	正目材の両側を削って加工。節部分部太くなる。材を転用した矢板の先端部か。	カヤ
442	木製品 角材	不明 上下欠損	長 14.5 幅 4.5 厚 2.4	板目	みかん割り材を加工か。4面にチョウナ痕残すが、表裏面は2列で整形。	アカガシ亜属
443	種子	Ⅲ区				ゴマ
444	種子	Ⅲ区			オニグルミ核が1点、エゴノキ核が1点。	オニグルミ、 エゴノキ
445	種子	Ⅳ区北調査区			ウキヤガラ果実が50点。	ウキヤガラ

奈良・平安時代遺構外出土遺物

No PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
446	須恵器 椀	Ⅰ区 ほぼ完形	口 14.2 底 7.2 高 5.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	9 C.
447	土師器 杯	Ⅳ区71-J-14 口縁部片	口 15.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	8 C.前半
448	土師器 杯	Ⅲ区遺構外6層 1/3	口 11.6 高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	8 C.中
449	土師器 杯	Ⅲ区2面71-E-2 1/4	口 13.8 底 9.6 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	9 C.
450	土師器 台付甕	Ⅲ区遺構外3面 底部~脚部上位片	底 4.4	細砂粒/良好/橙	胴部は縦方向ヘラ削り、脚部は横ナデ。	9 C.
451	須恵器 椀	Ⅳ区遺構外ⅣB層 底部	底 7.1	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法摩滅のため不明、高台は貼付。	9 C.後半
452	須恵器 椀	Ⅲ区遺構外2面 1/6	口 11.6 底 5.5 高 4.1	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラ削り。	10C.前半
453	須恵器 椀	Ⅲ区遺構外2面 底部	底 6.2	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法摩滅のため不明、高台は貼付。	10C.前半
454	灰釉陶器 椀	Ⅲ区遺構外S4層 口縁部小片	口 1.38	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 期か
455	灰釉陶器 椀	Ⅲ区遺構外2面 口縁部小片	口 12.0	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 期か
456	灰釉陶器 椀	Ⅲ区遺構外3面 口縁部下~底部片	底 6.0	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期
457	灰釉陶器 長頸壺	Ⅲ区遺構外3面 口縁部小片	残存 2.9×2.6 厚 2.7	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。内外面に施釉。	

中世・近世遺構外出土遺物

No. PL	種類	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
458	かわらけ皿	Ⅲ区遺構外1/4	口 8.0 底 6.2 高 1.7	細砂粒／良好／黒	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。底部静止糸切り。	中世
459	陶器鉢	Ⅱ区遺構外ⅡB層底部片	底 8.2	夾雑物無／還元焰／灰黄	ロクロ整形、高台は削り出し、内面にトチン痕が残る。	
460	陶器椀	Ⅲ区遺構外底部	底 8.0 高 7.0	夾雑物無／還元焰／灰白	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削り出し。内面に鉄釉。	
461	陶器鉢	Ⅲ区遺構外1面口縁部片	口 25.2	夾雑物無／還元焰／淡黄	ロクロ整形、回転方向不明。内外面とも灰釉。	
462	陶器壺	Ⅲ区遺構外1面胴部下半～底部片	底 13.0	夾雑物無／還元焰／灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転ヘラ削り。外面底部を除き全面施釉。	
463	陶器壺	Ⅲ区遺構外1面口縁部小片	口 27.6	微砂粒／還元焰／暗褐	ロクロ整形、回転方向不明。内外面とも褐釉。	
464	陶器灯明皿	I区41J-20As-A混1/5	口 10.9 底 5.0 高 2.0	夾雑物無／還元焰／褐灰	ロクロ整形、回転右回りか。施釉は内面は全面であるが、外面は口縁部上半。	近世
465	軟質陶器内耳鍋	Ⅲ区遺構外1面口縁部片	口 推定31.8	細砂粒／酸化焰／灰白	内外面とも横ナデ。	
466	軟質陶器鉢	Ⅲ区2面口縁片	残存 7.2×5.8 厚 0.9	細砂粒／還元焰／灰色	内外面横ナデ。芯は酸化焰。口端部上向きで尖る。	14C.中頃
467	青磁碗	Ⅲ区61-H-9/2面底部片	底 6.5	夾雑物無／還元焰／オリープ灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削り出し。内面底部に劃花文。	龍泉窯系 12C.後半～ 13C.前葉、
468	青磁小盃	Ⅲ区遺構外2面口縁部片	口 8.3	夾雑物無／還元焰／オリープ灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇端部は施釉されていない	13C.後半～ 14C.前半
469	青磁碗	Ⅲ区遺構外Ⅱb層口縁部小片	残存 2.2×3.1 厚 0.5	夾雑物無／還元焰／オリープ灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面に連弁文。	龍泉窯系、 13C.後半～ 14C.前半
470	青磁碗	Ⅲ区遺構外Ⅱb層口縁部小片	残存 2.1×1.8 厚 0.7	夾雑物無／還元焰／オリープ灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面に連弁文。	龍泉窯系、 13C.後半～ 14C.前半
471	瓦軒丸	Ⅳ区遺構外1面1/6	残存 7.0×2.9 厚 0.91.2	細砂粒／還元焰／オリープ黒	型作り。	
472	青磁碗	Ⅱ区北腰部片	残存 4.8×3.4 厚 0.6～0.8	細砂粒／還元焰／オリープ灰色	ロクロ整形、回転方向不明。外面に連弁文。	龍泉窯系 13C.後半
473	陶器ぐいのみ	Ⅲ区底部～高台	底径 残高 1.3	細砂粒／還元焰／オリープ灰色	ロクロ整形。内外面施釉。底面内部に馬の陽刻。	相馬焼
474	軟質陶器内耳鍋	Ⅲ区N体部片	残存 6.2×5.1 厚 0.9	細砂粒／酸化焰／褐灰色	内外面撫で。外面煤付着、内面磨耗痕。	14C.後半～ 15C.前半か
502	軟質陶器鉢	Ⅲ区1面口縁片	残存 5.5×2.9 厚 1.4	細砂粒／還元焰／灰色	肉厚。内外面横ナデ。内面下位に若干の磨耗痕。口端部上向きで尖る。	14C.前半
503	軟質陶器鉢	Ⅲ区1面口縁片	残存 5.9×4.6 厚 1.2	細砂粒／還元焰／灰色	外面吸炭による黒色処理。内外面横ナデ。磨耗痕残る。口端部上向きで尖る。	14C.中葉
475	石製品砥石	I区1面下部欠損	長 9.8 幅 2.8 厚 2.1 重	石材／砥沢石	欠損部以外は非常によく使い込まれている。	
476	石製品砥石	Ⅲ区60-S-11上部欠損	長 9.2 幅 3.5 厚 2.8 重	石材／砥沢石	欠損部以外は非常によく使い込まれている。	
477	石製品砥石	Ⅲ区Hr-FA層下完形か	長 8.0 幅 6.8 厚 1.0 重	石材／粗粒輝石安山岩	表面はよく使い込まれている。	
478	石製品砥石	Ⅳ区北側調査区下部・裏面欠損	長 8.0 幅 4.0 厚 1.1 重	石材／珪質粘板岩	残存面はよく使い込まれている。	
479	銭貨天禧通寶	I区51-K-1縁一部欠損	径 2.44×2.42 厚 0.13	銅銭	字やや潰れる。	模鑄銭
480	銭貨嘉祐通寶	Ⅱ区61-K-1完形	径 2.44×(2.42) 厚 0.10	銅銭	字潰れ気味。裏面ほぼ平坦。	模鑄銭
481	銭貨寛永通寶	Ⅱ区51-B-6完形	径 2.20×2.19 厚 0.10	銅銭	小型。裏面見ほぼ平ら。	新寛永
482	銭貨咸平元寶	Ⅱ区トレンチ一部欠損	径 2.47×2.45 厚 0.14	銅銭	郭やや薄い。字明瞭。	本銭か
483	銭貨寛永通寶	Ⅲ区北調査区完形	径 2.34×2.35 厚 0.12	銅銭	裏面やや平らで、郭に対し孔不揃い。	古寛永か
484	銭貨熙寧元寶	Ⅲ区1面覆土1/3欠損	径(2.42)×(2.34) 厚 0.13	銅銭	字やや不鮮明で、裏面やや平ら。	模鑄銭

No. PL	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
485	錢貨	Ⅲ区北調査区1面 1／2欠損	径(2.41)×(1.37) 厚 0.18	銅錢	字判別不能。裏面縁見られる。	模鑄錢
486	錢貨 永樂通寶	Ⅲ区2面 完形に近い	径 2.47×2.48 厚 0.16	銅錢	右下側縁削られる。郭幅狭い。	模鑄錢か
487	錢貨 天禧通寶	Ⅳ区1面 1／2	径(1.92)×(2.32) 厚 0.15	銅錢	篆書。字細く明瞭。裏面平らだが腐食によるものか。	本錢か
488	金属製品 煙管吸口	Ⅲ区北調査区1面 羅字側破片	径 1.25×0.8 長 2.9	銅	吸口端側欠失。横断面形楕円形。	
489	金属製品 鎌	Ⅲ区北調査区1面 刃基部破片	長(3.6) 幅 2.6 厚 0.2	鉄	端部に折り返し。刃は見られない	
490	金属製品 角釘	Ⅲ区 尖端欠損	径 0.7×0.8 長(6.1)	鉄	頭部屈曲、皆折釘か。横断面形四角。	
491	金属製品 角釘	Ⅳ区 中位破片	径 0.8×0.9 長(3.8)	鉄	横断面形四角。	
492	金属製品 角釘	Ⅲ区南部 頭部側片	径 0.7×0.8 長(2.9)	鉄	頭部に折れ。皆折釘か。横断面形四角。	
493	ガラス製品 おはじき	表採か ほぼ完形	径 5.2×5.15 厚 1.1	白色	表面におたふくの線画陽刻。裏面に波紋様の橙・黄色ガラス混入。	近・現代
494	骨 馬歯	60T-11G		上顎左第3第臼歯	Ⅲ章第2節鑑定所見(256・257頁参照)	
495	骨 馬歯	60T-12G		上顎臼歯	Ⅲ章第2節鑑定所見(256・257頁参照)	
496	骨 馬歯	71G-2G		上顎臼歯	Ⅲ章第2節鑑定所見(256・257頁参照)	

# 写真図版







1. 調査区全景 東から



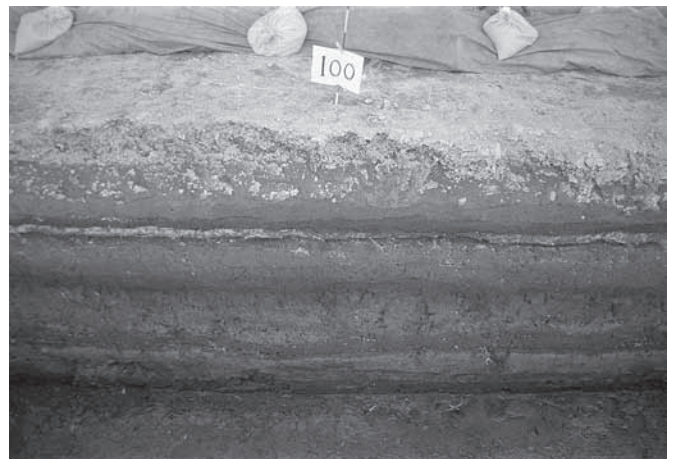
2. I区南側の南壁土層断面 北から



3. II区北側の南壁土層断面 北から



4. III区南側の南壁土層断面 北西から



5. IV区南側の南壁土層断面 北から



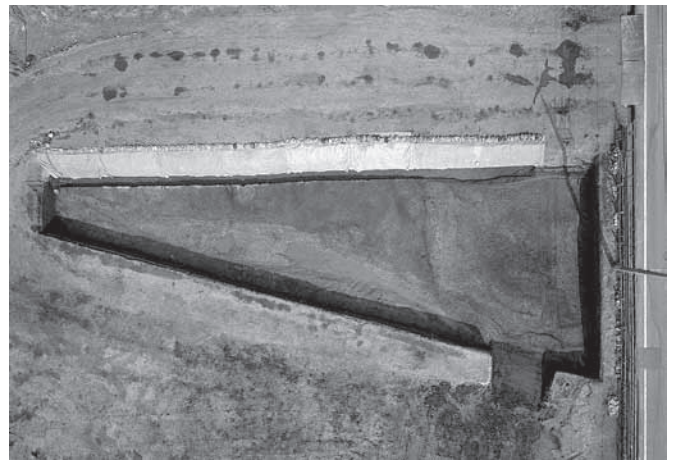
1. III区8面全景 南から



2. III区追加部分8面全景 南から



3. IV区8面全景 西から



4. IV区追加部分8面全景 南から



5. I区21号溝全景 南から



6. I区22号溝全景 南西から



7. I区23号溝全景 南西から



8. I区24号溝全景 西から



1. Ⅲ区69,74,78,88,89号溝全景 北から



2. Ⅲ区70,71,72号溝全景 北から



3. Ⅲ区76号溝全景 南から



4. Ⅲ区84号溝全景 西から



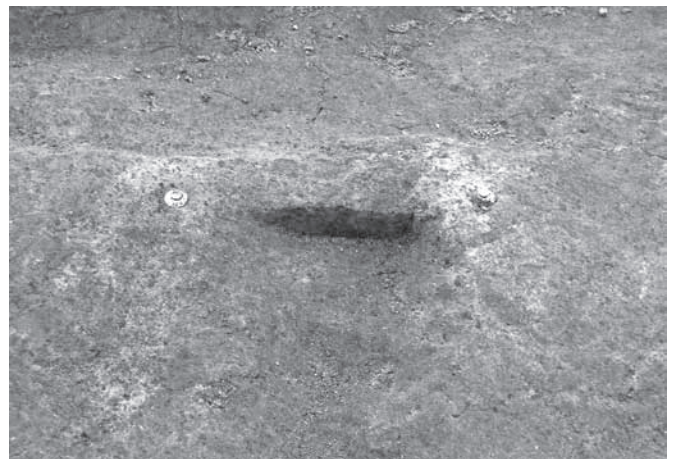
5. Ⅲ区82号溝全景 北から



6. Ⅲ区85号溝全景 南から



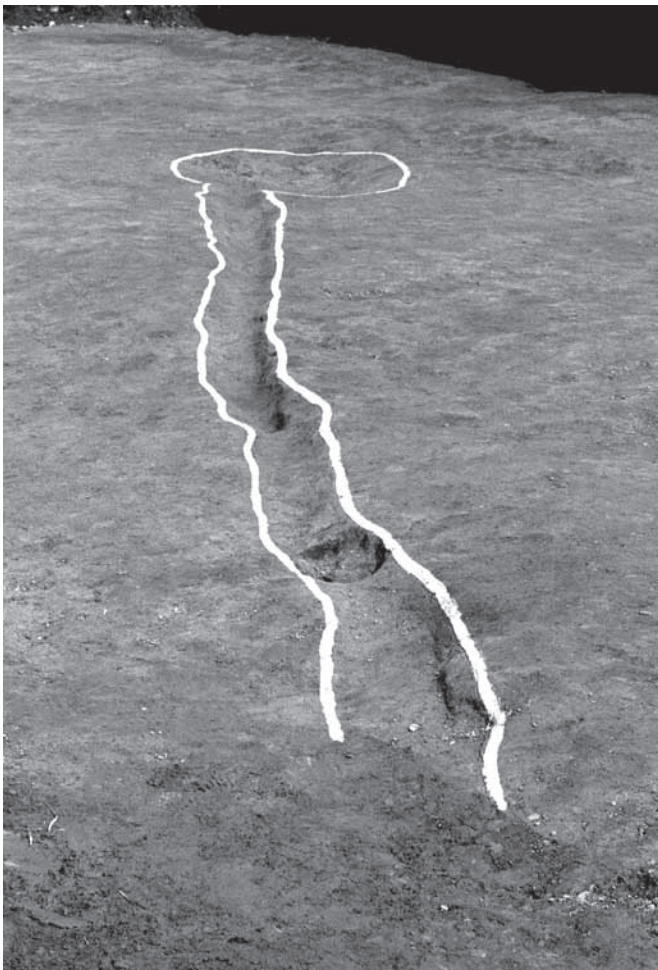
7. Ⅳ区34号溝断面 北東から



8. Ⅳ区36号溝断面 北西から



1. IV区36号溝全景 北から



2. III区63号溝全景 南から



3. III区106号溝全景 南から



1. Ⅲ区1号河道断面 南から



2. Ⅲ区2号河道断面 南から



3. Ⅲ区3号河道断面 東から



4. Ⅲ区4号河道断面 南から



5. Ⅲ区5号河道 遺物出土状態



6. Ⅲ区河道全景 南東から



7. Ⅳ区河道全景 西から



8. Ⅳ区1号河道全景 南から



1. IV区2号河道 遺物出土状態 南から



2. IV区2号河道 杭出土状態



3. IV区2号河道 縦杭出土状態



4. IV区2号河道 鍬出土状態



5. IV区3号河道断面 北から



1. I区14号土坑断面 南西から



2. I区15号土坑全景 東から



3. I区16号土坑断面 南西から



4. III区47号土坑全景 西から



5. I区3号土坑全景 南から

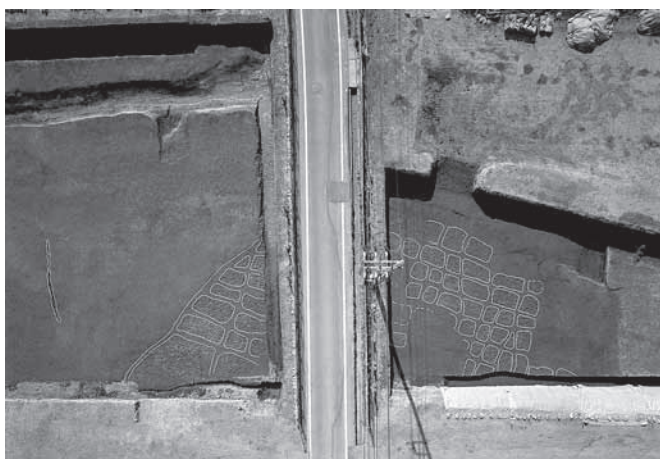




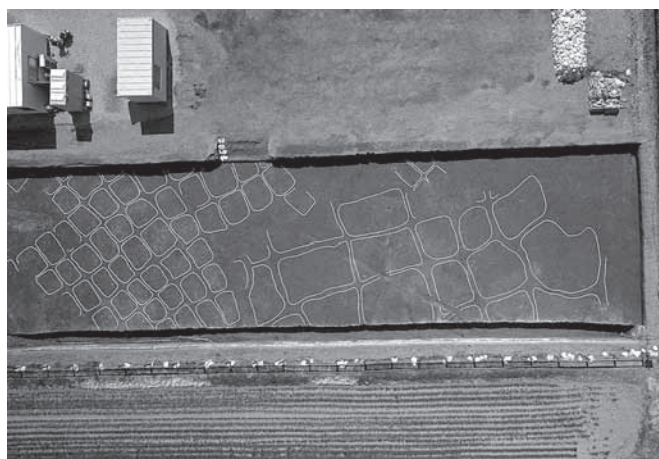
1. III区6面全景 南から



2. III区追加調査部分6面全景 南から



3. III・IV区追加調査部分6面全景 北から



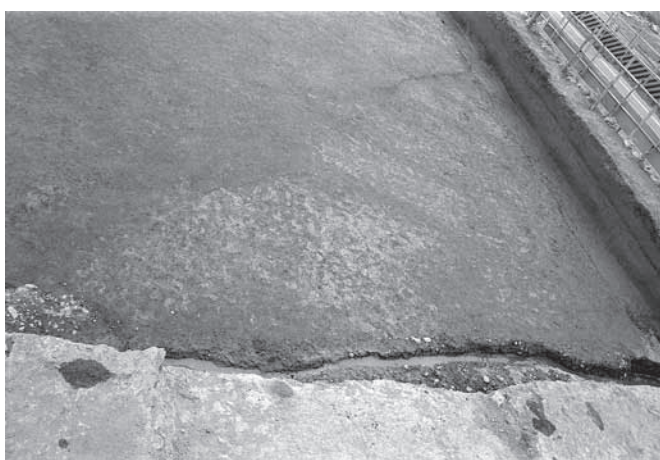
4. IV区6面全景 北から



5. III区Hr-FA下水田確認状況 北から



6. III区Hr-FA下水田全景 北から



7. III区Hr-FA下水田確認状況 北から



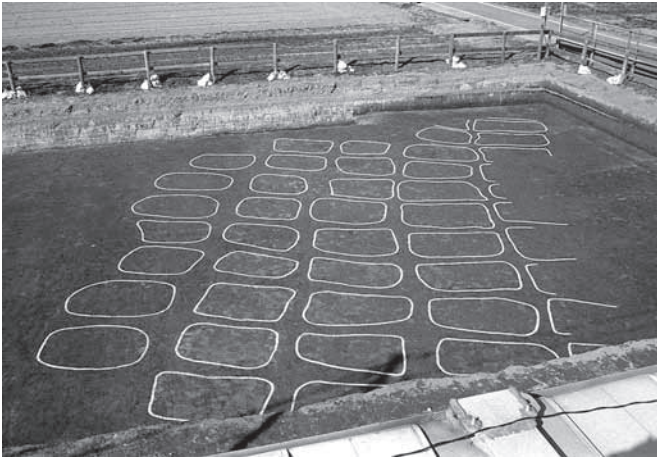
8. III区Hr-FA下水田全景 北から



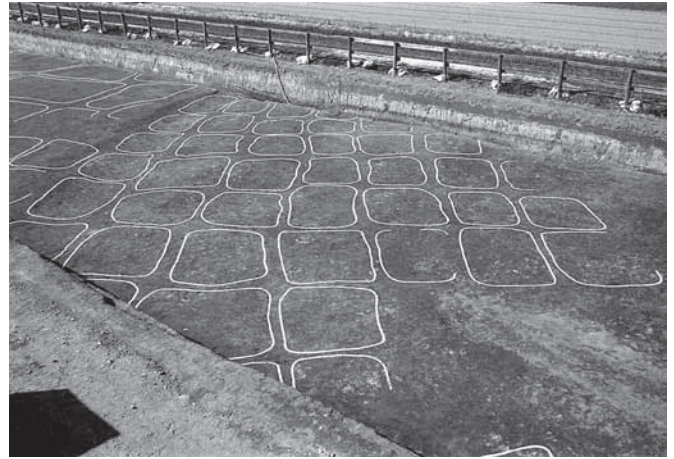
1. IV区Hr-FA下水田確認状況 北から



2. IV区Hr-FA下水田全景 北から



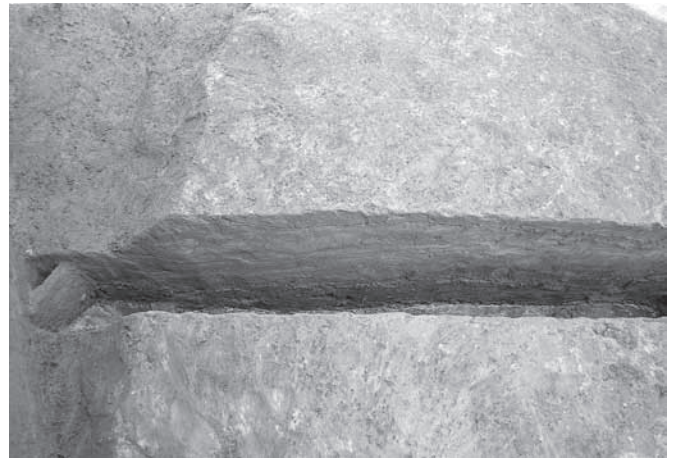
3. IV区21号溝東側Hr-FA下水田 南西から



4. IV区21号溝西側Hr-FA下水田 南東から



5. IV区Hr-FA下水田 遺物出土状態



6. IV区Hr-FA下水田断面F-F' 東から



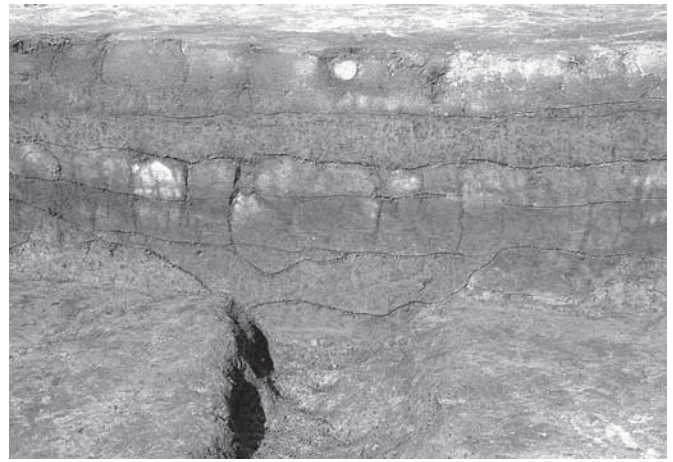
7. IV区As-C混土水田全景 南から



8. III区耕作痕 北西から



1. II区16号溝全景 南から



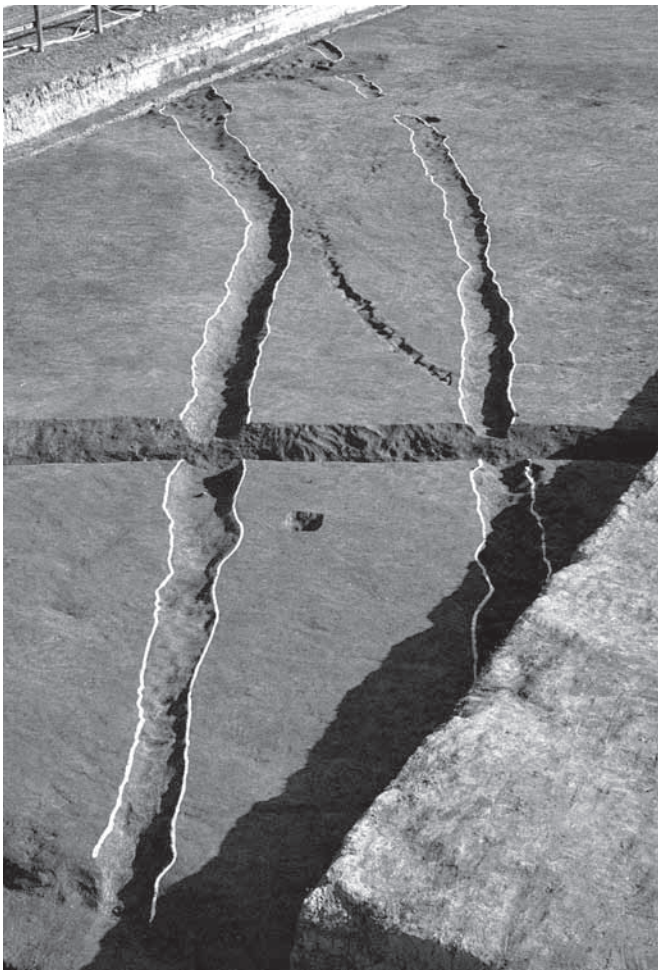
2. II区16号溝断面 南から



3. II区17号溝全景 南東から



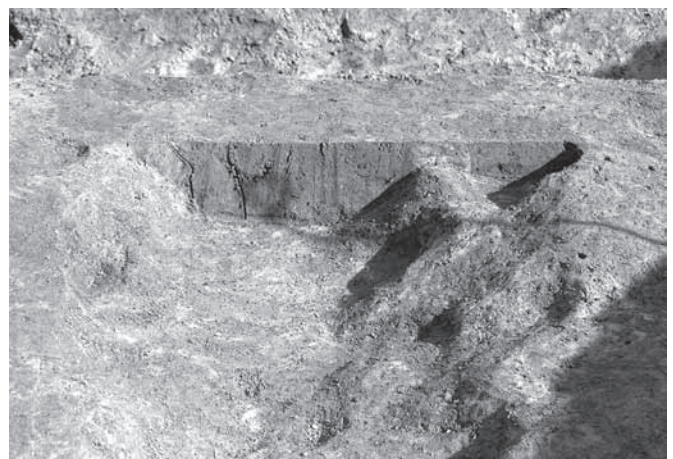
4. II区17号溝断面 南から



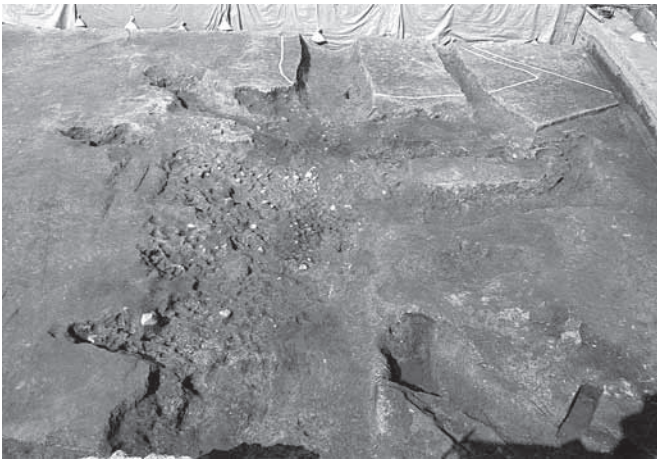
5. II区18,19号溝全景 南西から



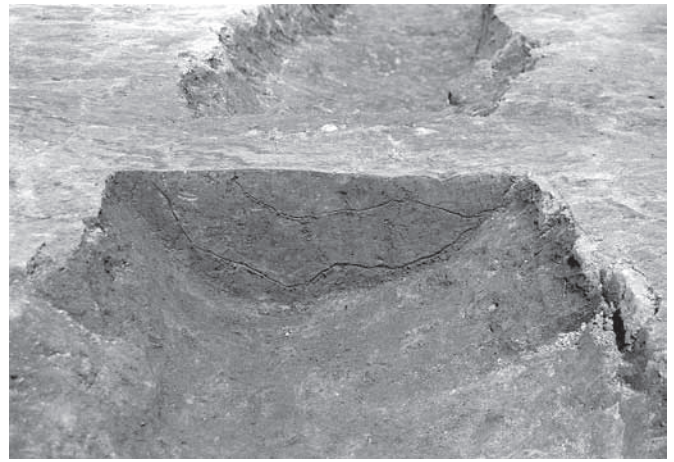
6. II区18号溝断面 西から



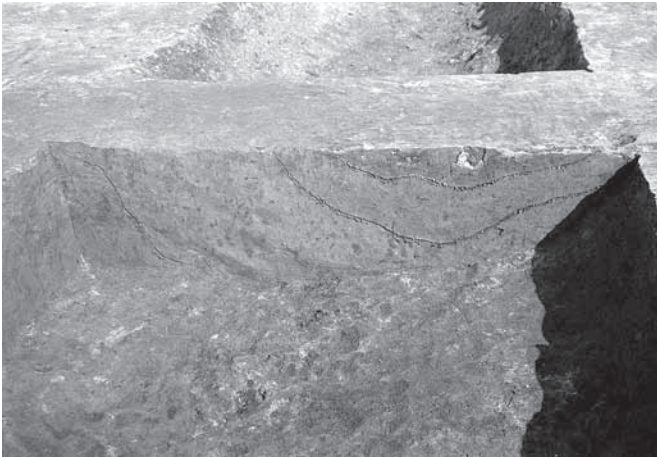
7. II区19号溝断面 西から



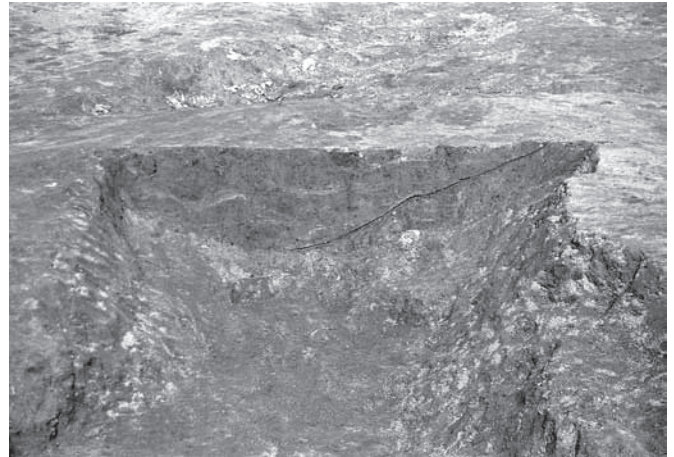
1. Ⅲ区52号溝周辺溝群の全景 南から



2. Ⅲ区51号溝断面 南から



3. Ⅲ区52号溝断面 南から



4. Ⅲ区53号溝断面 南東から



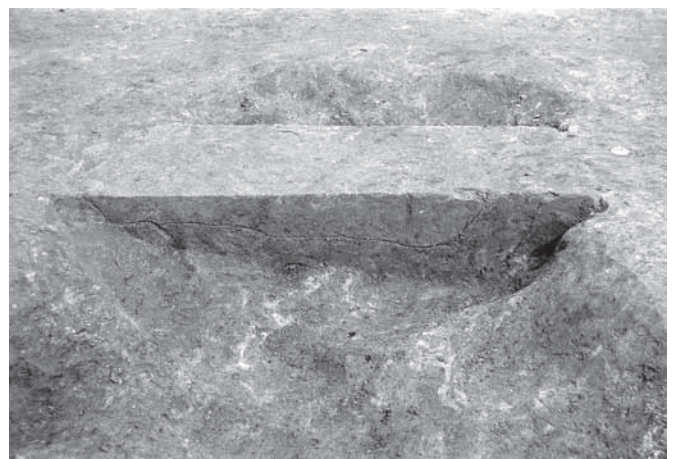
5. Ⅲ区54号溝断面 東から



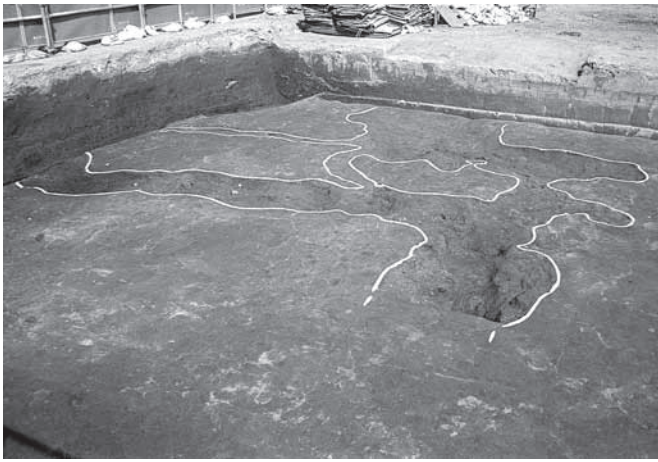
6. Ⅲ区56号溝断面 東から



7. Ⅲ区59号溝断面 西から



8. Ⅲ区62号溝断面 西から



1. Ⅲ区49,65,67,68号溝全景 南東から



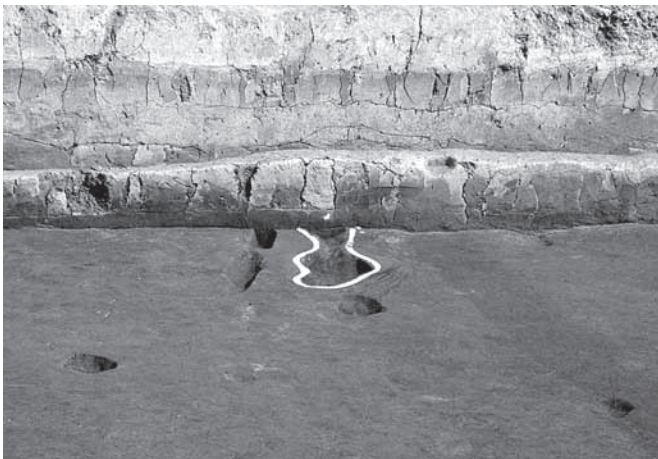
2. Ⅲ区61号溝断面 西から



3. Ⅲ区64号溝全景 南から



4. Ⅲ区64号溝断面 北から



5. Ⅲ区66号溝全景 南から



6. Ⅲ区66号溝断面 南から



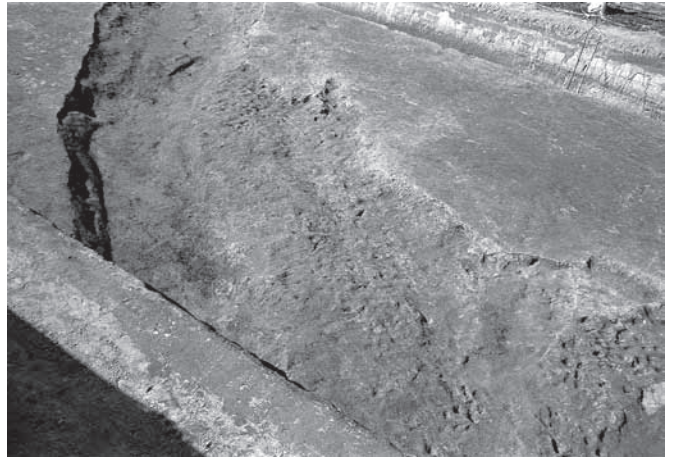
7. Ⅲ区67号溝断面 南から



8. Ⅲ区68号溝断面 北西から



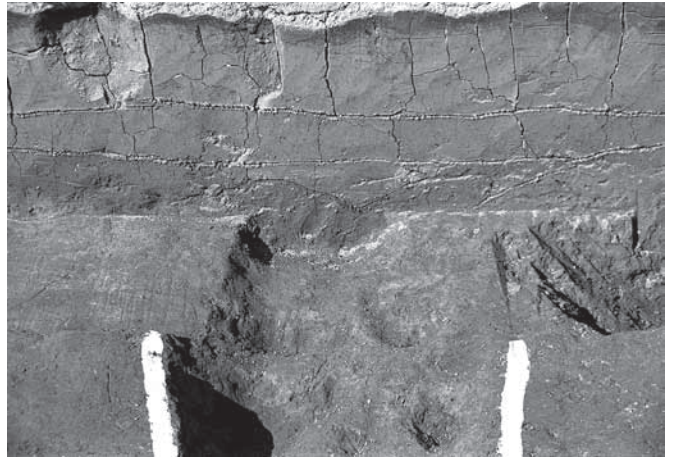
1. IV区21号溝全景 南から



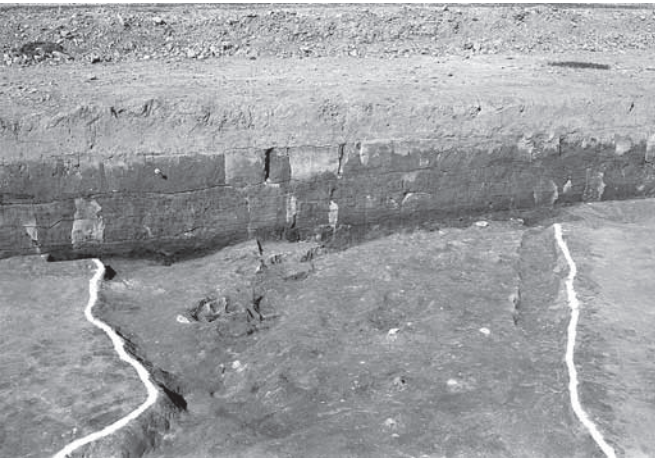
2. IV区22号溝・1号落ち込み部分 南東から



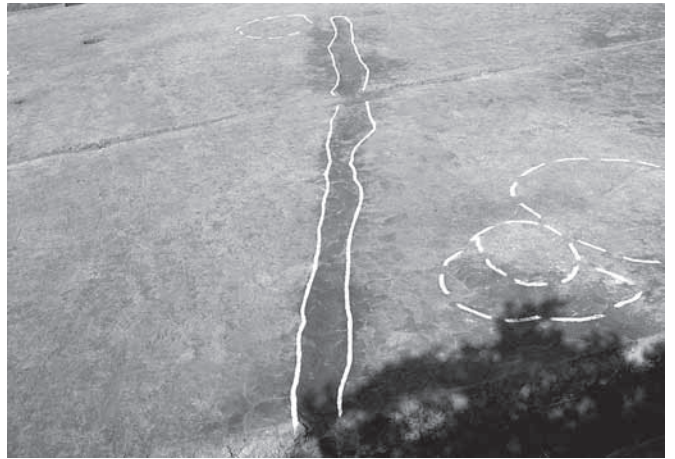
3. IV区24号溝全景 南から



4. IV区24号溝断面 南から



5. IV区25,26,30,31号溝断面 南から



6. IV区27号溝全景 南から



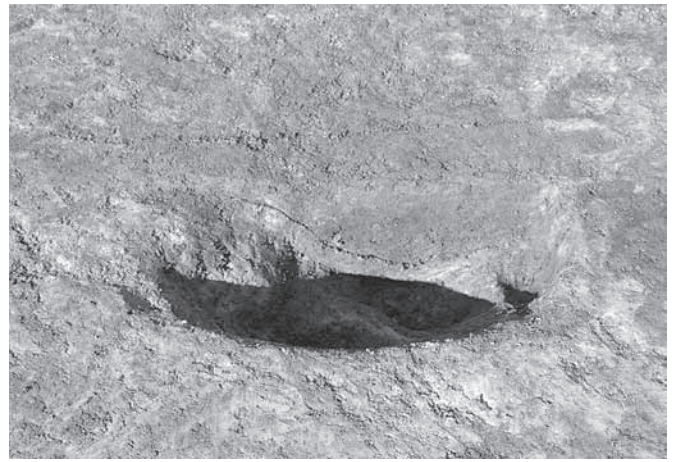
7. IV区28号溝全景 南から



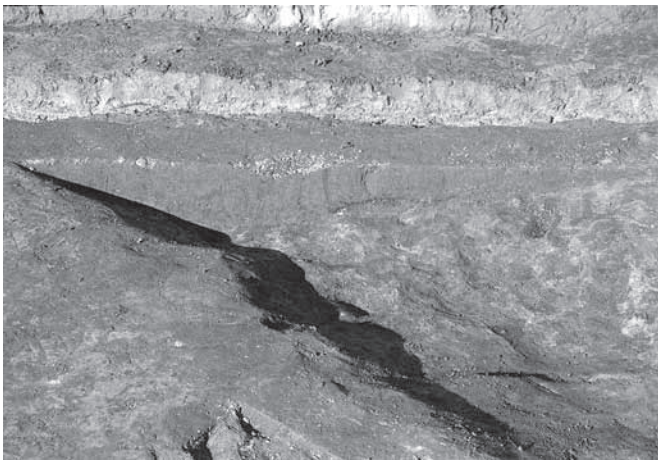
8. IV区29号溝全景 南から



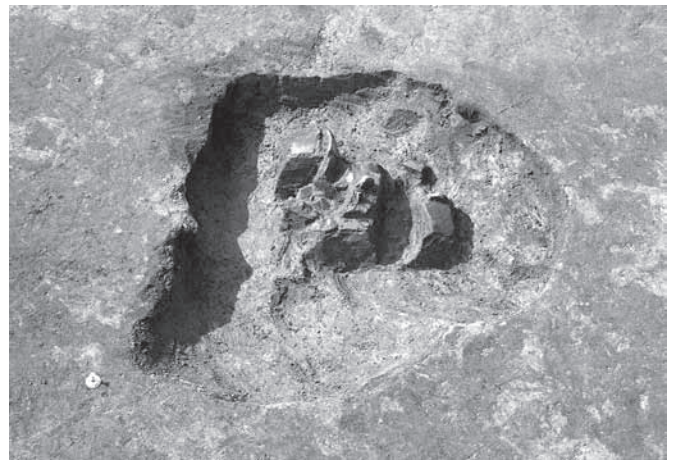
1. IV区1号落ち込み全景 南から



2. II区15号土坑断面 南東から



3. II区16号土坑断面 南から



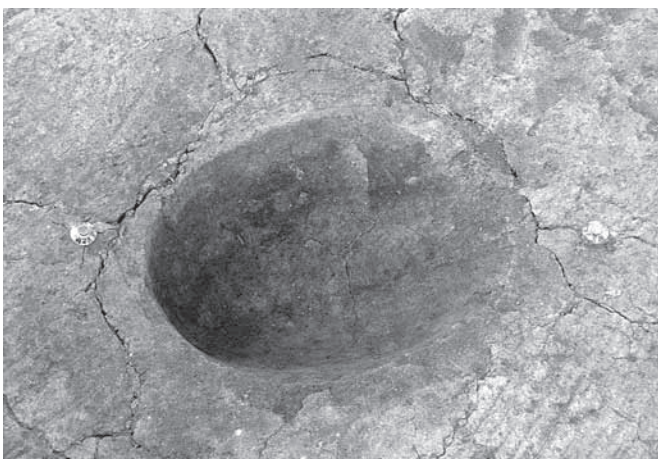
4. III区35号土坑遺物出土状態 東から



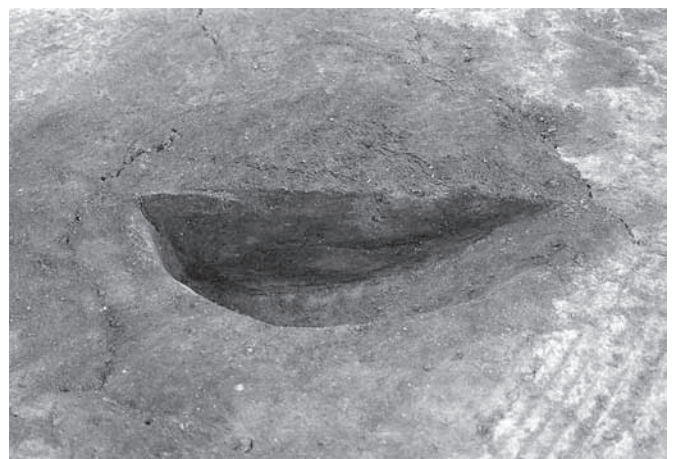
5. III区36号土坑遺物出土状態 北から



6. IV区7号土坑断面 南から



7. IV区8号土坑全景 南から



8. IV区8号土坑断面 南から



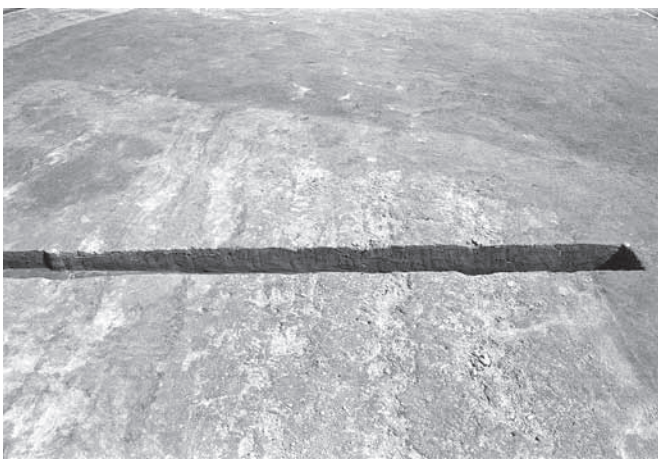
1. II区5面全景 北から



2. II区洪水層下水田103全景 南から



3. III区洪水層下水田115全景 南から



4. III区洪水層下水田鋤痕断面A-A' 南西から



5. III区洪水層下水田109全景 東から





1. Ⅲ区5面全景 北から



2. Ⅲ区追加部分5面全景 南から



3. Ⅲ区5面作業風景



4. Ⅲ区洪水層下水田119全景 北から



5. Ⅲ区洪水層下水田110全景 南から



1. IV区5面全景



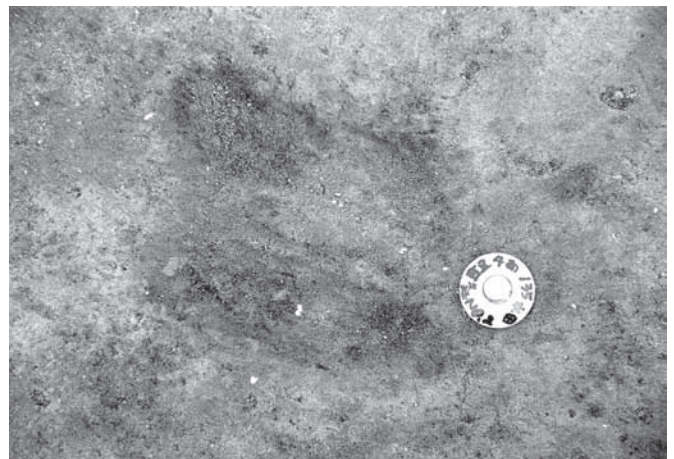
2. III区洪水層下水田128全景 北東から



3. III区洪水層下水田135全景 北から



4. III区洪水層下水田断面B-B' 南から



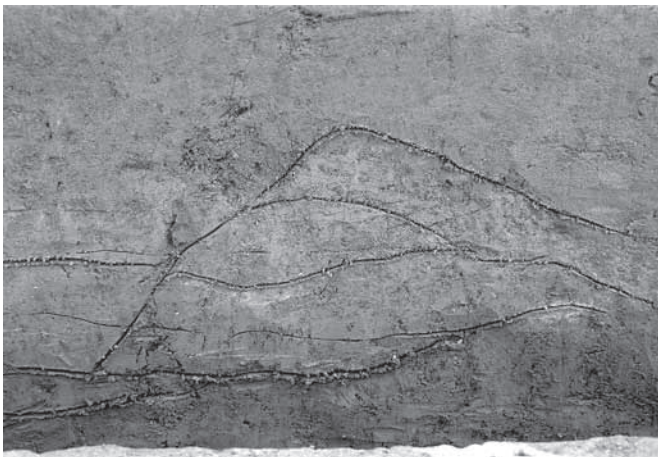
5. III区洪水層下水田牛の跡 南から



1. Ⅲ区洪水層下水田断面D-D' 南から



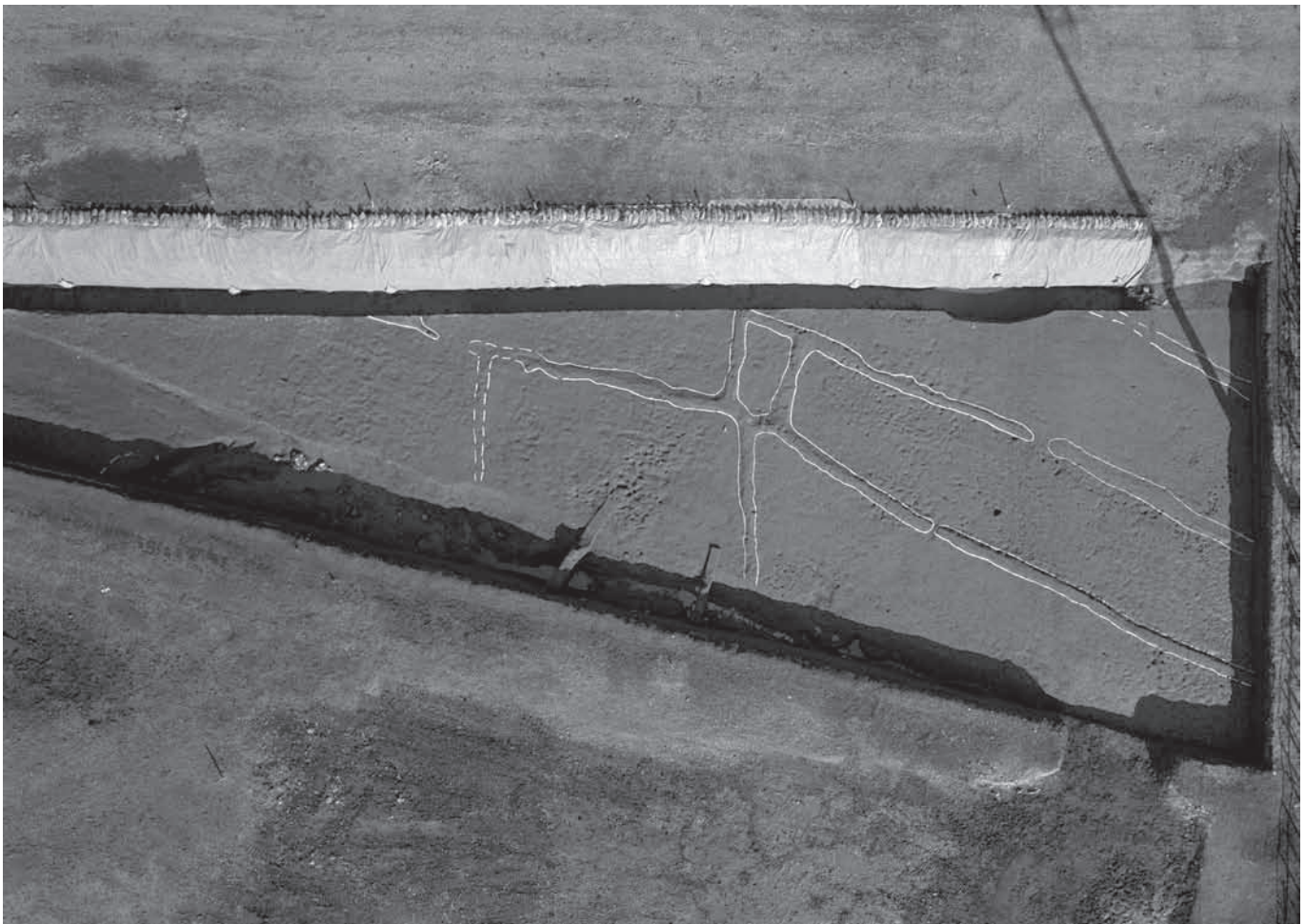
2. Ⅲ区洪水層下水田断面A-A' 南から



3. Ⅳ区洪水層下水田113の畦断面 北から



4. Ⅳ区洪水層下水田121の畦断面 北から



5. Ⅳ区追加部分5面全景



1. II区14号溝全景 北西から



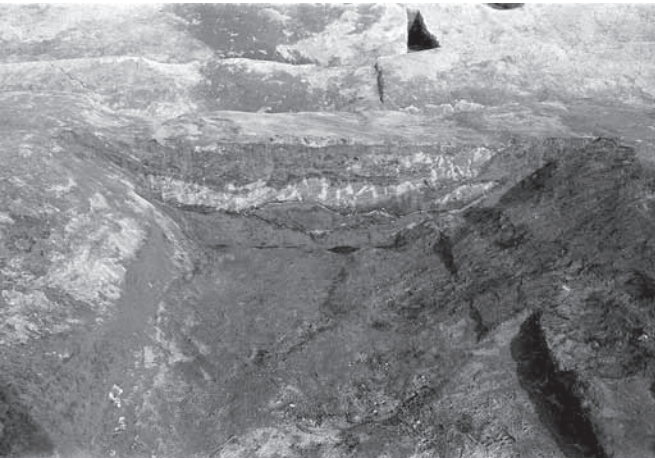
2. II区15号溝全景 北東から



3. II区14号溝断面 南東から



4. III区47号溝遺物出土状態 南から



5. III区47号溝断面 西から



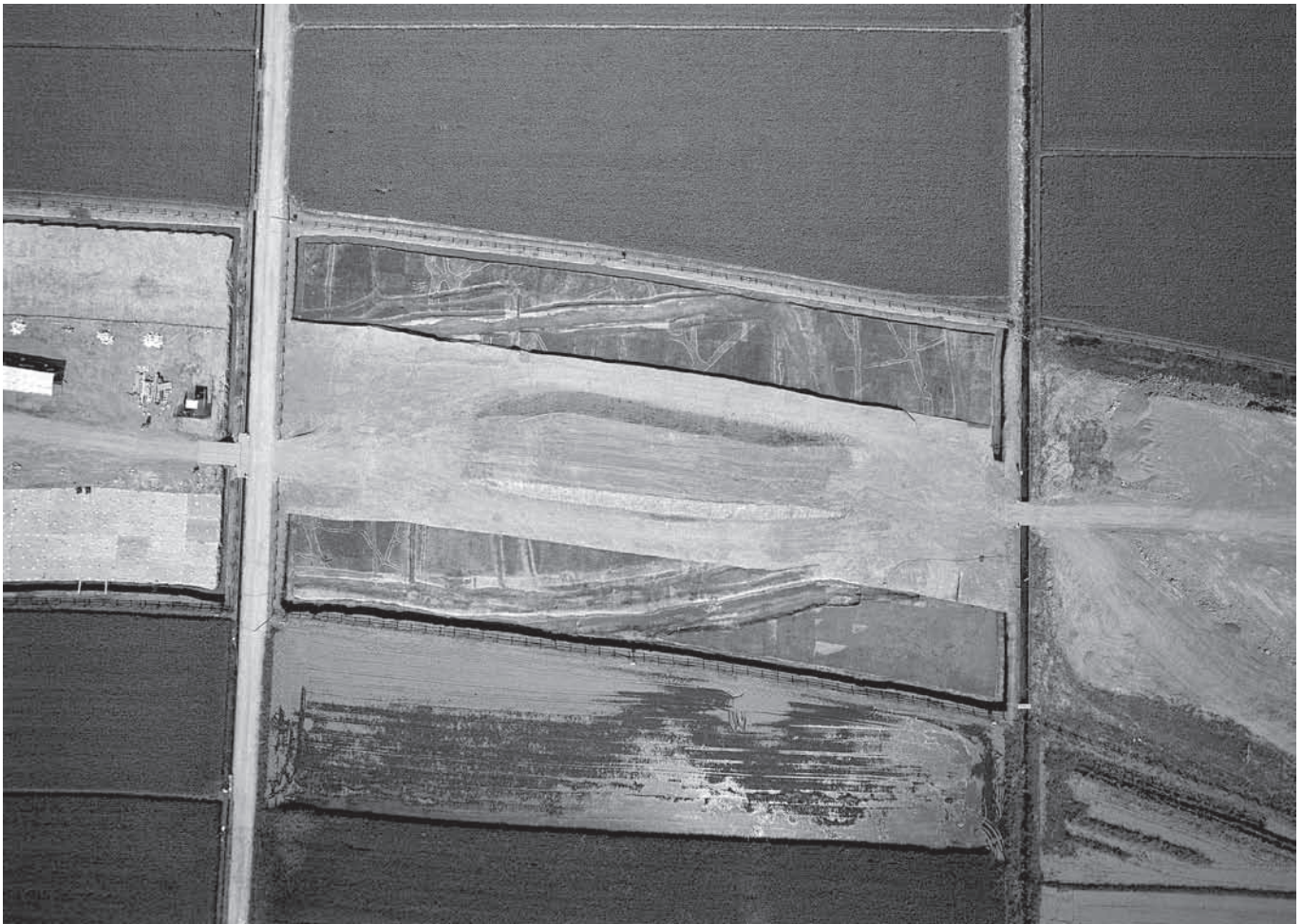
6. III区47号溝と138断面 東から



7. III区48号溝全景 南東から



8. IV区20号溝遺物出土状態 南東から



1. I区4面全景



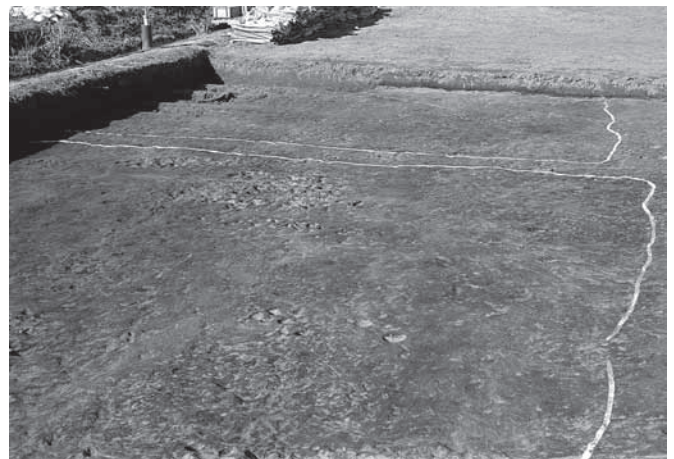
2. IV区南側4面全景



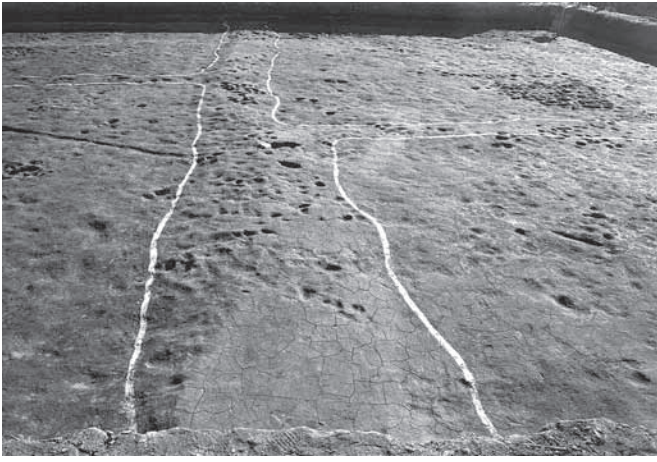
3. II区4面全景



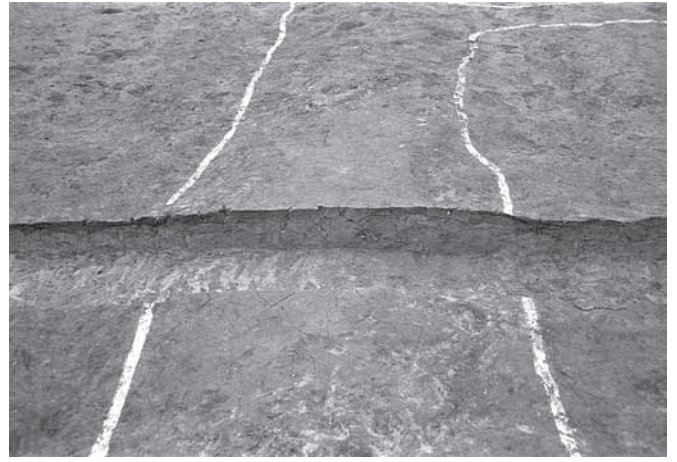
4. IV区北側4面全景



5. IV区As-B下水田5全景 南から



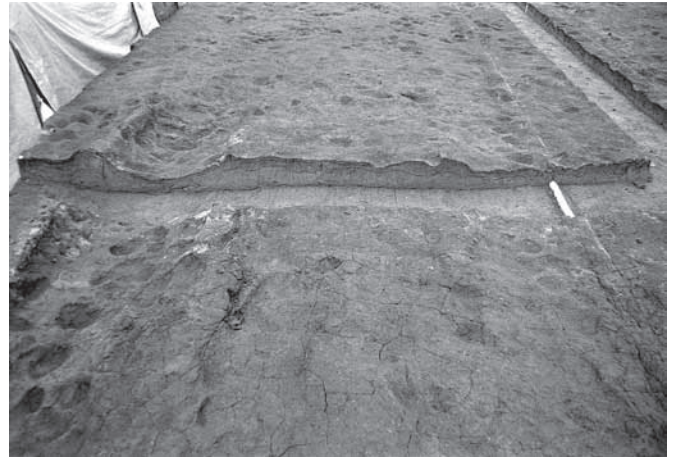
1. IV区As-B下水田大畦全景 北から



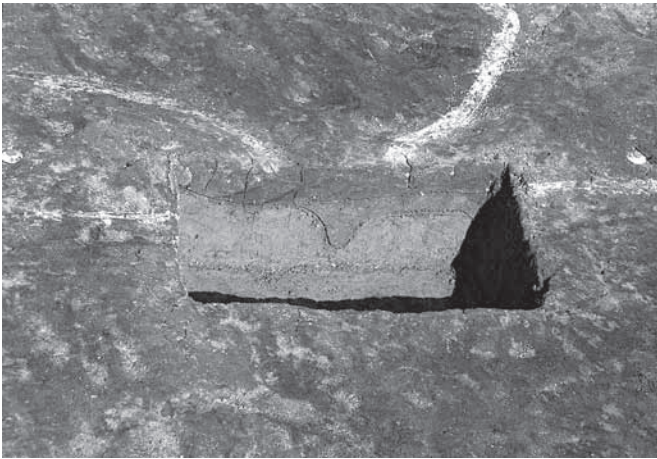
2. IV区As-B下水田大畦断面E-E' 南から



3. IV区As-B下水田4全景 南から



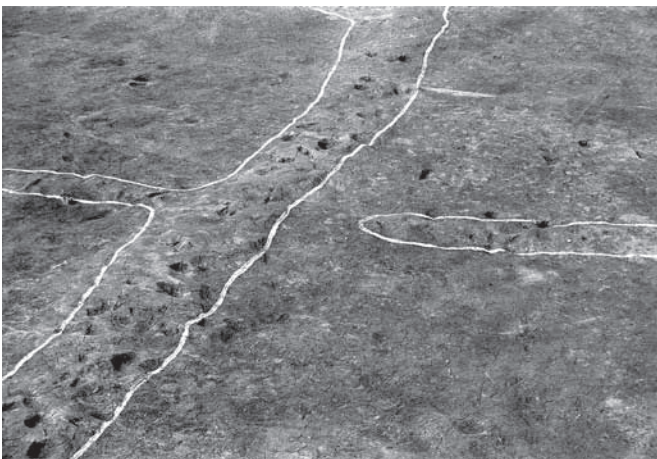
4. IV区As-B下水田断面F-F' 東から



5. IV区As-B下水田断面M-M' 南から



6. I区As-B下水田12全景 南から



7. I区As-B下水田22,24 全景 南から



8. I区As-B下水田断面J-J' 南から



1. I区20号溝全景 北から



2. II区9号溝全景 北から



3. II区10号溝全景 北から



4. II区11号溝全景 南東から



5. II区12号溝全景 南から



7. II区13号溝全景 南から



6. IV区1,2号溝全景 南から



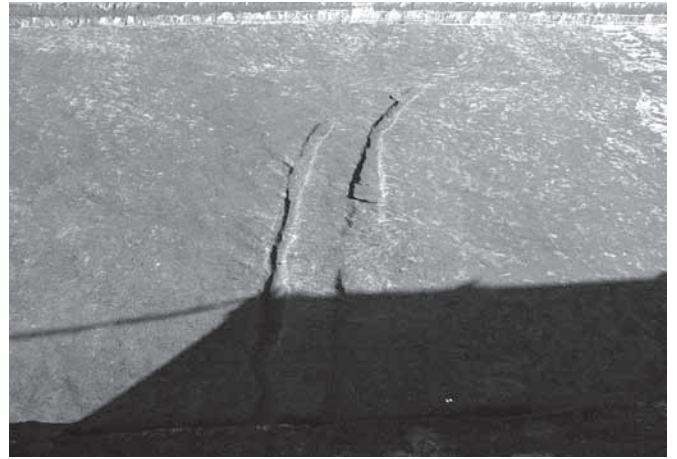
1. IV区3,5号溝全景 北から



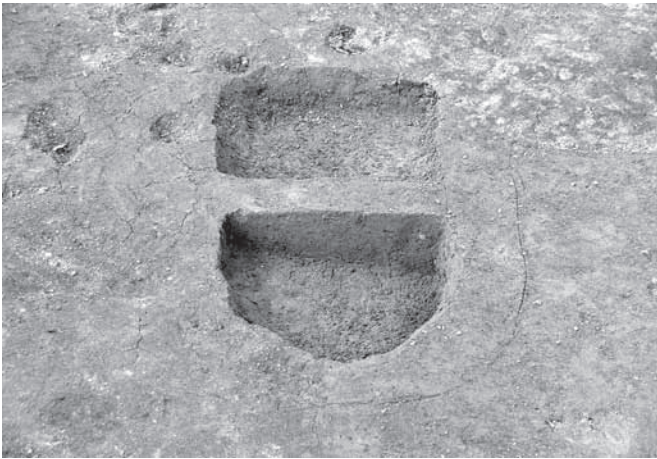
2. IV区5号溝断面 南東から



3. IV区6号溝全景 北から



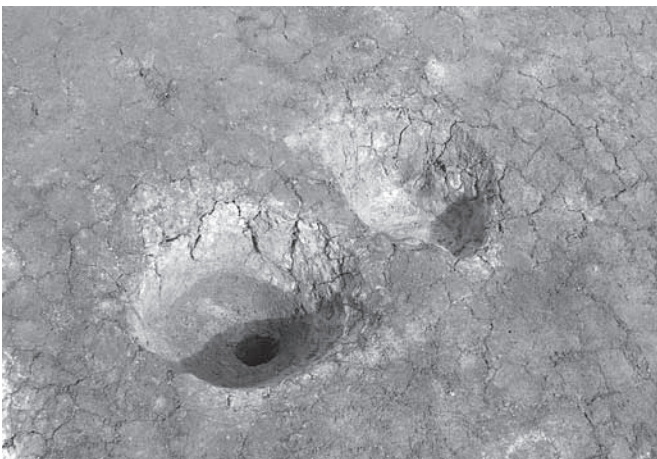
4. IV区15,16号溝全景 南から



5. I区2号土坑断面 南から



6. I区3号土坑全景 東から

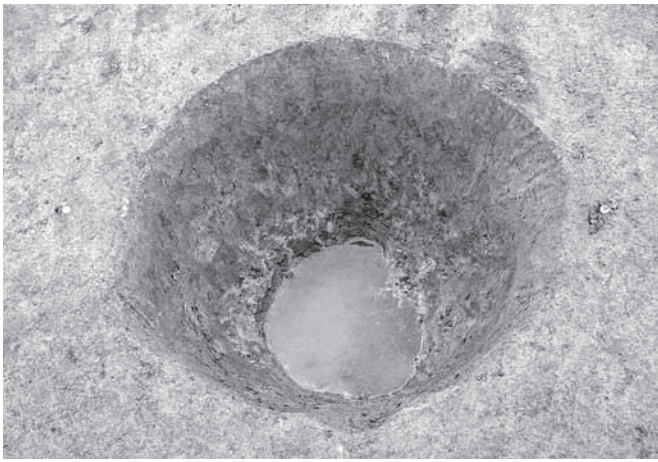


7. I区7,8号土坑全景 南から



8. I区13号土坑全景 南から





1. II区4号土坑全景 南から



2. II区4号土坑断面 南から



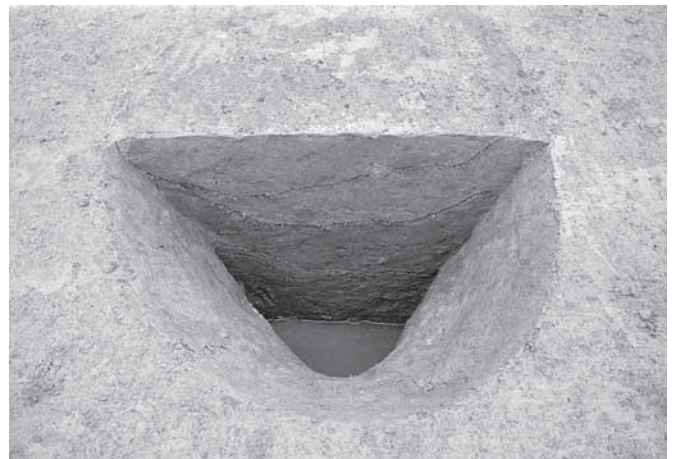
3. II区5号土坑全景 南から



4. II区5号土坑断面 東から



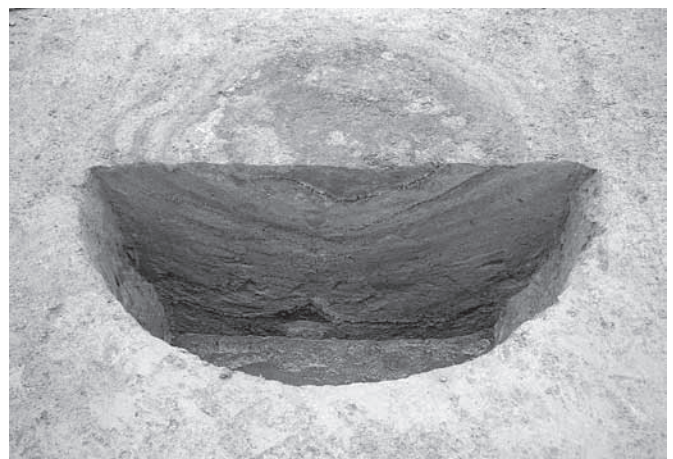
5. II区6号土坑全景 南から



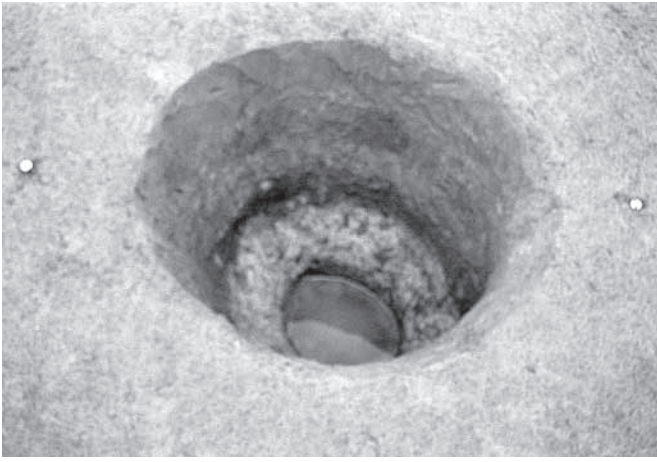
6. II区6号土坑断面 南から



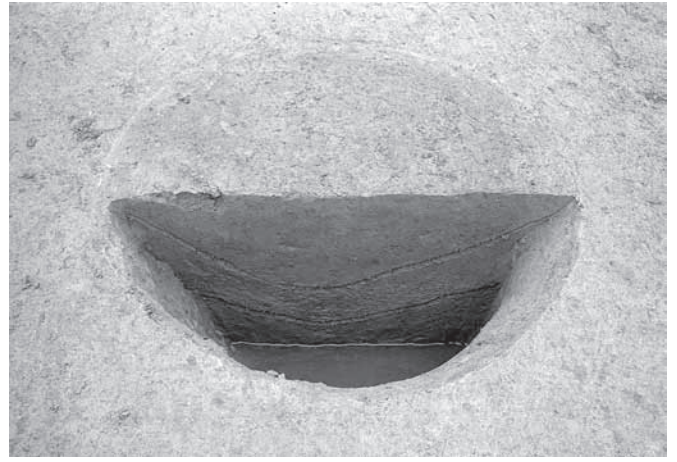
7. II区7号土坑全景 南から



8. II区7号土坑断面 南から



1. II区8号土坑全景 南から



2. II区8号土坑断面 南から



3. II区9号土坑全景 南から



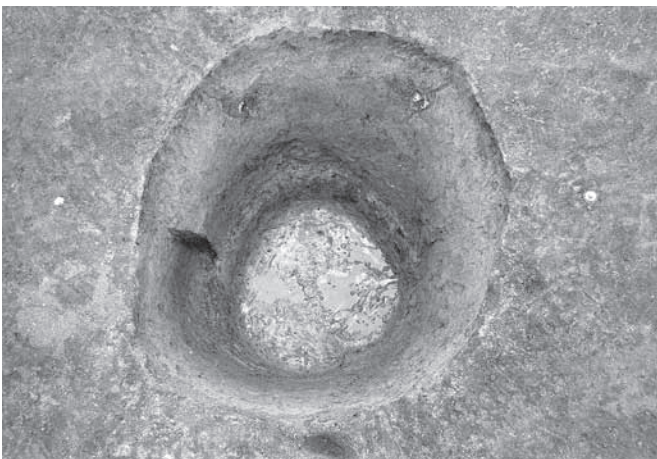
4. II区9号土坑断面 南から



5. II区10号土坑全景 南から



6. II区10号土坑断面 南から



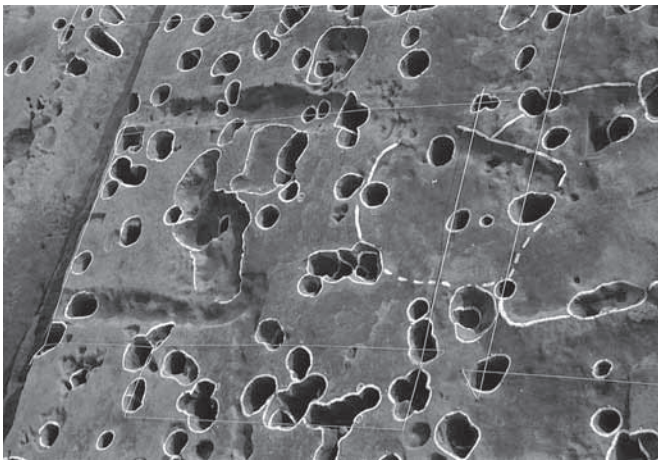
7. IV区4号土坑全景 南から



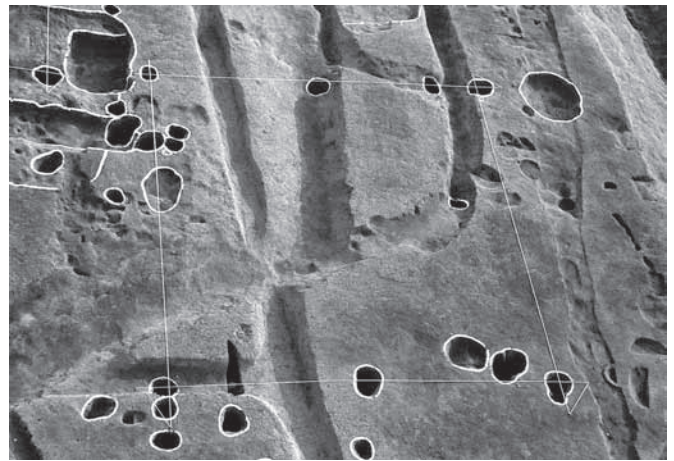
8. IV区4号土坑断面 南から



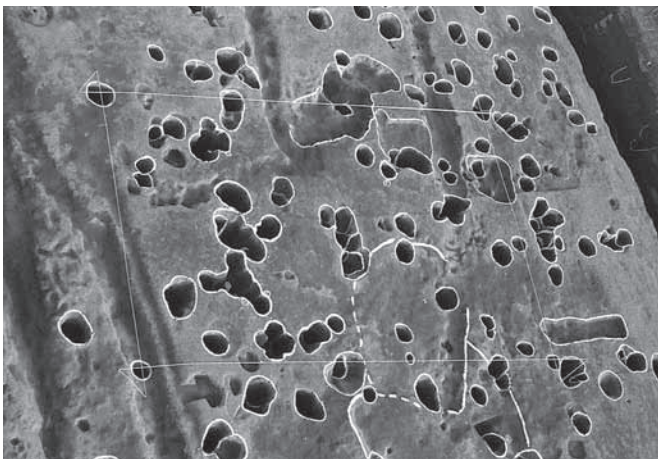
1. 調査区全景 西から



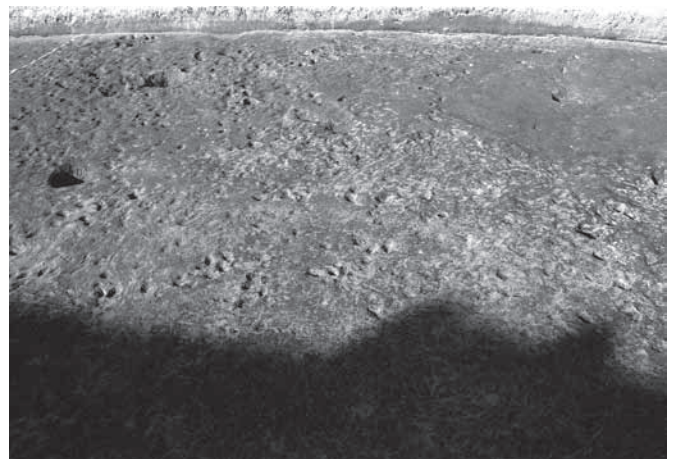
2. Ⅲ区1号掘立柱建物全景 北から



3. Ⅲ区4号掘立柱建物全景 北から



4. Ⅲ区9号掘立柱建物全景 西から



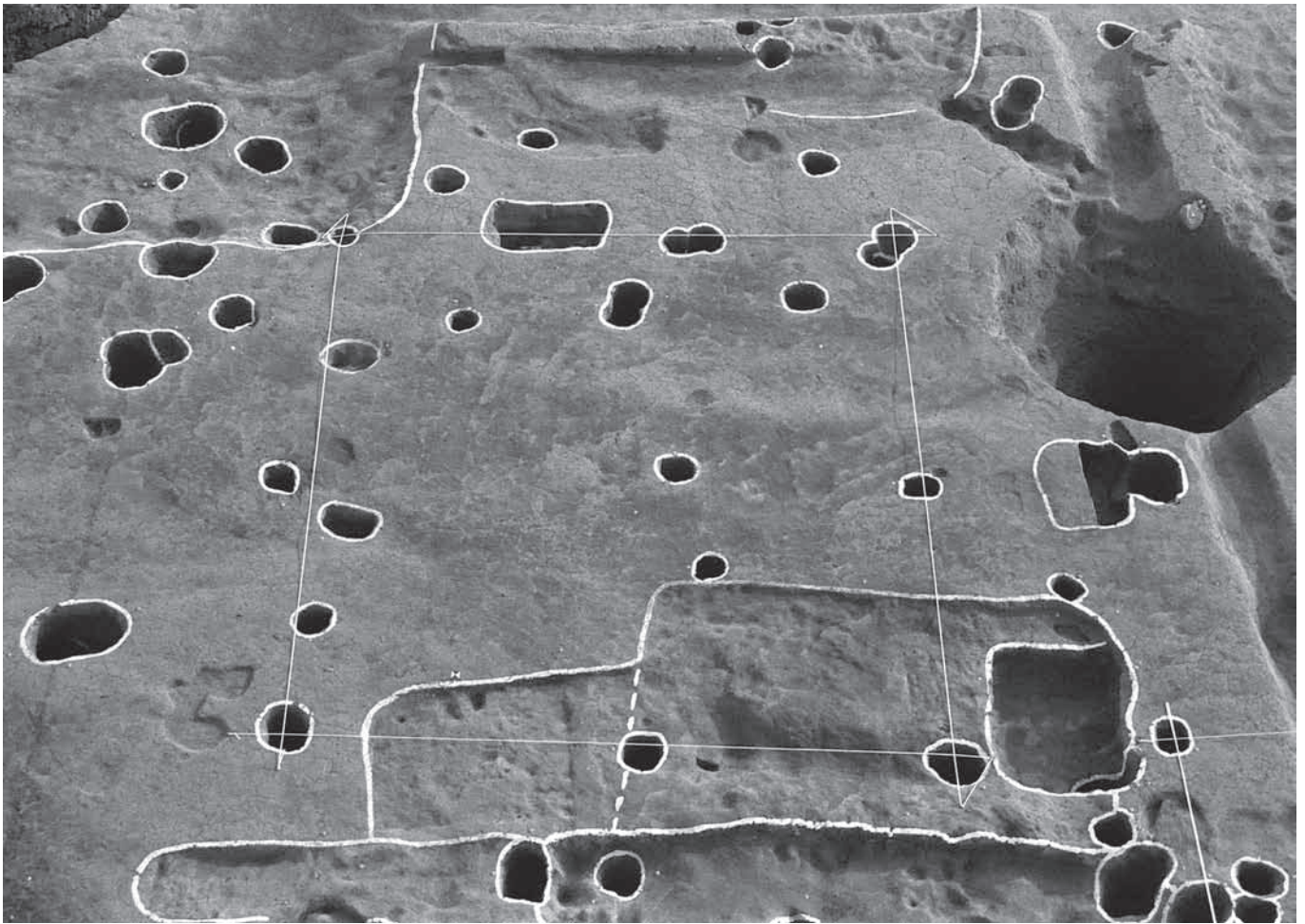
5. Ⅳ区1号掘立柱建物全景 南から



1. Ⅲ区3面全景



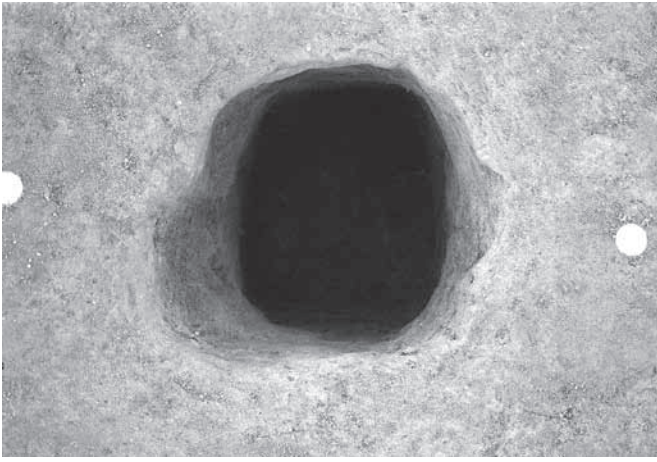
2. Ⅲ区掘立柱建物群全景 北から



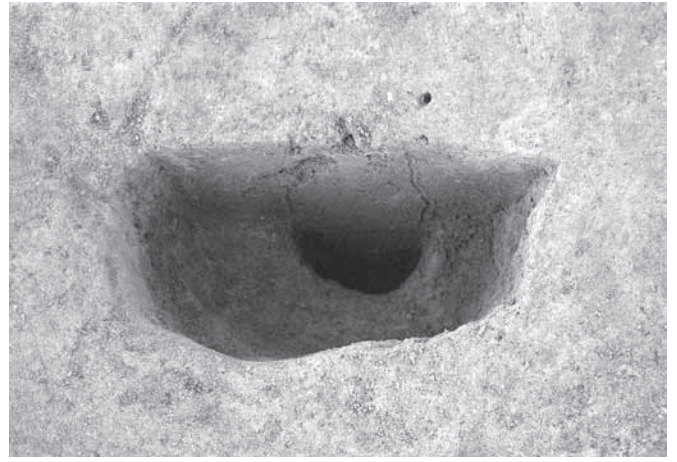
1. Ⅲ区7号掘立柱建物全景 北から



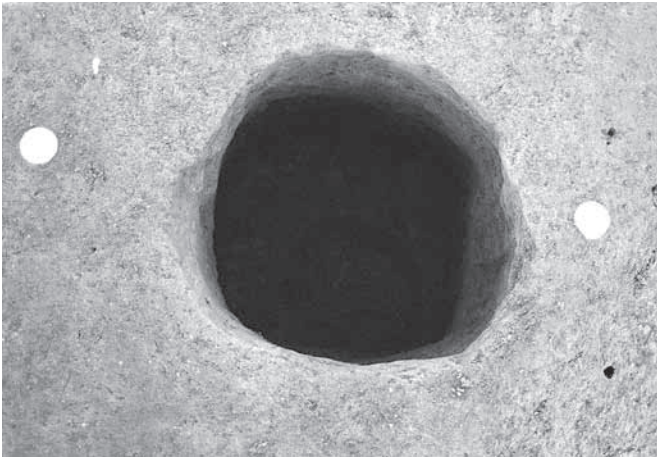
2. Ⅲ区8号掘立柱建物全景 北から



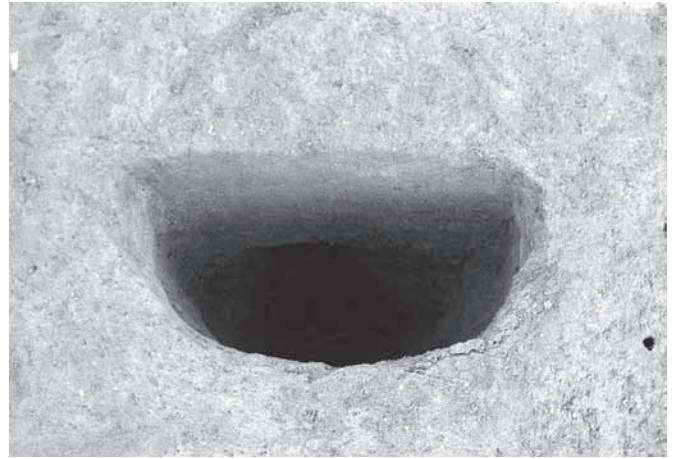
1. Ⅲ区12号掘立柱建物P2全景 東から



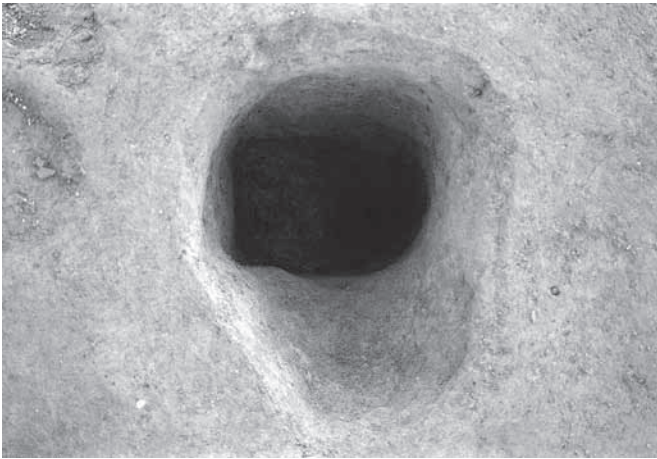
2. Ⅲ区12号掘立柱建物P2断面 東から



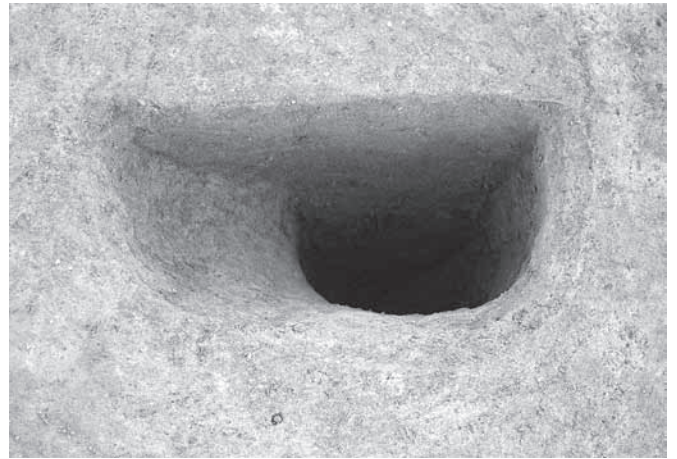
3. Ⅲ区12号掘立柱建物P3全景 南から



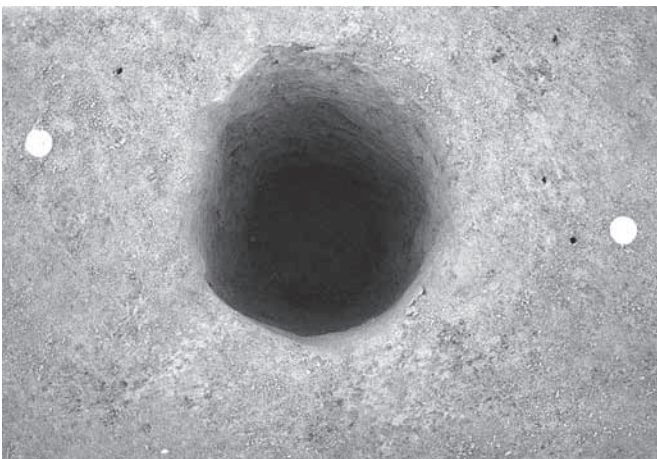
4. Ⅲ区12号掘立柱建物P3断面 南から



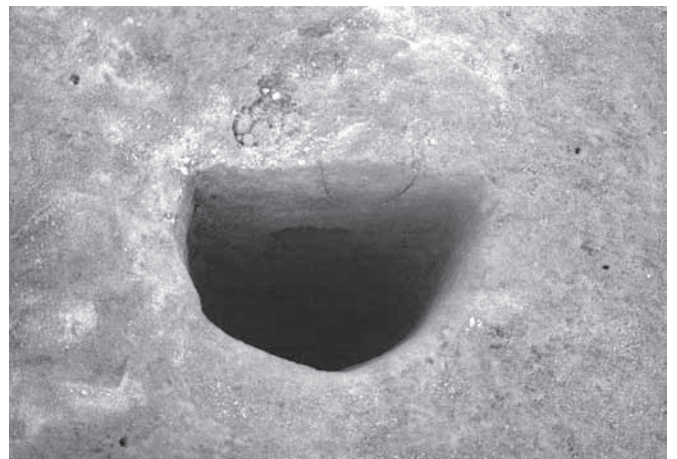
5. Ⅲ区12号掘立柱建物P4全景 北から



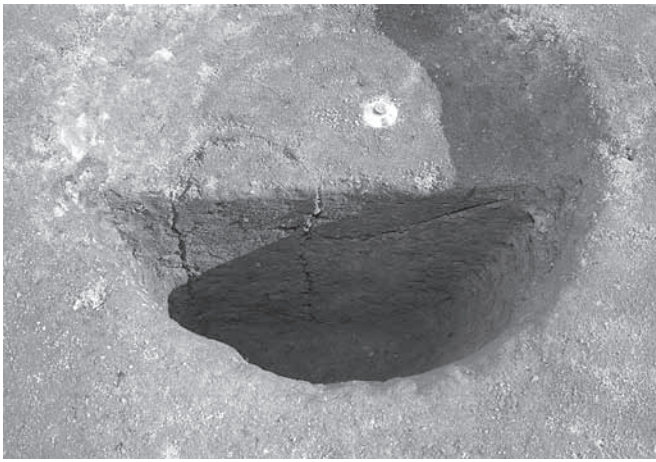
6. Ⅲ区12号掘立柱建物P4断面 西から



7. Ⅲ区12号掘立柱建物P6全景 南から



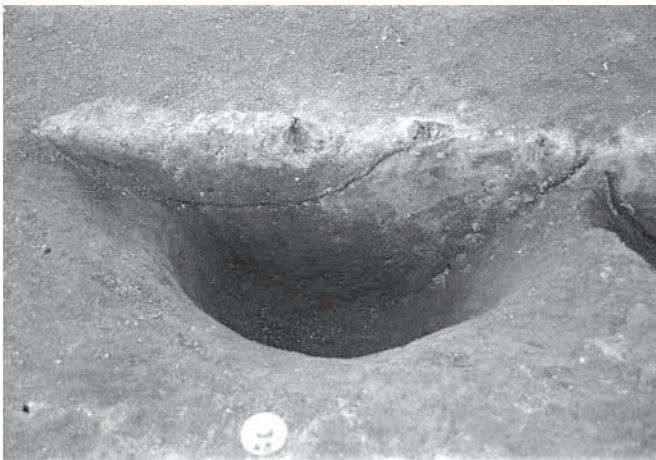
8. Ⅲ区12号掘立柱建物P6断面 南から



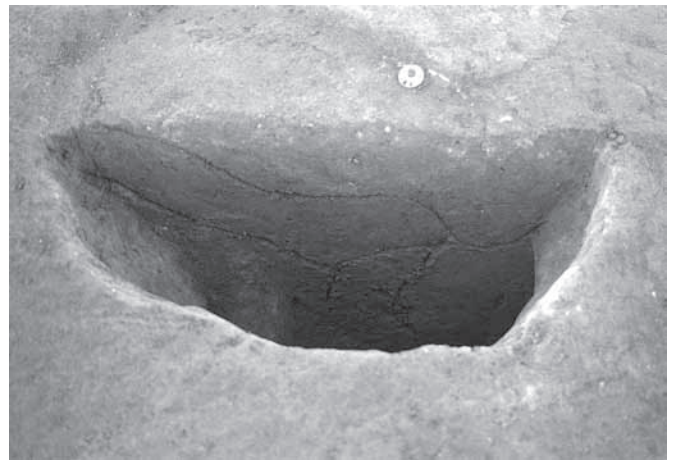
1. Ⅲ区1号掘立柱建物P4断面 南から



2. Ⅲ区1号掘立柱建物P6断面 東から



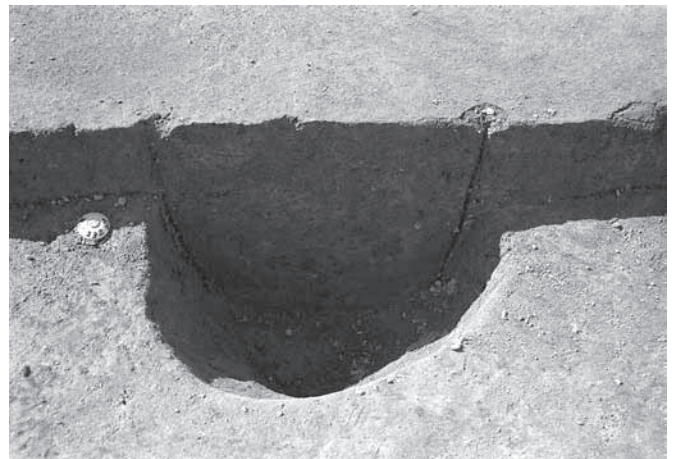
3. Ⅲ区2号掘立柱建物P7断面 南から



4. Ⅲ区3号掘立柱建物P4断面 南から



5. Ⅲ区3号掘立柱建物P5断面 東から



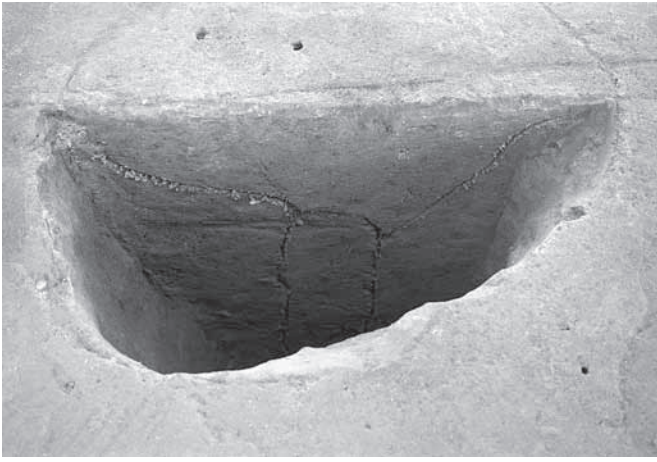
6. Ⅲ区3号掘立柱建物P7断面 東から



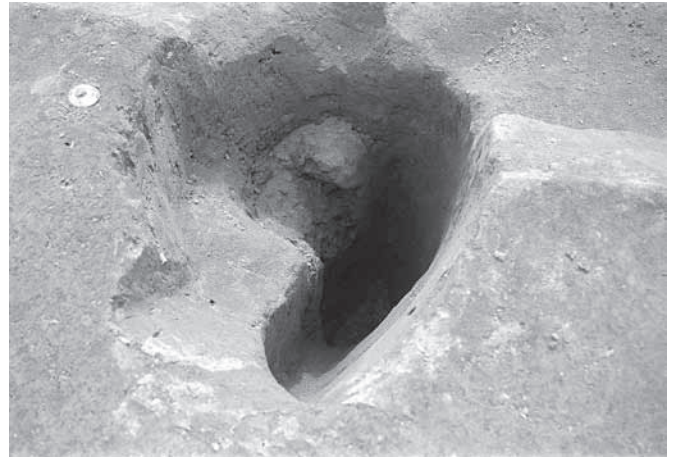
7. Ⅲ区3号掘立柱建物P8断面 南から



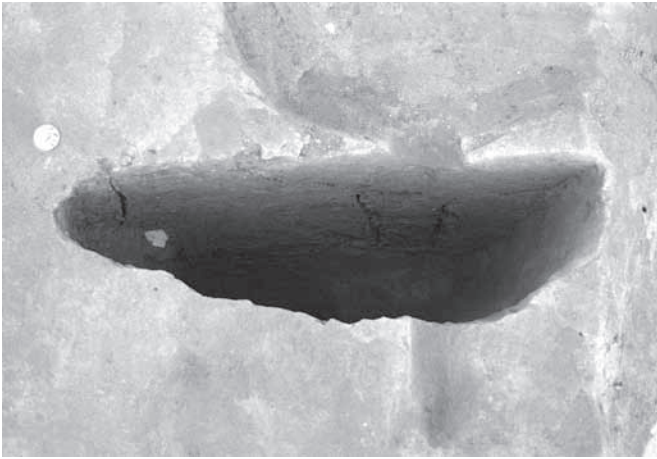
8. Ⅲ区3号掘立柱建物P9断面 東から



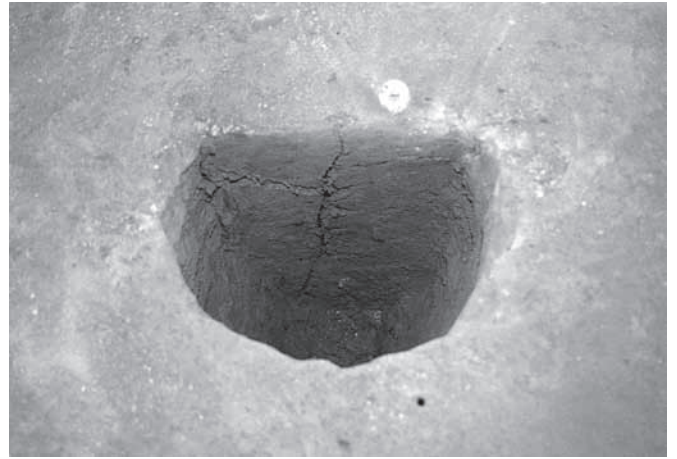
1. Ⅲ区3号掘立柱建物P10断面 南から



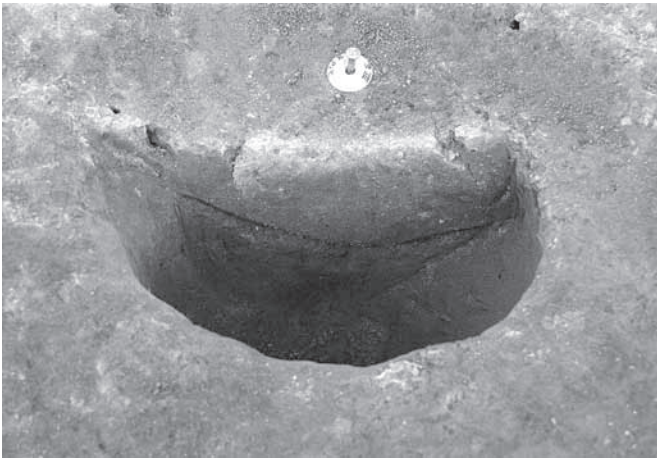
2. Ⅲ区4号掘立柱建物P8断面 西から



3. Ⅲ区6号掘立柱建物P6断面 南から



4. Ⅲ区7号掘立柱建物P8断面 南から



5. Ⅲ区7号掘立柱建物P12断面 南から



6. Ⅲ区10号掘立柱建物P5断面検出状況

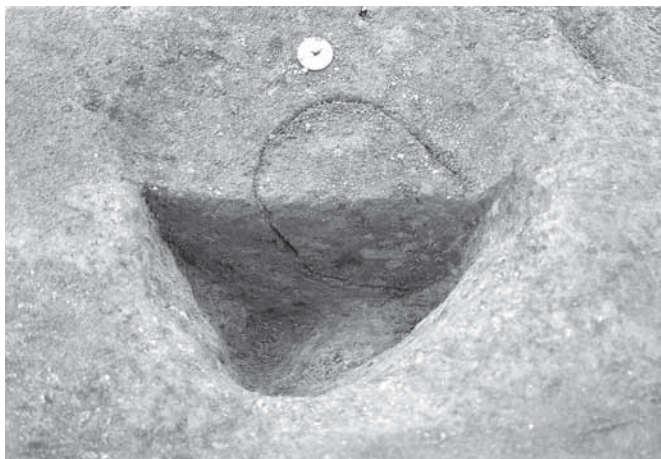


7. Ⅲ区13号掘立柱建物P6断面 南から



8. Ⅲ区13号掘立柱建物P9断面 東から





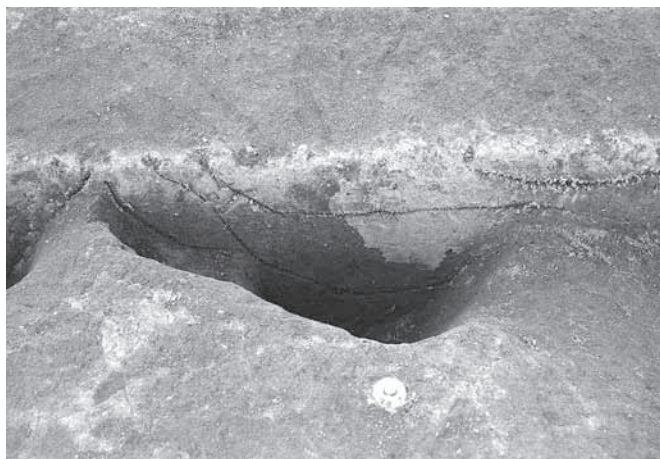
1. Ⅲ区15号掘立柱建物P6断面 南から



2. Ⅲ区15号掘立柱建物P5 遺物出土状態



3. Ⅲ区16号掘立柱建物P5断面 南から



4. Ⅲ区17号掘立柱建物P5断面 南から



5. Ⅲ区18号掘立柱建物P13断面 南から



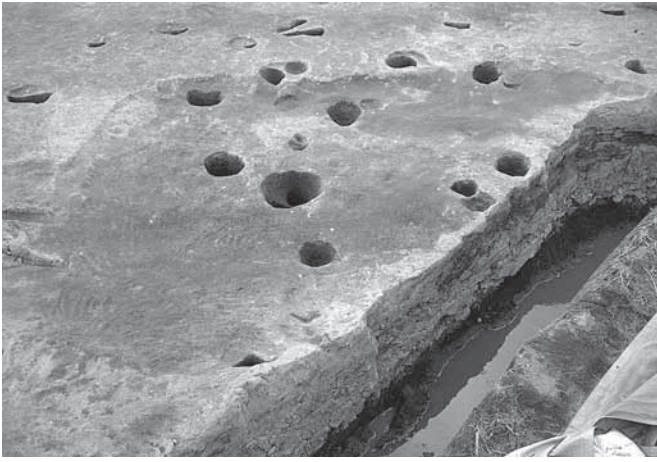
6. Ⅲ区18号掘立P13,Ⅲ区21号掘立P4断面 南から



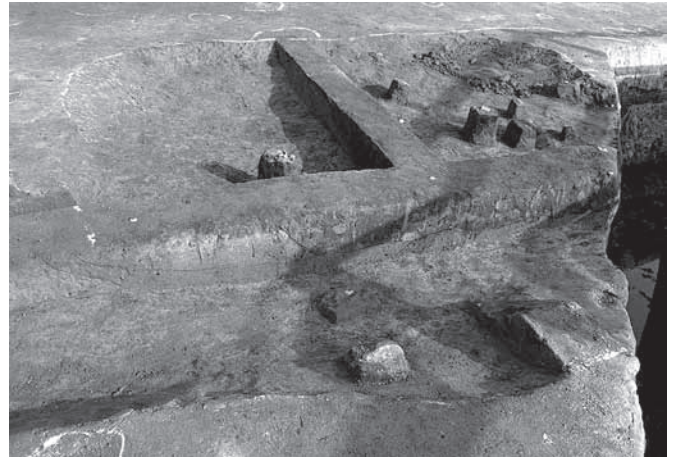
7. Ⅲ区19号掘立柱建物P3断面 南から



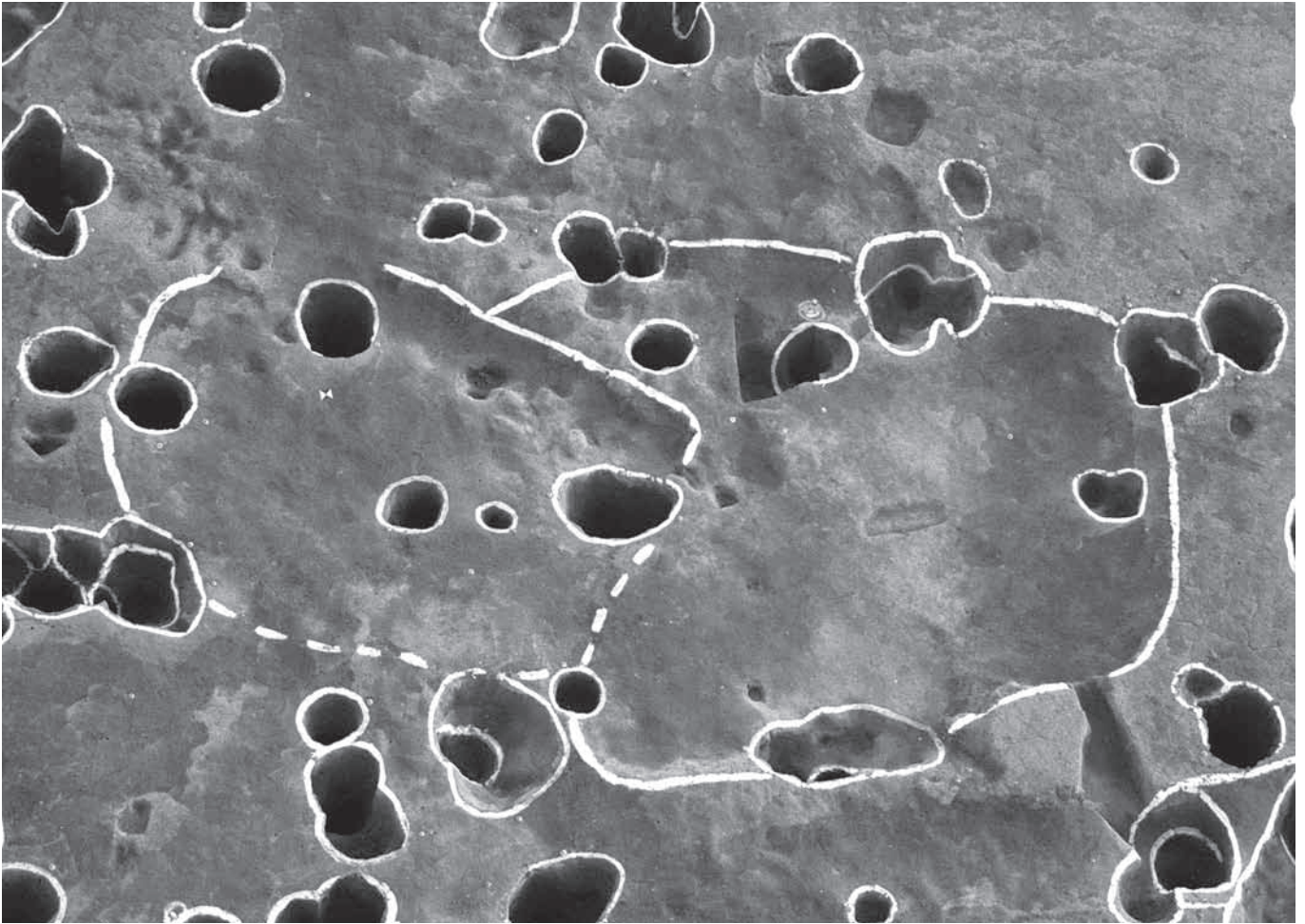
8. Ⅲ区22号掘立柱建物P6断面 東から



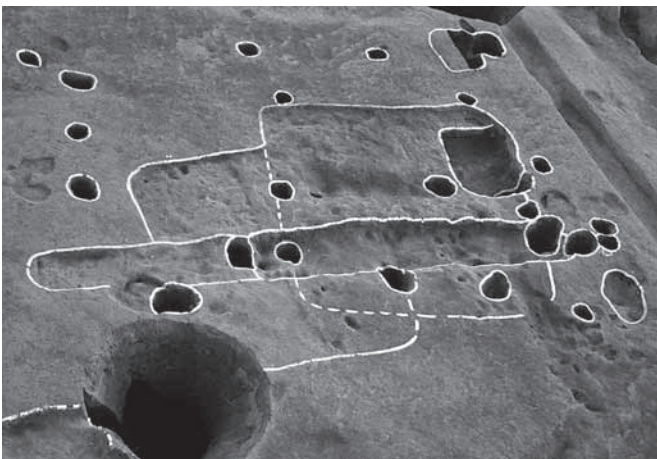
1. Ⅲ区1号竪穴全景 南から



2. Ⅲ区1号竪穴断面 南から



3. Ⅲ区2,3号竪穴全景 北から



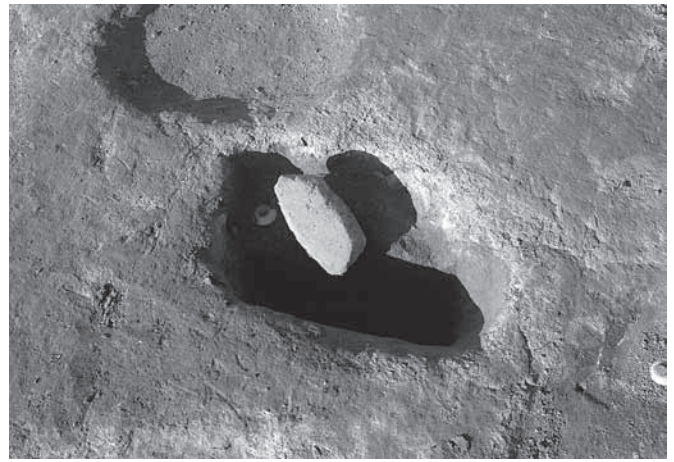
4. Ⅲ区4,5号竪穴全景 北から



5. Ⅲ区3号落ち込み断面 北から



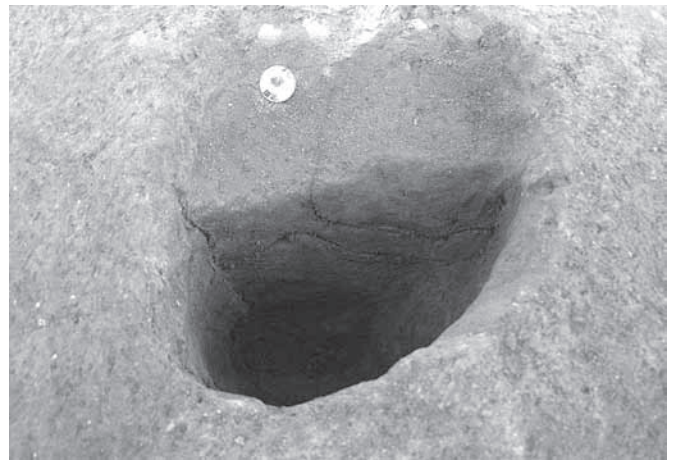
1. Ⅲ区1号竪穴ピット1断面 南から



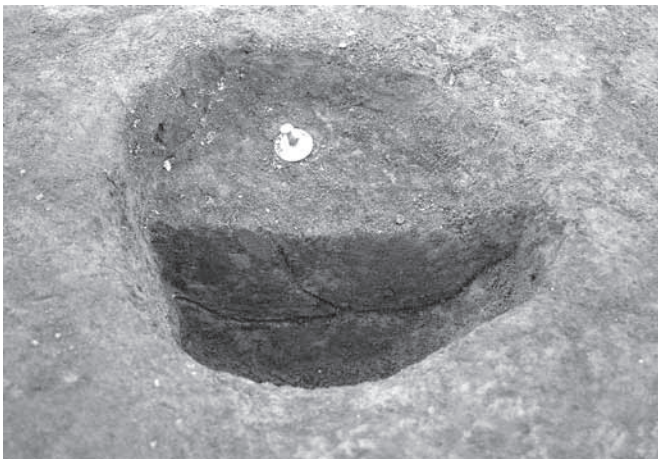
2. Ⅲ区22ピット 遺物出土状態



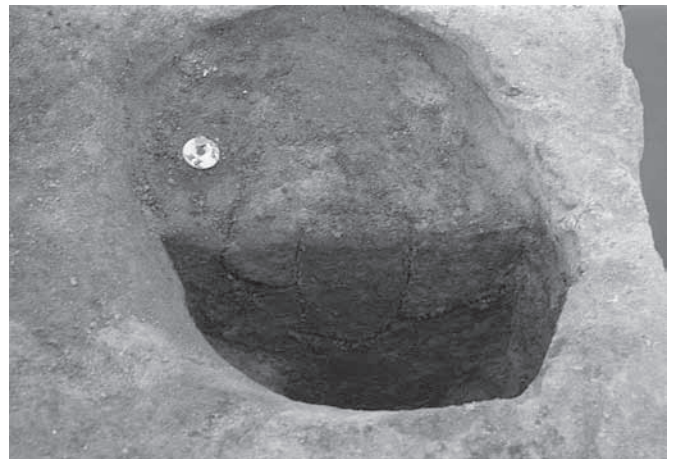
3. Ⅲ区51ピット断面 南東から



4. Ⅲ区74ピット断面 南から



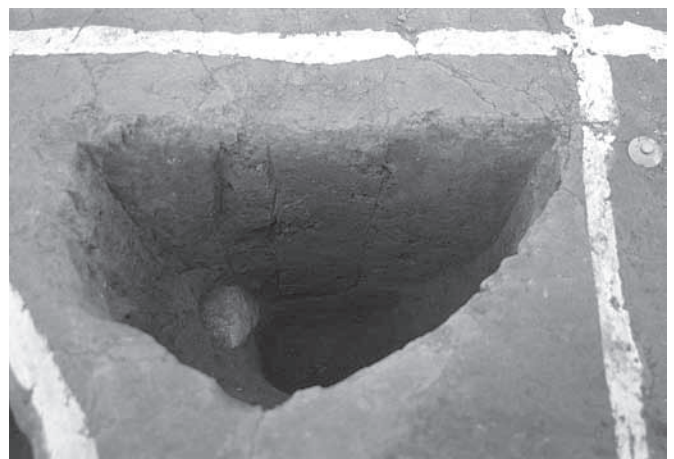
5. Ⅲ区96ピット断面 北西から



6. Ⅲ区97ピット断面 南西から



7. Ⅲ区209ピット断面 東から



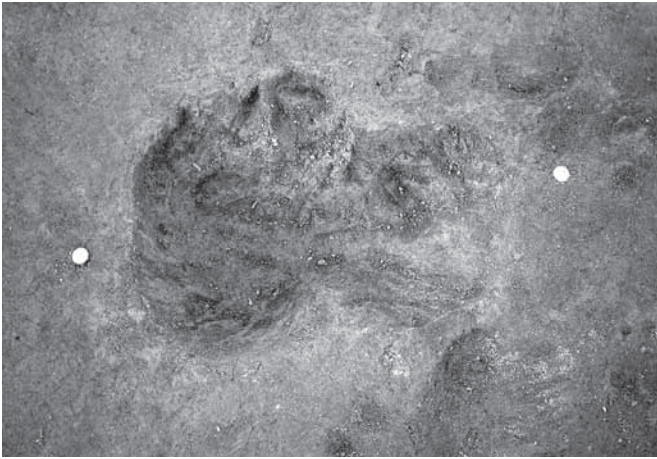
8. Ⅲ区342ピット断面 西から



1. Ⅲ区378ピット断面(柱痕) 東から



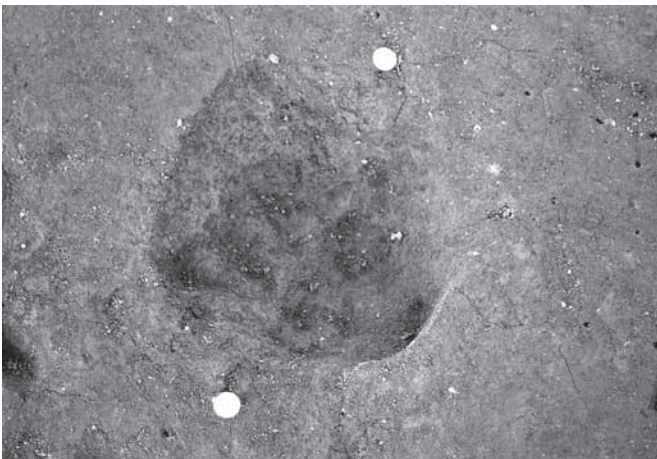
2. Ⅲ区402ピット断面 北西から



3. Ⅲ区501,502ピット全景 南から



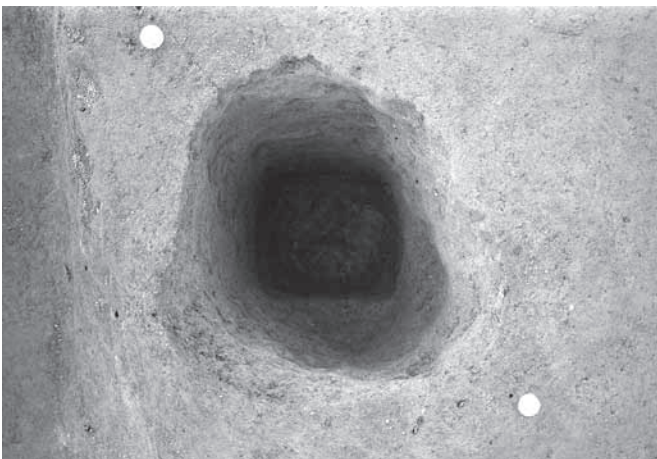
4. Ⅲ区501,502ピット断面 南から



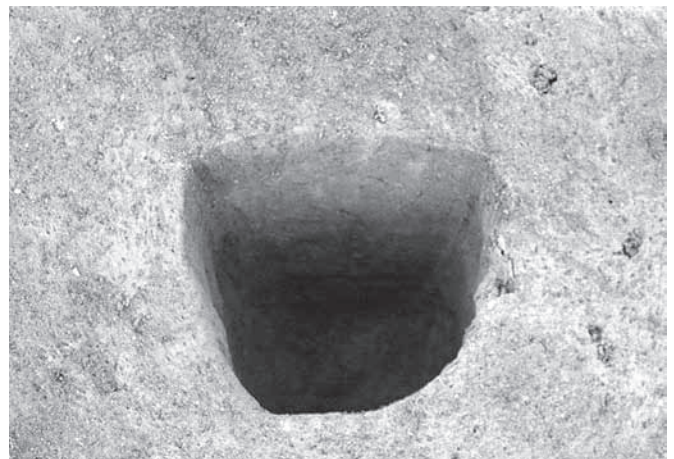
5. Ⅲ区503ピット全景 南から



6. Ⅲ区503ピット断面 東から



7. Ⅲ区507ピット全景 東から



8. Ⅲ区507ピット断面 南から



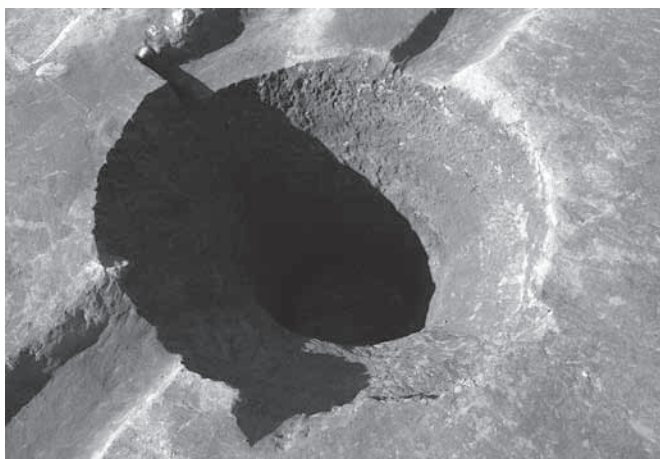
1. Ⅲ区1号井戸 遺物出土状態



2. Ⅲ区1号井戸全景 北から



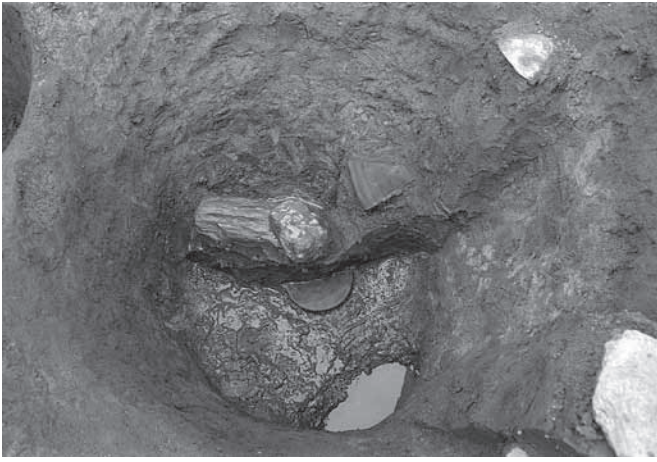
3. Ⅲ区1号井戸断面 北から



4. Ⅲ区2号井戸全景 南東から



5. Ⅲ区2号井戸断面 北から



1. Ⅲ区3号井戸 遺物出土状態



2. Ⅲ区3号井戸断面 南から



3. Ⅲ区4号井戸全景 東から



4. Ⅲ区4号井戸断面 東から



5. Ⅲ区5号井戸全景 南から



6. Ⅲ区5号井戸断面 南から



7. Ⅲ区6号井戸全景 東から



8. Ⅲ区6号井戸断面 東から



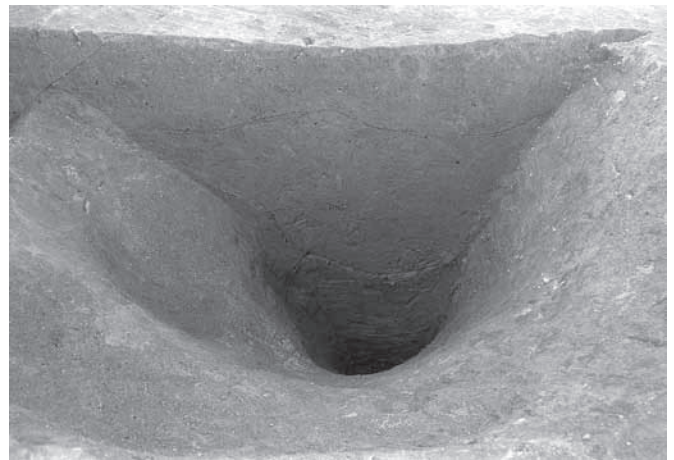
1. Ⅲ区7号井戸全景 東から



2. Ⅲ区7号井戸断面 西から



3. Ⅲ区8号井戸全景 北から



4. Ⅲ区8号井戸断面 東から



5. Ⅲ区9号井戸全景 南から



6. Ⅲ区9号井戸断面 西から



7. Ⅲ区10号井戸全景 南から



8. Ⅲ区10号井戸断面 南から



1. Ⅲ区11号井戸全景 東から



2. Ⅲ区11号井戸断面 東から



3. Ⅲ区13号井戸全景 南から



4. Ⅲ区13号井戸断面 西から



5. Ⅲ区14号井戸全景 南東から



6. Ⅲ区14号井戸断面 西から



7. Ⅲ区12号井戸断面 北西から



8. Ⅲ区3面作業風景





1. I区8,9号溝全景 東から



2. I区8,9号溝断面 西から



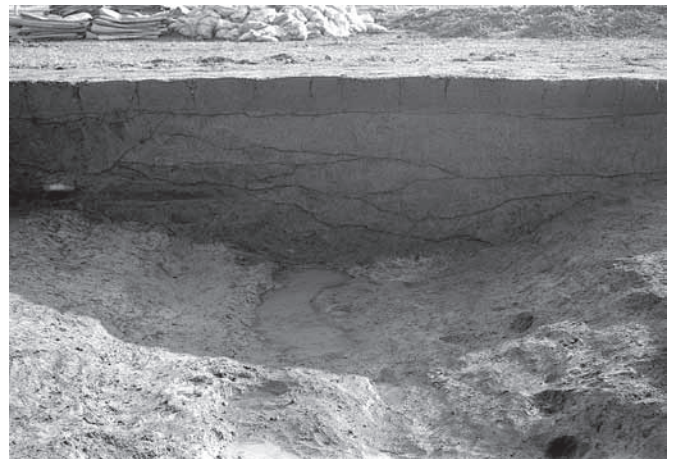
3. II区3号溝全景 南から



4. II区3号溝断面 西から



5. II区4号溝全景 南から



6. II区4号溝断面 西から



7. II区6号溝全景 西から



8. II区6号溝断面 北から



1. II区7号溝全景 西から



2. II区7号溝断面 北から



3. III区20号溝全景 東から



4. III区20号溝断面 南から



5. III区21号溝全景 西から



6. III区21号溝断面 西から



7. III区22号溝全景 北から



8. III区22号溝断面 東から



1. I区7号溝全景 北から



2. I区12号溝全景 南から



3. I区13,14,15,17号溝全景 西から



4. I区14,15,17,18号溝全景 東から



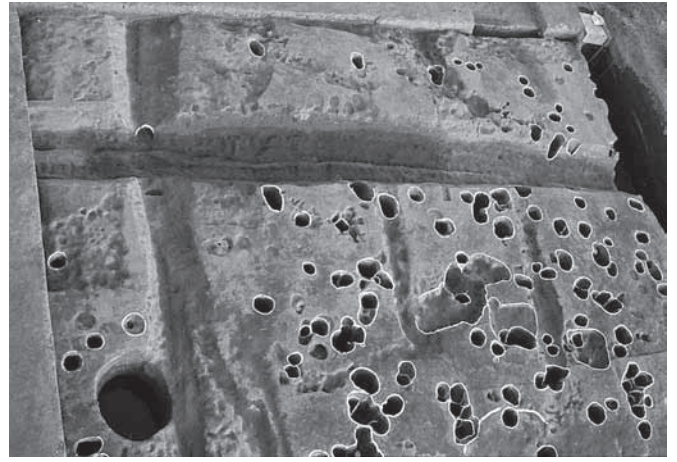
5. II区5号溝全景 東から



6. II区8号溝全景 東から



1. Ⅲ区11,12,15,23,29号溝断面 南から



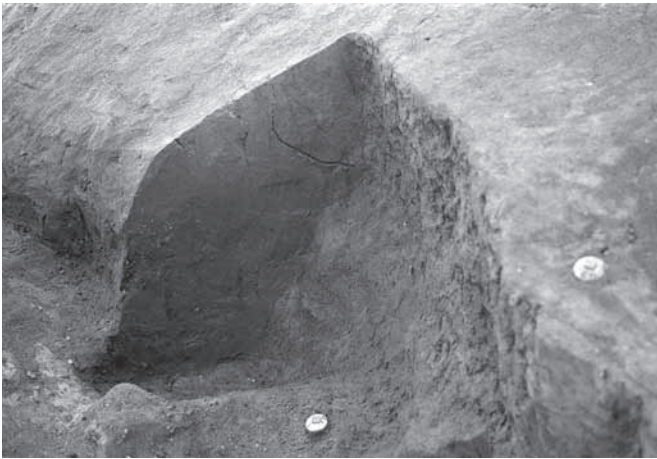
2. Ⅲ区13,14号溝全景 西から



3. Ⅲ区1号橋脚断面 南から



4. Ⅲ区1号橋脚板出土状況 北から



5. Ⅲ区2号橋脚断面 南から



6. Ⅲ区2号橋脚板出土状況 西から



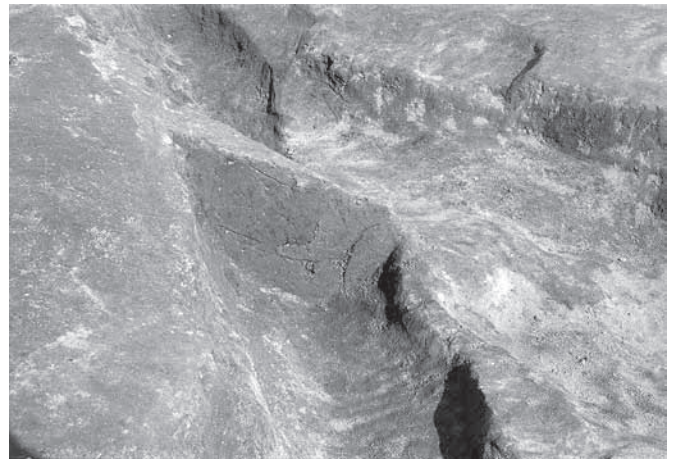
7. Ⅲ区13,14号溝断面 東から



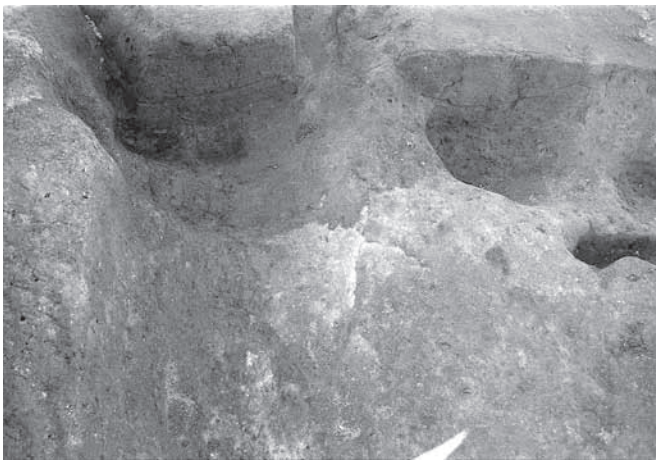
8. Ⅲ区16号溝断面 東から



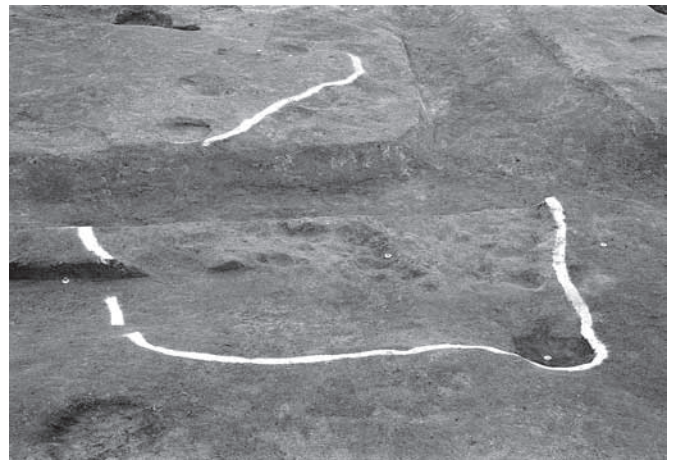
1. III区18,33,34号溝断面 西から



2. III区19号溝断面 南から



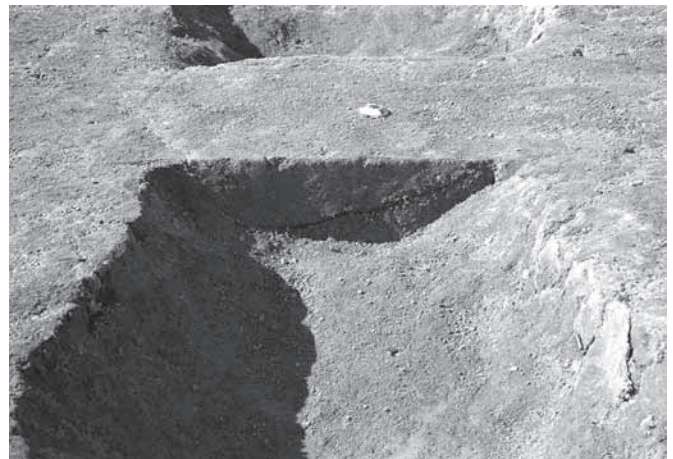
3. III区24,36号溝断面 南から



4. III区25号溝全景 北から



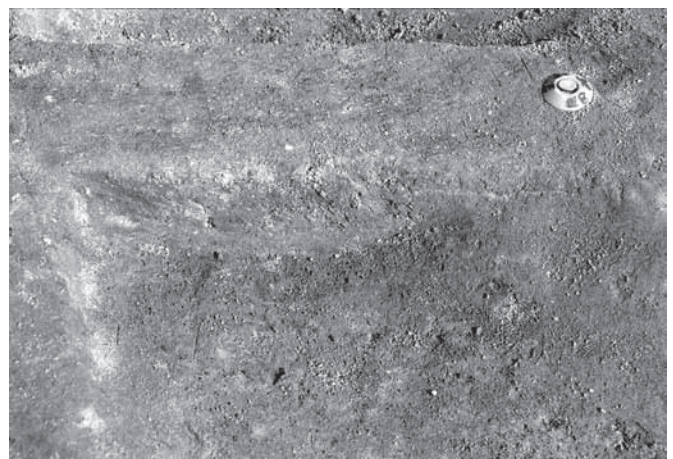
5. III区31号溝断面 東から



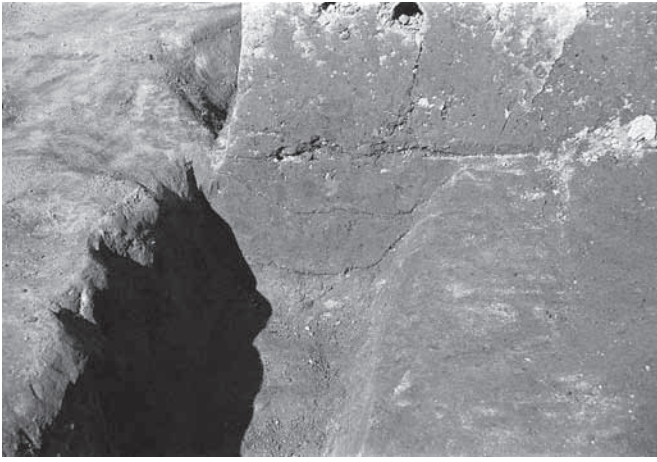
6. III区32号溝断面 東から



7. III区36号溝断面 南から



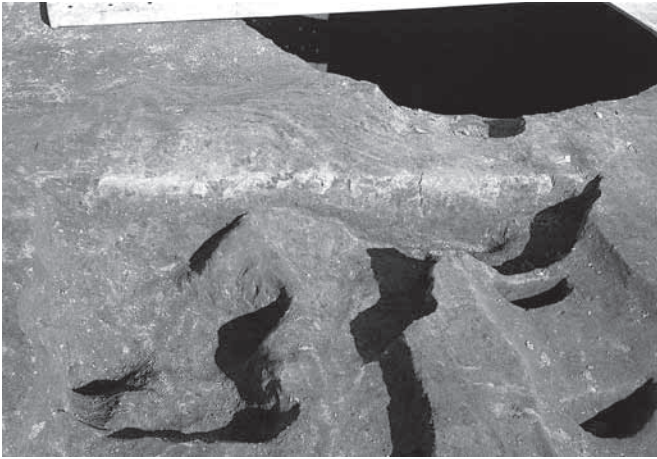
8. III区38号溝断面 南から



1. III区39号溝断面 南から



2. III区42号溝断面 西から



3. III区36,43号溝断面 南から



4. III区44号溝全景 南から



5. IV区7,8,9,19号溝全景 北から



6. IV区12号溝全景 南西から



7. IV区13号溝全景 南西から



8. IV区14号溝全景 南西から



1. Ⅲ区2号土坑全景 南から



2. Ⅲ区2号土坑断面 北から



3. Ⅲ区3号土坑全景 西から



4. Ⅲ区3号土坑断面 南から



5. Ⅲ区4号土坑 遺物出土状態



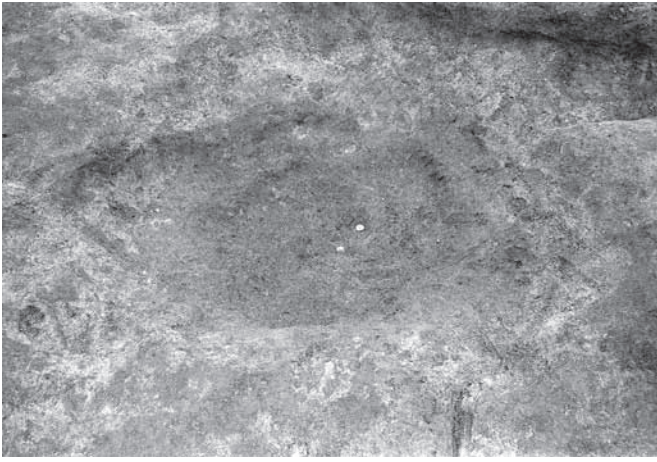
6. Ⅲ区4号土坑断面 南から



7. Ⅲ区5号土坑全景 北から



8. Ⅲ区5号土坑断面 南から



1. Ⅲ区6号土坑全景 東から



2. Ⅲ区6号土坑断面 東から



3. Ⅲ区7号土坑全景 北から



4. Ⅲ区9号土坑全景 南から



5. Ⅲ区10号土坑全景 南から



6. Ⅲ区10号土坑断面 南から



7. Ⅲ区12号土坑全景 南から

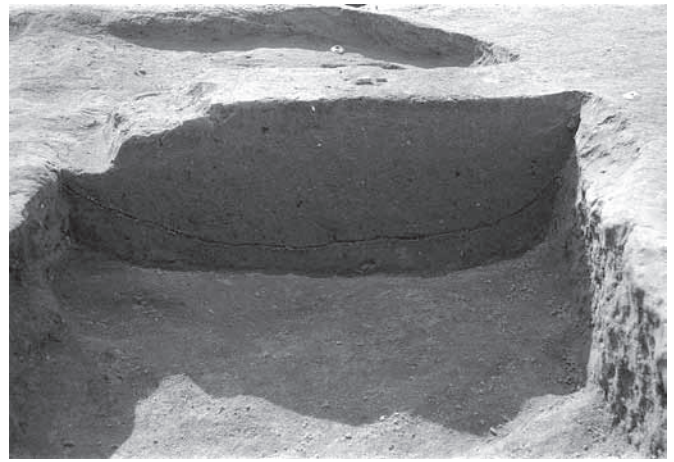


8. Ⅲ区12号土坑断面 東から

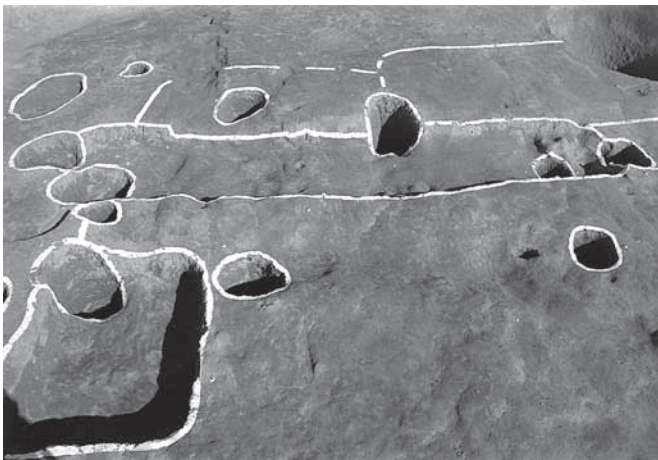




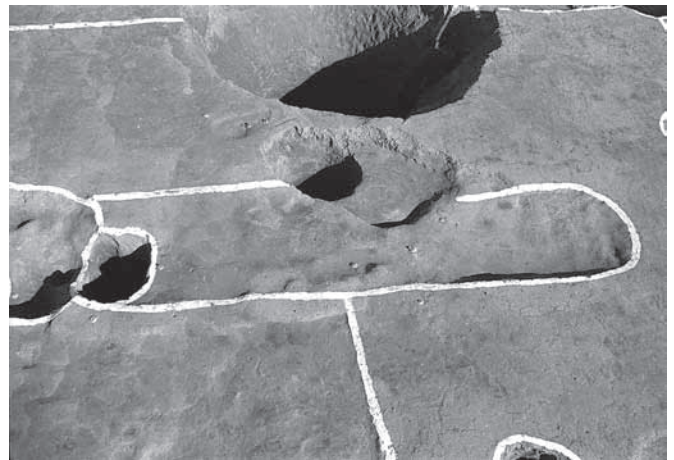
1. Ⅲ区13号土坑全景 東から



2. Ⅲ区13号土坑断面 北から



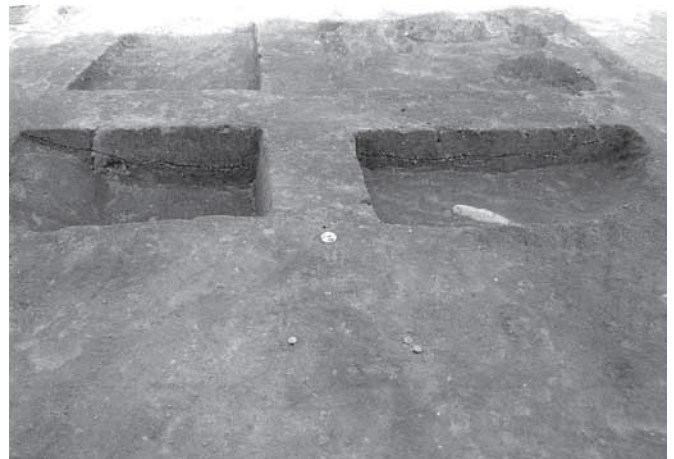
3. Ⅲ区14号土坑全景 南から



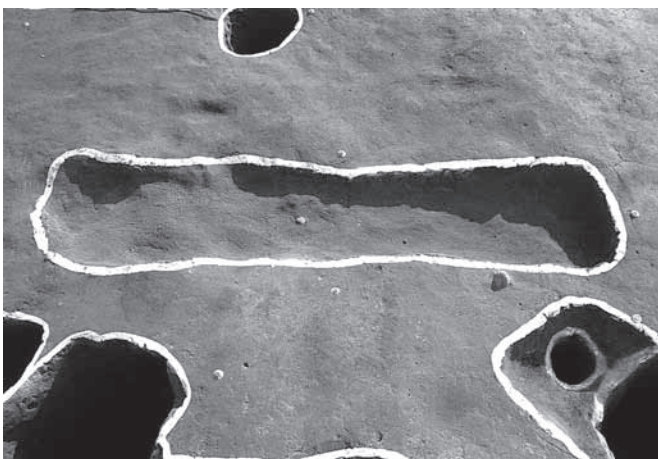
4. Ⅲ区15号土坑全景 南から



5. Ⅲ区16号土坑全景 南から



6. Ⅲ区16号土坑断面 南から



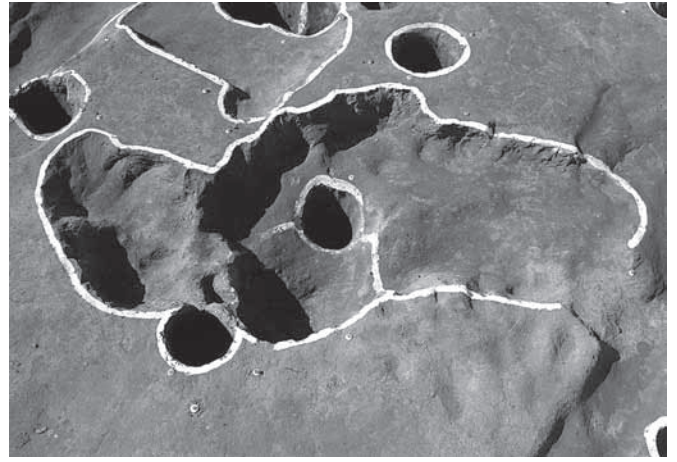
7. Ⅲ区17号土坑全景 西から



8. Ⅲ区22,23号土坑全景 東から



1. Ⅲ区22,23号土坑断面 東から



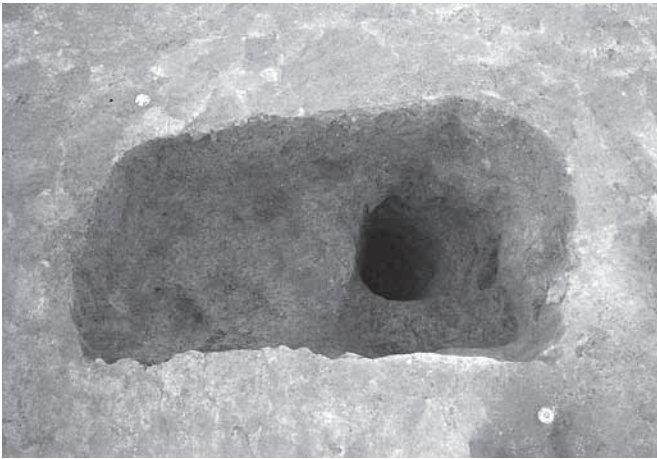
2. Ⅲ区24号土坑全景 東から



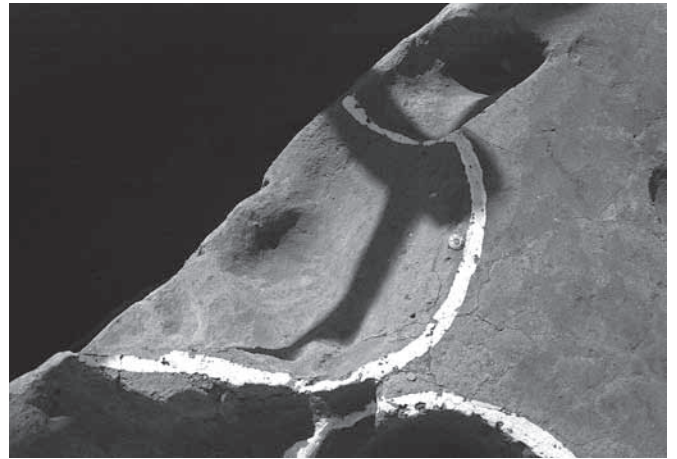
3. Ⅲ区25号土坑全景 東から



4. Ⅲ区25号土坑断面 東から



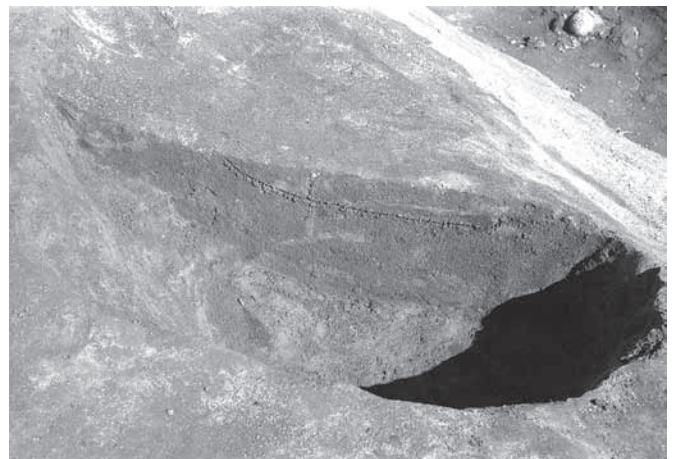
5. Ⅲ区26号土坑全景 南から



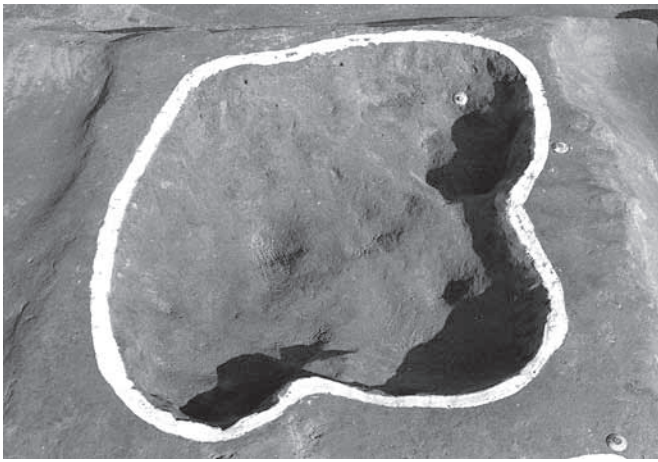
6. Ⅲ区27号土坑全景 北から



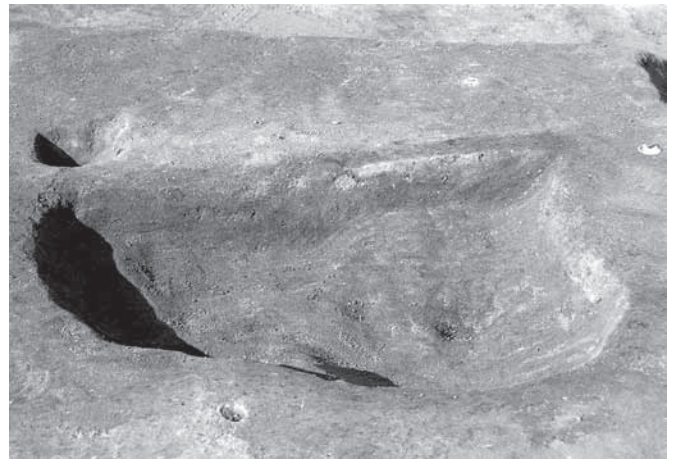
7. Ⅲ区28号土坑全景 東から



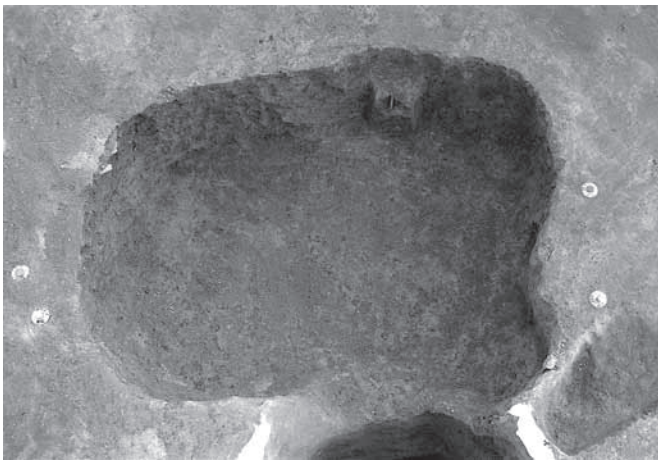
8. Ⅲ区28号土坑断面 南から



1. Ⅲ区29号土坑全景 南から



2. Ⅲ区29号土坑断面 南から



3. Ⅲ区31号土坑 遺物出土状態



4. Ⅲ区31号土坑断面 東から



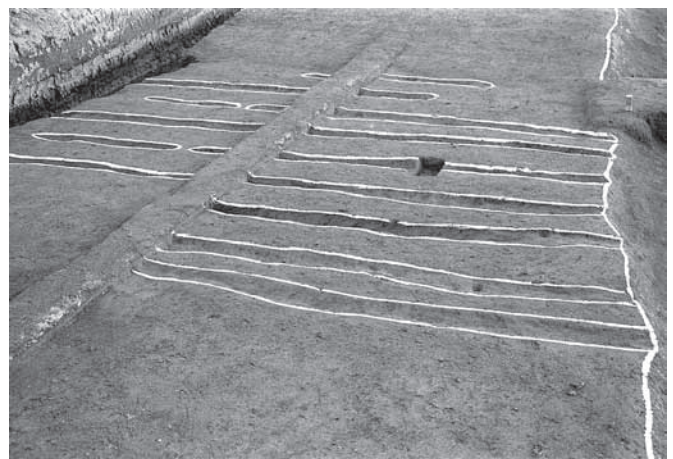
5. Ⅲ区32号土坑断面 南から



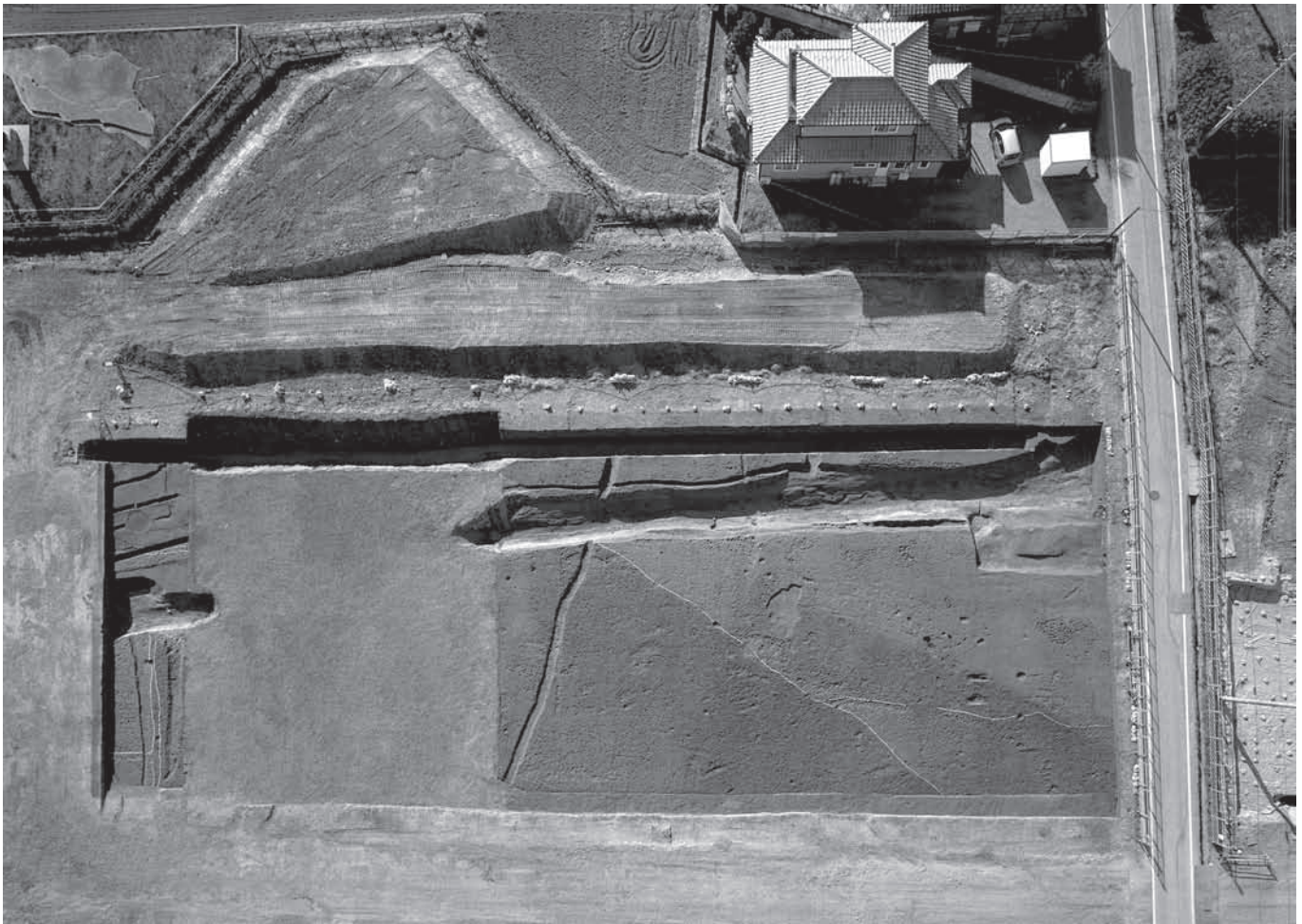
6. Ⅲ区33号土坑全景 東から



7. Ⅲ区1号集石全景 東から



8. I区2号畝全景 北から



1. Ⅲ区追加部分2面全景



2. Ⅲ区3号溝全景 東から



3. Ⅲ区3号溝断面 東から



4. Ⅲ区4号溝南側全景 北から



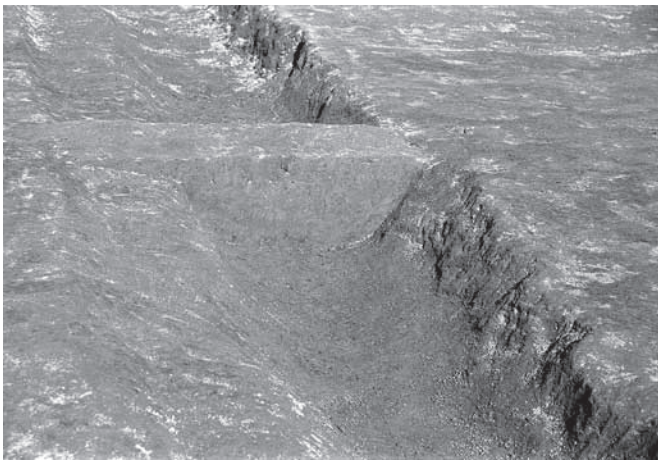
5. Ⅲ区4号溝北側全景 北から



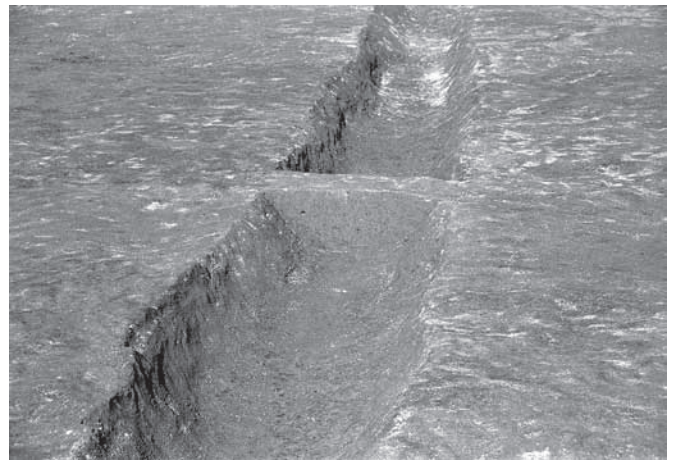
1. III区4号溝断面 南から



2. III区5号溝断面 西から



3. III区6号溝断面 南から



4. III区7号溝断面 南から



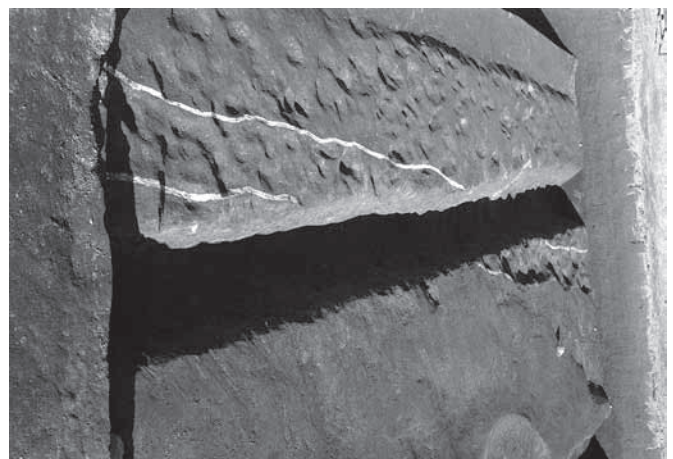
5. III区8号溝断面 東から



6. III区9号溝断面 西から



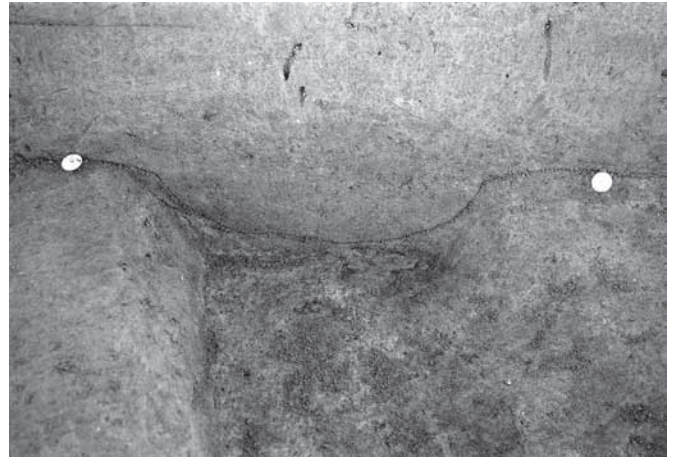
7. III区10号溝断面 東から



8. III区42,100号溝全景 南から



1. Ⅲ区102号溝全景 西から



2. Ⅲ区102号溝断面 西から



3. Ⅲ区103,104号溝全景 西から



4. Ⅲ区103号溝断面 西から



5. Ⅲ区104号溝断面 西から



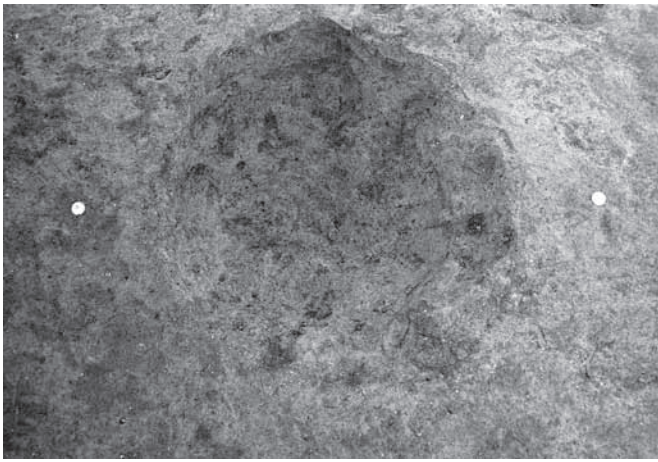
6. Ⅳ区3号溝 杭検出状態



7. Ⅳ区3,4号溝全景 北西から



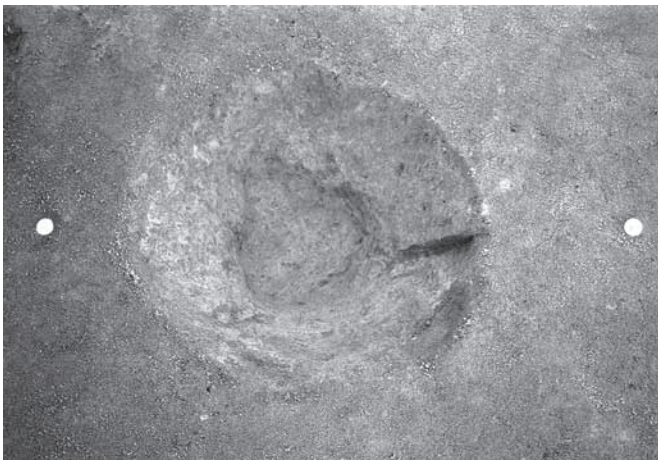
8. Ⅳ区3,4号溝断面 北から



1. Ⅲ区38号土坑全景 東から



2. Ⅲ区38号土坑断面 東から



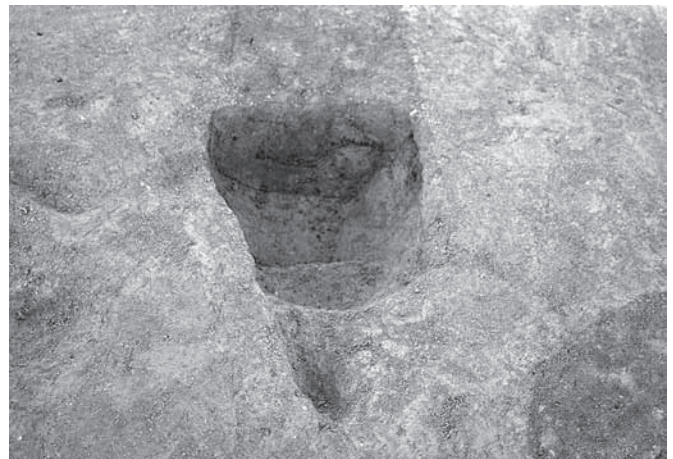
3. Ⅲ区39号土坑全景 東から



4. Ⅲ区39号土坑断面 東から



5. Ⅲ区41号土坑全景 東から



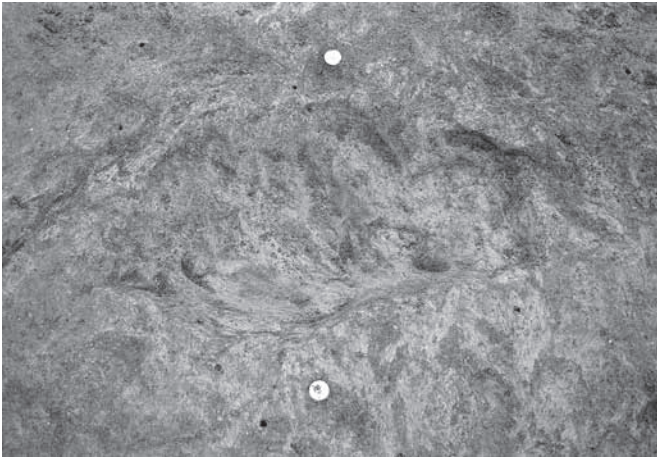
6. Ⅲ区41号土坑断面 南から



7. Ⅲ区42号土坑全景 東から



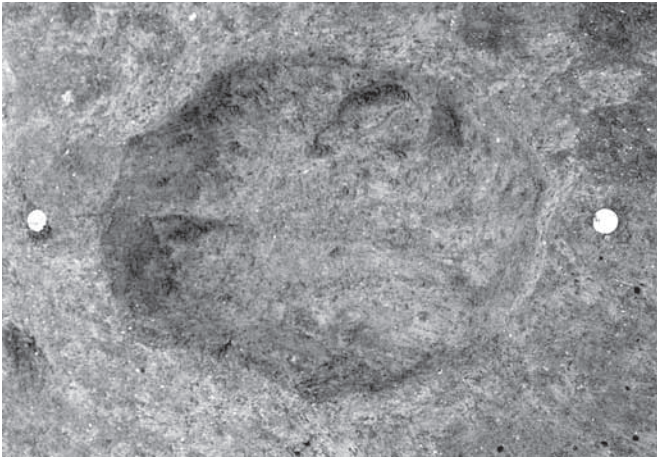
8. Ⅲ区42号土坑断面 北東から



1. Ⅲ区43号土坑全景 東から



2. Ⅲ区43号土坑断面 南から



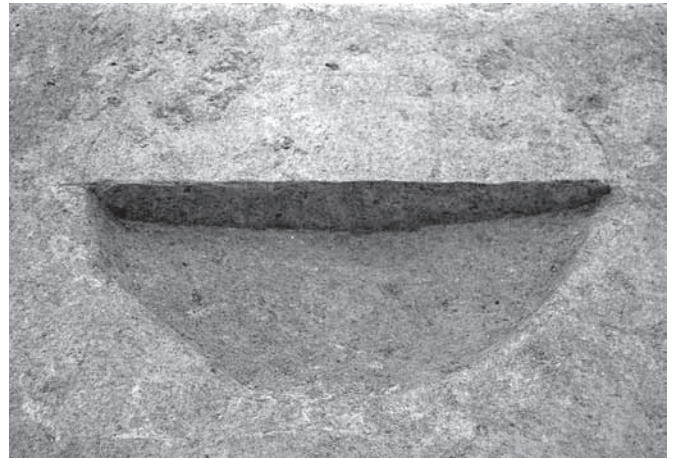
3. Ⅲ区44号土坑全景 南から



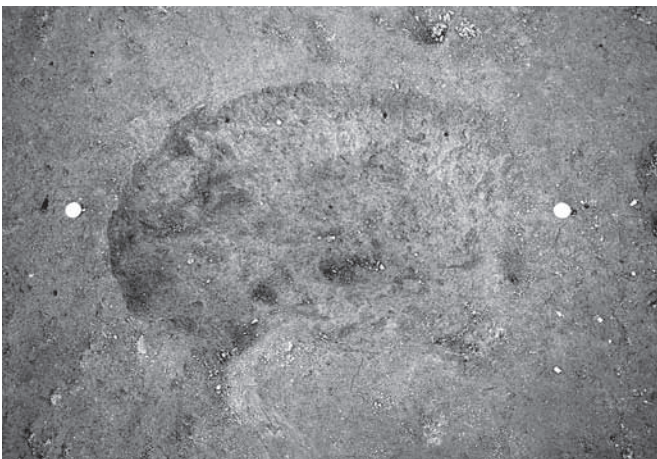
4. Ⅲ区44号土坑断面 南から



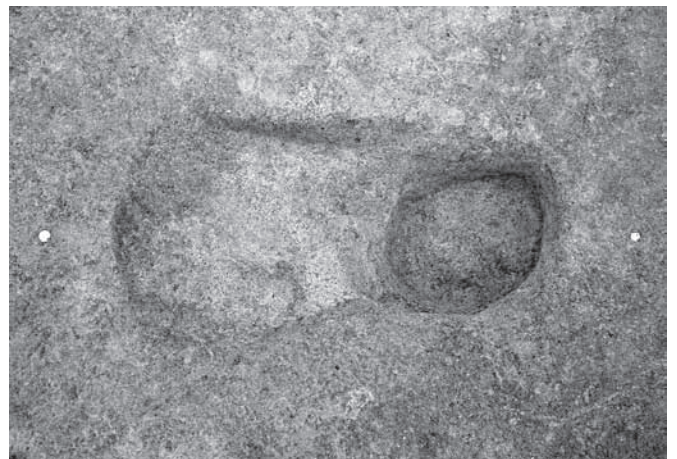
5. Ⅲ区46号土坑全景 南から



6. Ⅲ区46号土坑断面 南から



7. Ⅲ区40号土坑全景 南から



8. Ⅲ区45号土坑全景 北から





1. I区1号島全景 北東から



2. I区1号道路跡全景 西から



3. I区2号道路跡全景 西から

1面



1. I区1号復旧溝全景 南東から



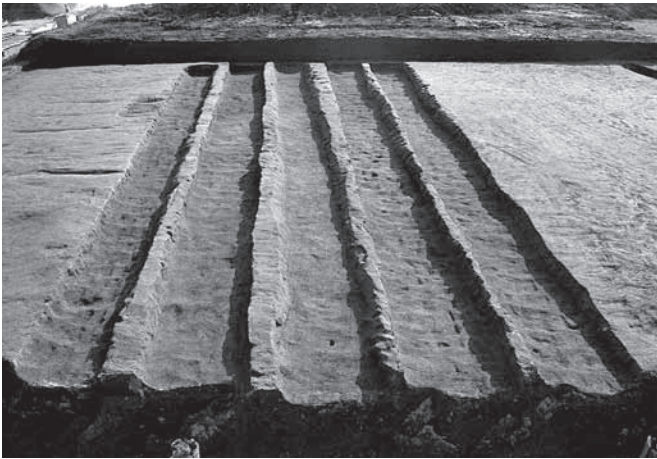
2. I区1号道路跡、2号復旧溝全景 西から



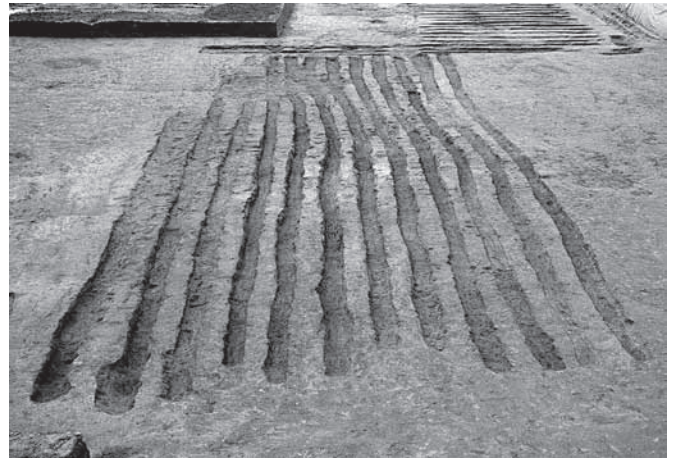
3. II区1号復旧溝全景 南から



4. II区1号復旧溝断面 南から



5. III区1号復旧溝全景 北から



6. III区2号復旧溝全景 東から



7. III区3号復旧溝全景 南から



8. III区4号復旧溝全景 西から



1. Ⅲ区5号復旧溝全景 西から



2. Ⅲ区6号復旧溝全景 西から



3. Ⅲ区7号復旧溝全景 西から



4. I区1号土坑断面 西から



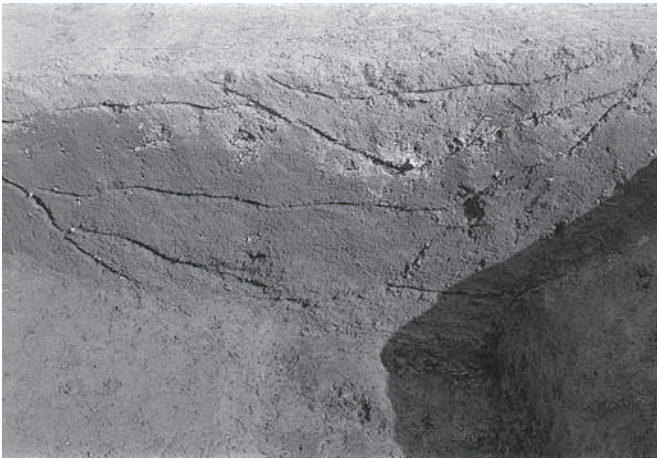
5. Ⅲ区1号土坑断面 東から



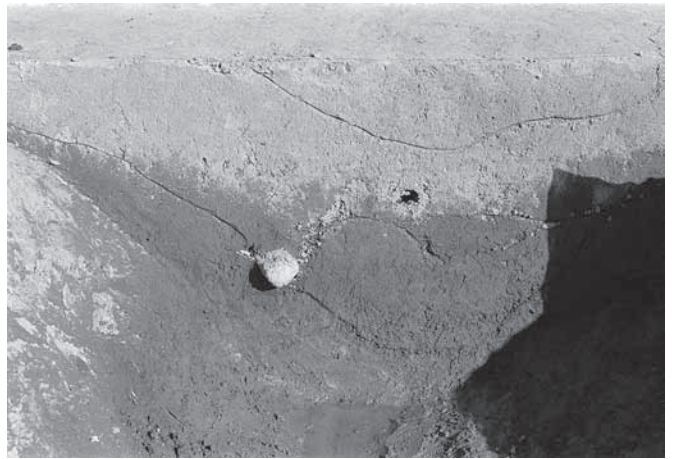
1. I区1号溝東側上層全景 西から



2. I区1号溝西側上層全景 東から



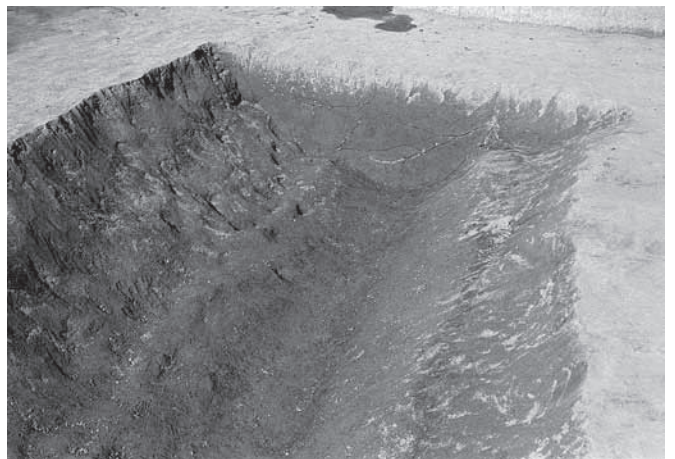
3. I区1号溝A-A'断面 西から



4. I区1号溝B-B'断面 西から



5. I区4号溝全景 北から



6. I区4号溝断面 南から



1. I区6号溝全景 南から



2. II区2号溝全景 東から



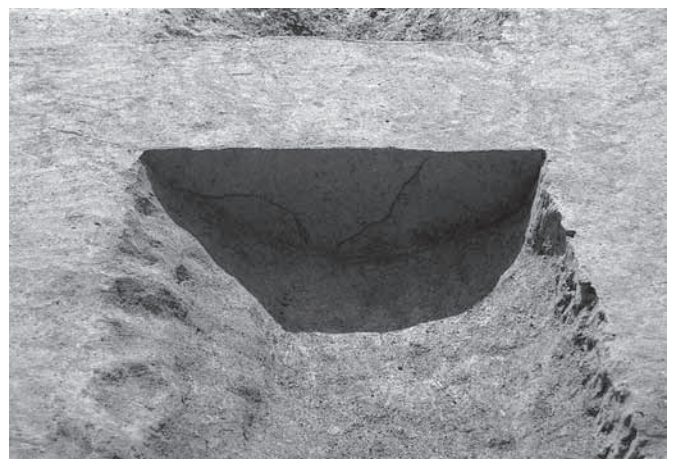
3. I区4,5号溝全景 東から



4. II区1号溝全景 東から



5. III区1号溝全景 南から



6. III区1号溝断面 北から



1. Ⅲ区93号溝全景 北から



2. Ⅲ区93,98号溝断面 南東から



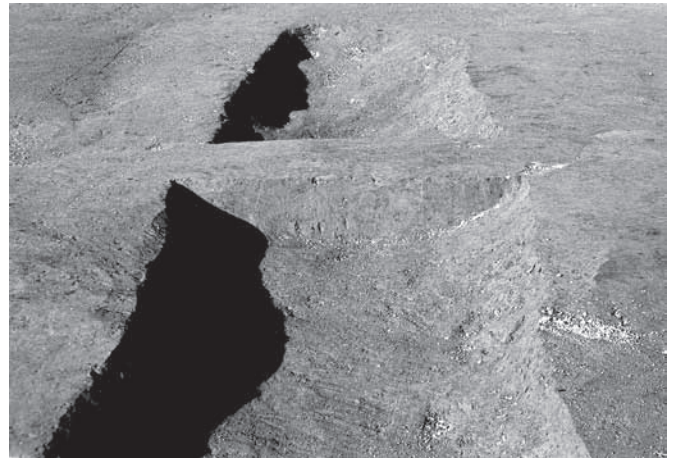
3. Ⅲ区90号溝全景 西から



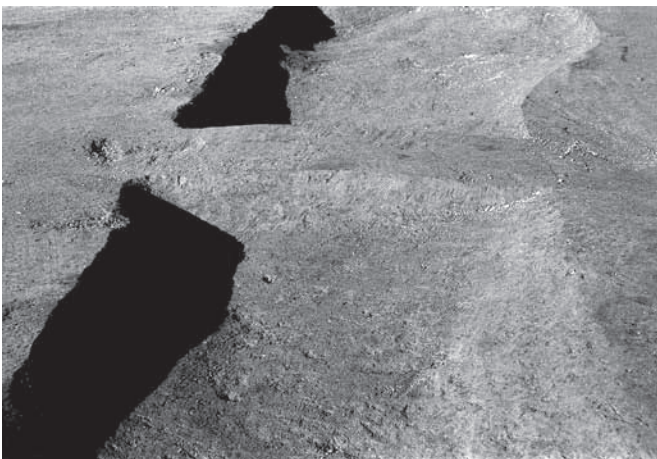
4. Ⅲ区90号溝断面 南から



5. Ⅲ区96,97号溝全景 北から



6. Ⅲ区96号溝断面 南から



7. Ⅲ区97号溝断面 南から



8. Ⅲ区2号溝全景 北から



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



22



23



24

8面



25



26



27



30



28



29



31



32



33



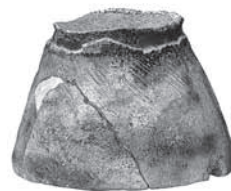
34



36



40



42



46



47



48



51



50





49

52

53

54

55

56

57

8面



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



8・6・5面



86



87



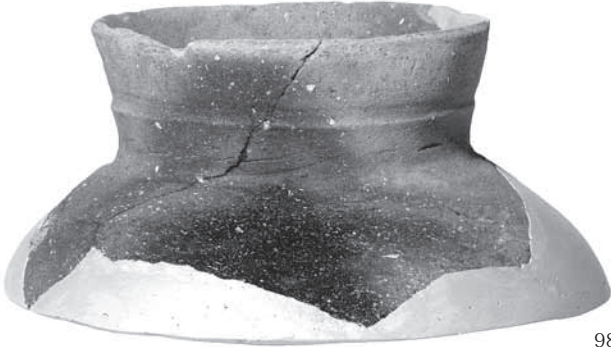
96



97



90



98



103



99



100



106



104



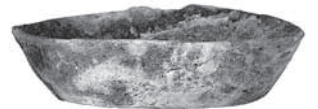
108



109



111



110



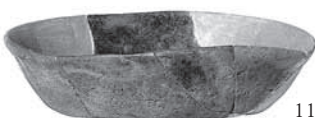
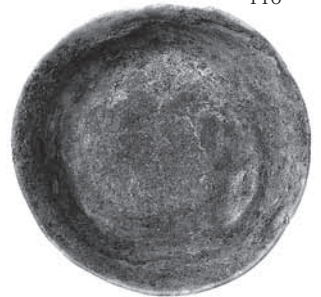
112



113



115



116



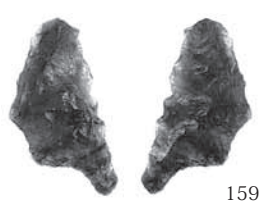
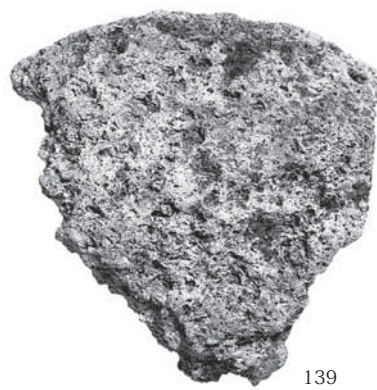
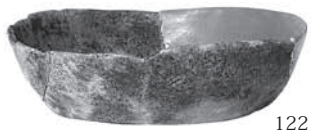
117



119



121



4・3面



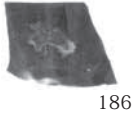
175



176



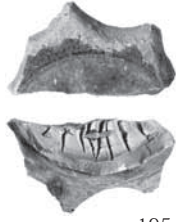
187



186



190



195



194



196



197



201



206



209



212



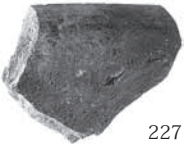
215



225



226



227



228



229



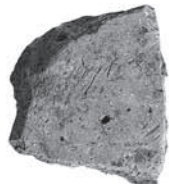
230



235



238



239



240



241



242



243



245



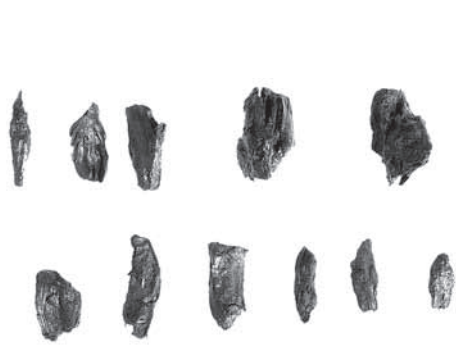
246



247



250



255



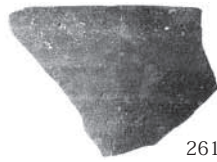
256



258



259



261



262



263



266



268



269



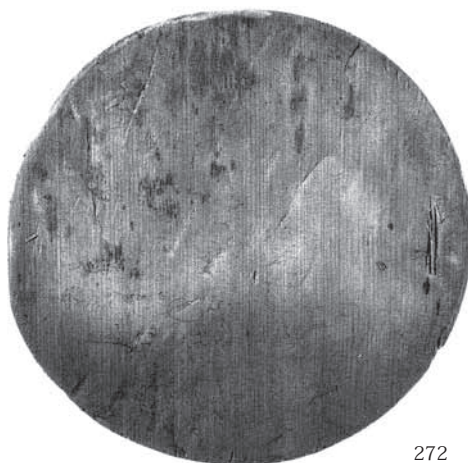
271



270



277



272



273

3面



279



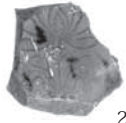
280



284



285



289



290



291



295



297



303





304



305



306



307



308



309



310



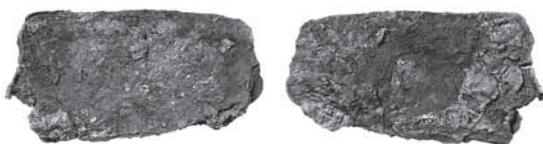
319



323



325



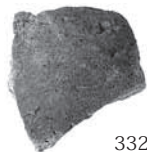
326



339



330



332



338



334



336





350



351



352



353



354



355



356



357



358



359



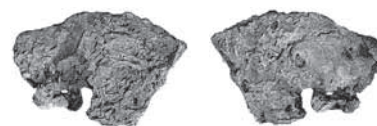
360



361



362



363



366



367

2・1面



372



373



375



387



388



389



390



391



392



393



394



395



396



399



401



404



405



406



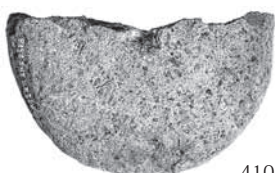
407



408



409



410



411



413



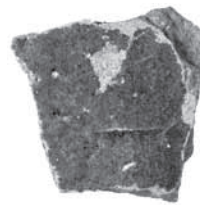
415



417



418



419



420



421



424



426



433



439



440



441



442



446



450



456



462



464



466



467

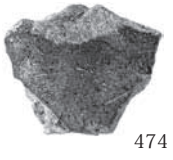


472



473

1面・補遺



474



475



476



477



478



479



480



481



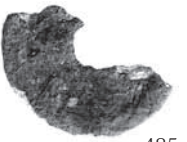
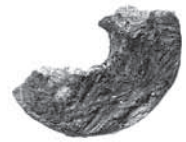
482



483



484



485



486



487



488



490



492



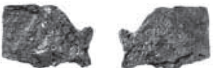
493



501



502



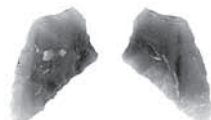
489



503



504



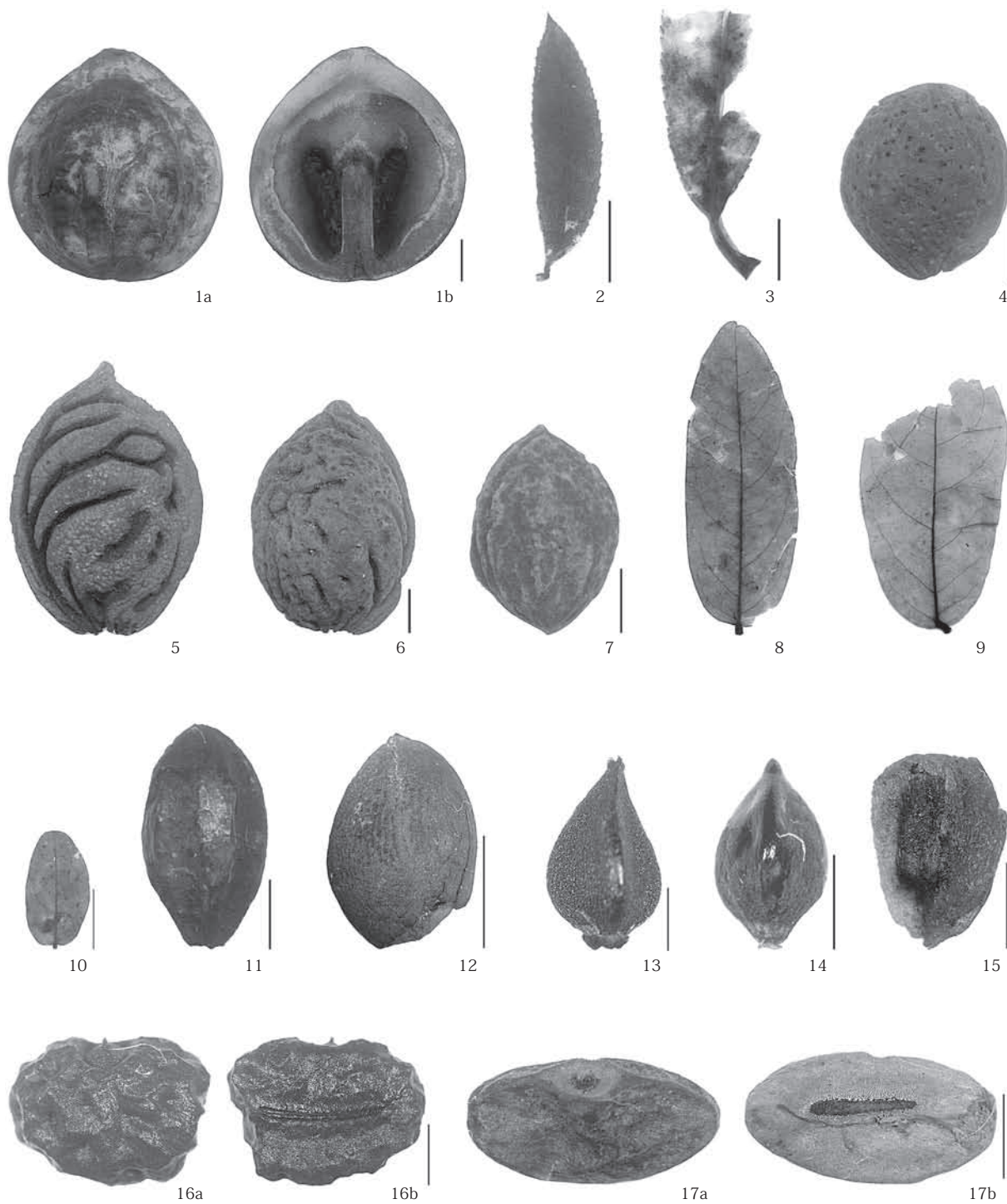
505



506

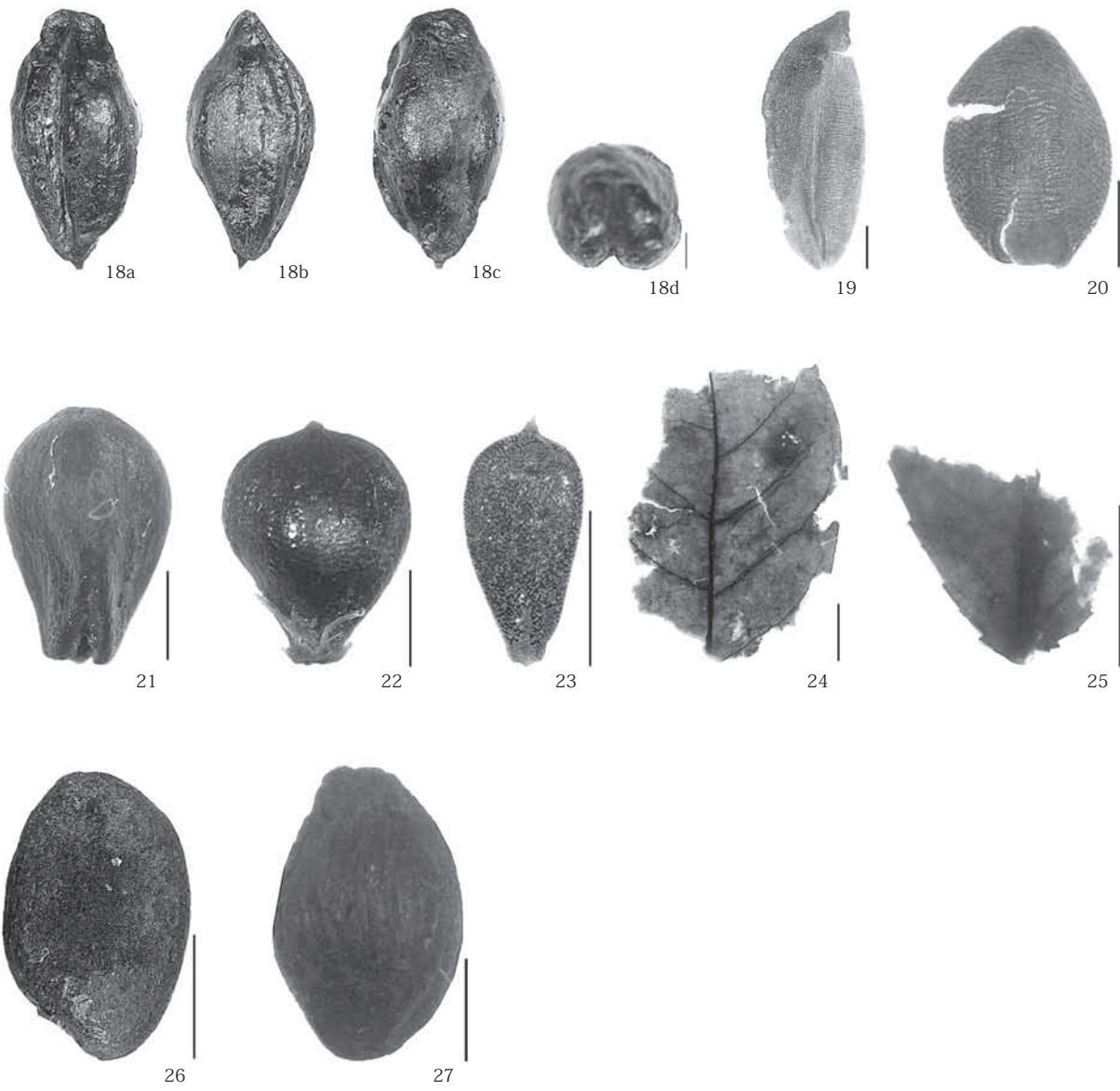


507



スケール1・4・7・11・12:5mm、2・3・8-10:1cm、13-17:1mm

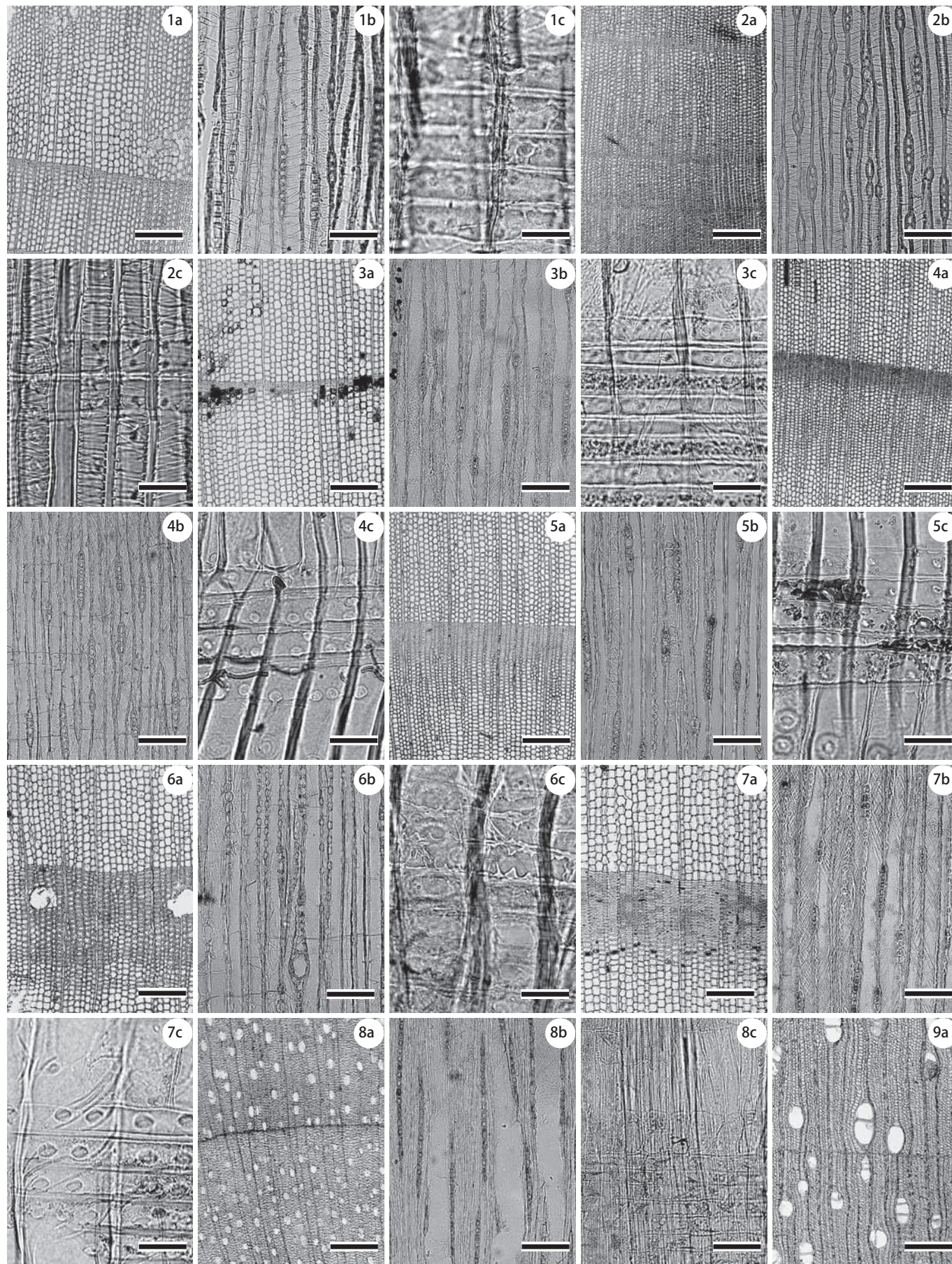
- 1.オニグルミ核(10号井戸No.12) 2・3.ヤナギ属葉(8号井戸No.9) 4.ウメ核(34号溝No.20) 5・6.モモ核(11号溝No.15)、  
 7.スモモ核(11号溝No.15) 8-10.フジ属葉(8号井戸No.9) 11.センダン核(1号井戸No.2) 12.エゴノキ核(No.22)  
 13.ヤナギタデ果実(8号井戸No.9) 14.イヌタデ果実(8号井戸No.9) 15.オモダカ属果実(10号井戸No.13)  
 16.ツユクサ種子(8号井戸No.9) 17.イボクサ種子(8号井戸No.9)



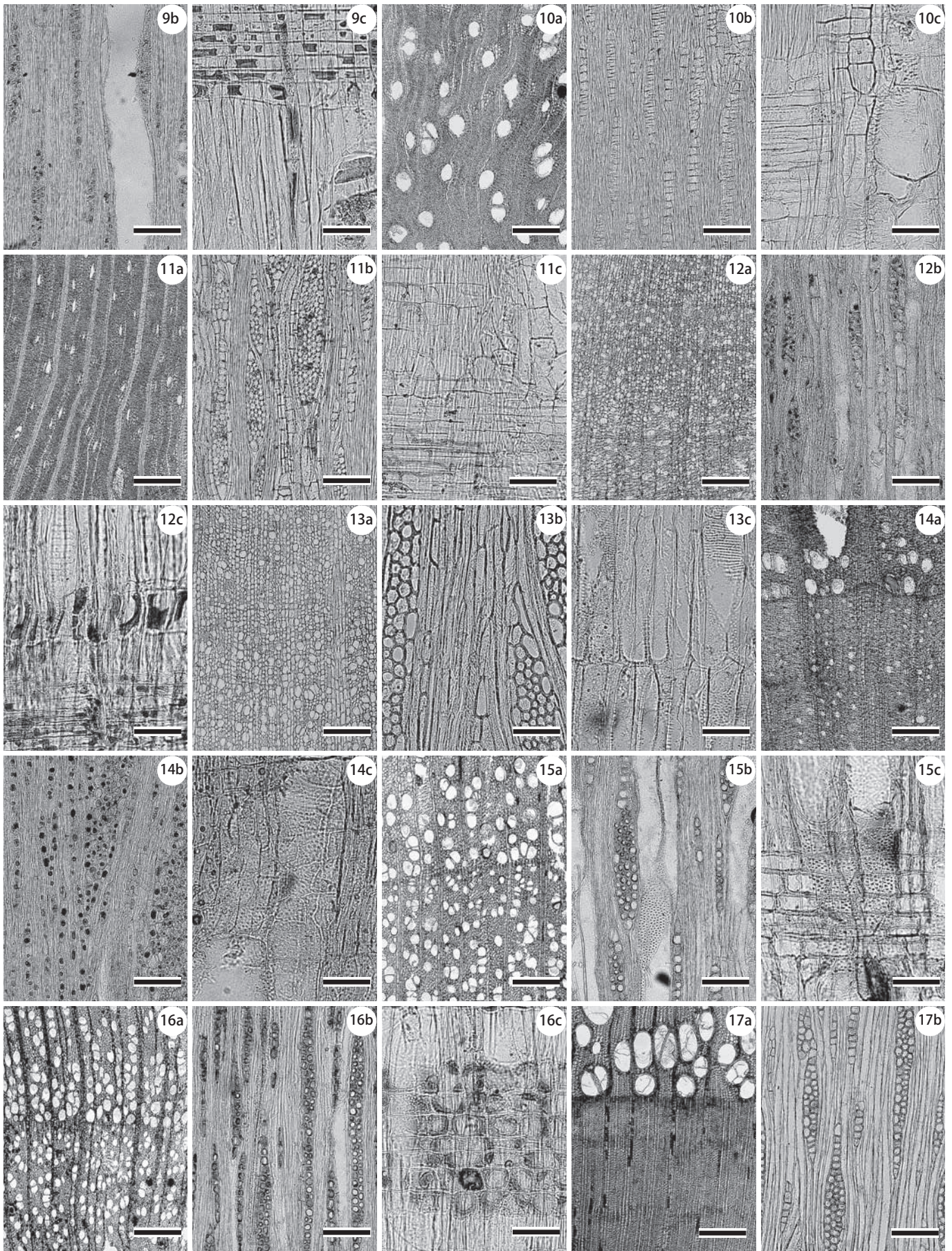
スケール18-23:1mm、24・25:1cm、26・27:5mm

18.オオムギ炭化種子(8号井戸No.11) 19.イネ果実(8号井戸No.9) 20.アワ果実(8号井戸No.9)  
21.ウキヤガラ果実(No.21) 22.ホタルイ果実(10号井戸No.13) 23.カヤツリグサ属(8号井戸No.9)  
24.不明A葉(8号井戸No.9) 25.不明B葉(6号井戸No.8) 26.不明炭化種子(8号井戸No.11) 27.不明芽(22号溝No.18)

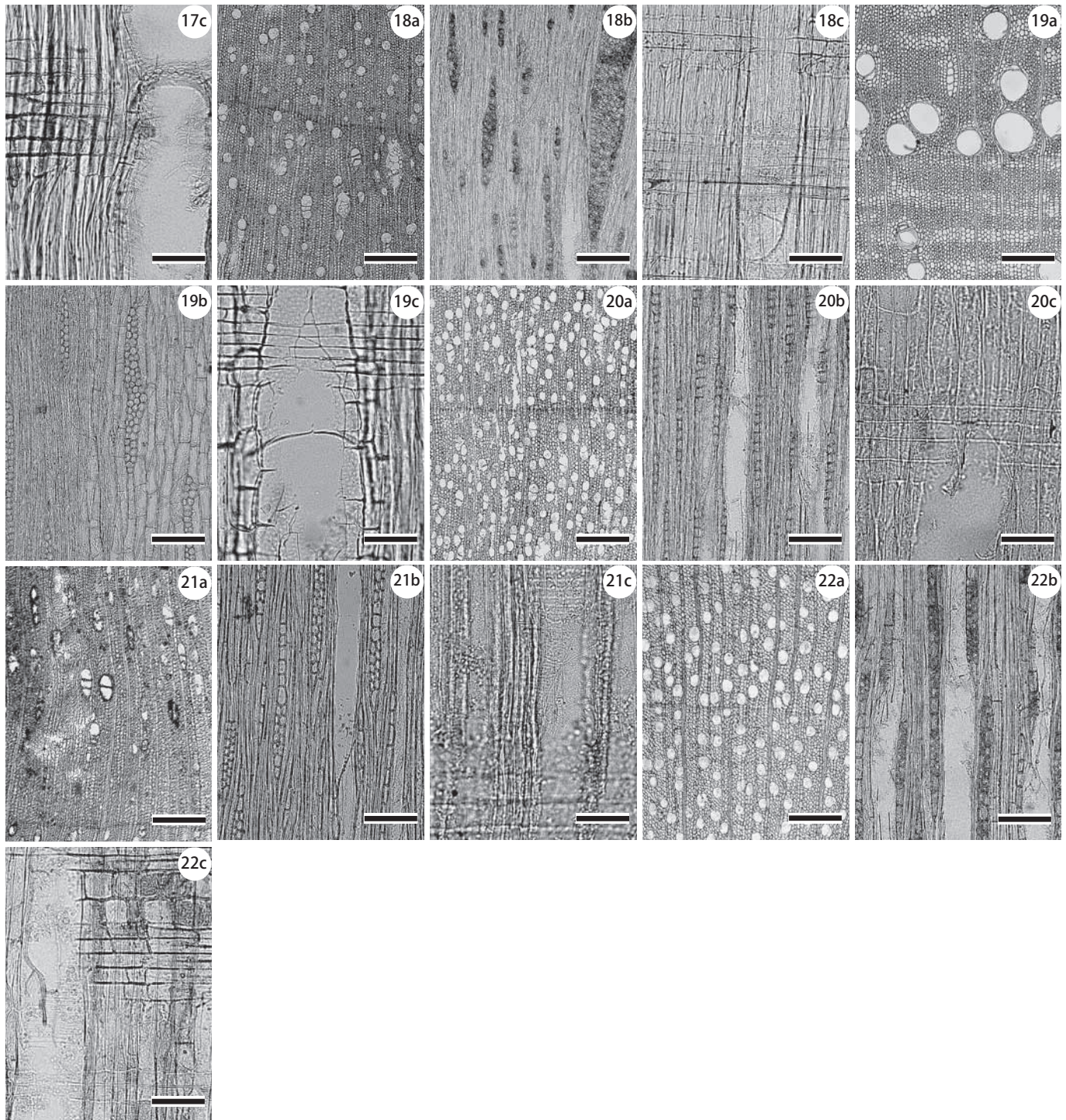




1a-1c.カヤ(No.124) 2a-2c.イヌガヤ(No.10) 3a-3c.ヒノキ(No.93) 4a-4c.アスナロ(No.57) 5a-5c.モミ属(No.12)  
 6a-6c.マツ属複維管束亜属(No.59) 7a-7c.スギ(No.159) 8a-8c.ヤナギ属(No.164) 9a.カバノキ属(No.80)  
 a:横断面(スケール=200 μm) b:接線断面(スケール=100 μm) c:放射断面(スケール=25 μm・8:50 μm)

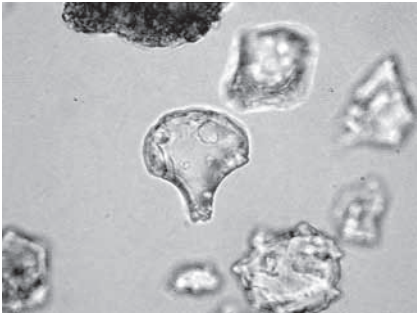


9b-9c.カバノキ属(No.80) 10a-10c.ムクノキ(No.126) 11a-11c.クワ属(No.168) 12a-12c.ツバキ属(No.86) 13a-13c.ウツギ属(No.49) 14a-14c.バラ属(No.14) 15a-15c.サクラ属(No.156) 16a-16c.モモ(No.13) 17a-17c.ヌルデ(No.53)  
 a:横断面(スケール=200 μm) b:接線断面(スケール=100 μm) c:放射断面(スケール=50 μm)

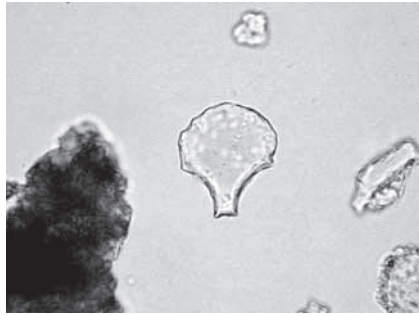


17c.ヌルデ(No.53) 18a-18c.カエデ属(No.11) 19a-19c.ムクロジ(No.22) 20a-20c.トチノキ(No.122) 21a-21c.エゴノキ(No.17)  
 22a-22c.ハイノキ属サワフタギ節(No.107)  
 a:横断面(スケール=200 μ m) b:接線断面(スケール=100 μ m) c:放射断面(スケール=50 μ m)

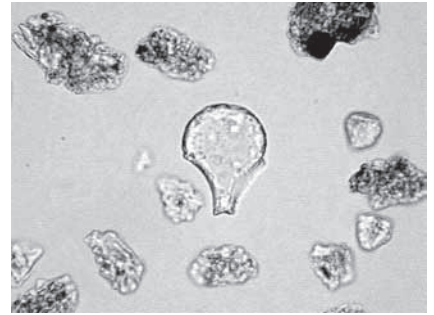
プラント・オパール



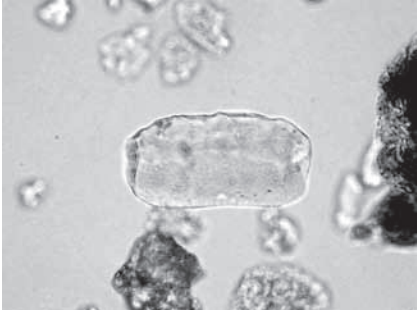
イネ  
IV区N 2



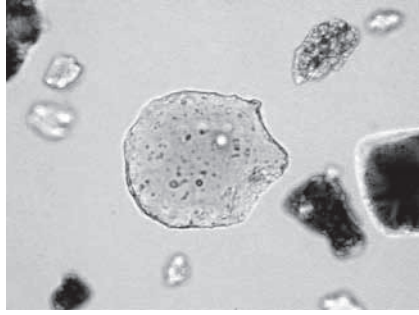
イネ  
IV区N 5



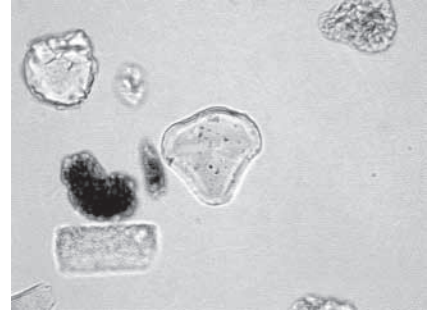
イネ  
III区中央 1



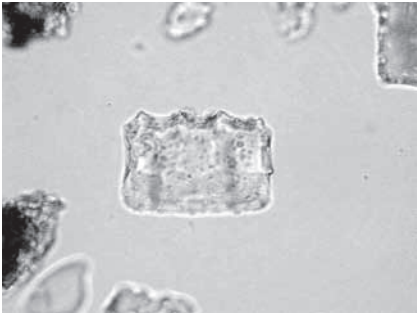
ヒエ属型  
IV区S 2



ヨシ属  
III区N 1



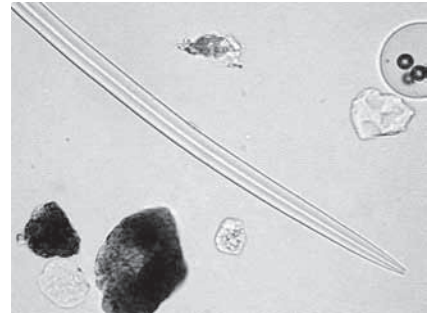
ススキ属型  
IV区S 2



ネザサ節型  
IV区N 6



棒状珪酸体  
IV区N 8

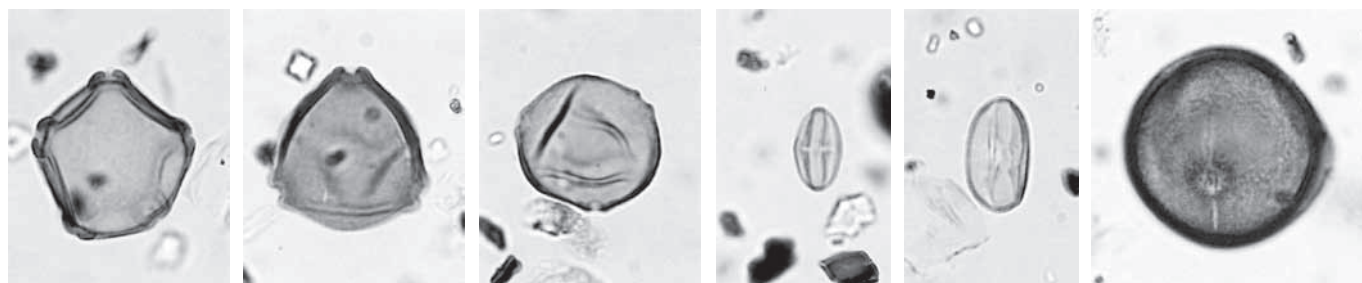


海面骨針  
IV区N 5

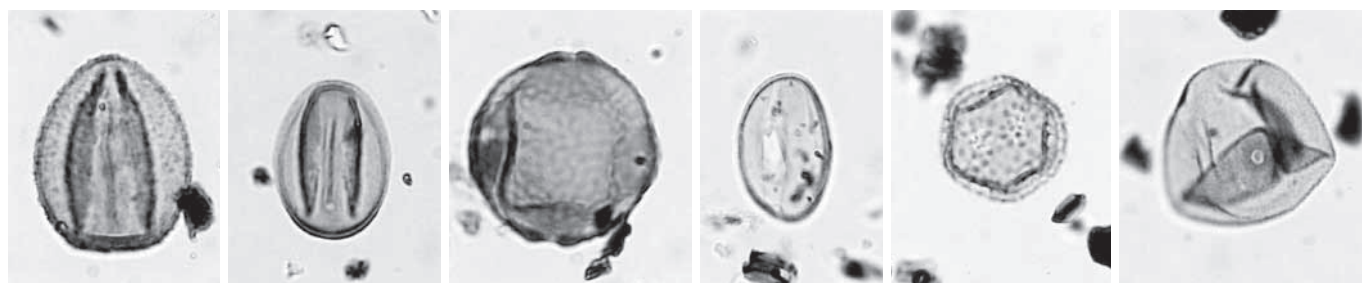
— 50 μ m



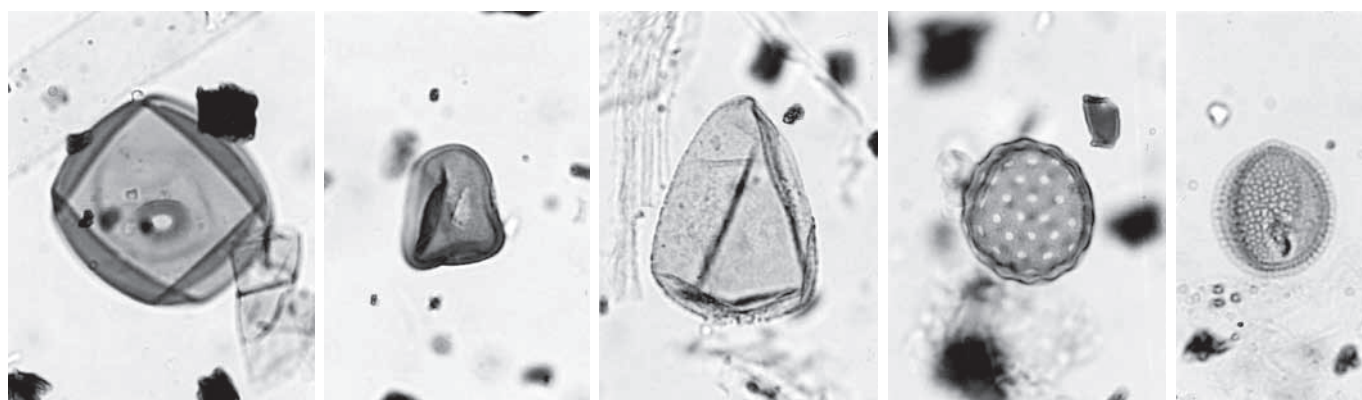
1 モミ属 2 マツ属複維管束亜属 3 スギ 4 クルミ属



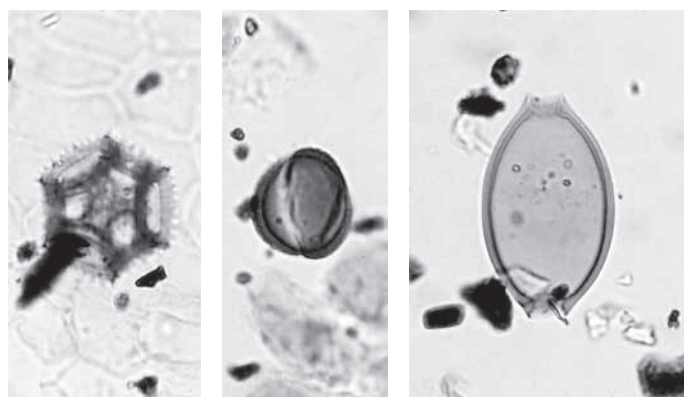
5 ハンノキ属 6 カバノキ属 7 クマシデ属-アサダ 8 クリ 9 シイ属 10 ブナ属



11 コナラ属コナラ亜属 12 コナラ属アカガシ亜属 13 ニレ属-ケヤキ 14 トチノキ 15 オモダカ属 16 イネ科



17 イネ属型 18 カヤツリグサ科 19 カヤツリグサ科 20 アカザ科-ヒユ科 21 アブラナ科



22 タンポポ亜科イネ科 23 ヨモギ属 24 鞭虫卵

— 10 μ m (1)  
— 10 μ m (2~24)

# 抄 録

書名ふりがな	さいだなかこうちいせき
書名	齊田中耕地遺跡
副書名	国道 354 号道路改築事業に係る埋蔵文化財調査報告書第 6 集
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	484
編著者名	瀧川仲男 / 神谷佳明 / 石守 晃
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20100226
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田 784 番地 2
遺跡名ふりがな	さいだなかこうちいせき
遺跡名	齊田中耕地遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまちしもさいだ
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町下齊田
市町村コード	10464
遺跡番号	玉村町 0169
北緯 (世界測地系)	363077
東経 (世界測地系)	1391114
調査期間	20021001-20021231/20030701-20030831/20030818-20040331/20041101-20050331
調査面積	13,700m <sup>2</sup>
調査原因	道路建設工事
種別	屋敷 / 溝 / 井戸 / 土坑 / 水田 / 旧河道 / その他
主な時代	古墳 / 平安 / 中世 / 近世
遺跡概要	古墳 - 溝 63+ 土坑 11+ 水田 2+ 畠 2+ 旧河道 7+ 風倒木痕 42/ 古代 - 溝 20+ 土坑 28+ 落込 1+ 水田 2/ 中世 - 屋敷 1+ 掘立柱建物 22+ 竪穴 5+ 柵列 1+ 溝 57+ 土坑 27+ ピット 265+ 畠 1+ 集石 1+ 落込 2/ 中・近世 - 溝 23+ 土坑 10+ ピット 3+ 水田 1/ 近世 - 道路 2+ 溝 15+ 土坑 1+ 畠 1+ 復旧遺構 16+As-A 溜 1+ 落込 4
特記事項	鎌倉時代末から南北朝時代頃の屋敷跡が確認された。
要約	前橋台地上の後背湿地に所在する、古墳時代から江戸時代に亘る複合遺跡。微高地には屋敷、畠等、低地部には水田、水路等が確認された。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第484集

## 齊田中耕地遺跡

国道354号道路改築事業に係る埋蔵文化財調査報告書第6集

平成22年2月15日印刷

平成22年2月26日発行

編集／発行 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

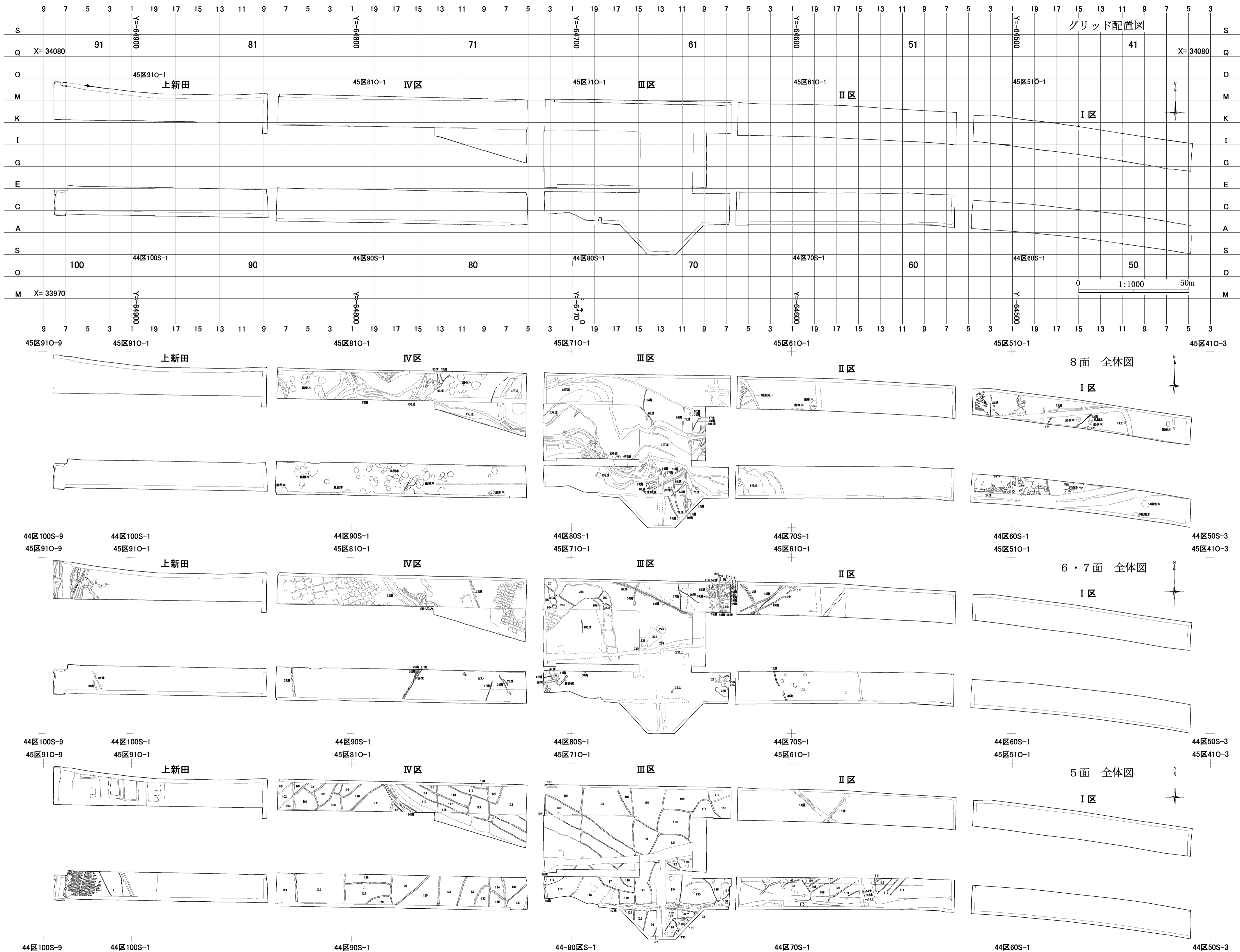
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 0279-52-2511

ホームページアドレス <http://www/gunmaibun.org/>

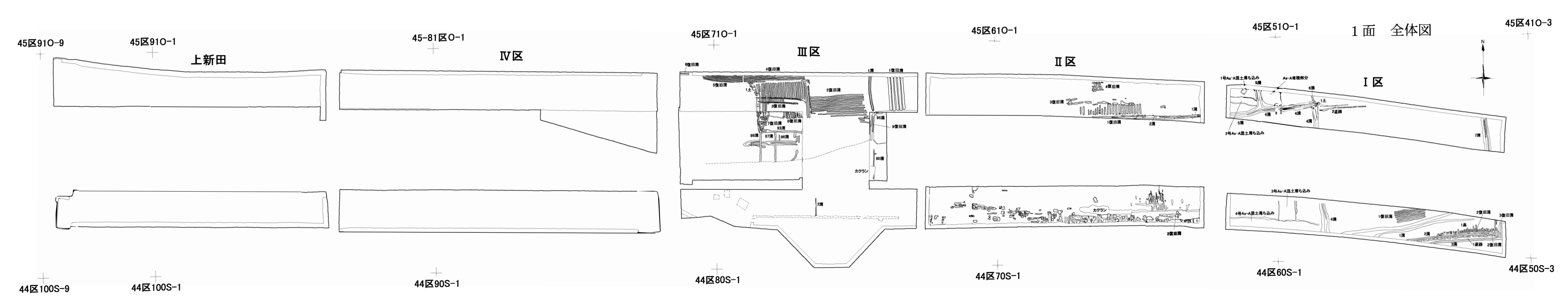
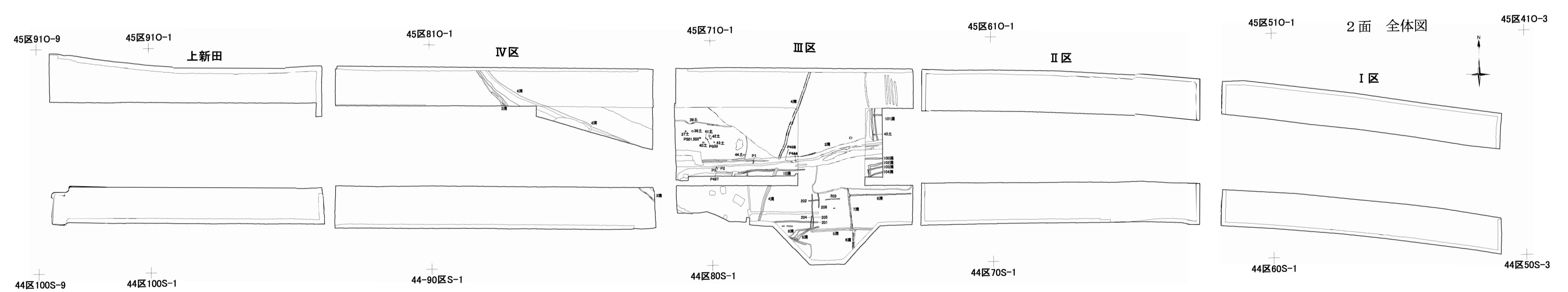
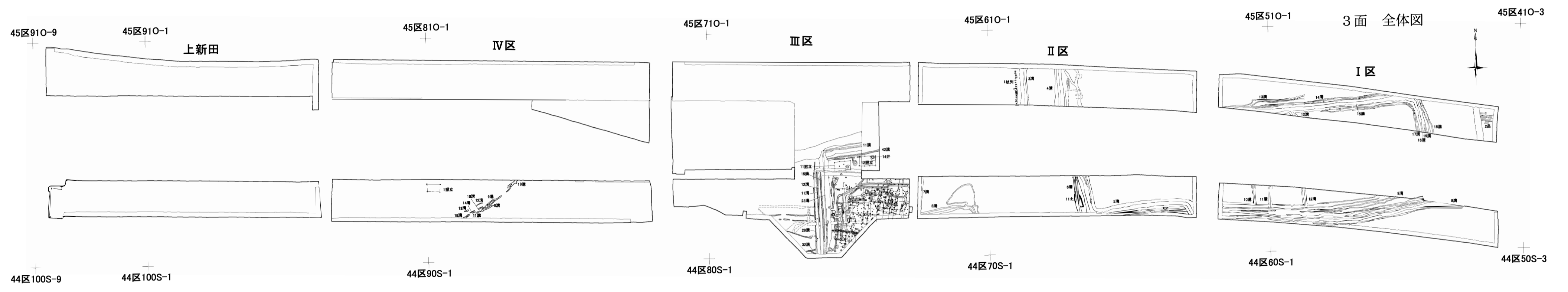
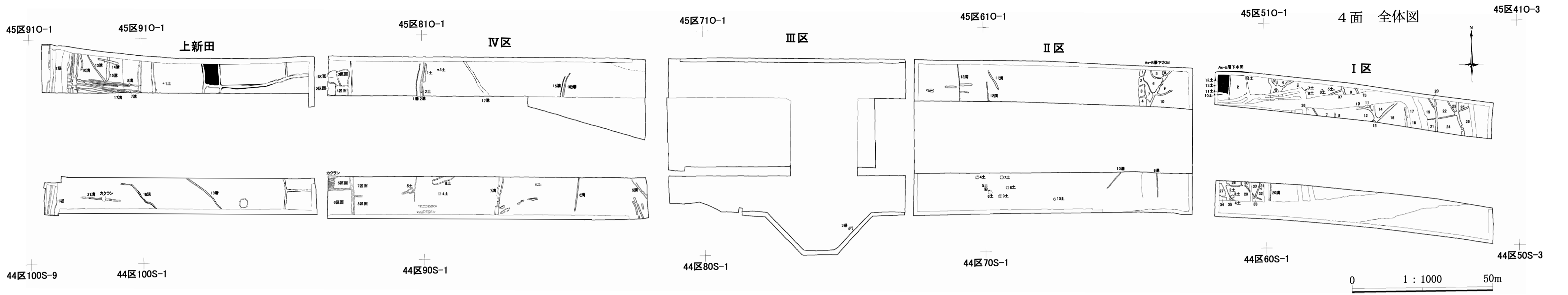
印刷／杉浦印刷株式会社

# 付図1 齊田中耕地遺跡

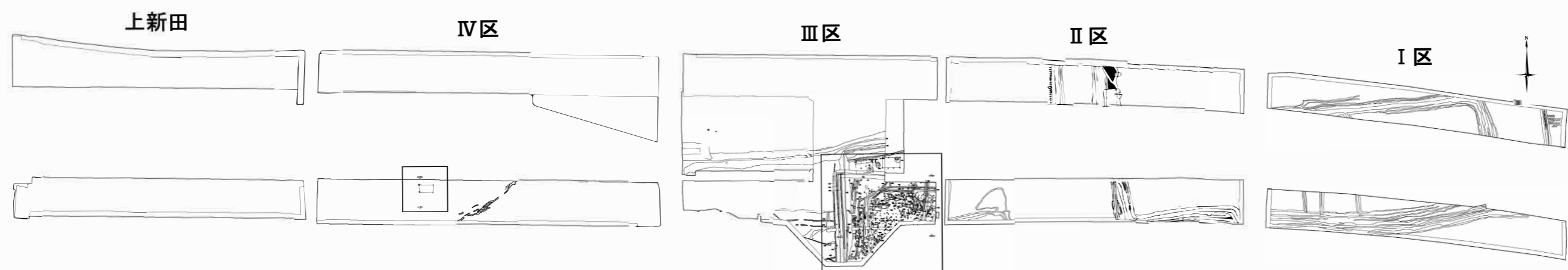




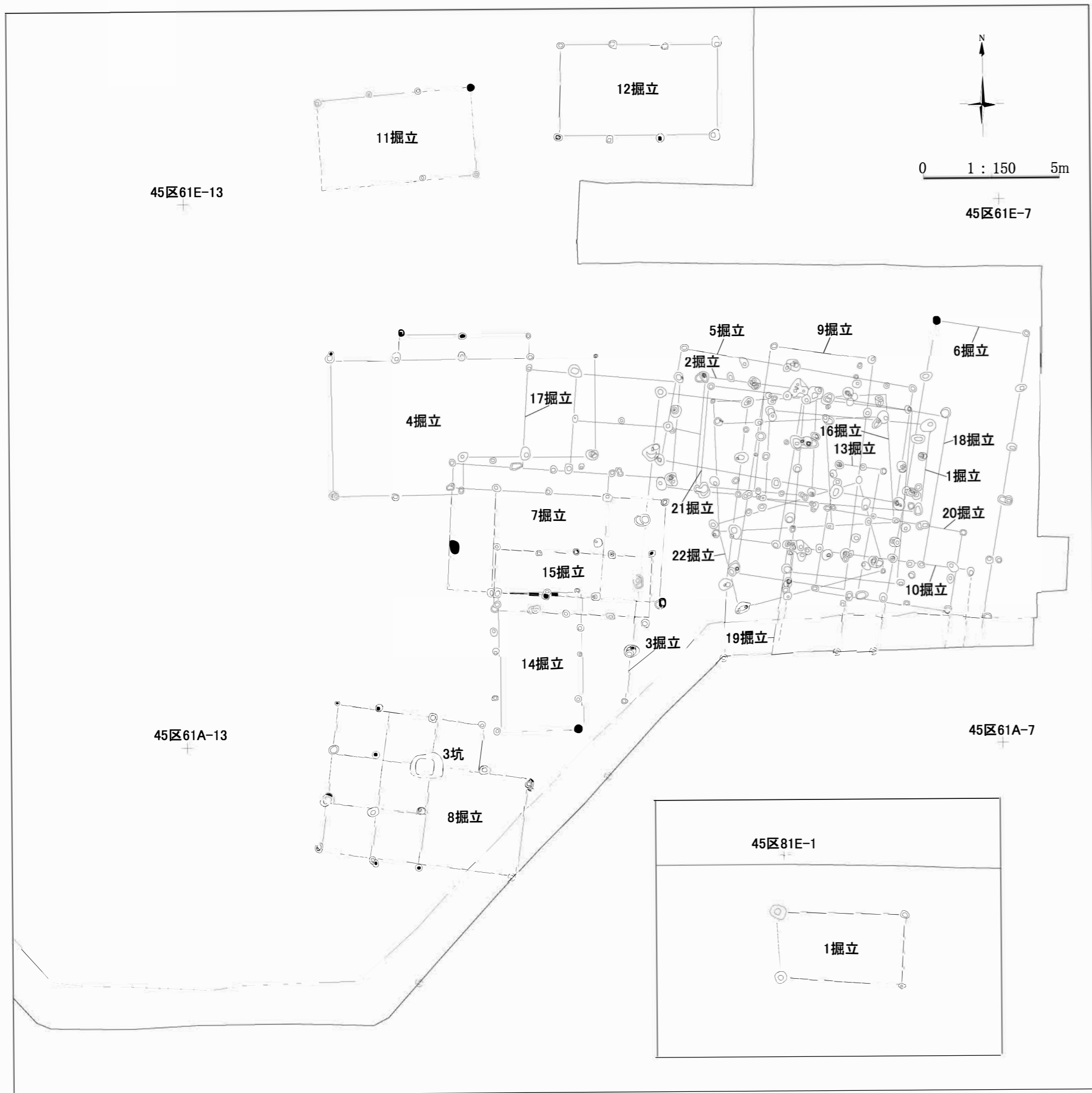
付図2 齊田中耕地遺跡



付図3 齊田中耕地遺跡  
Ⅲ区3面 (建物群)



Ⅲ区3面 (建物群)



Ⅲ区3面

